本気可能無制限学園

阿音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
本気可能無制限学園

【Ｎコード】
Ｎ４７３６Ｓ

【作者名】
阿音

【あらすじ】
気付いた時にはネギま！の世界へ……何が起こった？　そして俺は何故ここに？
とにかく働かないと生活とかがなぁ……
よし、仕事を探しに麻帆良学園で働こう！
（主人公はこんな好青年ではありません）

注意
この作品の主人公は同作者の本気禁止制限決闘の主人公と同じです。

そちらを読まなくても支障は無いようにするつもりです。
なお、本気禁止制限決闘は未完結の作品です。
本気禁止制限決闘の最終話と繋がりが見つからなくても気にしないでください。
一応、遊戯王ＧＸ卒業→番外編の遊戯王５Ｄ'ｓ終了後→ネギま！世界という順番となっています。
その点を踏まえて読んでください……最初しか出ませんが。

0話【異世界の異世界の異世界】（前書き）

……本当は投稿する気は無かったんですけどね
しかし、頭の中にもし瑞貴がネギま！に行ったらというのが……
これが何度も頭に浮かんではという現象が起こるので諦めました
以前書いたものを一部修正し、殆ど同じ状態で投稿しました。

この作品はあらすじにも有る通り、本気禁止制限決闘の続編となります
なので遊戯王の話が所々に出てきますが、本編との関わりはあまり有りません
というか、遊戯王の話をこの作品に持ち込む気は一部を除いて有りません
少し遊戯王の用語が出てきますが、無視しても話に支障は無いので気にしないでください
しかし、本気禁止制限決闘は現在未完結の作品です
もしかしたら矛盾が出てくる可能性も有りますが、あまり気にしないでください。

なお、主人公の性格はかなり悪いです
自分で言うのもアレですが、読者をかなり選びます
性格の悪い主人公が嫌という方は読まない事を勧めます
屑です、外道です、最低です、死ねよお前と思います
それでも良い方はどうぞ、自己責任でお願いします。

更に、原作キャラへの扱いが確実に悪くなります
しかもほぼ全員悪くなるでしょう……まだ0話なので断言できませんが
それが嫌という方もお戻りください

作者は自分が好きなキャラでも容赦をするつもりはありません。
（寧ろ悪化の可能性有り）

……原作キャラの大半の扱いが悪くなるでしょうが
一応言っておきます、作者は魔法先生ネギま！の漫画はかなり好きです
あのキャラが嫌いだからこんな事をするのか、そんなにこのキャラが憎いのか
などという意見も出るかもしれませんがもう1度言います
作者はネギま！は好きです、それだけは一応知っておいてください
……だからといって、扱いを良くするつもりは有りませんがね
そのような意見が出てきても、作者はそう答えるしかありませんので……悪しからず。

長々と書きましたが、この作品を読む事での注意事項なのでよく読んでおいてください
ここに書いた事での意見が出た場合、０話を読んでくださいと返事をするかもしれませんので
では本編です、０話なのでネギま！キャラは殆ど出ませんけどね……

0話【異世界の異世界の異世界】

視点　瑞貴

……ねーよ、どこだよここ？
あの野郎、時間転移に失敗したな
平行世界か、それとも時空間移動までしたのか？
ったく……あの野郎、次に会ったら絶対に殴ってやる。

デュエル・アカデミアじゃない可能性が高い、とりあえず森っぽい
そして問題は決闘盤（デュエルディスク）が無い事だ
遊戯王の世界なのに決闘盤（デュエルディスク）が無いのは不安だな
ついでに、年単位で毎日のように腕に装着していたから違和感が凄い。

ポケットからカードを……ん？
カードはカードだが大きさが違うような……
カードを取り出してみると、女性が描かれているカードが有った
誰だ、これ？　とりあえずデュエルモンスターズのカードじゃないのは確かだ。

青と緑のオッドアイ……つまり両目の色が違う
鈴の髪飾りを使い、長い髪を2つに分けたツインテール
身の丈程も有るでかい大剣を持っているな
だけど傷だらけ……女の子なんだから体は大事にした方がいいぞ？

ど真ん中の大文字は……ローマ字読みで良いのか？
文体がグニャグニャで読みにくいな

えっと……ＡＳＵＮＡ？　アスナ？　明日菜？
明日菜といえば確か……ネギま！だっけ。

……ねーよ、何でこの世界なんだよ
というか、俺って何者？
遊戯王世界だってカードを全部持っていたのに
ネギま！世界では何だっけ？　確か契約のカードだったか？
それを持ってるなんて……これってやっぱり力を持ってるのかな？

あー……思い出せ俺、カードの使い方を
確かこのカードは合い言葉を言えば使えるはず
だが本人しか使えなかったっけ？
まぁどうでも良い、使えるか試すだけだ。

確か合い言葉は……そう！

「来れ（アデアット）」

……出たよ、馬鹿みたいに巨大な剣
でも確かハリセンを使ってたような気がするんだけど
試してみるか？

仕舞う時の合い言葉は確か……

「去れ（アベアット）」

消えたな
次はハリセンをイメージしてっと……

「来れ（アデアット）」

出たな、ハリセン
これってイメージ次第という事か？

他のカードはっと、って多いなおい
登場人物のカードは全部有るんじゃないか？
思い出したんだが、確かキスが契約じゃなかったか？
……少年誌の癖にキスし過ぎだろ、俺は心から本気で絶対に遠慮するが。

まぁ、そんなのを無しにしても契約したカードが手に入っているのは嬉しい事だ
何せキスをしなくても良いんだしな
しかしカードを持っている事は教えないべきだよな？
キスしたと勘違いされるのは凄まじく嫌だ！

さて、色々と試してみるかな
誰が誰だったかは殆ど記憶に無いけど
……そりゃ何年も経てば当然か
割と好きだった漫画だったんだけど遊戯王世界には無かったからな。

次のカードはっと
使い手は女の子……って、大半がそうか
背は低く、青紫っぽい色の無駄に長い髪を2つに分けている
見た目第一印象、頭でっかちの生真面目優等生？

「来れ（アデアット）」

頭の中に使い方が浮かんできたが……ふむ
世界図絵……魔法百科事典といった感じかな？

なるほど、この世界の常識が足りてない状態だ、これは嬉しいし助かる
使い手の名前は……よ、読めない！
なんだ、この謎の文体は！　ＪＵＥ？　ＪＵＥなのか！？
まぁいい、どうせこいつの名前なんてどうでも良いんだし。

次のは制服の上に青いジャケットを着ており、なんというか不敵な笑みを浮かべている赤髪の女？
どっちかと言えば少女なんだろうが……確か中学が舞台だったっけ
周りには写真っぽいのが有り、機械のような物も浮かんでいる
ＣＡＺＵＭＩ……カズミか、漢字は分からんな。

「来れ（アデアット）」

渡鴉の人見……スパイ道具
６機のスパイ機械らしいんだが……魔法道具なのに機械って何だ？
何でも良いか。

スパイ機械を飛ばしてっと
ここはどこか、近くに何が有るかなどを調べてもらおうか
後で映像で確認すれば多分大丈夫だろう。

しかし一々確認していくのも面倒だな、片っ端から出してみるか！
カードカードっと、ん？
カード以外にも色々と入ってるな
イヤホン？　指輪？　杖？　魔法道具って奴かな？
しかし杖はいったいどうやって……深く考えるのは止めよう。

世界図絵世界図絵っと
この道具の効果や名前が分からないとどうしようもできんな

しかしこれ、自動的に翻訳してくれるらしいから助かるな
元のままだと何語かさえ分からないし、普通に読めない。

……
……
……

さて、それなりに調べ終えたな
この世界図絵……明らかに反則クラスだな
何だ、この情報量は？

さてっと、渡鴉の人見も戻ってきたな
ここら辺の情報も完全に得ないと。

その前に自分の状態を確認だな
暫く自分を映して、そして確認。

この顔は……俺はまた若返ったのかよ
まぁ、前回みたく１５歳にならなかっただけマシか
この見た目だと……１８ぐらいか？
デュエル・アカデミアを卒業した時ぐらいの年齢だな。

しかし５Ｄ'ｓ世界でも数年近く過ごしたんだが……
見た目１８歳の実年齢……忘れた、多分３０歳ぐらいか？
どうせだったら実年齢である見た目、３０歳ぐらいにしてほしかった。

１８歳、一応就職はできる年齢だな
しかし戸籍が無いとならないし
だがそれを調べるにも……ん？

そういえば前は取り出せたんだが、こっちでも出せるか？
世界が違うから無理だとは思いつつっと……出たよ、万札が束で。

ＧＸ世界でカードを売りまくったからなぁ
幾らぐらい持ってるんだろうか？
兆の桁を超えるぐらいは稼いだんだけど
ふむ……まぁ現状１００万は有れば事足りるな。

あ、何か忘れてると思ったら……居るのか？
世界が違うから無理居ないかもしれない
一応呼んでみるか。

「マナ、マナ？
居るならさっさと出てこい」

……居ないか
何年も一緒に過ごしただけに少し寂しい
居ないなら仕方無い、諦めるしか無いだろう。

さて、いい加減に色々と整理するか
俺は遊戯王ＧＸの世界に何故か２０歳から１５歳ぐらいに若返って生きていた
就職を有利にする為、デュエルモンスターズをする
そしてデュエル・アカデミアに通い、色々と有ったが卒業……したんだが。

卒業し、帰りの船に乗っている時
突然どこか知らない場所に立っていた
俺の居た場所はＧＸ世界の未来である遊戯王５Ｄ'ｓの世界

色々と有り、時間移動できる奴の力を借りてＧＸ時代に戻ろうとした。

ＧＸの時代に戻る……はずだったんだが
この状況だ、何故無関係のネギま！の世界に来たんだろうか？
しかもまた若返り、１８歳ぐらいになっていたとかなぁ
あぁもう……悪夢にしか思えない。

渡鴉の人見で得た情報を整理しよう
新聞を見つけたらしいが、そこに書いてあった年月日
２００２年、８月２０日……か、世間は夏休み中だな。

さて、主人公が来るのはいつだ？
もう来ているのかもしれないんだが、さすがに女子寮を覗くわけには……ん！？
渡鴉の人見が１機破壊された？　いや、更にもう１機……

「去れ（アベアット）」

アーティファクトの謎のメリット
それは一度送還した道具は再召喚すれば……

「来れ（アデアット）」

１、２、３、４、５、６……全部元通りになっているっと
さて、破壊されたのは３番機と５番機だったな、最後の映像を確認せねば。

３番機を破壊したのは……女性の剣士か、ご苦労様な事で
５番機は優男という感じだな、なんというか普通？

このネギま！世界から考えると魔法使いだとは思うんだがな。

この渡鴉の人見はあまり深くは入れない制約が有るらしい
学園の外でも怪しいから破壊してみたという感じだろう
外から少し覗いただけが……まぁ良いか。

情報収集はちょっと中止かな
この世界の事、もっと知る為にはここでは無理だ
ネットカフェ辺りでも探さないと。

「来れ（アデアット）」

最速の靴っと、急いでここから離脱！
って速すぎる！　木が邪魔で危ないっての！

「去れ（アベアット）！」

っととと……危うく木に激突する所だった
仕方無い、諦めて歩くしか無さそうだ。

「来れ（アデアット）」

孤独な黒子、ぶっちゃけマスク
しかし隠密性は保証できるっぽいが……どこまで信用できるか
なんたって契約は契約でも仮契約らしいからな
時々恐ろしいぐらいの能力を持ってるのも有るが、本当に仮の契約か？

「来れ（アデアット）」

オソウジダイスキ……この名前はどうにかならないのか？
効果は魔法世界騎士団が使うような魔法使いの箒と同じらしいが……さて、俺はこれで飛べるのか？
世界図絵でオソウジダイスキと検索してみるも、飛行魔法ができないと不可能か
なら持ってても完全に無駄だな、諦めるか。

「去れ（アベアット）」

仕方無い、歩くか
渡鴉の人見でどこに移動すれば良いのかは分かってるとはいえ
やっぱりそれなりの距離が有る
ったく、もっとマシな場所に飛ばせよな
確かにここじゃないと色々と実験はできなかったが。

はぁ、この世界で世界移動は終わりだと嬉しいが……はぁ
期待するしかないな、だけどまた移動するとなるとやっぱり好き勝手したいし
最終的に死なない限り、犯罪で逮捕されても問題無いかもしれないんだよな。

いや、だが今回はあいつが弄ったんだったな
となると世界移動、または時間移動に一緒に乗らないと俺は移転できない？
だったらやっぱり犯罪行為は無理か、素直にその時期になるまで待つしか無さそうだ。

殆ど情報に乗ってなかったがこれさえ有ればなんとかなるかもしれない
ったく、何でできているんだ？　このカシオペアって懐中時計は

動かないし、動いてないし、動くまでがもう……どうしろと？

調べられた事は極僅か、時間移動の道具……なんという糞道具
つまり平行世界量産機械じゃないか、１回使用するだけでいくつ平行世界ができる事やら
俺は世界移動をする時まで使わないと決めておくぞ。

そもそも時間はそう簡単に操って良い物では無くてだな
……時間移動をしようとしている俺が言っても説得力は無いか
俺だってしたくてした訳じゃないんだけど……はぁ。

もしかして時間移動をしようとした罰がこの世界移動か？
つまり俺はＧＸ時代に戻らなければ良かったのか？
あぁもう……やっぱり俺が自分からする事の大半は裏目に出るのか！

……必要だと思ったら時間だろうが何だろうが弄るつもりは有るけどな
実際、時間を操るカシオペアだって必要ならば使うつもりだ
あまり平行世界を増やしたくないんだけどな……仕方無いか
カシオペアじゃなくても時間に関係する道具は有るみたいだし。

ふぅ、ネットカフェにさっさと行こう
無駄に時間を過ごしてもあまり良い事は無さそうだ。

……
……
……

料金を払い、ネットカフェに入る
別に孤独な黒子を使って無銭使用をしても良かったんだけどな

さすがにそれはと思い、一応素直に金を払って使用する。

さて、ここはインターネットがで使用可能な環境
つまりこれが使えるな。

「来れ（アデアット）」

小声で発言し、現れるのは力の王笏……魔法少女の杖にしか見えんなま、さっさと情報収集をして自分だけでもできる事をしないと。

「広漠の無、それは零
大いなる霊、それは壱
電子の霊よ、水面を漂え、我こそは電子の王」

小声で呪文を唱える
さて、肉体は大丈夫だろう
何せここは個室の部屋だしな。

ネットカフェで寝る人間だって必ず居る
この呪文を唱え、使うと精神がネットの世界に入っているような状態になる
つまり体が動かず、眠っているような状態となる。

だが眠っている状態のように見えるのなら何も問題は無い
時間さえ気にしていれば大丈夫だろう。

ふむ……意識が落ち……

……

……

……

あー……ここが電子世界か？
何が何やらという感じだけど、電子の海という印象だな
ここに電子精霊が居るはずだが……ん？

【初めまして瑞貴様、我々は電子精霊
なんなりとご命令ください】

……電子精霊って鼠だったのか
名前を入力してくだ……って、４文字制限！？
昔のゲームじゃないんだから５文字ぐらいにしろよ！
いや、最近のゲームだって４文字制限は有るけど……

しかし……７体か
面倒だな、一々考えるのも億劫だ。

「なら左から順番に言うぞ
アン、ドゥ、トロワ、カトル、サンク、スィス、セット
これで良いだろ？」

【……スイス・フランス語の１から７
適当にしか思えませんが……】

適当だからな。

「世界の常識、情報を知りたい
常識に関しての資料と様々な重要と思われる情報を漁ってきてくれ」

【それは良いんですけど、少し待って貰っても良いですか？】

「何故だ？」

電子精霊だったらそこまで時間は掛からないだろ？
なのに何を待てと？

【実はオプション機能をインストールしている最中でして……
瑞貴様、如何致しましょうか？】

……あぁ、俺が新しく生み出したからか？
オプション機能なんて何に使うのやら……電子精霊の癖に
もしかしてウィルスバスターとかファイアーウォールとかか？
だったら重要だな、調べ物なんて別に後でも構わないんだし。

「だったらそっちを最優先
オプション機能等を全てインストール後に行動しろ
それと瑞貴様は止めろ、鬱陶しい」

敬れるのはあまり好きじゃないんだよ
鬱陶しいし、堅苦しく感じるし、苛々するし。

【ならばなんと呼べば？】

「お前らで適当に考えろ！」

ったく、さて……インストールが終わるまであまり動けないな
ここに入ってできる事は電子精霊の総統のようなもの
最初だからとりあえず入ったが……あまり意味は無かったか？

【決まりました！】

なんとなく嫌な予感がするが……

【〇ッ〇ー様と！】

「却下だ馬鹿精霊共！
世界的著作権に喧嘩売ってるのか！」

【頑張って考えたのに！？】

あぁもう……調子が狂うな
遊戯王世界ではシリアスが多かったからか？
ギャグ漫画に慣れてない俺が悪いのか？

「もう瑞貴様で構わない
で、オプション機能だしそろそろ終わったか？」

【はい、ＯＫです！】【大丈夫です！】【どんと来いです！】【バッチ来いです！】【頑張りま】

「一斉に言うな！　煩いんだよ！
情報を話す時は基本的にアンが話せ
それ以外の奴らは補足をしたりにしろ」

【かしこまりました瑞貴様！】【【【【【……わかりました】】】】】

何故落ち込む、ドゥ以下６匹
本当に面倒な奴らだな！

「ほら、さっき言った資料を探してこい
ドゥとトロワは表世界の常識など
カトルとサンクは裏世界……つまり魔法世界の常識など
スィスとセットは表裏問わず、様々な事件などだ」

【【【【【【はい！】】】】】】

元気よく返事はしたが、少し不満そうだな
やっぱりここは飴が必要か……ったくややこしいな。

「最優秀者は次回の報告時にメインにしてやる
メインの地位が欲しければ頑張って働け」

【【【【【【サー、イエス、サー！】】】】】】

うわ、本当にやる気になった
まさかと思って試しただけなのに。

【瑞貴様、僕は今回だけでお役ご免ですか？】

「いや、そういう訳じゃないから
次回はお前にも検索させるし、その時に最優秀だったらまたメインにするから
だからそんな泣きそうな落ち込んでいるような顔は止めてくれ、マジで」

小物電子精霊の癖に何でこんなに多芸なんだよ
この世界の精霊ってのは何なんだ？
あぁ……あの学生時代が懐かしい。

【【表世界の常識を調べ終わりました！】】

速いなおい！
まだ体感的に5分も経ってないと思うぞ！
表世界だからそれぐらいなら可能かな？

「ご苦労、アンに情報を渡せ
引き続き一般的な事も含めて検索
主にこの近くに有る学園の事の件でだ」

【【【はい！】】】

「アン、情報の展開」

【はい！】

さて、情報を見せられて展開されたが……
表向きには俺の……本来の元の世界とそう大きな違いは無いな
しかし所々で甘い、これは魔法使いの存在を大物が知っているからか？
例えば総理大臣とか、警察署の責任者とか……可能性は高い
魔法使いとて、そういう立場の人間と組んだ方が動きやすいだろうし。

しかしどうやって手を組んだんだ？
魔法使いとして引き込んだか、それとも金を払って自分達が動きやすくなるようにしたか
まさかとは思うが、洗脳や記憶操作をしたんじゃ……脅迫の可能性も否定できない
何せ、一般人からすれば魔法使いなんて爆弾や銃を持っている存在

に等しいしな。

【【裏世界の常識を調べ終わりました！】】

こっちも早いな、電子精霊の実力を見たという感じだ。

「ご苦労、アンに情報を
このまま続けて一般的な事を調べてくれ
麻帆良学園の事を徹底的にだ」

【【かしこまりました！】】

表の情報にも学園の事は多少載ってたからな
しかしとんでもない学園だという事は分かった。

さて……はぁ、やっぱり大した情報は無いか
当然と言えば当然だな、魔法使いは表では目立たないように動いているらしいし
検索が容易にできる普通のネット上ではあまり出てこない……か。

無いよりはマシ程度には分かるだけ良いか
魔法使い専用のネット回線……まほネットか
しかしこれは現実に戻って世界図絵を見た方が早い
一応、力の王笏の力でも回覧はできるが……
やっぱり制限がなぁ……便利道具だからこれ以上言うのもアレだが。

【【表裏問わず、大きな事件の検索が終わりました！】】

「ご苦労、アンに情報を渡せ
続けて麻帆良学園で起こった事件を徹底的に調べろ

消された情報を再生したりとかは可能か？」

【それはちょっと無理です】

「なら分かる範囲で構わん
可能な限り徹底的に調べ上げろ
当然、時間は大小問わずに魔法関係を中心としてだ」

【【わかりました！】】

……はぁ、量が膨大だな
これを一々確認するのはかなり大変だ。

「アン、情報をある程度絞ってくれ
魔法使いが関係している可能性が高い事件を中心にだ」

【了解です！】

これで魔法使いがどれぐらい動き、出しゃばってるのかが分かるったく……一般人の世界に魔法を持ち込むなよな、面倒だから
魔法使いなんだったら魔法使いらしく、魔法使いの世界で魔法を使ってろってんだ
何が楽しくてあいつらはこの世界に来たんだか……旧世界だなんて見下しやがって。

さて、アンに渡された資料を見てみるとっと……はぁ
なんだこれ？　半数以上が未解決資料だと？
しかも解決していても曖昧な情報しか残ってなかったり、犯人の刑罰も甘すぎる

うーん……色々と資料を洗ってるが、魔法使いが関わったと思われる事件
犯人が受ける罰が軽いのが多いな、やっぱり魔法使い同士という理由で甘いのか？
それとも魔法使いなんだからこの程度でも更生してくれるとでも思っているのか。

何にしても、明らかにバランスが悪い
隠れるぐらいだったら大っぴらに動け、かなり焦れったい
それに、記憶操作をするだけで本当にどうにかなるとでも思っているのか？
試してみるのも……一興か。

【【【【【【瑞貴様、検索が全て終了しました！】】】】】】

「ん、お疲れ
俺は回覧しているからお前らは少し休んでろ」

……これは凄いな、良い意味でも悪い意味でも
隠し切れていないが、それでもよくもまぁここまでできるものだ
インターネット上では隠し切れていないが、仕方無い部分も有る
可能性としては、インターネット系が得意な魔法使いが少ないかな？
だからこんなにインターネット上は……お粗末な上に隙だらけ。

現在はまほネットにアクセスしていないんだがな
それでも魔法関係の事も出てきている
規制や隠蔽が緩く、甘い証拠だな
これだから魔法主義者共は……まだ魔法使いには会っていないけど。

しかし間違っていないだろうな

多分だが、魔法使い達は魔法が使えない者を甘く見ている
だからネットカフェなんて甘い場所からでも色々と調べられる
何を考えているのやら……もっと真面目に証拠隠滅をするべきだと思う。

良い意味での情報は真面目に事件を食い止めている事
悪い意味での情報は明らかに後手に回りすぎていてあまり動けていない事
事件は明らかに小さくなっているものの、被害はもっと抑えられたはずだ
態々魔法使いである事を隠しているからこうなるんだ。

ふーむ……まぁこんな感じかな
相変わらず未解決事件が多いのは気になるが
それよりもそろそろまほネットにアクセスするか
どんな魔法道具が有るのか調べたいしな。

何故か魔法道具までもポケットに入っていたんだ、利用できる物は親でも使えってね
理由も原因も何も分からないが、使えるんだったら何だって使ってやる
俺が生きる為にも、死なない為にもな！

……

……

……

多いな、魔法道具
やっぱりこれは必要だよな……年齢詐称薬
これを使って俺の見た目を２５歳に戻す必要が有る

しかし毎日使っていたら金が……妙に高いのが困るな。

赤い飴玉で大人に、青い飴玉で子供になる
容量はそれぞれ２０個、合計４０個
赤玉を毎日使用するとして、１年は３６５日
よって必要数は……３５個も購入する必要有り！？

こりゃいかん……元が高いだけに消費が半端無い
もしこんな状態を何年も続けていたら……破産はしないがそんなに使いたいわけじゃない
しかも１日１個は無理だろうし、効果適用時間は約６時間だから……無理だな
例え仕事時だけにしても６時間はさすがに短すぎる、毎日２個は必要か。

それにしても正体不明のアイテム……謎の銃弾
ばらばらと何百単位もの数が有るんだが……なんだったんだ？
誰かが自作で作ったのか？　それともそうとう昔に……それは無いか
銃が生まれたのはそこまで古い時代じゃないし、となるとやはり最近か？
実験用の道具だとすれば売られていないのも納得できるが。

落ち着いた時にでも銃に詰めて撃って効果を試してみるか
弾丸を装填できる魔法銃も有るしな
取り出しが楽で助かる、こっちでは何もしていないから銃刀法違反になるし
まぁ魔法道具じゃない物は取り出せないみたいだしな。

次は麻帆良学園在住教師の情報だな
どうせそこまで大っぴらに出ていないとは思うが……一応な

一般用のインターネットで麻帆良学園在住教師を調べ、まほネットで検索
その人物の情報をできるだけ詳しくだな。

「ドゥ、トロワは麻帆良学園に居る教師を全員片っ端から調べろ
いや……生徒もだな、魔法に関係しているだろう生徒も全員だ
カトル、スィス、サンクはドゥとトロワが調べた生徒の詳細をできるだけ詳しく
名前、年齢から経歴に性格まで調べられるだけ調べろ
規制されていれば無理に突破しなくても構わない、逆探知とかされるのも困るしな」

【【了解です！】】【【【分かりました！】】】

もっと高級で機能性が高くて処理が早いＰＣが使いたいな
部屋を購入したら急いで契約しよう、そしてできるだけ最高のＰＣを買う
どんな部屋にするか……家を買っても良いんだが、少し悩むな。

俺は俺で少し家でも探すかな
多少は時間が有るだろうし……

【【終わりました！】】

「速いなおい！？
ならカトル達に……」

【【【こちらも終わりました！】】】

……どうやら俺は電子精霊という存在を嘗めていたらしい

情けない見た目や駄目っぽい雰囲気、ギャグ系漫画だから失念していた
この世界の魔法道具、アーティファクトの凶悪さを……

迂闊だった、世の中そんなに甘くないという事か
もし魔法使いの従者と敵対した場合、甘く見たら殺されるかもしれないな
なんでまた命賭けの戦いを……しかも今回は本気で体が危険だし
戦いはできるだけ避けられるように努力しよう、無駄かもしれないけど
今までの巻き込まれ具合から考えると……やっぱり難しいか。

それよりも資料だ
麻帆良学園に魔法使いは……それなりに多いな
全学年に教師生徒問わずに最低１人は居るか、当然と言えば当然だなあれだけ大きな学校だ、居ない方が不思議だ。

しかし生徒の大半は修行中ね
初等部は当然として、中等部も微妙か？
高等部でようやく一人前になるかならないかか……こんなものか
大学部は殆どが実力者、教師は言わずもがな、やはり強いらしい。

魔法世界ではなく、旧世界……この世界に居る魔法使いは全部で約６７００万人
世界に散らばっているから当然だな、この学園だけでもそれなりに大手みたいだな
しかし人間の総人口は約６４億人、そう考えると１億に満たないから少ないのか？
難しい所だな……多いようにも思えるが、少なくも思える……なんて中途半端なんだ。

色々と考えたが、実際にどう動くべきだ？
麻帆良学園に行き、事件に巻き込まれる事を覚悟してでも動くか
それとも麻帆良から逃げ、遠くで普通の一般人を装うか……

当然後者だと言いたいんだが、あの学園に存在している世界樹……
なんでも２２年に１回、強力な魔力を放つとか
カシオペアを使う為にはその魔力が俺には必要だ
世界まで飛べるかは少々悩むが、何もしないよりはマシだ。

しかし魔力を発している時は当然ながら警戒が凄まじいはず
一般人を装って動いたとしても、追い返されるオチになるだろうな
追い返されなくても捕まり、尋問ぐらいはされるかもしれない
記憶を覗かれたりしても危険だし……難しい所だ。

だからといって麻帆良学園に行くのも辛い
主に、俺の精神と胃が……死ぬ
もうかなりうろ覚えだがかなり騒がしい学園なのは覚えている
そんな場所に行ったら俺は……うん、絶対に悪夢にしか感じ無いな。

それに潜り込む為にはある程度話す必要が有る
俺が気付かない内に記憶を読まれる可能性だって否定できない
眠っている間だって良いはずだ、夢を覗く魔法だって有るだろうし
下手な事をして警戒されるのは下策だろう。

それに……緩い学園だから分かったんだが
あの学園には賞金６００万ドルもの賞金首、エヴァンジェリン・アタナシア・キティ・マクダウェルが居る
種族は真祖の吸血鬼（ハイ・デライトウォーカー）……昼間にも外に出る事ができる高位の吸血鬼の事か

闇の副音、不死の魔法使い、人形使い、悪しき音信、禍音の使徒、
ダーク・エヴァンジェルマガ・ノスフェラトゥ
ドールマスター
童姿の闇の魔王
多いな、異名……まぁ６００万ドルもの賞金首なら当然かもしれないな。

現在は呪いと結界の効果で行動を制限されているか……哀れな
助けてやるつもりは欠片も無いけどな、助けた瞬間に殺されては敵わん
そもそも助けられるなんて思い上がりなんかしていないし。

話が逸れたか、とにかく潜り込むにもかなり危険が伴う
どうにかして俺に手出しができないようにしないと……ん？
いや、待てよ……確かあの道具が有れば可能か？
それに含めてアレにアレとアレを使って……不可能じゃないな。

それに巧くすれば俺は一切手出しをされず、学園でそれなりにマシな生活ができるかもしれない
金は有る……そして世界樹の２２年までは後、約２年
何も手を出さなくても勝手に過ぎていってくれるだけの時間だ。

……正直に言うと、どちらもかなり怖いな
もし学園に入ったとしても、失敗した場合はかなり危険を伴う
温い奴らだ、殺される事は無いだろうが学園には二度と入れないだろう。

だからといって無関係で居るのも相当……勇気が要る
俺は既に学園にアーティファクトを使用してスパイ行為を行っている
隠れたとしても、見つかった場合はアウトになるのは当然
覚悟もできないままとなる可能性が有るとなると……こっちは精神が先に参りそうだな。

魔法使い達に見つかるかもしれないプレッシャー
2年……長いようで短いが隠れ住むには少々長いと思える
その毎日をそんな状態で過ごす……か
無理とは言わない、しかし想像したくないぐらい辛いだろう。

学園にさえ入れば精神的にはまだ多少はマシだろう
が、それでも問題が山積み、多すぎるぐらいに多い
あの馬鹿みたいにぶっとんでいる学園に住む……
これも精神的に辛そうだな……我慢よりはマシだろうが。

……仕方無い、学園に行こう
問題は山積みだが、何もしないよりはマシだろう
それに世界樹にも多少は近づけるようになるんだしな。

時間は掛かるだろうが、内側から動いた方が確実性は高い
成功率もきっとそれなりに上がるだろうし、魔力はかなりの多さらしいからな
カシオペアでの時空間移動もきっとできる……はず
時間だけしか移動できなかったら困るが、それはそうなってから考えるしか無い
分の悪い賭けは嫌いじゃない……なんて事は無くて、どちらかと言えば嫌だ。

っと、そろそろここから出るかな
いつまでもインターネット内に居てもあまり意味は無さそうだ
探したい情報は大方探し終えたしな。

「じゃあ俺はそろそろ出る
また用が出来たら来るからそれまで待ってろよ」

【はい、瑞貴様！
お疲れ様でした！】

【【【【【【お疲れ様でした！】】】】】】

「あ、ちなみに次のメインはドゥな」

それだけ言って俺はさっさとインターネット内から抜け出す。

……

……

……

あー……目の前にはＰＣか、つまり戻ってきたんだな
もしかしたら電子精霊は現実にも干渉する力を持っているかもしれない
力の王笏をさっさと返すか。

「去れ（アベアット）」

これで良しっと
さて、色々と考える事ができたな
生きる為、死なない為、頑張って悪夢の学園生活を送ろう
……そういえば戸籍、どうしよう？

0話【異世界の異世界の異世界】（後書き）

主人公の名前は？
堅守瑞貴（かたもり みずき）です
細かい事は本編中で出てきます
先に知りたい方は本気禁止制限決闘を読んでください
所々に散りばめられているので探すのが大変ですけど……

どんな見た目をしてるの？
本気禁止制限決闘での話ですが
身長は１７６前後、体重は６０ｋｇ前後
平凡顔です、普通の顔
瑞貴の容姿を１００点満点で評価するという事が有ったのですが
４０点、５０点、６０点、７０点となりました
が、一部が好意を持っていたので……それぞれ１０点から２０点マイナスぐらいでしょうか？
とにかく容姿は普通です、別に格好良くも無ければ強そうでもありません、寧ろ弱そうです
目の色は黒、髪色も黒
髪の長さは刹那が髪を下ろしたぐらい、それを後ろで括っています。

ポケットからカードとか魔法道具ってどうなってるの？
不明、そういう設定としか言えません
瑞貴本人はこの原理も理由も原因も知りません
ただ、便利とだけです。

仮契約カードって、瑞貴が使えるの？
そういう設定です
なお、本来のカードを瑞貴が使う事は不可能です

瑞貴が持っているカードのみ、瑞貴は使用できます
逆に、瑞貴以外が瑞貴のカードを使う事はできません
……汎用性が下がっているような気もしますが気にしない。

従者の召喚、通信などはできるの？
できません
アーティファクトの召喚以外は何もできません。

キスが絶対に嫌って事は……瑞貴は女嫌い？
どちらかと言えば女嫌いです
正確に言えば恋愛などに興味がかなり薄いという感じです
なのでそのような話になる事を嫌がっています、恋愛で噂されたりするのも嫌いです。

瑞貴がポケットから出した道具は何？
原作漫画で登場した何かです
カード以外にも装備系は何故かポケットに入ってます
……相当アレな物も含めてですけど。

金もポケットに入ってるって……どうやって稼いだの？
遊戯王アニメ世界ではカード1枚でも相当の金額になります
本気禁止制限決闘では、殆どのカードを大量に持っていたという設定ですので
そのカードを売り、荒稼ぎ大稼ぎをしました
総額は不明、少なくとも兆の桁になっていたという事だけ……
この世界の銀行とかは当然契約も何もしていないのでこのような形で所持としました。

マナって誰？
本気禁止制限決闘に登場した精霊、ブラック・マジシャン・ガール

です
本来持っている精霊ではなく、懐かれて勝手に一緒に居ただけです
瑞貴は精霊という存在が見えないで実体化されないと話せません
マナは実体化できる精霊なので呼んだのですが、この作品には登場しません
……もし要望が有った場合は考えるかもしれませんが、今は登場させる予定は有りません。

２００２年の８月２０日ってどんな日？
普通に夏休み中です
原作でネギが登場するのが2月上旬なので半年ほど時間が有ります
原作の秋などに有るイベントは知らないのでスルーします、どうしようも無いので。

女性剣士と優男って？
葛葉刀子と瀬流彦です。

魔法詠唱に振り仮名とかは？
面倒なのでしません
基本的に日本文での書き方にします。

ツイッター
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
あんまり活動はしていません。

1話【最初は真面目に】（前書き）

本気禁止制限決闘を優先するとは言ったものの
0話しか投稿していないのでとりあえずこっちを先に
次は多分、本気禁止制限決闘が先です。

今回はとりあえず仕込み
生徒達とまともに会うのはいつになる事やら
既に瑞貴がヤバイ……

1話【最初は真面目に】

視点　瑞貴

よし、買う物も買ったし、そろそろ学園に向かうか
戸籍は……後でもいいや、面倒だし
訊かれても知らぬ存じぬで強引に押し通すか、面倒だし。

何よりも、麻帆良学園は温そうだしな
それなりに調べたが、どいつもこいつも甘すぎる
あんな甘ちゃんだらけの学園で大丈夫なのか？

……
……
……

ここが麻帆良学園か……で、ここはどこだ？
今は８月２０日だから夏休みだし、生徒は殆ど居なそうだな
クラブ活動なのか、時々人は見かけるが。

前方から金髪の女性……さっき渡鴉の人見を破壊した女か
ご丁寧に木刀……いや、アレは鞘か？
となるとアレは本物の刀、長さから考えて大太刀かな？
真っ直ぐこっちに来てるし、明らかに俺を狙ってるな。

「そこの貴方、こんな場所で何をしているのですか？
ここは麻帆良学園の敷地内です
部外者が勝手に入っていい場所ではありません」

既に駄目だろ、この女
どうして俺が部外者だと分かってるんだか
この馬鹿みたいに広い学園の生徒は数千人もの生徒が居るはずなんだが？
なのに俺が部外者だと、よく特定できるな。

「それはすみません
学園都市という物が気になりまして
今は丁度夏休みで人も少ないですしね
時期も時期ですし、少し見学をしていたんです」

怪しそうな目で俺を見てくる葛葉刀子
威嚇しても無駄だ、俺はその程度の殺気じゃ怯まんよ
遊戯王世界で模擬的とはいえ殺し合いだってしたんだ
それにモンスターの殺気に比べたら、人間程度に怯えられんな。

「そうですか……それでもここは麻帆良学園都市最奥の女子中等部エリアです
どうして態々こんな奥まで来たのですか？」

「数日を掛けて学園全体を歩き回るつもりなので
これ程の学園、滅多にお目にかかれないですからね
何か問題が有りましたか？　許可が無いと見学は全面禁止とか」

「いえ、そんな事は無いのですが……」

返答に困ってるな、そう仕向けたんだが
さっきの渡鴉の人見の存在が怪しすぎるからな
で、侵入者かと思って確認してみればただの見学者。

怪しい……とても怪しい、だがここまで何も無いと動けない
この世界の魔法使いは単純だからな、馬鹿正直に動く傾向が有る
少し威嚇すれば殆どがアッサリと正体をばらす単純馬鹿
調べた結果、魔法使いは清く正しく生きるべしという感じだったし
偉大なる魔法使い様になりたい奴らはそれを実行しているという訳だ。

哀れだな……考えを間違えている奴らは
ま、その辺りは置いておこう
俺には関係の無い話だ。

「……学園の事が知りたいのですか？
もしよろしければ学園長にお会いになります？
詳しく説明してもらえますよ」

へぇ……誘ってくれるのか？
自分でどうすれば良いのか分からないから上司に任せると
そしてもし学園長に何か危害を加えようとしても、自分がすぐ傍居る
取り押さえる事は簡単だし、誘いに乗ったらそれはそれで怪しいと
……

「いえ、遠慮させてもらいます
貴女も忙しいでしょうし、1人で歩きたいので」

違和感の無いよう、警戒させるように言う
学園の事を知りたいのに学園長に会わない
しかも怪しい人間が1人で歩き回る……怪しむなという方が無理だ
案の定、更に怪しんでいる上に警戒された。

「大丈夫です、今は散歩していただけですし
それに学園の事を知りたいのでしょう？
貴方が言ったように、今は夏休み中ですからね
暇ですし、案内なら私がしましょうか？」

ほら、乗ってきた
単純だなぁ……大丈夫なのか？
真面目だとは思うが、真面目過ぎると辛いだろ。

「……そこまで言うのなら、お言葉に甘えさせてもらいましょうか
本当は気になっていたんですよね、この学園の学園長は」

「ほぉ……何が気になっていたんですか？」

また警戒した
本当、単純過ぎて騙すのが楽しい
実際に裏は有るとはいえ、哀れだな
勝手に空回りするだけだなんて。

「噂なんですけど、この学園の学園長は後頭部の長い仙人だって
事実なら会って確かめたいですね、仙人だなんて伝説上の人物ですし
本当に後頭部が長いのなら、脳がどうやって詰まってるのか気になりますし
……後頭部を切り落として中身を見てみたいですね、しませんけど」

黙り、俺を睨んでくる
最後の言葉はやっぱり効果的だったかな？
どう聞いても、殺すとしか聞こえないし
実際にどうなってるのか気になるのは事実だけどな。

「気になるでしょうけど、本当に確かめたりしないでね
そういえば自己紹介をしてなかったわね？
私は葛葉刀子、この学園で教師をしているわ」

「どうも、堅守瑞貴です
一応……フリーターですかね？
現在、職探し中です」

「……フリーターがこんな事していていいの？
仕事、探すんでしょ？」

「そうですね……どうせ学園長に会うんですし
清掃員とかの雑用が有るか訊いてみます
こんな広い学園だと、掃除も大変そうですしね」

どうせ会うんだったらそれぐらいしたいな
別に仕事をしなくても良いぐらい金は無駄に有るんだし
……調べたら前の世界の金が全て有ったからな
これだけ有れば遊んで暮らせるぐらいの金は有る。

が、何もしないでそんな生活を送るのはさすがに拙い
怪しんでくれと言っているようなものだ
収入と支出のバランスが取れていないし
もし調べられたら即アウトだ。

ある程度は使うが、無駄遣いは禁止だな
少しぐらいはともかく、無意味な支出は自重しよう
既にそれなりに使っているが……必要経費だから仕方無い
それにこれは無意味な支出じゃなくて生き残る為の支出だ
故に、さっきの買い物の支出は無駄じゃない。

「（気になるし、怪しい事は怪しい
……さっきの謎の機械といい、どうしたものかしら？
学園長に会えば何かボロを出すと思うけど）
まぁ、頑張ってね
じゃあ案内するわ、私に付いてきて」

葛葉教員に言われ、彼女の後ろを付いていく
……見た目、２０代後半から３０代辺りか？
俺の実年齢は３０歳を超えてるから、年下かもしれんな。

葛葉教員は携帯電話を取りだし、どこかに電話する
といっても、この状況だと電話先は限られるだろうがな。

「あ、学園長ですか？
実は……」

葛葉教員が説明しているが、殆ど無視する
どうせ何をしても無駄だからだ
俺にだってできる事はかなり限られているしな
そもそも、さすがに盗聴もできないし。

……
……
……

精神的に辛いな……女子中学校に男の俺が入るのは
肩身が狭いし、気分も悪い
今は人が少ないから良いが、もし女子で溢れると思うと……引くな
俺には想像もしたくない地獄のような世界なんだろう。

っと、ここが学園長室か
葛葉教員が止まったし、扉の上には学園長室と……
というか、学園長室の中からなんとなく嫌な気配がするな
可能性としては……入った瞬間に狙撃とかか？

ま、さすがに殺されはしないだろう
でも保険ぐらいはな……っと、これでよし。

「学園長、葛葉刀子です
先ほど話した彼を連れて参りました」

「入りなさい」

声は爺っと
見た目はどうなのやら……

「失礼します」

葛葉教員が入り、俺も入る
突然の狙撃や攻撃は無かったか……安心した
が、中には2人の男。

1人は椅子に座っている爺
もう1人はその爺の近くで立っている中年男性
一目瞭然、爺が学園長だな。

しかし爺、本当に後頭部が長いな
噂だけかと思ったが、実際に見てみると気味が悪い
どう成長したらあんな頭になるんだ？　しかも前頭部も盛り上がっ

てるし……謎だ
耳も伸びて垂れ下がっているし……本当に仙人か？

そして横に立っている中年の男
銀と白を合わせたような、白銀の髪を短いながらもオールバック
教師だから当然だがスーツを着ている
爺は何故か白の和服なんだが……良いのか学園の長？

「君が葛葉君の言っていた、堅守君かの？
わしはこの学園の学園長、近衛近右衛門じゃ」

「僕は高畑・T・タカミチ
この学園の教師をしているよ」

「初めまして、堅守瑞貴です
本当はこの学園の事を見て回ろうとしていただけなんですけどね」

嫌な目付きだ……探るような、そんな目をしている
まるで心の奥底を見抜くかのような……心を見抜く？
この爺……まさか読心術とか使ってるんじゃないだろうな？

そう思った瞬間、爺の目付きが鋭くなった
という事は……まさか本当に読心術を？

「もう気付かれてしもうたか
なら無駄な事は止めて、本題に移ろうかのう？」

「「？」」

爺の隣に居る高畑教員と葛葉教員は何が起こっているのか分かって

いないか
という事は爺の独断行動か？
何にせよ、鬱陶しい事に変わり無いな。

「別に気付こうとして気付いたわけじゃないんですけどね
純粋にそう思っただけで、まさか本当に読心術なんてしてくるとは
思いませんでしたし
しかもそんな事ができるという事は……学園長、貴方は精神医師か
何かですか？」

「ふぉ？」

「違うのですか？
俺はてっきりそうかと思ったのですが……
なら心理学者でしょうか？」

そうでなければ読心術なんて普通は使えないしな
どうやって学んだのやら……
というか、どうしたらそんなのから学園長まで上り詰められたんだ？

「あー……好きに解釈しておくれ
それで、君は何が目的でこの学園に来たのかね？」

「はぁ……そうですか？
俺はＰＣでこの学園の存在を最近知ったんですよ
それで、凄く大きな学園と書いていたので気になったんです
まさかここまで巨大な学園だとは思いませんでしたけど……」

電車を使ってまでだからな
何を考えてこんなに広い学園を建てたのやら

学園全体を見るのに何日掛かるか……想像したくない。

「葛葉君からは職を探していると聞いておるが？」

「え、そんな事まで話してたんですか？
学園の大きさに気を取られていて何を話しているか知らなかったんですけど
お恥ずかしい事ですが、現在俺は無職でして……
学園長に会わせていただけるとなったのでどうせならと」

清掃係とかだと助かるなぁ……あまり生徒と関わりたくないし
疲れるからな、中学生ぐらいの歳だと無駄無意味に元気そうだし
そんな子供と付き合うだなんて……疲れそうだ。

「ふむ……（悪い少年ではなさそうじゃの、頭も良さそうじゃし
しかし……わしの読心術をアッサリと見破ったのは気になる
怪しい事は怪しいし、下手に追い出すのも拙いかの？）」

ふむって何だよふむって……
というか高畑教員、あんまり睨まないでくれよ
後ろの葛葉教員もどうも睨んでくるし……何か有ったのか？

「まぁ良いじゃろう、君を雇おう
ただし、仕事はこちらで決めて構わんかね？」

「構いませんけど……」

嫌な予感がする、教師とか言われたらどうしよう？
まぁ、俺は教員免許なんて持ってないから不可能だけど
教えられる程度の知識は有っても、免許が無いとできないし

となると……やっぱり清掃員とか備品の整理とかかな？

「ではわしはこれから君の仕事を探すのでな
明日の……そうじゃな、正午ぐらいに来てくれるかの？」

「分かりました
元々、数日ほど適当なホテルにでも泊まろうと思っていましたし、
大丈夫です
何か必要な物は有りますか？」

「判子と履歴書だけで構わんぞい」

判子に履歴書か……履歴書を書くのは面倒だな
まぁ雇ってくれるんだから文句は言えんか
というか、就職に履歴書が必要なのは当たり前だし。

「分かりました
では準備も有りますし、失礼します」

俺はそう言い、学園長室を出て行く
扉を閉め、学園の校舎からもさっさと移動する。

……はぁ、疲れた
余計な事を考えず、嘘の思考で本音を隠すのは難しいな
どうせ、最初から最後までずっと覗かれていたんだろうし
思考内も表面上も、口調は変えなかったが怪しい事は無いはずだ。

さて、学園長は読心術が使える証拠を入手っと
録音機が有ると便利だな、どんな会話でも証拠になるんだから
予想通り、魔法使いは機械に関しては節穴だ

魔法至上主義とでも思っているのかねぇ？

クッククク……まぁ何でもいいさ
これは良いネタになる、先ずは1つ……脅迫の材料
もっと犯罪発言をして、俺を有利にしてくれよ？
例えば、本当に俺を教師にするとか……な。

教員免許も無い、大学も卒業していない
他にもツッコミ所が多すぎる事だ
もし警察に届けたら御用確定だな
後釜はどうなるか知らんが、俺には関係無い
見た目は若いんだ、雇い先なんていくらでも探せる。

……それにしてもあの中年、自己紹介以降、最後まで何も言わなかったな
何の為に居たんだ？
警戒の為でも、自己紹介以外に何か1言ぐらい話しても良いと思うんだが。

視点　タカミチ

「……学園長」

「言いたい事は分かっておる
何故読心術なんてしたのか……じゃろう？」

せめて最初から言ってほしかった

まぁ、彼は嫌そうだったがそこまで気にしていなかったが
よく読心術をされて雇われようと思ったものだ。

「やっぱり怪しすぎてのぉ
しかし、彼もよく気付いたもんじゃ……しかもアッサリと
視線が気になっただけらしいがの」

視線？　それだけで読心術だと気付けた？
凄いな……いや、でもそれはそれで変じゃないか？
読心術だと予想し、学園長も白状した
つまり、彼は読心術だと即断したという事か。

「読心術なんてそう簡単に分かるはずが無いはずですが？」

「じゃが、見事に本心を隠して話しおったわ
考えを読ませないとは、なかなかできる少年じゃの」

本心を隠す……僕や葛葉先生のプレッシャーが有ったのに？
学園長も、少しなりとも威圧はしていたはず
なのに平気で居て、更に学園長を騙すとは……

「その辺に放り出すより、内に取り込んで警戒した方が楽じゃしの
魔力も気も少ないのじゃ、取り押さえる事に苦労はせんじゃろう
捕縛しようと思えば、魔法生徒でも取り押さえられるじゃろうしの
少し気を配り、後は適当に泳がせておけばよかろう
もし、背後関係が有ったとしても、その組織を潰せる
わしらに殆ど損は無い、少し警戒する程度じゃからのぉ
例え本当に一般人だとしても少し鋭い程度じゃ、問題は無かろう」

確かにそうだが……でも確かにそうかな

あんまり警戒しても疲れるだけだし、時々見る程度でいいか
別に怖い相手でもないしね。

視点　瑞貴

今頃、俺を警戒するかどうかの話しでもしてるかな？
警戒しても、俺は一般人なんだがな……異世界から来たというだけの色々と変な事は有る自覚は有るが、それだけだ。

次はっと……戸籍だな
調べる事ができるか……分からないがとりあえず調べるか。

……やっぱり無理か
戸籍の事で訊かれたら誤魔化すか
嘘で塗り固めた過去を語るのも一興か？
その場合はある程度ストーリーも考えないとな。

まぁ、そういうのは後でいい
今は先に判子を買わないとな
今回は見学だけの予定だったから何も用意していないし。

しかし……まさか雇おうとするとは思わなかったな
俺としては学園施設の何かで働こうと思っていたんだが
どうせ何か企んでるんだろうが、相手から勝手に入れてくれるのならありがたい
利用できるんだ、精々利用させてもらおう。

……

……

……

翌日、麻帆良学園に向かう
判子も履歴書も用意したし、もし何か訊かれても答えられる自信は有る
履歴書……穴だらけだけどな、学歴とか。

まぁ、その辺りは適当にするか
誤魔化すネタは浮かんでるし、突っ込まれてもどうにでもなる
問題が有るとすれば……俺の頭を読まれたりする事か
その点は顔を見ればある程度予想できるから大丈夫だろ……多分。

さて、麻帆良学園の駅に着いたな
学園長室までの道はあまり覚えてないが……どうにでもなるだろ
適当に誰かに訊けばいいだけだしな。

「なぁなぁ」

学校までの道のりはそれなりに長いな
毎日こんな場所まで通う学生が大変だ
学園が見えているとはいえ、この距離は……

「……聞こえんかったんかなぁ？
なぁ、そこのお兄さん？」

って、俺も通う事になるかもしれないんだよな
何の仕事でも、週に1回とかなはずが無いし
となると……毎日のように通うんだろうなぁ……はぁ。

「もしかして自分が呼ばれてる事に気付いとらん？」

面倒そうだと思っていると、突然服を引っ張られた
何事かと思って後ろを見てみると黒髪の少女が居た
……誰だ、この子？　だがどこかで見た事が有るような気がする。

「やっと気付いてくれた
お兄さんがおじいちゃんに呼ばれた人？」

「おじいちゃん？
というか、俺がお兄さんか？
別に良いけど……」

俺は既におじさんと呼ばれても仕方無い歳なんだが……見た目はともかく
この子、どうして夏休みに制服なんて着てるんだ？
そしてどうしても見た事が有る……ん？

よく考えたら俺が見た事の有る奴なんて限られてるじゃないか
そう、仮契約のカードの……なるほど、そういう事か
この女の子、原作のメインキャラか、詳しい事は覚えてないが。

「お兄さんちゃうん？
うちは近衛木乃香、学園長の孫やよ」

京都弁？　別に口調なんてどうでも良いが
しかし学園長の孫……こんなに可愛いのに？
遺伝子操作でもしたのか？
まぁ、祖父と孫では血がある程度離れるからそこまで不思議でもな

いか。

「俺は堅守瑞貴だ
で、学園長のお孫さんがどうしてここに？
しかも制服を着て、態々俺に声を掛けたんだ？」

予想はできるけどな
大方、どこかで何人かが監視してるんだろ
学園長の孫なんて餌を垂らして、俺の反応を窺ってるはずだ
敵対者ならばこんなチャンス、普通は逃さない。

例え捕まると分かっていてもな
任務を遂行するのなら複数で攫えば良い
魔法使い達に捕まらない一般人でなら……
そうだな、１０人近くの規模だったら攫えるかな？

殺人も容認すれば……３人でも可能だとは思うが
銃で頭を撃ち、他の魔法使いが動揺している間にそいつらを殺す
次の応援が来るまでに時間が掛かるだろうし
その間に車とかで逃げれば……いや、難しいか。

学園長の孫なんてＶＩＰ存在がその程度で誘拐できるはずが無い
誘拐するのなら……爆弾とかでも使うか
他には時限爆弾とかを使うのも有りかな？
人質作戦も効果的だろう、何せ大事な大事な子供だからな。

っと、随分危険な方向に思考が進んだな
別にこの子に怨みも無いし、こんな事を考えるのは止めよう
子供だしな。

「あんな、おじいちゃんから堅守さんを案内するように言われてんよ
まだ2回目だから迷うかもしれんて
本当は他の先生に頼もうと思ったみたいやけど、忙しいみたいやか
ら」

この子……魔法の存在を知らないのか？
あの爺の孫だぞ、知らないはずは無いと思うんだが……
惚けているだけかもしれないし、無視するのが一番かな？

「それは助かる、実はあまり覚えていなかったんだ
昨日も周りばかりしか見ていなくてな
道順とか、殆ど記憶していなくて……助かった」

「えぇって、気にせんといてぇな
今度は道順を覚えやすいように、分かりやすい道を通るな」

「助かる」

純粋というか、なんというか……箱入り娘か？
あんな大物の孫だし、当然かな
その割には囮なんて役目を負わされているけど。

……

……

……

学園長室に着いたが、確かに分かりやすい道順だった
案内中も軽い話もできたおかげで色々と助かったな
どうやら本当に何も知らない上に純粋らしい……哀れだな。

学園長の性格、高畑教員の性格、葛葉教員の性格
他にも教師の性格とか過去の話を話してくれた
何も知らないのは罪という言葉は有るが……当て嵌まるか微妙だな
爺もまさか、己の孫が敵に有利な情報を教えているとは思わないだろうな。

その程度の情報漏れは覚悟しているかもしれんがな
でなければこんなに純粋な子を寄こすはずが無い
彼女の言葉は参考程度にして、鵜呑みにしないように注意する必要が有るな
信用されない……子供の評価なんてそんなものだ。

それより、さっきからずっと感じている視線は何だ？
監視というより、既に殺気が出てるだろ
色々と有ったから殺気程度は察せるが、これは……弱いな
遊戯王世界の精霊界に居たモンスターに比べたら天と地ほどの差が有る
未熟者か、それとも子供なだけか……両方かな？

「昨日も来たんやったら知ってると思うけど、ここが学園長室や」

「ありがとな
俺だけだったら時間が掛かっただろうし、助かった」

子供に罪は無い、悪いのは子供を利用する大人だ
爺に対して嫌悪感は有るが、この子供に向けるのは反則だ
まぁ……脅迫の材料にはなるかな？
もっと色々と買いそろえる必要が有るのが現時点での問題だな。

「じゃあうちはこれで帰るな

うち、これから部活やねん」

「そうか、何部かは知らんが気をつけろよ」

「ありがとぉな
ほなまたなぁ！」

そう言って去って行く近衛孫
……廊下は走ったら駄目だぞ
仮にも学園長の孫なんだ、一応規則は守れ。

さて、頭を整理しないとな
何か変な事を考えないように、思考を読まれないように
……よし、落ち着いた。

先ずは学園長室をノックする
どうせ気配で俺が居る事ぐらい分かっているはずだ
返事なんてすぐに来る。

「入りたまえ」

ほら、誰かも訊かずに簡単に入れるのはその証拠だ
もっと考えて行動する事を勧めるぞ、学園長
さて……ここからは嘘で塗り固めた思考だ
失敗しないように注意しないとな……下手すれば死ぬ。

「失礼します
昨日振りですね、学園長先生」

「ふぉっふぉ、そうじゃな」

中に居たのは学園長だけだった
昨日の2人は居ないのかな？

「では、これが履歴書です」

学園長に履歴書を渡す
学園長は封筒に入った履歴書を取り出し、読み始める
時々唸っているのは学歴かな？

「君、30歳なのかの？」

「はい、そうです」

「その割には随分若いように見えるが……」

「童顔なんですよ、昔から若く見られて困ってました
幸い、身長はそれなりに有るので子供に見られる事は無かったんですけど
それでもよく馬鹿にされてました」

どうしてこんなに若い顔なのか……はぁ
しかし、気にする場所はそこなのか？
年齢も確かに気になるかもしれんが……見た目が見た目だし。

「住所は？」

「家を出てきたので有りません
今は野宿したり、ホテルに泊まっています」

野宿、偶にすると楽しいんだよな
ホテルは金が掛かるが、安いホテルだったらそれなりに保つし
もし就職できたらちゃんとしたアパートでも探すかな。

「学歴が無いんじゃが？」

「戸籍が無いので学校には通っていませんでした
それでも、少なくとも高校卒業程度の学力は有ります」

捨て子だったからな……はぁ
施設での勉強は大変だった、まともな教科書とか無いし
よく図書館に行って勉強したなぁ……大変だったけど。

「（ふむ……施設の出か
本心は隠されているが、施設での風景まで想像できておる
という事は事実なのかのぉ？
どれもこれも、頭の中で形になっておるし
ならばこの履歴書もまだ、理解できる）」

黙ってどうしたんだ？
何か変な事を言ったつもりは無いんだが……
頭の中でもちゃんと自分の事を話しているし
俺の出で立ちも教えている、何か問題点が有ったか？

「（いやはや……わしが頭を覗くと分かっていての解説
相当頭がキレるみたいじゃの、これではわしがちと不利
あんまり頭を覗いて絶対に会いたく無い人間だなんて思われたく無いしの
そろそろ読心術は止めておくべきじゃな）
いや、本当にすまんのぉ、もう読心術は止めておくわい

せっかく仕事を見つけておいたのに、嫌われてこの学園から去れても困るからの」

止める？　どうして止めるんだ？
その方が手っ取り早くて楽だったんだが……まぁ良いか
あんまり覗かれるのは良い気分じゃないしな。

「という事は……雇ってもらえるんですか？」

「うむ、君を雇おう
それで仕事の内容じゃがな」

そう言われて渡される数枚の資料
これは仕事に関する資料かな？

「……女子寮の管理人？
次は数学教師……兼、女子中等部の副担任」

兼って文字が凄く小さく書いてる
リストが並んでいるから危うく誤魔化される所だった
なんて卑怯な……

「あの、雑用とかが良いんですが？」

「雑用じゃよ？」

いや、確かにどちらかと言えば雑用だが
数学教師は立派な教師の仕事だし
副担任や管理人は雑用だろうが……

「……巫山戯ないでください
管理人も、教師も、どちらも資格が必要なんですよ
何も資格を持っていない俺が、そんな事ができるはずが無いでしょう！」

この爺、俺を馬鹿にしてるのか！
明らかに犯罪だ、訴えたら俺は勝てるぞ！

「大丈夫じゃて、そんな物はこちらで用意するから
言わなければばれんわい、だからあまり気にせんでも良いぞい」

「教師の仕事を、学園長である貴方が馬鹿にしてるんですか？
貴方は生徒に対して、資格も無いし免許も無い
そんな者に教えさせて大丈夫だと思っているんですか？」

「ま、まぁ落ち着きなさい
（ど、どうしてこんなに怒られてるんじゃろう？
数学教師は一応空いておるし、勉強ができるのは既に分かっておるし
施設の子供にも教えていたイメージが届いたから教える事はできるじゃろうし）」

この爺……俺がどうして怒ってるのか分かってないのか？
巫山戯るな、巫山戯るな！　この糞爺が！
子供ってのは大切な資材なんだぞ！
色々とできる、大事な存在なのに、それを潰すつもりか！

「さっき読心術をしたのは知っているじゃろう？
君は施設の子供にも色々と教えていたようじゃし
ならば数学を教えるぐらい、簡単じゃろう？」

「そういう問題じゃないでしょう
そもそも、俺は学校に行っていないから大学も行っていない
教員免許は最低でも大学を卒業していなければなりません
管理人だって、資格は必要なんです
詳しく調べた事は無いので知りませんが、そう簡単にさせて良い事
では無いでしょう
そもそも、男性を女子寮の管理人にするとは何事ですか？
異性が自分達の住んでいる寮で一緒に住むんですよ？
不安に思ったり、嫌悪感を感じるのは当然でしょう
学園長、失礼ですが貴方は正気なんですか？
それとも巫山戯てこんな事を言っているだけなのですか？
もし本気なら、貴方の正気を心より疑います」

「ご、ご尤もじゃの
しかし、今この学園で必要なのはその2つなのじゃ
他の仕事に必要な人材は居ないのでのぉ
この学園での仕事はそれしか無いぞい」

だからってそんな……

「施設にお金が必要なんじゃないのかの？
無理してお主の生活するお金を集めてくれたんじゃろ？
ここの給料は高いぞい」

確かに、給料はかなり良い
アルバイトをしたりするより、ずっとずっと稼げるぐらいだ
だがしかし……

「君ほど優秀なら十分に仕事はできると、わしは思うとる
だからこの学園で働いてくれんかのう？」

これは……半分近く脅迫だ
俺を犯罪に巻き込む為の……俺にどうしろって言うんだ！
だけど施設に金が……くそったれ、こうなったらどうにでもなれだ！

「分かり……ました、数学教師の件を受けます
女子寮の管理人は……さすがにお断りさせていただきますけど」

「ふぉっふぉ、それだけでも十分じゃよ
では、契約書にサインと判子を頼むぞい」

契約書に名前を書き、判子を押す
悪魔と契約を結んだ気分だ……この糞爺め。

「さて、これからどうするのかの？」

「学園を見て回ろうと思います
ある程度地形とかも知りたいですし」

「なら、案内の者を用意しよう
1人で回るより効率的じゃぞ」

確かに……それはそうかな
せっかくだし、素直に受けるか。

「ではお願いします」

学園長はどこかに電話し、誰かと話している
誰だか知らないけど……気楽に話せる相手だと助かるな。

暫く待ち、現れたのは優男という感じの頼りない男性
まぁ、教師なんだから体格とかはあまり関係無いか。

「彼は瀬流彦先生じゃ
瀬流彦君、彼は堅守瑞貴君
2学期から数学の教師になってもらう事になったのでの」

「どうも、堅守です」

「こんにちは、瀬流彦だよ」

……覇気が無いな
弱そうというか……なんだろう？

「じゃあ早速行こうか
では学園長、失礼します」

「……失礼します」

学園長室を出て、瀬流彦教員に続いて歩く
やっぱりこの学園、かなり広いな。

……
……
……

「じゃあ今日はこれぐらいにしておこうか
最後に君の住む場所まで案内するね」

ひ、広すぎる！　なんだこの学園は！

どうしてこんなに広いんだよ！
数時間も歩いて、半分どころか1割程度って……

「す、住む場所？
もう……決まったんですか？」

疲れた、広すぎる
今日はその住む場所まで行ったらもう歩かん！

「まぁね
別に好きな場所に住んでも良いんだけど
お金があまり無い人は教員用のマンションに住むんだよ
ちなみに教員が住む場合は家賃は格安、あまり広くないけどね」

マンションって……これだけ広い学園なら当然か
家賃も安いんだったら損は無いな
本当、色々と助かるけど……俺が教師なのは犯罪なんだよな。

瀬流彦教員に連れられ、教員用マンションまで来た
それなりに綺麗な場所だな……掃除が行き届いている
なかなか悪く無い。

管理人から鍵を受け取り、部屋を目指す
俺の部屋は……3階の端か。

「じゃあ、僕はこれで
また呼ばれると思うけど、頑張ってね」

「はい、色々とありがとうございます」

瀬流彦教員と別れ、部屋に入る。

「……疲れた」

ったく、偽の思考でずっと居るのは大変だな
嘘情報を流すのも相当疲れる
最初から最後まで監視が付いていたし、変な事は考えられなくて大変だった
やっと一息吐けるな。

別に俺は施設で育った事なんて無いし、学校に通った事も有る
歳は実際に３０歳辺りだが、この顔は知らん、馬鹿にされた事も無い
野宿は……した事は有るしホテルが安いのも事実だがな。

しかし……あの学園長、本当に頭は大丈夫なのか？
見ず知らずと言って良いだろう、昨日会ったばかりの奴に教師をさせるか？
確かに、前の世界で後輩に勉強を教えた事は有るが……それとこれとは別だろう。

あ……胃が痛い
胃薬の購入は必至か……俺の胃が死ぬ
就職しただけでこれってどうなんだろう？

しまった……瀬流彦教員から薬局の場所を教えられていない
明日にでも急いで探さないと
精神安定剤であるマナが居ないんだ、胃薬が無いと危険だ。

それよりも問題なのは、この部屋に監視用の何かが置かれている可能性が有る事だ

機械のカメラとか盗聴器なのか、魔法道具の監視、盗聴なのか……
どっちでも良いか
とにかく、その可能性が高すぎるから部屋では何もできないな。

風呂やトイレまで見張られていないと思うが……用心をするに越した事は無い
どこか公共の店にでも入って、そのトイレとかで仮契約カードを使うか
必要な道具は世界図絵……読心術の魔法を調べる必要が有る、しかも早急に。

もしある程度距離が離れていても可能だとすれば……
この部屋に張り付いて、俺の思考を読んだりできるかもしれない
そうなると危険だが……さすがにそこまで気を配ったら俺の頭がパンクする
何よりも疲れるし、混乱するから……無理だ、面倒だし。

でも今日はもう止めておこう
近衛孫と一緒に居た時の殺気、爺のプレッシャー、読心術からの思考止め
更に想像もできるだけ細かく思い出したから疲れた……
前の世界で孤児院とかを見て回ったのは失敗じゃなかったな。

それにしても……学園長との会話を録音したテープ
もしこれを警察に提出したら捕まるんじゃないか？
……いや、俺も捕まる可能性が有るな
分かっていて働こうとしているんだし。

となると……提出だけ提出して逃げるか？
逃げる方法はそんなに難しくないし、方法も有る

魔法世界に逃げるというのも1つの手段だしな
あれだけアーティファクトが有るんだ、無理ではないだろう。

それにしても……俺に教師をさせるとはな
仕事は真面目にするか、そうじゃないと信用されない
少しでも信用されれば監視もなくなるはずだし、頑張るしか無いか
ま、下級生に教えた事が有るのは事実だし、多分大丈夫……か？

当分、好き勝手に動けないな
多分1ヶ月もすれば監視も緩むはずだし
それまでの辛抱だ……真面目に頑張ろう。

時間はまだ早いが、もう寝るか
疲れた、歩き続けたり交渉したり、プレッシャーを掛けられたり
さっさと休んで明日に備えよう……気力的な意味で。

どうせ監視とかされているだろうし、下手な事もできん
何もしないでさっさと寝た方が気分も楽だしな。

……はぁ、癒しが欲しい。

1話【最初は真面目に】（後書き）

瑞貴の言っている買う物って何？
色々です
きっとその内に出てきます。

前話からどれぐらい時間が経ったの？
殆ど時間は過ぎていません
途中から翌日に移るまで、同じ日です。

模擬的な殺し合いって？
遊戯王ＧＸの精霊世界での決闘（デュエル）は殺し合いなので
勝てば良し、負ければ消滅らしいです
……どこまでが本当かは、少し分かりませんが。

瑞貴の言う、考えを間違えているって？
その内出て来ると思います。

瑞貴は学園長と話している時、何をしていたの？
頭と言葉を合わせています
思考を深くまで探るのはできないと思いたいと思っていますので
なので頭で本音を完全に隠し、別の事を考えています
それは読まれても何も問題が有りませんからね。

瑞貴の魔力や気は少ないの？
少ないのです
分かりやすく言うならば、一般人以下です
まぁ、魔力が少ない≠弱い
という訳じゃないのでそれだけで弱いと決めつけるのはアレですけ

どね
……弱いんですけど。

木乃香の役割は？
瑞貴の言う通り、囮です
知られても記憶操作をすれば良いので気にしない
瑞貴が行動を起こすどころか、親しく話しているので監視は毒気を抜かれたとか
そんな裏話が有ったり無かったり。

木乃香が案内している時に瑞貴が感じた視線は？
言わずもがな。

学園長と話している時の瑞貴の思考って……
部屋に入って考えている通り、殆どが嘘です
見た目での件は嘘、野宿やホテルは本当
捨て子も嘘、施設も嘘、図書館も嘘、しかし教えていたのも学力も本当です。

瑞貴は教師の件でどうしてそこまで怒っているの？
仕事を馬鹿にしているのかなど、殆どが本音です
……まぁ、本音は嫌なだけですけど
しかしそれしか無いと言われればどうしようもありません
自作設定上、断る事はできませんし
もし断ったとして、学園に潜入する手段が限られる事を危惧しました。

悪魔と契約って……
悪魔と契約をした事は有るんですけどね……本気禁止制限決闘にてしかし気分的にはそれよりもかなり悪いようです。

マンション？
捏造設定。

どうして3階の端に住む事に？
一般人だった場合、3階から飛び降りる事が不可能だからです
もし飛び降りたら普通は大怪我です、一般人はできません
そして魔法関係者だった場合、逃げ出され易いですが
挟み撃ちをしやすく、侵入をしやすいという点が有ります
更に監視も楽になったりと、明らかにメリットが大きい為です
……作者はこれで精一杯です、他に何か有りますかね？

マナが精神安定剤ってどういう事？
前話後書きの通り、本気禁止制限決闘のキャラです
簡単に言うと、マナは瑞貴の抱き枕という……まぁそういう事です
人肌は落ち着けるんですよ？　精霊なので体温は知りませんが
マナが現れるまで胃薬にお世話になっていた瑞貴
なので再び胃薬にお世話になる毎日でしょう……多分。

録音テープって……
卑怯？　ナニソレオイシイノ？
という事です、卑怯で結構、生きる為にリスクを冒してでも頑張るんです
少しでも自分が有利になる為にも、頑張っているんです
方向性がおかしいかもしれませんが……あまり深く気にしない。

瑞貴の最後の言葉が切実過ぎない？
切実です。

ツイッター、しかし気が向いた時にしか活動はしていない
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ_ｋｕｒｉａ
次に気が向くのはいつになるだろう？

2話【初日から不安定】（前書き）

本当は昨日投稿する予定だったんだけど、寝てしまいました
なので書き足して今日投稿……
と、思ったら凄まじく長くなりました
予定の倍近くまで……何故に？

時間はちょっと飛びます
とりあえず、もう授業開始
新学期初日って、授業しましたっけ？
……まぁ、深く気にしない！

次回はいつでしょうか……
明後日から明明後日ぐらい？

2話【初日から不安定】

視点　瑞貴

何事も無く、無事新学期の日を迎えた
それまでは他の教員と情報交換をしたり
生徒への教え方とかも説明してもらった。

思ったより面倒だったが
それでも、仕事なので真面目にする
まぁ……それ以外ではあまり真面目にするつもりは無いが。

世話になったのはやっぱり新田教員だな
あぁいう教師は話していて気楽だ
本当に真面目で生徒想いだからな……愚痴はしつこいが。

何にせよ、今日から俺も教師か……嫌だな
仕事だから真面目にするが、それ以上は難しそうだ。

新学期、朝の学園集会……まぁ新学期の挨拶だな
俺も当然出席させられた
見た事もない男が居るからか、何度か生徒達から視線を向けられる
が……鬱陶しい以上の感想は無いな。

『では次に、新学期から新しい先生が加わります
堅守先生、どうぞ』

なんだと？　そんな話は聞いてない！

あの糞爺、黙ってやがったな！
怒みの視線を向けると目を背けられた……殴りたい！

しかし色々と問題が有るので自重する
いつか必ず殴ってやる……絶対にだ！

そして台の上に立たされ、マイクを渡される
俺に何を言えというのだろうか？
……何でもいいか。

『……初めまして（しか居ないに決まってるが）
今日から（嫌々）この学園でお世話に（なりたくないが）なる（しかない）堅守です
授業の担当は（面倒だが）数学
皆さん、（絶対に嫌だが）よろしくお願いします』

俺はそれだけ言って、台から下りる
あぁ……言いたい、凄く本音を言いたい
でも言ったら問題だから止めておく。

新学期の挨拶終了後、俺の担当のクラスを教えられた……副担任だが中等部の２－Ａクラスか……普通の生徒だと嬉しいなぁ
しかし忘れていた俺もアレだが、教えない学園長はボケてるのか？

担任は高畑教員らしい
しかし高畑教員は出張が多いとか……だから俺か？
源教員が居るから英語まではしなくていいと思うが
もしさせられそうになったら給料上げてもらおう。

名簿でどんな生徒が居るかと……おい！

生徒が色んな意味でおかしいだろ！
留学生とか多すぎるし、身長も謎だな！

というか、どうしてあの悪の魔法使いのエヴァンジェリン・Ａ・Ｋ・マクダウェルが居る！
確かにこの学園に居る事は知っていたが、俺の担当するクラスに居るのかよ！
まさかあの爺……俺が面倒事だから面倒事は面倒事と一緒に纏めておこう
とか考えての行動じゃないだろうな？
可能性が高すぎて殴りたくなってきた。

高畑教員に案内され、２－Ａクラス前まで来る
入りたくないなぁ……はぁ
でも、入るしかないか。

諦め、教室のドアを開ける
その瞬間、俺の目の前は白い煙で埋め尽くされた……目が痛い。

視点　木乃香

朝の集会の後、高畑先生が来た時に色々と教えてくれた
今朝、紹介された堅守先生はウチらの副担任になるぅて
理由は出張の多い高畑先生の手助けの為やて
その間、生徒を放っておいているから副担任って処置らしいんよ。

まさか、この前案内したお兄さんが先生やとは思わんかったわぁ

仲良う話せたから良い人やと思うけど。

それより明日菜が……
出張だったらその先生に行かせて、高畑先生が残ればいいのにぃ言うてるわ
高畑先生が好きなのは知ってるけど、ちょい酷うない？

それより、高畑先生がお兄さん……堅守先生を迎えに出て行ったほんなら悪戯好きな鳴滝姉妹と美空ちゃんが仕掛けを……
怪我するようなもんやないから大丈夫やと思うからええか。

みんなも堅守先生がどんな反応をするのか楽しみにしてるわ
ウチもちょっと気になってたり……怒らんといいけど
この前会うた時は優しそうやったし、大丈夫やろ。

ガララって音がして、ドアが開いた
ドアの上に仕掛けられていた黒板消しが堅守先生の頭に落ちた
堅守先生は咳き込んで、目を擦っとる。

そんでそのまま教室から出て行ってもうた……
どないしたんやろう？

視点　瑞貴

あの……糞ガキ共め
いたたたた……目にチョークの粉が入った
まさか黒板消しトラップとはな。

近くの水道で顔を洗う
目が痛い……視力、落ちてないよな？
こんな物が目に入ったら危ないんじゃないか？

くそ、最初からこんな事をしてくるとはな
しかも出て行く直前に笑い声が聞こえた
全員、楽しんでいやがったのか……

……教室に入る前に薬を飲もう、丁度水道が有るんだし
胃薬、精神安定剤……他にも何種類か
各種薬物同時服用はさすがにしないがな。

精神安定剤は入手に苦労したなぁ……
でも効果は高いし、無いときっと困る。

だがこれから先、あんなのと毎日会う？
それに比べたらこの程度は些細な事
副作用は怖いが……それよりもストレスで先に参る。

……まぁ、さすがに最初からこれは止めておこう
とりあえず胃薬だけで
後でまた飲もう……疲れそうだし。

視点　木乃香

暫くして、堅守先生が戻ってきた

髪が濡れてるって事は頭とか洗ってきたんかなぁ？

高畑先生は最初の場所から動いとらんけど
入ったら危ないとか思うとるんやろうか？
罠、ほんまに有るけど。

教室に入ってきた堅守先生が足元のロープに引っかかり、倒れそうになる
なんとか腕を下に着いて、倒れないようになったけど
上から水入りのバケツが落ちてきて、水が頭からかかる
んでもって、そのままバケツをかぶるような状態になった。

耐えきれずに倒れる堅守先生
そこに玩具の吸盤の着いてる矢が背中に当たる
堅守先生……動かなくなってしもうた。

「……（罠に引っかかってくれて大爆笑か
くっくくく……なるほど、そんなに俺が気に入らないか）」

堅守先生は無言で立ち上がって、頭からかぶってるバケツを取って床に置く
背中に張り付いてる矢も外し、バケツん中に入れたんで、教壇に立って……黙ったまま？

「では、出席を確認する」

早！？　いきなり出席確認！
他に何か無いん！？

「呼ばれた者は返事をするように

相坂……明石……」

そんな感じに名前を呼ばれていって、全員の出席確認が終わるというか、濡れたまんまやけど大丈夫なんかなぁ？

「あー……堅守君？」

「高畑教員、今は仕事中です
堅守教員、または堅守先生と呼んでください
（俺を教師と認めたく無い気持ちは分かるが）」

真面目なんかなぁ？

「ふぅ……なら堅守先生
自己紹介ぐらいしたらどうだい？
これから君が担当するクラスだよ
副担任だけど」

「……堅守瑞貴、数学教師、２－Ａ副担任になった、以上
俺が原因だが時間を既に使っている、もうＳＨＲ（ショートホームルーム）の時間が終わるな
１時間目は数学なので全員教科書を出すように」

えぇ！　めっちゃ早うない！？
自己紹介も短いし、もウチょっと何か……

「最初だし、授業をそんなに焦る必要は無いよ
それに今日は新学期初日だしね
もう少し気楽にしようよ、堅守先生
例えば質問タイムとかさ」

質問タイムで沸き上がる教室
ウチも何か訊こうかなぁ？

「では教科書の２２ページを開くように
私語はしないように、他のクラスに迷惑だ」

完全に全部無視して切り捨てる堅守先生
怒ってるようには見えへんけど……やっぱ怒ってるんかな？

「えー、ちょっとぐらいいいじゃん先生！
それに訊きたい事も有るしさー！」

和美ちゃん、これ以上刺激せん方が……
なんとなく嫌な予感がするえ。

「教科書の２２ページを開くように
私語はしないように、他のクラスに迷惑だ」

同じ事を繰り返す堅守先生
声の感じも同じで、機械みたいや。

「え、ちょ？
無視？」

「教科書の２２ページを開くように」

ここまで言われて空気を読めへんほど、和美ちゃんは馬鹿やない
諦めて席に座り、教科書を開く。

「そこにはまとめ問題が有る

プリントを配るので、各自その問題をする事
１５問、時間は２０分使う
一応成績は知っているが、各自どれ程できるか知りたい」

堅守先生はプリントを持って最前列の子に渡す
後ろにプリントが回されて、ウチにも回ってきた
名前と、問題の番号、注意書きが……注意書き？

プリント回答中は私語禁止
カンニング禁止、よそ見禁止
終わったら見直しをし、正面を見て待つ事
……これ、テストとかの注意やないん？

「注意書きはよく読むように
では時間は２０分、始め」

始めと言われたから始める
なんや、緊張感が凄い……

問題は中２の１学期にした問題ばかりや
まぁ、今日から２学期なんやから当然なんやけど。

２ａ＋５ａ　５ｘ＋４ｙ＋３ｘ
多項式の計算やね、これぐらいは覚えとるえ
（４ｘ＋２）＋（５ｘ＋８）
面倒やけど、まだまだ余裕や
でも……バカレンジャーのみんなはどうやろう？

問題が全部終わって正面を見ている
堅守先生は教科書を読んどった

勉強する所の確認やろうか？

そういえば高畑先生は？
どこに行ったかと考えとったんやけど
よく考えたら今は授業中やし、他の英語の授業やろね。

堅守先生は腕時計を確認する
教科書を閉じ、教壇の前に出てくる。

「２０分経ったので終了、書くのを止める事
後ろからプリントを前に渡して回収」

後ろに居る千雨ちゃんからプリントを受け取って、前に居る美空ちゃんに渡す
全員のプリントが集まった時、みんなが隣の人と話し出す
どんな感じだったかとか、そういう事
ウチも同じように隣に居る明日菜にどうだったか訊いてみる。

「明日菜、どうやった？」

「全然駄目よ……訳分かんない
そういう木乃香は……余裕そうね」

「ウチはそこそこやなー
やっぱり忘れてる所も有ったけど
分解とか約数とか、面倒やん。

「私語はしないように
今度は４１ページを開くように

同じくまとめ問題をする
問題数は同じく１５問、時間も２０分」

またプリントが配られる
まとめ問題……今度は連立方程式やん
代入とかも有るから面倒なんやよね。

「時間は２０分だ、始め」

……
……
……

「２０分経ったので終了、書くのを止める事
後ろからプリントを前に渡して回収」

終わったぁ～……気分的にはテストみたいやったなぁ
こっちもちょっと忘れとったけど、まぁまぁできたわ
明日菜が落ち込んでるけど、大丈夫やろ。

「５分余ったか……次をする時間は無いな
では今日の問題の復習をする」

堅守先生はチョークを持って黒板に問題を書いていく
……へ？

問．１
（１５２ｘ－３２）÷（－４）

問．２

／２ｘ－５ｙ＝２０
＼－３（ｘ－ｙ）＋ｙ＝－２

えっと……ちょいむずぅない？
問題の２番とか……微妙に忘れてきとるのに。

「この問題を……桜咲と四葉
好きな問題に答えろ」

せっちゃん？
なんやよぅ分からん人選なんやけど
出席番号順やろうか？
１５番と３０番やし、クラスの半分番とその倍番？

でも、こんな短い時間で答えられんかった
２人共黒板の前で動きを止めたまま、チャイムが鳴ってもうた
どうするんやろう？

「答えは－３８ｘ＋８とｘ＝－１０　ｙ＝－８だ
計算方法は自分で考える事
最後に答えれなかったので全員に宿題
明日までにこのプリントをしてくる事」

そう言われて全員にプリントが渡された
……答えられんかったらって酷うない？
せっちゃんも五月ちゃんも申し訳なさそうな顔しとるえ。

「なお、毎回授業の最後に問題を出す
もし答えられなかった場合、全員に宿題を出すので注意
宿題を忘れた者が居た場合、クラス全員に課題を出す

ではこれで授業は終了、クラス委員長、挨拶を」

「は、はい！
起立！　礼！」

緊張感と、堅守先生が怖かったんか、いんちょは反射的に答えた
気の毒というか……なんやろう？

挨拶が終わったらさっさと出て行ってもうた
なんかお話とかせぇへんの？
もうちょっと……こみにぇけーしょんしようや
……コミュニケーションやっけ？

「なんかあの先生、態度悪いわね」

「真面目なんちゃう？
高畑先生にも呼び方を変えさせとったやん」

「そーなんだけど
高畑先生に意見するなんて……」

明日菜、それで怒るのは理不尽やない？
クラスの他の人もあんまり良い感情は無さそうや
仲良うできたらええんやけどなぁ。

視点　瑞貴

夏だからって濡れたままは辛いな、９月だから秋か？
どっちでもいいか、しかし授業が残ってるし……帰るわけにはいかんか
昼休みまでの我慢……３時間も残ってるのにか、体に悪いな
しかも帰ったら昼飯を食う時間も無さそうだ。

どうして１時間目からあんな奴らの授業だったんだか
まぁ……どこでも同じか、ＳＨＲの時間にされたんだし
濡れたまま授業をする場所が変わるだけだ。

とりあえず職員室に戻って、次の準備をしないとな
名簿にプリントを持って……どこのクラスだったかな？

「やぁ堅守君、最初の授業はどうだった？」

またか……

「高畑教員、今は仕事中です
堅守教員、または堅守先生と呼んでください」

「今は授業中じゃないんだし、いいじゃないかで、どうだったんだい？」

人が嫌々ながらも真面目に仕事をしてるのに……
あんたが真面目にしないでどうする
慣れてきたらこんな態度になるものなのか？

「どうもこうも無いですね
俺は自分の仕事をしただけです
最初なんで実力テストみたいな事をしただけですし」

しまった……採点とかもする必要が有るんだったな
まぁ、次のクラスで問題をしている時にでもするか
着替えは昼休みにするとして、何か食う時間も無いな
帰るまで我慢するか……はぁ。

「ははは、頑張ってね」

笑い事じゃない、あんたの担当しているクラスはどうなってるんだ
初対面にもなってない相手にあんな罠を張りやがって……
新学期の挨拶では対面とは言えないから初対面と言わないが
ただ見ただけでいきなり罠とは、頭が逝かれてるんじゃないか？

それにしても、まさか近衛孫が居るとはな
罠が仕掛けられていたという事は誰も止めなかった
そう考えるのが自然、あいつも楽しんでいやがったか？
後からは少しは心配していたようだが、最初は笑っていたのを見たぞ。

初対面の時に感じた箱入り娘状態は演技だったのか？
内心は腹黒か……油断した、次からはそのつもりで相手をしよう。

……いや、あのクラス全員があんな感じか
誰も止めなかったという事は全員が楽しんでいるという事だろう
まぁ、止めようと思っていても止められなかった奴も居るかもしれんが。

俺は見ていたぞ……殆どの生徒が笑っていたのを、苦笑いも居たが
笑っていないのも一応居たが、気休めにもならん。

無表情だった絡繰、呆れていた長谷川、困っていた宮崎
この3人以外は爆笑だったり口元だけ笑みを見せていたり
馬鹿にしたような顔だったりと……特に桜咲は酷かったな
この程度も避けられないのかという顔をしてやがった……殴りたい。

クラブ活動での武闘派、桜咲、長瀬、龍宮、古
この4人から俺への感情は失望辺りか
大した奴じゃない、そんな印象か？
古はどちらかと言えば罠に嵌った俺で楽しんでいたようだが。

大爆笑していた奴の顔も覚えてるぞ
明石、朝倉、柿崎、春日、釘宮、古、早乙女
佐々木、椎名、超、鳴滝姉、鳴滝妹
この内の数名が罠を張った……絶対にそうだ。

口元だけ笑っていた奴も覚えている
綾瀬、和泉、大河内、神楽坂、近衛、桜咲
龍宮、長瀬、那波、葉加瀬、村上、雪広、四葉
俺をどうでもいいとか思っているであろう奴らだろうな。

相坂は居ない、絡繰は無表情、長谷川は呆れ
エヴァンジェリンは無干渉、宮崎は心配、レイニーディは分からん
俺の救いはこの6人だけか……相坂は居なかったが
レイニーディは何を考えているのか分からないから微妙だし。

「それより堅守君
スーツが濡れたままだけど大丈夫かい？」

「堅守教員、堅守先生でお願いします
次の授業が有りますし、着替えている時間は無いので

それでは失礼します」

「あ、あぁ……」

高畑教員とさっさと分かれる
水道はどこかに無いかな？
精神安定剤を飲まないとやってられん。

水道を見つけ、薬を飲み、職員室に入る
次の準備を早くしないと……
ったく、邪魔するなよ高畑教員。

「堅守先生、服が濡れていますが大丈夫ですか？」

「あぁ、新田教員
大丈夫です、それより次の授業が有るので」

良い人なんだけど、話が長い
急いでいる現状で話している余裕は無い。

「そんなに慌てなくとも時間は有りますよ
まぁ５分ぐらいですが」

それまでに教室に入らないと意味が無いだろうが
チャイムが鳴ってから入っても遅いんだよ。

「別に、２－Ａの生徒に罠を仕掛けられただけです
朝の挨拶なのか、容姿なのか、それとも別の何かなのか……
どうも気に入らなかったみたいですね
話してもいないのに嫌われたものです」

子供の悪戯……で済ますつもりは無い
アレは明らかに害意の有る苛めと言える
教師に対しての苛めか……不良生徒共が！

「あいつらは……」

「ちょっと待ってください、新田教員
どこに行くつもりですか」

怒り顔で職員室を出て行こうとする新田教員
２－Ａに説教でもしに行きそうだが、それはちょっと待て。

「当然、２－Ａです
まったく、初日から何て事を！」

「新田教員は次の時間、別のクラスで授業が有るでしょう
怒りたい気持ちは理解できますが、仕事を蔑ろにしてはいけません
今は仕事中です、次の授業に専念しましょう
そしてその怒りを次の授業に見せる事は駄目です
八つ当たりになりますし、その生徒が怯えてしまいます」

もし怒りを向けたら他クラスの生徒は完全にとばっちりだ
俺の事で怒ってくれるのは嬉しいといえば嬉しいが、それは拙い
そうなれば責められるのは２－Ａではなく新田教員だ
落ち着いてもらわないと困る。

「しかしだね……」

「では他のクラスの生徒を後回しにするんですか？

自習などと言えばそのクラスが迷惑します
それに２－Ａも別の授業が有るんです
担当の教員も授業が進められないので困るでしょう
だから今はご自分の仕事に専念しましょう」

「むぅ……そうか
君がそう言うのならそうしよう
だが、私は２－Ａを許したわけじゃないぞ」

別に許せとは言っていない
誰があんなガキ共を庇うか
寧ろ俺から火種をぶつけてやる。

「それは俺の知る所ではありません
新田教員の怒りは新田教員の怒りです
静めろと言っても無駄でしょうし
何より……俺もかなり腹が立っているんです
時間が有れば俺も何か言いたかったですよ
１時間目のチャイムが鳴ったので諦めましたが」

もしチャイムが鳴っていなかったら魔女狩りだな
正確には誰かを生け贄にして犯人に自ら出てきてもらう
そして祭り上げ……っと、これ以上は駄目だな、危険だ
思わず殴ってしまいそうになるし、しても説教までにしておこう。

「堅守先生は真面目ですな」

「仕事ですから
では次の授業が有るので失礼します」

話しながらも次の授業の準備は進めていたしな
教科書とプリントを持って次の教室に向かう。

次のクラスでも軽く自己紹介をし、すぐに授業に入る
している事は２－Ａと同じ
彼女達が問題をしている間に２－Ａの採点をする。

……基本的に悪いな、当然だが
夏休み直後の復習だ、悪くて当然
一部例外は居るが……ドングリの背比べだな。

賢い奴らは１５点満点中、１４点以上なんだが
スポーツ組なんて大半が９点から１２点台
悪い奴は３点以下……さすがにこれはどうなんだ？
頭が痛くなってきた……１クラスでここまでばらつきができるものなのか？

そんな感じで授業を進めていき、昼休み
仕事道具を職員室の自分の机に置き、職員室を出る。

「あれ、堅守先生
どこに行くんですか？」

「少し、自室に戻ります
既に殆ど乾いていますが、服が濡れたので着替えに
５時間目開始時間までに戻るので安心してください」

「はぁ……大変ですね」

職員室監視役のあんた程じゃないよ、瀬流彦教員

時々睨んでいるの、気付いているんだぞ。

「だったら僕も一緒に行っていいかな？
ちょっと忘れ物をしてきてさ」

絶対に嘘だろ、今思いついたって顔をしていたぞ
その程度で騙せるとでも思っているのか？
どうせ何を言っても付いてくるだろうが。

「何を忘れたんですか？」

「ちょっとね
さ、さっさと戻ろう」

それは返事していないに等しいんだが？
というか、付いてきたら昼飯を食う時間は無いぞ
分かっているのか？

「別にいいですけど……昼食は食べられませんよ？
往復の時間を考えたら
なので昼食は諦めてくださいね」

「う……わ、分かった
（普段は身体強化して移動しているからそんなに掛からないけど
堅守先生はそんな事をしていないんだから当たり前だった……
僕のお昼ご飯がぁ……はぁ）」

普段は身体強化の魔法でも使ってるんだろうな
だから移動時間はそんなに掛からない
しかし、俺はそんな事できないから普通に徒歩

一緒に行くと言ったのにそれに気付いていないという事は
普段魔法を使って移動しているんですと白状しているみたいだな。

まぁ……深く突っ込まないでおいてやるよ
言ってもいいが、怪しまれるんでな
高畑教員とか、他数名も見ているしな。

俺と瀬流彦教員は職員室から出る
そのまま学園から出て行き、教員用マンションに向かう
当然徒歩、走ったりはしない、疲れるから
そして瀬流彦教員、うずうずするな、遅いのは分かっているんだ。

自室に入り、さっさと着替える
まったく……糞ガキ共め
今度から毎日着替えを持って学校に行こう
また帰るのはご免だ。

……一応、今日も持っていくか
放課後のＳＨＲで教室に入る時にまた濡らされたら困るからな
仕事は残ってるし。

準備が終わり、自室から出る
ドアを開けた瞬間、瀬流彦教員に直撃した
……あんた、ドアの前で何をしてるんだ？

「あたたた……」

「人の部屋の前で何をしてるんですか
覗きですか？　それとも盗聴？」

「は……はは、そんな事はしてないよ
まだかと思って部屋の前で少しボーッとしていただけさ」

相変わらず見苦しい言い訳だな
まぁ、瀬流彦教員は読心術は使えないようだから相手をするにはまだマシか
態とらしい態度をされると鬱陶しいが
学園長みたいに堂々と人の思考を読む奴よりは気楽だ。

「それで瀬流彦教員
何を忘れていたんですか？
手には何も持っていないようですが」

「あ……えっと、これだよこれ」

取り出されたのはペン
普通の赤ペン、採点用か？

「赤ペン程度だったら誰かに借りればいいじゃないですか」

「自分のじゃないと落ち着かないんだよ」

苦しい言い訳だな、本当に
とりあえず、瀬流彦教員が苦労人という事が分かった
悪いのは俺かもしれんが、今回の原因は２－Ａだぞ
だから俺に悪い感情を持たないでくれると助かる。

その後は何も無く、普通に学園に戻ってくる
時間は……昼休み終了まで残り５分ほど
授業開始までは１０分程度か……昼飯は食えんな。

「うぅ……僕のお昼ご飯」

「赤ペンぐらい我慢すれば良かったのでは？
ご自分で決めたんですから諦めてください」

しつこいな……俺だって食いたかったんだよ
だからあんまりうじうじ言わないでくれ。

さて、次の授業の準備っと
急がないと間に合わない。

……

……

……

やっと全部の授業が終わった……疲れた
さて、次は２－Ａに戻ってＳＨＲだ
俺は何もする事は無いけどな。

職員室に戻って高畑教員を見ると、まだ準備中らしい
俺はすぐに準備が終わったからな……先に行くか
あまり持っていく物も無いからさっさと教室に向かう。

……煩いな、この教室は
どうしてこんなに煩くできるのか気になる
はぁ、また疲れそうだ。

教室に入ると、再び俺の視界が白くなる
……また黒板消しの罠か、糞ガキ共め！

視点　木乃香

授業が終わって、後はＳＨＲだけや
そしたら鳴滝姉妹と美空ちゃんがまた罠を……
殆ど無反応だったから悔しかったんやて
あんまり酷い罠にしたらいかんえ？

罠の準備が終わって、少し待つと堅守先生がまた引っかかった
けど今度はそのまま進んできよる
……目を瞑っとる？

でも目を閉じとったから足元に気付かず、またロープに引っかかる
同じように腕を着いて、四つん這い状態になる
また頭からバケツに入った水が思いっきし掛かった
しかも今度は空のバケツが頭に直撃。

痛そうに立ち上がった堅守先生やけど
教壇までにもう1個ロープが有って、また足が引っかかった
しかも今度は教壇に頭をぶつけて……ちょい拙い？

というか、ちょっと過激やないかなぁ？
さすがに危ないで、みんな笑ろうとるけど大丈夫やろうか？
そういえばスーツ、朝とちょい違うくない？

ちょっと蹌踉めきながらも立ち上がる堅守先生
頭からバケツを取ったら……あぁ！

ちょ、血ぃ出とるやん！
教壇に頭を打った時やろうか！

「だ、大丈夫堅守先生！」

「座れ、もうチャイムは鳴った
他のクラスの迷惑になるから私語はしないように」

自分の怪我とか全部無視して座るように言う
そんな事言われてもなぁ……みんな困っとる。

「でも血が出てるよ！」

「全員着席、他のクラスの迷惑になるから私語はしないように」

みんなの言葉なんて殆ど無視
ただ座って、迷惑やから黙れって言うだけ
どうして何も言わんの？

「いやぁ、遅れてすまない
……堅守君、大丈夫かい！？
頭から血が出てるじゃないか！」

「高畑教員、今は仕事中です
堅守教員、または堅守先生と呼んでください
そして今はＳＨＲの時間、あまり大声を出しては迷惑です」

「いや、そんな事を言っている場合じゃないだろう！」

「早く始めてください

俺もさっさと保健室に行きたいんです
終わらないと出て行けないじゃないですか
そしてもう少し声を小さくしてください、他のクラスに迷惑です」

仕事中やからってそれは……
早う保健室に行くべきやと思う！

「何を言っても無駄なのかい？」

「仕事中ですので」

ちょ、ちょっと怖いんやけど……
仕事やからって痛みを無視できるもんなん？

罠を仕掛けた鳴滝姉妹が泣きそうな顔をして挙動不審やし
美空ちゃんもどうしようって感じであっちゃこっちゃ頭を動かしとる
他のみんなもどうしたらいいかって状態や
血が駄目な亜子なんてガタガタ震えとるのが後ろからでも分かるわ。

「連絡事項は……」

高畑先生が色々言っとるけど、堅守先生が気になって頭に入らへん
明日菜は堅守先生を気にしながらでも、ちゃんと高畑先生の話を聞いとるけど
堅守先生、怪我したのにハンカチで怪我の部分を抑えてるだけしかも何か書いたりしていて怪我になんて興味も無さそうや。

ハンカチで抑えてるのやって
プリントとかに血が付かないようにしているだけにしか見えへん
何で何も言わんの？　怒ったりせいへんの？

怪我までしたら普通誰でも怒るやん。

「連絡事項は以上
堅守先生からは何か有るかい？」

「授業中は他のクラスの迷惑になるので騒がないようにこれぐらいですね」

そ、それだけなん！？
もっと何か無いん！？

「……では起立！
礼！」

授業全部終わった！
大丈夫か訊かんと！

と、思ったらもう教室から出て行っとる！？
早すぎひん！　みんなどうしようって慌ててるやん！

「た、高畑先生、どうすれば……」

「いやぁ……僕に訊かれてもねぇ
とにかく謝った方が良いよ
堅守君は仕事中はあんな感じみたいだけど
プライベートな時間になるとそんなに厳しく無いし
謝ればきっと許してもらえるよ
（僕はあまり話してないから分からないけど
瀬流彦君の話からして、そんな感じだよ、多分）」

「そ、そうだよね！
みそら、ふみか、行こう！」

「う、うん！」「わかったですぅ！」

ふーちゃんに先導されてふみちゃんと美空ちゃんは教室から出て行った
許してくれるといいんやけど……
あん時は優しそうやったし、大丈夫やろ、多分。

「私達も何かした方が良いかな？」

「うーん……なら歓迎会しよう！
お菓子とか買ってきてさ！」

「良いね、すぐに準備しよう！」

美砂、桜子、円が決める
それにみんなが乗っかって、準備をし始める
ウチもなんかしないと……でも何か作る時間なんて無いし。

「ならウチは堅守先生呼んでくるわ！」

知り合いやし、ウチの方が多分ええやろ
だって少しは気楽に話せると思うし。

「木乃香が！？」

「うん、明日菜には前にちょい話したやろ？
おじいちゃんから学園長室に案内してほしいって頼まれたの

あの時に会ったのが堅守先生なんよ」

「よし、なら木乃香伍長に任せよう！
1時間後に堅守先生をこの教室に連れてくる事！
これは上官命令である！」

「ラジャーやハルナ少尉
それまではウチもみんなを手伝うえ」

これで許してくれるとええなぁ。

視点　瑞貴

あの糞ガキ共め……頭は瘤ができてるし、額は切れてるし
上半身はビショ濡れ、チョークの粉が微妙に残っていてスーツにまだ付いてる
保健室でタオルを借りて頭を拭いて、絆創膏を額の傷に張る後、着替えもしないと……職員室に置いていたな。

まさかとは思ったけど、着替えを持ってきておいて良かったもし持ってきていなかったらこのまま仕事をしてしかも帰るまで着替えられなかったしな。

額だから血は少し多く出たが、深くなくて助かった
出血はそんなに掛からずに収まるだろう
切った場所を抑えていたのが良かったかな?

職員室に入り、持っている物を置いて着替えを持つ
どこで着替えるか……教員用男子トイレでいいか
濡れている俺を見て何かを話している教師達
俺はそれを無視し、さっさと着替えに出る。

特に何も無く着替えが終わる
ついでに精神安定剤も飲んでおく……
何度も薬を飲んで副作用が怖すぎる
それでも飲む、辛いから……さて、職員室に戻るか。

「あの、堅守先生！」

声がしたので見てみると鳴滝姉妹に春日
なるほど、謝りにでも来たのか？
だがまぁ……許してやらない。

「授業の質問以外の話は聞かんぞ
今は仕事中だからな
授業に関係の無い事なら早く帰れ、クラブとかだったらそっちに行くように」

3人共動きが止まる
切り捨てたからな
さて、職員室に戻るか。

動きを止めている間に3人から離れる
さすがにそろそろ怒鳴りだしそうだ
早く帰って休みたい……そして寝たい
薬の効果で眠気も出てきてるし、早く終わらせないとキツい。

職員室に戻り、仕事を始める
最後のクラスの採点をして、明日の授業の準備
プリントを作って、問題も考えないと……
教科書にも教えないといけない事は書いておくか。

「堅守先生、額の絆創膏は……」

「あぁ、教壇の角に頭をぶつけてしまいましてね
切ってしまいました
額の血はなかなか止まりませんし、ちょっと保健室で貰ってきました」

「教壇に額をぶつけるなんて、普通は有りません
何が原因なんですか？」

本当、新田教員は良い人だねぇ
新人だし態度から話しかけにくい俺に積極的に話しかけるだなんて
他に会話をするのは瀬流彦教員や高畑教員だけだし
どっちも監視とかが目的だから何か違うしな。

「目を閉じていて足を引っかけただけですよ
チョークの粉が目に入るのを反射的に防いだので」

「チョークの粉？
まさかあいつら……またあいつらですか！」

「ご想像にお任せしますよ
今は仕事中なのであまり話しませんが」

こちとら眠気と戦ってるんだ

早く仕事を終わらせて帰りたいんだよ
だから無駄な話をさせないでくれ。

「それよりも俺は早く仕事を終わらせて帰りたいんです
今は何よりも休みたい……」

切実に思う、帰りたいと
あーーー……終わらない、仕事が終わらない！
世界を飛ぶ前の俺も仕事が終わらなくても真面目にしていたが
ここまで嫌な仕事じゃなかった……心から帰りたい！

「か、堅守先生？　大丈夫ですか？
頭が揺れてますよ？」

「眠いだけです……まだ大丈夫ですよ
それよりも仕事を終わらさないと帰れない……」

頭が痛い……体が怠い
まだ暑いぐらいの気温なのに体が少し寒い
濡れた体に少しとはいえ流血は拙かったか？
元々体は弱い方だし……風邪で済めばいいが。

「仕事だったら他の先生に頼みましょう！
だから休んでください！」

「いえ、自分の仕事は自分でしないと気が済まないので
そうでなければ何の為に今日、実力テストをしたのか分かりません
問題のプリントを作って、その前に採点もしないと……
後は明日の準備もして……はぁ」

先に採点しないと……
えー……答えなんだっけ？

視点　木乃香

「謝れなかったぁ！？」

「はいです……仕事中だから授業以外の事で話す気は無いって言われたですぅ」

「ちゃんと謝ろうとしたのに、さっさと行っちゃったんだよ！
それに授業が終わったんだから帰れって！」

「（どー見ても機嫌が悪かったと思うんだけどね、私は
表面上は冷静だったけど、目はかなり怒ってたし）」

謝るんに失敗したんかぁ……ドンマイや
次頑張ろうな！

「そうそう、双子
私達、今堅守先生の歓迎会の準備をしてるんだ
その時、どさくさに紛れて謝っちゃいなよ！」

「ほんとーパル！」「助かったです！」

「（私はどっちでも良いんだけどねー
でも、さすがに悪かったと思うから謝るけど）」

頑張るんやで！
ウチも頑張るやさかい！

話しながら、１時間の時間が経った
そろそろ堅守先生を捜しに行かなな
あんまり遅いと帰ってまうかもしれへんし。

「そろそろ予定していた時間やし
ウチは堅守先生を捜しに行ってくるな」

「うん、お願いね木乃香」

教室と出てー職員室までまっしぐらやー
でも堅守先生が職員室に居るとは限らんなぁ……
まぁええか、居たらええんやし。

という訳で職員室！
堅守先生居るかなぁ？

「失礼します～
堅守先生は居られますかぁ？」

あ、居った！

「近衛、ちょっといいか？」

あや？　新田先生？
なんでそんな怖い顔しとん？
ウチ……何やしたやろうか？

「堅守先生の件なんだがな……
悪いがちょっと職員室から出ようか
堅守先生に聞かれたら止められそうなのでな」

え、え、え？
なんなん、なんなん！？

新田先生に言われるまま、職員室から追い出された
職員室前の廊下で話す事になったんやけど……
ウチ、ほんまに何かしたんやろうか？

「あのぉ……ウチ、何か悪い事しましたか？」

「いや、近衛はおそらく何もしていないだろう
それより、堅守先生なんだが
なんでも、２－Ａの生徒に罠を仕掛けられたとか
水に濡れたり、黒板消しを頭に落とされたらしいな
どういう事か説明してもらおうか？」

……どないしよ？
素直に白状した方がええんやろうけど
そしたら鳴滝姉妹や美空ちゃんがめっちゃ怒られるし
だからって何も知らんは無理やし……

「言い辛いなら犯人は言わなくても構わない
本当か嘘かを教えてくれないか？
怪我までしたとなると無視できない問題なのでな」

「うぅ……ほんまです

みんな遊び半分やったんやと思うんやけど
それに怪我した時、保健室に行くようにも言ったんやで？
なのにＳＨＲ中やからって行かんて……」

「堅守先生は真面目だからな……
しかし、昼休みまで着替えずに濡れたスーツのまま仕事をしていたらしいし
昼休みの時間は昼食も食べないで着替えに自室まで帰った
また濡らされると思ったらしく、着替えも持ってくる始末
無ければ良いと思っていたのだろうが……本当に着替える事になってしまった
あまり言いたくは無いのだが、堅守先生は君達に嫌われていると思っているよ」

お昼休みまで濡れたままで？
しかもお昼ご飯も食べんと着替えに？
ウチらが堅守先生を嫌ってるて……

「う、ウチらは堅守先生が嫌いなわけやないよ！」

「そうなのかもしれないが……
アレだけの事をされて、そう思わないのは難しいだろう
近衛は何もしていないかもしれないが、謝っておいた方がいいだろう
クラスの者にも言っておいてくれ」

「……怒らへんの？」

絶対に怒るて思うたのに
いつもの新田先生なら絶対に怒っとる。

「被害者の堅守先生が怒らないのだ
私が怒っても、堅守先生は喜ばないだろう
本当は怒りたい気持ちで一杯なのだが……
私情を全く入れず、真面目に仕事をしている堅守先生を見ているとどうしても気まずくなってしまってな」

……ちゃんと謝らな
堅守先生に謝らなあかん！

「まぁ……そういう訳だ
すまなかったな、強引に連れ出して
堅守先生に用が有ったんだろう？」

「いえ、教えてくれてありがとうございます
ちゃんと謝って、みんなにも謝るように言います」

「そうか、頑張るんだぞ」

新田先生に励まされて、もう1回職員室に入る
全然変わっとらん格好で堅守先生が座ってた
後ろから驚かそ思っとったけど止めとく
これ以上嫌われるのは嫌やもん。

「堅守先生」

「……近衛か、何か用か？
見ての通り、今は仕事中だ
手短に頼む」

こっちも見ず、仕事しか見ていない堅守先生

ほんまに仕事人やー……凄いなぁ。

「あんな、あんな
その、ごめんなさい」

「近衛に謝られる理由は無いな」

無反応、しかも謝罪を拒否されてもうた
ど、どないしよ……

「罠とか張ったりして……」

「仕掛けたのは近衛じゃないのは分かってる
その件での謝罪なら不要だ
罠の件で近衛が謝る必要性は皆無だ
それだけなら早く帰れ、もう夕方だぞ」

完全に切り捨てられてもうた……
やっぱ怒っとるんやろうか？
怒って無いわけが無いやんな……

「そ、それなんやけど
堅守先生の歓迎会をしようかと思てな
だから教室に……」

「罠だらけの歓迎会か？
生憎、態々自分から罠を受けに行く趣味は無いな
それに今は仕事中だ
例え普通の歓迎会だとしても、出る気は無い
更に言うなら俺の仕事が終わるまでまだ2時間近く有る

そんなに待っていたら夜になるぞ
さっさと片付けて寮に帰れ」

……全く信用されてない
本当に……ウチらが嫌ってるって思ってるんや
どないしよう……ウチはどうないすればいいんや？

「か、堅守先生？
仕事だったら僕達がするからさ
だからちょっとぐらい……」

「自分の仕事を他人に任せる気は有りません
余計な気遣いは結構です、瀬流彦教員」

瀬流彦先生、敗北
ポーズで謝られたけど……どうしようも無いんやろうか？

「ふぉっふぉ、失礼するぞい」

おじいちゃん！？
何でおじいちゃんが職員室に来るんや！？

「おや木乃香、どうしたんじゃ？」

「学園長、下手な芝居は止めたらどうですか？
見ているだけで不愉快です
他の先生が学園長に連絡していた事には気付いていましたよ
状況も事態も、理由も原因も分かっているのに惚けるのは感心しませんね」

ウチは気付かんかったえ！
いつ連絡したんやろう？

「ふぉ、そうかね？
なら堅守君」

「今は仕事中です
堅守教員、または堅守先生と呼んでください
そして仕事を途中で放棄するつもりはありません
仕事を中断して２－Ａで歓迎会を受けろ、などという命令は拒否します
自分の仕事は最後まで自分でするので」

「さ、先読みせんでくれるかのう？
どうしても嫌なのかね？」

「嫌とか、そんな私情ではありません
仕事なので仕事をしている
そして仕事中に遊ぶつもりは無い
ただそれだけです」

ちょい私情が混じってるのは気のせいやろうか？
でも、仕事を邪魔したらあかんよな……

「じゃがのぉ……」

「もうええんや、おじいちゃん
仕事中に邪魔したウチが悪かったんやし
無理に嫌な事させたない」

「ついでに言うなら、そういうのを職権乱用って言うんです
孫の為にという気持ちは分からなくもないですが
だからと言って、ご自分の立場を利用しての家族サービス
職権乱用は立派な犯罪です、自重してください」

おじいちゃんが犯罪者!?
うわ……今までしてないやろうな?
ウチが孫やからって贔屓とか!

「う……すまんかったの、堅守君……いや、堅守先生
わしもちょっと調子に乗っとったわい
すまんの木乃香、自分で頑張っておくれ」

「うん……でも今日は諦めるわ
堅守先生、次空いてる日いってあります?」

「プライベートを話すつもりは無い」

切り捨てられてもうた
分かっとったけど……やっぱ辛いわ。

「歓迎会なんて暇が有るなら宿題をしろ
俺からすればそちらの方が嬉しい
忘れたら全員、連帯責任で課題だからな」

忘れとった!
みんなにそれも言わな!

「なら堅守先生、また明日……」

「また明日
時間も少し遅いから気をつけて帰るように」

「はーい」

職員室を出て、溜め息を吐く
みんなに……どう説明しよ？
絶対に怒るやろうなぁ……せっかく準備したのにって。

頭が痛くなりそうや
でもウチらが悪いんやし、頑張らな！
とりあえずみんなの説得、そして宿題や！

2話【初日から不安定】（後書き）

瑞貴視点と木乃香視点の入れ替わりばっかり……
他のキャラがまだまともに出てきていないからです
ついでに木乃香はかなり動かし易い……
ハイテンションキャラは書く自信があまり無いので
京都弁ってこんな感じですかね？

瑞貴が初日から薬だと？
ストレスで死にます。

精神安定剤なんてどうやって手に入れた！
演技をすれば現実でも手に入れられます
知り合いの話ですが……演技をして病院から本当に貰ってきたそうです
……演技に定評の有る瑞貴。

なんだか悪戯が妙に……
1巻のネギにした悪戯を使いました
それを文章で詳しく説明するとこんな感じ
……適当に漫画を読んでいてもこんなにはなりませんね
こうして書いてみるとかなり酷い事がよく分かります。

瑞貴が真面目過ぎない？
魔法使い達に信用される為です
一刻も早く監視から抜け出したいので
そうでなければこんなに真面目にしません。

瑞貴……凄く怒ってない？

怒っています、凄く怒っています
しかし怒ったら生徒達が調子に乗ると分かっているのです
無視し、諦める事を待つつもりです
……それまで胃が保てばいいんですけどね。

問．２って何？
連立方程式です
分からない人は中学３年生以上の人に訊いてください
現在、中学２年生の人はまだ習っていませんので。

新田がちょっと目立つね
中等部の教師がよく分からないので
高畑、源、瀬流彦しか分かりません
他の教師は違う場所に居そうです
初等部とか、高等部とか、大学部とか
なので教師は基本的この４人が出てきます。

瑞貴が新任教師なのに生意気過ぎない？
瑞貴ですから
それに見た目は１８歳の設定ですけど
実際は３０歳辺りです
若い教師が相手なら完全に年上ですし
……これでもまだ自重しているつもりなんですけどね。

どうして瑞貴は２回目の罠の時に目を閉じていたの？
チョークの粉が目に入らないようにする為です。

空腹時に薬を飲むと……
副作用が強く出てきます
なので真似をしないようにしましょう

体にも悪いですしね。

新田が良い人過ぎる……
なんというか……まともなのがこの人しか居ないので。

瑞貴の言う、その件と罠の件って同じ意味じゃないの？
違います
罠を仕掛けている者を止めなかったからです
それで謝られるのなら謝罪を受け取っていました。

なんだか終わりが中途半端……
時間が無くなったので
次回の最初をどうしようか悩み中です。

ツイッター、頭打った……マジ痛い
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
車に乗る時に天井にガンって……ちょっと今もヒリヒリする。

3話【弱みを見せたら負け】（前書き）

先に謝っておきます……ごめんなさい
狂犬が動きました、理由が強引だとか言わないでください
作者の中では味方には忠犬、敵と思ったら狂犬です。

早くも瑞貴は終わります、色々な意味で
誰か瑞貴を助けてあげてください
不幸とかが重なり合って折れそうです。

次回はいつかなぁ……分かりません
1週間以内だと思います、多分。

3話【弱みを見せたら負け】

視点　木乃香

は、入りにくいなぁ……
教室、めっちゃ賑わっとるわ
堅守先生が来んって言ったら怒るやろうか？

「み、みんなただいまぁ……」

「おかえりこのか
あれ？　堅守先生は？」

「その……あんな？
仕事がまだまだ終わらんって言われてもうた
そうなったら夜になるし、片付けて帰れて」

「えー……せっかく準備したのに？
ちょっとぐらい良いじゃん、連れてこよう！」

何人かが教室から出て行こうと……
って、それはあかん！　絶対あかん！

「みんな待ってぇ！
行ってもうた……どないしよぉ」

「どうしたのよこのか？
何がそんなに心配なの？」

「アスナ……どないしよ？
ただでさえ信用無いのに、もっと嫌われてしまう……あ、そうや楓！
今出て行ったみんなを捕まえてきてな！」

楓やったらきっと間に合う！
職員室までみんなが行ったらアウトやし！

「いいでござるが……拙者らも頑張って準備したのでござるよ？
それはこのか殿も知っているであろう？」

「でもあかんねん！
仕事中にそんな事したら絶対に嫌言うに決まっとる！
しかも仕事はまだ2時間も掛かる言うてるんやで！
邪魔したらもっと遅うなってめっちゃ迷惑やん！」

「確かにそうかもしれぬでござるな……
しかし2時間、拙者だったら耐えられそうにないでござる
あいあい、なら連れて帰ってくるゆえ」

楓は急いで教室で出て行く
これで多分、一安心や……多分。

「いやぁこのか、それよりちょっと訊きたいんだけどさぁ」

和美ちゃん？
なんや、嫌な予感が……

「随分堅守先生の肩持つじゃん
どういう切欠が有ったのか、教えてくれないかなぁ？」

あ、やっぱり？
別に何か有ったわけやないんやけどなぁ
案内したぐらいやし。

「堅守先生が学園に来た日に案内しただけやよ？
学園長室までの道、覚えとらんかったみたいやし
そん時にちょい話しただけやえ」

「いやいや、おとなしいこのかが感情むき出しに怒鳴ったんだよ？
という事は他にもっと何かが有るはずでしょ
ほらほら、隠してないで白状してよ」

「無いって……ほんまに
初めて会うた時は普通の人や思うたぐらいや
だから大丈夫か気になっとんねん
内心、めっちゃ怒ってるんやないかって」

「大丈夫大丈夫、今まで平気だったじゃん
それに何も言ってこないって事はあんまり怒ってないんだよ」

……そんなに楽観的に考えてええんやろうか？
強引にしたりしたらもっと嫌われてしまうやろうし
あかん、考えが悪い方にばっかいってまう。

楓、お願いやから連れ戻してや
失敗したらきっと洒落にならんから。

「ただいまでござるー」

楓？
ちょい早うない？

「いやぁ、間に合わなかったでござる
はっはっは（ちょっと待ったでござるけどな
プリンを奢ってくれるらしいので
だから動きが止まってしまい、間に合わなかったでござる
ま、大丈夫でござろう）」

「かえでーーーーー！」

わ、笑い事やない！
って事は堅守先生、こっち来とるん！？

「ただいまー！
堅守先生連れてきたよー！」

来てもうたーーーーー！
ど、どないしよーーーーー！

ホントに居るし……無表情や
絶対に怒っとる、絶対に怒っとる！

「「「「「「「「「堅守先生、２－Ａにようこそー！」」」」」」」」」

……表情１つ動かさんわ
あかん、最悪の状況や……
元から無い信用も全部無くなってしもうた
完全に嫌われてもうた……もう駄目や。

堅守先生がこっちをちょっと見てきた
見られてたのは1秒ぐらいやけど分かった、役立たずとか思われたんやと思う
凄く逃げ出したい気分や……

視点　瑞貴

さすがに……明石、柿崎、釘宮、佐々木、椎名どちらかと言えば運動系に掴まれたらどうしようも無い運動系じゃなくても無理だったと思うが拒否して、断っていたんだがな……無理矢理！

新田教員が席を外していたのが運の尽き
腕を掴まれて引っ張られ、体を後ろから押され強引に引き摺り出されたらどうしようも無い。

仕事が……終わらない
眠いのに終わる時間が遅くなるだなんて……こいつらは鬼かどこまで俺の邪魔をすれば気が済むんだ！

こんな無駄な時間を過ごすなんて……
これは給料から引いてもらわないとな
生徒が勝手にした歓迎会なんかで給料を貰ったら給料泥棒だ
馬鹿馬鹿しい理由での給金なんて要らん！

そして強引に教室に押し込まれた

目の前には集まっている２－Ａ生徒達
手にはクラッカー……クラッカー？

「「「「「「「「「「堅守先生、２－Ａにようこそ！」」」」」」」」」」

煩い……声だけじゃなくてクラッカーの音が煩すぎる！
どうしてこうなった、俺の耳を壊すつもりか！
殆ど覚悟していない状態で突然大きな音を立てると耳が……

ふと、顔を動かすと近衛が居た
……一応、止めたらしいな
あの顔を見れば分かるが……失敗したか。

もう知らん、こんなガキ共
プライベートでも会いたくない
仕事が無ければ顔も見たくない！

「どーしたのさ堅守先生
ビックリして言葉も出ない？」

早乙女、黙ってくれないか？
俺は今、猛烈に腹が立っている。

「それよりさ、主役なんだから座ってよ堅守先生
主役様のお通りだぁ！」

数名に押され、強引に教室の真ん中に押し出される
机の上に菓子類が置いてある
その辺りの席に無理矢理座らされる。

「では堅守先生
今の心境をどうぞ！」

朝倉、今の俺にそれを問うか？
自分が何をしているか分かっているのか？
何も言ってやらない、もう完全に怒ってるからな。

「……先生、何か言ってよ」

黙る、何も言わない
俺の感情も分からないのか？
言わなければ分からないだろうが
察するとか、しようともしないか。

「せんせー照れてるんじゃない？
だってこんなに可愛い女の子達に囲まれてるんだし！」

誰が照れるか……馬鹿馬鹿しい
お前らの裸を見たとしても照れるわけが無いだろうが
興味の欠片も無いガキに、俺が欲情するとでも？

見た目は確かに良いだろうな
しかしその程度だ、それ以上何が有るんだか。

「ねぇねぇ堅守先生
どうして何も言わないの？」

話す気も無いからだよ
こうしている間にも薬の副作用で眠くなってくる……

残ってる仕事が悪夢の時間になるな。

ん？

近衛が逃げ出したそうにドアをチラチラと見ているな

逃げ出すのは許さん、俺に逃げさせろ。

「ねぇん、堅守先生

何か言ってよぉ」

抱きついてくるな朝倉、早乙女

暑苦しいし邪魔だし鬱陶しいし気持ち悪い

その撫で声で鳥肌が立つ！

まぁ、期待されているんだったら言ってやろうか

そんなに何か言ってほしいんだろう？

お望み通り、言ってやるよ。

「暑苦しい、邪魔、鬱陶しい、気持ち悪い

触るな、触れるな、近づくな、話しかけるな

視界に入るな、声を出すな、鳥肌が立つ

仕事の邪魔をするな、連れ出すな」

教室の音が消える

望み通り、何か言ってやったぞ？

嬉しいだろう？

無理矢理朝倉と早乙女を引き剥がす

席から立ち上がり、教室を出て行く

っと、その前に一言言わないとな。

「もう1度言うが
宿題を1人でも忘れると全員課題だ
忘れないように注意する事
時間も遅くなってきているから早く帰れ」

それだけ言い、教室を出て行く
無駄な時間を過ごした
精神安定剤を飲みたい……これ以上は飲まないが。

視点　木乃香

ま……まさかの暴言
ちょっと言い過ぎなんやない？
ウチには言ってないと思うけど
それでも悲しかったえ……

「な、何よアレ？
無理矢理だったのは悪かったかもしれないけどさ
だからってあんなに言わなくてもよくない？」

多分、我慢の限界やったんやろうな
そんでハルナが何か言え言うたから
もう嫌になって言ったんやと思う。

「酷すぎるよねー？」

「うんうん、言い過ぎだよ、絶対！」

「あんなに怒らなくてもねー？」

完全にウチらが悪いのに……
どうして堅守先生が悪くなってるんやろう？
最後の悪口しか悪い所無いやん。

「どーする？」

「気分も冷めちゃったしねー
片付けて帰ろっか？」

みんな片付け始める
誰も自分が悪い思ってない……
なんでこんな事になっとるんや？

どうればいいんか分からへん
混乱した頭のまま、片付けを始める。

ウチがみんなを抑えられんかったのが悪かったんかな？
きっとそうや……ウチが悪かってん
一杯謝らな、許してもらえるまで謝らなあかん。

今日は終わったら帰ろう
明日、仕事の前……学園に入るまでに謝ろう
それやったらちゃんと話ししてくれると思うし
嫌われて無視されなかったらええんやけど……

視点　瑞貴

苛々する……こんな状態じゃ仕事に手が着かん
それでも仕事だからするが
雑にならないように注意しないと。

「あれ？　もう帰ってきたんですか？
どうせだったら楽しんできたら良かったのに」

楽しむ？
アレのどこに楽しむ要素が有るんだ？

「仕事中に強引に連れ出されたとはいえ、遊べと？
仕事中なので遊んでいる暇は有りません
なので抜け出してきました」

ただでさえ時間が無いんだ
急いで終わらせないと……

「少しぐらい良いと思うんだけどなぁ……」

「勤務時間を伸ばすつもりですか？
遊んで給料を貰うだなんて、給料泥棒ですね
俺はそんな人間になりたくないので
遊ぶのなら勤務時間外にします、給料泥棒は嫌ですから」

「は……ははは
面目ないです、はい」

楽して稼ぎたい気持ちは分かるがな
それよりも、早く仕事を終わらせないと……
時間がいくら有っても足りない！

……
……
……

結局、本当に2時間近く経ってしまった
近衛に言ったのは半ば適当だったんだが
もう夜じゃないか……当たり前だけど。

「ん～～～……はぁ
仕事、終わったんで帰ります」

「お疲れ様です
また明日」

瀬流彦教員と挨拶を交わし、職員室を出て行く
疲れたし眠い……電車で寝ないように気をつけないと
寝たらそのまま爆睡して朝まで寝そうだ。

学園から離れ、帰り道を歩く
歩く、歩く、歩く……ん？
何か変だ、こんな道は通らないはず。

となると……仕掛けられたか？
誰が相手かは知らんが、巫山戯やがって……
肉体的には一般人なんだぞ、俺は！

「さて、ここは……噴水公園か」

「その通りです、堅守先生」

目の前から歩いてくるのは……桜咲
抜き身の刀を持って俺の目の前に出てくる
何が目的なのやら……

「桜咲、銃刀法違反という法律は知っているか？
刃渡り１５ｃｍ以上の刀は法律違反だ
そういう物を持つ場合、その許可証が必要
そもそも、１８歳未満の者は許可さえ与えられない
さて、警察署に行こうか、桜咲
弁解も何もしてやらないから安心して少年院で暮らせ」

「……詳しいですね」

「それとも、その刀で俺を殺すのか？
しかし日本の警察はそれなりに強いからな
刀傷という事ぐらいすぐに判明するだろう
となると持っている者の検索が始まる
お前の身元が割れるのは時間の問題だろうな
殺人なんてしたらすぐに捕まるだろうし、止めておいた方が良い
それでも俺を殺したいのなら話は別だがな」

ま、誰かが庇うだろう
学園長とか、葛葉教員とか、その辺りかな？
魔法関係者への刑は軽そうだし
どうせ、俺が実は悪党でしたと言えば済むしな。

もしそう言えば確実に桜咲は無罪になるだろうし
完全に死に損だな、俺は
俺の人生もここまでか……悪足掻きぐらいしたい所だが。

「まだ殺したりするつもりはありません
質問に答えてくれさえすれば」

「脅迫罪っと
刀を向けて質問というのは脅迫だぞ
お前はそんな事も知らないのか？」

まったく、これだから魔法関係者は……
こいつら、絶対に世の中嘗めてるだろ
魔法使い達は警察関係のどこまで食い込んでるんだ？
上層部にまで入ってるんだったら魔法使いに支配されてるんじゃ……

「この状況でも怯まず、怯えもしないとは……やはり裏の者か！
貴様はどこの者だ！　素直に白状しないと怪我をするぞ！」

「裏ってなんだよ……そもそもどこの者って何さ？
白状と言われても何を言えと？
俺としてはお前が何者でどこの者だって感じなんだが？」

誰が言うか、巫山戯るなよ？
魔法使い達は馬鹿正直だから白状するかもしれんが
俺はそんなに馬鹿じゃない、誰が素直に言うかよ！

「惚けるつもりか？」

「惚けるも何も、何の話だよ

俺は早く帰って寝たいんだ、邪魔をするな
そもそも、こんな夜遅くまで残って何をしている
お前も早く帰って宿題をして寝ろ
もし忘れたら課題だと言ったはずだ
そもそも、銃刀法違反に脅迫罪で警察に連れて行くぞ
嫌だったらさっさと俺を帰らせろ、眠いんだよ」

まったく、俺が何をした？
何も無いように注意して生活していたはずだし
そもそも、狙われる理由を作り出すような怪しい行動はしていないはずだ。

「では質問を変えよう
お嬢様に何をした？」

「お嬢様って誰だよ……
誰か分からない上、お嬢様になんて興味無い
というか、こんなに広い学園だったらお嬢様の1人や2人居そうだけどな
まぁ、金持ちなのかどうかは知らんが、興味を持てというのが無理だ」

「惚けた答えを……
貴様がお嬢様に何かを言ったんだろう！
悲しそうな顔をなされて……お嬢様に何をした！？」

「だから、そのお嬢様が分からないと言っているだろうが
お前は俺に何を期待しているんだ？」

訳が解らん

もしかして頭が逝ってるのか？
精神病院に連れて行った方が良いだろうか？
いや、その前に警察か。

「巫山戯るな！」

いきなり斬りかかってきた！？
短気過ぎるだろお前は！

って速すぎる……
こんな攻撃、避けられるかぁ！

「づっ……」

本当に……斬りやがったこいつ！
本気じゃないだろうから意識は有るが……激痛が！
斬られた場所は……左腕、暫くは使い物にならないな
そもそも、治るかも分からん。

血が抜けて力が入らない
痛みも合わさって立っていられない
完全に力が抜けて倒れ込んでしまう
この始末……どうしてくれようか！

「避けもしないとは……何を考えているんですか？
それに、それぐらいの傷でしたら魔法で治せるでしょう」

「お前……魔法だか何だか知らないが
こんな事をして、許されるとでも思ってるのか？」

「お嬢様に手を出しておいて何をヌケヌケと……
いつまでそんな演技をしているつもりですか」

こいつ……確かに演技だがな
だからって……いかん、意識が朦朧としてきた
薬の睡眠効果も合わさって……これは無理だな。

「この仕返しは……必ずしてやるからな
怨みは……何倍にしてでも必ず返してやる
お嬢様は分からんが、絶対に見つけ出して潰してやる
お前を……絶対に……絶望へ……死ねよ、お前」

もう……無理、落ちる……

視点　刹那

……気絶したか
まさか本当に一般人？

これは……相当拙い事をしてしまったのでは？
と、とにかく治療しておこう
記憶も消さないと……魔法とか言ってしまったし。

記憶は……この5分ぐらいでいいか
それ以上消したら不都合が起こるかもしれないし
妙に鋭いらしいから何かに勘付かれるかもしれない
記憶処理は念入りに……と。

さて、どうしましょう？
私はあまり治療は得意じゃないのですが……
応急処置をしてっと
威嚇のつもりでしたし、そんなに深く斬りつけていないから大丈夫でしょう。

それにしても根性の無い人ですね
威嚇のつもりで少し斬りつけただけで気絶するだなんて
一般人でももう少し耐えられると思うのですが。

後の問題は堅守先生をこのままここに放置するか
それとも家に送っていくか……放置ですね
お嬢様を悲しませたのは事実ですし
お嬢様を悲しませた罰、とでも思っておいてください。

「木乃香お嬢様……」

……さて、少なくともこれで死にはしないでしょう
左手は暫く動かないかもしれませんが……
まぁ、治癒魔法使いなら暫く回復に専念すれば治せますよ
後遺症も残らないでしょうしね。

……誰かに見つからない内に逃げないと
さすがに見られたら拙い。

一応、学園長には報告しておこうかな？
一般人だと報告しておけば警備も楽になるし
いつまでも警戒しないで済む。

私の仕事も減るし
これで警戒する時間も減って楽になる
お嬢様は……どうすれば良いだろう？

まぁ、放っておいても大丈夫か
一般人には何もできない
それにもしお嬢様に何か有れば……脅すか。

しかし……どうして刀を前にして怯まなかったんだろうか？
脅しても冷静なままだったし
斬っても怨みを向けられたが冷静さは失っていなかった
一般人だとは思うけど、油断はしないようにしよう。

さて、帰るか。

視点　瑞貴

ん……いっつ！
腕が痛い？　何故？
……包帯が巻かれてる？
雑なのが気になるが。

それにここは……噴水公園か
何故俺はこんな場所で寝てるんだ？
今の時間は……早朝４時か。

「は……はっくしゅん！

完全に風邪だな……当たり前か」

濡れたまま授業、こんな場所で寝ていたら当然か
だが……不自然過ぎる
怪我をした記憶も無いし……明らかに変だ。

やっぱり、寝る前に何か有ったな
もしかして通り魔にでも襲われたか？
可能性は低いとは思うが……

ま、分からないなら確認をすればいい
……録音機を確認っと、何か録音してるよな？
さてさて、何が録音されている事やら……

『桜咲、銃刀法違反という法律は知っているか？
刃渡り１５ｃｍ以上の刀は法律違反だ
そういう物を持つ場合、その許可証が必要
そもそも、１８歳未満の者は許可さえ与えられない
さて、警察署に行こうか、桜咲
弁解も何もしてやらないから安心して少年院で暮らせ』

『……詳しいですね』

『それとも、その刀で俺を殺すのか？
しかし日本の警察はそれなりに強いからな
刀傷という事ぐらいすぐに判明するだろう
となると持っている者の検索が始まる
お前の身元が割れるのは時間の問題だろうな
殺人なんてしたらすぐに捕まるだろうし、止めておいた方が良い
それでも俺を殺したいのなら話は別だがな』

『まだ殺したりするつもりはありません
質問に答えてくれさえすれば』

『脅迫罪っと
刀を向けて質問というのは脅迫だぞ
お前はそんな事も知らないのか？』

『この状況でも怯まず、怯えもしないとは……やはり裏の者か！
貴様はどこの者だ！　素直に白状しないと怪我をするぞ！』

『裏ってなんだよ……そもそもどこの者って何さ？
白状と言われても何を言えと？
俺としてはお前が何者でどこの者だって感じなんだが？』

『惚けるつもりか？』

『惚けるも何も、何の話だよ
俺は早く帰って寝たいんだ、邪魔をするな
そもそも、こんな夜遅くまで残って何をしている
お前も早く帰って宿題をして寝ろ
もし忘れたら課題だと言ったはずだ
そもそも、銃刀法違反に脅迫罪で警察に連れて行くぞ
嫌だったらさっさと俺を帰らせろ、眠いんだよ』

『では質問を変えよう
お嬢様に何をした？』

『お嬢様って誰だよ……
誰か分からない上、お嬢様になんて興味無い

というか、こんなに広い学園だったらお嬢様の1人や2人居そうだけどな
まぁ、金持ちなのかどうかは知らんが、興味を持てというのが無理だ』

『惚けた答えを……
貴様がお嬢様に何かを言ったんだろう！
悲しそうな顔をなされて……お嬢様に何をした！？』

『だから、そのお嬢様が分からないと言っているだろうがお前は俺に何を期待しているんだ？』

『巫山戯るな！』

『づっ……』

『避けもしないとは……何を考えているんですか？
それに、それぐらいの傷でしたら魔法で治せるでしょう』

『お前……魔法だか何だか知らないが
こんな事をして、許されるとでも思ってるのか？』

『お嬢様に手を出しておいて何をヌケヌケと……
いつまでそんな演技をしているつもりですか』

『この仕返しは……必ずしてやるからな
怨みは……何倍にしてでも必ず返してやる
お嬢様は分からんが、絶対に見つけ出して潰してやる
お前を……絶対に……絶望へ……死ねよ、お前』

『木乃香お嬢様……』

ふん、桜咲か
そしてお嬢様は近衛……なるほどね
つまり……俺は怨みを持っても良いよな？

さて、完全に風邪をひいてるが授業はしないとな
風邪薬にマスクを買って……その前に栄養剤か？
左腕は痛みで使えないし、当分は使用不可能だな。

この左腕……使えるのか？
無理だよなぁ……暫くは包帯生活になるのか
どうやって生活しよう……腕が片方使えないぐらいだったらまだ大丈夫だが
仕事効率はかなり落ちる、毎日残業覚悟必須だな。

本当、この始末をどうしてくれようか？
桜咲には怨みを晴らす必要が有るとして
近衛はどうしてくれようか……

桜咲の言葉から、近衛は関わっていないだろうな
……八つ当たりになるから近衛に当たりたくないしだが、そうなると桜咲にはどう怨みを晴らすか……
近衛を利用するのが手っ取り早いし。

暫くは動かないでおくか
動くにはまだ早い
……楽しみにしておけよ、桜咲。

さて、とりあえず帰るか

念の為に買っておいた包帯が役に立つ時が来るとはな……
巻き込まれないで過ごしたかった……無理なのは分かっているけど
メインキャラ達のクラスに入れられるとは思わなかったからな。

まったく、最悪の初日だった
それにしても腹が減ったな……
昨日の朝から何も食ってないし。

部屋に戻ったら風呂に入って……左腕をどうする？
包帯を巻いて袋にでも隠して濡れないようにするか
朝飯は……料理は難しいし、買って食うしか無いな。

熱も計らないと……
とりあえず歩けるし、そこまで酷くはないだろうな
４０度にまで上がっていなかったらまだ大丈夫だ
咳も嘔も止まらないけど。

……そういえばこの時間はまだ電車は動いていなかったな
この体調で歩くのは辛いが……仕方無い
他に方法が無いんだし、もう嫌だ……この学園。

……
……
……

つ、疲れた！
部屋に帰るだけで１時間以上！
この体調ではもう……っと、いかんいかん！
寝たら確実に遅刻する！

起きてないと
とりあえず風呂に入って、包帯を変えて、飯を食って
準備して……はぁ、何で俺がこんな目に。

……風呂と着替えに包帯の換え終了
左腕が使えないって本当に不便だな
どれだけ左腕が重要か分かった。

風呂と着替えと包帯だけで1時間以上……
今の時間はもう7時か
そろそろ出ないと間に合わないな。

荷物が重い……いや、重く感じる
左腕の切られた場所二の腕で良かった
肩から斬られていたら本当に全く使えなかったしな
鞄は肩掛けに変えるか……左肩に掛ければ大丈夫だろう。

それにしても、我ながら汚い包帯の巻き方だな
学園に着いたら保健室に行って巻き直そう、包帯も有るだろうし
風邪薬はその時に勝手に漁るか。

休めとか言われそうだが……まだ大丈夫のはず
倒れる状態でもないから休む必要は無い
悪化はするかもしれんが……

今日は火曜日……週末までまだ先だな
それまで保つかどうか……無理だ、うん
栄養剤……多めに買っておくか。

……

……
……

「おはようございます」

「あぁ、おはよう堅守先生」

包帯はスーツの下に隠れてるから誰も気付かない
左腕はあまり動かせないがな
……病院に行く時間が無いのが問題だ。

片手で苦戦しながらも仕事を片付けていく
なかなか……大変だな。

それにしても高畑教員、瀬流彦教員
もう俺に起こった事は知ってるんだろう？
こっちをチラチラと見るな、鬱陶しい。

ま、これで俺は魔法関係者じゃないと思われただろうな
監視するような視線が普通の視線に変わってるし
これで俺も楽できるものだ……やっと部屋で普通に過ごせる。

「堅守先生、さっきから動きがぎこちないですが……どうしたのですかな？
頭が揺れていますし、左腕があまり動いていないようですが」

正直に言うか？
……面倒だし、適当に誤魔化すか。

「少し寝不足なので眠いだけです

左腕も大丈夫です、若干重い感じがするだけですので」

微妙な顔をされたが、大丈夫というならという感じで戻った
事情を知っているであろう、高畑教員と瀬流彦教員は複雑そうな顔をしている
色々と気になっているんだろうな、教えてやるつもりは無いが。

さて、今の内に教室に行っておくか
あんまり遅く行ったらまた罠とか作られていそうだ
余裕を持って行き、向こうで準備をしよう。

「高畑教員、俺は先に教室に行きますね」

「構わないけど、どうしてだい？」

「遅く教室に向かうと罠を作られていそうなので」

高畑教員は何も言わず、無言を通した
俺はそんな高畑教員を無視し、職員室を出た。

２－Ａの教室に向かう
気が進まないが……仕方がない、仕事だから
煩いだろうが、罠は無いだけマシだろう。

そして教室に入った瞬間、上から水が降ってきた
……なるほど、仕掛けている最中だったか。

「あ、堅守先生」

教室が静まる。

……あ、プリントが濡れて使い物にならなくなってる？
仕方無い、取りに戻るしか無いか。

「あ、あの……」

持ってきた荷物を教壇に置き
プリントはゴミ箱に捨てる
また印刷しないと……紙代だってタダじゃないんだぞ。

そしてそのまま教室を出る
濡れて気持ち悪いが、今日は最初から着替えを持ってきている
濡れた時の為じゃなく、包帯から血が出てきてスーツに滲んできた時の為だったんだがな。

さっさと職員室に戻って着替えをとってこないとな
濡れたからか、斬られた傷に痛みが走る
だが痛みは押し潰し、無表情を装って歩く
擦れ違う生徒達が濡れている俺を不思議そうに見ているが無視だ。

再び職員室
自分の机に向かい、着替えを持って出ていこうとする。

「堅守先生、ちょっと待ってください！
どうしてそんなに濡れているんですか！？」

「油断しました」

それだけ言い、出て行く
早く着替えたい……は、はっくしゅ！

嘘が……それより頭がフラフラする。

あ、マスク買うの忘れてた
保健室に有るか？

視点　刹那

……よく今日も来れましたね
昨日の今日で、怪我も完治していないでしょうに
休んだり遅刻してくると思っていたんですけど……

それにしても、殆ど無表情だった
傷は痛まないのか？
単に我慢しているだけなのか、ちょっと分からないな。

それより、教室が騒がしい……

「また無視された……」

「堅守先生が捨てたのは……プリントだ！
よっしゃ、これで数学の時間が楽になる！」

「プリントが無いから自習とかになれば良いのにねー」

昨日の事で思ったのは、生真面目過ぎる人
そんな人がプリントの予備を用意していないとは思えないけど
もし自習になったら楽だなぁ……私はそこまで頭が良くないし。

「そのプリントがもし課題だったらさ
誰かが宿題を忘れても課題無しかな？」

……宿題、忘れてた
今からでもしておいた方がいいかな？

「それだったら助かるねー
実は私、忘れちゃってさー！」

「あ、私もー」

「私も！」

しなくても良さそう
何人忘れてるんだろう？

「宿題忘れた人ー！」

「「「「「「「「「はーい！」」」」」」」」」

手を上げたのはひーふーみー……8人
私を含めて9人が宿題忘れか。

「ふみか、みそら、もっと凄い罠を作るよ！
絶対に無視できない罠を仕掛けてやる！」

「乗ったぁ！
絶対に何か言わせてやる！」

「わ、私はもう良いですぅ……
歓迎会の時の堅守先生、怖かったですし」

あぁ……アレか
相当怒りが溜まっていたみたいで
何か言えと言われたから言った、という感じ？

「あー、アレは酷かったよね
女の子に向かって気持ち悪いだよ？
こーんな可愛いのにさー」

「ハルナ、自分で言っては世話無いですよ」

「ゆえ～……あんまり言ったら駄目だよ
ハルナだって可愛いんだから～」

「あーん、ありがとーのどかー！
私の可愛さを分かってくれないゆえとは大違いよー！」

早乙女さんは確かに美人だと思いますが……
その早乙女さんに向かって気持ち悪いとは
どういう美的感覚をしているんでしょうか？

罠を再び仕掛ける鳴滝さん達
堅守先生の悪口を言うノリの良い人達
どうでも良さそうな人も数名。

それにしても……お嬢様、遅いですね
普段だったらもう来ているはずなんですが
寝坊でもしたんでしょうか？

視点　木乃香

「どうして起こしてくれなかったのよこのかー！」

「ご、ごめんアスナ！
ちょう寝坊してもうた！」

昨日、帰ってから考え過ぎて夜中になってもうた！
そんで起きるのに失敗して遅刻寸前や！
早う行って堅守先生に謝る予定もパーや！

「で、このかは何を悩んでるの？」

「う……やっぱ分かる？」

「何年一緒に居ると思ってるのよ
ちゃっちゃと話しちゃいなさい」

こういう時、アスナの明るさは助かるわ
ちょっと気が楽になったわ。

「あんな、堅守先生の事なんやけど……」

「まだあの先生の事で悩んでるの？」

だって仕方無いやん……悪いのはウチらなんやから

気にするな言う方が無理やて
……あんまり関係無いかもしれへんけど。

「だって、明らかにウチらが悪いんよ？
罠に引っかけて、怒らせて、また罠に引っかけて
お仕事有るのに強引に歓迎会に連れてきたんやで？
確かに悪口とかは酷い思うたけど……9割以上はウチらが悪いんや
なのにみんな堅守先生の事ばっか悪い言うて……」

「あー……そう言われて見ると確かにそうね
明らかに私達が悪いわよね……」

「歓迎会ん時、ウチが堅守先生を呼びに行ったやろ？
そん時な、新田先生がちょっと教えてくれてん
凄く真面目な人で、授業が遅れるからって理由で濡れたまま午前の授業をしてんて
お昼に着替えに行って、お昼ご飯も食べられへんかったらしいんよ」

「……ちょっと待って
それってつまり……朝から何も食べてないの!?」

「断言できへんけど、多分……
ほんでな、新田先生が言うにはウチらが堅守先生の事嫌ってる思うてるらしいんよ
別にみんな嫌いやから罠仕掛けたんやないやろ？
でもそう思っとるらしいし……」

嫌そうな顔をするアスナ
いくらあまり興味が無くても勘違いされるのは嫌みたいや。

「しかも、仕事中やからって歓迎会を断ったやろ？
なのに無理矢理参加させて……ウチ、完全に嫌われたんやと思うわ
だからあんな悪口言ったんやと思う
アスナ、どうしたらええんやろう？」

「わ、私に訊かれても……
みんなで謝ればきっと許してくれるわよ
というか、他に方法なんて思い浮かばないし」

そう……やんな
みんなにちゃんと説明して、みんなで謝ろう！
許してくれへんくても、頑張って謝ればきっと大丈夫や！
……多分！

そんな感じに走って、なんとか教室に入る
教室に入った瞬間にチャイムが鳴った
ふぅ……間に合って良かったわ。

自分の席に座った時、ドアが開いた
その瞬間、堅守先生の頭に水が……あぇ？

無視して進んできた堅守先生のお腹にボールが飛んできて直撃
頭に金盥が直撃……ボーンって音が鳴り響いた
これってもしかして……罠やんな？

視点　瑞貴

これは……拙い
ただでさえ風邪で腹が痛いのにボールが直撃
しかも頭も痛いのに金盥……元々フラフラしてるだけに更にヤバイ
さ……寒い！

そしてこの爆笑……頭に響く
頭が物理的にも、病気的にも、精神的にも痛い
締め付けられるみたいだ……

プリントをコピーし直して遅れて来た結果がこれか！
いくらなんでも、この仕打ちは酷いだろ！
お前ら、俺に対してここまでする程の怨みでも有るのか！？

そしてまた確認しているぞ……貴様ら
爆笑している奴、薄く笑っている奴、その他
その他に神楽坂と近衛が増えていたが……それだけ
寧ろ、爆笑している奴が増えているぐらいだ！

……いっつ！
濡れたから傷に染みる！
血が滲み出てこないと思いたいが……

それでも、無表情を貫く
こいつらを調子付かせたくない！
嫌な顔をすれば喜ぶような奴らだ
絶対に、弱みを見せてやるか！

「高畑教員は遅くなるらしいので俺が出席をとる」

学園長室に呼ばれていたからな

まったく……どれだけ俺に苦労を掛けさせるつもりなんだ？
あの糞爺も、高畑教員も！

しかし近衛、何が有ったんだ？
そんなに泣きそうな顔をして……俺は悪く無いだろ？
俺が何をしたんだか……

そして近衛が泣きそうな顔をしているから桜咲が睨んでくるし
だから、俺は悪く無いだろ？
また襲われたら嫌だが、俺はどうすれば良いのか分からん。

とにかく、出席が終わって連絡事項を伝えたら職員室に戻ろう
急いで戻って着替えて……最後の1着か
また濡らされたら拙いな。

それ以前に、俺の体力が保つかどうかも心配だ
2度も濡れて、頭も腹も痛い
寝たら起きれないだろうな……辛い。

「連絡事項は以上
教師が来るまで静かにしておく事」

最初は数学じゃないからな
2－Aの数学の授業は5時間目か……
それだけ時間が有ったら次の服は乾いているはず
また濡らされても大丈夫なよう、干しておかないとな。

教室から出る
……っと、今少し意識が飛んだか？
拙い、神経を尖らせておかないと意識が保てない

どうにかして眠気と収めないと……

いや、それよりも頭が揺れる……本格的に拙いかもしれんな
さすがに2度も濡れたのはヤバイか？
確実に悪化した……明日は、休まないと……駄目かな？

もう……少し、頑張れ俺
体が重い……立ってられない
ちょっと休もう、廊下で座りたくないが……少しだけ。

はぁ、はぁ……体が上手く動かん
体中の関節が痛いし、特に左腕の傷が痛い
頭がガンガンする、腹が締め付けられるみたいに痛い
どうやら……そうとう弱っていたらしいな。

緊張の糸が途切れたらこうなるのか
無理だ、立てない……意識も落ちるか
気絶……これで2回目……かな？

3話【弱みを見せたら負け】（後書き）

買収されるな楓！
このクラスだったらこの程度でも買収されると思います
きっとそうです。

刹那が……
強引で結構です、刹那だったらきっとこれぐらいしてくれます
怪しいし、木乃香を悲しませたし、怪しいし、悲しませたし、悲しませたので
これならば刹那が動くには十分だと、作者は思います。

威嚇でも、刹那がこんなに簡単に人を斬るかな？
威嚇だからこそ、軽く斬ったんです
瑞貴が冷静そうなので、回避すると思っていたというのも有りますしかし、そんな考えだったので全く動けなかった瑞貴は未回避
軽く斬るつもりだったのに少し深く斬ってしまいました。

刹那が冷たすぎる……
初期の刹那ってこんな感じだと思うんです
単行本１２巻、１０７時間目
刹那ＶＳエヴァンジェリン戦のエヴァンジェリンの言葉より
「触れれば斬る、抜き身の刀の様な佇まいがあった」
との言葉を参考にしてかなり冷たい人間としています
修学旅行前の刹那は殆ど描写されていないので……
修学旅行以降の刹那好きの人は納得できないとは思いますが
……まぁ、作者はこんな感じだと思いました。

瑞貴がまた録音機なんて……いつの間に？

刹那の声が聞こえた瞬間です。

瑞貴が2日目に教室に入った時に「あ、あの……」と瑞貴を呼んだのは誰？
史伽です、いきなりの登場に驚いています
混乱していて中途半端になりました。

なんだか刹那の口調がぶれてる？
口調がイマイチ分かりません
暫くはぶれると思います
安定するまでどれぐらい掛かるか……

瑞貴、また罠に……
今の所、全ての罠に引っかかっています
体調不良なので回避する元気も無く
更に頭も回っていないので回避は無理です。

そういえば瑞貴、何か食べたの？
結局何も食べていません
既に２４時間以上、断食状態です
倒れた原因の１つはそれだったりします。

ツイッター、あまり活動はしていません
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
なのにどうして毎回張るんだか……

4話【利用価値は有るか無いか】（前書き）

……なんだろうこの長さは？
何やら凄く長くなってしまいました。

執筆中に中途半端に寝たりして眠い作者です
こんな調子で大丈夫なんでしょうか？
思ったよりもかなり時間が掛かりました。

そういえば感想の1つに有ったのですが
遊戯王世界の通貨とネギま！世界の通貨が同じなのはどうなんだろう？
という事でした
どちらも日本で円仕様なのでほぼ共通という事にしておいてください
作者の中ではそうでした、脳内設定
そういう事は説明しておけって話ですね、はい、ごめんなさい。

それにしても駆け足で内容が進みますね……
こんなので大丈夫なんでしょうか？
大きな矛盾は無いと思いたいです。

とりあえず、気が乗らなかったり案が全く浮かばなかったりしない限り
できるだけ1週間以内の更新と目標としています
さすがに2作品同時で毎日更新をする程時間に余裕は無いので。

4話【利用価値は有るか無いか】

視点　???

ふぁ……眠い
屋上にでも行って寝よう……ん？

あそこで寝てるのは堅守瑞貴か？
教師の癖にこんな場所で寝るとは、何を考えているのやら
しかし、その割には顔が赤いし呼吸が荒いな
さっき見た時から体調が悪そうだったが……

これは……風邪か？
試しに額を触ってみると熱い……熱は有る
昨日、濡れたまま授業なんてするから当然だな。

……そういえば爺が言っていたな
堅守瑞貴は怪しいから少しで良いから警戒しておいてくれと
こんな糞真面目な人間を怪しむ必要は無さそうだが。

ふむ……このままサボってもいいんだが
どうせだ、こいつを理由にするか
それなら誰も文句は言うまい。

一応、爺には連絡しておくか
介抱という理由なら何も言えまい
それに、ついでに監視もしてやるんだ
感謝されども、文句を言われる筋合いは無いな。

爺の番号は……これか
携帯電話は便利だが、機械はイマイチ分からんな
確かこれで……通話っと。

『何か用かの？』

「病人を発見した、貴様が警戒していた堅守瑞貴だ
保健室に連れて行くついでに監視もしておいてやろう」

『病人じゃと？
どうかしたのかの？』

「なんだ、知らなかったのか？
こいつ、かなりの高熱だぞ、４０度ぐらいは有るんじゃないか？
呼吸は荒いし、相当疲れているぞ
それに血の臭いだ……怪我でもしてるんじゃないか？」

教室では水に濡れたせいか、臭いはあまり感じ無かったがな
今ではそれなりに強い臭いだ
このままだと出血が酷くて……最悪死ぬぞ？
熱も合わさって相当危険な状態だな。

『怪我はわしも知っておるよ
しかし熱は知らなかったの……』

「ま、そういう訳だ
そういう理由なんで私は公休扱いにしてくれよ
態々先生を助けるんだからな」

『それが目的か……仕方無いのぉ
（まぁ、もうあまり警戒する必要は無さそうなんじゃがな
でも勝手にしてくれると言ってくれているんじゃし
そのまま監視はしてもらおうかの、わしらの負担も減るし）』

爺との通話を切る
さて、保健室まで連れて行くか……ってあまり重くないな
成人の男だったらもう少し重いと思うんだが
出血で軽くなるにしても……まぁどうでもいいか。

そういえばこいつの授業はどうするんだ？
誰か他の教師が向かったのだと思うが
私が気にする事じゃないか。

そう思っていると前から走ってきた
あれは……誰だったかな？

「はぁ、はぁ……ご、ごめんねエヴァンジェリンさん」

「誰だ貴様は？」

「えぇ！？
僕、一応教師なんですけど……
瀬流彦ですよ、瀬流彦、覚えていませんか？」

……あぁ、居たなそんな奴。

「学園長にすぐに向かえと言われてね
堅守先生は……エヴァンジェリンさんに任せろって
代わりに堅守先生の荷物を回収して授業をしてこいってさ

僕はこの時間、空いているし」

「荷物だったらそこら辺に落ちてるぞ
プリントは……クラスの連中が仕掛けた罠で濡れて使い物にならなくなってるがな」

「うわ、本当だ！
堅守先生、頑張って作ってたのになぁ……
確か別のクラスの分のプリントは職員室に有ったからそれを使ってじゃあ、僕は急ぐからこれで……」

そう言って荷物を持ち、逃げるように去って行く
……逃げるようにという事はあいつ、魔法先生か？
ま、大した事は無さそうだし、どうでも良いか。

……
……
……

保健室に保険の教師は……居ないか
まぁ、保健室なんてそんなに使う場所でもないしな。

さて……お楽しみの時間だ
犬歯は無くても、血は欲しいからな
傷の位置は……腕だな。

濡れているスーツを完全に脱がせて適当な場所に置く
そして白いシャツは赤い血で滲んでいた
これはこれは……まあまあの量だな。

シャツの袖を少し捲り、腕の包帯を取ると鋭い刃物で斬られたかのような傷跡
これは……刀か何かか？
だが、違う傷も有るみたいだが……スポーツとかで怪我でもしたか？

まぁそんな事はどうでも良い
魔力は少ないが、せっかくの血だ
量もそれなりだし、味わわせてもらおう。

腕から流れる血を舐める……不味い！

「ペッペッ！
なんだこの血の不味さは！
う……気持ち悪い」

しかもこの血……人間の血だけじゃない
他にも何か混じっているような味だ
動物とか、悪魔とか、妖怪とか、魔物の血じゃない
もっとこう……神聖な血、天使とか神の血か？

まさかこいつ、神の先祖返りか何かか？
神道に仕える者でも神聖な血は持てないというのに
しかし、人間である事に変わりは無い
神聖な血を持っているだけで、他は何一つ違いが無いのだから。

桜咲刹那のような半妖とも違う
こいつは後天的な変化か
まったく、せっかくの血が台無しだ。

しかし……血の臭いをいつまでもされていると飲みたくなる

不味いとは分かっているが、さすがに我慢するのは……
仕方無い、血の臭いを抑える程度に手当してやるか。

別に死なれる事自体はどうでもいいんだがな
この状況で死なれては私が殺したと勘違いされてしまう
そうなると面倒だからな、特別だ。

……やり方が分からん
面倒だな、消毒液を適当にぶっかけて包帯でいいか
消毒液の臭いで血の臭いも消えるだろうし。

消毒液を適当に……そら。

「い……づあぁ！」

「お、起きたか」

少しやり過ぎたか？
まぁ、起きたんだったら自分でするだろう。

「し、染みる！
何が起こって……って、お前はマクダウェル！
しかもここは……保健室！？」

「随分とテンションが高いな
それが素の状態か？」

「……素だよ、悪かったな
いたた、何で包帯を取られてるんだ？
しかもこの臭い……消毒液を思いっきり掛けただろ

染みて当然か、まったく……」

言いながら包帯を自分で巻いていく
片手でよくできるな。

「はぁ、しかも勝手にスーツを脱がせやがって
というかどうして脱がせたんだよ?
包帯も取られている理由が分からないし
それに頭はフラフラするし……これは風邪でか?」

愚痴りながらも何食わぬ顔でスーツを着るも、すぐに脱ぐ
スーツが濡れているのが気持ち悪かったらしい。

「お前な……仮にも生徒の前で着替えるか?
羞恥心というのが無いのか?」

「子供に見られて恥ずかしがる必要性は無いな
それより、俺は確か……あ、授業!」

私を子供扱いとは良い度胸だな
確かに体は子供だが、実際は600年以上も生きているんだぞ?

「もう1時間目は始まっている
貴様の授業は瀬流彦という奴が代わりにしているぞ
どうせだったら今日はずっと休め」

私も看病という名目でずっと休めるからな
しかも公休扱いだ、この手を逃す手は無い。

「そんな事、できるはずが無いだろう

今はまだ勤務時間中だ
ただでさえ休憩しているのに、誰が休めるか」

「熱も有る癖によく言う……
何だったら、私から爺に言ってやろうか？
堅守瑞貴は体調不良にて休みますって」

「当日に仕事放棄なんてできるはずが無いだろう
そういう事は遅くとも前日までにするものだ
はぁ……まだ新学期2日目なのに大失態だ」

真面目というか……変わった奴だな
そこまで気にする事でもあるまい？
今時、貴様ほど真面目な奴は居ないぞ。

「それより訊きたい事が有るんだが？」

「なんだマクダウェル
できるだけ授業に関する質問を頼む
後で勤務時間外にしてもらうつもりだが
一応今は勤務時間内だからな」

……どこまで真面目なんだか
本当に何者だ？

「先生自身への質問だが
祖先に何か、変わった存在がいるか？」

「……授業に関すると言ったはずだが？
まぁいい、少なくとも俺の記憶には存在しないな

普通の家系だ、それがどうかしたか？」

「いや、何でも無いさ」

ふん、惚けているわけではなさそうだな
となると寂れた一族だったのか？
例え分かったとしても、あんな不味い血は二度とご免だがな。

「はぁ……俺は職員室に戻る
瀬流彦教員に謝っておかないと」

「いや、このまま休んでおけ
この私が直々に看病してやろう」

「……エヴァンジェリン・A・K・マクダウェル
1年生の時から出席率は低く、成績も良くない
2年生になってからも、その傾向は相変わらずである」

それは私に関する情報か？
学園での、生徒の件で調べたか。

「学校には居るが、授業を出る事を嫌っている可能性が高い……と
俺が覚えているマクダウェルの簡単な情報だ
お前は単に、俺を理由にしてサボりたいだけだろ」

なるほど、爺が鋭いと言うだけの事は有るな
だがその鋭さは前情報を得て、推理する事からの鋭さ
つまりこいつは直感とかの鋭さではなく、思考力の高さからの鋭さか
私の口が悪いとはいえ、心配してという可能性も有るだろうに。

「ふ、だが貴様は私に借りが有る
態々廊下から運んで保健室まで連れてきてやったんだ
これぐらいは許せ」

「俺はお前に借りなんて無いな
寧ろ、それで返して貰ったぐらいだ」

私が借りを作っていた？
何を馬鹿な事を……

「今まで、お前達２－Ａの生徒が俺に何をしてきたか分かっているのか？
罠で濡らしたり、怪我をさせたりだ
おかげでスーツが駄目にはなっていないものの、状態が悪い
俺がどれだけ迷惑していると思っている」

「ふん、私が罠を仕掛けた証拠でも有るというのか？」

「はぁ……そういう問題じゃない
罠を仕掛けた奴も、黙って見ていた奴も同罪という事だ
連帯責任という言葉を知っているか？
お前らクラス全員、同罪なんだよ」

「だからどうした？
黙っていて何が悪い
態々貴様に教えてやる義理は無いな
当然、止めてやる義理もな」

「あのな……新任とはいえ、俺も教師だぞ
しようと思えばお前ら全員を停学処分にもできる

退学処分は難しいだろうがな
そうなると出席日数はどうなるかな？
出席日数が足りないと、卒業ができないだろう？」

「脅迫か？
安い脅しだな、私には通用せんぞ」

元々、私は卒業できないし。

「まったく……
これだからお前みたいにすぐに開き直る奴は困る
何を言っても、何をしても屁理屈をごねるからな」

諦めたか、根性無しが
言っている事は正論な部分は多いが
それが私に通用すると思ったら大間違いだ。

「何にせよ、俺はもう職員室に向かう
お前も教室に戻れよ、マクダウェル」

堅守瑞貴は蹌踉めきながらも立ち上がり、保健室から出て行く
ふん、私が授業に出るとでも思っているのか？
どうせ保健室なんだし、このままここで寝させてもらおうかな。

視点　瑞貴

まったく……マクダウェルめ

傷口の包帯が取られ、傷や血が見えていたという事は……
俺の血は飲まれた可能性が高いな。

前の世界で天使の生き血を飲んでるが……
吸血鬼という、悪魔系統の奴がそいつの血を飲んで大丈夫なのか？
以前からそれが原因で悪魔にはやたらと嫌われていたし……

そういえば言われたっけなぁ……
天使の生き血を飲み過ぎたせいで血が神聖化しているって
体は人間なのに血だけは半人半神みたいになっているとか
……まぁ、だからといって何も変化は無いがな、嬉しい事に。

それより、本格的に体が拙い
幸い、寝てから１０分程度で起きられた
１時間目の授業は間に合わないが、２時間目の授業は出ないと
今の内に準備をして……はぁ。

職員室に入ると、当然だが何人かの教師が俺に気付く
あとこっち来るな、鬱陶しいから。

「大丈夫ですか堅守先生
倒れたと聞きましたけど……」

「大丈夫ですよ、源教員
それより無駄な時間を過ごしました
次の時間は間に合わせないと」

机に座り、少しでも仕事を進める
服はまだ濡れてるが……あ、着替え忘れてた
風邪のせいか、頭が働かないな。

「その事だけど、今日は休むように学園長から言われてるわよ
仕事は他の人達がするから、帰って休みなさい
勤務時間からも外されているみたいだし」

「外されてる？
なら俺は休まないと駄目なんですか？」

「そうね、サービス残業は駄目よ」

そうか……それなら仕方無いか
休めるんだから休ませてもらおう……
もう外されているんだったら仕方無いよな。

「そう、外されているんだから仕方無い
仕方無い……んだよな」

「（そこまで真面目にならなくても……）
そうよ、仕方無いの
だから帰って休みなさい」

そうか、仕方無いか……
仕方無いので荷物を纏め、職員室から出て行く。

「1人で大丈夫ですか？
辛いのなら送りますよ」

「いえ、そこまでの迷惑は……
まだ大丈夫です、部屋に帰るぐらいだったらできます」

少し休んだし、大丈夫だ
きっと大丈夫のはず……うん、そうだ。

職員室から出て、学園からも出る
頭がふらふらする……急いで帰ろう。

そういえば何も食ってなかったな
でも、買い物とかする気力も無いし
部屋に帰っても殆ど何も無いし……もういいや。

部屋に戻ったら寝よう
もう寝よう……寝る為に早く帰ろう。

視点　エヴァンジェリン

ん……ふぁあ……んん
眠いが、今は何時だ？
……昼休みか。

「おはようございます、マスター
お昼ご飯は持ってきています
しかし、保健室での食事は……」

なんだ、いつの間に居たんだ茶々丸？
時間は昼休みが始まったぐらいだから今来たのか？

「分かってる、屋上にでも行くぞ

ふぁ……眠い」

保健室を出て、屋上への廊下を歩く
相変わらず騒がしい学園だ。

屋上へ向かっている時、意外な顔を見つけた
近衛木乃香に神楽坂明日菜？
昼飯も食わずに何を探しているんだか……

「あ、エヴァちゃん！
あんな、堅守先生知らん？」

……随分と馴れ馴れしい奴だな
殆ど会話をしないから知らなかったが
こいつらの頭の中で私はどういう人間になっているんだ？

「知らんな」

態々教えてやる必要は無い
何が目的かは知らんが、精々彷徨え。

「ほっかー……ありがとな！」

そういえば近衛木乃香と奴は知り合いとか言っていたな
少しだけしか話していないらしいが
知り合いがあんな状態になっている
しかも原因が自分達だと知ったら、どう思うかな？

「いや、待て近衛木乃香
暫く前の事だが、朝のＳＨＲの後に１度会ったぞ」

「え、ほんまなん!?」

思ったより食い付きが良いな
何か有ったか?
素直に教えてやる気力が失せてくる。

「廊下で熱を出して倒れてたぞ
腕も刀か何か、刃物で斬られていた痕が残っていたしな
誰かに襲われたんじゃないか?」

「斬られたって……」

「しかも熱まで?」

そうそう、そんな悲しそうな顔を見るのが楽しいんだ
あの傷跡はおそらく、桜咲刹那だろうな
近衛木乃香がと関わりが有る怪しい男なのだから
もしそれが近衛木乃香に知られたら……くくくくく。

「もしかしたら……誰か何か知ってるかもな
例えば……爺とか」

「お、おじいちゃん!?」

「あいつは学園長だぞ?
知っていても不思議じゃないと思うが?」

「ありがとなエヴァちゃん!
アスナ、行こ!」

「あ、うん！
ありがとねエヴァちゃん！」

……ちゃん付けで呼ぶな
ま、私は後で楽しませてもらおうかな
爺の反応が楽しみだ。

「マスター、よろしかったのですか？」

「何がだ？」

「一般人である2人を怪しい人物と会わせるような事をして」

「別に構わんだろう
魔法関係者だったら私の事を知っているはずだ
しかしあの男は私に会った時、怯えもしなかった
私の名前を知っていて怯えない魔法使いは居ないさ
となると、あの男は一般人である可能性が高い
元々私を知らなかったという可能性も有るが、低いだろうな」

何せ、私は魔法世界でも名が売れているぐらいだ
そして賞金６００万$、魔法関係者だったら親から学ぶはずだ
なまはげ扱いされているのは少々腹が立つがな。

「さて、屋上に行くぞ
少し腹が減った」

「はい、マスター」

あんな不味い血を飲んだんだ
口直しもしたかったしな……血じゃないが。

視点　木乃香

「おじ……学園長先生
２－Ａの近衛と神楽坂です
入ってもいいでしょーかー？」

エヴァちゃんに言われた通り、おじいちゃんの所に来たけど
これってええんかなぁ……
ただ質問する為だけに学園長に会うのって。

今回は必要な事やから許してな
次からは自重するから。

「このか？
まぁええじゃろ、入りなさい」

「失礼しますー」「失礼しまーす」

入ってみるとおじいちゃんはお仕事しとった
お昼ご飯は食べへんのかな？

「どうしたのじゃこのか？」

「あんな、堅守先生知らへん？

エヴァちゃん……ウチのクラスのエヴァンジェリンさんが言っとったんやけど
廊下で倒れて、熱が有って、しかも腕が刀みたいな刃物で斬られた痕が有ったって……」

なんでそんな事になっとんねん
しかも刀ってなんなん？
どうして斬られたりせんとあかんねん！

「（……エヴァンジェリン、わしに何か怨みが有るのかの？
絶対に嫌がらせじゃろ、そうじゃろ！
年寄りは大切にせんかい……あやつの方が年上じゃが）
あー……堅守君だったら帰ったぞい
そんな体調で相当無理しておったらしいからの」

やっぱ無理しとったんや……
もうあかん、絶対に許してくれへん。

「ど、どうしたんじゃこのか！
そんなに泣きそうな顔して！」

「だって、だってな……
ウチのクラスのみんなが堅守先生に罠仕掛けてんよ
熱出たんやって昨日濡れたまま授業したからやん、絶対
しかも腕斬られるって、誰がしたか知らんけどなんでそんな酷い事するん
今日の朝やって、また酷い罠仕掛けてんで
もう許してもらわれへん……絶対に嫌われてもうてるやん」

「（そ、そんな事に……

高畑君からは簡単にしか聞いとらんかったけど濡れるような罠じゃったのか
刹那君が堅守君を襲ったとは言えんしのぉ……
しかも熱の有る時に追い打ちの罠とは、みんな元気じゃの）」

「しかもな、先に罠仕掛けて怒らせたウチらが悪いのに
クラスのみんなは堅守先生の悪口ばっか言うねん
酷いと思わへん？」

「ま、まぁそうじゃの……
そんなに気になるんじゃったら放課後にでも堅守君の部屋に行ってみるかの？
プライベートの時間じゃったら普通の青年じゃし
場所は教員用の部屋じゃ、場所は知っておるよな？」

初めて会うた時は普通やったもんな
……看病したら少しは許してくれるやろうか？
邪魔言われて追い出されるかもしれへんけど。

「学園長先生
堅守先生の腕の傷ってどうなってるんですか？
病院とか、行ったんですか？」

「それがのぉ
夜中に事が起こったらしくての
朝は授業じゃし、時間が無いからって行っとらんようじゃ
職員室の先生から聞いた話では少し違和感は有ったが気付かなかったらしいしの
そんなに深い傷じゃないはずじゃぞい
少なくとも、自力で手当ができる程度じゃ、心配せんでも大丈夫じ

ゃろう」

なんか、随分詳しない？
それに軽い気がするんやけど……
刀みたいな刃物で傷つけられたんやで？
なんでそんなに冷静なん！？

「堅守先生を傷付けた犯人は誰なん？」

「それはちょっと分からんのぉ（刹那君じゃが）
堅守君は何も言わんし……探しようが無いのじゃ
一応、ＳＨＲで全員に早期帰宅を促すつもりじゃ
今わしらにできる事はこれぐらいじゃの」

早く犯人が捕まってくれるといいんやけど……
堅守先生、大丈夫やろうか？
うん、放課後絶対に行こう！

「ところでこのか、お昼は食べたかの？」

「え？
まだ食べとらへんよ」

いきなりなんやろう？

「そろそろ戻って食べんと時間が無くなるぞい
お昼休みが終わるまで後２０分ぐらいじゃぞ」

そういえばずっと歩き回っとったな
時間が無くなるのも当たり前や。

「えぇ！？
このか、早くお昼食べよう！」

「うん、そうやな
お仕事中にごめんなおじいちゃん
またなー！」

「うむ、廊下はあまり走らんようにの
（ふぅ、なんとか誤魔化せたの
このまま何も無く終われればいいんじゃが……大丈夫じゃろ）」

学園長室から出て、教室に戻る
時間あんま無いなぁ……

「それでこのか、放課後はどうするの？」

「放課後、堅守先生の部屋に行ってみるえ
先生が使ってる寮やし、場所も知っとる
部屋はすぐに見つかるやろうし、大丈夫やろ」

「そうかもしれないけどさ
さっき学園長先生が言ってたじゃん
危ない人が居るから早く帰るようにって」

「大丈夫やって
様子を見て謝ったらすぐに帰るつもりやし」

動かれへんかったらちょっとお世話しようかなぁ？
ウチにできる事は料理とかお片付けぐらいやけど。

「でも危ないんじゃない？
私も一緒に行こうか？」

「大丈夫やて
あんま遅くならんから」

ほんまは怖いけど
ウチの勝手にアスナを巻き込みたない
危ないんやから……

……
……
……

お昼休みが終わる
お昼ご飯はなんとか間に合ったわ
ちょい危なかったけど。

そして5時間目
ほんまなら堅守先生の数学の時間
でも来たのは高畑先生やった。

「えー……堅守先生は諸事情により来れなくなった
だからこの時間は僕が担当するよ
どんな状況かあまり分からないから、このプリントをしてくれ」

渡された数学のプリント
これって復習用のプリントやんな？
という事は……今日使う予定やったプリントかな？

なんや妙に難しさが偏っとるな
かなり簡単な問題も有れば逆に凄く難しい問題も有る
クラスの成績にある程度合わせられた感じや
やっぱり最初の実力を計るって言ってた事やろうか？

うーん……難しいのってウチでも難しいわ
宿題も復習もしてきたけど
それでもこれは……大変やなぁ。

授業終了のチャイムが鳴った
なんとか9割の問題は終わらせたけど
残り1割は無理やったわぁ……

「さて、プリントを回収するよ」

プリントが回収されて、やっと終わった
頭が疲れたぁ……時々意地悪な問題も有ったしなぁ
周りを見てみると半分以上が疲れとる。

「アスナ～、どうやったぁ？」

「……2割ぐらい」

それだけできたら良い方やない？
宿題をしていたからそれだけできたんやと思うわ
10人ぐらいは意味不明って感じになっとるし
多分、宿題を忘れてきたんやろうな。

「堅守先生が来なくなった事情って何だろうね？」

「さぁ？
朝は居たんだから何か有ったのかな？」
そういえば高畑先生、理由言わんかったな
言った方がいいやろうか？

「まぁいいじゃん
堅守先生の昨日の授業さ、空気が重かったし！」
む、さすがにそれは聞き捨てならんよ裕奈
その原因のウチらが言ったらあかん事や！

「うんうん
やっぱり授業も楽しくしたいじゃん」

「それはウチも思う
でも、ちょっと怒ってたんだと思うんやけど」

「まぁ、濡れたままだったからね
やっぱり怒っていたのかな？」

亜子とアキラはちょっと予想できとる
けど裕奈とまきちゃんはあかん、なんも分かっとらん
やっぱ、言った方がいいやんな？

「ちょっとみんな！
あんまり堅守先生の悪口ばっか言うんじゃないわよ！」
あ、アスナ？

「ど……どうしたのさアスナ？
そんなに怒っちゃって」

あかん、ウチより先にアスナが怒った
おじいちゃんの話、アスナも聞いとったからなぁ。

「堅守先生は昨日の罠で濡れたから熱だして倒れたのよ！
全部私達が悪いのに、巫山戯んじゃないわよ！」

「え、堅守先生熱だしてたの！？」

みんな驚いとる、そりゃ朝は来たもんな
なのに熱出して倒れたって言ってもあまり信じられへんか。

「じゃあさ、みんなでお見舞いに行こうか！」

「そうだね！
みんなで行けば絶対にすぐによくなるって！」

「それはあかん！」

あ……つい言ってもうた
珍しくウチが大声なんて出したからみんなビックリしとる
教室も静かになってもうたし……

「えっと……あんな？
堅守先生、ウチらの事を絶対に嫌っとるんよ
それに病気やのに大勢で押しかけたら迷惑やん」

「私達が嫌われるって……
別にそんなに悪い事してないよね？」

な、な、な……悪い事しとらん？

「あれぐらい子供の悪戯だよねー」

「笑って許す事が大人じゃない？」

「あ、私もそう思うー」

子供の悪戯？　笑って許すのが大人？
みんな何を言っとるん？

「なんかこのか、堅守先生ばっか気にしてるよね
もしかして……惚れた？」

「なぁ！？」

し、しもうた！
違う言い忘れた！

「お、やっぱりそうなのかぁ
だったら堅守先生の悪口とか駄目だねー」

「あー……だから堅守先生を庇う事ばかり言ってたのかぁ」

「ち、ちが、そうやない！　ウチは別に堅守先生が好きなんちゃう！
ただ、ウチらのクラスが悪いのに堅守先生が悪者にされてるんが納得できひんだけやねん！」

「いーっていーって隠さなくても！
私はこのかの恋を応援するからさー！」

「だからちゃうって！
ウチの話を聞いてや！」

「大丈夫、絶対にくっつけてあげるからさ！」

あかん、誰もウチの話を聞いとらん！
この状況はどないしたらええんや！？

「そういえばさっきこのかが言ってたっけ？
大勢で堅守先生の所に行ったら迷惑だって
ならこのかが行ってくればいいんじゃない？
それなら大勢じゃないし、このかも堅守先生と2人っきり！」

「「「「「おぉ～～～」」」」」

「ウチは堅守先生は好きやないって言っとるやろ！」

「ごめんねこのか、堅守先生の悪口言って」

「ちゃんと反省するから許してー」

「悪戯の事はちゃんと謝るからさ」

「「「鳴滝姉妹と美空が！」」」

「僕達だけ！？」「酷いです！」「あんたらも謝れチア3人組！」

あ、あかん……無理や
ウチにはこの状況を収める事はできへん。

「……わ・る・い・の・は・全員よーーーーー！
というか、３人の罠を知ってて止めなかった、私やこのかも含めて
全員が悪いの！
だからみんなで謝る！　分かった！？」

さすがアスナや
勢いと大声でみんな黙って頷いとる
こういう所はほんまに羨ましいわぁ。

「まぁ……アスナさんの言う通りですわね
３人の悪戯を止めもせずに笑って見ていた私達も悪いですわ
今回の件はさすがに反省が必要ですね」

いんちょの言葉も有って、みんながちゃんと反省し始めた
良かった……これで少しは安心や
後は堅守先生に謝るだけ、問題は反省の心がそれまで残っとればいい
いんやけど……

「まぁ……とりあえずウチが様子を見に行くわ
別に堅守先生が好きとかやないけど
一応普通に知り合いやし、見てくるわ」

「お願いしますわ、このかさん」

ふぅ……これで少しはマシになったわ
ウチへの攻撃も収まったし。

「ありがとなアスナ」

「いいのよ
私も我慢できなくなったし」

それでも助かったわ
放課後、お見舞いやし何か持っていった方がええやんな？
何持ってこう……お、チャイムや
6時間目の時間やし、後で考えよ！

……

……

……

授業全部終わったぁ！
最後に高畑先生がちょい話してるわ。

「後、実はこの辺りで刃物を持った通り魔が発生したという話が有る
全員、気をつけて帰る事
そしてあまり遅くならないように注意するように」

おじいちゃんが言っていた事やな
堅守先生……大丈夫やろうか？

挨拶も終わり、みんな解散し始める
高畑先生も言っとったし、早う行って帰ろう
何か有ったらみんな心配するやろうし。

「このかさん、大丈夫なんですの？

高畑先生が通り魔が居るという話ですが……」

「大丈夫やて
できるだけ早う帰るつもりやから
あんまり遅うなっても迷惑やし」

心配そうにしてくれるいんちょ
嬉しいけど、やっぱり心配なんよ
だからウチは行くんや。

みんなと別れて教師用の寮に向かう
でも実はちょい怖いねんなぁ……あんま人通らんし
使ってるのが先生ばっかやから帰んの遅いし。

管理人さんに訊いて、部屋の場所を教えてもらう
3階の端やから……ここやな。

チャイムを押してちょっと待つ
返事無いなぁ、開いてたりして？
……冗談のつもりやったんやけど開いた、なんでやねん。

「し、失礼しますー……堅守先生は居ますやろかー？」

返事無い……居ないんやろか？
でもあんな真面目そうやったのに？
鍵を閉め忘れるなんて有るやろうか？

悪いとは思ったけど、心配半分好奇心半分で入ってまう
あかんとは分かってるけど……なぁ？

部屋に入ってみると……整理されて綺麗な部屋や
堅守先生は……ベッドで寝とる
ちょっと顔を覗いてみるとあんまり大丈夫そうやない顔や
呼吸も荒いし、凄く辛そうや……

な、なんかした方がええやろか？
そうや！　お粥作ろう！
勝手に入って、勝手に作るのは悪い思うけど
これぐらいやったら許して……多分許してくれるやんな？

台所も綺麗や……材料とかの食材も有る
堅守先生、自炊できるんやろうか？

そんな事を考えながら料理や
お粥なんて料理言えるか分からへんけど。

……卵、使こうてええやろうか？
卵粥も美味しい思うし
うーん……ここは使おうやないか！
悪かったんやったら後で謝る！

味付けは……あんま濃くない方がええやんな
病人やし、こんなもんやろか？
……こんなもんやな。

うーん、ＯＫや
あとは堅守先生を起こすだけ
怒られへんとええなぁ……

「堅守先生、起きてーな」

「……ん～？
あー……なんだ、レイか」

レイて誰？
ウチに似とるんやろうか？

「ウチは木乃香やで
卵粥作ったから食べてくれへん？」

「……近衛？」

堅守先生は無言で携帯電話を取りだして……携帯電話？
ど、どこに電話するつもりなん？

「あ、けいさ……」

「ちょっと待ってな！」

い、いきなり警察呼ぶ！？
少しは話聞いてからにしてくれへん！？

驚いてつい、携帯電話を奪ってもうた
なんか相手さんから声が聞こえるけど
ウチにはどうしようも無いやん！

「迷惑になるだろうが、返せ
間違いだと言ってやるから」

どうしようかと思ったけど、諦めて返す

堅守先生は溜め息を吐いた……ごめんなさい。

「あ、すみません
知り合いの子供が勝手に入り込んだだけみたいです
それを勘違いして……申し訳ありませんでした、失礼します」

警察の人に謝って電話を切る
嘘は言っとらんけど……うん
どう考えてもウチが悪いわな。

「で、何の用だ?
風邪が移るからできるだけ早い帰宅を勧める」

「う、うん
心配やったから……その、卵粥作ってん
勝手に台所とか使ったけど……」

無言……やっぱ勝手に使ったのは悪かったやろうか?
そう思っててんけど、なんや少し警戒しとる?
普通の卵粥やと思うんやけど。

「……味見はしたよな?」

「し、失礼ちゃう!?
ちゃんとしとるし、普通に美味しいと思うで!」

「なら貰おう
昨日の朝から何も食ってなかったからな
腹が減ってたんだ」

「昨日の朝から！？
なんでご飯食べへんの！？」

「……まぁ、今は仕事中じゃないから言うが
お前らの罠でスーツが濡れただろ？
昼休みは着替えをしにここに帰ったんだ
だから昼飯を食う時間が足りなかった
夜は疲れてて何も食わずに寝た
朝は時間が足りなくなった」

「ご、ごめんなさい！
クラスのみんながあんな事して！
みんなちゃんと反省して謝るから！
だから許したって！」

あれ？　この言い方やとウチは反省してないみたいやない？
言い方間違えた！

「考えておく
……まぁ、悪く無いな、これ」

「ほんま！？」

「少し塩が少ないがな
病人に出すんだったらこんなものだろう
個人の好みの違いというのも有るから誤差の範疇内だ
１０点満点で９点をやろう」

ふぅ……良かった、不味い言われなくて……
もし不味い言われたら落ち込んでしまうわ。

「……堅守先生、腕は大丈夫なん？」

「腕？
何の事だ？」

「惚けるんは無しにしてや
エヴァちゃんが言っとったし、おじいちゃんも認めたえ
刃物で斬られたって事」

「学園長がともかく、マクダウェルが？
（血の臭いでも嗅がれたか……
だが何故マクダウェルが近衛に教えた？
彼女にメリットは何一つ無いはず
となると可能性は……爺への嫌がらせ？）」

なんや考え込まれた
そういえば何でエヴァちゃんが傷の事知っとったんやろう？
……まぁええか。

「知られているなら隠す必要は無いな
傷は少し広いが深くない
動かせば痛みは走るが、仕事にあまり支障は無い」

「犯人とか、知らへんの？」

「知ってる」

「知ってるん！？
だったらおじいちゃんに言って捕まえてもらおうや！

警察とか！」

「無駄だ、絶対に捕まらん
例え捕まってもすぐに解放される」

「え……なんでなん？」

だって刃物やで？
しかも捕まらないだけやなくて
捕まっても解放される？

「教えてやる義理は無いな
知りたいんだったら自分で調べな
案外すぐ近くにヒントは転がってるかもよ？
ごちそうさまっと、悪くなかったぞ」

そう言って食器を横に置く
だけど、視線は違う場所を見てた
どこを見とるんやろう？

……あれ？
もしかして犯人の話、誤魔化された？

「おかわり、作ろか？」

「いや、遠慮しておく
それより、俺はまた寝させてもらうぞ
まだまだ体力は回復してないしな
近衛もさっさと帰れ、遅くなったらルームメイトが心配するだろ」

堅守先生は布団を被り、寝てしまう
病気でもウチの事、心配してくれてんのかな？

後片付けで食器を洗って、堅守先生の所に戻る
寝息が聞こえてくるし、もう寝とるみたいや。

ふと、ウチの視界にスーツが映った
ちゃんとたたまな皺になっちゃうやん
仕方無いなぁ……あれ、重い？

ポケットになんか入って……カセットテープ？
なんやろう、これ？

聞いたら駄目やと思うけど、好奇心には勝てんかった
そのテープを巻き戻し、再生してみる。

『桜咲、銃刀法違反という法律は知っているか？
刃渡り１５ｃｍ以上の刀は法律違反だ
そういう物を持つ場合、その許可証が必要
そもそも、１８歳未満の者は許可さえ与えられない
さて、警察署に行こうか、桜咲
弁解も何もしてやらないから安心して少年院で暮らせ』

桜咲って……せっちゃん！？
しかも声って堅守先生やん！
んでもって銃刀法違反って……どうなってるん！？

『……詳しいですね』

ほんまにせっちゃんの声や……

何で堅守先生と話してるんやろう？
何の話をしとるん？

『それとも、その刀で俺を殺すのか？
しかし日本の警察はそれなりに強いからな
刀傷という事ぐらいすぐに判明するだろう
となると持っている者の検索が始まる
お前の身元が割れるのは時間の問題だろうな
殺人なんてしたらすぐに捕まるだろうし、止めておいた方が良い
それでも俺を殺したいのなら話は別だがな』

殺すって……しかも刀？
せっちゃん、刀を持っとるん？
まさか……まさかせっちゃん……

『まだ殺したりするつもりはありません
質問に答えてくれさえすれば』

『脅迫罪っと
刀を向けて質問というのは脅迫だぞ
お前はそんな事も知らないのか？』

脅迫罪……刀を持って脅す
何をしとんねん、せっちゃん！

『この状況でも怯まず、怯えもしないとは……やはり裏の者か！
貴様はどこの者だ！　素直に白状しないと怪我をするぞ！』

『裏ってなんだよ……そもそもどこの者って何さ？
白状と言われても何を言えと？

俺としてはお前が何者でどこの者だって感じなんだが？』

裏って何やろ？
堅守先生も知らへんみたいやし
なんにせっちゃんは凄い勢いや。

『惚けるつもりか？』

『惚けるも何も、何の話だよ
俺は早く帰って寝たいんだ、邪魔をするな
そもそも、こんな夜遅くまで残って何をしている
お前も早く帰って宿題をして寝ろ
もし忘れたら課題だと言ったはずだ
そもそも、銃刀法違反に脅迫罪で警察に連れて行くぞ
嫌だったらさっさと俺を帰らせろ、眠いんだよ』

眠い……という事はやっぱり夜やんな？
帰るって事は仕事帰りやろうか？

『では質問を変えよう
お嬢様に何をした？』

お嬢様……せっちゃんがお嬢様って言ったらウチの事やろか？
別にウチ、堅守先生に何もされてへんねんけど
何を勘違いしたんやろう？

『お嬢様って誰だよ……
誰か分からない上、お嬢様になんて興味無い
というか、こんなに広い学園だったらお嬢様の1人や2人居そうだけどな

まぁ、金持ちなのかどうかは知らんが、興味を持てというのが無理だ』

『惚けた答えを……
貴様がお嬢様に何かを言ったんだろう！
悲しそうな顔をなされて……お嬢様に何をした！？』

『だから、そのお嬢様が分からないと言っているだろうがお前は俺に何を期待しているんだ？』

『巫山戯るな！』

『づっ……』

堅守先生！？
せっちゃん、何をしたんや！

『避けもしないとは……何を考えているんですか？
それに、それぐらいの傷でしたら魔法で治せるでしょう』

魔法？　魔法ってあの漫画とかおとぎ話に出てくる？
ゲームとか、そういうんに出てくる魔法やろか？
せっちゃんの言い方やと、現実に魔法が有る？

『お前……魔法だか何だか知らないが
こんな事をして、許されるとでも思ってるのか？』

何かが地面に落ちる音……堅守先生が倒れた？
しかもこんな辛そうな声を出して……

『お嬢様に手を出しておいて何をヌケヌケと……
いつまでそんな演技をしているつもりですか』

演技？　演技やて？
何を言っとるんやせっちゃんは！？
それに、ウチは何もされとらへんのに！
何でそんな酷い事してん！？

『この仕返しは……必ずしてやるからな
怨みは……何倍にしてでも必ず返してやる
お嬢様は分からんが、絶対に見つけ出して潰してやる
お前を……絶対に……絶望へ……死ねよ、お前』

堅守先生、凄く怒っとる……心から怨んでる
訳も解らずに襲われて、刀で斬られたら当たり前や
そんで……ウチにも怨むんも当然やな
せっちゃんが勝手にしたんは分かってる
やけど動いた理由がウチやねんから……

は……ははは
何もせんでも、ウチは嫌われとったんやな
なんやねん……ウチなんも悪く無いやん
どうしてウチが怨まれなあかんねん……

『木乃香お嬢様……』

せっちゃん、ウチ、せっちゃんが分からへん
今までもそうやったん？
ウチが悲しい顔をしたら、こんな事してきたん？
そやったらウチ……ウチ！

「近衛」

「ヒッ！
か、堅守先生……」

起きとったん？
なんで……寝てたやん！

「聴いたなら分かるだろ？
俺はもう桜咲に斬られたくないんだよ
今回は知らなかったし、勝手に入ったから仕方無いが
もう二度と来るな、雑談私語もしない
魔法とか裏はよく分からんが、下手に調べない事だな
俺みたいに記憶を消されても知らんぞ」

「記憶を……消された？」

「あぁ、そのテープでは分からないだろうがな
俺の怨みの言葉の後、桜咲がお前を呼ぶまでに時間が有るだろう？
多分、その間に記憶操作をされた
おかげさまでこのテープを聴くまで相当混乱していたさ
怪我もしているわ、噴水公園で倒れたまま放置されているわと
罠で濡れただけじゃなく、それもこの熱の原因だと思うね」

せっちゃん……酷い……酷すぎるわ！
ウチが悲しそうな顔をしただけで何しとんねん！？
ウチはそんなんされても、全く嬉しない！

「このテープの事は誰にも言うなよ？

桜咲は当然として、学園長にもだ
あの爺の事、どうせ魔法とか裏とかに関係しているだろうしな
また記憶操作されるのは遠慮願いたいのでな
それだけならまだしも、本当に殺されたいとも思わん」

おじいちゃんが……そやからやねんな？
犯人は捕まらない、捕まってもすぐに解放される言うんは
身内やから……やからやねんな！

「もう帰れ近衛、そしてもう来るな
桜咲の事だ、今お前がこの部屋に居るだけでも腸が煮えくり返ってるかもしれん
そして俺は無視して生活しろ、このテープの事も忘れて、普通に生きれば良い
人生、何の事件も無く生きるのが最も幸せなんだからな……本当に」

それはそうかもしれん
うんん、きっとそうなんや
でも、でも……だからって！

「ウチ、忘れるなんて無理や
せっちゃんがあんな酷い事したのに、見て見ぬフリなんて嫌や！
原因はウチなのに、堅守先生は何も悪うないのに！」

「桜咲に対して何もするなよ？
俺がこの事を知っている事に勘付かれたら危険なんだ
また記憶を消されるか、殺されるか……
絶対とは言えんが、可能性が無いとは言えない
俺は頭を弄られるのも嫌だし、まだ生きていたいからな」

「うん、せっちゃんには何も言わへん
できるだけ変わらへんようにする
やから……償いはさせてくれへん？」

「償い？
俺としては関わらないでくれる方が助かるんだがな」

痛い……心がめっちゃ痛い
関わらないでほしい……この言葉が胸に刺さる
でも我慢せなあかん、原因はウチなんやから
だからウチは……償わなあかん。

「ウチにできる事、何でも言ってぇな
ご飯だって作るし、お掃除もする
荷物を持て言われたら持つし
やから……辛い事言わんといて……」

「（……こいつ、こんなに責任感が強かったのか？
誤算だった……完全に突き放すつもりだったんだが
このまま突き放してもいいんだが……爺の孫
そして桜咲がお嬢様と慕う……慕っているのか分からんが
とにかく、利用価値は有る、最悪人質にもできるし
リスクも大きいが、リターンも大きいかもしれない
だが、利用するにはまだ時期が早い、早すぎる
……いや、近衛は利用するべきだな、桜咲の為に
やっぱり仕返しは……数倍返しが基本だよな？）」

何か……何か言って！
やっぱり嫌われとるからやろうか……

「好きにしろ
だが、桜咲を許すつもりは無い」

「そんな事言わへんし、言われへん
そりゃ……許してほしい思う気持ちは有るねん
だけど勘違いで怪我させて、風邪の原因にもなって
謝ってないし、許してなんて無理や」

余りにも図々し過ぎるんは分かっとる
それに……今のせっちゃんと仲良うする自信も無い
会った瞬間、睨んだりしてしまいそで自分が怖い。

「は……くしゅ！」

「あ……ご、ごめんな堅守先生
いつまでも居たら寝られへんもんな
すぐに帰るから」

「風邪も移ったらいかんしな
今日はもう帰れ近衛
今度こそ俺は寝るから」

「うん、分かったわ
堅守先生、体が治るまで働いたらあかんよ？
明日も学校休んで、ちゃんと体休めてな？」

「……分かってる
さすがにこれ以上無理してまた倒れたくない
まぁ2、3日で仕事には戻るつもりだが」

「あかん、完治するまで働くの禁止や
風邪は治りかけの油断した時が危ないねん
だからちゃんと休まなあかん
今週ずっと休む、約束してぇな」

堅守先生は凄く嫌そうな顔でウチを見る
真面目な堅守先生に酷い事言ってると思う
だけど、あんまり無理してほしない
腕だって……仕事に影響するやろうし。

「おじちゃんにはウチから言っとく
今日、堅守先生ん所に行ったらどうや言うたんおじいちゃんやし
多分ウチに堅守先生の容体を看させる為やと思うねん
ウチは今週は休んだ良いと思うた
やからきっと休ませてもらえるはずや」

断言は全くできへんけど
しかも殆ど口から出任せやし
あんましたないけど、学園長の孫の立場を利用する
なんやウチ、凄く悪い子になった気分や。

「はぁ……強引に休まされそうだな
分かった分かった、今週は休む
無理に説得しようとしなくて良いからな?
俺としては、できるだけ早く仕事に戻りたいとも思ってるし」

「うん!
大丈夫、任せといてぇな!
なら堅守先生、またなぁ!」

「気をつけて帰れよ」

ウチは立ち上がって玄関に向かう
でもふと気がついた。

「あ、鍵……」

「ちゃんと閉めとく
気にするな」

そう言って堅守先生は立ち上がって玄関まで来る
ちょっと蹌踉めいたけど、一応歩けとる
頭がフラフラしてて凄く心配やけど……

「じゃあ、おやすみなさい堅守先生」

「ああ、じゃあな」

堅守先生の部屋から出て、ドアを閉める
鍵が掛かった音が聞こえた
玄関に耳を当てて、中の音が聞こえるか確かめてみる。

……聞こえた
すっごい咳しとる……我慢しとったんかな?
平気そうやったけど、やっぱ無理してたんやと思う
居座ってごめんなさい……

……今日はもう帰ろう
考えるんは後で、部屋でしよう
今は帰る、頭が混乱しとるし

帰って寝る前にでも整理しよ。

そういえば堅守先生、ウチの事どう思っとるんやろう？
嫌いやろか？　普通やろか？　怒っとるやろか？　苦手やろか？
会いたないやろか？　話したくないやろか？　迷惑やろか？
やっぱそんなん嫌や、せやから許してもらえるよに頑張ろ！

4話【利用価値は有るか無いか】（後書き）

瑞貴の血が天使とか神聖とかどういう事？
遊戯王のカード、天使の生き血のカードを使用したので
実体化したカードの効果、天使の生き血を文字通り飲みました
何度何度も使用し、血を飲み過ぎたせいか、そういう事に……
なお、本気禁止制限決闘本編ではまだそれは起こっていません
先に予定している事の１つですので……ネタバレですね。

瑞貴はエヴァンジェリンが怖くないの？
あまり興味が有りません
吸血鬼の知り合いが遊戯王世界に居るので気になりませんし
……あのモンスターの世界後に幼女を怖がれというのも無理が有りますけど。

悪魔に嫌われてるって？
未登場ネタバレ設定です
とりあえず、まだ登場していません
あんまり出し過ぎると予想されちゃうんですけどね
……まぁ、できないように頑張ります、多分。

体に影響は無いの？
全く有りません
血が神聖を帯びているだけなので
身体能力が上がる、魔力が……などの影響は０です。

木乃香って、瑞貴の事をどう思っているの？
教師以上の感情はありません。

レイって誰？
遊戯王ＧＸの登場キャラ、早乙女レイです
色々と有って同じ部屋に住んでいました
なお、年齢は木乃香達より下です
ちょっと関係無いんですが、瑞貴のファーストキスの相手です
レイに不意打ちで奪われました。

瑞貴は木乃香のお粥で何を警戒していたの？
遊戯王世界で不味いお粥を食べさせられた事が有るので
それでお粥に反応し、少し警戒していました。

木乃香ってこんなキャラだっけ？
……それを言われるとちょっと困ります
作者は木乃香は責任感は強いと思っているので
なのでこんな形に……予定とちょっと違うのは何故？
予定では二度と来るなで終わったはずなんですが……

ツイッター、２時間の睡眠
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
……めっちゃ眠いです。

5話【裏の痛み】（前書き）

……ご都合主義乙！　という奴です、多分
所で乙って使い方は合っているんですかね？
滅多にも使わないので分からないんですけど。

タイトルが色々と語ってくれています
段々と木乃香がメインヒロイン化している謎
別にヒロインにするつもりは無かったんですけどね……
やっぱり一般人で魔法才能で家系で護衛ですかね？
苛めるのが楽しくて仕方がないです。

……ちょっとやり過ぎたかな？

5話【裏の痛み】

視点　瑞貴

あー……朝か
腕はズキズキと痛むが、まだマシだ
頭は……相変わらずフラフラするな。

「あ、堅守先生起きたん？」

……ん？
俺は確か1人暮らしだったな
だから俺以外の声が聞こえるはずが無いんだが……
何故この部屋に居る、近衛！

「朝ご飯できとるよ？」

俺は無言で携帯電話を取り出す
電話を掛ける相手は当然……

「待ってえな！
また警察に連絡するんは止めてぇ！」

「警察じゃない
学園長だ、孫娘にどういう教育を施したのかを知りたくてな
ついでに実家にも連絡するか
実家ではどんな教育をしていたのか、興味が湧いた」

「もっとあかん！
そんな事したら怒られる！」

「俺が怒るという選択肢は無いのか？
まぁ、冗談はこれで終わっておくとして
なんの……な……はっくしゅ！
……何の用だ？」

やっぱりそう治らないか
嘘は近衛の方を向いてしなかったぞ
してやって風邪を移すのもと思ったが……さすがにしない。

「だって堅守先生、熱有るし
大変やろ思て朝ご飯作りに来てん
もしかして迷惑やった？」

いや、助かる事は助かるんだが……
というか今は……6時半？
随分と早い時間じゃないか？

「助かるから何も言わんが……
いや、その前にお前、どうやって入った？」

「管理人さんに言って
堅守先生が熱出してるから看病したい言うたら開けてくれたで
あ、ちゃんと学校は行くから大丈夫や
朝ご飯作って、お昼のお弁当作っとくだけやから」

……何が近衛を変えたんだ？
桜咲と近衛の様子から知り合いだったとは思うが

それにしても……まぁ、何でもいいか。

まだ体は怠いし、助かる事に変わりは無い
……桜咲にまた絡まれないといいんだがな
原因はアイツだから何も言えないんはずだが。

「とりあえず、ほら」

「へ？
わ、わ、わ……鍵？」

「どうせ何を言っても来るんだろ？
管理人にも迷惑だし、それを使え
俺の体が治ったら返してもらうからな」

鍵を投げ渡したら慌てながらなんとか受け取る近衛
俺の言葉を聞き、何故か嬉しそうな顔をする
こいつの考えている事が分からん……

「なら、明日も来てえぇ？」

「嫌と言ったらどうするんだ？
それでも勝手に来る癖に……好きにしろ」

こういう奴は絶対に折れない
いや、折る事ができないとは言わないが……
それでも苦労するし面倒だ
だったら最初から許可した方が楽だ、色々と。

「……うん！

好きにする！」

何が嬉しいんだか……もしかして勘違いしている？
確かに、近衛の事はそこまで嫌っていない
まだ頭がクラスでもマシだからだ。

だが、それはクラスで比べてというだけ
どう考えても近衛の頭はおかしい
普通、病気とはいえ異性の部屋に平気で入って来るか？
こいつもどこかおかしい、絶対にそうだ。

それとも、罪悪感とかを少しでも軽くしたいからか
責任感が強いというのも損な性格だな
あまり気にしなかったら楽だろうに……

「朝ご飯できたえー」

頭は重いが、ベッドから下りる
立つと……頭が揺れるが、歩ける
少しは回復しているだけマシか……

テーブル、1人だから小さいのしか買ってないんだがな
というか近衛、お前もここで食うのか？

「近衛、お前もここで食うのか？」

「あかん？」

そんな小首を傾げられてもなぁ……
顔や態度はそう見えないが、泣きそうな目をするな。

「駄目とは言わん
しかし神楽坂はいいのか？
同室のはずだ」

確かそうだったはず
クラス生徒は調べられる範囲は全員調べているし
誰がどこに住んで、誰と住んでいるかも知ってる
さすがに全部覚えられたとは言えんがな。

「なんで知っとるん？
まぁええけど、ちゃんとアスナには言って来とるし
それにアスナの分の朝ご飯も作ってきたえ
だからなんも問題無いねん」

お前がそう言うんだったらいいんだがな
神楽坂は作り置きの冷めた朝飯か……哀れな。

近衛の作った朝飯は……普通に良いな
食いやすいような軽い物が多いし
栄養面でも悪く無い。

「いただきます」「いただきます～」

……普通に美味いな
どこかの誰かさんとは大違いだ
誰がとは言わないが……

ん？　何をこっちも見てジッとしている
俺を見ていても何も変わらないぞ。

「あの……美味しい？」

あぁ、それが気になっていたのか
気にする事の程なのかが謎だが……

「悪くはない」

素直に褒める気にもなれんがな
美味い物を嘘でも不味いとは言いたくないし
だから嘘じゃなく、褒めない言葉を選ぶ。

……ここで褒めたらまた懐かれそうだし
面倒だからあんまり懐かないでほしいんだけどなぁ
俺が利用できる程度でいいんだし。

しかし、その割には嬉しそうな顔だな
褒めていないのに、何が嬉しいんだか
やっぱり近衛はよく分からん。

「（嫌そうな顔はしてないから不味くは無い思うたけど
凄く小さくやけど、口元が笑顔や
ほんまよう見ないと分からへんけど……よかったぁ）」

何故か頷き、食事を始める近衛
いったい何に納得したんだか……

それにしても、近衛は気を遣うのが上手いな
栄養面は良し、病人に対してだから量もそれなり
味は薄いが、こんなものだろう

しかも消化に良い物ばかり……何この家庭的な娘？

これであの爺と血が繋がっているのが信じられん
本当に箱入り娘なんだろうな
だから魔法も何も知らないのか……

しかし、それはそれでどうかと思うがな
確か爺は関東魔法協会の頭だったはず……頭蓋の形の意味じゃなく
その孫が何も知らない純粋な子供？

昨日の桜咲の言葉を聞いた時の反応からしても、魔法は知らないはず
そもそも、どうも護衛の存在さえ知らなかったんだろうな
不可思議だ……納得できん。

近衛は自分がどれ程危険な立場なのか自覚が無さそうだし
他の人間も、何故それが分からないんだ？
自衛手段も無く、どうやって身を守るのかも分からん
もし人質に取られたら……あいつらどうするんだ？

関西呪術協会の頭、近衛詠春
近衛木乃香の父親……なんだ、このトラブルしか呼びそうにない一家は？
というか、同じ家系の者が2つの対立組織を纏めるなんて不可能に決まってるだろう
どっちも甘いんだから、そんな事をしたら下の者が黙っているはずが無い。

そしてこの両組織の血筋が一般人？
絶対に狂ってる……というか敵対組織に娘を送るなよ
例え義理の父親が相手だからって、それって裏切りじゃないのか？

近衛木乃香を人質として魔法使いに売ったようなものだろ。

いつか、この家系で大きな事件が起こるだろうな、絶対に
俺としては、そうなって近衛の爺の人生が崩壊してくれたら嬉しいんだがな
もしそうなった場合、遠くから楽しく観察していよう
それが多分、俺が最も楽しめる方法だろうし。

「ごちそうさま」

考えている内も黙々と食い続け、食い終わる
少し休んだらまた寝よう、まだフラフラするし。

「お粗末様ー
食器は置いといてな
後で洗うから」

「別にそこまでしなくてもいいんだがな……
後で自分で洗うし」

「ええねん
ウチが勝手にしてるだけなんやから
いつもしとる事やしな、ごちそうさまや」

近衛も食い終わり、食器を流しに運ぶ
俺の分も一緒に持っていき、洗い物を始める
なんというか……普通に主婦だな、近衛。

……嫌な想像しちまった
新婚夫婦だなんて気持ち悪い……

近衛とだなんて絶対にご免だ
あんな面倒しか無い一家に入りたくない。

「ふう、おしまいや」

洗い物は溜めてなかったしな
2人分なんてすぐに終わるだろう
だから後ですると言ったんだが……

「堅守先生、これお弁当な
お昼にでも食べてぇな」

渡される弁当箱……自室で作ってきたのか？
用意が良いというか……何を考えているんだか
まぁ、貰える物は貰っておくが。

「ほならウチは学校やから
また後で来るな！」

「あー……もう好きにしろ
気をつけて行けよ」

主に桜咲とか爺とか
そいつらに何かを訊かれても答えないように
という意味を込めたが、通じたかは不明だ。

鍵をちゃんと掛けて出て行く近衛
さて、少し頭を整理したら寝るか。

……ん？

後で来る？

……

……

……

案の定、近衛は放課後にまた来た
弁当は食った、普通に美味かったが。

「近衛、まさか俺が治るまで毎日朝晩来るつもりか？」

「え、あかんの？」

……完全にそのつもりだったんだな
もういいや、最初に諦めたのは俺だし。

楽しそうに料理をするな……近衛は
俺は栄養補給とか、空腹を満たすだけなんだが
料理中だって何も考えて無いし。

「堅守先生ー、できたえー」

なんだろう、この惨めな気持ちは……
いくら病人とはいえ、子供に食事を作ってもらう
しかも自分はただただ寝ているだけ
……気分的に、あまりよくないな。

晩飯はうどんだった
味が薄いのは分かっていたから気にならない
醤油は塩分が多いからなぁ……

食後、すぐに近衛は帰ると思っていたんだが
なかなか帰らない……何か訊きたい事でも有るのか？

「堅守先生
ちょぉ訊きたい事が有るんやけど」

さて、これに答えるべきか？
答えないというのもいいんだが……
近衛は利用価値が高いし、引き入れておくべきか？
かなりのハイリスクだが、リターンもそれなりだから問題だ。

もしリターンが少なかったら即お断りなんだが
リスクを冒してでも手に入れる価値が、近衛には有るのが大問題だ
爺や桜咲への切り札にもなるし、有用性も高い
そもそも、組織頭２人の血筋なんだから才能も有りそうだ……

もし鍛えられたのなら壁にはなるかな？
例え盾にして近衛が死んだとしたら……そうだな
メリットとしては面倒事が減り、上手くすれば相手に全て押し付けられる
デメリットとしては爺とか桜咲に逆恨みをされる可能性が有るという所か？

ま、少なくとも今は普通の一般人
鍛えるもなにも、それ以前の問題だな。

「裏とか魔法ってなんなん？」

桜咲、お前が悪い

そして俺は記憶消去の手段を持っていない
つまり……教えるしか無いよな？

だが、タダで教えるつもりは無い
お前の考えている事ぐらいは教えてもらうぞ？
俺だって自分の命を削るような事をしているんだ
主に、危険度が上がるという意味で。

「知ってどうする？」

「……やっぱ堅守先生は知ってるんやね」

「あぁ、言ってなかったな
俺は裏に所属しているつもりは無いし
魔法を使えるわけじゃない
ただ、俺は知っているだけだ」

嘘は言っていない……はず
魔法道具やアーティファクトは魔法の道具なだけ
それ自体は魔法とは言えないのだから。

「せっちゃんがなんで堅守先生が裏やとか魔法とかに関係している
言うたんか分からへん
それでまた堅守先生が襲われるんやったら納得できへんねん
嫌やねん……せっちゃんが堅守先生を襲ったりするんも、堅守先生
が怪我するんも
でもウチは何も分からへんから何もできん……
もし……せっちゃんの言う通り、魔法で怪我を治せるんやったら堅
守先生の怪我を治したい
せっちゃんが堅守先生を襲った理由がウチやったら尚更……」

純粋だねぇ……ピュアって言うのかな？
自分が原因で、自分の知り合いが怪我をさせたから治してあげたい
理由は納得できないとは言えないが……足りないな。

「足りないな
裏を知り、魔法を知るにはその程度では足りない」

「何が足りへんの？」

「殺される覚悟が……だ」

息を呑む近衛
言葉が出ない、呼吸が止まる
頭が真っ白になって、何が何だか分からない
きっとそんな状態だろうな。

「殺される……覚悟？」

「近衛、お前は死ぬという感覚を味わった事が有るか？
事故でも、気絶でも、何でも良い」

「それは……無いけど」

だろうな
箱入り娘の護衛付き最上級お嬢様が知っているはずが無い
事故が起こりそうになっても、誰かが守るだろうし。

「桜咲の件で既にお前は知っているはずだ
俺は……裏の関係者か魔法使いの可能性が有るというだけで斬られた

本気で斬る気が無かったのは怪我の具合を見れば分かる
だが、もし本当に関係者だった場合……俺は殺されていたかもしれない」

完全に否定できないのが悲しい所
しかも、どうせ桜咲は殺人犯として扱われないだろう
魔法使い達の処置が甘すぎるからだ。

「ぁ……ぅ……」

「分かるか？
ただ知っているだけでも殺されていたかもしれない
それでもお前は……知識を得たいか？」

沈黙が続く……当然だな
生死に関わる事をそう簡単に決められるはずが無い。

「ウチ……ウチ……」

このままだと迷ったままだろうな
どうせだ、簡単に決められる手段を使うか
人間、極限状態に陥ると……なぁ？

「近衛」

「はひぃ！？」

「特別に手助けをしてやる
ありがたく思いな」

どの服のポケットからでも何故か出てくる仮契約カード
そこからカードを取り出す……

「来れ（アデアット）」

俺が言葉を発した瞬間、部屋が部屋ではなくなる
どこまでも続くこの謎の空間、ここはまさに……世界、と言えるだろう
無限抱擁……巨大な閉鎖空間結界を生み出すアーティファクト。

「こ、ここは……」

「簡単に言うと閉鎖空間だ
この特殊な道具を使って無限に広がる巨大な空間を作り出した
脱出手段は術者自身が術を解くか、術者を殺すかしか無い」

真っ白で何も無いこの空間
こんな場所に1人で放置されたら……発狂するな
なんとも恐ろしい道具だ……

「更に外からの干渉もできない
中からは術者をどうにかするしか無い
閉じ込められたらそこでアウトだな」

俺に魔力が有れば幻像とか作り出せたんだがな
そんな物が無い俺が相手と話すには本体が出ないといけない
中途半端にしか使えないな……

「さて、この世界で何をするかと言えば……来れ（アデアット）」

現れるは十六本の小刀
七首・十六串呂……桜咲のアーティファクトは気分的にあまり使いたくないがな。

「な、なにするつもりなん……」

「見ての通りだ
1度……死の体感をさせてやるよ」

言い終わると同時に、小刀を飛ばす
小刀は近衛の腕を……貫いた。

「いっ！　づぁあああああ！！！
い、痛い……痛い痛い痛いーーー！！！」

小刀を近衛の腕から抜く
近衛は貫かれた腕を押さえ、泣き出している
まともに痛みを感じた事も無いだろうし、泣いて当然だ。

「来れ（アデアット）」

東風ノ檜扇……近衛自身のアーティファクト
外傷完全治癒ができるアーティファクト
ただし、効果は3分以内という……強力だが欠陥アイテムだな。

「痛いか？
まぁ安心しろ、すぐに治してやるから
氣吹戸大祓（いぶきどのおおはらへ）　高天原爾神留坐（たかまがはらにかむづまります）
神漏伎神漏彌命以（かむろきかむろみのみことをもちて）　皇神等前爾白久（すめがみたちのまえにまうさく）
苦患吾友乎（くるしみうれふわがともを）　護恵比幸給閉止（まもりめぐまひさきはへたまへと）

藤原朝臣近衛木乃香能（ふじはらのあそみこのえこのかの）　生魂乎宇豆乃幣帛爾（いくむすびをうづのみてぐらに）
備奉事乎諸聞食（そなへたてまつることをもろもろきこしめせ）」

「かっ……は」

傷が一気に塞がる
しかし、瞬間的に傷が塞がったから一瞬だけ感覚がおかしくなった
だろうな
痛覚とかの神経が混乱したんだろう、すぐに落ち着くはずだ。

「あ……痛……ない？」

「どうだ、死の体感には程遠いが……大怪我をした気分は？
怖かっただろう？　痛かっただろう？
恐ろしかっただろう？　逃げ出したかっただろう？
だがこの程度でも序の口の世界が……裏の世界だ」

多分な、俺は完全に裏の人間じゃないから分からないが
まぁ……漫画でもこれぐらいの傷は普通に有ったと思うし
だとしたら本当に軽い傷だろうな、腕を貫かれるぐらい。

……俺は絶対にご免だがな
誰が自分から怪我をしたがるかよ
必要が無いのに怪我はしたくないね。

「これが……裏の世界？」

「極々一部だがな
こんな痛い、辛い想いをしてまで知りたいか？
更に辛い未来が待っているかもしれない

それでも……お前は望むか？」

信用など無い
俺と近衛は会ってからまだ１０日程度
しかも会話をしたのは初日と、この２日ぐらい
そんな俺を信用しろという方が無理だ。

俺も近衛を信用などしていない
近衛は単なる利用できる人間、それ以上もそれ以下も無い
そしてこの行動は桜咲へ怨みを果たす為の前準備に過ぎない。

もう１つは暇潰し、盾の入手
俺を守る為に動く人材が欲しい
だから立場的な盾として……近衛、お前は欲しい
仲が良ければ爺も桜咲もそう手出しはしないはずだし。

「堅守先生は……死の体感をした事が有るん？」

「有るぞ、何回か
あの意識が遠のいていくような……気絶とはまた違う感覚
自分が奈落に落ちていく、消えていく己の消失
何もかもが溢れていく……喪失感
それら全てを覚えている、あの感覚はもう味わいたくないね」

知らなかったとはいえ、我ながらよく自分からあの感覚を受け入れたものだ
それ以降もなかなか……本当によく死ななかったものだ
死んだような感覚は有ったとはいえな。

「ま、裏に関わったからといって死ぬとは限らない

その証拠に学園長はあの歳でも生きているからな
死は例え話だ、日常より遙かに危険だと知らせてやった
それは分かるだろう？」

黙って頷く近衛
物分かりの良い子は嫌いじゃないぞ
俺が楽で助かるからな。

「最後にもう1個
堅守先生は裏に関わって、後悔しとらんの？」

後悔だと？
そんなの決まっている。

「後悔しか無い
俺は本来、極々普通の生活をしたかったからだ
魔法使いの家系に生まれ、それでも魔法を知らずに平穏と暮らしてきた
そんなお前が羨ましいよ……俺もそうなれたかもしれないんだからな」

本来の……本当に元の世界での話だがな
世界を移動した時点で既に平穏とはかけ離れている
どうして俺がこんな目に……はぁ。

「ごめんな堅守先生
ほんまにもう1個だけ
後悔して……何か手に入れられた？」

手に入れられた物？

俺が手に入れられた物か……

「……非日常かな？
少なくとも、俺が求めた日常ではなくなった
良い事も有れば、悪い事も有った
悪い事が圧倒的に多かったとはいえ……な」

って、駄目だろ俺
近衛を引き入れようとしているのに
どうして悪い事ばかり教えているんだ？

ま、その上で裏を選んだのなら……それはそれで構わん
決めるのは近衛だ、自分で選んだ道は自分で進むんだな
俺は切欠を作り、道標を与えているだけ
どう進むかは……お前次第だ。

「質問タイムはこれで終わりだ、さぁ選べ近衛
忘れられない痛みを覚えながらも平和な日常を選ぶか
永遠に戻れない、裏という名の非日常を選ぶか
何だったら両方を選んでもいいぞ？
その場合は精神が耐えられるか分からないが」

「精神が？」

「なんだ、分からないのか？
平和な日常から一瞬で騒動の非日常に変わる
それが何度も繰り返される……耐えられるか？
己の中で2つの顔を持ち、それを入れ替えながら毎日を過ごすんだぞ？
下手すれば人格分裂に陥って多重人格者になるかもしれない

毎日が頭の混乱との戦い、どれだけ辛いと思う？
だから俺は表を選ぶか、裏を選ぶかと問いている
両方を選んだらどうなるか分からないからな」

本当、どうなるんだろうかね？
俺はご免だね……混乱する
仕方無く俺は裏を選んだ……その為の道具が有るから
もし無ければどんな手段を使ってでも表になる為に動いたけどな。

沈黙の時間が続く
それはとても長く感じた
体感時間は数十分……実際は数分だろうか？
近衛自身には数時間にも感じたかもしれんが。

「……決めたで、堅守先生」

「へぇ……どうするんだ？」

どちらを選ぶか楽しみだ
表を選んだらこいつ、捨てよう
二度と話しかけないようにして。

「ウチは……裏の世界を知る
知ったからには逃げられへん事が分かったから
そんでおじいちゃんやせっちゃんに言うねん
ウチはもう……守られるだけの子供やないって」

独り立ちをしたい……という事かな？
そんなに守られるだけの状態が嫌だったのか
それとも自分がどれだけ無知だったのを思い知ったか

何にせよ、近衛は俺の手に落ちたぞ……爺に桜咲。

「そうか……ようこそ、死と暴力が支配する裏の世界へ
記念に裏世界の知識とお前の現状、世界を教えてやろう」

「死と暴力……うんん、自分で選んだんや
怖いけど……怖いけど逃げたらあかん！
お願いします、堅守先生！」

あらら、覚悟できちゃってるな
脅し過ぎたか？
まぁ……あれだけ脅しても裏を選んだんだ
痛みも感じたし、かなり考えたんだろうな
なら覚悟も少しはできてるか。

「いいだろう
だが……」

「なんなん？」

「俺の体が治ってからでいいか？
さすがにちょっと動き過ぎた……」

強気に振る舞っていたが、頭が痛いんだよな……
見た目は平気そうにしているが、そう見えるだけ
実際はかなり無理をしている……

「だ、大丈夫なん！？」

「……とりあえず無限抱擁を解除しておこう

このまま俺が倒れたら……起きるまで近衛が取り残される事になるし」

「えぇぇ！？」

無限抱擁を解除する
辺りは元の場所……つまり俺の部屋に戻った。

「ふわぁ……ほんまに違う場所に居ったんやね」

「この場所でできる事じゃないからな
叫び声は当然外まで聞こえるし」

「あ……」

ガタガタと震え出す近衛
仕方無いか……少し前まで本当に普通の女の子だったんだからなだからこそ強引な手段を使ったんだが。

こうなったら元に戻るまでが長いんだよなぁ……
手っ取り早く戻す手段は有るけど、あまり使いたく無い
懐かれるのが分かってるし……好意を持たれるし
……好意を持たれた方が好都合じゃないか？
となれば決まりだな、俺の保身の為、精々利用されてくれ。

「ん……あ」

抱きしめ、頭を撫でてやる
これって吊り橋効果みたいな感じかな？
それとも恐ろしい想いをさせて優しくするギャップか？

効果的だよな……これ、だから嫌なんだが。

「悪かったな、強引な手段を使って
もうあんな事はしないから安心しろ」

「……うん」

体を震わせながらも頷く
しかし見えてるんだよな……真っ赤になった耳が
利用目的とはいえ、好意を刷り込むのは気が進まないな
俺が居なくなった後は普通の恋愛をしてほしいものだ
……普通と縁が残っているかは不明だがな。

近衛の震えが収まってきたから手を離す
少し寂しそうな顔をされたが、無視する。

「あ……あ、あれ？
なんで殆ど時間が進んどらんの？」

時計は無限抱擁を使った時から5分も経っていない
無限抱擁の中で確実に１０分以上は居たから当然の反応だな。

「仕掛けはこの砂時計、時の回廊だ
時間操作の魔法道具でな
範囲内の物の時間を操作できる
人間とて例外では無いがな」

無限抱擁と同時に召喚したんだよな
同時召喚ができるのはかなり助かる
時間の短縮になるからな。

「えっと……確か無限抱擁やっけ？
アレの効果を速くして空間内の速度を上げたって事？
やから外の時間があまり変わってないとか」

「よく分かったな、その通りだ
あの無限抱擁の中での時間は１０分以上だったが
外での時間はほんの１分程度だ」

時間操作ってのは随分強力な効果だからな
色々と悪用できそうだ。

例えばＥＶＡＮＧＥＬＩＮＥ'Ｓ　ＲＥＳＯＲＴ……マクダウェルが所持している別荘
１時間が１日となる別荘の周りだけ速度を上げればどうなるか
その１時間が数十分か、数分まで短縮できる
つまり、同じ１時間でも３回とか５回とか使用できるようになる……かもしれない。

「どうして態々そんな事を？」

「決まってるだろ、怪しまれない為だ
魔法道具を使うと魔力が僅かなりとも漏れ出すからな
使用時間を短くして少しでも警戒される可能性を下げるっと、もう戻すか、去れ（アベアット）」

アーティファクトをカードに戻す
場所を取らないから便利だな、これ。

「そのカードは？」

「またの機会にな
説明する事が多くなるから時間も掛かる
それよりもう帰れ……俺は眠いから寝る
魔法の事、誰にも絶対に話すなよ？」

「あ、うん、分かっとる
なんか色々とごめんな、堅守先生
明日も来るから、魔法の事たくさん教えてな」

「分かった分かった
もうさっさと帰れ、眠い」

何より疲れた……病気の状態でする事じゃなかったな
近衛も治ってから質問してこいよ……まったく
まぁ、昨日から気になっていたんだろうから仕方無いが。

「うん、堅守先生
おやすみなー」

部屋から出て鍵を閉める近衛
……ふぅ、疲れた
これからの事を色々と考えないとな
近衛の利用方法とか、桜咲のあしらい方とか。

仕掛けは上々
後は近衛が部屋に帰ってからかな？
それが終わったら寝るか。

視点　木乃香

「ただいまー」

「おかえりーこのか、堅守先生どうだった？
……って、目が赤いじゃない、どうしたの！？」

目が赤い？
……あ、そういえば泣いちゃったんやな。

「大丈夫やよー
目にゴミが入って擦っただけやから」

あんま信じとらんな、アスナ
でもごめん……言われへんのや
ウチ自身もまだ混乱しとるし。

「遅うなってごめんなアスナ
すぐにご飯作るから待っとって」

ちょう堅守先生と話しすぎて遅うなってしもうた
まだ頭がごっちゃごちゃしとるけど、アスナの晩ご飯を遅うするのもあかん。

「……このか、無理しなくてもいいのよ？」

無理？
アスナ、いきなりどうしたん？

「何が有ったかは知らないけどさ
なんかこのか、無理してるみたい」

無理なんてしとらん
怪我はもう治っとる、堅守先生が治してくれた
だから平気やし。

でもなんで……無理してないって言われへんのやろう？
一言言うだけでアスナは安心するのに
どうして……それだけが言われへんの？

「あ……あれ？
なんでウチ……」

なんで泣いて……どうしたんやろう？
別に辛い事なんて無いはずや。

「このか……」

「アスナ……ウチ、ウチ……ぐす
なんか止まらへんねん
分からへんけど、なんか止まらへんねん」

何で止まらへんの？
別に辛い事なんて無いはずや
色々と知ったけど、それだけのはずや！

「何が有ったか、私は分からないけど
でも……ちょっと話してみたら？

少しは楽になれるかもしれないわよ？」

あかん……話したらあかんねん
魔法の事とか、話したら駄目やねん。

「言えないんだったら言える所だけでいいからさ？
ちょっとでも良いから話してよ
私達、友達でしょ？」

「アスナ……アスナぁぁ！」

思いっきり泣いてまう
アスナに抱きついて、大きな声で
もう涙が全く止まらなくなってもうた。

「ウチ、何も知らんかってん！
何も知らんかったから、だからみんなウチを仲間外れにすんねん！
おじいちゃんも、せっちゃんも、ウチが何も知らんからぁ！」

「私はもっと分からないけど……よしよし」

泣きながらも、なんとか魔法の事とかは何も言わんかった
だけどそれ以外の事は殆ど言ってしまった気がする
おじいちゃんの事、せっちゃんの事、堅守先生の事
殆ど、アスナに言ってしもうた。

「ぐす……ごめん、アスナ
ウチの涙と鼻水で服汚してもうて……」

「あはは、気にしないで

それでえっと……」

「できれば……誰にも言わんとって
言ったら堅守先生に迷惑やから」

「……うん、分かった
でも桜咲さんが堅守先生を刀で斬っただなんて……
あんまり話した事は無いけど、そんな事を……酷い」

ウチ、そんな事も言ってもうたんか
なんだか恥ずかしなってきたわ
所々覚えとらんし。

「しかも理由がこのかを悲しい顔にさせたから?
余りにも酷い理由じゃない!
このかがお嬢様で、その護衛ってのは分かったけど
だからって限度が有るわよ!」

あ……もしかしてウチ、実家の事とかも話してもうたんか?
引かれたりされたないから話さんかってんけど、大丈夫そうやな
でも代わりにせっちゃんの評価がガタ落ちや。

「アスナ、気持ちは分からんでもないけど何もせんといてな?
ウチやってせっちゃんに色々と言いたいぐらいやねん
でも……言ったらあかんねん」

理由は言えへん……口止めされとるから
でも、これで納得してって言うんは虫が良すぎるんは分かっとる
だけど言ったらウチだけやなくて堅守先生の立場も危ない。

記憶の消去をせっちゃんがしたって言ってたし
もし記憶を覗く魔法が有るんやったら……堅守先生の事が知られてまう
そしたら……今度こそ殺されてしまうかもしれへん！

「ちょ、もう泣かないでよこのか！
大丈夫だから、絶対に誰にも言わないからさ
だから落ち着いてよ……ね？」

あかん、いつの間にかまた泣いてしもうてた
堅守先生に貫かれた腕の痛み……あの激痛は覚えとる
殺される時はもっと痛いんやろか？
何回も死ぬような体験をしとるって言ってたし……

あんな痛み、誰にもさせたない！
しかもウチのせいでまた堅守先生に怪我させるんなんて絶対に嫌や！
もしアスナが知ったらアスナまで危ない目に遭ってしまうかもしれん
ウチのせいで堅守先生だけやなくてアスナまで……想像したない！

「このか、もう寝よう？
嫌な事は忘れてさ」

忘れる……あかん、忘れたあかんねん
ウチが悪い事を忘れたらあかん
覚えて、そんでもう絶対にせんようにせな
だって今のウチにできる事はそれやけなんやから……

「忘れたらあかんねん……辛いけど
ウチが忘れたらまた誰か怪我してしまうかもしれへんねん
だからもうこんな事が無いように、自分でどうにかせんと」

「……そっか
私にできる事が有ったら言ってね！
できるだけ協力するからさ！」

アスナにできる事なんて殆ど無い
そんな事、アスナ自身だって分かってるはずや
でも……そんなアスナの気遣いが凄く嬉しかった。

「うん、ありがとなアスナ」

そん時、誰かからメールが来た
今このタイミングで？

「あ、メール
このかのよね？」

「うん……あ」

堅守先生からや
晩ご飯の前にアドレス交換したんやっけ
ちょっと前やのに、凄く前な気がするわ。

えっと……辛いのなら神楽坂と一緒に寝る事を勧める
精神的に参っている時、人間はネガティブになる傾向が有る
一緒に寝る事で安心感を得られ、落ち着く事ができる
怖い夢を観たいのなら1人で寝るがいい……かぁ。

ウチの行動、読まれとったんかな？
泣いた事とか、きっとばれとるんやろ

だからこんな事を……

「誰から？」

「ん、内緒や
それよりアスナ、今日は一緒に寝よ！」

「どうしたのよいきなり……」

「ええやん、偶には一緒に寝ようや」

「はいはい
このかは甘えん坊ね」

素直に堅守先生の言う事に従う
アスナに何も言われへん寂しさも有ったんやと思う
それに凄い痛い想いをしたから怖い夢やって観るかもしれへん
きっとそれも……予想してるんやろうなぁ。

なんや、アフターフォローも万全やん
堅守先生凄いなぁ……ウチの事を殆ど理解しとるみたいや
魔法の事とか話してくれてる時も、色々と教えてくれたし。

迷ってる時は厳しい事言うて、止めようとしてくれた
堅守先生の立場からすれば引き込もうとするはずや
記憶消去の魔法が使えへんのやったらその方がずっと楽やし
なのに……全部自分で決めさせてくれた、厳しいけどそれも優しさ
なんかなぁ？

その夜、アスナと一緒のベッドで寝た

アスナの体温が暖かくて気持ちええなぁ……
なんか落ち着いてくる……安心するってこういう事なんやな。

視点　瑞貴

『誰から？』

『ん、内緒や
それよりアスナ、今日は一緒に寝よ！』

『どうしたのよいきなり……』

『ええやん、偶には一緒に寝ようや』

『はいはい
このかは甘えん坊ね』

神楽坂も了承したし、フォローはこんなものだな
近衛に盗聴器を仕掛けてよかったよかった
今更ながら少しやり過ぎたと思ったからな
……後悔は全くしていないがな。

いきなりの激痛に突然の非日常
祖父と友人が隠していた秘密
これだけ纏めて分かったら夢に観てもおかしくないだろうな
きっと悪夢だ、魘されて叫んで起きるんじゃないか？

怪我をさせたり色々と教えたのは確かに俺だ
しかし先に知りたいと言ったのは近衛だ
だから近衛が悪夢を観ようが魘されようがどうでもいい。

だが神楽坂……あいつはできれば敵にしたくない
俺が覚えていたぐらいだ、多分メインヒロイン
しかもハマノツルギの効果は魔力無力化
こんな超レアアーティファクトの使い手なんだ
敵にしたら確実に厄介な相手になる。

勝てないとは言わない、どうにでもできる自信が無いとも言わない
だが面倒だ
それだけでも敵にしない価値は有る
マクダウェルも敵にしなければどうでもいい。

……そろそろ本格的に頭が痛くなってきたな、病気的な意味で
近衛の状態は確認できたし、そろそろ寝るか
明日の放課後、近衛をどうしようか悩む。

ま、近衛が明日の授業に出ている間にでも考えよう
近衛が来るのは夕方なんだし
それだけの時間が有れば十分だろ。

5話【裏の痛み】（後書き）

瑞貴の電話……本当に冗談だったの？
半分以上本気でした
もし木乃香が止めなかったら本当に電話していました
さっさと止めた理由は木乃香が裏じゃないからです。

どこかの誰かさんって？
誰かさんです
強いて言うのなら……某精霊。

木乃香との夫婦はそんなに嫌なの？
嫌です
あの家系に入りたいと思っていないので。

アーティファクトチート発生中
基本です
利用方法は戦闘とは限りません。

女の子になんて事を……
タグに有る通りです
誰が相手でも容赦無し
例え一般人の木乃香でも例外では無かったようです
……やり過ぎな気もしないでもないですが。

瑞貴、何回か死の体感をしたって言ってるけど、いつしたの？
遊戯王世界の時に……

もし道具が無ければどうしていたの？

麻帆良に来なかった可能性も有ります
カシオペアが無いので。

時の回廊って速度を上げられたっけ？
不明
時の関係と書いてあり、遅くできる事は書いていました
が、速くできるかどうかは全く未知数
不可能とは書いていませんでしたので可能という事にしました
悪用手段の１つになりますし。

明日菜が男らしい……
明日菜って漫画の主人公ですよね？
……え、違う？
こんな格好いいヒロインが主人公に決まってる！
と、作者は思います。

そういえば腕を貫かれたけど、服に血は付いていないの？
まだ夏服なので半袖です
更に痛みから腕は下げていました、半分以上は反射的な行動ですね
……そういうのは本文に書けよという話ですね、そうですね。

まさか……明日菜×木乃香!?
違います。

盗聴器って……瑞貴？
犯罪行為ですが何か？
魔法使い達に殺されない為に手段を考えた結果です
仕方無いとは言いませんが、身を守る手段です
主に、木乃香を壊さないようにして利用しようという……
あまり身を守るという意味ではなさそうですが。

ツイッター、眠くなってきました
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ_ｋｕｒｉａ
今更ながら一言、春ですねぇ……

6話【裏切りの道】（前書き）

超展開注意
こんなにアッサリでいいのかなぁ？
でも、先の為にはこれぐらいにしておかないと間に合わないし……
違和感が有るかもしれませんが、ご容赦ください。

なんだか調子が乗ったのでこっちが先でした
次回は本気禁止制限決闘を更新するので……
まぁ、とりあえず1週間以内には更新する予定です。

6話【裏切りの道】

視点　木乃香

放課後、また堅守先生の部屋に行く
朝に行った時はちょっと辛そうやった
昨日ウチに色々したからみたいや……

悪化してでもウチの為やと思うたら嬉しいけど
でもあんま無理してほしない
だけど、知りたいから今日も堅守先生の部屋に行く
ウチ……自分の為に堅守先生に無理させる悪い子やな。

ほんでもう1個問題が
アスナがせっちゃんを睨んだ事や
ウチとアスナは横に机が3つ有る真ん中
そんで6列の前から4番目、つまり後ろの方に座っとる。

せっちゃんは廊下側
2人座る机の廊下側やなくて外側に座っとる
ほんで列は前から2列目。

やからウチとアスナはせっちゃんの背中が見える場所に座っとる
つまり黒板を見る時、ついでにせっちゃんが見えてしまうねん
だからアスナ、何回もせっちゃんを睨んどった……

せっちゃんもこっちに気付いとったみたいや
アスナが授業中に睨んだ時、気になってこっちを見たみたいやねん

せっちゃんは裏の人、争い事とかができる人なんや
だから敵意とか、簡単に気付けるんやろうな……

その考えに到達した時
皮肉にも、それが堅守先生の言葉を肯定してた
せっちゃんは戦いの中で生きている人やと……
アスナみたいな素人でも、簡単に視線なんかに気付けるはずないし。

少しでも裏を知ったらクラスも全く違うもんに見えてくる
クラスだけやない、先生もや
自分が突然、別世界に放り出された気分になるわ。

……はぁ、気が重い
今日、もっと気が重くなるような話になるんやろうな
ウチ……耐えられるやろうか？

堅守先生の所に行くとか言わんで良かった
昨日とか一昨日に行く教えたんはアスナだけやし
もしみんなの前で言っとったら……余計疲れとったわ。

それにしても……殆どみんなが堅守先生の心配しとらん
いんちょとか、一部は心配しとるんやけど……
特にせっちゃんは酷い、なんも顔を動かさん。

「こんばんわー
堅守先生、起きてますかー？」

……返事無い？
寝てんのかな？
やったら勝手に晩ご飯作ろっと。

今日は……雑炊にしようかなぁ
でも毎食似たようなのやし、飽きてまうかな？
味とかも薄いし……食欲が有るか訊いてみようかな
もし有るんやったらもう少しなんか思いつくんやけど……

「んー……近衛か？」

「あ、堅守先生……って、なんか凄く疲れてない！？」

病気で辛いというか、疲れて怠いって感じなんやけど！
なんでこんな状態になっとんねん！

「まぁ、後で分かる
なんか作ってくれるんだったら野菜スープを頼む
食欲が無いわけじゃないが、気分的にあまり固形物を食いたくない」

「あ、うん……了解や」

ど……どうしたんやろ？
なんかそんなになる事が有ったんやろうか？

とにかく野菜スープや
せっかくリクエストもろたんやし
入れる具は……なんにしよ？

……
……
……

できてんけど……堅守先生がめっちゃ不機嫌やわ
雰囲気で分かる、声を掛ける事もむずい
どないすればええんやろ……

「あ、あの……」

「ん？
あぁ、すぐに行く」

すぐに雰囲気が戻った
どないしたんやろうか……

「「いただきます」」

食べる堅守先生……よっしゃ！
顔が少し動いた！
嫌そうな顔はしとらんから美味しかったや！

「どうなん？」

「悪くはない」

本人から美味しいって言ってほしいけどなぁ
素直に言ってくれへんのが残念や
でも焦らへんで……しつこくしたら怒られそうやし
もう歓迎会の時みたいな連続悪口は聞きたない。

会話は無い
だけど、雰囲気は分かる
やっぱ……怒っとるやんな？

「ご、ごちそうさまや」

急いで雰囲気をどうにかしたくて先に食べ終わって……
って、先に食べ終わったらあかんやん！
何もせんままこのまんまなん！？

「ごちそうさま」

……ほ、堅守先生もすぐに食べ終わったわ
どれぐらい残っとるか見てなかったわぁ
確認しとれば心配せんでよかったんに。

「じゃあ片付けるなー」

口では軽ぅ言っとるけど
内心は心臓バクバクや……

片付けはすぐに終わった……慣れとる自分が今は憎いで
もうちょい時間を掛ければ少しは雰囲気がマシなる思うたんやけど
今は変わらず不機嫌のままや。

「か、堅守先生
さっきからなんで不機嫌なん？」

「……そうか、近衛は知らなかったのか」

ウチが？　またウチの事でトラブル？
もう嫌や……ウチの事で堅守先生に迷惑ばっか掛けんの。

「爺……学園長がどこをどう狂ったのか
お前とお見合いでもしないかと誘ってきやがった……」

「お、お見合い！？」

か、堅守先生とやなんて！
おじおじ、おじいちゃんも何考えてんねん！

「それそれそ……そ、それどないなったん？」

「断ったに決まってるだろうが
歳もそこそこに離れてるし、教師と生徒がってのもどうなんだ？
（ついでに好意も無いし、全く）」

……うん、堅守先生は真面目やもんな
教師と生徒がそないな関係になるやなんて許されへんわな
でも……そんなキッパリと言わんでもよくない？
ウチ、ちょっと傷ついたで？

「って、歳も離れとる？
堅守先生、２０歳ぐらいやないん？」

それやったらそんなに離れとらんのやない？
だってウチより年上で６歳違いなんよ？
別にそこまででも無い思うんやけど……

「言ってなかったか？
俺はもう三十路を過ぎてるぞ」

「三十路て……３０歳？

……３０？　うそぉ！？」

どんなに年上に見ても２３歳ぐらいやで！
若く見れば１８歳ぐらいやのに、３０歳！？
どんな若作りやねん！
世の中の３０歳の人達に謝らなあかんわ！

「煩い……そして改めて言うぞ
俺は３０歳ではなく、それを過ぎている
四捨五入をすれば３０歳だ、当然上だがな」

上言うんは３１歳から３４歳の事やね
まさかウチの倍以上の歳やとは……さすがに予想できへんわ
これ言うたらクラスのみんな、どう思うやろか？

「こんな年上と結婚してもお前自身も困るだろうしな
ついでに言い聞かせておいたぞ
本人の了承も無いお見合いがどれ程滑稽なものかをな
他にも何度かしているみたいだが……まぁ、暫くはおとなしくなるだろう
あの性格だからな……保って半月ぐらいか？
（近衛との結婚だなんてご免だ、興味も無いが、爺が調子に乗ると困るから落ち着けさせただけだけどな
俺が相手じゃなかったら無視していたが）」

否定はせんけど……ウチやってしょっちゅうお見合いしとるわけやないよ？
でも、ウチの事考えてくれてるんやね
やっぱ堅守先生、実は優しいんやね。

「俺が怒っていたのはそれだけじゃないけどな
あぁ……病気的な意味でも、精神的な意味でも頭が痛い
役立たず教師共め……所詮は魔法使いが本業か」

「どういう意味なん？」

魔法使いが本業の教師……
やっぱり先生の中にも魔法使いが居るねんな
なんか嫌やわぁ……

もしかして、他の魔法使いの先生とかにも
ウチの事を守るように言ってたりするんかな？
だとしたら……ウチが思ってるよりずっと沢山の人に迷惑掛けてる？

「トラブルが有ったから授業を中断して教師の仕事を放棄したらしい
魔法使いが収める必要が有ったからといって授業中の教師にさせる
なよ、あの爺は！
しかも、見事に本来は俺の数学の時間だったし
担当していたのが高畑教員だったのが最大の失敗か！」

ウチらん時は普通に授業しとったけどなぁ……
堅守先生の授業よりずっと楽やったけど
それでみんな喜んでたんがちょっとショックや。

「やっぱり任せずにプリントぐらい自分で作っておくべきだったな
ったく、プライベートでは仕事をできるだけ避けるようにしている
のに
役立たず共が、病人の俺に仕事を回さない程度には頑張れよな
面倒だな……数学の教科書、どこに置いたっけ？
帰ったら寝たいという気持ちしか無かったから、鞄を適当に放った

からな……」

教科書が入っていると思う鞄を探す堅守先生
鞄ってったら……

「あれやないん？」

部屋の片隅に置いてあった黒い鞄
サラリーマンとかが使ってそうなのや
多分、それやと思うんやけど。

「あぁ、これだこれだ
ＰＣを起動させて……はぁ
このＰＣの光が体調悪化への道を進める
俺の体調を回復させないのが目的か？」

それは無い思うけど……
どないしたらええんやろう？

「堅守先生
ウチになんかできる事有る？
できるだけ手伝うえ」

ジッと見られる
……なんや、ちょぉ恥ずかしいわ。

「（近衛、確か成績は優秀だったな
学年でも上位……か
という事は答えが知られてもあまり問題無い？
……いや、それだと不公平だ、却下だな）

近衛が手伝える事は無いな」

がっくし……やっぱ無理かぁ
ウチみたいな子供に先生の手伝いはあかんねんなー。

「なら堅守先生」

「裏の事なら何も言わんぞ、俺が治ってからと言ったはずだ
それまで自分の立場をよく考えておけ
爺や桜咲以外にも気になる奴はいるはずだ
まだまだ、お前の見ている世界は狭い
世の中の暗い部分をよく確認してくるんだな」

暗い部分……裏の事やんな？
でも、ウチは何を確認すればええんやろう？

「ヒントをやろう
自分のクラスを客観的に見てみるんだな
そして別のクラスを見てみろ
きっとおもしろい事が分かる」

ウチのクラスを客観的に
そんで違うクラスの人を見てみる？
何が分かるんか……予想もできへん。

「ほら、分かったら帰れ
クラスの様子見は宿題だ
また明日、夜に来るんだったら確認するからな」

堅守先生、絶対になんも言わんわ

しゃあないなぁ……帰るしか無さそうや。

「うん、また明日な」

「気をつけて帰れよ」

玄関を出て、鍵を閉める

……クラスのみんなかぁ

何を見ればええんやろう？

……

……

……

次の日の朝は堅守先生にメモリースティックを渡された

これを高畑先生か瀬流彦先生に渡せて……

なんの事か分からんかったけど、とりあえず渡しておいた。

数学の時間……無いわぁ

難易度が跳ね上がったわ

朝のはこの記録が入っとったんやね

少しも対策しとらんかったウチの油断や。

２５問中、１８問が精一杯やった

ウチ、これでも学年で１００位以内の学力は有るんやで？

それで１８問て……特に最後の問題なんて意味が分からんかったわ。

「難しかったですね

１５問しか答えられませんでした」

「うんうん、ホントだね五月さん
超さんはどうでした？
特に最後の問題、私でも苦戦しましたよ」

「あんな長文問題、私でも大変だたネ
……多項式と連立方程式を合成させた上
上下合わせて２０もの数字が有るなんて反則ネ
古はどうだた？」

「１問が精一杯だったアルよー
一応どれもしたアルけど、無謀だたネ」

くーへも頑張ったんやね
ていうか、超りんやハカセちゃんでも大変やったん？
難しいとは言ってないけど、苦戦したのはほんまやろうなぁ。

「この私が……全問回答できないとは！
後２問、後２問が解けませんでしたわ！」

学年４位、いんちょ
そのいんちょが最後の２問ができへんかったとは
ほんまに難しかってんな。

「のどか、どうだったー？
私は１５問が精一杯だったよー」

「私は８問です……
頭が痛くなりました」

「頑張ったけど２０問までだったー

このかさんはー？」

「ウチも頑張ってんけど、１８問が精一杯やったわ
どれも頭捻らなあかんぐらい難しかったなぁ」

地味に意地悪な問題が凄い多かったわ
ちょっと油断したら答えが合わへんもん
どんな問題やねん……

「アスナは？」

「……１問」

……よう頑張った、アスナ！
アレを１問できただけでも凄いわ！

「どうだったー！
私はなんと、１２問だぁー！」

「私は……１問」

「ウチは１５問やったで」

「私は１３問
凄く難しかったね」

運動部４人組も大変やね
まきちゃんもお疲れ様や。

「勝負！

私は１０問！」

「私も１０問！」

「私は１２問！」

「「また負けたぁーーー！
もってけドロボー！」」

チア３人……また賭け事しとったんか？
桜子が３人で一番頭えぇもんな
なのにどうして賭けなんかするんやろう？

「私は１７問だったわ
夏美ちゃんはどうだった？」

「……１４問
うぅぅ、ちづ姉ってどうしてそんなに頭いいの？
私だって頑張ってるんだよ？」

が、ガンバや夏美ちゃん！
きっと那波さんにも勝てる日が来る！

「双子ー、どうだったー？
私は１５問だったよー」

「「１６問！」」

「マジ！？
こいつらに負けるだなんてー！」

何気に頭良いもんな、ふーちゃんにふみちゃん
でも美空ちゃん、1問差やねんからえぇんちゃう？

「（頑張ったけど19問が精一杯だったなぁ
今回の問題、絶対高畑先生が考えたわけないよね？
だとすれば……堅守先生かな？
ふふふ、必ず取材させてもらおうっと）」

「（14問か……
こんな問題、金を計算する上では必要無いのさ）」

「（なんなんだよ、この難しさは！
この私が11問しか答えられなかっただと！
確かにそこまで頭は良くないが、半分も無理ってどういうこった！？）」

「（……面倒になったから投げてやった
さすがに5問は解いたが）」

「（本来なら全問正解はできました
しかし、マスターより上になるわけにはなりません
……マスター、4問回答では私の成績に影響が出ます）」

「（……こ、国語だったら！
数学でこの難しさは無理だ……
不覚、3問しか答えられなかった！）」

「（……6問）」

「（1問しかできなかったでござるなー
カンニング、したかったでござる）」

「（見てただけでしたけどー、私でも24問でしたー
25問全部を時間内は難しかったですぅ）」

みんなどうやったんやろうなー？
落ち込んでる人が何人も居るし、やっぱ難しかったんやろうね
……せっちゃん、地味に落ち込んどるな。

それにしても、堅守先生の言う暗いんってなんやろう？
昨日感じた違和感やろか？
客観的に見るんやっけ……どういう事やろ？

客観的って事は騒ぎに入らなええんやんな？
騒ぎに入らず、外からみんなを見るかぁ……
なんか仲間ハズレになった気分になりそうやな。

……
……
……

「こんばんはー
堅守先生起きとるー？」

返事が無い？
どうしたんやろかと思って寝室を見てみたら……鬼がおった
仕事の鬼や……めっちゃ怒ってＰＣに張り付いとる。

「か、堅守先生ー？」

「……チッ」

ひぃ！　やっぱ怒っとる！
ウチ、なんかした！？

「ん？
なんだ、来てたのか近衛」

「そないに怒ってどないしたん？」

「どうしたもこうしたも……はぁ
今日、難易度の高い数学のプリントをしただろ？」

「うん」

「本来だったら全員に１０問以上正解させる程度にする予定だったのに
全く勉強していないからこの程度……１問回答が４人ってどういう事だよ？
しかも全員間違ってるから救えないな」

……そら怒るわ
予定が全く進まんかったという意味でも
正解数０も、どっちも怒るには十分やね。

「近衛はまだマシだな
３問不正解だったが」

「え、そんな間違ってた？」

ありゃー……失敗したなぁ
丁寧にしたから全部正解の自信は有ったんやけど。

「正解数１０問以下が１５人以上
クラスの半数以上が目標以下
……はぁ、やっぱりこの４日の休みは大きかったか」

そやなー、休んだんって２日目からやんな？
今日は金曜やから明日と明後日は休みやし
月曜からまた大変やな。

「こうなったら荒治療が必要か？
普通にしてどうにかなるとは思えないし
となるとカリキュラムは相当厳しく……」

……ウチは頑張ったから悪ないやんな？
堅守先生の超厳しい授業
どないしよ……なんか怖なってきたわ。

「授業はええねんけど
体調はどうなん？」

「あぁ、割と楽になってきた
腕はまだ痛いが、これぐらいは許容範囲内だ」

せっちゃんの傷付けた傷……
まだ痛いんや。

「そういえばこの前はウチの怪我治してくれたけど

自分で自分の傷は治さんの？」

「当たり前だ
もし治したら桜咲に俺が裏という事を知られるからな
それに、あの道具は時間制限が有る
傷を負った一定時間以内に使わないと効果が激減する
精々、自然治癒を促進させる程度だろうな」

なんや微妙やなぁ
完全回復は凄い思うけど
中途半端さがめっちゃ気になるわ。

「あぁ近衛、ほぼ回復したから鍵を返せ
次に勝手に入ってきたら怒るぞ
親に知らせる、不法侵入者として」

「……返さなあかん？」

「返せ」

これ以上粘ったら怒られる思たから素直に返す
不法侵入者なんて言われたないし
次からは素直に呼び鈴を鳴らして入ろ。

「てか、片腕使われんで料理できるん？」

「できる
伊達に我が儘だらけの奴５人に囲まれていない
更に面倒な３人とも暮らしたんだ
１人暮らしぐらい……本当に楽だな」

ど、どんな人達と住んどったんやろう？
訊かん方が絶対にええ、頭ん中がそう言っとる
ずっと料理とか、家事とかしとったんかな？

「言っておくが、お前より家事の経験は上だぞ？
合計したら１０年近くは家事をしていた事も有るし」

あー……無理やな
やからウチの料理、美味しいって言ってくれへんかってんか
堅守先生の料理……ウチより美味しいんやろうなぁ。

「堅守先生、今度なんか料理してくれへん？
ウチ、堅守先生の料理食べてみたいねん」

「別に構わんぞ、明日の昼ぐらいにでも来い
適当な料理を作って待っていてやる」

おっしゃ、堅守先生の料理ゲットや！
どんだけ美味しいんか、ウチが試したる！

「ところで堅守先生
さっきから気になっとったんやけどな
なんでずっと……仕事したままなん？」

堅守先生
ウチと話してる間もずっとＰＣの方を向いとった
こっちなんて１回も見いひん
やっぱ悲しいんやけど……返事してもろても無視されてるみたいで
嫌や。

「お前らの成績とプリントを参照にして、今後の授業を考えてるんだよ
ただでさえ爺が関係者を集めてるし、成績がかなり散ってるからな
差が凄まじいし、既に授業の予定が遅れてる
この修正が大変なんだよ……頭が精神的に痛くなってくる」

あー……超りんとかハカセちゃんは頭ええもんな
いんちょやのどかも成績良いし、ウチはそれなり
でもバカレンジャーの5人が成績を思いっきし下げとる
その調整は簡単やないやろうなぁ……

「あえ？
おじいちゃんが関係者を集めとるってどういう意味なん？」

「それは昨日言った課題だ
何か1つぐらい感じなかったか？」

「て言われても……昨日になるんやけどな？
裏を知ったからか周りが凄う違うように見えてん
何人かに違和感を感じたんやけど……もしかしてそれ？」

違和感言うても、なんとなくやけど
こんなんで良いとは思われへん。

「なんだ、昨日から感じていたのか？
お前が違和感を感じた奴は大方魔法関係者だろうな
視点が変わり、見える物が変わった結果だ」

……そういう事やったんか

だから今日はよう分からんかってんな
もう昨日から感じとったから。

「つまり……」

「あのクラスは魔法関係者の巣窟だ
調べて確認ができただけでも１０人は居る
お前を含めてな」

「なんで１つのクラスに纏められてるん？」

「処理が楽だからだろう
また２－Ａが何か起こした、また２－Ａか
周りをそういう認識にさせてるんだろう、本人達はそれに気付いていないだろうな
寧ろ、周りがそんな態度をしているから善悪が付かないんじゃないか？」

悪戯の事や……でも、分かるかもしれへん
２－Ａやから当たり前、普通
周りも言うとるけど、それは事実や
やから殆どの人が注意をせん……

そう考えたらめっちゃ怖いんやけど！
ウチは気付けたからいいんやけど、他のみんなは良い事と悪い事が分かってない！
堅守先生が言った違和感てこれの事やったんか！

「心当たりが有りそうだな……多分、それが正解だ
だから魔法関係者を簡単に突っ込めるんだよ、あのクラスには

そして俺も魔法関係者だと爺が疑っている
故に、俺は2－Aに纏めるように入れられたんだ」

めっちゃ複雑や……やっぱウチも悪いやん、関係者やから
ウチ自身にはどうしようも無いんやけど
やけど、もっと早う気付いとったら堅守先生はこんな事にならんかったかもしれへん
せっちゃんと仲良うしとったら大丈夫や言えたかもしれへん
もっとウチがしっかりしとったら……

うんん、今考えてもなんもできへん
ウチにできる事は誰にも迷惑を掛けん事や
その為にはどうすれば……ん？

「なぁ堅守先生
ウチって魔法使いのおじいちゃんの孫なんやろ？」

「見た目性格などなど的な意味で血の繋がりを認めたくないが、そうだ」

なんやめっちゃ嫌われとるな、おじいちゃん
当たり前か……迷惑しか掛けとらんもんな。

「ならウチにも魔法とか使えるん？」

「勉強もしていないのにできるはずが無いだろうがしっかり勉強さえすれば可能性は有るんじゃないか？
ま、爺の孫だし魔力はそれなりに有るだろ」

「魔力ってなんなん？

イメージ的にゲームとかに出てくるＭＰみたいな感じなんやけど」

「イメージはそれで正解だ
違う点は時間が経てば自然回復する点かな？
まぁ、魔力は外気……つまり自然の力だ
その力を集める為の集中力、更に資質、精神力
他にも様々な要因を束ねて使う術を魔法と呼ぶ
簡単に説明したが、理論的に言うと相当面倒だぞ」

が、外気？
もしかして魔法を使うんてめっちゃ面倒なんかな？

「で、まさかとは思うが
魔法を覚えたいとか言うつもりか？」

「あ、うん……
どんな魔法が有るか分からへんけど
もし有るんやったら回復魔法とか使いたいねん」

「有るぞ」

「即答！？」

「もう事情を知ってるからな
だが、俺は魔法使いじゃない
（魔法を教えるのは可能だが）」

う……そういや魔法道具は使った言うとったけど
確かに魔法使い言うとらん
うぅぅ……魔法を教えてもらうんは無理や。

「そういえば裏に関する話だったな
明日の昼に来るつもりなら昼飯を食ってからだ
今日は話さないぞ、仕事を先に済ませたいからな」

ウチより仕事優先なん？
そらウチにはちょう話すだけやろうけど……

「なら晩ご飯作るな
なんかリクエスト有る？」

「特に無い」

「ＯＫや」

うーん……元気なってきたみたいやし
でも油断できへんからシチューにしよ
食べやすいから大丈夫やろ。

なんか奥さんみたいやなー
……あかん、想像してもうた
めっちゃ恥ずかしいやん……

昨日ウチとのお見合い断った言うとった所やし
嫌がるやろうからあかん
……でもなんやろう、ちょう悲しい。

複雑な気分になってても、料理を作る手は止めへん
味を悪うしたらあかんし
どうせ食べてもらうんやったら美味しゅう食べてほしいわ。

暫くして、シチュー完成や！
また怒っとるんやろうなぁ……
それでもしゃあないし、堅守先生呼ばな。

「堅守先生ー、できたえー？」

「……分かった」

機嫌、ちょい戻っとるみたいや
一安心やね、もう空気が悪いんは嫌や。

……
……
……

「なら堅守先生、また明日のお昼に来るなー」

ご飯は美味しく食べてくれたわ
でも食欲無いんかな……おかわりしてくれへんかった。

「勝手にしろ」

そう言われてドア閉められて鍵掛けられた
避けられとるみたいでちょう嫌やなぁ……

部屋に帰っても頭は動いとる
魔法に関して、自分で考えられるだけ考える
堅守先生は魔法が使われへん
せめて勉強道具とかは欲しいわぁ……無理かなぁ？

……

……

……

翌日のお昼
明日菜にお昼ご飯を出して部屋から出る
ウチも食べへんのか訊かれたけど
堅守先生が作ってくれる言うてくれた言うたら微妙な顔された
似合わへん思っとるんやろうけど、その気持ちは分かるえ？

堅守先生の部屋のチャイムを鳴らす
今日は機嫌ええとええなぁ。

「来たか、近衛
入るならさっさと入れ」

「ほならおじゃましまーす」

部屋に入ると……もうご飯できとった
ご飯にお味噌汁……豚汁やろか？
だし巻きに胡瓜のお漬け物、煮物も有るわ
純和風の朝ご飯って感じやけど……

「昨日の今日だから適当だがな」

「……全部手作りなん？」

「見れば分かるだろう？」

だし巻き、作るのって面倒やなかった？
お漬け物だって即席で作れる思うけど……
煮物も美味しそうや。

「いただきます」「い、いただきます……」

とりあえず、煮物を食べてみる
ま、負けた……めっちゃ悔しい
ウチ、料理得意やのに……

豚汁……薄味やけど十分美味しい
具だって綺麗に切られとるし、大きさも形も綺麗や
お漬け物だって塩加減が抜群。

問題のだし巻き……作るん難しいし
美味しく作るんはもっと難しかったはずや……どうや！
……か、完敗や
さすが１０年以上のキャリア、ウチじゃ勝てんかった！

なんやめっちゃ悔しい！
だし巻き卵って関西で主流なんやで？
なのにウチより上手いし美味しいってなんなん？
生まれ京都のウチに対しての当て付けなん！？

「おい、何を落ち込んでる
もう食わないのか？」

「うんん、食べるえ……
美味しいし、全部食べるえ」

涙が出てまう、だって女の子やもん！
家事歴１０年が相手でも負けるんは悔しいわ！

「これ、どうやって作ったん？」

「勘と経験と適当と慣れ」

「答えになっとらん！？
う、ウチに料理教えてくれへん！」

「断る
面倒だし」

断られた！？
うぅぅ……絶対勝ったる！
明日から猛勉強や！

「でも、堅守先生
食べる量少なない？」

あまり食べへんウチと同じぐらいや
そんなんで足りるん？
身長も高いのに……痩せてるけど。

「俺は元々あまり食わん
体もそんなに動かさないから食事量も多くない
それに、いつもこの程度だから胃が慣れてる
何より食い過ぎは胃に悪いからな」

健康に気を遣ってるんやな

大人やのに中学生のウチと同じ……
なんやろう、この敗北感は？

そして美味しく全部食べた
五月ちゃんとどっちがお料理上手なんやろ？
……やっぱ五月ちゃんやんな、お店開いとるし。

「ごちそうさま」

「ウチもごちそうさまや」

「なら片付けるから食器は適当に置いておけ
洗い物をするからそこら辺にでも座って待ってろ」

「洗い物ならウチがするえ？」

「今日は看病じゃなくて客だろうが
客なら客らしく適当にしてろ」

生徒やなくてウチ、お客さんなんや
なら堅守先生って言うん止めた方がええかな？
だって生徒扱いされとらんのやし。

「なぁなぁ堅守先生
プライベートん時も堅守先生呼んだ方がええ？」

「私的な時は別の呼び方がいいって事か？
俺が仕事中の時、ちゃんと先生と呼ぶんだったら好きにしろ」

つまりＯＫって事やんね？

ならなんて呼ぼ……うーん
堅守さん？　瑞貴さん？
なんやシックリこんなぁ。

「やっぱ堅守先生にしとくわ」

「そうか
さて、片付け終わりっと」

考えとる間に終わったみたいや
今日こそは色々と教えてもらうえー？

「で、何が訊きたい？」

「へ？」

「ソワソワしていたからな
少し見ていれば分かる、何が知りたい？」

そんな分かるやろか？
ウチ、単純なんかな？

「裏の事
特におじいちゃんやせっちゃんの事
ウチのクラスの事も知りたいねん」

もうずっと考えとった
でもやっぱ分からんかってん。

「最初に言っておくが、俺の主観も混じっているからな？

それだけは覚えておけよ、事実と違う可能性も有るし」

そう前置きにして、堅守先生は話し出す
ウチにとって、衝撃的すぎる事を。

「近衛近右衛門、関東魔法協会の長
簡単に言うと日本の魔法使い達の親玉
そしてこの学園は日本有数の魔法使い達の拠点
日本の半分以上の魔法使いは爺の傘下と言っても差し支えない
孫のお前が大事に大事に育てられるのも当然だろう？」

……おじいちゃん、そんなに偉かったん？
もしかして今までのお見合いとか、みんな魔法使いやったんやろうか？
そう考えるとめっちゃ怖いんやけど……

「桜咲刹那、関西呪術協会に有る京都神鳴流に所属していた本物の剣士だ
京都神鳴流は刀を扱い、魔物を祓う退魔師
ただ、桜咲がこちらに居るという事は神鳴流を裏切ったんだろうな
関西呪術協会は関東魔法協会と敵対関係だし
となると関西呪術協会の範疇である神鳴流が関東魔法協会に居る事を考えると……」

「せっちゃんはウチを守る為に
そのしんめーりゅーを裏切ってこっちに来たん？」

「その可能性は高いだろうな
それか、爺が近衛と仲が良い事を知って強引に引き抜いたか
……まぁ、もしかしたらお前の父親、近衛詠春の手引きかもしれん

な」

「お父様？
お父様も……考えてみたら当たり前やな
なんでウチ、気付かんかったんやろう？」

ほんまに間抜けや……お間抜け過ぎるわ
堅守先生が呆れた顔になっとる、当たり前やな
どうして気付かんかったんやろう？

「近衛詠春は関西呪術協会の長
京都を中心とした関西の一部を牛耳る陰陽師達の巣窟だな
組織名の通り、呪術関係を使ったりする
他にも御札に五行、陰陽道などだな」

ファンタジーの本とか読んでるから知っとる
昔流行った日本独自の術の事や！

「ちなみに、呪術とか陰陽道は日本独自と言われている事が有るが
間違いだ
中国とかからの術を真似、アレンジしたのが日本の術
仙人とかは中国が発端だったんだが、知らないか？
術を使う有名所と言えば西遊記とかに出てくる孫悟空とかだな」

孫悟空かぁ……西遊記な
昔は読んどったけど、最近は読んどらんな
どんな術を使っとったのか調べてみよか？

「占い研究会に所属しているなら風水ぐらい知ってるだろう？
登場した場所は同じく中国だが、昔は呪術や陰陽道は風水よりも必

須技術だった
しかも本場中国を越える程の呪いができる程、日本人の呪術は強力だったらしい
平安時代は魑魅魍魎という言葉が有るぐらい、日本は魔物で溢れていたらしいからな」

昔から日本って凄かってんな……
どうやって術を輸入したんやろう？

「関西呪術協会が狭い世界でも今だに関東魔法協会に食われずに生き残る理由はそれだ
歴史も有る日本の魔法、呪術が強力過ぎるから魔法使いはあまり手出しができない
過去、関西呪術協会と関東魔法協会が戦争した時は関東魔法協会が勝ったらしいがな
おかげで下の人間の仲が悪い悪い……それでも呪いが怖くてあまり手出しはしないらしいが
だから尚更、お前が関東に来た事でも揉めているだろうな
長が娘を敵地に送り込み、娘を人質として売った長だとか」

「お父様がウチを……売った？」

ウチ……ウチ……なんなん？
２つの組織の血筋で、政治の為の道具？
それを利用する為におじいちゃんはお見合いとか勧めるん？
組織の為に切り捨てられたって事やの？

「近衛詠春本人の意志は不明だが、実質は売った事と変わり無いな
話を戻し、桜咲刹那だったな
桜咲が関東魔法協会に来た理由は十中八九近衛が目的だろう

だが、桜咲1人の我が儘で護衛と決められると……思うか？」

お父様もおじいちゃんも組織の人間なんやんな？
組織って我が儘でどうにかなるもんやないと思うし……

「もしかして、他になんか理由が有るん？」

「当たり前だろう？
先に言っておくが、今から言う事は俺の推測だ
桜咲は近衛以上に狙われる為に使われた可能性が有る」

「ウチ以上に狙われる？」

「推測だがな、桜咲はさっきも言ったが京都神鳴流に所属していた
だから現在、関東魔法協会に居る事はそいつらにとっては裏切り
しかも実質売られた近衛の護衛として……さて、そいつらは本当に
護衛と説明されているかな？」

説明って……普通されとるやろ？
どういう意味なんか分からへん……

「もし説明されず、桜咲が勝手に行ったとする
すると神鳴流の人間はこう思う可能性が有る
今まで教えてきた技術を持ち、自分達と敵対する裏切り者
しかもお嬢様、近衛の近くに居る
自分達も守れないお嬢様を勝手に守りに行き、敵対する
裏切り効果と嫉妬、怒りで桜咲は狙われやすくなる
近衛は関西にとっても大事な存在だからな、殺す事は無理だ
だから代わりに怒りを向ける対象は……」

「せっちゃんになる……という事やね？」

「そういう事だ
しかし、これは桜咲の事が関西呪術協会から説明されていない場合だま、娘を敵対組織に売るような長だ
それぐらいの事をしてもおかしくは無いだろうな
噂では近衛詠春は相当の生真面目だし、可能性は低いが……それ以外の幹部はどうかな？
関東魔法協会に怨みを持っている幹部が居た場合、それぐらいの工作はしている可能性が有るな
何せ、近衛詠春は関東魔法協会に対して無防備だからな」

「色々と気になるけど……
おじいちゃんが相手とはいえ、なんでお父様は無防備なん？」

「近衛詠春は魔法使いの居る世界
魔法世界（ムンドゥス・マギクス）の英雄だからだ」

「お父様が……英雄？」

あのお父様が……想像できへん
家では力の無さそうなひょろひょろして弱そうやもん……
というか、魔法世界（ムンドゥス・マギクス）ってなんなん？

「その辺りの説明はまたの機会にするが
とにかく、関西呪術協会の長でありながら、関東魔法協会の味方だ
大方、英雄だから長としても相応しいとかの理由でなったんだろうがな
だから組織の管理能力が低いんだ、娘を敵対組織に売ったのがその証拠だ

その行動で確実に幹部や下の者は怒り狂ってるだろうな
もしかしたら、今までお前が知らないだけで、お前を攫おうとした人間が居るかもな
関西呪術協会の娘は関西で育てるべきだ、とか考えた奴とかな」

……ウチ、みんなの道具なんやね
政治とか、組織とか、商売道具やろうか？
なんでウチがそんなトロトロの道具にされなあかんの？
ウチに自由は……無いんやろうか？

「また逸れたな、桜咲に帰る家は無いだろうな
関西は既に敵地、近衛はここに居る
もし近衛が関西の実家に帰ったら……どうなるかな？」

「ウチのせいで……1人ぼっちになる？」

「可能性としては有るかもしれないな
裏切り者を受け入れない……当たり前だろ？
寧ろ、裏切り者を処理する為に殺すのが普通だ
もしお嬢様と仲良くしていたらさっき言った嫉妬が増すかもな
怒りも当然増すだろうし、良い見せしめとしてど派手に殺されるかもな」

「嫌や！
ウチのせいでせっちゃんが傷つくんは嫌や！
殺されるなんて絶対に嫌や！」

そんなん、ウチが許さへん！
せっちゃんとは複雑やけど、でもあかん！

「嫌だ？
組織の長の子供とはいえ、力も何も無い小娘の我が儘を誰が聴くと思う？
それに、殺される場合は近衛の知らない間に殺される
例えば近衛が桜咲がどこに行ったか訊いてみる
返事は……どこかに旅立ったとか言うんじゃないか？
海外へと修行へ行かせたとか、近衛が追ったりできないようにな」

「……ウチ、ほんまに組織の道具なんやな
利用する為に使われる……最悪や
おじいちゃんも、お父様も……
せっちゃんも利用されてるだけやん」

「いや、桜咲に関してはどうかな？
お前を守る為だったら何でもするという感じだ
証拠も無いのに俺を殺そうとした事を思い出せ
あいつ自身、お嬢様の護衛という立場を利用している
専属の護衛だからな、他の人間もあまり口出しができないんだよ
中途半端に実力が有るから余計に始末に困る
お嬢様を守る為に必要だったと言えば傷害ぐらい平気で無罪だ
もしかしたら、お前を利用して人斬りを楽しんでいるのかもよ？
そうなると桜咲にも利用されている事になるな、近衛」

せっちゃんはそんな子やない！
そう言いたかったけど、言われへん……

せっちゃんが堅守先生を傷付けたんは事実や
それに、教室ではなんも態度が変わっとらん
罰を受けたとか、そんな感じは全くせえへんかった
せっちゃん……ほんまに人斬りを楽しんどるん？

それやったらウチ、せっちゃんの事軽蔑するわ……

「……言っておくが、殆ど推測だぞ？
完全に鵜呑みにしないように注意しろ」

そないな事言われても……1回疑ったら簡単には抜け出されへん
もうおじいちゃんも、お父様も、せっちゃんも信用できへん
ウチ……誰を信じたらええんやろう？

「何にせよ、お前の立場はどうやっても変わらない
関東魔法協会の長の孫、関西呪術協会の長の娘、神鳴流剣士の護衛対象
抜け出す事は死以外の方法では普通は不可能だ」

やっぱ無理……やんな
あや？　なんや違和感を感じてんけど……

「普通ってなんなん？
普通やなかったら有るん？」

「有るぞ」

「有るん!?　しかも即答!?
どうやったらウチはこんな立場から抜けだせるん!」

嫌や、こんな立場嫌や！
利用されるだけで、道具にされるだけで、便利なだけで
ただただ使われるだけの人間になりたない！
ウチやって人間や、自由に生きたい！

「俺の味方になれ」

「堅守先生の……味方？」

どういう意味や？

「俺には色々と事情が有る
そして俺の最終目的は自分の家に帰る事だ」

「自分の家に……帰る？」

帰るってどういう意味なん？
そんで最終目的ってどういう意味なん？

「俺の家には魔法なんて無い
そんなのはアニメや漫画、小説だけの世界
本物の……極々普通の世界だ」

魔法も無い……普通の世界？
そこやったらウチは……自由に生きられるん？

「お前をそこへ招待してもいいぞ？
条件として、永遠にこの麻帆良へも、実家へも帰れないがな」

「……全部捨てるか、自由を諦めるか？」

「そういう事だ、しかも俺の味方になっても確実性は無い
失敗する可能性も否定できないどころか高いと思う
明かにデメリットが大きすぎるから勧めない」

味方になれ言うて、どうして突き放すような事を言うん？
もっと引き入れようしないん？

「もし……断ったらどうなるん？」

「別にどうもしない
俺の事を秘密にしてくれるなら近衛に何もしないと誓おう
必要以上に関わったりしないし、二度と味方になれとも言わない
残念だとは思うが、近衛自身が決めた事だ
俺はそれを尊重しよう、自由意志に任せるさ」

ウチの好きにできる……ウチが自分で決める
堅守先生の味方になると失敗するかもしれへん、でも将来を自由にできる
断るとみんなと一緒に居れるけど、自由は無い……

「なんで……堅守先生は強引にウチを味方に入れようとせんの？
それどころか、突き放すような事も言うし
デメリットが大きいなんて言わんかったらええのに
勧めないとまで言うんは……なんでなん？」

「失敗したらお前の存在が困るからだ
近衛の娘、孫を誑かした、利用したとか言われて殺されるだろうな
お前は殺される事は無いだろうが、俺の記憶を消されるだろう
俺に未来が完全に無くなる可能性が出てくるからだ」

遠慮無く、ウチがどう思うても関係無く、キッパリと堅守先生は言う
気遣いなんて無い、優しくしようなんて無い
全部全部、ほんまの事だけしか教えてくれへん
……ウチを仲間外れにしたおじいちゃん達とは大違いや。

「ウチは……」

「待て近衛、今はまだ決めるな
言われた直後で混乱しているだろう？
そんな状態で決めても、後で必ず後悔する
だからよく考えろ、後悔の無いように……な」

……敵わんなぁ
堅守先生、厳し過ぎるわ
ほんで……凄く優しい。

ウチに何も強制せいへん
秘密にせいへん、厳しさも現実も教えてくれた
悪い可能性も、沢山教えてくれて最悪も想像できた
自分の立場と未来の可能性を見せてくれた。

言ってる事は酷いし、怖い事ばかりや
でも……ウチの事をよう考えてくれとる
ウチの気持ちを全部受け入れてくれる
やっぱ……大違いや。

「堅守先生
ウチ、堅守先生の味方になるわ」

「……そんなに簡単に決めて大丈夫か？
もし成功したら永遠に家族にも友人にも会えないんだぞ？
それに、俺の言うことは全て予想だし、全て正しい可能性は低い
間違っていて、俺の言う事と逆だったら確実に後悔するぞ？
お前の考えが纏まるまで、ずっと待っててやるからよく考えた方が

良い」

そんな言い方ずるい……
ずっと待ってるなんて言われたら……考えてまうやん
自分がどれだけ狭い世界を見ていたか、分かってまうやん。

ごめんなおじいちゃん、悪い孫で
ごめんなお父様、ウチは親不孝者や
ごめんなクラスのみんな、せっちゃん……ウチは1人で逃げるわ
ごめんなアスナ、大事な親友……ウチは自由になりたい！

「ウチの考えは変わらへん
堅守先生の味方になる
みんなには……ちゃんと謝る
最後の最後になるかもしれへんけどちゃんと謝る」

これがウチが決めた道や
自分で決めてん、後悔はせいへん
絶対に……後悔せんと決めた！

「……分かった
後悔しないんだな？」

「せえへん、絶対や」

「……ん、そうか
これからよろしく頼む、近衛」

堅守先生が右手を前に出してきた
これって握手やんな……

「これからよろしゅう、堅守先生」

ウチは同じように右手を出して、堅守先生の手を握った

これでウチは……家族も友達もみんな裏切った裏切り者や

でももう1回言わせてほしい……みんなごめんな。

6話【裏切りの道】（後書き）

何故学園長が瑞貴を木乃香の見舞いに誘ったの？
どういう反応をするのかが気になったからです
当然、木乃香が瑞貴の部屋に行っている事を知っていますし
簡単に受けると言えば怪しいからです
瑞貴は断り、怒ったので警戒はかなり薄れていますが……

瑞貴、ＰＣなんて持ってるの？
強引に教師にさせたという理由から、学園長に買わせました
という少し前に思いついた裏設定
なお、夏休み中には手に入っていました。

瑞貴の出した問題って……
応用をしないと回答不可能な問題だらけです
後で言っていますが、本来なら全員１０問以上正解が目標だったらしいです
……どれだけ厳しくするつもりだったかが窺えます。

誰が何を、何問だったの？
口調で察してください
なお、回答数は2巻7時間目に有る成績を参照
ちなみに、正解しているかは別問題です
地味に２－Ａ全員の回答数を書いています、本当に全員居ますよ？

あれ……夕映が8問って何かの間違い？
誤字ではありません、頭の回転は無駄に速いので……
難問を見ると燃えるタイプかと思いました
なので8問です、正解しているかどうかは別として。

いつ、瑞貴にプリントの情報が来たの？
数学を担当した人からメールで。

瑞貴が料理？
できますよ？

我が儘５人に面倒な３人って？
遊戯王５Ｄ’ｓ世界にて……

瑞貴の言う魔法の解説って？
一部は漫画に書いてありました
他は捏造。

瑞貴の料理が和風？
木乃香が京都生まれなので嫌がらせに……
超地味な上、木乃香は殆ど気付いていません（少し予想していますが）
ダメージは受けたようですが。

瑞貴の料理は木乃香の料理より美味いの？
同じぐらいです
しかし木乃香は気付いていないので敗北感満載です
我が儘とか面倒と一緒の奴が味にうるさかったでしょうし
嫌でも技術は上がります。

木乃香の敗北感って何？
女の子ですから。

瑞貴の解説が……

瑞貴の主観です
物事を別方向から見たらこんな感じというだけですので。

陰陽道などについて
説明が面倒なのでご自分で。

瑞貴の言う事が悲観的過ぎる！
主観です、瑞貴もそう言っています
それを鵜呑みにするなと言われても鵜呑みにする木乃香が悪いのです
これも話術テクニック……最低ですね、瑞貴は。

トロトロの道具って……誤字？
誤字に非ず。

瑞貴は本当に木乃香を自分の世界に連れて行くつもり？
全くありません
利用するだけ利用して捨てるつもりです
本当に最低だ……この主人公。

世界って木乃香に言ってるけど、大丈夫なの？
魔法が無い街という捉え方をするように言っているので
本当に世界移動をする事を言っていませんし
木乃香だって世界移動だなんて想像できていません。

どうして木乃香の自由意志に任せようとしたの？
断られるぐらいなら切り捨てるつもりなので
完全に捨てるつもりでした。

木乃香の瑞貴への考えが……
謎です。

木乃香が……みんなを簡単に捨てるかな？
突っ込まないでください
落とすだけ落としたらこうなるかと思いました、多分
強引なのは自覚していますが、許してください
木乃香を苛めるとこうなってしまったんです。

木乃香……
まぁ、頑張れ
結局利用される上、最終的に捨てられる予定だけど
それでも頑張れ木乃香！

ツイッター、最近毎日４時間５時間睡眠
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
今日はちょっと早く寝ようかなぁ……

7話【近衛木乃香の選択肢】（前書き）

お久しぶりです、風邪をこじらせていました
頭が痛くて痛くて……今も痛いんですけど
まぁ、少し強引に頑張って投稿
そして内容でまた頭を痛めるという……馬鹿ですね、はい。

今回の内容は……色々とアレです
世の中、バランスが整っているという事ですよ
だからこんなに不公平……瑞貴が哀れです。

次回は早く更新したいなぁ
でも無理だろうなぁ……はぁ。

7話【近衛木乃香の選択肢】

視点　瑞貴

んー……完治かな？
腕こそ痛いが、風邪はもう大丈夫だろう
ぶり返したりしなければだが。

あの糞ガキ共め……そう簡単に許したりせんからな
次は罠に引っかからんようにせねば……
ただ、俺は身体能力が低いから避けきれるかが問題か。

仕事も溜まってるし、忙しい毎日になりそうだ
あのガキ共の相手も有るから余計に……

さて、近衛はなんとか味方に引き込めた
安心はできないが、そうそう裏切らないだろう……多分
とりあえず鍛えさせるか……このままだと文字通り肉壁にしかならないし。

今日は日曜で休みだし、時間はそれなりに有る
問題は近衛がどれぐらいの能力を持っているかだな
昨日はあの後にすぐに帰したし……近衛も疲れただろうからな。

今日もまた来ると言っていたし、能力でも測るか
身体能力に、魔力とかだな
できれば何でもできるぐらいに仕立て上げたいし
俺が楽できるように、完璧に作り上げたい。

その為の道具は有るからな、多分大丈夫だろう
本格的に鍛えさせてやるには引っ越しが必要なのがネックか
ここだと道具も使いこなせないし。

……お、チャイム
という事は近衛が来たのか？
それとも面倒事が来たのか……

ドアを開けてみると……良かった、近衛だ
桜咲とか来たらどうしようかと思っていたぞ
これから近衛が来る度にこう思うのか？
……疲れそうだ。

「おはよう、堅守先生」

「おはよう近衛
入るならさっさと入れ」

「はいな
おじゃましまーす」

邪魔するんだったら帰れと言いたい
いや、本当に邪魔な部分が有る事は否定できんが。

「堅守先生、今日は何を教えてくれるん？」

俺自身が教えられる事なんて殆ど無いんだけどな
調べて渡したりするぐらいだし。

「その前に近衛
お前はこの先、どうしたい？」

「どういう意味？」

「俺の味方になると、昨日はそう話したな？
お前はどうしたいのかが知りたい
ただ味方になり、何も変わらない日常を過ごすのか
心身共に強くなり、１人でも戦えるようになるのか
強くなるのなら西洋魔法使いになるのか、東洋陰陽師になるのか
それとも桜咲みたく武器を持って戦うか
武器を持つなら剣か、刀か、銃か、それとも槍とかか
大きさはどうしたいか、長剣か、短剣か、ランスかなどなど
戦わないで強くなりたいのなら逃げる為に身体能力強化をするのか
それともただ治療するだけの治癒術師になりたいのか
選択肢が馬鹿みたいに有るんだよ」

他にももっと言いたいが、これ以上は混乱する……
って、既に混乱してるな
さすがに突発的過ぎたか？

「もっと簡単に言うとだ
何もできないまま、魔法を知って過ごしたいだけなのか
最低限でも戦えるように鍛えたいのか
とりあえずこの２つの内、どちらかを決めろ
どちらを選んでも非難したりしないから安心しろ」

鍛える気が無いと言ったら最低限の接触に抑えるつもりだがな
役立たずは要らん。

「えっと……戦えるってどれぐらいなん？」

「魔法使いになるのなら攻撃魔法、治癒魔法が使える程度にはな
陰陽師になるのなら護符製作、治癒術、召喚術が使える程度だま、最低限のラインだがな
どれも基本レベルの事だからそこまで難しくがないだろう」

血筋という巨大な下準備が有るから言える事だがな
それが無ければこれだけで何年掛かる事やら……

「魔法使いと陰陽師ってどう違うん？
昨日も色々言っとったけど……」

そうか……こいつは基本的知識も無いんだったな
どこから教えたものか……面倒だな。

「魔法使いは杖や指輪などの触媒を使い、魔法を使う者だ
魔法を使うには触媒が必須……とまでは言わないが
それでも有ると無いとでは成功率は段違いだ
触媒が無い状態では難易度が数倍以上とでも思っておけばいい
言語はラテン語を使用し、呪文を唱えて魔力を集中
そして魔力で各属性の精霊を従わせ、魔力に精霊の属性を付与させる
攻撃魔法の場合、その付与した属性を撃ち出すなどをして攻撃をする
回復魔法などの場合はまた少し違うのだが……それは追々
具体的に説明するのは面倒だからまた本でも読んでもらうがな」

既に頭から煙が出てないか？
初っぱなから言い過ぎたか？
これぐらいなら基本以下だと思うんだが。

「陰陽師は触媒を使わなくても術の使用が容易だ
ま、当然触媒が有る方が楽だがな
魔法使いとは違い、術の使用には符……御札を使用する
符とは術式……つまり魔法陣みたいな物を紙に書き込んで使う物だ
基本的に使い捨てだが、代わりに魔法よりも威力が高い……難易度も上がるが
他にも召喚術をよく使うな、符を使って魔物を呼び出す術だ
魔物と言っても、悪魔とかじゃなくて妖怪や鬼だな
召喚師が使役するんだが、下手な術者が分不相応の者が呼び出すと逆に食われるだろうな」

「あー……んー……えー……難しいわ」

「だろうな
簡単にすると魔法使いは自然や属性を多用
陰陽師は道具や召喚を多用と言った所だ
俺の主観も混じってるがな」

あながち間違いではないだろう
実際はそこまで大きな違いは無いしな。

「近衛が使う場合、魔法の方が良いかもしれないな
爺が魔法使い、近衛詠春は剣士
一応、近衛詠春は陰陽術も使えるだろうが……本職じゃないしな
血筋という意味では、魔法の方が合うし使いやすいだろう」

「魔法使いかぁ……漫画やおとぎ話の世界みたいや」

「……あまり暢気な事を言ってると現実を思い知らせるぞ？
また腕を貫かれたいか？

俺としてはあまりしたくは無いが、必要なら戸惑い無くするぞ」

「う、ごめんなさい
ウチかて痛いのは嫌や」

それでいいんだよ
というか、この世界自体が漫画の世界なんだし
俺に対してその台詞は禁忌だぞ？

「しかし、近衛は陰陽術を覚えた方が良いかもしれないな」

「え、なんでなん？」

「昨日言った事を忘れたか？
お前は関西呪術協会の長の娘だぞ？
そいつが西洋魔法を使ってみろ、大騒ぎだ
近衛詠春の娘は西洋の術に染まってしまった
西洋の魔法に染まった者が東洋の長の娘で大丈夫なのか
とか、要はまた家の事情で自由にならないという事だ」

嫌そうに顔を歪める近衛
だが、この程度ではまだ終わらんぞ？
言いたい事はまだまだ残ってるんだからな。

「逆に、西洋魔法を使う場合
この麻帆良での待遇が相当高くなるのは確実だな
学園長の孫、巨大な魔力を持っている
関西呪術協会の娘が関東魔法協会の手に落ちた
などなど……魔法使い達は狂喜乱舞するだろうな」

「ウチ……やっぱり自由が無いんやね」

確かにそうだな
ここまで自由の無い者も珍しい
これだから大きな家の娘は……

「一応、どちらにも対応できる手段は有るんだがな」

「どっちも対応？」

「簡単だ……いや、実行するのは難しいが
両方使えるようになれば良いんだ
魔法と陰陽術、どちらも使えるという事はどちらにでもなれるという事だ
もし俺の最終目標が失敗しても、お前の将来の為にはなる
西洋として生きるのなら東洋を捨て、東洋として生きるのなら西洋を捨てる
無論、どちらも持ったまま生きるのもお前の自由だ」

簡単な事じゃないがな
どちらにも適正を持つ人間はそうそう居ないぞ？
お前、自分がどれ程まで裏としての才能が有るか分かるか？
自分でも嫌だろうが、それでも……誰もが嫉妬する。

「両方言うと……」

「当然、修行するにしても難易度が遙かに上がる
そして覚える事も数倍以上に膨れ上がる
術式の使い分けも必要だし、間違えたら大惨事になるかもしれない
生半可は覚悟では……到底不可能な世界だな」

普通の人間ならだがな
近衛なら可能な気がする……色んな意味で。

「やっぱ難しいんか……」

「同時進行なんて難易度が高いに決まってるだろう？
まぁ……お前の場合はそれでもそれを選んだ方が良いと思うがな
立場上、遅くても構わないからどちらも習っておく事を勧める
それに手札……つまり使える技とかが増えればそれだけ戦闘では有利になるし
逃げるにしても両方の術を組み合わせて使えば楽になるかもしれん
色々と手を出しておいても損は無いはずだ」

「でも……普通は無理なんやろ？」

「お前は普通じゃないだろうが……
近衛は数少ない、西洋東洋どちらの戦力にもなれる人間なんだぞ？
爺は西洋だけで東洋は殆どできないだろうし
近衛詠春は逆に東洋ばかりで西洋は殆ど無理だろうしな
厳しい事を言うが、お前はどちらも覚える事を勧める
勿論、お前自身が片方が良いと言うならそれに絞るつもりだ
根本的な問題として、お前が魔法とかを学ぶつもりの話だがな」

押し付ける気は無いがな
近衛が仲間というだけで俺には有利なんだし
何か有っても、近衛が壁になるから俺も動きやすい。

「一応言うが、無理して覚えようとしなくてもいいぞ？
近衛が覚えたいのなら覚えればいいんだし

強制するつもりは無い、近衛の自由意志次第だ
俺はそれを手助けするだけ、決めるのは自分でしろ」

「……堅守先生、厳しいんやね」

「この程度で厳しかったら世の中どれだけ厳しいんだろうな？
選択肢や道がある程度見えているだけ、自分が恵まれていると思え
世の中には道も選択肢も全く無い状態で選択を迫られる事も有るんだ」

俺もその1人と言えるだろうな
何せ……気付いた時には世界移動をしていたんだからな
自分しか事情を知らないんだ、どうするかなんて自分で考えるしか無かった
それがどれ程の難しさか……

「やっぱ早く決めた方がええ？」

「無理にとは言わんがな
考える時間はまだまだ残ってるし
急かした結果、後悔されるのも嫌だしな」

それで逃げられたら後悔してもしきれん、俺が
本当、自分でよく考えてほしいね
そうする事で責任感を持つ事ができるからな。

「堅守先生、やっぱ厳しいわ
うん、ウチは覚えるえ
魔法も……陰陽術も！」

早い決断だな、おい
そんなのでいいのか？
心配になってくるんだが……

「心配せんでも、ちゃんと考えたで？
だって堅守先生はウチの将来の事まで考えてくれてんもん
中途半端な気持ちで覚えよう言うたら失礼やん」

失礼とか、そういう問題なのか？
本当によく考えたのか、心配だな……

「ウチ、もし堅守先生の目的が達成できなくても
自立して生きていきたいねん
家系とか血筋とか、そんなんで振り回されるんは嫌や
だったらどうすればいいんか、ちゃんと考えてん」

「へぇ……どうするんだ？」

「逃げる！」

「納得した
で、どう強くなりたい？」

「え……そんだけ？」

ん？
何か期待外れだったか？

「もっと他に……なんか無いん？」

「無いな」

「だって逃げるやで？
そんなんで納得できるもんなん？」

逆に訊きたい
お前は俺にどんな反応を期待していたんだ？

「要は、逃亡手段を得る為なんだろ？
そして逃げ切れない時は実力行使
近衛の言う自立と逃げるというのはそういう意味じゃないのか？」

「いや、そうなんやけど……」

「自分で考えて、そう決めたんだろう？
俺がどうして否定できるよ？
近衛の意見は尊重し、受け入れているはずだ
それが嫌なのか？」

「んな事無い！
ちゃんとウチの意見を聞いてくれるんは嬉しいんよ！
お父様やおじいちゃんは何も言ってくれへんし
それに比べたら厳しいけど……ずっと嬉しい
やけど……それって堅守先生は大変なんちゃうん？
ウチの意志の為に、自分が疲れたりするんやないん？」

……本当に自分が薄いなぁ、近衛は
他人を気にしすぎじゃないか？
良い子だとは思うが、優しすぎる
この調子だと戦いはともかく、呪術が使えないかもしれないな

どうにかして修正させないと……面倒な！

「疲れるのは否定しないが、それぐらいは構わん
近衛が成長してくれると俺も嬉しいからな
それなら多少の労力は惜しまない」

壁になってくれるという意味でだが
嬉しそうにするな、意図的にさせたようなものだが
勘違いさせてというのは疲れるな……最初は仕方無いが
後々、こんな事をしなくてもよくなりたいな……面倒だし。

「さて近衛
お前はどちらも覚える……という事で良いんだな？」

「はい！」

元気だねぇ……若いっていいな
魔法の世界に夢を少しでも持てるって羨ましい
世の中、そんなに甘くないんだがな。

「なら最初は魔法からにするか
身体強化の魔法を使えるようにならないと話にならん」

「身体強化？」

「逃げるんだろう？
だったら身体強化は必須技術だ
もし戦うにしても、体が動かないと攻撃も回避もできん
それに日常でも役に立つぞ？
重い荷物を楽に運べるようになるしな」

「地味やなぁ……」

「文句が有るなら教えなくても構わないのだが？
物事には順序が有る
その下準備をする為には身体強化が必要だと言ってるんだ
別に覚えなくても構わないが、動きが鈍いままだと簡単に捕まるぞ？」

簡単に捕まるのは嫌なのか、少し怯む近衛
身体強化は便利なんだよ、肉体的に楽になる
動きも素早くなるし、戦闘では必須技術だ。

「大体、どんな事を期待していたんだ？
魔法で炎を起こしたり、風を自由に操ったりとかでも想像していたか？」

「う……」

「ファンタジー漫画とか、小説の読み過ぎだな
そういう魔法も有るが、今は不必要だ
と、言いたいが初心者用の魔法でそういう魔法が有る
身体強化はそれが使えるようになってからだな」

「ほんま！？」

また嬉しそうに……子供だなぁ
やっぱり魔法とかに憧れる年頃なのか？
女の子でも魔法が好きな子は好きだろうし
特に近衛は占いまでしているから……特に好きだろうな。

「さっきも言ったが、物事には順序が有る
初心者用の魔法も使えず、他の魔法が使えるはずが無いだろう？
使えるとすれば、余程その魔法に適正が有る時だけだ
それ以外に例外は滅多に無い」

近衛は真面目に聞いてくれる……本当に助かる
頭が良いというのも楽になるし
学年で１００位ぐらいだったか？
２年生は７３７人で１００位だから相当だな。

とりあえず……やっぱりこっちの方が良いかな？
ポケットから出てくる小さな杖
玩具みたいだが、こんなのでも立派な触媒だ。

「ほら、最初はその杖を持て」

近衛に杖を渡す
……キラキラとした目で杖を見るな、鬱陶しい。

「か、かわええ……」

先に星形の物が付いてるしな
女の子はこういうのが好きそうだなぁ……

俺は俺で、３枚のカードを持つ
必要な物は当然、場所と時間と知識。

「来れ（アデアット）」

先日と同じく、無駄に広大な世界が広がる
無限抱擁の効果は強力だなぁ……
どこまで広い場所なんだか。

「おー……」

「ここなら魔力も漏れない
術者が解かない限り消えない閉鎖空間だからな
弱点はここに誰かを永遠に閉じ込める事とかができない事か……
術者も中に居ないと結界の維持ができないのでな」

ま、中に食料とかを持ち込んで
数日間の間、相手を放置
相手が餓死するまで待つという手段が有るが。

世界図絵を開く
教えるにはこれが無いとどうしようもできないな
俺自身には殆ど知識が無いんだし。

「先ず、魔法を使うには呪文が必要だ
別に使わなくても魔法を使う技術は有るが
それは高等技術なのでそれは置いておく」

「呪文ってやっぱ
ピリカピリラ……」

「待て、それは色んな意味で拙いから止めろ！
お前は魔法の店でも開くつもりか！？」

「なら、汝のあるべき姿……」

「違う！
凶悪なカードなんかばらまかれていないだろうが！」

「テクマクマヤ」

「しつこい！
何に変身するつもりだ！？」

「むぅ……憎悪の空より来たり」

「何故知っている！？
そんな物を召喚してどうするつもりだ！？」

「悪夢の王の一片よ　世界の戒めに解き放たれ」

「お前はこの結界を破壊する気か！？
いつ魔王と契約したんだ！？」

「エロイム・エッサ」

「黒魔術にでも手を出すつもりか！？
いい加減に止めないと怒るぞ！？」

怒るという言葉に反応したのか、いい加減に止める近衛
ネタ発言をするなとは言わんが、時と場合を考えてくれ……

「呪文というのはだな
言霊……つまり言葉に魔力を乗せる儀式のようなものだ
言霊とは正式には違うが、こちらの方が分かりやすいだろう？

魔法の場合は呪文、陰陽術の場合は言霊と言い方を使い分けると良いだろうな」

実際、呪文と言霊に違いは殆ど無いし
言い方なんてどっちでも構わないんだがな。

「初級の炎を灯す魔法
最初はこれから練習する事が多いらしい
呪文の前には始動キーという、準備の為の呪文が必要だ
これは個人で好きに決められるらしいが……初心者はまだ設定する必要は無いな
初心者用の始動キーはプラクテ・ビギ・ナルだ
これを呪文の前に唱え、その後に使いたい魔法の呪文を唱えるとりあえず、杖を持って始動キー
そして小さな火を出す魔法、火よ灯れと言ってみろ」

「はいな！
プラクデ・ビグ・ナル　火よ灯れ！」

沈黙がこの無限抱擁を支配する
そもそも、始動キーから間違ってるぞ？

「始動キーはプラクテ・ビギ・ナルだ」

「ちょ、ちょっと間違えただけやん
プラクテ・ビギ・ナル　火よ灯れ！」

再び沈黙が世界を包む
最初から成功させたらどれだけの天才だよ……

「で……でぇへん」

「当たり前だ
初めてで成功したら天才なんてものじゃないだろうが
アドバイスとして、イメージをする事だな
杖の先に炎が灯るイメージをし、力を集めるようにしてみろ
血筋的な意味で馬鹿みたいに無駄な才能を持っているであろう近衛だ
何か切欠が有れば簡単に成功させられるはずだ」

「そういう言い方されるんは嫌なんやけど……事実やもんな
なんや血筋で贔屓されているみたいで気分悪いわぁ」

そうそう、そうやって反発しろ
教育の基本は飴と鞭だからな
教える時はとことん厳しくさせてもらうぞ。

「プラクテ・ビギ・ナル　火よ灯れ！」

……おい、マジか？
2回目で杖先が僅かに光るって……
近衛は本物の才能の塊なんだな。

俺だって教える立場になると予想していたんだぞ？
ちゃんと自分でもできるか試したんだぞ？
この無限抱擁と時の回廊の中で体感で5時間は練習したんだぞ？
それでもできなかったぐらい、俺には無才能だったんだが……
凡人と天才の違いか……俺の苦労はなんだったんだ？

「今、今光ったやんな！？」

「気のせいだろ
気合だけでどうにかなるんだったら世話無いな
もっと集中して、落ち着いてしてみろ
深呼吸をして、目を閉じて、集中して
そして呪文を唱えてみろ
ムキになったりしていてもできるものじゃないぞ」

僅かにできていたけどな
光った程度では成功とは言えん
ちゃんと火が出てくるまで叩き続けてやる。

「すぅー……はぁー……
……落ち着いて、集中して……
プラクテ・ビギ・ナル　火よ灯れ！」

おーい……成功ってどういう事だ？
天性の超天才児か？
まぁ、本人は目を閉じているから気付いていないが……よし。

杖先を手で叩く
ライター程度の火だ、アッサリと消える
火傷もしないぐらい一瞬だったから熱くもなかった。

「ひゃぁ！
な、なんで手を叩くん！？」

「集中し過ぎて目を開けなかったからだ
集中力は良かったが、周りを見ないのはどうかと思うぞ？」

「はーい

……プラクテ・ビギ・ナル　火よ灯れ！」

今度こそ、目を開けて成功
火こそは小さいものの、成功には違い無い。

「火や！
堅守先生、火が出たで！」

「出たなぁ……集中力が凄かったのか？
凄いな、まさか4回目で成功するとは思わなかった」

本当は3回目で形になっていたがな
だが、完成度は3回目を軽く上回っている
成功という意味ではこれで本当に成功だろうな。

「堅守先生はどれぐらい掛かったん？」

「俺か？
俺には才能も魔力も血筋も何も無いからな
6時間練習してやっと光が出てきた
近衛ぐらいになったのは……8時間ぐらい掛かったかな？」

「は……8時間？」

「ぶっ通しでした訳じゃないけどな」

それに体感時間だけで表の時間では1時間も経ってないしな
体感速度は超加速的に上がっているが、それは無限抱擁の速度が上がっているだけ
体感速度しか上がっていない世界の中に入っている肉体は鍛えられ

ない
もっとも、精神的にはかなり鍛えられたがな。
たった1人で真っ白な世界に閉じ込められる……
正直に言って狂うかと思えたな
誰とも話さず、会わず、ただひたすら練習
4時間経った頃に現実時間に戻って食事をしたが……無言だったしな。

「俺が凡人、近衛は天才
才能の有無がよく分かる世界だな、魔法はそういう意味でも俺は魔法は好かないな」

「不公平やから？」

「よく分かってるじゃないか、その通りだ
近衛からしたら実感は無いだろうが
俺からしたら8時間も掛けて習得した技術を3分も掛からずに使えるようになったんだぞ？
これほど理不尽な事が有るか……誰でも嫉妬する」

近衛が魔法とかを使えなくて良かった……
家族が馬鹿なおかげで俺色に近衛を染められる
ピーキーでマニアックな成長を目指すか
誰にも近衛の戦い方が真似できないような……な。

「……ウチ、どれだけ恵まれとるんやろう？」

「さぁな
少なくとも家柄、血筋、才能、魔力、頭脳

殆どあらゆる物に恵まれているだろうな
が、それ故に自由が無い……か」

「世の中、不公平やけど均等が取れとるんやな」

「ま、そういう事だな
分かったら練習をしろ、練習を
1回成功しただけで習得したとは言えん
集中しなくても成功するぐらいまでできて1人前だ
俺はそこまでできないがな……半人前以下だ」

ここまで差が有ると嫉妬もできん
というか……静かにして、集中して、心を落ち着けて
そこまでしてようやく出てきたのが近衛の3回目だからな
近衛の1回は俺の2時間に相当する……か、呆れて何も言えん。

「そ、そないに落ち込まんでも……
魔法とかに得意な属性とか有るんやないん?
それやったらきっと堅守先生でもいけるんやないかな?」

「そうは言うがな……
初心者用の初歩もまともにできていないのに属性魔法か?
基本ができない奴が応用なんでできるはずが無いだろ」

「あぅ……が、頑張ってな!」

子供に慰められる俺って……
それに、俺が使いたい魔法は属性魔法じゃないし
合わないとは思うが……それでもどうにかしないとな。

「ほら、今は自分の事を考えろ
初級魔法は今日中に覚えられるだけ、使えるだけ
可能な限り詰め込むからな」

「初日から難易度高ない！？」

「大丈夫だ、近衛ならできる
俺はそう信じてる」

才能的な意味で、間違っても努力的な意味ではないが、近衛はそれに気付かずに嬉しそうな顔をする
正確には、そういう言い方をしただけなんだがな。

これが飴なんだよな
鞭は必要以上に厳しくするだけでも十分
近衛への飴は信用……これが効果的だろうな。

近衛は俺の味方になると決めた
当然、今まで家族だった祖父や親を裏切ってだ
ならば近衛は現在、立場や実情はともかくとして
心理的に孤独な状態だ。

そんな近衛に与えるべきは信用や信頼
更に頼れる年上に信用できる相手
前者2つは与える物、後者2つは近衛自身の気持ち
飴として前者を、鞭として後者を近衛に与えれば良い。

鞭で頼れる年上や信用できる相手となれるのかと問われれば、可能だ
近衛は家族に何も話して貰えなかったという過去が有る
しかし、俺はどんなに悲しい事でも酷い事でも無遠慮に言う

何も知らない事を嫌がる近衛には、それが嬉しいんだろうな……
下手に隠したり、誤魔化すと嫌がるだろうし。

飴は言うまでも無い、絶対に必須だな
飴も無しに鞭だけを与えていては逃げられる
逃げられないように、優しい言葉や喜ぶ言葉を与えてやる
故に、近衛は褒めてもらう為に努力をし、達成感を得る
厳しかった鞭の言葉が有るから、嬉しさも割増しだな。

近衛はお手軽で助かるなぁ
少し声を掛けるだけで勝手に努力してくれるし
場合に依っては、何か物で釣る事も考えたが……
そんな物が無くても、自分で動いてくれるのは助かる。

……
……
……

無限抱擁の中、体感時間で2時間経過
近衛の魔法に関しての才能を甘く見ていた結果……甘すぎたようだ。

「プラクテ・ビギ・ナル　風よ！」

小さな風、いや……既に小さな突風と言える物が巻き起こる
少し離れた場所に置いておいた魔法銃（約１ｋｇぐらいの物）が１０ｃｍぐらい移動した
魔力での力任せな風な気もするが……多分、気のせいじゃない。

この女……たった2時間でここまでになるのか？
炎（火種）、風（突風）、水（水流）、氷（氷塊）、光（光球）が

使えるようになりやがった
確かに炎や光は数秒しか保たない、水だってコップ1杯分程度の量を出しただけ
氷とて片手で持てる程度の大きさだし、風は軽い物を少し動かしただけ。

ある程度魔法が使える者から見たら簡単だろうと言うだろう
だが、近衛は今日始めたばかりなんだぞ?
いくら魔法使いとしての魔力とか素質とか才能という下準備が有るとはいえ……
そしてある程度成長し、本を読んでいるからかイメージが固まりやすい
ここまで揃えば確かに魔法使いの申し子と言えるぐらいの存在だろう。

しかしそれでもこれは……おかしくないか?
体感時間でたったの2時間ぐらいだぞ?
外の時間ではまだ1時間どころか、10分も経ってないんだぞ?
時の回廊の効果を最大まで使って遅くしているとはいえ……

俺の……炎の魔法に使った8時間はなんだったんだろうな?
才能とは、ここまで巨大な壁を作り出す存在なのか?
不公平なんてレベルじゃないだろう、これは
適正が天と地、月とスッポン、天国と地獄、赤ん坊と寿命死ぐらい違うんじゃないか?

数字で表すと、俺は1で近衛は100000ぐらいか?
遊戯王世界で言うなら遊戯王を知った直後の6歳児と王様ぐらいの差?
攻撃力500以下の通常モンスターのみで組んだデッキと覇王とい

うぐらいの差か？
初期ライフ１００と１０００００００ぐらいで勝てというぐらいの差か？
んな無茶な……寧ろ、どうやったら勝てるのか教えてほしいぐらいだ。

それはさておき、近衛の才能は凄まじいなんてものじゃない
俺程度が教えていても、明日には限界だろうな
さて……どうするか悩むな。

「さて近衛
今日はもう終わりにしよう
疲れただろう？」

「えー……ウチ、もっと練習したいんやけど
やっとコツというか……慣れてきてん
このままの調子で頑張っていきたいんやけど」

「却下だ
それに、この空間と時間操作には巨大な弱点が有る」

「弱点？」

そう、弱点
これを忘れているととんでもない事になる。

「１つ、脳内の時間感覚が狂う
表の時間とこの空間との時間は一緒に進んでいないからな
２つ、そもそも俺達は時間の速い空間に居るのではない
体感時間が凄まじく速いだけ、体は通常空間は然程変わりが無い」

「えっと……つまり？」

「１つ目は体はともかく、頭の中での時間が狂うという事はだ
例えば近衛が普段２２時に寝ているとしよう
しかし、この空間内で2時間の時を過ごしている
だから実際の時間で２０時が２２時と脳が判断する
体は本来影響を受けないが、脳が眠いと訴えてくるだろうな
普段の通りにしようと脳が決め、体にそういう判断をするように命令をする
すると体も眠る時間だと判断し、２０時には……遅くても２１時には急激に眠くなるだろう」

実体験だがな
この空間で合計２４時間を過ごして強引に元に戻したが
それでもあの中途半端な状態は辛かった……

「２つ目は脳と体は違うと、１つ目の時に言ったな？
つまり、この空間内で体を動かせば動かす程、筋肉が使われる
しかし体感時間ではあまり影響は無いが
元の時間空間に戻ると体への負担が一気に襲いかかる
簡単に言うと、急に体を凄まじく動かしたような感じに疲れる
近衛は何回杖を振る動きをしたかな？」

「……腕にめっちゃ負担が掛かっとるって事？」

「その通りだ
これは基本的に自然治癒でしか回復しない、筋肉痛だからな
嫌なら、普段から体を鍛えておくんだな
そうする事で最後の負担はかなり抑えられる」

俺の魔法触媒は杖じゃなくて指輪だから振る必要は無いけどな
殆ど動かず、座って呪文を唱えていただけだし
顎が急に怠くなったが、それぐらいしか影響は無かったな。

「そもそも、この空間は外から強制的に速度を上げている
中に居る人間が影響を受けている俺達だけだから実感は無いんだが
もしここに影響を受けていない者が入った場合
その無影響の奴を見た時、俺達からは凄まじく遅く見えるんだ
簡単に言うなら俺達はチーターで相手が亀ぐらいの違いが出てくる」

「そんな出るん!?」

「他の弱点はあまりこの空間に居ると目が慣れてくる事だろうな
今も言ったが、体感速度が全く違う場所に俺達は居るんだ
脳がこれを覚えると、普段有る物の全てが遅く感じるはずだ
俺が最初の方、炎の魔法を覚える為に8時間も使ったと言っただろう?
この空間に居すぎて目が慣れたせいか
出てきて外を見た瞬間、見える光景と感覚が合わなかった
おかげで速い物が遅く見えたり、遅い物が速く見えたりと……凄まじく混乱した」

反射神経が強制的に鍛えられるとも言えるがな
ま、こんな事で得られた反射神経なんて一時的な錯覚だがな
1日も有れば回復するし、全く信用できないから使えない。

「1日も有れば回復するからあまり気にする必要は無いが
それでも視界に違和感を感じたまま生活するのは辛いぞ?」

全ての動きがガッタガタ
聞こえてくる音も不安定でもう……疲れた
不協和音にしか聞こえん。

「ウチ……我慢するわ」

「それが賢明だ」

脅迫する為のネタはまだまだ有ったんだがな
体は殆ど影響を受けないという点から
休憩として食事を何度も摂っていると……太るとか。

「去れ（アベアット）」

空間も、時間も消滅する
出てきた場所は、当然俺の部屋。

「たった1言で全部消えるんやなんて便利やなぁ……
この道具とか、どうやって手に入れたん？」

「さぁな
さて、今日の魔法の練習の時間はこれで終わりだ」

さて、次の準備っと。

「来れ（アデアット）」

取り出すは大きなボロ布……天狗之隠蓑
それを自分と近衛を巻き込むようにかぶせる。

「な、なんなん？」

近衛が疑問に思っているが無視
そして全身が布に覆われた瞬間……辺りの景色が和風の家に変わった。

「……家？」

「そうだな、家だな
さて、ここの中に入れば外からは誰も入れない
……布の中に入られない限りな
ま、この布は他の景色と一体化するような色
つまり保護色のような形になるから気付ける奴は滅多に居ないだろうがな」

いや、本当にここは便利だな
色々と使い道が多くて助かる。

「さて、次は勉強の時間だ
東洋の呪術や御札製作、召喚の実験だな
召喚の実験は無限抱擁の中でするがな」

ま、今日だけでそこまで進むとは……多分無いはず
近衛の才能を甘く見るわけじゃないが、そこまではできないと思う
最初の御札製作だけで終わるかなぁ……無理だろうなぁ。

「はいな、先生
御札製作とか召喚はええんやけど
呪術とか、ウチは使いたない！」

「却下だ、呪術は何が何でも覚えてもらう
呪術が使えない内は、例えどれだけ優秀でも半人前だ
いや、半人前以下の半人前の半人前の半人前以下だ」

「そこまで！？」

嘘だけどな
実際、呪術に手を染めない人間の方が多いだろうし
何せ……呪い返しとかを受けたら洒落にならないからな。

「さすがに最初から呪術に手を出したりしないから安心しろ
最初は先ず、陰陽術……陰陽道からだ
これは大きく分けて２つに分類される」

「２つ？
陰陽術なんやから１つやないん？」

「魔法にも属性が有るだろう？
それと似たような物だ
魔法とは属性がある程度違うがな」

近衛に世界図絵の陰陽道の場所を開き、見せる
言語は本来難しいが、自動翻訳のおかげで助かる。

「陰陽道は陰陽思想と五行思想の２つに大きく分けられる
細かく言うともっと有るし、その２つに分けられないのも有るがな
しかし、基本はその２つだから気にしなくても構わない」

「そんなにその２つの割合が大きいん？」

「いや、基本だからだ
東洋の術の数は魔法を遙かに超えるからな
それだけ魔法よりも遙かに歴史を刻んでいると言える
何せ、中国から日本に陰陽道が伝わってきたのは5世紀ぐらい
つまり西暦４０１年から５００年ぐらいに日本に渡ってきたんだ
なお、始まったのは中国の殷の時代……つまり紀元前１１世紀ぐらい
いから生まれた
簡単に言うと……今は２００２年だから３０００年ぐらい前に誕生
した事になるな」

「３０００年て……そんなに古いん？
陰陽道って歴史が凄いねんなぁ」

「その通りだ、昨日も話した事なんだが
魔法使いが陰陽師の多い京都を滅ぼそうとしない理由の件
日本だけでも１５００年近くも前から存在している術式だ
そんな歴史の有る、呪いまで存在する相手だぞ？
誰が好き好んでそんな歴史の有る凶悪な相手と敵対したいか
多少寂れているとはいえ、長い歴史の中で生き残っているんだ
陰陽道が魔法使いに滅ぼされないのは、長い歴史に裏打ちされた歴
史の存在が怖いからだ
長い歴史でも消えない術はそれだけ脅威という事だ」

魔法使いが陰陽術に怯えないようにする方法は１つだけ
どんな手段を使ってでも、陰陽師達を全て殺す事だ
しかし……世の中、どこにでも裏は有る
例え全滅させたと思っても、必ず生き残りは出てくる。

呪いは感情で効果が強くなる事が多い
それは怨念などの負の感情が込められるからだ

魔法の場合はあまり感情に左右されないがな、成功率はともかく。
しかも陰陽師は霊術に携わっている事も多い
つまり、悪霊とかになって出てきたら魔法使いに対処できない
この世界なんだ、悪霊とか居ても全く不思議じゃないしな
そういう意味でも、魔法使いは陰陽師を全滅させる事は不可能だ
世の中、変な場所でバランスが取れているという良い例かもしれない。

「まぁ、陰陽道の歴史はともかく
陰陽術は陰陽五行思想という物が存在している
これはさっき言った、陰陽術と五行を合わせた考え方だ
正直に言うと、分ける必要は無いんだが……序盤は分けた方が分かりやすいだろう
陰陽と五行を魔法で言う光と闇が陰陽
水、風、地、炎、氷、雷などの自然が五行と似たような立場になる
細かく言うと五行と陰陽はとても深い関係が有ってだな」

「あのー……堅守先生？
そこら辺はもうええから」

「知識は重要だ、特にこの陰陽術に関してはな
魔法は知識が無くても、感覚でどうにかなる事は多い
しかし、陰陽術は知識が必要不可欠だ
例えるなら雨の日、魔法でなら簡単に炎は出せる
しかし陰陽術では炎や金を出す難易度が凄まじく上がる
そして魔法で水の魔法を使っても効果は殆ど変わらない
だが陰陽術で水や木の術を使うと威力が桁違いに跳ね上がる
陰陽術はとにかくデリケートでな、場所に限定されたりもするぐらいだ

故に、使う為の知識が無いと術を覚えても使えなくなるかもしれない」

「……それって欠陥術やないん？
威力が左右されるて、めっちゃ面倒やん」

「だから、陰陽術は縮小されて魔法使いが巨大になってるんだよ
魔法に比べたら難易度が数倍以上だからな
覚える事も、魔法の数倍……数十倍以上の知識が必要になる
歴史が長いという事は、それだけ覚える事が多いという事だ」

さすがにこれは俺も辛い
俺の頭にも、どれだけ入るか……
こういう事は好きだから努力はする
しかし教えるとなるとまた大変だな。

「それに……大変だと知って両方と言ったのは近衛だ
投げ出しても俺は構わんぞ、根性無し」

「わ、分かっとる！
覚えへんなんて言うとらんやんか！
ウチは絶対に負けへん、絶対に全部覚えたる！」

近衛は本当に楽だなぁ
家庭問題が原因で相当な意地を持ってるし
決めたら真っ直ぐだし、素直だし
だから簡単に挑発に……乗るのは問題なんだがな。

戦いの心得みたいな物は追々教えていくか
……俺より適任を探した方が良いんだろうけどな

魔法の件といい、頭が痛くなりそうだ……

「では授業を続けよう
陰陽術の陰陽とはそもそもだ」

……

……

……

「五行には陰陽として甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸と分けられる
音読みでは五行とも、陰陽ともどう関係が有る言葉か分からないだろう？
しかし、これを訓読みにすると大きく変わる
きのえ、きのと、ひのえ、ひのと、つちのえ、つちのと、かのえ、かのと、みずのえ、みずのと
きのとは、五行の木を表している
そして陰陽としては　え　が陽で　と　が陰を表している
同じようにひのとは火、つちのとは土、みずのとは水を表しているかのは特殊でな、それは金を表しているんだ
故に、五行にも陰陽が存在してだな」

……

……

……

「陰と陽の関係なんだが、これは基本的に相反する存在の事を言う
例えるなら光と闇、天と地、善と悪、男と女、吉と凶などなどだ
陰だけ、または陽だけの存在は世の中には存在せず、必ず何か逆の

性質を持つ物は存在する
世界はこの陰陽と五行が合わさり、陰陽五行思想という考えが生まれてきたんだ」

……
……
……

「五行には相性と相剋が有るんだ
相性とは、相手の要素を補い、強くする関係だ
逆に相手の要素を抑え、弱くする事を相剋と呼ぶ
しかし、相性が常に良い、相剋が常に悪いという考えは捨てておけ
何事にも必ず例外は存在しているのだからな、そして相性なんだが
木は火を生じ、火は土を生じ、土は金を生じ、金は水を生じ、水は木を生じる
この関係を五行相性と呼ぶ、具体的に意味を言うと
木は燃えて火となり、火が燃えた後は灰……つまり土となる
土が集まりて山となった場所からは鉱物……つまり金ができる
金は腐植すると水に帰り、水は木を成長させる
このような形で木→火→土→金→水→木→火という形で回転していく
食物連鎖のような関係と思えば分かりやすいかな？　次に相剋だが
水は火に勝ち、火は金に勝ち、金は木に勝ち、木は土に勝ち、土は水に勝つ
この関係を五行相剋と呼ぶ、具体的に意味を言うと
水は火を消し、火は金を溶かし、金でできた物は木を切り倒す
木は土を押しのけて生長し、土は水の流れをせき止める
こんな感じで水は火に、火は金に、金は木に、木は土に、土は水に影響を与え弱める
五行相剋はこういう関係の事を呼ぶんだ」

……
……
……

「さて、今日はこれぐらいにしておくか」

「あ……ありが……と……ございました……」

ふぅ……話し過ぎたかな？
今の時間は……ふむ、2時間経っていたか
まだまだ知識の面で言い足りない事が多いがな
今回はこれで終わりにしておこう。

「どうした近衛？」

「ごめんな、堅守先生
ちょっとウチの頭で今の全部理解するんは無理やわ」

「あぁ、最初から期待していないから大丈夫だ
陰陽術の本、翻訳されている本を渡すから自習しておけ」

「なら……なんで全部話したん？」

「言葉にする事に意味が有る
前も話したが、呪文とは言霊を操る事でな
そもそも言霊というのは……」

「もうええ！
お願いやからもう休ませてほしいんよ！」

ふむ、少し話しすぎたかな？
夢中になるとこれだからいかん
半分は趣味の話だったからな、どうも止まらなかった。

「なら近衛、今日はもう帰って休め
相当頭を使っただろう？
魔法件も有るんだ、体はしっかりと休めておけ」

「はーい（やっと……やっと終わった
自分で言い出した事やけど……最初から全力全快や
手加減、全くしてくれへん
ウチ……初心者なのに無遠慮ってどういう事なん？）」

俺も、少し休んだ方がいいかな？
ずっと教えっぱなしだったし。

いや、それより明日の授業だ
明日は出勤するからな
だからできる事はしておかないと……

俺と近衛は天狗之隠蓑から出る
懐かしき我が部屋……たったの2時間程度だが。

「去れ（アベアット）」

天狗之隠蓑を消し、体を伸ばす
ずっと体を動かさなかったからな
体を動かすと嫌な音が鳴りそうだ。

「じゃあ先生、また明日な」

「あぁ、また明日」

近衛は帰り……って、もう昼過ぎか

昼飯は何を食おうかなぁっと。

7話【近衛木乃香の選択肢】（後書き）

瑞貴の言う魔法と陰陽術の違いって？
主観です
捏造設定も有るので注意。

両方って……それってどっちからも非難されない？
その可能性は高いでしょう
しかし、それも選択肢の１つです
実際、そう都合良くはならないでしょうが
それでも瑞貴の言う通りになる可能性も有ります。

木乃香が逃げるって言ってるけどいいの？
大丈夫です
木乃香が逃げても囮にして自分も逃げるので。

木乃香が言っている呪文って……
察してください。

木乃香が……天才過ぎる！
いや、そんなイメージができたので何故かこうなりました。

魔法に振り仮名は無いの？
ありません、面倒なので。

でも、原作ではそんなに天才でもなかったよね？（多分）
集中力と動機の違いかと
漫画８巻６４時間目を見る限りでは
半分近くは遊んでいるだけみたいに見えますし。

瑞貴……才能が皆無なんだね
全くありません、魔力も無いので余計に駄目です
瑞貴は魔法使いにも、気の使い手にも絶対になれません
それぐらい駄目で駄目で駄目な人間です。

瑞貴が火よ灯れの魔法が使えるようになったのって、結局どれぐらいなの？
無反応が5時間、少し光った所までが6時間目
そして小さな火が出てきたのは8時間目です
つまり、それだけ瑞貴の才能が全く無いという事です。

瑞貴の教え方が酷い……
この程度で酷いのは無いでしょう。

ピーキーでマニアックな成長って……
それができる程、木乃香には才能が有るのかと
更に瑞貴は普通で終わらせてはおもしろくないと思っています
本気禁止制限決闘での話になりますが
レイや玲のデッキがピーキーでマニアックなのはそういう理由です。

瑞貴が使いたい魔法って何？
身体強化です
が、才能が無いので半分諦めています。

時間感覚のって？
捏造設定
でなければ絶対にここから出てきません
そしてここで鍛えます、絶対に
それを防ぐ為の設定です。

陰陽術の事って……
Ｗｉｋｉｐｅｄｉａ参照
一部捏造設定。

ツイッター、でも言う事は無い
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ_ｋｕｒｉａ
言っている事も無い、苦手だから。

8話【代理授業】（前書き）

長々と待たせてごめんなさい
某サイトで長編動画を観ていたら１０時間ぐらい経っていました
まさかこんなに掛かるとは……
それ以外にも漫画を読んだりと寄り道が多かったです
……自由時間ぐらい良いよね？

そういえばネギま！の曲ってあまり知らないんですよね
ネギま！で良い作業用ＢＧＭを知りませんか？
教えてくれると助かります、戦闘系曲だと嬉しいなぁ。

今回も相変わらずの瑞貴です、色んな意味で
そして最後は衝撃の……今後がどうなるか相当謎です
相変わらず駆け足でぶっ飛んでいますが……これで良いのか作者？
多分良くないですが、まぁ頑張ります。

次回は来週ぐらいには投稿したいかも
無理だったら無理でどうしようも無い
自由時間が最近少ないからしたい事が多すぎる！
うーん……とりあえず眠い！

8話【代理授業】

視点　瑞貴

5時……朝か、早起きし過ぎた
今日から復帰して授業だな
はぁ、また子守か……嫌だなぁ。

準備とかも有るから今日はさっさと行くか
6時ぐらいだったらもう学園も開いてるだろうし。

準備をさっさと終わらし、学園へ向かう
仕事だからな、真面目にしないと。

……

……

……

さて、6時に学園に着いたんだが……凄いな
授業まではまだ2時間近く有るのにもうクラブ活動している奴がそこそこ
クラブなんてした事が無いから分からんが
午前6時にはクラブ活動ってこれが普通なのか？

まぁ、そんな事はどうでもいい
さっさと授業の準備をしないと……

職員室に入るも、誰も居なかった

クラブの顧問としてクラブを見に行っているのか
それとも俺が最初なだけなのか……どっちでもいいか。

暫く仕事をしていると数名の教師が入って来る
軽く挨拶をし、仕事を続ける
一応心配してくれたらしいが……なんだか申し訳無いな。

しかし同じように大丈夫かと何度も訊かれるのは鬱陶しい
さすがに邪険にはしないが……同じ回答を繰り返すのは疲れる。

そんな感じで気付けばそろそろＳＨＲの時間か
さて、そろそろ教室に行くか
仕事は全部を終わらせられなかったが大丈夫だろう。

罠は……警戒しておくべきだな
何が有るか分からん
近衛は生徒達は反省していたと言っていたが……信じられん。

ドアをよく確認してみると……また黒板消しトラップか
さすがにもう引っかからん
ドアを開け、黒板消しを落とす。

落ちた黒板消しトラップに視線を向け、そのまま先を見る
教壇までに紐が……転かす為の罠か
残念ながらもうそんな罠に引っかからん！

紐に足を取られないように注意しながら教壇に向かう
しかしもう大丈夫だと油断したのが運の尽き
下ばかり見ていて上を見ていなかった……

「ぐ！　いっだぁ！」

つまり、上の方に有った紐に首が引っかかる
弾力が強く、反発力で跳ね返されて後ろに倒れてしまった
しかも後頭部を打った、これは……痛い！

そして笑う生徒達
やっぱり反省なんぞしていないか……この糞ガキ共は！

さっさと立ち上がり、教壇に向かう
しかし怒りで足元を見ていなかった
下に張ってあった紐に引っかかり倒れる。

「ぐ……」

再び起こる爆笑
これを我慢しろというのは無理だな
俺は怒っても許されると思う！

驚いていた顔をしていた生徒が近衛、神楽坂の2人
この2人、特に近衛が知らないという事は……遅刻寸前にでも来たのか？
困っているのは雪広、宮崎……困るぐらいだったら止めてくれ
そして桜咲にマクダウェル、その情けないという顔を止めろ……貴様らにされると頭にクる！
誰にされても頭にクるが、お前らにされると相当だ！

立ち上がり、ポケットから精神安定剤を出す
鞄から水筒を出し、薬と一緒に飲む。

いかんいかん、怒りたい気持ちは強いが我慢しろ
あんなのを相手にしていたら調子に乗る
反応が楽しいからこんな事をするんだ、我慢しろ！

「今日は高畑教員は出張にて居ない
では出席を確認する」

授業開始１０分ぐらい前に他の教員に訊いてみたら……出張だと？
しかも昨日から……どうせ魔法世界に行ってるんだろ
ったく、そんな事をするんだったら教師なんてするなよ
俺が苦労するだろうが、お前も子守をしろ！

「堅守先生ー、さっきの薬ってなに？」

「相坂……明石」

「え、無視？」

当たり前だろうが、答えてやる義理は無い
誰のせいで飲んでいると思ってるんだ？
言った程度で止めるんだったらとうの昔に止めているだろうし。

「では数学の授業を始める
その前に、先週に出していた宿題を提出してもらおうか
１週間も有ったんだ、できていない者は居ないはずだ」

１０人ぐらいが視線を逸らす
ふん、最初から忘れていた奴らか
あっという顔をしてる奴は持ってきてない奴かな？

「持ってきている者は全員提出
忘れてきた者は明日持ってくる事
もし全員分の宿題が提出されない場合
最初に言った通り全員に課題を出す」

頭が痛そうな顔になるしていない者、約１０人
必死に勉強するんだな。

「では教科書４８ページを開くように
本当は先週の水曜から始めるつもりだったんだが先に進める
今日から1次関数の勉強に入るからな」

自覚の有るらしい、一部が目を逸らす
俺の風邪の原因は知っているんだな
知っているだけまだマシか……はぁ。

……

……

……

授業終了ー、終わった
最後の問題は7番柿崎と２２番鳴滝姉にしてもらった
残念ながら、柿崎は回答できなかったので宿題をする事になった
そりゃ習った直後の上に応用しないと正解できないから仕方無いか。

ま、柿崎は答えられなかった文句ぐらい言われてるかもな
俺にできる反撃ってこれぐらいしか無いんだよな……
責任を1人に負わせる事でクラスメイトから責められる
小さいと自覚はしている、これぐらいしかできないんだから仕方無い。

問題は……問題児ほど何故か頭が良い奴が多い
鳴滝姉妹なんて何故か頭が良いし、朝倉なんて……何故に？
問題児なら問題児らしく、馬鹿でいたら俺も楽なのに！

しかし……後頭部、瘤ができてそうだな
どうして俺がこんな目に……胃薬、飲んだ方がいいか？

……
……
……

昼休みの時間
２－Ａの後に３クラスの授業をしたが、２－Ａの直後だと全員が良い子に思える
まぁ当然、扱いは変えずに最後に答えられなかった場合は宿題だがな。

別に怨みも無いから八つ当たりみたいな形になるのは悪いとは思うがさすがに不公平はいかんだろう、厳しくしても全員同じようにするべきだし
怨むなら厳しくなった原因である２－Ａに言ってくれよ？

昼飯、さっさと食うか
仕事はまだまだ残ってるんだし
授業で受け取った宿題の答え合わせもしないとな
さすがに担当クラス５組、生徒人数１５０人近くだと大変だ
今回、提出された宿題は３０人分程度だがな。

昼飯を食べながらプリントを確認していく

さすがに1週間も経っている宿題
間違いなんて殆ど無く、割とよくできている。

しかし問題は明日だな
今日宿題を提出し忘れた先週の宿題
そして今日出した宿題で３００枚近くのプリントの確認か
明日の仕事は今日以上に忙しくなりそうだ。

今の内に終わらせられるだけ終わらせないと
明日に必要な分も終わらせて……帰るのは夜になりそうだな
こんな調子じゃ何もできんな、自由時間が無い。

でも、仕事は仕事だからな
手抜きをするのは嫌だ
どうやってストレスを晴らすか悩むな。

こんなのが毎日になるとストレスで倒れる
しかし大変なのは俺だけじゃないんだよな……はぁ
他の教師達も苦労してるんだし、俺も我慢するしか無いか。

まぁ、罠なんて仕掛ける生徒は２－Ａぐらいだろうけど
俺が入ったら必ず仕掛けられているってなんだ？
誰か殴らせろ、マジで、頼むから。

「あ、堅守先生
学園長から伝言を預かってきたよ」

瀬流彦教員……また嫌な予感しかしない
俺に何をさせる気なんだ？

「……なんでしょう？」

「6時間目の高畑先生の英語の授業
堅守先生が代わりにしてくれって
そういえば僕は知らないんだけど
堅守先生って英語はできるかな？」

嫌な予感的中
孫娘のお見合いを断られた上、止められた腹いせか？
それとも近衛が妙に俺に懐いているから気に入らない嫉妬か？
何にせよ、俺の居る学園のトップは碌な人間が居ないらしい。

遊戯王世界の校長はトラブルを引き寄せるは
まさか命の賭け事を任されるとは思わなかったし……
かと思ったらネギま！の学園長は道楽教師の親馬鹿ならぬ爺馬鹿
その上、魔法使いという禄でもない人間という……殴ってやりたい！

「英語はできます、しかし本職に比べたらお遊び程度です
それでも構わないのなら引き受けますが？」

仕事だから、上司の命令には逆らわない
そうじゃなければ……即答で拒否していたな
勝手に動いたりする奴には鎖でも掛けておけよ！
瀬流彦教員でも誰でもいいからあの爺を止めろ！

ついでに、本職とは言うが……
魔法教師は全員、魔法使いが本職だったな
つまり、学園長も本職じゃなくて副職という事だ
高畑教員が教師として微妙なのも仕方無い。

「そうかい？　ならお願いするよ
高畑先生が居ないし、他のクラスの授業が遅れると拙いからね
普段だったら他の人がするんだけど
やっぱり副担任がした方が彼女達も気楽だろうし」

あんたの目は節穴か？
気楽どころか俺を襲う気満々だろう、どう考えても
頼むから誰か俺をあのクラスから解放してくれよ……
はぁ……とりあえず、食事が済んだら英語のプリントでも作成するか。

ただ、どこまでしているか知らないんだよなぁ
基礎でもして、それから考えるか
この調子だと明日も英語の授業をする嵌めになりそうだし。

……
……
……

英語の教科書の予備を源教員から借り、英語の授業
プリントは間に合わなかったから教科書を使って適当にするか
……よく考えたら英語は俺の範疇外だよな？

という事は少しぐらい、俺の自由にしても許されるよな？
何せ、高畑教員も俺の授業で相当自由にしてくれたらしいし
しかもしたのは俺のプリントを使って少し解説
残りの時間は何をすればいいのかよく分からずに雑談とか。

しかも最初にしたのは瀬流彦教員だというから笑えない
高畑教員は瀬流彦教員からこうしたと聞き、真似しただけらしいし

となると……やはり魔法教師は駄目だ、所詮魔法使いという事だな
魔法使いとしての仕事を優先して教師の仕事を真面目にせん。

さて、再び教室に来たんだが……罠が無い？
朝の様子から反省したとは思えない
となると高畑教員だから……いや、朝に出張に行っていると教えたな
英語担当は源教員……さすがに女性である源教員を罠に引っかける
のは気が引けたか？

だが油断はできない、教室に入った瞬間に何かとかは遠慮したい
つまり、慎重に教室に入るべしという事だな。

教室のドアを開け、３秒ほど待つ
何も無いので教室内を見る事３秒
足元と天上に何か無いかと探す事３秒
少なくとも、目に見える範囲では何も無いと思い立つまで１秒
合計１０秒の時間を使い、ようやく教室に入る。

「あれ？　堅守先生？」

「チッ、堅守先生だったら……」

……小声で言ったみたいだが聞こえたぞ、鳴滝姉
最前列の廊下側の机、その外側とはいえすぐ近くだ
聞こえて当たり前だろうが、本人は聞かれた事に気付いていないみ
たいだが。

「高畑教員は出張中なので、代わりに俺が英語の授業をする
引き継ぎとか、何も説明されずに突然学園長から命令されたので状
況が分からん

誰か、授業の進行状況を教えてくれ」

学園長と俺が言った瞬間、近衛の顔が不機嫌になった
孫娘に相当嫌われたみたいだな、糞爺
それを知っているから俺に八つ当たりしてきたのか？
可能性が有るだけに、始末に困るな。

「堅守先生、今は不定詞をしとるで
まだ始めたばっかりやから基本やけど」

「そうか
不定詞は……教科書４３ページを開くように」

近衛は俺の機嫌を少しでもどうにかしようとしている
朝の件、頭が痛かったんだろうなぁ……許す気は無いが
というか、その程度で機嫌が良くなるはずが無い
更に言うならば、今更過ぎて意味が全く無い。

授業の進め方は基本的に数学と同じ
今回はプリントが無いから基本をしっかりと頭に刷り込む
数学と違い、英語は最後に復習とかをするよりも
何度か確認の問題をした方が良いだろう。

「では次の文を……和泉、桜咲、長谷川
お前達３人に訳してもらおうかな」

答えるのは５番、１５番、２５番の３人
桜咲は良い具合に１５番だからな
自然と回答数が多くなるのは仕方がない。

最初は和泉
Ｔｏ　ｓｔｕｄｙ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｉｓ　ｉｎｔｅｒｅｓｔｉｎｇ.
まぁ彼女の成績なら答えられるだろう
成績は丁度学年で真ん中辺りだし。

「えっと……勉強する英語……興味が有る？
英語の勉強に興味が有る？」

「近いが違う
この場合は英語を勉強する事が楽しいだ
ｔｏが入っている文章の読み方を
教科書をもう１度読み直す事」

「はーい」

成績が良くても、さすがにまだ始めたばかりでは難しいかとなると……和泉より成績が悪い２人には無理かな？

次の回答は桜咲
Ｉ　ｂｏｕｇｈｔ　ａ　ｂｏｏｋ　ｔｏ　ｒｅａｄ　ｏｎ　ｔｈｅ　ｔｒａｉｎ.
無理だろうな、桜咲は英語横文字とかは苦手だろうし
純日本人という感じだから仕方無い……とは言わんがな。

「私は……買った？
本を読む……電車？
……私は本を読む電車を買った？」

……それはさすがに無い

世界中を探してもそんな物は先ず無い
魔法道具で命を吹き込んで、更に本を読む趣味を持ったとか
長い年月で九十九神と化した本が以下同文
可能性が0とは言わんが、確かにお前は魔法関係者だが
それでもその回答は……どうなんだ？

「順番が違うな
正解は私は電車で読む為の本を買った、だ
そして不定詞がどんな物か、復習しておく事
和泉が既に間違えたんだから、少しでもそれを糧にしろ
他の人が間違えたなら自分は間違えないように少しは考えろ」

「……はい」

普通に生徒をしている時は、桜咲はマシなんだよなぁ
これが近衛と関わったらあんな過激になるとは……
そして近衛の隣の神楽坂、俺と桜咲を複雑そうな視線で見るな
鬱陶しいし、俺は覚えていないという事になっているんだぞ
もし、万が一桜咲が俺が魔法関係者だと疑ったらどうしてくれる。

そして最後は長谷川
Ｈｅ ｗｅｎｔ ｔｏ Ｅｎｇｌａｎｄ ｔｏ ｓｔｕｄｙ Ｅｎｇｌｉｓｈ.
しかし長谷川は前の2人が間違えているのをちゃんと糧としている
教科書を読み直し、単語に間違いが無いかと復習している。

「……彼は、英語を勉強する為にイングランドへ行きましただと思うんですけど」

「正解だ長谷川

別に即答をしろとかを言ったわけじゃない
時間が掛かっても構わないからゆっくり考えていけば良い
間違える事は構わないが、考えずに間違えても意味が無い
よく考えて、それで間違えた方がより覚えられる
間違えないに越した事は無いがな」

ほら桜咲、悔しそうな顔をするな
お前は寧ろもっと復習とかをしておけ
俺に怪我を負わせた後、反省もしていないだろうし
もっと勉強しろ、色んな意味で。

なんだかんだで授業は進み、授業終了まで残り僅か
後は5分ぐらいか……なら数学でもしている事をするか
黒板に文章を書き、生徒に訳してもらうか。

「最後は数学でもしている通りだ
これは数学と違い、俺の担当じゃないから宿題は出さない
それでも間違えないようにする事
時間が掛かっても構わないからよく考えろ」

俺が教室を見回すと殆どの生徒が目を逸らす
問題は難しく無いが、それでも嫌らしい
間違えたら宿題の数学の気持ちが抜けきっていないんだろうな。

「神楽坂、佐々木、葉加瀬の3人に答えてもらおう」

理由は8の倍数
8番の神楽坂、16番の佐々木、24番の葉加瀬
葉加瀬は学年2位だから全く問題無く回答できるだろうが
神楽坂と佐々木は……1年生の問題でも回答できるかどうか

成績下位の者とはそれぐらいまでに頭が悪いと、数学で思った。

「彼らはその山を登るとするでしょう」

即答だな、葉加瀬

Ｔｈｅｙ　ｗｉｌｌ　ｔｒｙ　ｔｏ　ｃｌｉｍｂ　ｔｈｅ　ｍｏｕｎｔａｉｎ.

問題はこれだから正解だし……まぁ当然か。

「葉加瀬は正解だ

神楽坂も佐々木も、焦らなくてもいいからな？

よく考えて、正解だと思ったら答えればいい」

ちなみに神楽坂は

Ｉ　ｗａｎｔ　ｔｏ　ｅａｔ　ｓｏｍｅｔｈｉｎｇ.

そして佐々木は

Ｓｈｅ　ｂｅｇａｎ　ｔｏ　ｃｏｏｋ　ｌｕｎｃｈ.

多分無理だろうなぁ……やっぱり。

「えーと……彼女はお昼ご飯を食べたい！」

「どこに食べたいと書いてあるか……違う、佐々木は不正解

単語を１つ１つ繋げてみるんだ、もう１回よく考えてみろ」

頭を悩ます佐々木の頭上から煙が……

出てはいないが、煙が出そうなぐらい顔が赤い

考え過ぎて知恵熱でも出てきそうなんじゃないか？

「単語を繋げるから……えっと……えっと……

彼女は……始める？　料理と……お昼ご飯かな？

彼女はお昼ご飯を……料理し始めた？」

「正解だ佐々木、よく頑張った
落ち着いて考えればそんなに難しい問題じゃない
ゆっくりでも構わないからよく考えるんだ」

「……はい！」

飴を与えるのも大変だ
やっぱり教育には飴と鞭が大事だな
佐々木の目がもしかしたら良い人？
とか思っていそうな勢いだ……元の印象が悪かったから余計にかな？

「この単語が……私は、で
この単語が……食べる？
だとするとこの単語は……なんだっけ？」

神楽坂、頑張ってるな
ただ教室の雰囲気はあまり良くない
何故なら既にチャイムが……あ、鳴った。

「あ、チャイム！
えっとえっと……私食べるする！？」

「神楽坂、別にチャイムが鳴ったからって急ぐ必要は無いぞ
どっちにしろ、次はＳＨＲだから俺のままだし
だからゆっくりと落ち着いて考えるんだ
単語は１つ抜けているが間違っていないんだ、後はどう繋げるか」

「う、うん……」

「神楽坂、返事ははいだ」

「は、はい！」

良い子だな、神楽坂は
急いでいるがちゃんと考えている
だから近衛、手伝いなんて無粋な真似はするなよ？
神楽坂は頑張っているんだからな。

「私は……何かを……食べたい？」

「正解だ神楽坂、よく最後まで自力で頑張った
慌てずによく考えて、習った事を思い出せば間違えるはずが無いんだ
間違って覚えた時を除いてだがな
テストとかの時はともかく、授業中は教科書を読みながら探しながらでも構わん
だから確実に１つ１つ答える事、分かるな？」

「はい！」

純粋だなぁ……神楽坂も佐々木も
和泉も良い子だったし長谷川も真面目で助かる
葉加瀬は頭が良いから楽で助かるし
桜咲は……不満そうな顔さえしなければ俺の気分も悪くならないんだがな。

「ではこれで授業は終了
このままＳＨＲ（スペシャルホームルーム）を始める」

「え、スペシャル？」

何人かが俺の言葉に疑問を持った

当然だな、ショートじゃなくてスペシャルなんだし。

「最初に連絡事項だが」

連絡する事は事前に覚えてきているから問題無い

本番はこの後だしな。

「最後に、全員に少し言いたい事が有るのでこのまま残ってもらう」

「なーにー？

もしかして私達の誰かに告白とか！」

「無いな、確実に、絶対に、全く、何が何でも、どう足掻いても

どう頑張っても、断言できる、確定しているぐらいに有り得ない」

調子に乗った早乙女の言葉を切り捨てる

全くの慈悲も無く、遠慮も無く傷付ける可能性も無視して切り捨てる

これにはさすがの２－Ａ生徒も嫌そうな顔をした

……近衛、お前は泣きそうな顔をするな、だがお前との恋愛なんて

俺はご免だ。

「堅守先生、さすがにそれは言い過ぎじゃない？」

「お前達を相手に

少しでも戸惑ったらすぐに騒ぐような奴には切り捨てた方が楽だ

実際、生徒に告白なんて馬鹿馬鹿しい事をするつもりは欠片も無い

無いとは思うが、告白なんてされても即答で断る、誰が相手でもな」

「堅守先生みたいな性悪な人を好きになる人なんて居ないよーっだ」

否定はしないが……早乙女
仮にも教師に向かってその言葉遣いは無いんじゃないか？
俺でも生徒の時はある程度敬語で話していたぞ
見た目の歳が近いから、調子に乗ってるのか？

「ウチは堅守先生の事、嫌いやないで？」

「あ、私も
堅守先生の事は嫌いなんかじゃないわよ」

フォローしてくれるのは嬉しいんだがな近衛に神楽坂
それを言ったら自分達が標的になるって分かってるのか？
そして桜咲、近衛の好意が少しでも俺に向けられたからって嫉妬するな
また襲われると思うと胃が痛くなるから睨むのを止めろ。

「おんやぁ？
もしかして木乃香と明日香は堅守先生の事が……」

「ウチ、嫌いやない言うただけやで？」

「私もよ
嫌いじゃないって言っただけ」

その通りだが、近衛は少し俺に影響を受けてるかな？
あまり付き合いは長くないのにここまで影響を受けるとは……
近衛は感受性が高いのか？

神楽坂は顔が赤いものの、近衛に合わせているから今は冷静だな
このまま突けば多分、爆発するだろう。

「馬鹿な会話をしていないで話を進ませろ
帰宅時間が遅れていくぞ
今日、どうしても外せない用事が無い者は帰っても構わんが
それ以外の者は全員残るように」

と言っても、お前らの歳でそんな奴は先ず居ない
バイトをしているのは神楽坂だけだが、彼女は早朝だけだし
それ以外の奴らはクラブ活動ぐらいだからどうしてもという事は無い
故に、誰も席を立たないが……

「何故逃げようとする、マクダウェル
用事が有るのなら内容を言ってからにしろ
面倒だからと、そんな我が儘は許さない」

「……チッ」

舌打ちをし、足音を荒げながら戻り、勢いよく椅子に座るマクダウェル
そう睨むな、俺は一般人だろう？
怒気をあんまり浴びていたら疲れるじゃないか。

あと、龍宮に桜咲、そして絡繰、春日、超、ついでに葉加瀬
俺がマクダウェルを止めたからってそんな馬鹿を見るような目は止めろ
何を考えているという考えまで読めるぐらいの顔をするな、腹が立つから。

しかしマクダウェルを止めて顔色を変えたという事は……魔法関係者だな
超や春日は知っていたが、葉加瀬は知らなかったな
龍宮はフリーの傭兵、桜咲は言わずもがな神鳴流剣士
絡繰は機械、春日は魔法使いの両親を持ったシスター……だよな？
超は過去の記録が無いから魔法関係者なのはほぼ確実だったし
葉加瀬だけが微妙だったんだよなぁ……絡繰に関係しているのは知っていたが
メンテナンスとかだけをしている可能性も有ったから微妙過ぎて……

「さて、これから話す事は先週の事からだ」

さぁ、お説教の時間の始まりだ
最低でも1時間は覚悟しろよ
さすがに俺も毎回罠を受けていたら体力が保たないんでな
ここらでそろそろ、ストップを掛けさせてもらう！

……
……
……

つい3時間も話し続けてしまった
まぁ説教には慣れているからこの程度で俺の喉は潰れたりしない
しかし……さすがに説教され慣れているこいつらも堪えたらしい
近衛以外はぐったりとしている。

何せ、寝そうになった者はアイアンクローをプレゼントしてやったからな
握力はそこまで無いが、男がしているんだ、少しは威力が有る
そしてアイアンクローが行われた後、同じ話が繰り返される

今回はアイアンクローが3回、逃げだそうとしたマグクダウェルで1回
最初を含めて合計5回同じ話を繰り返したなぁ……半泣きにまでなった奴数名、誰がとは言わないが。

近衛が平気なのは昨日の説明の件だろうな
昨日は濃すぎる内容だったからなぁ……
それに比べたら自分はあまり関係の無い説教はまだ楽なんだろう
一応、悪いとは思っているみたいだが。

「今日はここまで、雪広、挨拶」

「……起立」

のろのろと立ち上がる生徒達
その顔は暗かったり疲れ切っていたりと相当だ
説教は効果的だなぁ、副次的に俺のストレス発散にもなったようだしメインは今後トラップ作成を止めるように言う事だったしな。

「……礼」

「「「

今日は？」

小声……つまり魔法の授業を受けたいと？
しかし残念だったな、時間が無い！

「俺には仕事が有る、故に時間が無い
怨むんだったら説教の時間になった原因を怨むんだな」

「別に怨まへんけど……そっかぁ」

残念そうな顔をし、近衛は自分の席に戻って荷物を纏める
そして桜咲、何度も思っているが睨むな
近衛が少し質問に来ただけだろうが。

……マクダウェル、お前まで睨むな
俺は教師として悪戯を止めようとしただけだぞ？
以前もお前に言ったと思うが、止めない事も同罪だ
だから全員を巻き込んでしたんだろうが、説教中でもそれは言ったし。

これ以上ここに居ると面倒そうだ
俺はさっさと職員室に戻る
面倒だったのもそうだが、仕事が……仕事が溜まっている事を忘れていたんだよ！
３時間……これだけの時間が有ればどれだけ終わらせられたか！

急いで職員室に戻り、自分の席に座って仕事を始める
しかし廊下は走らない、当たり前の事
ドアは大きな音を立てずに静かに開け、慌てずに仕事をする
しかし、仕事の速度は慌てすぎと思われるぐらい急ぐ。

「堅守先生、随分遅かったですね」

「また罠を仕掛けられたので説教をしていました
連帯責任でクラス全員を相手にですが
そして仕事が溜まっているので話は後にさせてください
終電までに終わらせないと……」

「（クラス全員って……エヴァンジェリンさんも？）
て、手伝おうか？」

「気遣いは無用です、瀬流彦教員
こうなる事はある程度覚悟していましたし
言わば自業自得です、自分の仕事は自分でします
それに休んでいた分も取り返さないといけませんし」

心配してくれる新田教員を流し
手伝おうとした瀬流彦教員は切り捨てる
あんたも俺の仕事を増やしている原因なんだよ！
適当な授業をしやがって……修正が大変なんだ！
確かに休んだ俺が１番悪いんだろうが……はぁ、言い訳がましいか。

高畑教員はあと3日ぐらい居ないらしいし
となるとまた英語は俺がする可能性が高い
英語のプリントも作って、いやその前に数学の答え合わせを終わらせて
しかし俺の本業は数学教師、なら数学のプリントから作らないと。

今の場所は１次関数だから……比例と反比例もさっさとしておくか
序盤からある程度慣らしておかないと覚えるのが大変だろうし

鞭用の最後の問題は……飴用の問題も考えておかないと
となると次の授業内容は……こんな感じか？

……
……
……

終わったぁ……２３時だ
さすが休み明け、量が多いな
俺が最後だからな、職員室を閉めて帰るか
勤務時間終了、自由時間だぁー……帰ったら風呂に入って寝るだけだが。

これだけ疲れるんだ
英語もさせるんだったら給料を上乗せしてもらわないと割に合わない
給料を上げなくてもいいから英語を止めさせてくれると助かるんだがな
どうせ言っても無駄だろう、爺は愉快犯らしいし。

……俺は教員免許を持ってないんだがな
偽造でも作っておけよ、爺
当然、それを作ったら確実に逮捕だがな
既に逮捕できるぐらいの犯罪は犯しているだろうが。

まぁ、盗聴器なんて使っている俺が言う事じゃないか
早く学園長室に盗聴器を仕掛けたい……安心できん
あの爺の考えを少しでも知らないと困る
何をしでかすか……頭が痛い。

桜咲の件は大丈夫だろう

既に俺は魔法関係者では無いと思われているだろうし
近衛が寄ってくるのはのは自分から
それだけで俺に攻撃を仕掛けるのは難しい。

爺も桜咲も、高畑教員も瀬流彦教員も
俺が一般人だと思っているはず
つまり、もし俺を攻撃した場合はただの八つ当たりになり
前回のように様子見という言い訳ができない
そうなった場合、さすがの爺も桜咲を庇えないだろう。

つまり、俺が魔法関係者という証拠を桜咲が見つけない限り
桜咲は俺に手を出す事ができない
精々怒りで手を震わせているんだな
お前がどれだけ我慢しようと、近衛は勝手に俺の下へ来るぞ?

手を出したかったら手を出しても構わない
そうなれば爺も庇いきれない
分かっているからこそ、桜咲を安心して挑発できる
また何か近衛で嫌がらせをしてやろうかな?

下手に挑発し過ぎて殺されないようにしないとな
さすがの桜咲も殺しはしないだろうが
激情家っぽいからなぁ……完全に安心できないから怖い
挑発もそこそこにしておこう。

……

……

……

翌日の朝、チャイムの音で目が覚める

こんな朝から誰だよ……面倒な
時間は……5時か、まだ相当早い時間じゃないか？

仕方無いと思いながらも起き上がり、とりあえず玄関に向かう
誰だろうかと思っていたら……なんだ、近衛か
ドアの覗き穴から見たが、機嫌が良さそうだな
何か良い事でも有ったのか？

無視するかどうかを悩み……素直にドアを開ける
何がそんなに嬉しいんだか
って、持っているのはこの前渡した魔法の本じゃないか。

「おはよう堅守先生
朝早くからごめんな？
今、時間大丈夫？」

「おはよう近衛
時間は大丈夫だが……随分と時間が早いな
放課後とかじゃ駄目だったのか？」

まだ眠いんだが……寝たのは1時ぐらいだったし
4時間程度じゃ少し中途半端でかなり眠い。

「その……新しい本が欲しくて
この前渡された本、もう読み終わって殆ど覚えてもうた」

初心者用だから仕方無いか
だから昨日、大丈夫か訊いたのか？
まぁなんでもいいか。

「新しい本が欲しいんだな？」

「それもそうなんやけど
魔法の練習場所が欲しいんよ
外やと目立つし、せっちゃんに見られているかもしれへんやん？
部屋の中やとアスナが居るし、使える魔法も制限されてまうねん」

近衛の魔力制御はまだまだ下手だからな
練習がしたいと言うのは当たり前か
俺だって近衛にはもっと強くなってもらわないと困るしな。

とりあえず、近衛は部屋に入れる
誰かに見られたら困るからな
さて……今日も選択肢を与えようか。

「近衛
寿命を削り、速く成長するか
それとも己自身の時を使い、今を強くなるか
はたまた全てを捨て、最速で力を得るか
好きに選択するがいい」

「……どういう意味なん？」

近衛に分かるはずが無いな
だが、これは選択してもらわないと困る。

「1つ目、1時間を1日にする不思議空間を使う
今までの体感速度上昇とは違い、正真正銘の時間操作道具だ
それを使う事で現実での1日の寿命を使い、己を鍛える」

「えっと……1日が2日になるって事なん？」

「その通りだ
つまり、現実時間での寿命が1日削れる
将来、あの時に己の寿命を削らなければと思う時が来るだろう
それが嫌ならば、これは選ばない事を勧める」

別荘……マクダウェルの持つ道具だ
何せ、エヴァンジェリンの別荘と書いてあるしな
これを使う事で近衛を鍛える時間がかなり増す
時間の問題はこれで解決できる。

「2つ目、そんな道具を使わずに鍛える
学校などで時間が削れるも、合間の時間を使って鍛える
この場合、時間が相当限られるから魔法とかの勉強や訓練は土日に限られる」

放課後もできるが、1時間や2時間した程度ではな……
毎朝毎晩して、やっとマシぐらいか？
そう考えると大した効果は見込めない。

「3つ目、時間も体も……最悪命さえ削って鍛える
死ぬ可能性も否定できない
初心者でも容赦無く、慈悲も無く鍛えられるだろう
その代わり、確実な成長が約束される」

近衛ほどの才能が有れば大丈夫だろう
問題は、それに心が耐えられるかだが……微妙だ
近衛の精神はあまり強いとは思えんし。

「近衛自身の体を心配するならば2つ目を勧める
寿命を削ってでも、毎日みっちりと頑張りたいのなら1つ目
だが、3つ目はどうしても勧める事はできん」

「1つ目と2つ目は分かるけど……
どうして3つ目はそんなに危険なん？」

へぇ……怯えているものの、やる気は有るか
俺の思っているよりも、心は強いのかもしれんな
弱い方が俺は楽なんだが……まぁいいだろう。

「俺より遙かに上位に居る者が近衛を鍛える
ただし、俺はそいつを抑える自信が無い
つまり……近衛が自力でどうにかするしか方法は無いという事だ」

「だから……死んでしまうかもしれへんって事？」

「その通りだ
だから俺は候補に出したが、勧める事はできない
近衛が選ぶのなら、俺はそれに従おう
それが道を示した俺の責任であり、どうなろうとも近衛の自己責任だ
例え近衛が死んでも、俺は選択肢を与えた事を後悔しない
何故なら、それは近衛が自分で選んだ道だからだ」

道は示す、だが死んだ時の責任は自分で負え
俺が負う責任は近衛の意志を貫き通させる事
近衛が強くなる為の、手伝いをする事だ。

「……全部、ウチが決めるんやな？」

「その通りだ
俺はその答えを全て受け入れよう
そして、近衛の為に全力を尽くす事を誓う」

どう聞いても告白だな、近衛の顔が赤い
しかし俺の考えは決まっている
近衛が強くならないと俺が困る、それだけだ
だから近衛がやる気を出す為なら騙す程度は当たり前にしよう。

「もう少し、詳しく教えてもらってもええかな？」

「何が知りたい？」

答えられる事なら答えよう
何が知りたいんだ？

「堅守先生は……ウチが死んだら悲しい？」

「何を訊くかと思えば……当たり前だろうが」

何せ、大事な壁が無くなるんだからな
お前に費やした時間はまだ大した事は無いが、０じゃない
それにこれでも頭を悩まし、痛めているんだぞ？
３つ目なんて、本当にしても大丈夫なのか相当悩んだんだ。

「ほかほか、悲しんでくれるんや」

……何が嬉しいんだか
そんな泣きそうな、嬉しそうな顔をされても困るんだが？
少しだけ罪悪感を感じるだろうが

それでも、前言を撤回する気は無いがな。

「堅守先生、少しだけ時間くれへん？」

「考えるだけか？
ならあの空間に行くか
来れ（アデアット）」

召喚する道具は当然、時の回廊と無限抱擁
既にお馴染みの道具だ
これで世界を広げ、時間を進める。

「……何も無いなぁ」

「時間の進みも上げた
よく考えるんだな」

近衛から少し離れ、適当に座る
近衛自身もその場で座り、頭を悩ませている
ま、命が危険になる可能性が高い３つ目は選ばんだろう
近衛の性格だと……精々１つ目の寿命だな。

何もする事が無く、適当に世界絵図を読んで待つ
……マクダウェル、なかなか凄い事をしたらしいな
人形の扱いに関しては最高……人形師の魔法使いの憧れの的だとは
悪人と呼ばれようとも、その道の者からすれば最高の者だから当然か
俺も性格やしたやんちゃはともかく、遊戯王世界で暴れたから有名
になったし……色んな意味で。

へぇ……魔女狩りの時代にも生きていたのか

魔女狩りといえば……そういえばあいつはどうなったんだ？
俺との関係が切れたとは思うが、自由にしているのか？
あまり羽目を外し過ぎて退治されていないといいんだが……
ま、あいつが生きてようが死んでようがどうでもいいか、手駒が減ったぐらいだし。

そんな事を考えながらもこの空間内で約1時間
現実時間で言うなら5分程度かな？
それぐらいの時間が流れた時、近衛が動き出した。

「堅守先生、決めたで！」

「よく考えたな、それで良いんだ
考える事に意味が有る
近衛は自分で色んな事を考えられるから助かる」

「あはは、当たり前やん
だってそう仕向けたのは堅守先生なんやし
ウチ、堅守先生の期待を裏切らへんように頑張るわ！」

純粋な心を向けられるって心が痛いなー
痛くて痛くて凄く辛いよー
誰か助けてー、本当の事を白状したくなってきたー

……嘘だけどな
近衛がこうなるように仕向けたのは俺だし
考えるようにも、信じられるようにもしたからな
期待をすれば応えてくれる、近衛は本当に良い子だよ。

ま、だから俺に利用されるんだけどな

このまま利用され続けて、俺の壁になってくれよ？
俺が楽になるからな。

「で、どうするんだ？」

「ウチ、３つ目を選ぶわ」

「……何？」

近衛が３つ目だと？　ちょっと待て！
選択肢には挙げたが、選ばないと思っていた奴だぞ！
いや、以前痛い想いをさせたから選ぶはずが無いと思っていたなのに何故それを選んだ！？

「どんなに苦しい修行やって耐えてみせる
絶対に、ウチは逃げ出さへん！」

……しまった、効果が強すぎたか！
近衛の退路を断ち過ぎたのが原因か！
家族や桜咲を切り捨てたから完全に決意を固めるじゃないか！
頼れる大人が俺だけになっているからこうなってしまった！

あちゃぁ……今の近衛の実力じゃ不可能なんだけどなぁ
しかし、近衛のこの性格に現状
更に特性と血筋を考えたら……もしかしたら上手くいくか？
可能性は低いが……奴に任せるのも一興か？

何にせよ、後々するつもりだったが予定外だ
仕方無い、このまま近衛の俺への依存度を上げたままにしておくか
頼れる相手が減っている今、俺まで裏切ったら近衛が壊れる

最終的には切り捨てるつもりだが、壊すつもりは無いし。

「……これが最終警告だ
切り裂かれようが、腕がもげようが
骨が折れようが……例え殺されようが俺は一切の責任を負わない
俺が負うのは近衛の望みを叶え、確実に鍛える事のみ
全ては己で背負う、それで構わないんだな？」

「構わへん！　ウチは……絶対に逃げへん！
抗って、抵抗して、何が何でも勝つんや！」

なるほど、これは家族への反抗心も有るな
相当反発しているらしい、俺の言い方も有るかな？
自分でもかなり考えただろうな、どれだけ苦悩したんだ？

「いいだろう
その想い、その気持ち、その感情
俺が全て受け止めてやる
近衛、絶対に死ぬな」

「はい！」

どう聞いても告白の返事だな、分かって言ってるんだが
近衛も顔を赤くしているし、女の子はお手軽で楽だなぁ
このぐらいの年頃だと色恋沙汰に無駄に敏感だし
まさに、恋に恋しているお年頃……ってか？
俺は愛や恋ではなく、保身からの言葉なんだがな。

「去れ（アベアット）」

世界絵図、無限抱擁、時の回廊を全て消す
次に使う道具は……って、重いな！

「ぐっ……でぇい！」

ポケットの中から出てきたのはマクダウェルの別荘
ポケットにどうやって入っていたのか、そしてどうやって出てきたのか謎である
まぁ、ポケットに一部を突っ込めば勝手に戻っていくんだがな
普通は入らない魔法道具とか、そういう物はそうやって片付ける。

「……堅守先生
どう考えてもポケットに入らへんやろ？
どうやって取り出したん？
んで、どうやってこんな物入れてたん？」

「知らん、入っているんだから仕方無い
そして入るんだから仕方無い
ほら、本来だったら絶対に使いたく無い物を使ってやるんだ」

本当だったら絶対に使いたく無かった
できる事なら絶対に入りたくない
しかし……くそっ！

「な、なんでそないに嫌なん？」

「すぐに分かる……チッ
使い方は簡単だ、この球体の中に入りたいと思え
それだけでこの中に入る事ができる」

「この……ミニチュアの中に入るん？」

「そうだ、この中では時間が２４倍速で動く
つまり、１日が１時間の世界に入る
今までのインチキとは違って体も入り込むから安心しろ
ちなみに時間で計算すると表の１秒がこの中では２４秒
表の１分は２４分、表の１時間は２４時間となっている
だから入った時の時間差はとても大きくなる
近衛が入った後、俺も入るから俺が入るまで何もせずに待っていろよ？」

「はーい！
えっと……こん中に入る入るはい」

近衛が返事をし、入る入ると願っていると消えた
さて、俺も入るか
近衛が入ってから５秒、つまり中では２分経つな。

視点　木乃香

ふわぁ……って、高っ！？
ここって中央から伸びてる円柱の塔の先っぽ！？
しかも橋が細いし手摺りも無い！？
怖すぎるやろここ！

堅守先生、遅いなぁ
怖いからできるだけ早く来てほしいんやけど

確か中と外では時間差が２４倍やから……
１０秒遅いと２４０秒、４分も待つんやな。

こんな場所で４分……1人やからかなり怖いんやけど！
他に誰か居ったらまだ我慢できそうやけど
うぅぅ……堅守先生、早よ来てぇな！

待つ事２分、堅守先生が来た
２分って事は外では５秒やな
５秒で来たのにこん中では２分
凄いなぁ……デメリットで寿命が縮むんも仕方無いかも。

「……た、高い」

「へ？」

堅守先生が座り込んでガタガタ震えとる……
え、まさか堅守先生……

「堅守先生ってもしかして……」

「そうだよ、高所恐怖症だよ！
だからこれは使いたくなかったんだ！
ぐぅぅぅ……早く中央の塔に行くぞ！
こんな足場の狭い場所に居たくない！」

四つん這いでハイハイしながらゆっくりと移動する堅守先生
……予想外の弱点や、ウチ、驚いたわ
堅守先生にも弱点っていうか……苦手な物が有ったんやな
なんでもできるから勘違いしそうなんやけど、堅守先生やって普通

の人なんや。

色んな道具を持ってたり、色んな事を知ってたり
厳しくて、優しくて、でも魔法とかは使えなくて
今まで強そうなイメージやったけど、こう見てみると可愛ぇなぁ
情けないはずやねんけど、普段のイメージとのギャップでなんや変
な感じや。

「クッ……笑っているな近衛！
後ろを見なくても声と雰囲気で分かるぞ！
俺だってな、こんな弱点を持ちたくなかったんだよ！
それでも……それでも怖いんだから仕方無いだろうが！」

「ご、ごめんな堅守先生
なんや普段とのギャップで……可愛くて」

「可愛いって言うな！」

怒ってるけど、顔は恥ずかしくて真っ赤や
あんまりからかったら後で怒られそうやから止めよう
堅守先生に嫌われたら、ウチはきっと立ち直れへんし。

歩いたら1分も掛からへん道を
堅守先生は5分も掛けて移動する
ウチも怖かったけど……5分は長ない？

円柱の塔の中央に立ってる柱の前で正座させられた
ちょっと怒られとる……笑った事、実は少し怒っとったみたいや
でも顔は恥ずかしいから赤くて、照れ隠しに怒っとるみたいや
別に照れんでもええのに……

「では近衛、３つ目を選んだからには大怪我程度は覚悟しておけよ？
一応治療はしてやるが……傷が残る可能性が有る
死なせないようにするがそれぐらいは我慢しろ」

「うん、分かっとる」

顔とか腕、足は嫌やなぁ
女の子やし、まだ夏服やから腕も足も出とるし
あまり目立ちたくないもんなぁ。

「なら始めようか
近衛、これを……」

堅守先生から渡された物……これを使うんかな？
これでどう……なんや嫌な予感がするんやけど
見てるだけで怖い……押し潰されそうや！

「さぁ近衛、その紐を解け
俺も一緒に入ってやるから安心して……死のうか？」

堅守先生の最後の言葉を聞き、体の動きが止まる
それでも……ウチは逃げへんって決めたんや！
本当に死ぬわけやあらへん、瀕死になる程度のはずや！
例え死んでも堅守先生は悲しんでくれるって言ってくれた！
これはウチが自由になる為の……最初で最大の試験なんや！

「てぇい！」

声を出し、勢いよく紐を解く

巻物が開き……中にはウチにはまだ読めへん文字が並んで……
って、読めんかったら意味無いやん！

そんな事を考えとったら堅守先生がウチの手を繋いだ
と、突然どうしたん！？　なんで手を繋ぐん！？

「近衛、覚悟しろ」

「え？」

覚悟しろって事は……

【ホゥ？
何モ知ラズニ挑ムノハソコノ小娘カ】

声が聞こえた方を思いっきり振り向いて見てみる
そこには裸のエヴァちゃんが……って、服着てぇな！

「マクダウェル
一応初心者だから殺さない程度に頼む
後で美味い菓子を用意すると約束しよう」

【断ル
例エ小娘デモ、油断スレバ……殺ス】

「ならせめて俺も連れて行け
この子には本来、まだまだ早い」

堅守先生、何を言って……

【フン、特別さーびすダ
初心者トイウ点カラ見逃シテヤロウ】

エヴァちゃんはウチと堅守先生の頭を掴む
そしてウチの意識は落ちていった……

8話【代理授業】（後書き）

瑞貴がまた罠に……
生徒達は反省をしていないようです。

誰か止めなかったの？
木乃香と明日菜は遅刻寸前
木乃香が魔導書を読みすぎて寝不足だった為寝坊
あやかは悪戯推薦派に押し止められて阻止失敗
その他は見て見ぬフリ多数。

瑞貴の仕返しが小物っぽい……
立場上、性格上、肉体上、これしか手段が無いので
これでも瑞貴の精一杯の仕返しなんです。

遊戯王世界の校長が命の賭け事って？
セブンスターズ戦の事です
詳しくは遊戯王ＧＸのＷｉｋｉでも見てください
……それでも瑞貴はかなり暴れましたが。

瑞貴が……英語の授業を？
頑張っています、作者も頑張りました
面倒なので今後、授業に関してはあまり描写しません
正直に言って疲れるし、作者は既に殆ど忘れているので……
中２の数学とか覚えてません！
英語なんて全く分からない、作者は英語が大苦手！
悪かったですね、駄目中学時代で！
……まぁ、とにかく作者は勉強が駄目駄目駄目駄目駄目駄目駄目駄目駄目です

英文や訳文……間違っていないですよね？

瑞貴が色んな意味で命知らず過ぎる……
何も知らないという設定でしていますので
エヴァンジェリンが相手でも態度を変えない方が自然です
もし態度を変えれば気付かれるかもしれないので。

魔女狩り時代のあいつって？
遊戯王ＧＸに登場したカミューラです
吸血鬼なので……そういえば彼女は何歳？

まさかの計算外だと？
瑞貴の予想以上の木乃香でした
それでも木乃香の願いを叶える瑞貴は……多分外道
もっと咎めろよ……

瑞貴の弱点って……
高い場所です
なのでエヴァンジェリンの別荘は絶対に使いたく無い道具でした
しかし、木乃香と己の保身の為に使用する事に
……瑞貴が少々哀れに思えるから不思議。

木乃香が解いた巻物ってまさか……
エヴァンジェリンが記した、闇の魔法の巻物です
そして出てきたのはエヴァンジェリンの劣化コピーである人造霊です
詳しくは２３巻２０６時間目にてラカンがそう言っています。

それもまさかポケットに？
魔法道具には違い無いので。

そんな物を木乃香が使って大丈夫なの！？
当然ながら、大丈夫ではありません
しかし、説明はしていなかったとはいえ選んだのは木乃香です
選択肢に挙げた瑞貴が悪いですが、選んだ木乃香の自己責任ですので。

瑞貴も入るって……中断とかさせられないんじゃないの！？
無理です、当然ながら無理です
が……まぁ先はお楽しみという事で
あまり予想をしてくれないと助かります。

……色んな意味でやり過ぎでしょう？
否定はしません、誰が初心者にこんなきつすぎる試練を……作者と
瑞貴ですね
とにかく木乃香には地獄を見てもらいます
頑張れ木乃香！　負けるな木乃香！　自由な未来を掴む為に！

でも少し駆け足過ぎない？
否定はしません
それでも、これぐらいはしておくべきだと思いました
木乃香を本気で鍛えます、もの凄く鍛えます、とにかく鍛えます。

木乃香が闇の魔法を覚えられるの？
それはお楽しみ
もしかしたら瑞貴が覚える可能性も否定できません
何せ瑞貴は色んな意味で……まぁ、やっぱりお楽しみで。

ツイッター、そういえばそろそろネギま！の新刊が発売されるんだっけ？

ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ

発売日、何日だったか知らないんだけど誰か教えて。

9話【近衛木乃香強化改造計画】（前書き）

遅くなってごめんなさい
言い訳をするなら友人と遊んでいたから
そしてこの回、凄まじく長いです
なんと、作者の2、3話分の文章量が詰まっているという……
まさかここまで長くなるとは思いませんでした。

今回は修行だけです
後は勉強とかですね。

瑞貴が屑過ぎますので注意
こいつ……（多分）最低の人間だ！

それにしても疲れました
もうこんなに長い話は書きません、多分
前後編にして2話に分けても良いぐらいの長さですので。

……ちょっと思ったんですが
遅くなるが長い1話と
（多分）早いが今回の半分ぐらいで2話
どっちが良いんですかね？
作者としては……まぁ、どっちでも良いです
だってする事は変わりませんから。

9話【近衛木乃香強化改造計画】

視点　木乃香

ここ……は？　どこやろう？
麻帆良学園の広場？
ウチ、堅守先生の部屋の……そう、塔に居ったはずや！

「ここは……麻帆良学園の広場か？」

「あ、堅守先生」

隣に寝とったんか……あ、手繋ぎっぱなしやだから一緒に居るんかな？

「さて……どうなるのかな？」

ウチの手を離して立ち上がる堅守先生
……このまま繋いでいてほしかったわ
ちょっと心細い……でも、頑張らなな！

ウチも堅守先生と同じように立ち上がる
辺りは昼の学園やけど……誰も居らへん
声も無く、音はウチら2人の息遣いだけ。

【構エロ】

「「！？」」

声が聞こえた瞬間、ウチらはその方を振り返る
そこにはボロ布を羽織ったエヴァちゃんが……

【構エネバ死ヌゾ？
精神ノ死ダガナ】

その手に持つのは緑の短剣
蝶みたいな装飾がされとるけど……なんやろう？
なんであんな物を持っとるん？

「近衛」

「何や？」

「この世界では誰も死なない
例え体が死んだように見えても、本当の肉体は死んでいない
何故なら、この世界は俺達の頭の中だからだ」

頭の中？
つまり体は外に有るって事？
でも、どうしてそんな事を？

「俺が死んだように見えても……死んでいないからな」

堅守先生がウチの前に立った瞬間
堅守先生の背中から何か出てきた
短いけど見える、鋭く光る刃物が……

【僅カトハイエ反応シタカ

素人ニシカ見エンガ……少シ予想外ダ】

堅守先生を貫いたのはエヴァちゃん
なんなん……これ？　ウチの目の前で何が……
倒れる堅守先生の姿がとても……とても恐ろしい何かに見える。

【次ハ貴様カ？】

「ひっ！」

怖い……戸惑い無く人を殺したエヴァちゃんが怖い！
なんでこんな……こんな事するん！？

「勝手に俺を殺した事にするなよ、マクダウェル」

「堅守先生！？」

倒れとったはずの堅守先生が起き上がっとる！？
短剣に貫かれたはずのお腹には穴が空いとるけど
穴は服だけ、お腹自体は無事やった。

【復活ガ早イナ
コレハ予想外ダ……貴様、何者ダ？】

「別に、何度も死にかけた事が有るだけのただの人間だよ
おかげさまで、精神力だけは無駄に高められている
お前の持っているその剣も、俺の記憶に有った道具だ」

【ダロウナ、私ノ記憶ニモコンナ物ハ存在シナイ
小娘ノ記憶ニ有ルハズモ無イシナ】

あんな剣を？
なんでそんな記憶が……
もしかしてポケットに入ってた道具？

そういえば今更やけど
どうしてポケットから色んな物が出てくるんやろう？
巻物も入っとったし……謎や。

「その短剣を見て確信した、ここは俺達の記憶の世界
道具を使ってるのは俺達にはマクダウェルの実力が分からないから
だからお前は己の姿を変えるか、俺の記憶に存在する道具を使うしか無い
お前自身も魔法は使えるだろうが……何か間違っているか？」

【イヤ、ホボ正解ダ
ククク……魔法ハ知識程度シカ無イクセニ
ヨクソコマデ予想デキルモノダ】

「生憎、頭だけはそれなりに良いんでな
この巻物の目的も、魔法の内容も、大半は知っている
俺に習得は無理だろうし、習得する気も無いがな」

あの……もう少しウチにも分かるように説明してくれへん？
そもそも、エヴァちゃんが居る理由もよぅ分からへんし
頭が混乱しとるんやけど！

【無イダロウナ、貴様ハ闇デハナイ、光ダ
寧ロ闇ハコノ小娘……ナカナカ良イ闇を持ッテイルジャナイカ】

「ウチが闇？
堅守先生が光って……もう頭がぐちゃぐちゃや！」

【……セメテ説明グライシテヤッテモ良カッタノデハナイカ？】

「問題無い、遠慮無く殺して構わない
どうせ肉体は無事なんだしな」

殺してって……まさかウチの事を！？
堅守先生、なんでそんな事言うん！？
ウチが何かしたん！？

【可哀想ニ……混乱シテイルデハナイカ
マァ、ソレデモ構ワズに殺スガナ】

エヴァちゃんのその言葉が聞こえた瞬間
嫌な予感がして急いで後ろに飛ぶように逃げる
飛んだ直後、首が有った場所を短剣が通った……
今……当たり前のように殺されかけた！？

「へぇ……今のを避けられるのか」

【魔法ノ矢モマトモニ使エナイ小娘ニシテハ上出来ダナ
ダガソノ程度デ逃ゲラレルト思ウナヨ！】

その言葉と同時にエヴァちゃんが襲いかかってくる
ウチは情けなくも転がりながら逃げる
転がった勢いでそのまま立ち上がり、急いで逃げ出す。

殺されてまう……このままやと殺されてまう！

逃げな、逃げな、逃げな！
死んだらあかん、まだまだ死なれへん！
ウチはまだ……何もしてない！

視点　瑞貴

逃げたか……当然だな
俺が刺した時より死の恐怖が上だろうからな
何せ……ここでは死なないのだから
本当に殺されると理解したから当然だろう。

【貴様、モウ少シましナ身体能力者ハ居ナイノカ？
動キガ鈍イ、貴様ノ記憶ノ中デ私ヲ超エル者ハ居ナイ
コレデハ本来ノ半分モ動ケナイデハナイカ】

「生憎、俺は戦闘者じゃないんでね
殺されそうになったり、死にかけたりした事は多いが
身体能力の関係で殺されそうになった事は殆ど無い
それに、動こうと思えばもっと動けるだろう？」

遊戯王世界のモンスターの身体能力なら有るが……
それでも大半はソリッドビジョン……映像だし
実際にモンスターに襲われた事も有るが
やっぱり大した事無いからなぁ。

【マッタク、貴様ノ記憶ダケデハ魔法ガ殆ド使エナイデハナイカ
マサカ２人デ使エル魔法ガ初心者用魔法ノミトハナ

ソレデ、貴様ハドウスル？
闇ノ魔法ヲ覚エル気ハ無イノダロウ？】

「闇の魔法を近衛に覚えさせる
初心者用魔法なんて情けないとは思うが
お前ならそれでも人殺しぐらいできるだろう？」

【……貴様、私ヨリ厳シイナ】

「そうか？
精々、少し命の危機になる程度じゃないか
この空間では殺されても死なない
それだけでも凄まじく優しいと俺は思うが？」

【ソレハソウダガ……
貴様ノ感性ガ心配ニナルナ】

コピーとはいえ、吸血鬼に心配される俺の感性って何？
そんなに変だろうか……
殺し合いにもならない命の危機の何が恐ろしいんだか
多少危険なだけなんだがな。

「敵は1人、襲ってくる相手も1人
攻撃してくるのも1人、武器を持つのも1人
何から何までたったの1人じゃないか、それの何が怖いんだ？
何十体もの魔物に囲まれたわけでも無い
武器を持っていても、そこまで身体能力が高くない相手だし
逃げるだけなら難しいとは思えないな」

【一般人ニ何ヲ期待シテイルノカ……】

「一般人？
魔法を少しでも習い、僅かでも覚悟を決めた人間を一般人とは呼ばないな
半人前にもなっていないが、立派な魔法使いだ
遠慮は不要、何百回でも殺して構わん
壊れないように俺が調整するから大丈夫だ
死んだ後は俺の場所に送ってくれたら壊れないようにする」

近衛が1人だったら無理だろうがな
確実に壊れる、数日前まで一般人だったんだから当然だ
子供だし、女の子だし、覚悟をしていても所詮は素人
素人の覚悟なんて高が知れている。

「あ、俺も殺してくれても構わんぞ？
どうせ俺には通用しない
何回殺されても俺は壊れないからな」

何せ、全てが幻想だと分かっているからな
闇の魔法と相性が悪いとも分かっている
だからさっき殺されても大して何も感じなかったんだし
痛みさえ僅か、死んだ感覚もほぼ無に等しい。

「どうせだし、近衛の目の前で殺してくれると助かる
何度もそれを見れば嫌でも精神力は鍛えられるだろうし
少しでも親しい相手が殺されるシーンは見ていても損は無い
戦いでは常に冷静に、動揺もしないようにと理解できるからな」

【……悪魔カ？】

「本物の悪魔に言われたくないな
だって俺、優しいじゃないか
危険度が高いとはいえ、近衛の要望を叶えてやったんだ
しかもリスクは魔法とかが使えなくなる程度
目が覚めない可能性も有るだろうが……死にはしないんだからな」

悪魔と言ってもコピーだが
それに悪魔だったら闇属性と相性が良いんだろ？
俺に適正は無いんだから合わないんじゃないか？

【（コイツ……小娘ノコトヲ人間ト見テイルノカ？
ナンナンダ、コノ男ハ？
壊レテイルゾ、人間トシテ確実ニ）】

天使とかが合うはずも無いし
どちらかと言えば魔導師とか詐欺師じゃないか？
詐欺をしているつもりは無いが、結果的に詐欺だし
死ねとか殺せとか言っているが死なないし
やっぱりあまり危険度は高くなさそうだ。

「ほら、さっさと近衛を追いかけて殺してこいよ
このまま俺と話していても時間の無駄だろう？
時間は有限なんだ、殺さない時間は勿体ない」

【マサカ……闇ノ魔法デハナク
私ニ殺サセル事ガ目的カ？】

「否定はしないが、闇の魔法も覚えられるのなら覚えさせたいね
悟る為のアドバイスは俺がするから頑張ってくれ
何、正解は言わないから安心してくれ」

俺って優しいな
まぁこのマグクダウェルはどうも甘そうだし
勝手にヒントとか言ってくれそうだけどな
やっぱりコピーは本物と性格が違うのか？

【ハァ……貴様ハ１度死ネ】

首を刎ねられた……少し痛いな
どうせすぐに復活するんだ
大した事は無い。

【コイツノ性格ハ死ンデモ直ラナイ気ガスル
……サテ、小娘ヲ殺シニ行クカ】

死んでも直らんに決まってるだろうが
俺の性格は俺の性格だ
他の誰にも変えられたくないね。

しかし……俺は精神世界とはいえ死んだんじゃないのか？
マクダウェルの言葉は聞こえたし
もしかして俺ってまだ死んでない？

いや、確かに死後直後は言葉が聞こえるという話は有るがうーん……謎だ
目も見えているし、どうなってるんだ？

「マクダウェル」

あ、声も出せた

首から上しか無いのに話せるってどうなってる？
精神世界だから生きていると思えばこうなるのか？

【首ダケデ話スナ、気味ノ悪イ】

「気にするな
さっきから言いたかったんだがな
ボロ布1枚では心許ないんじゃないか？
何か服を着ろ、俺達の記憶の中には制服しか無いだろうがな」

【……】

マクダウェルは無言で制服姿になる
……おい、何故こっちに剣を向ける
しかもそれは短剣じゃなくて大剣じゃ……

【死ネ】

頭を真っ二つにされた
だから、ここじゃ死なないってば。

そんな事を考えながら意識が落ちた
どうやらオーバーキルをされると意識が落ちるらしい
俺の精神構造が変なのか、それともこれが普通なのか？
適正が無いからなのか、色々と予想するも分からん。

視点　木乃香

必死で逃げてきたけど、ここは……
周りも何も見てなかったから気付かんかったけど
ここはウチの家……京都の実家やん。

どうしてこんな場所に……
麻帆良から京都まで凄く遠いのに
ウチの足でここまで逃げられるはずが無い。

【ここは貴様の記憶の世界
突然知っている場所に移動していても不思議ではあるまい？】

その声は……エヴァちゃん!?
いつの間にかウチの後ろに……ついでにボロ布やなくて制服を着とる
でも持っている武器が短剣から巨大な槍に……

「ウチを……殺すんか？」

【くくく……貴様は闇の魔法を覚える為にこの巻物に入ったのだろう？
例え知らなかったとしても、強くなる為に来たのだろう？
この中では闇の魔法を覚える為の試練を行う場所だ】

闇の魔法を覚える為の試練……
そうや、ウチは強くなりたくて堅守先生にお願いしたんや
絶対に逃げ切ってみせる！

【小娘よ、闇とはなんだ？】

闇……闇？

堅守先生の授業で習った陰陽みたいな事やろうか？
魔法での光属性と闇属性は
陰陽道で言う、陽と陰だったはずや。

という事は闇とは陰、影の力
陰陽が書かれた本には確か……

「正と邪、光と闇、天と地、男と女、吉と凶
裏の意味を表す言葉や！」

【くくく、その通りだ
だが今必要なのはそんな知識ではない
闇とは全てを呑み込む暗き穴にて始まりの闇
始原の混沌だ！】

言葉が終わると同時に槍で貫こうとする
簡単に殺されて……堪るかいな！

「プラクテ・ビギ・ナル　光よ！」

【む……】

目を眩ませて、動きが遅くなった瞬間に逃げる
何度も通用しない事ぐらい理解してる
だけど、ウチにできる事なんて殆ど無いんや！

【ふ、貴様に私の言葉の意味が分かるかな？】

そんなん、考えてる余裕は無い！
持っている槍を横に振って、ぶつけられた！

痛い……痛いけどまだ逃げられる！

【ははははははは！　足掻け足掻け！
貴様にできるのは考える事、そして足掻く事だけだ！】

そうや、考えろ！
エヴァちゃんの言葉を、ウチにできる事を！
逃げるのはそれと一緒にすればええんや！

「プラクテ・ビギ・ナル　風よ！」

突風を目に向かって放つ
目に砂でも入れて、痛がっておいてぇな！
この間に少しでも逃げて、隠れな！

【小癪な……真似を！】

「かふっ……」

あ……お腹に槍が……
もしかして、あまり見えない状態で槍を投げた？
これはウチ……死んだな。

……
……
……

あ、れ？
ウチ、エヴァちゃんに殺されたんやなかったん？
どうして意識が？

「起きたか、近衛」

「え……堅守先生？」

なんで堅守先生が？
それにここ、教室やん。

「お前はマクダウェルに殺されたんだ
ま、ここでは死なないから大丈夫だがな
強い心を持ち、死なないと信じておけばここでは死なない
よく逃げたな、偉いぞ近衛」

頭を撫でられる……
そんな事されたらウチ……ウチ！

「ふぐ……
う、う、うぇぇ……」

泣いて……まうやん
怖かった、痛かった、逃げ切れんかった
それでも褒めてくれて……嬉しかった。

「まぁ、近衛が逃げて死んでいる間
俺は8回ほど殺されているけどな」

「ふぇ？」

8回……殺されてる？

「しかし驚いた
いくら闇の適正が無い俺とはいえ、あそこまで苦しいとは思わなかった
心臓を貫かれたり、頭を潰されたり、溺死したり、圧死したり
他にも何種類かの手段で殺されたな」

「だ、大丈夫なん？
そんなに殺されて……」

溺死とか圧死ってどうやって……
エヴァちゃんの持ってる武器じゃできそうに無いんやけど。

「問題無い
さっきも言ったが俺には殆ど闇の適正が無いからな
いくら殺されても、あまり死んだ感覚が無い
どうせだったらありとあらゆる死に方を体験しておきたいね
普通はできないぞ？　人生に何度も死ぬなんて事」

「それ楽しむもんやないから！
なんでそんなに楽しそうなん！？
堅守先生ってどんな感覚してるん！？」

頭おかしいんやないん！？
どう考えても普通の思考やあらへんわ！

「本来ならできない体験なんだぞ？
こんな貴重な機会を逃すなんて……近衛、お前大丈夫か？」

え！？　ウチが変なん！？
それともこうやって死ぬのがここでは当たり前なん！？

【いや、明かに貴様が変だ】

え、エヴァちゃん！？
いつの間にウチらの後ろに！？

「よう、マクダウェル
次はどうやって殺してくれるんだ？
滅多にできない体験だから柄にもなく興奮してるよ」

【……貴様、マゾか？】

「失礼な、好奇心旺盛と言ってくれ
それに、ただ殺されて遊んでいるわけではないぞ？
俺は戦いなんてしたくないし、できない
それでもこの世界、魔法関係者というだけで襲われる、殺される可能性は十分だ
なら少しでも痛みに慣れておきたい、この空間なら実際に傷ついたりしないからな
本来なら耐えきれないであろう痛みを受けても本来の肉体に影響が無い
脳内での記憶が僅かでも、今後の役に立つなら寧ろ進んで死ぬべきだ」

そ、そないな理由が……
実際、せっちゃんに襲われてるから説得力が有る！
ならウチももっと死ぬべきなんやろうか？

「それに……俺は相手の苦痛、悲痛な顔を見る方が遙かに好きだね
絶望を感じた時、泣きそうな顔を見る時とか最高だと思う

なにかこう……ゾクゾクする
この気持ち、マクダウェルなら分かるだろう？」

【否定はしない
いや、寧ろ賛同しよう】

さ、サディストやーーーーー！
サディストが居る、堅守先生の予想外の趣味やったーーーーー！

「特に女の子が泣き叫ぶ姿とかどう思う？」

【うむ、もっと苛めたくなるな】

この場で女の子言うたら……
エヴァちゃんは本人やから……ウチ？
思わず後ずさりしてまう、逃げなあかんやんな？
さっきまでとは別の意味でやけど。

「さて、近衛弄りはこれぐらいにしておくか
マクダウェル、続きを頼む」

からかっとったん！？
酷いわ堅守先生！
実はちょっと怖かったんやで！

【（ふん、小娘の恐怖を取り除いたか
私としてはこのまま怯えられていた方が楽しかったのだがな
まぁ、それはこの男とて同じだろうが）
そうだな……死ね】

飛ぶ、堅守先生の首
大丈夫や……ここでは死ぬ事が無い
やから堅守先生も無事なんや
でも……それでもこんなん見たない！

「突然は酷くないか？」

「ひっ！
堅守先生の生首がしゃべった！」

こ、こ、こ、こここっこここここ怖すぎやぁ！
なんでその状態で話せるん!?
下手なホラー映画よりずっと恐怖や！

【いくら私でも呆れるぞ
適正が無く、痛みが半分以下
そして死への感覚を完全に受け入れているとはいえ
肉体が死んでも話せる人間は早々居ない】

「現実だったらどんな手段を使ってでも足掻くけどな
とりあえず、意識が有る内は完全に死ねん」

こんなん……こんなんが普通なん？
魔法の世界では、これが普通の事なん？

「（どうせだったら近衛に俺を殺させようと思ったが……無理だな
まだまだ恐怖が抜けきれていなかったか
模擬的でも1回人を殺せば躊躇いも戸惑いも薄れると思ったんだが
仕方無い、今回は諦めよう
次の機会にでも、近衛に誰か殺させるか、それで近衛は更に強くな

る）」

【くくく……何を考えているのか読めるぞ？
今回は諦めて私に殺されるんだな】

堅守先生の首を、エヴァちゃんが踏み潰す
ぐちゃぐちゃになった堅守先生の頭……
本当に死んだわけやない、後で平気な顔で出てきてくれるはず
それでも……平気な顔でこんな事をするエヴァちゃんに怒りを感じ
ないはずが無い！

「プラクテ・ビギ・ナル　火よ灯れ！」

【あっつ！
くっ……貴様、私の顔を！】

ウチにできる魔法は初心者用魔法だけ
それでも……敵を傷付けられる威力が有る！
コレはエヴァちゃんやあらへん……敵や！

「プラクテ・ビギ・ナル　凍れ！」

エヴァちゃんの足を少しだけ凍らせる
基本魔法でも、魔力が馬鹿みたいに高いらしいウチがするとこれだ
けの事ができる
足が動かない、今の内に！

「プラクテ・ビっが……ゲホッ、ゲホッ！」

【調子に乗るなよ、ガキ】

の……喉を潰された……
これやと魔法が唱えられへん！
声が出えへん……終わった。

【恐怖を押し殺して向かってきた根性は認めてやろう
だが、貴様程度に殺される私ではない】

顔を見てみれば燃やしたはずの炎の痕なんて無い
熱かったけど、防御されたみたいや
足元の氷だって、アッサリと破壊されてる
所詮……初心者のウチには無理やったって事やろうか？

【また起き上がり、私を楽しませろよ？】

首を掴まれ、折られた
そしてウチの意識は再び落ちていった。

……

……

……

何回エヴァちゃんに殺されたやろうか？
噴水公園で戦い、体が動かなくなった後に溺れ、溺死した
力で思いっきり振り回され、発電機に投げられて感電死
動かない体を殺さない程度に切り刻まれ、失血死
調理室に投げられ、炎を灯す魔法を使われ、ガスが漏れていたのか
爆発して爆死
屋上から地面に叩きつけられ、転落死
記憶に出てきた車に突然轢かれ、壁に叩きつけられて横死……車と

かのイメージは捨てな
氷の魔法を使われ、全身凍結状態で凍死
他にも何回も殺されては生き返り、襲われては逃げだし、反撃してきた。

堅守先生も何度も殺されとる
何回も、ウチの目の前で……惨たらしくも！
さすがに心臓を食べられた時は吐いてもうた
胃に何も無いはずやけど、それでも吐いて……気絶した
そして気絶している間に磔にされ、魔女狩りみたいに火炙りにされて焼死。

何度も気持ちが折れそうになった
心が壊れるかと何回も思った
やけど……堅守先生が居てくれた
1人やったら絶対に耐えられへんかったけど
堅守先生が居てくれたから頑張れた。

その内、エヴァちゃんの使っている魔法をウチは覚え始めた
死にたくない一心から、殺されたくない一心から
魔法の矢を覚えた……でも、ウチは魔法の矢は使えへん
堅守先生も使えないのに、記憶の世界やのにどうしてエヴァちゃんが使えたのかは分からへん
それでも、ウチは反撃の手段を1つだけやけど手に入れた！

「プラクテ・ビギ・ナル
氷の精霊5柱、集い来たりて敵を切り裂け！
魔法の射手・連弾・氷の5矢！」

【ふはははは、呪文詠唱が遅すぎるぞ！

リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
闇の精霊５柱、集い来たりて敵を襲え！
魔法の射手・連弾・闇の５矢！】

ウチより後に呪文詠唱をしたはずやのにほぼ同時に放たれる魔法
エヴァちゃん……強すぎるわ！
しかも態々手加減してこんなに威力も速度も下げてくれているのに
それでもウチでは防ぐのが精一杯や！

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
氷の精霊１７柱、集い来たりて敵を切り裂け！
魔法の射手・連弾・氷の１７矢！】

じゅ、１７本！？
あかん！　先に撃たれたし、相打ちさせるんは無理や！

「プラクテ・ビギ・ナル　氷盾！」

防御魔法、なんとか間に合った！
でも、防御魔法は使った後に必ず硬直ができてまう！
魔法を止める為に、踏ん張らなあかんからや！

【残念だったな】

エヴァちゃんの声が聞こえたと同時に光る手に体を真っ二つに切られる
また殺された……でも、まだまだ終わらへんからな！

そこまで考え、ウチの意識は落ちていった
どれぐらい死んだんやろう？

視点　瑞貴

【……いくら最大まで時間を延ばし、通常の７２倍にしているとはいえ
もうこの世界で１２０時間……５日となる
外ではまだ２時間も経っていないとはいえ、凄まじい才能だな】

「近衛だからな
しかし、お前が近衛に構っているばかりで俺は暇なんだが？」

【なら魔法の矢ぐらい使えるようになれ
殆どずっと練習しているのに１矢さえ放てないとは情けない……】

煩い、俺に近衛ほどの才能は無い
近衛の才能を１％でも分けてほしいぐらいだ
俺はまだ……火も完全に灯せないんだが。

【この５日間
殆ど練習していてまだ火もまともに灯せないとは……
貴様、才能が無いんじゃないか？】

「どう考えても無いな
俺の事はともかくとして
もっと近衛に様々な戦い方を見せてやってくれよ？
俺だって命を削っているんだからな」

【分かっている、報酬分は動いてやる
だからさっさと腕を出せ】

幻想世界、空想世界、記憶世界でも血は流れている
どうもこの偽マクダウェル、俺の血が気に入ったらしい
精霊だからか、俺の半天使の血が好みらしい
本物はどんな血が好みなんだろうか？

というか、お前人造霊だろ？
なのにどうして吸血鬼紛いの事をするんだか
本体が吸血鬼だから本能で血が欲しいのか？

【しかし、ずっと気になっていたのだが
よく小娘が潰れないようにするな
そんな事をしていて、本当に潰れたらどうする？
もしこの試練に失敗したら魔法が使えなくなる可能性が有るのだぞ？
永遠に目を覚まさなくなったり、そんな可能性も有る】

「それがどうかしたのか？」

俺の返事に、マクダウェルは言葉を失う
あれ？　俺、何か変な事を言ったか？

【それが……どうかしたのかだと？】

「近衛が魔法を使えなくなっても陰陽術を教えるし
別に魔法使いにならなくてはならないなんて事は無い
まだ覚えたてだからな、いくらでも調整できる」

魔法は精霊を操る術なんだろ？

だが陰陽術は精霊になんて頼まない
ほぼ全て自力でどうにかする為の術だ。

「目を覚まさなくても、何も問題は無いな
もしそうなったとしても、お前の本体の家にでも置いてくる
マクダウェルは悪の魔法使いなんだろう？
学園の魔法使い達は……マクダウェルが違うと言って信じてくれるかな？
緑に裏も調べずに、強引にでも処分しようとするだろう
つまり、俺が疑われる可能性は凄まじく低い
そして例え疑われたとしても、俺は魔法使いではないので手段が分からない
記憶を読んだりしない限りは無理だろうが、学園ではそれなりに信用を得ている
真面目に仕事をしているし、疑われる事は有っても、記憶までは読まないだろうな」

俺が近衛がどうにかなる可能性が有るか、予想をしなかったと思うか？
もしそうなった場合、お前の本体に押し付ける気で満々だったんだよ
悪の魔法使いが何もしていないと言っても、説得力は無いだろうからな。

【貴様、それが私を呼び出した目的か？
私の力が及んでいると、魔法使い達に悟らせる為に……】

「半分はそうだ
だが、残り半分は純粋に近衛の成長だ
俺の大事な大事な……壁だからな」

そうでなければ、危険な事はあまりさせたくない
近衛自身が力を最速で付けると決めたんだしな
もし違っていたらこんな物は使わん
実際、近衛が危険だからな。

【何故、私にそれを話す
外に出たら殺されるかもしれんのだぞ?】

「どうにでもなる
所詮はコピー精霊、止める手段なんぞいくらでも有る」

【魔法も使えない落ち溢れが……】

魔法が使えない＝弱いという考えはどうなんだろうな?
いや、そんな事は考えていないだろう
マクダウェル自身、弱かった時代は有ったはずだ
まぁ、今も封印されているから弱っている状態だろうがな
しかし……魔法以外に戦闘手段の1つや2つぐらい持っているだろう。

「さて、そろそろ近衛が生き返るぐらいだと思うんだが?」

【そうだな
さて、行くか……その前に】

マクダウェルの言葉と同時に腸をぶちまけられた
ま、怒って当然か……それにしても1パターンな奴だ
毎回俺を殺す前には一言、何か言うよな?

「後で近衛に用が有る

俺が生き返った後、そして近衛との戦いが一段落が付いた時
そうなったら呼んでくれ、少し近衛と話が有る」

【死に損ないはさっさと死ね！】

体内から氷爆を放たれた
それはいくらなんでも酷くないか？
俺も死に慣れたものだ……そして意識が落ちる。

視点　木乃香

「プラクテ・ビギ・ナル
氷の精霊１７柱、集い来たりて敵を切り裂け
魔法の射手・連弾・氷の１７矢！」

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
氷の精霊１７柱、集い来たりて敵を切り裂け
魔法の射手・連弾・氷の１７矢！】

お互いの魔法が相殺し合う
せやけど、それはエヴァちゃんがもの凄く手加減してくれてるから
やって……エヴァちゃんは氷爆の魔法を直接ウチに当ててない
使ったのはウチを逃がさないように、逃げ道を塞ぐ為に使っただけ
や。

【チッ、魔力が凄まじく多いせいか
無駄に魔力が籠もっているせいでどうしても威力が高いな

苦ではないが、それでも面倒だ】

ウチにはエヴァちゃんみたいに技術が全く無い
ならウチには何が有るか、それは魔力！
時々エヴァちゃんが口にしとったけど
ウチの魔力はかなり多いらしいし。

魔力の感覚は完全に掴めてなかったけど
何回も魔法を使ってる内に段々と分かってきた
ウチの中には、凄い力が有るって分かったから
それを強引に使って、魔法の射手に乗せて撃ってる
だからエヴァちゃんの魔法の射手と威力だけでもなんとか同じになってる。

やけど詠唱速度、そんで魔法の射手の速度が下がってしもうてる
威力だけしか見てないから仕方無いんやけど……
後、エヴァちゃんの魔法の射手より2周りぐらい大きい
それだけ込めて、やっと互角なんやからどれだけの差が有るかよぉ分かるわ。

【ん？】

エヴァちゃんが手を止めて、どこかを見る
どうしたんやろう？

【起きたか……
一時中断、奴が貴様に話が有るらしい】

「堅守先生が？」

なんやろう？
また何かアドバイスとかくれるんやろうか？
……褒めてくれたら嬉しいわぁ。

ウチはまだ飛ばれへんからエヴァちゃんにぶら下げられたまま移動
エヴァちゃん、手を離したらウチ落ちて死んでしまうからな？
やから絶対に手を離さんといてな？

移動先はウチの記憶に有る、ウチの京都の実家
まぁ、元々そこやったんやけど
向かった先はウチの敷地内に有る剣道道場や
あそこでせっちゃんが鍛錬しとったんやなぁ……

エヴァちゃんがウチを道場の前に下ろす
んで、道場のドアを蹴っ飛ばして破壊する
……エヴァちゃん、幻想でもウチの家なんやで？
だからあんまり壊してほしないんやけど……

【連れてきたぞ】

「助かる
で、状況はどうなんだ？」

【無理だな
このままだとこの空間で何年頑張っても不可能だ】

……ウチ、堅守先生の期待に応えられんかったんかな？
頑張れって言ってくれたのに……

「だろうな」

「え……だろうなって
だろうなってなんなん？」

元々、期待してなかったって事なん？
そんならウチは今まで何を……

「俺が居るから壊れないんだろうが
逆に俺が居るから無理なんだろう？」

【その通りだ
貴様が居る限り、どれだけ努力しようと不可能だ
それに、ここで得られる魔法は努力でどうにかできる程、甘くない】

期待していない訳やあらへんみたいやけど
でも、堅守先生が居ないで今まで耐えられたやろうか？
……無理や、たった3人しか居ないこの空間
しかも1人はエヴァちゃんやけど敵……味方が居らん状況なんて想像できへん。

「やはり使うか……近衛」

「なんや？」

堅守先生はポケットから刀を出した
どうやってそのポケットの中に刀が……

【貴様……何故そんな刀を持っている！？
それはどう見ても呪いの刀ではないか！】

「呪い!?　なんでそんな物持っとるん!?
堅守先生、危ないからそんなん持ったらあかん!」

「いや、これはちゃんと握らなければ問題無い
刀の柄を持たない限り、影響は無いからな
さて、この刀は妖刀……妖怪の刀と書いて妖刀
この刀の名前はひな……ひらがなでひなだ」

黒い鞘に収められた刀
魔法初心者のウチでも分かるぐらい、嫌な力を感じる
これは普通の人が持ったらあかん物や。

「その昔、この妖刀を持った人間たった1人に京都は滅ぼされかけたらしい
当時の神鳴流剣士……桜咲の流派の者達は全滅寸前まで追いやられたそうだ
ま、その持ち主が一般人だったのか、剣士だったのかは知らんがな」

そんな危ない刀をどうして堅守先生が……
せっちゃんの使っている流派を追い詰める程の力を与える刀って事やんな?
でもそんな物、簡単に使えるんやったら妖刀なんて呼ばれへんやろ
ファンタジー小説とかも読むから予想はできるで、代償は何や?

「代償は……なんなん?」

「気付いたか……まぁ、妖刀の時点で予想はできるか
未熟者が持つと体を乗っ取られる
操られている時の記憶が有るかどうかは知らんがな
代償が大きいんだ、剣の素人が持っても効果は高いだろう」

「でも、それとウチの何の関係が有るん？」

どれだけ怖い刀なんかは理解できた
ちゃうか……理解なんてできへん、できたのは恐ろしい刀って事ぐらいや
だけどそれとこの状況、なんの関係が有るんや？

「近衛、お前がこの刀を使うんだ」

「ウチが！？」【貴様、正気か？】

なんでウチがこんな怖い刀を……

「ここは闇の魔法を覚える為の場所だ
なら、同じく闇に関係する魔の道具を使うそれの何がおかしい？
寧ろ、相性が良くなって効果的かもしれんぞ？」

そうかもしれへんけど
せやかてそんなん危険過ぎるやん！

【ふむ……そう言われてみればそうかもしれんなさすがに前例が無いから断言はできんが】

ちょ、エヴァちゃんまで賛同せんといてや！
それ使うんはウチなんやで！

「安心しろ
例え無理でもマクダウェルが殺してくれるさ

そうなれば操り状態も解ける
この空間だからこそできる事だ」

うーん……確かにそうなんやろうけど
でも怖いもんはやっぱり怖いんよ？
だって妖刀なんて禍々しいし……

「ほら、近衛」

「あ、うん……は！」

渡されたかたつい受け取ってもうた！
しかもキッチリと柄を持っとるし！

「そら」

しかも鞘を抜いた！？
どうし……あや？
なんか体が……勝手に……まさかもう！？

しかも体はそのまま堅守先生の方に……
あかん、堅守先生逃げて！

「おぉ……早速殺されたか
さすが妖刀、抜かれただけで即人殺しとは恐れ入る」

あ……あぁ……
ウチの体が振るった刀で堅守先生の体が上下真っ二つに……
いくら死なんからってウチが人を殺し……そんなん……

いやいやいやい

もう……堅守先生に酷い事せんといて！

「ふむ、これは死ぬな
暫くすれば復活するだろうが
さて……聞こえているか近衛？
お前はその刀の闇を食え、全てを呑み込め
そして闇の力を受け入れ、妖刀を操る者となれ」

堅守先生が言い終わった瞬間、ウチの体が堅守先生の頭を刺す
そして飛び上がり、何をしたのか刀を振り下ろした直後、爆発
多分、刀が何かの技を使ったんやと思う
堅守先生の体は……バラバラに吹き飛んでもうた。

こんな怖い力を……闇の力を受け入れるん？
食うって、どうやって？　呑み込むってどうすればできるん？
教えてや堅守先生……早く復活して教えてやぁあああ！！！

【（最後の最後にヒントを残して逝くとはな
闇の力を吸収し、闇に心が委ねられている今
この小娘はおそらく……いや、どうかな？
頼れる者を、幻想とはいえ自らの手で殺したのだ
どちらに転ぶか見物だな）】

あ、ウチの体……何するん？
そっちにはもう何も……堅守先生の体の破片しか無いんやで？
どうしてそっちに行くん？
エヴァちゃんはそっちに居らんよ、攻撃するんやったらそっちやないん？

そんな事を考えるも、体はウチの思う通りに動いてくれへん

足元に有るのは堅守先生の腕……ウチの体はその腕を持ち上げ
上に放り投げる……そして、刀で細切れに……ひ、酷すぎる！

後はもう同じ事の繰り返し
足を見つけては粉々に粉砕し、胴体を見つけたら踏み砕き
頭部の一部を見つけたら握り潰す
その感触は当然……ウチも全部、キッチリと感じとる。

気持ち悪い……人を潰すってこんなに不快になるんや
暫くはお肉とか食べられへんな……ハンバーグとか見たら吐きそうや
それどころか、見ただけでも吐き出すかもしれへん。

ウチは人殺し……例え死なへん場所や分かっていても同じや
ウチは人殺し……記憶と心がそれを認めた
ウチは人殺し……せっちゃんも同じ事をしたんやろうか？
それでも剣を捨てないせっちゃん……どうしてなんやろう？

堅守先生の言っていた受け入れるってなんなん？
この刀を操るなんてウチにできるん？

でも……あ……そうや、そうやんな
堅守先生はそれができる思うたから、ウチに殺されたんや
ならどうにかして妖刀をウチが操らな！

……せやけど、どうやったら操れるんやろう？
堅守先生は受け入れろとか、食えとか、呑み込めとか言ってたけど。

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
来れ氷精、爆ぜよ風精　氷爆！】

ちょ、今考えてる所やのに何するんエヴァちゃん！？
幸い、体が勝手に避けてくれたから助かったけど
それでももうちょい手加減ってもんを！

考えが纏まらへん！　でも考えな！
堅守先生は闇を受け入れろ言うた
という事は……ちょい待ち、闇を受け入れる？
この場所で使えるようになる魔法は何回か聞いた
それは闇の魔法……つまり、闇の魔法って受け入れる事なん？

【（ん？　気配が変わった？
体は操られたままのようだが、それでも気配が変わった
私を襲ってきているのは変わらないが、目に輝きが灯ったような気が……
まさかこの短期間で、つい先日まで一般人だった者がこうも容易く妖刀を受け入れたのか！？
確かに闇の魔法を覚えさせる事がこの巻物に封印されている私の仕事だ）
だが、そう簡単に使われてはこの魔法が甘く見られてしまうのでな！
悪いが今回は殺させてもらおう！
リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
来れ氷精、闇の精！　闇を従え、吹雪け常夜の氷雪！
闇の吹雪！】

ちょ、今考えが纏まった所なんよ！
やのにそんな大砲……って、アレって闇属性の魔法やんな？
氷も混じってるけど、それでも闇属性のはずや
という事はこれを受け入れる気持ちになって、受け入れたらどうなるんやろう？

自然とウチの体は動き、妖刀に動きを阻害される事も無かった
そして手を伸ばし……魔法に呑み込まれた。

……
……
……

「うぅぅ……」

ここは……そうや
ウチ、また死んだんか。

「お、起きたか近衛」

誰かの、男の人の声……男？
ここで男言うたら堅守先生しか居らんやん！

「か、堅守先生！
大丈夫なん！？」

「大丈夫もなにも……ここでは死なんだろう
それで、乗っ取られて最初の復活だが調子はどうだ？
大丈夫だとは思うが、一応確認させてくれ」

そうや、分かってたけど……良かった
ほんまに良かった、死んでなくて……

「う……う、ひっく……」

「何故泣く……」

「やって……ウチ、ぐす……堅守先生の事……殺して
あんなに、ぐちゃぐちゃになるまで……酷い事して
せやのに、せやのにウチの体を心配してくれて
安心して、嬉しくて、やけどどうしても涙が止まらへんねん」

ウチが堅守先生を、死なないと分かってたとしても殺した事に変わりは無い
せやけど……生きていてくれて、本当に安心した
今のウチが頼れる人は堅守先生ぐらいしか居らんのやから。

「（手を汚させる事は、この世界に来た時から決めていたけどなどうせ死なないんだ、だったら人殺しの感覚と感情は知っておくべきだし
壊れたら終わりだが、壊れていないんだ
人殺しが禁忌なのは変わり無いだろうが、これで最終的に止まらないで済むだろう
人間は1度でもした事を繰り返す習性が有る
犯罪は駄目な事と分かっていても止められないと同じだ
自らの意志ではないとはいえ、一線を越えた近衛は……人を殺せるだろう
人殺しは最後の手段だろうがな、それでもこれで俺の目的の1つは達せた
残りは近衛が闇の魔法を習得するだけ……こればかりは分からんな）」

「堅守先生、後遺症とか無い？
痛い所とか無い？　怪我とか残っとらん？
あの後粉々にしてもうてんけど、大丈夫なん？」

「あぁ、全く問題無い
というか、俺はあの後どんな事をされたんだ?
それで近衛自身、あの後どうなった?」

あ……思わず言ってもうた
細切れにして粉々にしたなんて言ったらいくら堅守先生でも……
嫌や……嫌われたない!

「……大方、ひなに操られたまま死んだ俺の破片とかを細切れにしたとかだろう?
アレは俺の不注意だったな、危険物と分かっていたんだ
俺は近衛に直接刀を渡さず、刀を置いて離れるべきだった
辛い想いをさせて悪かったな、近衛」

ウチを慰めて、頭も撫でてくれる
酷い殺し方をしたのに許してくれるん?
堅守先生の不注意なんは事実やと思う
せやけど暴れたんはウチの心が弱かったからや。

最初から危ない物と分かっていたんや
心を強うして刀を持てば大丈夫やったかもしれへん
ウチは後悔で一杯や……

なのに、堅守先生は慰めてくれる
どうしてこんなウチに優しくしてくれるんやろう?
殺されてもあまり感覚が無い言うても、それでも痛いはずやしかも潰されるような感覚……絶対に凄く苦しかったはず
それでもウチの事を気遣ってくれる堅守先生……

あかん、ここまで優しされたら嬉しすぎる

喜びとか、色んな感情が交じり合ってなんて言えばいいか分からへん
とにかく嬉しかった事だけを実感できた。

「（頼むからまだ潰れないでくれよ？
せっかく一線を越えても壊れずに済んだんだからな
ここで壊れられたら俺の苦労が全て水の泡だ
態々目の前で死んだり、マクダウェルに殺させたりして
死に少しでも慣らさせたんだからな
これで潰れたら今まで殺されただけの痛みもパーだ）」

堅守先生を傷付けたのは悲しいし、苦しい
せやけど、今はこの堅守先生の手の優しさに甘えたい
ウチは人殺しや、それが自分の意志であろうと無かろうと
そんな事は関係無いし、認めなあかん。

でも……あんな辛い想いも
堅守先生が褒めてくれたおかげで殆ど無くなってもうた
忘れたわけやない、捨てたわけやない、本当に無くなったなんて言われへん
ウチはただ目を背けているだけやと思うけど……
少しでも苦しさを鎮めてくれて、ほんまにありがとう！

「近衛、心の整理は終わったか？」

「はい！
でも、よぅ分かったなぁ」

「顔を見れば分かる
いいか近衛、己の全てを受け入れるんだ
善も、悪も、喜びも、悲しみも、辛さも、怒りも

憎しみ、怨み、恐怖、強さも弱さも全てを受け入れるんだ」

堅守先生が何を言ってるのかはすぐに分かった
闇の魔法を覚える為に必要なヒント
ここまで教えられても覚えられへんなんて
ウチって駄目駄目やな……

堅守先生は才能が有るとか言ってくれたけど
ウチ自身、この魔法の習得のヒントをここまで教えてもらっているのに使われへん
適正が問題なんかと思ったけど、違うと思う
堅守先生が適正も無いのにウチに覚えさせようとするはずが無い。

今まで堅守先生から色々と教えてもらって分かった事
堅守先生は無駄な事はせず、効率を重視する事や
必要なら無駄とも思えるぐらいな知識をくれるけど……

でも、ウチがここまで駄目駄目なんや
効率を良くする為にヒントを少しずつでも与えてくれてる
最初から全部を教えたら無意味やと思うから、全部教えへんのやろうな
そのせいで何回も堅守先生を死なせて、ウチも殺して……

って、あかんあかん
堅守先生は全部受け入れろ言うたんや
なら、ウチのした罪も受け入れなあかん
殺した事もウチに違い無いんや、なら受け入れなな。

うん、多分それがあかんかってんな
さっき、エヴァちゃんの魔法を受け入れようとした

せやけどウチの心は迷っとったんや
堅守先生の事とか、あの魔法を受けたら危ないやとか
きっと心のどっかで拒絶しとったんやと思う。

次は……次こそは全てを受け入れてみせる！
ちゃうわ、何回でも挑戦したる！
それで何回死んでも、それでも試したるわ！

「ん、いい顔だ
頑張れ近衛、お前ならきっとできる」

頭を撫でてくれる堅守先生
なんちゅうか……お父様よりお父様らしいわ
本物のお父様、急がしてくてあんまり一緒やなかったしなぁ……
普通の家のお父様ってこんな感じなんやろうか？

「はい、ウチ頑張るわ！」

「その意気だ
何か色々と試すようだが、一応これを持っておけ」

渡されたのは妖刀ひな
今回は半分無理矢理持たされたりせず、ちゃんと鞘から渡された
もう堅守先生の前で柄を持ったり、鞘を外したりしたない！

「怖いか？」

堅守先生に問われ、考えてみる
怖いかと言われれば怖い
せやけど受け入れる……それが闇の魔法への道

この刀は怖い、せやけどそれはウチが未熟やからや
ウチがこの刀を持つ事ができるまで成長すれば何も問題無い
つまり、将来ウチが使うに相応しい、最高の武器や！

「うんん、怖ないで
今は扱われへんけど、将来はこれを持てるようになる
そして、そうなったらきっと最高の武器になるはずや
せやから怖ない、未来の相棒なんやから」

堅守先生は呆気にとられたような顔をする
ウチの判断に驚いたみたいや
驚くの、当たり前やろうなぁ……

「（近衛の順応力が凄まじいな
己が人殺しをした武器を怖がらないとは……
この調子なら呪術にも案外アッサリと手を出してくれそうだ
しかし……先に覚えさせるのは絶対に治癒術だな
既に俺が死ぬ姿を何度も見ている、どれだけ傷付いただろうか？
俺の考えとかを全て差し置いてでも教えないとな
もし運悪く誰かが死んだら近衛が壊れる可能性が高いし
そうなって困るのは俺だ、なら壊さない為にも覚えさせなければな）
」

驚いとった堅守先生の顔が真剣になる
何か大切な事とか言うんやろうか？

「近衛」

「はいな！」

真正面から凄く真剣な顔で見られる
そんなに見られたらちょう恥ずかしいんやけど……

「頑張れ」

それだけ言って、ウチの肩をポンって叩いて去って行く堅守先生
でもウチの目にはその姿は映っとらん
ウチの目に映ってるんは……

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック】

空中で呪文詠唱をしているエヴァちゃんのみ！
さぁいくでエヴァちゃん！
堅守先生が応援して、期待してくれてるんや！
何回でも、何十回でも、何百回でも挑戦したる！

【ふ……闇の吹雪！】

でもアッサリと消し飛ばされる
……意気込んでも最初からできるなんて自惚れとらんで！
正直に言って残念やったんは事実やけどな！

……
……
……

【いい加減、貴様も諦めたらどうだ？
魔法の射手に殺された回数２４回
氷爆に殺された回数３１回
闇の吹雪に殺された回数９６回

その他の死んだ回数５９回
合計２１０回も死んでるのにまだ諦めないのか？】

もうそんなに死んでるんか……完全に慣れてもうたな
でもウチはまだまだ終わらへんで！
もう死ぬ事とか忘れて、楽しんでるぐらいなんやから！

「プラクテ・ビギ・ナル
来れ氷精、爆ぜろ風精　氷爆！」

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
来れ氷精、爆ぜろ風精　氷爆！】

同種の同じ魔法が相打ちになる
もう何回同じ事を繰り返したかわからへん
時間なんてもう完全に忘れてもうた。

「（この世界に来て既に７２０時間……３０日の計算だな
外との時間差は７２時間だから３日で１時間、別荘内での時間は１０時間相当か
別荘内での１０時間という事は本来の時間で言うと２５分って所かいくら肉体が鍛えられないからといっても、これはさすがに……
近衛の奴、マクダウェルが使っている氷系の魔法はかなり覚えてしまったな
魔法の射手なんて現在の最大射出数は９９本……巫山戯るなと言いたいな
確かにこれだけ殺されて、受け続け、戦い続ければ成長は当たり前だろう
やはり１日の卓上の勉強よりも１時間の練習、１時間の練習より１０分の実戦とでも言った所か？

それに比べて俺は……これだけの時間練習して光の魔法の矢を3本が精一杯か
しかも威力は近衛の氷の矢1本にも及ばない程度、威力も力も低い情けない力
マクダウェルにも、この程度なら力の無い俺自身で殴った方が威力が高いとも言われた
更に言うならば初心者用魔法とてまだ完全にできていない為体……
俺の才能はどうなってるんだ？）」

威力は強引な手段で相変わらず互角
疲労はウチが圧倒的に高いし、使用魔力も大きい
それでも、初めて氷爆を使った時に比べたらずっと楽や
魔力を効率よく運用する事を頭と体が覚えてきとる。

外に出たら体は鍛えられとらんって話やけど
それでも頭と経験は残っとる
つまり、外である程度練習すれば
今と同じ効率で氷爆が使えるようになるはずや！

お互いの視界が隠れた
こうなった時のエヴァちゃんの行動パターンは……闇の吹雪！

ウチは妖刀ひなを抜き、構える
何度も使い、操られ、それでも殺される
傀儡化に慣れたせいか、もう殆ど自由に動けるようになった
気を抜けば操られるけど、ウチがしっかりとした意志を持てば操られへん
未熟者は刀に乗っ取られる……ウチの心はひなに認められたんや！

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック

来れ氷精、闇の精！　闇を従え、吹雪け常夜の氷雪！
闇の吹雪！】

エヴァちゃんの闇の吹雪がウチに向かう
ひなを持つ手を両手から片手に変える
残った手は闇の吹雪へ向け、受け止めるような体勢をする。

ちなみに杖やけど、ウチの魔法がある程度できるようになってからは持っとらん
堅守先生がかなり魔法を使えるようになったご褒美って言って指輪型の触媒をくれてん
魔法の練習の時とかは左手の人差し指、それ以外の時はポケットにでも入れておけって
きっと見つかったら色々と面倒やからやろうなぁ……でも、指輪ってだけでなんか嬉しいわぁ。

それはそうと、前回は動きが止まったなら今回は……もっと先にする所か成功させるんや！

闇の吹雪がウチの手に直撃する直前に止まる
次はこれを……クッ、重い！

「く……ぐ、ぐぐぐ……術式固定！」

魔法が暴れる！
落ち着いてくれへん！
それでも、それでも……それでも！

「1回で駄目なら……もう1回や！
術式固定！」

まだ固い、細い螺旋状の闇の吹雪は短く、太い螺旋状になるもののなかなかウチの思っている形、球体にならへん
これを受け入れるには、手の中で固定させるには球体が最もイメージしやすいんや
だから思い通りの形に変わってぇな！

「まだ……まだやぁ！
術式固定！」

闇の吹雪は落ち着き、形を整えていく
形はラグビーボールみたいな形になっていく
せやけど違う、ウチは球体を望んでるんや！

「術式固定！」

よし、なんとか術式固定、球体にできた！
次はこれをウチの手の中に収める
そして受け入れる……つまり取り込むんや！

「ぐ……く、か……あ、掌……握！」

球体を握り潰し、体に取り入れる
体に凄まじい違和感を感じた
何かに……体の中を引っかき回されてる気分や！

「う、ぐ……ぐぅぅ……」

落ち着くんや、引っかき回されとる気分も受け入れる
そうすれば必ず成功するんや！

全てを受け入れる、そう堅守先生が言ったんやから！

「く……はぁ……で、でけた？」

体が青黒い色で鈍く光っとる
氷の青と闇の黒、これが闇の吹雪を受け入れた状態？

【くくく、やっと闇の魔法を会得したか
貴様は早々に会得手段を知っていた
しかし、その為の技術などが殆ど無かった】

「……そうやね
せやからウチは何回もエヴァちゃんに殺された」

堅守先生はウチが復活するまでの生け贄にされとった
暇やから、そんな理由で堅守先生はエヴァちゃんに何回も殺されとる
ウチは闇の魔法と相性がそれなりに良えらしい
せやから体に負担が掛からないように復活までである程度時間が掛かる。

やけど堅守先生は相性がかなり悪い
それで体にあまり負担が掛からず、復活までの時間がウチの半分の半分以下
実際に殺された回数はウチより上やと思う。

「（俺はマクダウェルに何回殺されたっけなぁ……
途中から数えるのを止めたし、５００回ぐらいは死んだかな？
ひなで暴走した近衛に最初も含めて3回殺されたし
その都度慰めるのは大変だったが、同時に近衛は一気に成長したとなれば俺が殺されたのも無駄ではなかったな）」

それにしても……やっとや
やっとウチは闇の魔法を使えるようになったんや！
なんやろうこの達成感！
今までこんなに毎日を頑張った事が無かったからやろうか！？

【しかしまだだ
その成果、キッチリと見せてもらおうか！】

腕に光を持たせ、襲ってくるエヴァちゃん
今のウチは闇の魔法で強化されてるんや！
せやから弾くぐらい簡単に……簡単……あれ？
これってもしかして肉弾戦用魔法？

そう思った瞬間、エヴァちゃんに頭を吹き飛ばされた
あぁ……ウチ、やっぱり未熟者や。

……
……
……

んぅ……あ、そうや、また死んだんやった
はぁ、闇の魔法が成功したから早々死なんって思ったんやけど
まさかこの魔法が肉弾戦用の魔法やなんて思わんかったわ。

「起きたか近衛」

「堅守先生……おはよう」

もう堅守先生の存在を疑問に思ったりせえへん

何時間一緒の空間に居るんやろう？
今では起きたら堅守先生が近くに居るんが自然になってきとる。

「闇の魔法を会得したな
お疲れ様近衛、よく頑張ったな」

また、堅守先生は頭を撫でてくれる
堅守先生はウチが何かに成功すると必ず頭を撫でてくれる
それだけで、たったそれだけでウチは頑張れるんや。

「うん、ありがとな堅守先生
堅守先生が居らんかったら絶対に諦めとった
ほんまにありが……ぐす、ありがとおな」

「あぁ、俺からもありがとうな近衛
（俺の盾になるだけの力を得てくれて）」

何回撫でてもらっても、堅守先生が撫でてくれた後は涙が出てくる
辛い事ばかりやけど、嬉しさが凄い事になってるんや
だからウチは何が何でも堅守先生の課題をこなす
成功したら絶対に褒めてくれるんやもん、頑張れるんや。

【まったく……体を鍛えていなかったな】

「あ、エヴァちゃん」

【闇の魔法は一時的に身体能力を飛躍的に上げる
言わばドーピングのような魔法だ
しかし、身体能力が無い者が使っても意味が薄い
何故なら元より駄目だからだ】

それはウチ自身がよく自覚しとる
さっき殺されたんは失敗でもなく必然
使えただけで良い気になったウチが悪い。

「それをどうにかする為の手段なら既に取っている」

【……なんだと？】

ウチ、堅守先生に何もされてないし言われとらんよ？
どうやって、いつの間にそんな手段を？

「妖刀ひな、近衛はこの刀の持ち主となる
妖刀の類は基本的に持ち主へと力を与える
それで少しはカバーできるようになるな」

あー……そういえばそうやったな
ひなを持っとるだけで力が沸き上がってくる感じやったし
もしそれをあの状態でひなの力を使ったら……かなり凄い事になるんやないかな？

【ふん、それは私も考えたがな
この場所では体を鍛える事ができない
ならばいくら鍛錬しても無駄だ】

む、それも確かにそうや
いくら鍛えても、どんなに頑張っても
体が動かないんやったら仕方無いんや
体は成長しとらんのやから当たり前やけど。

「その程度の事は考えている
鍛えるのは外に出てからみっちりと鍛えさせるさ
しかし、それだけでは足りない
力ではなく技が足りない」

「力やなくて技？」

どういう意味やろうか？

「近衛、何回か技っぽい事をした記憶は無いか？
俺の予想が正しければ、体が勝手に技を仕掛けたはずだ」

う……確かにそれで堅守先生を2回殺したんやった
普通に襲ったんも1回とはいえ、殺した事に変わり無い
ウチは自分が情けないわ……はぁ。

「つまり、それは妖刀ひなが覚えている技という事だ」

「まさか堅守先生……
刀に刀の使い方を技を教われって事なん？」

「大正解」

また滅茶苦茶な……せやけど、それは当たり前やな
堅守先生は頭脳担当で戦いはできへん
エヴァちゃんの基本は魔法と合気柔術、それと糸や言っとったなぁ
一応武器はある程度は使えるみたいやけど、お遊び程度で教える事はできへんって
ウチ自身は当然ながら不可能や、色んな意味で。

「これも反復練習かな？
どうしても無理な場合は俺がひなを持つ
最悪の場合は俺が近衛を殺す事になるかもな」

堅守先生がウチを……殺す？

「い、嫌や！　絶対に嫌や！
エヴァちゃんに殺されるんはもう諦めたけど
堅守先生に殺されるんだけは嫌や！」

そんなんされたらウチ、立ち直られへん！
例え意識が乗っ取られとる状態でも関係無い！
堅守先生という事実が問題で大問題なんやから！

【（くくく、愛されてるな）】

「（煩い、黙れマクダウェル！
多少好意を計算していたとしても、ここまでは予想外なんだよ！
ったく、何がここまで懐く理由になったんだか……）」

【（言動と行動だろうが、どう考えても
それに、３０日近くも男と一緒に居たんだ
嫌でも意識せざるを得ないさ）】

「（しまったな……近衛に興味が無いからそれを見落としていた
よく考えたら思春期真っ直中の中学生
なら異性を意識するのは当然で仕方無いか……はぁ
これに関しては諦めるしか無さそうだな）」

【くっくくくくく】

堅守先生とエヴァちゃん……楽しそうやなぁ
ウチに隠れて何を話しとるんやろう？

「まぁ、近衛がそこまで嫌がるなら止めておくか
俺だって嫌がる事を無理矢理したいわけじゃないしな
マクダウェルが持っても、偽物とはいえ乗っ取るのは難しいだろうし」

【当然だな】

うーん……せやとウチが自力で覚えるんが最短の道やなぁ
頑張って覚えなな！
そんで最低限でも技の１つぐらい使えるようになるんや！

「（技を覚える事は無理だろうがな
何せ筋力というか……下地が全く足りない
技の発動方法とか、威力とか効果は分かるだろうが
それでもそれは操られているから
多少の身体能力が上がっても、それを使う為の体が追いつかない
当分の間、近衛は力を付けてもらって、それで動ける体に改造しないと
インドア派の近衛が鍛えるのは色々と大変だろうが……頑張れとしか言えんな）」

よーし、なら早速……は、あかんな
もう暴走は殆ど無いんやけど、可能性は０やない
堅守先生の近くでひなを使って、また殺したくないもんな
離れた場所でせな……

「ほな堅守先生、ウチ頑張ってくるわ！」

「あぁ、頑張れ
難しいとは思うが、この空間で後２４時間したら出るぞ
俺達の体がどうなっているのか気になるからな」

「はーい！」

２４時間、あんま長くないけど十分やろ
ひなを無理矢理暴走させて、技を使いまくって
それでその動きと感覚、そこら辺を覚える
これでなんとかなるはずや！　多分やけど。

……

……

……

この空間でひなに操られる事１５日、３６０時間
堅守先生が言っていた別荘内との時間差は７２時間
別荘内での時間は５時間、本当の時間やと１２分か１３分ぐらいやな
今まで使ってきた時間も合わせて、別荘内で１５時間かなぁ？
別荘で使える残り時間は７時間、この巻物の中やと５０４時間や。

「近衛、俺はお前を嘗めていたよ
魔法の才能にばかり目を向けていたが、父親を忘れていた
近衛の父親は……神鳴流剣士だったな」

そうやねんなぁ……ウチ、アッサリと技を覚えてもうた
ウチもまさか剣士としての才能も有るとは思わんかったわ
魔法、陰陽道、剣士……選り取り見取りやん

堅守先生が嫉妬とかよりも呆れて気力を無くすんも当たり前やな。

「まぁ、使える技がかなり雑魚っぽいのは仕方無いか
これから体を鍛えていくしか無い
いくらなんでも、それはここではどうしようもできないからな」

せやなぁ、頭とかしか鍛えられへんもんな
外に出たらこの技の練習もせな
体にも技を覚えさせな使われへんやろうし。

「別荘内の時間切れまで残り５０４時間
日数に変えると２１日分の時間が残ってるな」

あ、なんや嫌な予感……

「なら残りの時間は勉強をしよう
こっちでは全くしていなかった陰陽道を中心としてだ」

や、やっぱりー！
堅守先生の授業は覚えられるんやけど
その代わり密度が濃くて凄く疲れるんよ！

しかも滅茶苦茶丁寧に教えてくれるから分かって、理解できて当たり前やねん！
もし何か忘れたら辻褄が合わなくなる、それが普通なんやから
つまり、覚え逃したらこの先で自分が混乱するだけって事になるんやせやから覚えるんやなくて、覚えなあかんねん、やからめっちゃ疲れるんよ！

「この中では食事も睡眠も不要だからな

ある程度休憩を挟みながらもみっちりと覚えてもらう」

「あはは……わーいや
でも、手加減してな？」

ウチの言葉に堅守先生は笑顔を見せてくれて一言。

「お断りだ」

見事のカウンターで切り捨ててくれた
ウチ、死ぬんやろうか？

……

……

……

堅守先生が話し続ける事１２０時間
とにかく知識を詰め込まれた
いくた堅守先生は影響が少なくて疲労が少ないからって……

「もう５日近く経つな
残り時間は１６日分か……」

一応、１時間毎に５分の休憩はくれる
せやけど……それでも辛い
ウチは知識の重さで死にそうや……

「よし、陰陽道の知識はこれぐらいにしておくか
今回は暫く休んでいいぞ」

つ、疲れた……絶対にエヴァちゃんと戦うより疲れたわ！
でも今回って言ったやんな？
また似たような事をするんやろうか？

【というか、いつまでここに残っているつもりだ？
もう闇の魔法は使えるようになってるし
妖刀も操れる、技も使えるようになってるんだ
さっさと出て行ってくれないか？】

「それぐらい大目に見ろ
次は神事や仏事を教えなければならないんだからな」

「え、まだ勉強せなあかんの？」

嘘やぁ……もう嫌や！
せめて休ませてぇな！

「ストレスでも溜まってるのか？」

「……そういう堅守先生は楽しそうやな
めっちゃスッキリした顔しとるわ」

「そうか？　自覚は無いんだが……そうかもしれんな
自分の知識を話し続けるなんてした事が無かったし」

そりゃ満足やろ、５日間の殆どを話しっぱなしやったんやし
どないしたらそんな知識が溜め込められんねん
いくら本とか取り出せるからって……

でも、そないな本って半分の時間も使っとらんかったんな

殆どが堅守先生の知識やし
堅守先生、数学とか英語より社会の歴史を担当した方がええんやない？

「それにしても、神事とか仏事ってなんでなん？」

「お前が使うのは陰陽術だがな
妖怪とか鬼を使役する召喚術も使うだろう
となると神事や仏事を知っておくだけで召喚対象に対して礼儀になる
上位の者は召喚師の態度とかで従うか決める者も居るからな
失礼の無いようにすれば格上でも従ってくれるかもしれんぞ？
（可能性の話だがな、０ではないが低いだろう）」

うーん……そないな意図が有ったんや
これ、体に叩き込まれそうやな
体では覚えられへんけど、頭が勝手に動きそうや。

「だが、その前に近衛のストレスを発散しないとな
マクダウェル、近衛の相手をしてくれないか？」

【……殺せという事か？】

「エヴァちゃん、戦ったらウチが負けるんは確実やけど
それでもそういう言い方は無いんやない？
せめて……なんやろう？　喧嘩とか？」

でも、実際そう言ってるようなもんやもんなぁ
ストレスが溜まっとるんは事実やし
ずっと戦いっぱなしやったから勉強ばっかで鈍っとりそうや
体は鍛えられとらへんけど、魔法の練習にはなるもんな。

【いいだろう、私も暇だったしな
時々興味を引かれたが、基本的にどうでも良い話しかしていなかったし
私も多少苛々していたのだ、相手は大歓迎だ】

ウチとエヴァちゃんは少し離れ、向かい合うように立つ
堅守先生は庭に出て木の枝を掴む
……ここ、ウチの実家やったんやよね
理由は陰陽術の勉強だから雰囲気が出るからやって。

そして堅守先生がウチらを見る
少し経ち、枝を折った音が鳴った。

「プラクテ・ビギ・ナル
来れ氷精、闇の精！　闇を従え、吹雪け常夜の氷雪！
闇の吹雪！　術式固定、掌握！」

【リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
来れ氷精、闇の精！　闇を従え、吹雪け常夜の氷雪！
闇の吹雪！　術式固定、掌握！】

同じ魔法を同じように使う
ウチとエヴァちゃんの体が青黒く、鈍く光る
これが闇の吹雪を使った闇の魔法
付与効果は防御力の上昇と氷属性の物理攻撃
そんで弱いけど闇属性の薄い膜で更に防御力アップや
弱点は速度が下がる事、攻撃力は高くないてとこやな。

せやけど、その弱点はウチには適応されへん

何故ならウチが持ってる武器は……妖刀ひな
持ち主に速度補正、腕力補正を与える魔剣
更に闇の道具やから相乗効果で闇の魔法の効果も上がる
エヴァちゃん曰く、通常の1．2倍ぐらいらしいわ。

けど、当然これにも弱点が有る
闇と魔でウチの理性が削られる事
意識をしっかりと持っとかんと暴走してまう
それで堅守先生を1回殺してもうた
せやからあまり使いたい合成効果やないわ。

そして闇の魔法を使うと現れる腕の痣みたいな模様
魔力を集中したら勝手に浮き上がってくる
でも、他の魔法やと出てこうへんのが唯一の救いやな
魔力を腕にさえ集中させんかったら何も出てこうへんねんもん
これでもし魔法を使ってもそこまで騒がれる事は無いやろうな。

そんでもって、ウチのドーピングはまだ終わっとらん！
最後のドーピングはこれや！

「プラクテ・ビギ・ナル
戦いの歌！」

詠唱が短いから楽で助かるわぁ
これは闇の魔法のおかげでイメージしやすかったから助かるわ
3重ドーピングで力も速さも、元の状態とは比べもんにならへん！

「（俺って場違いだよな？
近衛の奴、成長し過ぎだろう
闇の吹雪まで使えるようになるとは……

さっきの勉強で少しした魔法講習、これも原因か？）」

やけど、こんだけ強くなったとしてもエヴァちゃんには勝たれへん
まだ1太刀も浴びせられとらん……
今まで攻撃が当たった事なんて1回も無い
最初に浴びせた火やって当てるつもりやったけど防がれたし
風の魔法やって切り傷の1つぐらいを付けるつもりやったけど砂が目に入っただけや
あんなん、攻撃とは言えへん……ただの目眩ましなだけやわ。

せやからウチから動く
受け身になったら勝つどころか、当てる事もできへん
今の目標はエヴァちゃんに1つでも傷を付ける事や！

「妖刀氷技・氷空斬！」

【大振り過ぎる、当たるはずが無いな
リク・ラク・ラ・ラック・ライラック
氷の精霊99柱、集い来たりて敵を切り裂け！
魔法の射手・連弾・氷の99矢！】

氷の力を込めて飛ばした斬撃はアッサリと避けられる
弱点は大振りになってまうから1発ずつしか撃てへん事
遠くから使ったんやから当たり前やし……
でも、先手を取るにはこうするしか無かったんや！

エヴァちゃんの反撃は氷の99矢
避けきるんは今のウチには不可能
せやったら何ができるか……こうや！

「妖刀闇技・闇壁！」

闇の力を使い、壁を出す
ぶっちゃけると氷盾と同じもんや
せやけど、これは闇属性の壁や！
大きさ、強度は氷盾よりも上！
弱点は……透明やないから敵が見えへんってとこやな。

【横がお留守だな
魔法の射手・連弾・１１矢！】

詠唱省略！？
そんなん絶対避けられっ！

「げほ、げほっ！
よ、妖刀氷技・氷壊斬！」

魔法の射手は当たったけど、それも氷属性やから氷闇状態の耐性で効果は高ない！
エヴァちゃんの氷爆の氷も少しやけど破壊できる攻撃や！
少しモーションは大きいけど、威力だけなら折り紙付きやで！

【遅すぎるし大振り過ぎるな】

アッサリと避けられる……
こんなに近いのに、１ｍも離れとらんのに！
やのに、やっぱり当てられへん！

【終わりだ、氷爆！】

声を出す間も無く殺された
呪文無詠唱なんて卑怯や……今度教えてもらおう！

……
……
……

そんな感じでエヴァちゃんとガチバトルを6日
残り時間は１０日やけど、いい加減に堅守先生が怒った
勉強する言うたのに、ウチらが戦いを止めへんから……
また5日間を覚悟しろ言われてもうた。

本当やったらどうするか訊いてみたんやけど
ウチが疲れてるようやからって3日で済ませてくれるつもりやったんやって
自業自得やけど……そんなんって無いわぁ。

そんな事で勉強にまた5日
残り時間は最長でも5日やな。

「堅守先生、残り時間はどうするん？」

「休む、寝る、遊ぶ
いくらなんでも、６８日は頑張り過ぎた
俺も疲れているが、近衛の疲労もピークだろう
とにかく、残りの5日は頭を休ませておけ」

「へ？」

それって……もう何もせんでいいって事？

つまり今回の修行ちゅうか……勉強はおしまい？

「戦闘は禁止、勉強はしたいのなら勝手にしろ
俺は休む、寝るから邪魔するなよ
マクダウェルも、余計な事はしないように」

「あ、うん……おやすみなさい」

【好きにしろ
（後で絶対に嫌がらせに行こう）】

堅守先生はウチの家の中に入っていった
多分、適当な部屋でも探して寝るんやろうけど
ウチはどないしよ？

「なぁエヴァちゃん
ウチ、何をすればええんやろう？
ずっと戦いと勉強しかしとらんかったから落ち着かへんわ」

【だからだろうな】

へ？
それってどういう意味なん？

【そんな日常になっていたから、それを元に戻そうとしているんだろう
もしこのまま日常に戻ってみろ
闘氣を発したままで忽ち怪しまれるに決まっているだろう？
だから奴は貴様が落ち着く為に時間を与えたんだ】

あー……警戒されるって事やな
せやからウチが落ち着くように時間を……

【まぁ、怪しまれるのは確実だろうがな】

「え、なんでなん？」

闘氣とか無くせば怪しまれたりせいへんのやろ？
確実やったら意味無いやん。

【貴様自身は気付いていないだろうがな
持っている魔力が上がっている
それに体も戦いをする為の姿勢になっている
これはもうどうにもならん、本体にまで影響が出ない事を願うんだな】

ウチにはどうしようも無いやん……
どないすればええんやろう？

「どうすればええんやろ？」

【ふむ……難しいな
これればかりはどうしようも無い
怪しまれても知らぬ存じぬで返事するしか無いな
あの男が関係していると知られたら……】

ウチの強化に堅守先生が関係していると知られたら……
あかん、またせっちゃんが動きそうや！
おじいちゃんも動く可能性が有る
いくらなんでも、今程度の力で2人に勝てる自信は無い！

2人がどれぐらい強いかは知らんけど、ウチはまだまだ初心者の半人前なんやから。

【まぁ、自分でどうにかするんだな
私も寝させてもらおう
さすがの私も疲れたからな】

そう言ってどっかに行くエヴァちゃん
ウチも休もうかな……この世界やと睡眠は不必要やけど。

……
……
……

巻物の中で5日後
エヴァちゃんが堅守先生にちょっかいを掛けたりした以外は何も無かった
めっちゃ平和で、のんびりした時間を過ごした
これが平和なんやなぁ……懐かしいわぁ。

「そろそろ時間だな
じゃあなマクダウェル、また気が向いたら来る」

【もう2度と来るな】

「そう言わんとってやエヴァちゃん
エヴァちゃんはウチのお師匠様なんやからな
偶には弟子の面倒も見てや」

頭と勉強のお師匠様は堅守先生

魔法と実戦のお師匠様はエヴァちゃん
ウチって実は贅沢者やろうか？

【……ふん】

あ、照れ隠しにそっぽ向いた
可愛えなぁ、エヴァちゃんは。

「そうだマクダウェル
お前は本体と繋がっていないんだろう？」

【ん？
まぁ、繋げようと思えば繋げられるが？】

「ならこのまま繋げないままにしてくれ
もし今回の事を知られたら面倒事になる」

堅守先生の勉強で出てきたなぁ
エヴァちゃん、吸血鬼で何百年も生きとるってせやからこんな凄い巻物とか作れたんやし。

【ふ、断る！】

意地悪や！　エヴァちゃん意地悪や！
さすがサディスト、酷い！

「まぁ、そう言うと思っていたけどな
口止め料として体と自由を渡そうと思っていたのに、残念だ」

【ちょっと待て！

それはどういう意味だ！？】

体と自由ってなんなんやろう？
どういう意味？

「どれだけ時間が掛かるかは分からんが
人間に近い人形の体なら用意できる
人造霊のお前は長時間の間、表で存在できないはず
だからその体に憑依させ、表で生きられるようにしてやろうかと思ってな
無論、名前と顔は変わるが……それでも破格の条件だろう？
何せこのままだと、永遠にこの巻物で生きる事になるんだからな」

堅守先生が凄く……邪悪な笑みをエヴァちゃんに向ける
エヴァちゃんの顔は信じられないような、驚いた顔をしとる
堅守先生、魔法以外ではどれだけん事ができるんやろう？

【ま、魔法も使えない奴が何を偉そうに！
そんな体が有るはずも無いし、貴様にそんな事ができるか！】

「俺にできるのは体の準備と教える事だけだ
憑依の儀式とかは近衛にしてもらう
将来、それぐらいはできるようにするつもりだ」

ウチ、めっちゃ期待されとる！？
そこまでどれだけ勉強させられるんやろう……
なんや怖いわぁ……

【本当に私は自由になれるのか？】

「さすがに断言はできないけどな
近衛の成長具合にも依るし
時間は掛かるだろうが、それで良ければ可能だ」

考え込み、難しい顔をするエヴァちゃん
暫くの間、沈黙が辺りを包んどる。

【……良いだろう
本体に貴様達の事は報告しない
小娘を鍛える事も手伝おう
だから私を自由にしろ】

「了解っと」

堅守先生は返事をして、エヴァちゃんに体を近づける。

「（できる可能性は更に低いが
本体の魂を抜きだしてお前がマクダウェル本体になれるかもな）」

【な!?
貴様、何を考えている!
そんな事ができるはずが……】

「不可能ではない
まぁ、無理だろうから期待しないで待っているがいいさ
とにかく交渉は成立、本体には黙っていてくれよ?」

【……分かった】

堅守先生、何をエヴァちゃんに言ったんやろう?

あの慌てよう……初めて見たで。

「じゃあなマクダウェル
また来る」

「また魔法の相手お願いなエヴァちゃん」

ウチらは巻物から抜け出す
抜け出し方なんて知らんかったけど
自然と出られた。

【……ふん
期待はしないでやる】

……
……
……

さて、ここは別荘やんな？
もうこん中で２４時間になるやろうし
そろそろ出なあかんか。

体は……うん、動くけどめっちゃ鈍い
この体も鍛えなあかんな
頭はめっちゃ痛いけど……

「この頭痛は……多分、死にすぎたのが原因だろう
脳が情報量を処理しきれていないんだと思う
多分、当分の間はこの頭痛に悩まされそうだ」

うぅぅ……なんやごめんなさいや
ウチに付き合わせたから堅守先生も大変で
でもウチ自身もめっちゃ痛い……大丈夫やろうか？

「……忘れてた」

「何をや？」

痛みを見せながらも唖然とした顔の堅守先生
どうしたんやろう？

「出口は入って来た所に有るんだ
そこに行かないと出られない」

ほかほか、そんで？

「また……あの手摺りも無い橋を渡るのか？」

「……頑張ってな」

がっくりと四つん這いになって落ち込む堅守先生
ウチにはどうしようもできへん……ほんまに頑張ってな堅守先生！

9話【近衛木乃香強化改造計画】（後書き）

エヴァンジェリンの持っている緑の短剣って何？
瑞貴の記憶から引っ張り出してきた遊戯王の装備魔法カードです
なお、現在禁止カードの蝶の短剣―エルマです。

どうしてそんな物を使ってるの？　後半で魔法を使ってるのに
視覚的に恐怖を与える為です、多分
ぶっちゃけるとあまり考えていません
よく考えたら魔法を固定化するんですから武器を使う意味って無いんですよね……
強いて言うならば視覚的効果、以上！

瑞貴って光だったの？
絶望の無い人間に闇はありません
瑞貴は未来を見ていますからね
方向性やしている事はアレですけど……
過去に絶望しているという事は無いのです。

どうして瑞貴は首だけになっても生きていられるの？
意識が有ったからです、体は既に死んでいますが……
なお、実際に首だけになっても意識が有るという前例はリアルで有るそうです
調べてみたら分かるかもしれませんよ？

エヴァンジェリンが瑞貴を殺した大剣って？
同じく遊戯王の装備魔法、破邪の大剣―バオウです。

どうして途中から急にエヴァンジェリンはカタカナではなくなった

の？
漫画でもそうだったので
そして作者が疲れました……面倒なんです
今後、人造霊エヴァンジェリンはこのままです。

木乃香を殺した巨大な槍って何？
略、装備魔法の城壁壊しの大槍です。

瑞貴って……もしかしてマゾ？
違います、単純な好奇心です
実際に死ねる体験なんて普通はできませんからね
それに瑞貴はどちらかと言えばサディストですし。

木乃香が使っている魔法が氷属性ばかり
エヴァンジェリンの使っている魔法を覚えたからです
教えてもらったのではなく、盗みました
なので氷属性ばかりなのは当たり前です。

そんな簡単に覚えられるものなの？
普通は無理でしょうが、そこは木乃香
才能とかが凄まじい……とは言いますがそれだけではありません
実際は死なないとはいえ、命のやり取りをしているんです
これで成長をしないはずがありません
嫌でも強くなります、実戦に勝る練習は無いんです。

瑞貴の血が好みのエヴァンジェリン？
人造霊なので、悪魔ではありません
……まぁ、ぶっちゃけるとあまり意味は無いです
血を吸えるのかという疑問に関しては問題無いかと
実際、あの世界でも血は流れているようですし。

瑞貴の考えている事は屑過ぎる！
今更です。

瑞貴が止める手段は有ると言ってるけど、どうやってエヴァンジェリンを止めるの？
いくらでも手段は有ります
面倒なので書きませんが。

どうしてエヴァンジェリンの魔法の矢は木乃香の魔法の矢より小さいのに引き分けるの？
密度の違いです
エヴァンジェリンの魔法の矢は小さくとも力を込めているので。

どうしてひなが……
妖刀だって立派な武器です
魔道具に分類されるような物ですから。

でも、ひなの持ち主って操られてる記憶は有るのかな？
ラブひなの9巻でその話が有りますが
操られた成瀬川は覚えている様子は無かったと思いますが、それは単に混乱しているだけなのかと……まぁ言い訳です
捏造設定、実際は分かりません。

よく木乃香はひなを受け入れたな……
瑞貴に受け入れろと言われていたからです
そうでなければ完全に拒絶していました
勿論、後から言われても効果が無かったでしょう
なのであのタイミングで言ったのは最高の時だったのです。

よくひなに操られずに……
どうしてかは謎、ぶっちゃけ考えていません。

２人共殺され過ぎじゃない？
ネギは７０回ほど殺されています
当時のネギより遙かに弱い２人です
更に殺されているのも当然の事でしょう。

エヴァンジェリンまで闇の魔法を!?
当然でしょう、コピーでも開発者なんですから使えて当たり前です。

妖刀氷技・氷空斬って何？
神鳴流の斬空閃の氷属性のような技です
というか、氷の斬撃を飛ばしています。

技名が……
作者のネーミングセンスに突っ込まないでください。

妖刀闇技・闇壁って？
解説している通りです。

妖刀氷技・氷壊斬って？
神鳴流の斬岩剣と同じような技だと思ってください
破壊するのは氷ですが……まぁ、まだまだ未熟なので氷も破壊できません
というか、氷属性で氷に攻撃して意味が有るのか謎です。

瑞貴の言う、エヴァンジェリンの体って？
予想ができそうですね、でも秘密
あまり言わないでくれると作者は嬉しいです。

そんな事ができるの？
相坂さよみたいにすれば可能かと思います
一応、人造霊で霊には変わり無いんですし
精霊も霊ですし、なら可能だと思いました。

という事は……精霊のエヴァンジェリンがヒロイン？
それはどうでしょう？

エヴァンジェリン本体になれるって……
不可能では無いかと思います
魂さえ抜けば憑依は可能でしょうし
……本当にしようか、本気で悩みましたが止めておきました
まぁ、しない可能性は０では無いですがね
もしかしたら今後、本当にエヴァンジェリンを乗っ取るかもしれません。

別荘から出た後はどうなったの？
次話にて。

ツイッター、しかし殆ど何も更新は無い
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
作業用ＢＧＭのＵＲＬでも載せようかなぁ……

１０話【本好き達－１名】（前書き）

……何故また長くなった？
前話は仕方無いとして、今回も普段の１．５倍近くまで……
謎です、ネタが溢れて止まりません。

最近の更新の遅さは……はぁ
まぁ、作者にもしたい事は沢山有るのです
他の小説を読んだり、ゲームをしたり、実は忙しかったり
そして今日も眠い……平日休日含む、毎日遅くても８時起きは疲れます
なので自然と寝不足に……遅い時は４時ぐらいまで起きてますからね
まぁ、自業自得なのですが。

今回も相変わらずです
そして木乃香、どうしてこうなった……
こんな性格にするつもりは無かったんですけど
うーん……前話がやはり強烈だったのですかね？

10話【本好き達ー1名】

視点　木乃香

堅守先生と別れて、自分の部屋に向かう
時間は6時……アスナを起こす時間まで1時間ぐらい有るなぁ
頭は痛いし、あんだけ頑張ったけど体は寝てたから全く眠ないわ
1時間でも二度寝しようかと思ったけど、これは無理やな。

ご飯は予約してきたから7時に帰っても余裕で学校は間に合うし
帰りに堅守先生から借りた占いの本でも読んどこっかな?

ふふ、なんや嬉しいわぁ
巻物の中で魔法触媒用の指輪を貰って嵌めとったけど
出たら無いんやもん、あん時は落ち込んだわぁ。

欲しい言うたら頑張ったご褒美言うてくれた
堅守先生からの贈り物やー、大事にせなな。

左手の人差し指に付けている指輪を見てると顔が緩んでまう
予備の杖もちゃんと持たしてくれるから堅守先生は優しいわ
ウチのスカートのポケットに1本、シャツにも1本有るしなぁ
魔法の触媒は3つ、多い思うけど心配されているみたいで嬉しい。

「む、このか殿?」

「あ、おはよう楓
朝から何しとるん?」

こんな朝からどうしたんやろう？
どっか修行でもしとったんかな？

それにしても、やっぱ楓の気配を掴むんは無理やぁ
まぁ、こんなんは自然にできるようになる言われたけど
楓みたいな人の気配を探れるようにならんとあかんねやろうなぁ
……うん、頑張ろ！

「ただの散歩でござるよ
そういうこのか殿は？」

気のせいやろうか？
今、一瞬やけど楓の目付きが変わった？

「堅守先生に本を借りてきたんよ
図書館島に無い占いの本とか持っとるし」

まぁ、普通の占いの本やないもんな
陰陽術を使う、呪術的な占いやもん
こっくりさんとかも載ってるけど、絶対にするな言われたなぁ
ウチがしても大丈夫な占いは無いから読むだけにしておけって
危ないって言われたから諦めるけど……したいなぁ。

「……あの現実的過ぎる堅守先生が占いでござるか？」

「堅守先生、占いだけやないで？
オカルトとか、歴史とか、伝承とか、神話とか好きやし
英語ができるようなったんはその副産物や言っとったで
他にもイギリス語とか、ラテン語とか、中国語、ギリシャ語

趣味の為に苦労して覚えた言うとったわ」

「しゅ、趣味の為だけに勉強でござるか？
いやはや、予想外の趣味でござるな
拙者も趣味は有るとはいえ、そこまではできそうに無いでござる」

ははははって、呆れた声で言う楓
ウチが言った外国語ってまだ一部やねんけど……
神話とかって範囲が広いから古文とかも覚えたみたいやで？

「堅守先生は物知りやから話してて楽しいで？
めっちゃ長いけど、頼んだら色々教えてくれたわ」

さすがに5日間、殆ど話しっぱなしなんは驚いたけど
アレは反則やわ……どんだけ知識をあの頭に詰め込んでるんやろう？

「……このか殿、少し変わったでござるな
表情というか……堅守先生の話をしている時
とても嬉しそうな顔をしているでござるよ」

「え、嬉しそう？」

ウチ、そんな顔しとるんかな？
なんやろう？　恥ずかしいような……でも嫌やない
堅守先生の事、ウチはどう思ってるんやろう？

「（え、自覚無し！？　拙者でも分かるぐらいに楽しそうな……
どう見ても好意を持っている顔をしていたのでござるが！？）」

あかん、頭痛くてあんまり考える気にならられへん

頭痛がなかなか治まらんのって大変や
考えが纏まらへん、これを考えるんはまたの機会にでもしよ。

「それはそうとこのか殿
雰囲気が変わったでござるな、さっきとは違う意味で
今までののんびりした雰囲気から、何やら力強く感じる
もしや何か強くなる切欠でも掴んだでござるか？」

む、やっぱ武道四天王の楓には隠しきれへんか
この分やとエヴァちゃんの本体、せっちゃん、くーへ、龍宮さんにもばれるかも
暫くはおじいちゃんにも会いに行かれへんなぁ……絶対に気付かれるまぁ、クラスメイトはともかくおじいちゃんに会う気なんて無いけど。

龍宮さんとは会話も殆どしとらんから何も言われへんと思うくーへは……わからへん、微妙過ぎるわ
せっちゃんはウチを避けているから大丈夫やろうし
問題はエヴァちゃんや……気付かれへんといいんやけど。

「あんま何かってんは……強いて言うなら、そうやな
堅守先生の占いの話とか聞いとったからやろうか？
気力とか使ったり、体を動かす占いとかも有る教えてもろうたしなその為にも、少し鍛えよ思ったんよ」

これは本当、実際にそんな占いが有るて教えてもろた
正確には陰陽術を教えてもらっとる時に、ついでに教えてくれただけなんやけど
何時間も儀式をして占いをするって術も有るみたいやし
試してみたいわぁ……でも体力無いからほんまに鍛えなな。

でも、楓は騙しきれへんみたいや
ちょう疑ってるとは違うけど、違和感を感じとるみたいや
実際、もう鍛え始めとるしな……頭やけど。

「そんな占いが有るとは……
どんな占いなんでござろう？」

「今度堅守先生に言って、その本貸してもろたろか？
かなりの体力勝負みたいで、何時間もする古い占いみたいやけど
しかも呪文みたいなんも唱えなあかんみたいやから覚える事多いで？
興味が有るんやったら堅守先生に口添えしたろか？」

「え、遠慮するでござる……
何やら覚える事が多そうゆえに」

そうやろか？
こんなん、文庫本の半分も覚える事無いで？
堅守先生の話に比べたら余裕やわ。

「それで、鍛えるとは具体的に何を？」

「まだ決めとらへん
楓、何かアドバイスとか無いやろか？」

武道四天王やし、何か有るやろ
堅守先生やエヴァちゃんに訊いた方が絶対に良い回答をくれそうやけど
誰にも訊かんで突然したら怪しいやろ？

「ふむ……なら最初はジョギングはどうでござろうか
何をするにしても、体力は重要でござるよ」

ジョギングかぁ……
毎朝毎晩しとったら少しは鍛えられるやろうか？
一応、くーへや超りん、運動部にも何人かに訊いてみよ
そんでシックリこんかったら堅守先生に訊けばええやろ。

でも、精神だけやったとはいえ
あの巻物の中では滅茶苦茶に動いとったんやんなぁ
そう考えたらほんまにジョギング程度で良いんやろうか？
絶対に堅守先生の期待には応えられそうにないわ。

「不満そうでござるな
では山登りとか、水泳はどうでござろうか？
足腰、体力が相当鍛えられるでござるよ？」

そんな時間無いわ……ん？
でも確か堅守先生が出した別荘には海が有ったやんな？
アレが本当に海かどうかは分からへんけど、多分海や
そこならみっちり泳げるんやないやろうか？

山登りは……時間が足らんなぁ
その時間を泳いだ方がずっと効率が良さそうや
やっぱり相談は必須やな。

「ん、ありがとな楓
ちょっと考えてみるわ」

「あいあい

お役に立てて良かったでござるよ
（それにしても……このか殿の身に何が？
あの体から溢れる僅かな魔の気配……まさか偽物？
しかしそれ以外は何も問題無さそうだが
もしや何者かに操られている可能性も否定できん
これは少し、真名と相談しておくべきか
もしそうなのなら……このか殿を操っている者は許すわけにはいかんな）」

あかんな、楓は何かに気付いた
はぁ……エヴァちゃんに演技の方法とか教えてもろたけど
それでも所詮は素人の付け焼き刃って事やろうか？

何もせんでくれると助かるんやけど
……でもウチが持ってる本は本当に占いの本や
魔法の本の貸し出しは禁止されてもうたから仕方無いんや。

理由はウチが３つ目の選択肢を選んだから
勉強は時間を削ってするからって
せやから少しでも怪しまれないようって言われた
だから借りられたんは占いの本だけやねんなぁ……残念やわ。

でも、これは正解みたいや
楓に気付かれたって事はせっちゃんは確実に気付く……はず
ウチの護衛やし、気付かんはずが無いやろ
無い思うけど、部屋の中とか見られたりしたら怖いし。

さて、今はジョギングして帰ろうかなっと
今は鍛える事が最優先や、ひなに振り回されたりせんようにな
自分の力だけで運動能力を上げたら強化も効果が上がるし

強うなったら……また堅守先生に褒めてもらおっと！

視点　明日菜

「アスナー、朝やよー
そろそろ起きて準備せんと間に合わんようなるでー」

んむー……朝？
もう少し寝たい……バイト後の二度寝って重要なのよー
1時間ぐらいしか寝れないけど、その1時間が貴重なのよ。

「起きな無理矢理起こすえー？」

このかの無理矢理なんて布団を剥ぐぐらいでしょー？
そんな事をするぐらいだったらもう少し寝させて……

「……起きへん
もう、しゃあないなぁ……せいっ！」

「ごふぅ！
げほっ、げほっ！」

お、お腹痛い……

「な、何するのよこのか！？」

「アスナが起きへんからやろー？

何回も起こしたし、無理矢理起こすって言ったやん」

「だからって……お腹殴んなくてもいいじゃない！
しかもやたら威力が高くなかった！？」

私よりは威力が低かったけど、それでも相当な力よ！
このかにそんな力が有るはず無いのに
どうしてそんなに強いか分からないけど、それでもかなりのパワーだったわ！

「そうやろか？
これでも手加減したんやけど……
（もしかして……あの空間では常に全力だったからあかんかったんやろうか？
手加減なんてする余裕無かったし
鍛えてなくても、無意識に力を出してるとか？
これは……手加減も覚えなあかんな、する事が多くて大変や）」

こ、これで手加減？
このかったら、いつの間にこんなに？
何か有ったのかしら？

「いやぁ、ごめんなアスナ
思ったより力が入ってもうたみたいや
ウチもこんなに威力が有るとは思わんかった」

あははーって笑うこのか
謝ってもらったし、まだ痛いけどいっか
このか自身も予想外だったみたいだし。

「それより朝ご飯できとるで
はよ食べな冷めてまうし、遅刻するでー」

「んー、分かった
とりあえず先に着替えるわ」

……気のせいかしら？
なんだかこのかの動きに違和感が……
あんなに動きがキビキビしてたっけ？

普段はぽやぽやって感じでのんびりした感じだったんだけど
今日はなんだろう……気のせいか動きが速い？
このかという存在になんだか違和感を感じる……どうしてかしら？
このかはこのか、それに変わりは無いはずよね。

「ん？
どしたんアスナ
なんかボーッとして」

「何でも無いわ
そういうこのかこそどうしたの？
なんだか……何か違わない？」

「そうやろか？
（やっぱ同室のアスナに隠すんは無理かぁ……
もしかしてみんなにそう見られるんかな？
それやったら隠してる意味無いし、どないしよ？）」

私の気のせい？
いえ、そんなはず無いわ

このかの雰囲気が全く違うもの。

「本当にどうしたのよ、このか
雰囲気が違うし……大丈夫なの？」

「大丈夫やって、雰囲気が違うのはアレや
新しい占いに挑戦しようと思って意気込んでるんや」

「新しい占い？」

このかの占い好きは知ってるけど
占いって雰囲気が変わるものだったかしら？
普段している占いじゃ私生活まで変わらなかったはずだけど。

「そや
堅守先生に古い占いの本を借りてん
今はそれを覚えるんに夢中やからな……
覚える事が多くて大変なんや」

凄く楽しそうに、嬉しそうに話すこのか
占い好きは知ってたけど、ここまでとは……

「そんなに大変なの？」

「その占いをするだけで文庫本の半分ぐらい覚える事が有るで」

……パス、私には無理ね
そんなのを覚えられるんだったらもっと勉強ができるわよ
はぁ……高畑先生、早く出張から帰ってこないかなぁ。

「アスナー、はよご飯食べてくれへん？
片付けができへんねやけどー」

「あ、ごめんこのか
いただきまーす！」

一口食べて違和感
……なんだか普段よりあんまり美味しくない？

「どうしたん？」

「いや、なんて言うか……言っていいのかな？
このか、料理の腕、落ちた？
あ、別に美味しくないって言ってるんじゃないわよ？
でも昨日までと比べたら……」

毎日このかのご飯を食べてるから分かる
これ、ずっと料理してなかったって感じ？
でも昨日までもずっと料理してたし……どうなってるの？

「（あー……そういや2ヶ月半ぐらいやっけ？
ずっと戦いとか勉強で料理なんてしとらんかったなぁ
そりゃ腕も落ちるわ、当たり前やん）」

心辺りが有りそうなんだけど……どうしたのかしら？
でも当然腕が悪くなるなんて変よ。

「このか、私に何か隠してない？」

「な、なんも無いで？」

どうして疑問系なのよ……
というかバレバレ、顔に出てる
ばれてないつもりなのかしら？

それに、表情とかに違和感を感じるのよねぇ
このかなんだけど、暫く会っていなかったっていうか……
巧く言葉にできないけどそんな感じ。

「言いたくないならいいけど
何か有ったら私にもちゃんと話してね？」

「うん、ありがとなアスナ
今は朝ご飯食べよ」

このかに催促されて食べ始める
……やっぱり味が落ちてるわね。

……
……
……

「きょ、今日は余裕で間に合いそうね！」

「そうやなー
昨日は遅刻寸前やったし」

……それよりも気になるのよねー
普段はローラースケートを使って、私と同じぐらいの速さなのに
今日は私が全力で走ってるのに……余裕で更に速い！

本当にどうしたってのよ！？
ローラースケートを使ってるからって、それでも速すぎるわ！
これなら普通に走っても私と同じぐらいの速度は出るんじゃないの
！？

「はぁ、はぁ
こ、このか！」

「どうしたんアスナ
そないに息切らせて、アスナらしくないで？」

気付いてない！？
自分のスピードに気付いてないの！？

「こ、このかが速すぎるのよ！
どうしたのよ、普段だったら私が普通に走ってやっと追いつけるぐ
らいなのに
今日は私が全力で走ってるのに更に速いじゃない！」

「……あ」

あって何よあって！？
無意識でこんな速度出してたの！？

「えーと……
う、ウチにはなんと、隠された能力が！」

「それで足が速くなるなんてどんな能力よ！？
ローラースケートを装着すれば速くなる能力って何！？」

「あ、あはは……
ごめんなアスナ、ちょっと速度落とすわ」

このかのスピードが普段より少し速いぐらいまで下がる
はぁ、やっと少し落ち着けたわ。

「それで、どうしてそんなに速くなったのよ？」

「な、なんでやろなぁー
（あかん、無意識に体に魔力を纏っとったわ
そうせな殺されるような状況やったとはいえ、やり過ぎやな
落ち着いて、魔力を抑えなあかん）」

相変わらず怪しい……
原因は1つ、堅守先生しか居ない
このかが妙に堅守先生の事ばかり話すし
今朝だって行くって言ってたし。

でも、悪い人には見えないのよねー
それに別に悪い事をされたようにも見えないし
力と速度が上がって、料理の腕が落ちたぐらい？
ついでにこのかの占いの話が長引いたぐらいかしら？

雰囲気が少し変わったりしたぐらいかしら？
桜咲さんの件が有った時とか、堅守先生が風邪になった時に比べたら大分マシよね
多分、何か良い事とか有ったんだと思うし
だとしたら寧ろ堅守先生には感謝するべきかしら？

「まぁいいわ
どうせ堅守先生が関係してるんでしょうし」

でも、何か悪い事をこのかに教えたとかだったら許せないわね
後で問い質した方が良いかしら？

「……アスナ、何を考えてるん？」

「え？」

このかの顔から表情が……
寒い……このかの顔がとても寒く見える
どうなってるのよ、どうなってるのよ！？

「堅守先生に何かしたら……
いくらアスナでも許さへんえ？」

「何もしないわよ！
だからそんな怖い顔しないで！」

どっちかと言えば怖いんじゃない、表情が……無かった
無表情で淡々と……堅守先生、このかに何をしたのよ！？

「ほかほか、だったらええねん
ウチだって親友になんかしたいなんて思わへんしな」

堅守先生に関係無ければ……って前提条件が付きそうね
言ったら肯定されそうで怖いから言わないけど
本当に何がどうなったらこうなるのよ……

「ほな、はよ学校行こか？」

「……そうね」

私、何かこのかの為に何かできないかな？
とりあえず、もう暫く様子見をした方がいいかしら？

……

……

……

「おはよー」

「あ、おはようこのかー
それにアスナも」

「おはよーパル」

……何してるのかしら？
って、どう見ても罠作成よね
また堅守先生を引っかけるつもり？

「みんな何しとるん？」

あ、このかが凄い笑顔に……
嫌な予感がするわ、逃げた方がいいわね。

そう決めた私はさっさと自分の席に座る
このかから嫌なオーラを感じる気がするし
ごめんねパル、逃げる私を許して。

「何って、決まってるじゃない！
クラス全体で対堅守先生用の罠を作っているのよ！」

あぁ……やっぱり
ご愁傷様、私は見て見ぬフリをさせてもらうわ
自業自得だし、私は悪く無い。

「そうそう、昨日の説教は凄く疲れたからねー
部活も出れなかったし、少しぐらい仕返しをしたくてね」

キシシって笑う朝倉だけど……大丈夫？
多分、みんなこのかの表情に気付いてないんだろうけど。

「アホばっかです」

「ケッ、ガキが
（説教に巻き込まれる私の身にもなれってんだ）」

席が私の後ろの夕映ちゃんに千雨ちゃん、聞こえてるわよ
でも、黙っていた方が良いと思うわ
堅守先生に拘ってるみたいなこのかにあんな事を言うと……

「みんなあかんでー
また堅守先生に全員が怒られるやん
それで嫌われても、ウチは知らんで？」

あれ？　予想外に冷静？
さっき私に向けた時みたいな顔はしないの？

「大丈夫大丈夫だって、このかは心配性だなー
後で謝れば堅守先生だって許してくれると思うし
昨日はちょっと謝る暇が無かっただけでさ」

あー……朝のＳＨＲの後はすぐに授業
帰りは授業が終わったらすぐに説教だったものね
謝る暇は全く無いけど、それはそれでどうなの？

「もう、あかんって言っとるやろ
早う片付けな堅守先生が来てまうやん
不機嫌になった堅守先生はおっかないでぇ～」

なんで知ってるのよ……
不機嫌になった堅守先生ってどれだけ怖いのかしら？
怪我とかしてないから暴力って事は無いと思うし。

「このかは心配性だなー」

「ウチはパル達の勝手な行動で怒られたくないだけや
堅守先生が言ってたん忘れたん？
見ているだけなんは罠を仕掛けた者と同罪やて
みんなが堅守先生が嫌いなんはどうでもええけど
それにウチを巻き込まんでくれる？」

やっぱり、このかって堅守先生に嫌われたくないみたいね
でもどうしてそこまで嫌がるのかしら？
そりゃぁ嫌われるのは嫌だと思うけど……

「そこまで必死になるなんて
むふ、このかってやっぱり堅守先生の事……」

「パル
ウチは怒っとるんやで？」

「もー、照れるなって！
このかの恋は応援してあげるからさ！」

大声で宣言するような事じゃないでしょうが……
もう、相変わらずなんだから。

「それにさっきから気になってたけど
その左手の人差し指に付けてる指輪！
私の知る限り、このかはそんな指輪を持ってなかったわ！
さぁさぁさぁさぁ白状しなさい！
その指輪は誰からの贈り物なの！？」

私も気付いていたんだけど……
何回も指輪を見ては嬉しそうにしていたから黙っていたのよね
どう考えても堅守先生からの贈り物だろうとは思うけど
なんでこのかに指輪なんて贈ったのかしら？

「指輪！？」「このかが指輪をしてる！？」「ちょ、それってどこで手に入れたの！？」

あー……まだ全員揃ってないけどやっぱり２－Ａ
パルの大声に反応してみんなが指輪の事をこのかに……
肝心のこのか自身は指輪の事を言われて指輪を見る
凄く嬉しそうな顔で……周りが見えていないんじゃないの？

「ね、ね、ちょっと見せてくれない？」

「触らせてー！」

「いくらぐらいしたのか教えてー！」

ちょ、ちょっと待ちなさいよ！
そんな事したらこのかが危ないじゃない！

このかに掴み掛かろうとする何人か
止めようと思って乱入しようとしたんだけど……

このかがいつの間にかみんなの中心から居なくなっていた
でも私にはなんとかこのかの移動姿が見えた
みんなの中心から飛び上がって、少し離れた場所に下りた姿が……

「あ、あれ？
このかは？」

いくらなんでも、居なくなった事にはすぐに気がつく
このかを探して教室を探す
でももう既に席に座っていたりするのよね、このか。

「これは見せたげへんし、触らせたらへん
値段なんて知らんし、どうやって手に入れたかも教えへん
あんまり強引な事をするんやったらいくらウチでも抵抗するで？」

口では抵抗って優しく言ってるけど、これは多分警告
通学中のあの時と同じ、目が全く笑ってない
これは……絶対に本気ね。

でも、どうやってあの包囲網から脱出を？
周り全体を囲まれていたと思うんだけど？

「チッ、全員！
このかを確保しなさーい！」

「「「「「ラジャー！」」」」」

だからって止まるほど、２－Ａは諦めが良くない
って、諦めて貰わないと困るわよ！

「はいはい、もう止めなさいって！」

強引に体を割り込ませ、突撃してきた人達を止める
さすがにきついけど……今のこのかに接触させる方が危険かも
もう、パルも余計な事を！

「む、もしやアスナはこのかの指輪の事を知っている？
ならアスナを確保だー！」

「ちょっと待ちなさいって！
私だって知らないわよ！」

「ふ、だったらこのかを捕まえるだけよ……」

パルの目がキュピーンって感じに光る……
って、どうやって光らせてるのよ？
眼鏡？　眼鏡が光ってるの？

「じゃなくて……

そんなに知りたいんだったら強引な事をするなって言ってるのよ！
このかが怪我したらどうするのよ！」

「む……」

「別に指輪ぐらいいいじゃない
私だって気になるけど、黙ってたんだから
きっとその内教えてくれるだろうし
だからそんな強引に聞き出さないの！」

ここまで言えば少しはおとなしくなってくれるわよね？
まったく、パルにも困ったものね。

「分かったわよ
でも、絶対に聞き出してやるんだからね！」

「分かってないじゃなーい！」

パルに反省を促そうとしたのは間違いだったかも……
いっそ、このかに突撃させて後悔させた方が良かったかしら？

「ちなみにこのかさん
誰からの贈り物なのですか？」

「ん？
堅守先生やでー」

って、速攻で夕映ちゃんに教えてる！？
私の苦労は……いや、強引に知ろうとしたから駄目だったのかしら？
普通に訊けば大丈夫だったとか？

「堅守先生が……ですか？」

「どーして堅守先生がー？」

本屋ちゃんも参加してるし
他の人達は聞き耳立ててるし
まぁ、私も気になるんだけど。

「ウチ、この前堅守先生の看病に行ったやん？
そん時のお礼に貰ったんや
趣味も合うたからって、そないな意味も含むけどな」

「堅守先生の……趣味ですか？」

「このかさんと趣味が合う？」

このかと同じ趣味？
うーん……なんだろう？

「堅守先生な、実は占いとか好きなんよー
せやからその為の道具とか一杯持っとってな
ウチも分けて貰ろたり、占いの本を借りたりしてん
めっちゃ古い占いの本とか、そういうのも持っとるし
せやからこの指輪はその占いの道具で、占いの本も借りたりしてんねん
（嘘は言っとらんでー
占いの本を借りたんは本当やし、占いに使えるんも事実やし）」

鞄から出す占いの本

古そうな本でちょっとボロい
……表紙が筆で書かれてるわよ？
しかも文字がうねうねしてて読めないわ。

「おぉ……このように古い本が有るとは」

「凄いですー
こんな古い本、本好きには堪らないですー」

私にはその気持ちは分からないけど
2人共羨ましそうな顔をしてるから凄いんでしょうね
それにしても堅守先生が占い……似合わないわ！

「堅守先生が占いって……」

「似合わないよねー？」

「うんうん」

あ、堅守先生の悪口は……

「今、堅守先生の悪口言ったん……誰？」

教室が静まった
ま、拙い！

「こ、このか！　今のは悪口じゃないわよ！
私達の堅守先生のイメージと占いが合わなかったから混乱してるだけよ
だから堅守先生を悪く言ったんじゃないの！」

「あ、そうなんや
ウチも最初はそれ思ったから気持ち分かるわー
勘違いしてごめんなー」

ほ……元に戻ってくれて良かった
このまま何も無ければ良いんだけど……
っと、チャイム？

「ほらみんな、予鈴が鳴ったで
さっさと罠片付けて席に座らなあかんでー」

予鈴が鳴った事で部活の人達も教室に集まってきた
運動部４人組、武道四天王、その他数名
桜咲さんが居なくて良かった……もし聞かれてたら何を言われたか分からないし
またこのかの事で堅守先生が睨まれたら……このかが悲しむわね。

そしてこのかに圧されたからか
仕掛けていた罠は外されていく
これで堅守先生の説教が無くなったわよね？

罠の片付けが終わり、全員が席に座る
教室が静かになった時、ドアが開いて……
暫くしてからやっと堅守先生が入って来る
やっぱり警戒してるのかしら？

「高畑教員は今日も居ない
では出席を確認する」

始まるＳＨＲ
今日の放課後は何も無いといいなぁ……

視点　木乃香

お昼休みの時間
堅守先生……職員室に居るやろうか？

「朝の続きだー！
このかを確保せよー！」

って、いきなり！？
悪いけど、捕まったる時間は無いねん
だからまた逃げさせてもらう……あ！

まだせっちゃんとかエヴァちゃんが教室に居るやん！
あかん、今魔力を使ったらウチの事がばれてまう！
魔法関係者やなさそうな人しか居らんかったから朝は動いたけど
今は無理や、こうなったら自力で逃げる！

せやけど、現実は非情やった
自力の身体能力なんて駄目なウチや
アッサリとパルに捕まってもうた……どないしよ？

「さぁさぁこのか
堅守先生との関係をさっさと吐きなさい
嫌なら力尽くでも……」

ど、どないしよ？
下手な事を言ったら堅守先生に迷惑やし
だからって正直になんて当然言われへんし。

「近衛、居るか？」

お弁当箱を持って教室に入ってきた堅守先生……へ？
なんで堅守先生が教室に！？
しかもウチを呼んでって……えぇ！？

「……何をしているんだ
イジメか？　さすがにそれは見過ごせないのだが」

「や、やだなぁ堅守先生
イジメなんてしてないよ？」

イジメやないけど……アレはイジメみたいなものやで？
というか……脅迫やろうか？

「で、堅守先生
ウチに何か用なん？」

まだ教室に居ったせっちゃんが睨んでるんやけど
そないな危険を冒してなんで来たんやろう？

「今朝貸した本の翻訳書みたいな物を見つけてな
あの本は難しい文字とか使い方を解説する本だ
渡し忘れてたからこれも貸しておこうと思ってな」

……そんなん無くても読めるように叩き込んだんは堅守先生やん
せやのになんで……あぁ、そういう事か
ウチがいきなりそんなん読めたら変やもんな
堅守先生、本当によく考えとるんや。

「ありがとぉな
所々読めへん所が多くて困っとってん
でも堅守先生も何か解説してくれると嬉しいんやけど」

「だから弁当箱を持ってきたんだろうが
もう昼に終わらせないといけない仕事は終わっているからな
する事も無いし、暇潰しみたいなものだ
春日、席を借りても構わないか？」

「へ？
まぁ、私は構わないッスけど？」

ウチの目の前の席、美空ちゃんから許可を得たから遠慮無く座る堅守先生
堅守先生のお弁当……あれ？
学園支給のお弁当やなくて自分で作ったお弁当？

「堅守先生、そのお弁当って自分で作ったん？」

「時間に余裕が有ったからな
それに、自分で作った方が味も量も丁度良いしな」

……ウチのお弁当箱より小さいやん
自分で作った方が絶対にええやろうな
学園支給のお弁当やと残してしまいそうやし。

どうでもいい事やけど
周りのみんながめっちゃ驚いとる
堅守先生が料理だとか、色々と……

でも、何で堅守先生は来たんやろう？
絶対に暇潰しやないはずやし
となると……せっちゃんへの嫌がらせやろうか？
堅守先生の事、めっちゃ睨んどるし。

「さっさと食って話すか
いただきます」

「せやな
いただきます」

教室が静か……理由は簡単や
堅守先生が居るだけでちょっとしたプレッシャーを感じるんやもんな
ウチらも静かやし。

「あ、堅守先生、その卵焼き頂戴」

「構わんが……甘いぞ？」

「ええねんええねん」

堅守先生のお弁当箱から卵焼きを貰う
ウチより料理上手なんやし、きっと美味しいやろ
そう思いながら食べたら……

「ちょ、あま、あま……甘過ぎやろ！？」

なんなんこの甘さ！？
砂糖を大量に使わなこんな甘さは出てこうへんで！

口の中の甘さを抜く為に、自分の塩味の卵焼きを食べる
それでもあんまり口の中の甘さが無くならへんからご飯も食べる
ここまでしてやっと口ん中がマシになったわ……

「そうか？
砂糖入りの卵焼きだったらこれぐらいだろ？」

「そんなはずあらへんわ！
どんだけ砂糖入れたらこうなるねん！？
こんな甘い卵焼き食べたん初めてや！」

「……加減したんだがな、これでも相当甘いのか
うーん……本当はもっと甘くしたかったんだがなぁ」

そう言って当たり前のように食べる堅守先生
その瞬間、クラス全体が凍り付いた。

「こ、これで加減したん？」

「あぁ、かなりな」

「かなり！？」

信じられへん……

「堅守先生、もしかしてケーキとか好き？」

「好きだぞ」

「おまんじゅうとか？」

「好きだぞ」

「ぜ、ぜんざいとかパフェとかは……」

「好きだぞ」

あ、あのめっちゃ厳しい堅守先生が大の甘党……
なんやろうか、このギャップは？
ケーキとか嬉しそうに食べてる堅守先生……可愛いかも？

「こ、今度どっか食べに行かへん？
美味しい和菓子店知ってるんやけど」

「行く
案内を頼む」

「了解や」

あんまり表情が変わっとらんけど
地味に嬉しそうな顔しとる
やっぱ甘い物が大好きなんやな
……ウチが甘いの作ったら食べてくれるやろうか？

暫く雑談もしながら食べ終わる

ほんで今回のメイン、占いの話や！

「この本のこのページな
四柱推命にしておくか」

「こ、これは……凄いなぁ」

占いの種類1つでここまでの知識が必要やなんて
陰陽五行思想に干支の知識まで必要やん
普通に陰陽術の勉強にもなる……さすが堅守先生
無駄なんて全く無い、自然な勉強や。

「堅守先生、私にも読ませてもらってもいいですか？」

む、邪魔するんゆえ？
って、のどかも居るし……
そんなに気になるん？

……気になるわな
ウチやって占いで古い本言われたら読みたくなるわ
しゃあないなぁ……

「ウチは構わへんけど？」

「貸した本人から許可が出たんだったら好きにしろ
ただし、相当難しいし予備知識が必要な本だぞ？
陰陽五行思想に干支、歴史にも関係している
近衛にはその辺りの本を既に貸して読ませたからこの本を貸したんだが……」

「う……
私はどちらかと言えばファンタジーの魔法とか好きなのですが
あまり陰陽術とかの知識は……それでもいいですか？」

「あ、私は少し知ってますー
私も魔法とか、そういうのが好きですけどー」

「まぁ、分からなくても俺は構わないけどな
今回の講習は近衛の為にするものだし
参加は自由だし質問も構わないが……邪魔はするなよ？」

「はいです」「わ、わかりましたー」

そんな感じで始まる堅守先生の講習
めっちゃ詳しく、細かくまで……
でもやっぱ昼休み、あんまり長くはできへん。

ただ、せっちゃんが相変わらず睨んどるのが気になるわ
もしかして関西呪術協会の人やと勘違いしてるんやないやろうか？
可能性が高そうやな……せっちゃんやし、ウチも絡んでるしなぁ
大丈夫やと思うけど、もし何か有ったら……許さへんで？

「ん、そろそろ時間だな
残念ながら基本ぐらいしかできなかったが……まぁいいだろう
綾瀬も宮崎も、読みたい本が有るなら貸してやるぞ？
同じ趣味の者が増えるのは俺も嬉しいからな」

珍しく堅守先生が小さいけど笑顔を見せた
……ウチでも、巻物の中で数回しか見てないのに
ゆえものどかも羨ましいわぁ。

「なら哲学に関した本とか有るですか？」

「有るぞ
どういう本が好みだ？」

「やはり有名所で言うならば……」

「ふむ、なら翻訳書は必要だろうな
となると……」

「いえいえ、しかしですね……」

「待て、ならこっちの方が良いんじゃないか？」

「ふむ……」

な、なんやめっちゃ話しとる
時間、大丈夫なん？
あ……予鈴や。

「む、予鈴か……時間が無いな
綾瀬、この話は放課後にでもするか？
今日は仕事が少ないから放課後1時間ぐらいで時間が空く
宮崎も読みたい本が有るなら考えておけよ
近衛はできるだけ本を読み進めておけ」

「はい、楽しみにしてるですよ！」

「えっと……分かりましたー」

「頑張っとくでー」

そのまま堅守先生は急ぎ足で教室から出て行った
堅守先生には珍しい失敗やなぁ
やっぱ好きな事には夢中になってまうんやろうか。

「で、このか
堅守先生とどういう関係なの？」

「……相変わらず突然やなぁ
趣味が合うたからよく話すだけや
パルが期待してるような事は無いで」

「へえぇぇぇぇ～～～？
私が期待してるってどういう話なのかなぁ？」

「恋人同士とか、そういうん期待してるんやろ？
無い無い、話が合うだけや
まだまだ知りたい事とか沢山有るしな」

パルの相手は疲れるわぁ
こういう話になると無駄に元気になるから困りものや。

「……ふ、甘いわねこのか
顔が少しだけ赤くなってるわよ！」

「な、なっとらんって」

「どもった！

つまり脈有りか！？」

あ、あかん、失敗や
無表情で貫こうしたのにまさか勝手になるやなんて
……でも、なんで顔が赤くなったんやろう？

「パル、ちょっとしつこ過ぎますですよ」

「そーゆーユエだって珍しいわよねぇ？
のどかも、男の人は苦手なんじゃなかったっけぇ？」

「ただ本の話をしていただけでどうしてそうなるですか……」

「そーいえば……どうして話せたんだろー？」

確かに、のどかが堅守先生と話せたんって意外やな
怖いって印象が強い思うんやけど……教室とかでやけど
もしかして真面目やから怖いけど
素やと普通やから怖い思わんかったんかなぁ？

パルの騒ぎにクラスのみんなが入って来ようとしてきた時
良いタイミングでチャイムが鳴った
ほんで先生が入って来たから急いで席に座るみんな
ふぅ……放課後、パルから逃げる為にどこ行こうかな？

……
……
……

放課後、ウチはゆえとのどかを連れて急いで逃げ出した

はよ逃げなパルが煩い。

「こら、走るな」

堅守先生の一言ですぐに歩く
逆らったら絶対に怒られる……
走った少しの勢いでゆえとのどかが倒れそうになったけど……許してな？

「1時間後ぐらいに仕事が終わる
それぐらいの時間が経ったら職員室に来い
本の話とかはそれからな」

そう言って教室から出て行く堅守先生
なんで最後に爆弾を落としてくかなぁ？
絶対に自覚は無い思うけど……勘弁してぇな。

こうなったら自棄や！
どうにかしてパルを止める！

「楓！
今度プリン奢ったるからパル達を止めて！」

「あいあい」

「よし、逃げるでゆえ、のどか！」

「ちょ、分かったので引っ張らないでください！」

「はうはうぅ～！」

でもこれだけやと……
念には念を込めとくべきやろか？

「楓ちん！
私に付けば3杯奢ってあげるわ！」

「ウチの方なら10杯や！
ついでに龍宮さんも手伝ってくれたら同じだけ奢るで！」

「私としては餡蜜が良いんだがな」

「なら餡蜜10杯や！
ほなお願いな！」

「よし、その依頼を受けよう」

「そういう訳でござる故
申し訳ござらんがこのか殿の味方をさせてもらうでござる」

「クッ……
総員、全力でこの2人を抜くぞー！」

よし、これで邪魔は減った！
屋上にでも逃げて1時間を逃げ切る！

「こ、このかさん？
そこまでする必要が有るのですか？」

「ハルナの事だから毎日でも訊きに来るのではー？」

「えぇねん
せっかく堅守先生から誘ってくれてんから
堅守先生と合流すればパル達も諦める思うし」

屋上に出て行き、そこで休憩
1時間の間、ウチの本をみんなで読む事にした
読むんは大変やったけど……楽しかったわぁ。

「む、そろそろ時間ですよ」

「ほんまや
ならそろそろ行かんとあかんな」

「またハルナ達が出てくるのではー？」

「無視して職員室に行けばええやん」

「……それもそうですね
別に堅守先生に何か特別な感情を持っている訳でも無いですし」

どうでもいいって感じの発言はマイナスやで？
ウチは別に構わへんねやけど。

「それにしても、珍しいですね
パルみたく追求するのでは無いですが
のどかが自分から男性に会おうという姿勢をするのは」

「うん、私も分からないんだー
でも……なんだろー？

あんまり怖いって思わなかったの
どうしてだろー？」

「それ、ウチも考えとったんやけど
堅守先生が優しいって所に気付いたからやない？」

「堅守先生が……優しいですか？」

のどかは悩んでるみたいやけど
ゆえは納得できてなさそうや
堅守先生の優しさはめっちゃ気付きにくいもんなぁ。

「堅守先生、ほんまに優しいで？
めっちゃ厳しいんやけど、それも優しさや
寧ろ厳しい程優しい思うから不思議やねん」

何をするにしても
堅守先生はウチに訊いてきてくれる
自分で考えて、自分で決めさせてくれる
せやから堅守先生は優しいんや。

「うーん……私にはよく分からないです」

「私もー……まだ分からないですぅ」

「何か質問してみたらどうや？
きっとめっちゃ丁寧に教えてくれるはずやで
厳しい事とかも言う思うけどな」

まぁ、実際に話してみな分からんわな

元々分かり難いんやし、仕方無いわ。
そんな話をしながら職員室に向かう
なんとか誰にも会わずに来れた
堅守先生は居るやろうか？

「失礼しますー
堅守先生は居るでっしゃろかー？」

「ん、来たか近衛
では俺はお先に失礼しますね」

「これからどうするのですかな？」

「趣味の話ですよ
では新田教員、また明日」

「そうですか、ではまた明日」

少し新田先生と話して、堅守先生が席を立つ
荷物を持ってこっちに来る
瀬流彦先生が気になるって顔しとるけど……
そういえば瀬流彦先生って魔法先生なんやっけ？
確か前にそんな事を言ってたような気がするわ。

「少し遅かったな」

「ごめんなぁ
パルとかを警戒してゆっくり来てん」

「気にするな
ついでに明日の仕事を少ししてたし
綾瀬に宮崎も、あまり気にするなよ？」

「「はい」」

「それで、どこで話す？
俺の部屋だと色々と本が有るが
図書室とか、図書館島でも構わないぞ
教室で講義みたくするのも有りだ」

うーん……悩むわぁ
でもどうせやったら……

「ウチは堅守先生の部屋がええなぁ」

「え、いきなりですか？
さすがにそれは私達が……」

「ええん？
堅守先生の部屋、めっちゃ珍しい本とか有るで？
多分、図書館島の奥地に有るような本とかまで……」

この言葉でゆえの心が揺れとる
もう1押しやろか？

「なんと、堅守先生は占いだけやないねん
陰陽術とか、魔法とかにも実は興味が有ってな
伝承とか神話とかも大好きやからその辺の本に抜かりは無いねん
古い本とか、古代語の本とかも有るねんで

そんな本は図書館島深部でも滅多に有るかどうか分からへんのに
もし断ったら……もう読まれへんかもしれへんで？」

本当に図書館島の、ウチらが回覧できる範囲でそんな本は殆ど無い
有っても簡単なんとかばっかかや。

「うぅぅぅ……それは読んでみたいです」

「ぁぅぁぅぁぅ……よ、読んでみたいですぅ」

「……俺の部屋という事でいいのか？」

「ＯＫやで」

「し、仕方無いですね」「はぅあ！」

「宮崎が大変そうだが……まぁいいか
ならさっさと移動しよう
時間が勿体ないしな」

そういう訳でみんなで移動や
訓練はできへんけど、勉強になるからええねん
２人が帰った後はまた別荘ってとこに入りたいなぁ
堅守先生にお願いしたら大丈夫やろうか？

……

……

……

という訳で堅守先生の部屋や！

ゆえものどかも、緊張でガッチガチや
ウチはもう平気やけどなー

「い、意外に綺麗にしてるですね
男性の部屋なのでもっと汚いと予想していたのですが」

「まだ来てから半月程度だからな
それに、汚すような事もしていないし
適当に座ってろ、オレンジジュースでいいな？」

「ええで」「どうもです」「ありがとうございますー」

緊張はしとるけど、大丈夫そうや
でもこれからきっと長くなるで？
2人共、覚悟しておかなな！

「さて、始める……前にだ
宮崎、前髪を上げておけ」

「へ？
な、なな、なんでですか？」

「前髪が目に掛かってると視力が落ちるぞ
ヘアピン、やるからこれを使っておけ
まだ若いのに視力を落としたくないだろ？」

なんでヘアピンを持ってるんか謎やけど……
堅守先生、色々な事知ってるからほんまなんやろうな
やっぱ視力が落ちるんやろうか？

「え、その、でも、あの、えと……」

「女の子だし、付け方が分からない事は無いだろう？
鏡なら洗面所に有るから大丈夫だろうし
視力の為にも目元の髪はどうにかするべきだと思うぞ
切るのも構わないんだが、それはそれで勿体ないし……
俺がしても構わないんだが、宮崎は嫌だろう？」

「その、別に嫌という訳では……」

「誘った手前、俺が言うのもなんだが
確か宮崎は男性が苦手じゃなかったか？
気を遣わなくても、嫌なら嫌でそう言えよ？
別に怒ったりしないし、綾瀬に任せてもいいんだ」

「あう、あの……その……あの」

段々と声が小さくなるのどか
ハラハラとした様子のゆえ
ウチは……相変わらずやなぁって感じや。

「慌てなくても急かしたりしないから安心しろ
返事は別に今しなくても構わないしな
だが、前髪だけは上げておけ
あまり女の子に言う事では無いが……ニキビとかもできるぞ」

「はう！」

「デリカシーが無いかもしれんが、一応解説しておく
前髪を隠すと空気の出入りが少なくなり、ニキビが出来やすい状態

になるんだ
そして髪がニキビに触れると皮膚を刺激し、角質が強くなる
そうなると皮脂の分泌も増加し、毛穴を塞いでしまうんだ
更に髪の毛は汚れが付きやすくてな、その汚れが皮膚に付いてニキビを悪化させる
汗もニキビができやすくなる原因でな
前髪に汗が付いたまま放置しておくとニキビがとても出来やすい
元々は視力を言っていたが、こういう事も有るから前髪は上げておく事を勧める
せめて家の中や寝る時は上げておくべきだ、それだけでも予防にはなる
……まぁ、視力を考えるんだったら常に上げておくべきなんだがな」

堅守先生の無駄知識講座
でもあんまり無駄やないんはお約束
なんでそんな事まで知ってんねん……

「く、詳しいですね……」

「無駄に知識を溜めるのが趣味でね
人生にあまり役に立たない知識を仕入れるのは嫌いじゃない
ま、知っていても時間と記憶と脳の無駄になる可能性も高いがな」

それはそうやけど
でも、今は役立ってるんやからええんやない？

「まぁ、色々と言ったが……
ほら、さっさとヘアピンを付けてこい
近衛や綾瀬に頼んで付けてもらうのも有りだ
俺が付けるのは嫌だろうしな」

ウチやったら堅守先生に付けてもらいたいなぁ
のどかは自分で付けるんやろうけど。

「あの……どうしたら目に悪く無い位置になりますかー？」

「それを口頭伝えるのは難しいんだが……
俺が付けても構わないんだったら付けるが？
しかし宮崎が嫌だろう？」

「その……嫌じゃ、無いですけどー……」

「嫌じゃなくとも怖いんじゃないのか？
震えてるし……っと
その髪だったらヘアピンだけじゃ顔は出ないな、少し待ってろ」

そう言ってタンスを漁る堅守先生
なんでタンスなんて……

「確か……有った
ほら、これも使って髪を後ろで括ればいいだろ
俺の予想ではこれで巧い具合に髪型が決まると思うが？」

渡されたんはシンプルな黒いリボン
なんでリボンなんて持っとるんやろう？

「何故男性の堅守先生がリボンを？」

「俺は後ろ髪をゴムで括ってるだろ？
家の中とかまでそうしていると髪が固いんだよ

だからリボンで軽く括って余裕を持たせてるんだ
何本か持ってるし、1本ぐらいだったら渡しても構わんしな」

そう言ってヘアピンとリボンをのどかに渡す堅守先生
贈り物なんて羨ましいわぁ……
ウチは指輪やけど、魔法用の触媒やし
……なんや負けた気分や。

「その……ありがとう……ございます
あの、早速付けてみますねー」

洗面所に行ったのどか
どんなんなるんやろうなぁ。

「……堅守先生
何故のどかにあんな事を？」

「何故とは？」

どうしたんゆえ？
そんな怖い顔して。

「今のは、その……何故口説くような言い方をしたのですか？」

「……そんな言い方をしたか？
俺はただ視力とニキビが気になっただけだぞ
というか、どこに口説くような言い方が有ったんだ？」

せやせや
ウチは口説くとか、そう思わんかったで？

「……気付いてないのならいいです
今のは忘れてください」

「忘れろって……まぁいいけど
まぁ、宮崎は恥ずかしがるかもしれんが大丈夫だろう
本の話をしていたらそんな事ぐらいなら忘れそうだし
そのまま慣れれば普段から顔も出しそうだしな」

そ、そこまで考えとったんか
さすが堅守先生、ウチらの遙か上を行っとる！
ウチらじゃそこまで気が回らんかったわ！

「そこまで考えていたとは……」

「結果論だけどな
最初は本当に視力しか心配していなかった
話が進んでいる内に宮崎の性格は大方把握できたし
最終的にさっきの話に繋がっただけだ
別に大層な事をした訳でも無いしな」

それは堅守先生だけやないかな？
のどかの顔出し、ウチらも何回か考えてるんよ？
失敗ばっかやったけど。

それを1回で成功させたんやし
ほんま、堅守先生は凄いわぁ。

「あの……できましたー」

後ろで髪を括って小さいポニーテールにして
前髪を中心の部分はそのままやけど、目元の上にヘアピン
これで左右に髪を分けて目を完全に出しとる。

うんうん、やっぱのどかは可愛いわぁ
恥ずかしいんは分かるけど、顔を隠すんは勿体ないわ。

「ん、似合ってるぞ宮崎
前のも悪く無いが、今のもそれはそれで良い」

「えぇ、堅守先生の言う通りですよのどか
似合ってて可愛いです」

「そうやでー
ウチも前髪伸ばしてみようやろかー」

「いや、近衛はその髪型だから良いんじゃないか?
下手に何か付けるとイメージが変わりそうだし」

「そうやろか?」

堅守先生がそう言うんやったら何もせんとこ
偶には美容院とか行こうか……ちょう悩むわ。

「その、どうもですー……えへへ」

そんな照れんでも
のどかは十分可愛いんやから!

「さて、宮崎の視力の心配も無くなったし

何から始めようか……」

そんな感じで始まった堅守先生の講習（占い）
どんと来いやで！　3時間程度やったら余裕や！
ほんまに3時間したら夜になってまうからせいへんやろうけど。

……

……

……

それでも、2時間経ってもうた
さ、さすが堅守先生
ゆえものどかもダウン寸前や。

「か、堅守先生……」

「少し……休憩が欲しいですー」

「まだ嚙りしかしていないんだが……っと
もう2時間も経ってたのか？
仕方無い、今日はもう終わりにしよう
あんまりしていると夜中になってしまうからな」

「え、でもー……」

「今日した本は貸してやるから
自分でも勉強してみたらどうだ？
続きや疑問は直接俺に言えばどうにかするし」

そう言って2人に本を渡す堅守先生

ゆえには魔法とかが書いてある本、当然架空の本や、伝承とかは載ってるけど
のどかには陰陽術の本、でもこっちは半分以上は本物
陰陽五行思想とか載ってるんやからな、使える思わへんけど。

「おぉぉ……ありがとうです！」

「ありがとーございますー」

「また来い、いくらでも解説してやるから
次回は休憩も挟むように注意するから安心しろ」

ウチの本は同じままや
まだ読み終わって無いんやから当然やけど。

「ほなウチらは帰るなー
ウチはまた明日来るわ、大丈夫やろか？」

「知らん
ＳＨＲが終わった後にでも訊きに来い
予定はその時にでも教える」

ＯＫや
まぁ、ウチは毎朝来るんやけどな。

「今日はありがとうな堅守先生」

「また来させてもらうです」

「その……ヘアピンとリボン

ありがとうございましたー」

「ああ、気をつけて帰れよ
また明日な」

そんな感じで堅守先生と別れて帰る
うーん……ノリで帰ったけど
この後の訓練は無理そうやな、諦めて明日の朝にしよ！

「楽しかったですー」

「そうですね
解説とかとても長かったですが……」

「あははー
堅守先生の話はめっちゃ長いからなー
何時間かは覚悟しておかなあかんでー」

雑談しながら寮に帰る
堅守先生と仲良うしてくれる人が増えてウチも嬉しいわぁ
ウチももっと頑張らなあかんな！

さて、今日も早う寝て
早く起きて堅守先生ん家で特訓や！
時間は有限、別荘で頑張ろう！

１０話【本好き達－１名】（後書き）

スカートにポケットって有るの？
多分有ります、多分……

瑞貴が相変わらず多芸過ぎる……
多趣味ですので。

楓ってまだ魔法関係者じゃないよね？
関係者では無いですが、それでも忍者ですので
多分、神鳴流みたく魔物退治とかしていたかもしれません。

木乃香が過激に……
色々と仕方無いです。

料理の腕って……精神空間に居たのに落ちるの？
体が覚えていても頭が付いてこないので落ちます。

木乃香が……瑞貴の事になると！
仕方無いのです、色々と……本当に。

木乃香の身体能力は低いんじゃなかったっけ？
魔力で以下略
纏っただけでも十分動けます。

教室に居なかったのって誰？
魔法関係者ほぼ全員……という事にしておいてください
教室に残っていたのは朝倉、綾瀬、柿崎、神楽坂、春日、釘宮
近衛、早乙女、椎名、那波、鳴滝姉、鳴滝妹、葉加瀬、長谷川

宮崎、村上、四葉、レイニーディです……という事にしておいてください。

どうして瑞貴は態々昼休みに教室に来たの？
刹那への嫌がらせです
木乃香との仲良くしている姿を見せる為に……
なんという挑発行為、さすが瑞貴。

弁当って自分で作る物なの？
食堂とか、購買部とかも有りそうですが
自分の弁当を作る生徒も居るでしょうし
瑞貴は言った通りの意味です。

四柱推命って何？
……解説は面倒なのでしません
ご自分で探してください
まぁ、Ｗｉｋｉに有りますけど。

夕映は分かるけど、のどかが参加するかな？　ついでにハルナは？
本好きには悪い人は居ない、のどかの名言（？）です
ハルナはからかった手前、乱入する気になれなかったという事で。

本当にどうしてのどかは瑞貴と会話できたの？
落ち着いているからかと……多分
感情をむき出しにしていたりしないので
熱血とかが怖いのでは？　とか思っていたりします
本当、のどかの扱いは難しいので困ります。

木乃香達が出て行った後の教室ってどうなったの？
不明、きっと全員で暴れたのでしょう。

瑞貴が妙にのどかに優しいような……
夕映に言った通りです
それ以上はありません。

のどかの髪を上げた状態ってどんな感じなの？
単行本４巻表紙のような感じです
または漫画４巻３３時間目……って、同じですね。

ツイッター、眠い！
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
……肩がちょっと痛いなぁ。

１１話【２０日の特訓開始】（前書き）

最近忙しくて更新できません
何より……どうしても長くなってしまいます！
今回もちょっと無理矢理切りました。

オリジナル設定が多いです
独自設定なども……それでも頑張って資料を探したんですがね
矛盾点は無いと思いたい……やっぱりややこしいです。

次回はいつかなぁ……
忙しさよりも長文過ぎて時間が足りません
作者に限定版に付いているＤＶＤとか献上してくれる人募集中
それでこの作品はもっと良くなる……はず！

11話【20日の特訓開始】

視点　木乃香

朝や……4時や、もう起きな……
アスナを起こして、堅守先生の部屋行こ
そんで訓練……眠ぅ
別荘ん中で寝させてもらおかな？

「アスナー
もう新聞配達の時間やで、早起きふ……ふわぁ……眠ぅ
早起きな遅刻するでー」

「んー……おはよーこのか
……ん？　なんでこのかが起きてるの？
普段は寝てるのに……ふぁ、また堅守先生の部屋に行くの？」

「そうやでー
話したい事は腐る程有るねん
時間は有限なんやで？」

せやからアスナが寝たらウチもすぐに寝るんや
アスナは寝るんが早いしなぁ……
遅くても10時には寝るんやし
せやったらこれぐらいに起きるんもそんな大変やない。

「堅守先生とそんなに話す事が有るの？」

「せやでー
何時間も話したりする時も有るし
やから短い時間でも貴重なんよー」

何十分程度じゃ絶対に足りへんしなぁ
何時間も話して、やっと1つの話が終わるぐらいや
それでも補足とかも含めたら……全く足りへん！

「ウチ、帰らずにそのまま学校行くで
朝ご飯は作って置いておくから、温めて食べてな
お弁当も作っておくから」

「それは構わないんだけど……」

何だかんだ言いながら、アスナは準備していく
ウチも早う朝ご飯の準備をして行かなな
お弁当も急いで作って早く行こうっと！

「じゃあこのか、私は先に出るわね」

「うん、いってらしゃいや」

「（別に誰も悪くないとは思うけど
堅守先生は悪くないと思うけど
それでもやっぱり、なんだか寂しいかも
隠し事をされてるって分かるからかしら？）」

アスナはバイト
ウチも急いで準備して出なあかんな。

……

……

……

アスナの為の朝ご飯、お昼のお弁当の準備も終わって
自分の分も作り終わって堅守先生の部屋へ！
急いで作ったから単純やけど、なんとか３０分で終わらせたわ
今から向かったら……なんとか５時には着くやろか？

と、いう訳で堅守先生の部屋前
時間は５時少し前、これぐらいの時間が有れば余裕やんな？

チャイムを押して暫く待つ
……根本的な問題として、堅守先生が起きてるやろうか？
寝てるかもしれへんけど……謝って許してくれるやろうか？

「ふぁ……早いな近衛
来るとは思っていたから早く起きたつもりだったんだが」

「おはよう堅守先生
ちょい早すぎたやろか？」

「いや、予想はしていたから大丈夫だ
もう少し遅いと思っていたがな
まぁいい、とりあえず入れ」

「おじゃましまーす」

もうお馴染みになった堅守先生の部屋
今日は何をするんやろう？

さすがにまた巻物ん中は無い思うけど。

「さて、近衛
お前はこれからどうしたい？」

「どうしたいって？」

「体を鍛えるつもりなのか
魔法の知識を得るつもりなのか
陰陽術の練習をするつもりなのか
それともまた別に何かしたい事でもあるのか
自分で考え、自分で決めろ」

相変わらず厳しい堅守先生
やっぱウチが望む事しかせんねやね。

「なら体を鍛えたいねん
もっと動けるようにならんとお話にならへん」

「ま、そうだろうな
では次の質問だ」

次？　体を鍛えるって決めたやん
ウチは何をすればいいんやろう？

「現実のこの時間で鍛えるか
それとも１時間を１日にするか
勧められないが、１時間を１０日にするか」

「１時間を１０日！？

そんなんできるん！？」

どうやったらそんな事ができんねん！？
でも、それやったら時間が無いんやない？

「１時間を１０日にする場合だが
最初は１時間を１日の空間に入り、その１日を１０日に伸ばす
つまり、現実での１時間は俺達にとって１０日にまで伸びるという事だ
結果、加速的に老いるようになる」

さ、さすがに１時間が１０日になるんは……
それって寿命が１０日縮まるみたいなもんやろ？
そらお勧めできへんわな。

「でも……それでもウチは最後のにするで
１時間を１日に、その１日を１０日にする！
それぐらいせな体なんて鍛えられへん！」

堅守先生を守る事なんてできへん
ウチと違って、堅守先生は戦う事ができへんのやから！
せっちゃんに勝つぐらいの実力は欲しい！

「……近衛がそれで良いんだったら俺は構わないがな
学校までの時間は……２時間後ぐらいには出ないと間に合わないかとなると最高で２０日分は入っていられるな」

２０日かぁ……
前回の堅守先生と巻物に入った時は７２日やったっけ？
そう考えるとちょっと短いかも？

もし巻物の中で２０日分を過ごした場合
１４４０日分になって、約４年分？
さすがにそれは……大変過ぎるからお断りやわ
堅守先生が一緒なんやったら頑張ろう思うけど。

「しかし、表との時間差が凄まじい事になるからあんまり使うつもりは無い
体の成長とか、実力の急上昇とかが簡単に分かるからな
後者は嫌でもバレるだろうからあまり関係無いだろうが」

「ＯＫや
ウチ、頑張って鍛えるで！」

「今回は体も一緒に入るからな
巻物と違って本当に体が鍛えられるし歳も取る
当たり前だが死んだらそれで終わりだし、怪我も残る
本当にそれで構わないんだな？」

「構わへん
ウチは……とにかく強くなりたい！」

ウチはまだ、何もできへん
ちょっと力を持っただけや。

まだまだエヴァちゃんぐらいとまでは思わへん
それでも、１発や２発……うんん
１０発ぐらいは入れな弱いままや！

「……何を焦っているのかは分からんが

無理をする必要は無いんだぞ？」

「ええねん……ウチが弱いままやとせっちゃんから堅守先生を守られへん
ウチの件で絶対堅守先生は怪しまれる思うし……ウチのせいやねんけど
せやから少しでも早く強くなりたいねん」

「（……どうしてこうなった？
確かに盾にするつもりだったが……
それでも自分から盾になる宣言？
まぁ、俺はそれで助かるからどうでもいいか）」

やっぱこんな事言うんは迷惑やろうか？
ウチの自己満足みたいなもんやし
そもそも、ウチ自身が厄介事を持ってきとる
自分でした責任を自分で取るだけなんやし。

「まぁ、そうしてくれると助かるがな
俺は戦えるような人間じゃないし、才能も無い
近衛が守ってくれるなら心から助かる」

「堅守先生……うん！
ウチ、せっちゃんに勝てるぐらい、絶対強くなるわ！」

「（単純な奴め
やっぱり依存されていると少し甘い事を言っただけで勝手に努力してくれるな
最初は予定外のミスだったが、扱い易さという点では相当楽になったな

これは嬉しい誤算だ、あの才能で努力をするなら短期間で桜咲を超える事も可能かもしれん）」

よし、頑張ろ！
堅守先生も応援してくれてるんやし
それに助かるんやったら絶対にせな！

「さて、このまま話していても時間が勿体ない
さっさと別荘に入るぞ」

広い場所に移動して、何故かポケットから出てくる別荘
どうやってこんな物が？　そしてそれより気になるんが……

「堅守先生
なんでお風呂で出すん？」

「良い質問だ」

動きを止めてウチの方を向く堅守先生
別にそんな凄い質問した訳やあらへんねんけど？

「簡単に言うと、桜咲や監視を警戒してだ
窓際だったりしたら見つかる可能性が有るからな
だから風呂にした、さすがに風呂に突入は……しないと思いたい」

なんで最後はそないに自信が無さげなん？
……あぁ、せっちゃんかぁ
強引っぽいしなぁ、ウチが絡むと。

「近衛が絡んだ時の桜咲の行動が予想しきれないのが辛い所だ

もし怪しいと思ったら、例え風呂に入っていても襲われそうな気がする
昨日、学園に居る間はずっと睨まれていたしな」

やっぱりそうなんやろうか？
ジッと堅守先生を見ていた事は知ってたけど
また堅守先生に迷惑掛けて……せっちゃんの馬鹿。

「ほんまごめんな、堅守先生
ウチがせっちゃんより強くなったら仕返ししとくわ」

「止めんか
近衛が仕返しをしても意味が無いだろ
それは八つ当たりみたいなものだ
俺が望んでもいない仕返しをして
当人である俺が喜ぶと思うか？」

「う、それは……そうやけど
せやけど、ウチが巻き込んだんが悪いんやし」

「いや、９割以上は桜咲が悪いだろ
挑発した俺も悪いんだろうが……
口喧嘩で負けた腹いせに力尽くで来た桜咲もどうかと思うがな
どちらにせよ、近衛が気に病む必要は無い
護衛だか何だかと、ややこしい関係になっている現状だが
昔は友達だったんだろう？　だったらあまり怨んでやるな
（そもそも、桜咲は俺の獲物だぞ？
近衛にくれてやる気は無い、利用はするかもしれんがな
どっちにしても、桜咲のプレッシャーで俺の胃も辛いんだ
桜咲程度の殺気は余裕だが、余りに長いから困る

はぁ……どうやって報復するか悩むな）」

堅守先生……
ウチの為に止めてくれるんや
ありがとな、でもせっちゃんは許されへんねん。

例え堅守先生が許しても、ウチは許さへん
昨日やってずっとプレッシャーを与えたりして
知っとるんやで、堅守先生が鬱陶しそうにしとった事。

ウチやって巻物ん中でエヴァちゃんの殺気を浴び続けたんや
あんなん、ちょっと見ただけで分かるわ
しかも殆ど隠そうともしとらんかったし
戦われへん堅守先生の体が心配やわ……ストレスになっとらんやろうか？

「さて、少しだけ待ってろ
準備が有るからな」

そう言ってお風呂から出て行く堅守先生
準備ってなんやろう？
鍛錬に必要な物やろうか？

少しだけ待って、堅守先生が戻ってくる
背中にはリュックが……どこに行くつもりなん？
ウチらが行く場所って別荘ん中やろ？
そないに大量の荷物が必要なんやろうか？

「さて、さっさと入るか」

堅守先生はウチの手を掴む
これってやっぱ、一緒に入る為やろうか？
時間のズレが問題なんか、それとも……

で、別荘に入ったんやけど……やっぱ高いわぁ
案の定、堅守先生がめっちゃ怯えとる
もしかしてウチの手を掴んだんって……これが理由やろうか？

……可能性は高そうや
ウチ、女の子として見られて無いんやろか？
さすがにそれは無いやろ……って、思いたいわ。

「て……て、手は離すなよ？」

「う、うん
分かっとるから安心してぇな」

やっぱ可愛い……

そんな事を考えながらも、中央の塔へ
やっぱこれだけでも時間を食ったわ
堅守先生、もうちょい早うならへん？
いや、怖いんは分かるから無理は言われへんねやけど。

そもそも、ウチが使いたい言ったからやんな
ウチがそんな事言わんかったら堅守先生も怖い想いなんてせんでええんやし
……そうやった、ウチが悪いんやった
ごめんな、堅守先生。

「そんで堅守先生、これからどうするん？
ここやと1時間で1日しか過ごされへんで」

「慌てるな
この別荘は生憎1つしか無いが……」

また謎のポケットから出てくるガラスみたいなんに入ったミニチュアの島
島の周りには海が有って、島は自然で一杯……へ？

「もしかしてこれって……」

「そう、この別荘と似たような物だ
ダイオラマ魔法球という名前でな
この中では1日が10日になる
ちなみに別荘と違って出入りはある程度自由だ
別荘は1日経たなければ出られないからな」

そんな制限が有ったんや……
つまり、1時間は最低でも時間を取られる
その間に何か有っても、どうしようもできへんって事やな？

「さて、さっさと入る……前にだ」

渡されるエヴァちゃんの巻物……
やっぱそうなんかな？

「エヴァちゃん、手伝ってくれるやろか？」

「暇だろうし、手伝うぐらいはしてくれるだろ

そもそも、俺だけで近衛の鍛錬は無理だ
マクダウェルの知識と経験、更に組み手相手が欲しい
俺に味方が居ない以上、マクダウェルに頼むしか無い」

堅守先生……

「堅守先生、ウチは堅守先生の味方やで？
やから味方が居らんなんて言わんとって」

ウチの言葉に驚いた顔をする堅守先生
少しだけ嬉しそうな顔しとるで
やっぱ、味方が居るってそれだけで安心できるんやろうか？
ウチがそうみたいに……

「ありがとな、近衛
（とりあえず、嬉しそうな顔さえ見せておけば大丈夫だろ
本音は嬉しいというよりも計画通りという感じなんだがな
しかし、これで近衛は先ず俺を裏切らないと分かった
元々依存していたようだし、更に自分から味方と言った
俺が爺を嫌い、魔法使い達と関係を持ちたくない事は知っているはず
つまり、近衛は完全に俺の方に来たという事だ
悪いな爺、あんたの孫娘はもうお前には靡かない
自業自得だしな、精々過去の己を怨むんだな
さて、後は近衛の心が他に向かないよう、逃げ道を潰しておくか
裏切らせるような方向に持っていけば……いや、それは後で考えるか）」

ウチは巻物の紐を取る
中から出てきたんは黒い服を着たエヴァちゃん
さすがにまた裸は無いみたいや。

【案外早かったな】

「近衛が急かすものでな
俺達はこの中に入って修行するつもりだ」

【……中に入ってから呼び出せば良かったのではないのか？】

うんうん、それもそうや
なして入る前に？

「マクダウェルに自分で決めてもらおうと思ってな」

【私が決めるだと？】

どういう……
まさか、ウチみたいに自分で決めさせようって事やろうか？
エヴァちゃんやったらすぐに決める思うんやけど。

「これからこのダイオラマ魔法球で近衛の鍛錬をする
お題は主に身体能力の強化、簡単に言うと体と体力を鍛えようという事だ
手伝ってくれるのなら助かるが……嫌なら断ってくれても構わん」

【……なんだと？】

「そもそも、実力的にも圧倒的に上の相手に命令ができるわけが無いだから依頼、要望という形になる
マクダウェルが嫌ならば断ってくれても構わない
居てくれたら鍛錬が捗るし、助かるのは事実だがな」

それは……そうやな
実力が圧倒的に負けてるのに命令は変や
何も変な事はあらへん
でも……なんや違和感を感じるわ。

【ふん、なかなか良い態度ではないか
しかし、私の手を借りたいのならそれなりの代価が必要だな】

「体を提供してやると、以前言わなかったか？
口止め料込みでも、それぐらいの価値は有ると思うのだが」

【う……ふ、ふん
この私の口止めをするのだ、その程度は当たり前だろう？】

いや、滅茶苦茶やん
自由になる体が手に入るんやったら安いもんやないん？
ウチやったら……自由になるんやったら喜んで手伝うわ。

「ダイオラマ魔法球の中に居る間
毎日吸血の許可、これでいいだろう？」

【ふん、そんなの寝ている間にでも無許可で吸えばいいではないか
下位の貴様が許可を与える時点でおかしいのだ】

それ、教えていいん？
警戒されても知らんで？
堅守先生、なんや色々道具持ってるし
もし対吸血鬼用の道具を使われたらどうするん？

「つまり手伝う気は無いと
ならもう頼まん、邪魔だからさっさと消えてくれ」

【な！？
わ、私の力が必要なのではないのか！？】

「態々回りくどい事をするな
嫌なら嫌と、そう言えば良いだろうが
時間の無駄だろ、全く……面倒な事させやがって」

堅守先生の顔は本当に面倒そうな顔やった
きっと本気で無駄な時間やと思ってるんやろうなぁ
エヴァちゃん、凄く悔しそうな顔しとるわ。

【チッ、いいだろう
近衛木乃香を鍛えるんだったな？
徹底的に鍛えてやるから覚悟しておけ】

「あ、あはは……よろしゅうお願いしますー」

エヴァちゃんがめっちゃ悪役顔やった
これは大怪我とか覚悟した方がええやろか？

「（こういうプライドが高い奴って扱いが思ったより楽なんだよなぁ
プライドを適当に傷付ければ勝手に動いてくれるし
見限られるとか、相当頭に来るから見返したくなるだろう
殺されはしないと思うが、それでも少し危ない賭けだったな
あのままズルズルしてても適当に近衛に教えそうだったし
あそこまで挑発をされ、本人もやる気なんだ
妥協させて動かすより、自分で動いてくれた方が圧倒的に近衛の為

になる
歳は食ってもまだまだ子供だな、マクダウェル
もっと人を操る話術や知識を得た方がいいんじゃないか？
所詮は力を持っただけの子供、本当に成長しているのかも疑問だ
頭は良いはずはんだが……それ以外は見た目通り子供だな）」

うぅぅ……大変やぁ
でも、でもウチは頑張るんや！
挫折なんてせえへんで！

魔法球に入ろうと思った時、意識が少し飛んでもうた
そして気付いた時にはもうダイオラマ魔法球の中に居た
隣には堅守先生、少し離れた場所にエヴァちゃんが浮いとる。

「ふわぁ……自然で一杯わやぁ」

「そうだな
気が楽になる」

自然って大切やもんな
麻帆良には裏山が有るけど
熊とか狼が住んでるんやけど……
まぁ、ここはそこよか安全やよね？

「あ、言い忘れていたな
ここで鍛錬してもらうんだが……
このダイオラマ魔法球の中には下級の魔獣とか住んでいるからな
食われたり、殺されたりしないように気をつけろよ？」

「へー、魔獣かぁ

そら危な……って、魔獣！？
なんでそんなんが住んでるん！？」

危うくスルーするとこやった！
こん中ってどうなってるん！？
めっちゃ危険やん、堅守先生も危険やん！

「安心しろ
この島の形はアルファベットのGのような形をしている
そして魔獣は中央付近に住んでいるんだ
周りの海岸には滅多にも出てこないからな
だからあの中央付近に近づく事は禁止だ」

そんなん言われて誰が行くやろか……
んでもって、修行に必要なら行かされるんやろうなぁ
そん時は注意せなあかんな。

「さて、では修行の進め方を説明しておこうか
この２０日間、お前は俺達とサバイバルをしてもらう
自給自足、食事も全て自分達で手に入れなければならない」

「さ、サバイバル！？
なんでそんな事するん！？」

体を鍛えるはずやなかったん！
サバイバルとどういう関係が有るんや！？

「近衛は既に闇の魔法、ひなのブースト、戦いの歌
この３種類の身体能力強化を使えるんだ
なら必要なのはそれらの効率化だ

必要なのは感覚だ、反射神経などのな
後は体をどう動かせば効果的なのかを考えたりするんだ」

ようわからへん
具体的にどういう意味なんやろ？

「意味が分かってなさそうだな
なら近衛、この島の周りで泳いでいる魚
食う為には捕まえる必要が有るのだが
それをどうやって手に入れる？」

「魚を手に入れる方法？
うーん……釣りやろか？」

やっぱこれが手っ取り早いんやないやろか？
魚ってったら釣りやない？

「それも1つの手段だな
だがどうやって釣り道具を作るんだ？
餌は？　針は？　糸は？　竿は？
他にも場所、時間、そもそも釣りの仕方を知っているのか？」

「あぅ……知らへん」

さすがにそこまでは考えておらんかったわ
うぅ、ウチのアホぉー……

「他に何か手に入れる手段は有るか？」

「他の手段言われても……

思いつかへんわ」

呆れるような顔された
……もしかして、ウチってお馬鹿？
エヴァちゃんなんてニヤニヤした顔でウチを見とるし
なんや馬鹿にされてるみたいや。

「もっと自分のできる事を考えたらどうだ？
近衛は魔法が使える、陰陽術の知識も有るから陰陽術もある程度練習すればできるだろう
ひなも有る、技も使える、魔法で身体強化もできるから素手で捕まえるのも不可能じゃないだろ
他にも木の枝や棒を槍みたく使って突き刺して捕まえるとか
魚が居そうな場所に魔法を叩きつけるのも有りだろうな
気絶した魚が浮いてきたりするかもしれん」

こ、こんな簡単に浮かぶん？
ウチにはそこまでは……あ！

「分かったか？
これが効率を良くする為の手段だ
別にこれに拘る必要も無いがな
他にも手段は有るだろうし」

そっか……ウチの頭は固かってんな
もっと自分のできる事を把握せなあかん！

「しかし
効率面が良くなっても次は燃費が悪くなるだろうな」

「燃費？」

それって車とかの？
えっと……節約とかの事やろうか？

「魔力の無駄遣いになるって事だ
魚を1回捕まえる為だけに闇の吹雪を使うつもりか？
魔力の無駄だ、他にいくらでも手段は有る
それに大量に捕まえて、どうやって保存するんだ？
凍らせておくのも1つの手段だろうが、溶かす必要も有るし
同じ魚を毎日食うのも飽きるし嫌になるだろうから多く捕っても無駄になる
捕まえるのに無駄に魔力を使う必要は無い、分かるか？」

頷く
つまり、無駄に魔力を使っても意味は無いって事や
さっき堅守先生が出した案やと……木の枝を魔力で強化するやろ？
ほんで戦いの歌、身体能力を上げて魚を捕まえる！
これなら魔力は闇の吹雪よりずっと少ないで！

「よし、だがこれは魚に関してしか言っていない
他にも木の実を取ったり、料理の為に火を点したり
様々な事に自分のできる範囲でするんだ
身を守ったりも含めるのは当然だがな」

「魔法とか、好きに使うのは構わへん
でも、代わりにどれだけ効率よくできてるかの試験って事やんな？」

「そんな感じだ
ま、試験とは少し違うがな

これはあくまで鍛錬、試験じゃない
試験はまた別に考えている」

これとは別の試験？
しかもこれってただの鍛錬なん？
うーん……どんな試験なんやろ？

「どんな試験なん？」

教えてくれるなんてあんま思っとらんけど
やっぱ大変なんやろうなぁ……

「３０日間、この島で生活してもらう」

「へ？」

どういう意味……え？

「あの、もっかいえぇ？」

「３０日間、この島で生活してもらう
無論、近衛が１人で生活するんだ」

「ウチ１人でこの島で！？
な、なんでそないな事を！？」

１人でなんて……そんなん、そんなん！

「近衛ならできると思っているんだが……理由か？
もし俺の帰還が不可能になった場合の未来を見据えてだな

逃げるつもりなんだろう？
ならある程度自然の知識を持っていても損は無い
もし魔法世界に逃げるんだったら魔獣とも戦う時も有るだろうしな
最初は戦わないだろうが、後々魔獣達とも戦ってもらうつもりだ」

……やっぱ堅守先生、厳しいわ
そんでちゃんと先まで考えてくれてる
しかもウチならできるって……

よし、頑張ろ！
きっとウチならできるはずなんや！
それならきっと大丈夫、頑張れるんや！

「やる気を出してくれて嬉しいよ
さて近衛、着替えろ」

そう言われて渡されるリュック……へ？
着替えって、着替えが入ってるん？

「まさか制服でここで過ごすつもりか？
さすがにそれは難しいだろう
薄いし、汚れるし、露出も少なく無い
自然が多いから当然虫も多くてな、噛まれるぞ？」

さ、さすがにそれは遠慮したいわぁ
という訳で渡されたリュックを漁る。

服服ー……あ、あった！
でもこれ、麻帆良の制服と違うけど制服っぽい？
あ、ローブとかも入っとる。

「これ、どこの制服なん？」

「魔法世界、魔法学術都市アリアドネー
そこに有る正真正銘な魔法学園の制服だ
入手方法に関しては秘密だがな」

どうやって手に入れたかが気になってんけど……
秘密なんやったら訊いたらあかんな
あ、ニーソも入っとる。

「それと……っと、これだな」

ポケットから出てきたんは鎧？
それに兜に、足に付ける鎧みたいなん
他にも剣にローブみたいな服……なんでそんな物まで？
何度も思うけど、どうしてそんな物がポケットから？

「それは？」

「魔法世界、アリアドネー戦乙女騎士団動甲冑だ
ま、女性騎士専用の服って所だろう
闇の魔法とか、戦いの歌にばかり頼ってるのも問題だからな
これである程度物理、魔法攻撃を軽減できる
鎧と簡単な契約をすればすぐに召喚できるようになっているし
服は挿げ替えみたいな感じになるから消滅もしないし、鎧を送還すれば元に戻る
剣だけを召喚する事もできるから持っていて損は無い
ついでに、剣は触媒の代わりにもできるから指輪も杖も無くても魔法の使用は可能だ」

【どこからそんな物を手に入れたんだか……
というか、貴様が女性用の装備を持っている事の方が問題ではないのか？】

「煩い、黙れ
甲冑との契約はすぐにできるからな、とりあえず甲冑を着て契約
そしてそれを脱いだら魔法学園の制服を着ろ
暫く向こうを向いておくからさっさとしろよ」

そう言って堅守先生は海の方を向いて座り込む
ついでに何かしてるみたいで、リュックを漁っとる
制服とかが上に有って最初に取ったからなぁ
他に何が入っとるんか知らんのよね。

「エヴァちゃん、契約ってどうするん？」

【甲冑に魔力を込めて、契約と言えばいい
それで甲冑が魔力を記憶し、召喚に応じるようになる】

それって……甲冑を着る必要有るん？
とりあえず着替え……

「エヴァちゃんも向こう向いとってくれへん？」

少し無言の後、ちゃんと後ろ向いてくれた
エヴァちゃんって素直やないなぁ。

鎧を着込んで……こうやって？
うーん、こうやんな？

これで……っと、できた！
最後に魔力を込めてっと。

「契約」

あ、ちょっと甲冑が体に馴染んだ気がする
これで契約完了やろか？

「送還」

あ……甲冑が消えた
って、これじゃ下着だけやん！
うぅぅ……下着の上から着たんやから仕方無いんやけど
もうちょい融通してくれへんやろか？

とにかく、次は魔法世界の制服を着る
……うん、これは簡単やな
ほんでこれで成功するんか試す。

「着装」

あ、甲冑が出てきた
うん、これでＯＫやな！

「送還」

ちゃんと甲冑が消えて、制服はそのままや
完全に成功、これで完璧や！

「堅守先生ー、エヴァちゃんー

ウチできたでー！」

堅守先生はウチの方を少し見て、大丈夫って顔をする
エヴァちゃんは……微妙そうな顔や
なんかウチ、変な事した？

「ん、悪く無い
甲冑とも契約できたみたいだし」

なんで分かる……って、さっき契約って言ったもんな
それに着装、送還とかも言ったから分かって当たり前やん。

「マクダウェル、どうかしたか？」

【いや……別に
（だから、何故女性用の服を持っているのかと……
しかも小娘は気付いていないようだが、サイズも合ってるのは不自然ではないか
今更ながら、こいつは何者なんだ？）】

何がそんなに複雑なんやろ？
どうしても気になる事が有るって感じやで？

「さて、ではサバイバルを始めるか
調理道具は少しなら持ってきている
それ以外は全て自分で手に入れる必要が有るぞ」

出てきたんは鍋と包丁
他にも少し有るけど、調味料とか無い
本気でサバイバルするつもりなんや！

「堅守先生、サバイバルした事有るん？」

「有るぞ」

「ほんまに有るん！？」

「ここまで自然は無かったがな
あの時はさすがに死ぬかと思った……」

ど、どこでしたんやろ？
しかも自然が少ないって……危ないんちゃうん？
何食べて過ごしたんか気になるわ。

「色々と近衛にプレゼントしたのには理由が有る
近衛、杖と指輪は持っているな？」

「ちゃんと持ってるで」

指輪を見せ、杖も取り出す
それがどうしたんやろ？

「よし、没収」

「あ、ちょ！」

杖、取られてもうた！
でも指輪は取られそうになった寸前に手を引いたから無事やった
なんてこんな事するん！？

「没収だ、指輪も渡せ」

「そんなんしたら魔法が使えんなるやん！」

「当たり前だ
さっき魔法を使ってサバイバルとは言ったがな
今回の目的は魔法じゃなく、身体能力の強化だろうが
それに杖が無くても魔力を纏えばである程度身体能力は補える
更に陰陽術を使ってもらうんだから魔法を使ったら意味が薄れる
さっきの剣も触媒の代わりにできるが
剣の使用はともかく、触媒としての使用は禁止だ」

「陰陽術！？
ウチまだ何もできへんで！」

「説明はしているだろうが
後は覚えている事を実戦するだけ
ほら、紙と筆、これで符を作れ」

「符作成から！？」

これ、ちょっと失敗したら何もできへんやん！
符ってデリケートで、僅かなミスでも起動せいへんのやろ！？
素人のウチにさせてどないすんねん！

「ちなみに成功できない場合
俺達の未来は……死かな？」

「……うそ？」

「嘘じゃない
近衛は触媒が無い状態で魔法が使えない
俺は触媒が有ろうとも使えない
マクダウェルは食事などは不必要
魔獣を相手に戦えるほどの力は俺達に無い
木の実を手に入れようにも、木登りができるはずも無く
魚を釣ろうにも道具を作る事さえできない
最悪の未来は餓死だ、分かるか？」

分かる……多少はどうにかなる思うけど
それでも２０日も生きていけるなんて思われへん
ウチの頑張りでウチらが生きるか死ぬかが決まる……

「ウチ、頑張るわ」

左手の人差し指に嵌めてる指輪を堅守先生に渡す
これでウチは魔法が使われへん状態や。

「確かに預かった
ほら、ここだと紙が海水の湿気で駄目になる
少し森の中に移動するぞ」

「はいな」

誰が作ったんか、出てきた場所は海の上に有る木でできた道や
下が海の高い場所やったら平気なんやな、堅守先生
まぁ……高い言うても海が深いだけで海面までは近いんやけど……

【おい、私はどうすればいいんだ？】

あ、エヴァちゃん
そういや何も言われてないやんな
どうするんやろ？

「まだ暫くは近衛の符作成をする
暇なんだったら寝ていたらどうだ？
用ができたら呼ぶ」

【……ならば用ができてから呼び出せ！
ふん！】

飛んでどっか行ってもうた
そらエヴァちゃんも怒るわ……

「拗ねたか……今はどうでもいい
さて、さっさと符作成に移るぞ」

「了解や！」

今はエヴァちゃんよりも符や
絶対に成功させなな！

……

……

……

「ほら、そこずれてるぞ」

「あ、ほんまや……うぅぅ」

また失敗したぁ
もう2時間も書き続けやのに
簡単なんやのに成功した符はまだ4枚だけやぁ
しかもまだ試してないから使えるかも分からへん。

「……あ、文字が違うぞ
よく見て書くんだ、注意しろ」

「うん……あ！」

墨、紙の上にたれてもうた
これでこの符は使い物にならん……

「次は注意しろよ」

口数はどっちも少ない
けどどうにかせな……大丈夫やろか？
とにかく書き続けるのが目的や。

「うーん……できた！」

「ん、見せてみろ
……よし、今回は成功だな」

よし、これで5枚目！
使えるかどうかは別にしてやけど
うーん……実験してみな分からへんわな。

「とりあえず完成した5枚を使ってみるか」

「了解や！
エヴァちゃーん！」

暫く待つ……あ、来た！

【何か用か？】

「マクダウェル
当然可能だとは思うが……全属性の魔法は使えるな？」

【はぁ？　当たり前だろう
適正が有るとはいえ、使えないなんて甘い奴の考えだ
どんな属性であろうと、手を出しておいて損は無い】

エヴァちゃんは氷とか闇属性の魔法しか使っとらんけどなぁ
やっぱ色んな属性が有るんや……ウチって何属性と相性が良いんやろ？

「なら各属性の魔法の矢を使ってくれ
今から近衛の術を使う」

【よく分からんが……まぁ良いだろう】

エヴァちゃんは少し離れ、無言で魔法の射手を撃つって、合図ぐらいしてや！
あの色は……炎属性の魔法や！

「急急如律令！
水符よ、火の力を散らしめよ！」

水属性の符を翳し、呪文を唱える
符に直撃した魔法の矢は消滅した……あれ？

「成功だな
まさか1発で成功するとは思わなかったが」

【……な、なんだ今のは？】

エヴァちゃんが驚いとるけど、ウチはそれどころやない
まさか1回で成功するなんて思っとらんかったから……
自分で自分が怖い思ったわ。

い、いくら水克火
つまり水は火に勝つってっても……

「今のは水属性の符に魔力を込めた
そして火属性の攻撃の火の力を散らしたんだ
結果は見ての通り、近衛の魔力で力尽くにも見えたがな」

【まさかそんな手段を使うとは……
てっきり迎撃するのかと思ったら消滅させるとはな
ふむ……陰陽術か、さすがに詳しくないからなんとも言えんな
それでも、たった1矢とはいえ消滅させたのには驚いた】

痛いん覚悟してたんやけど……
でも、まさか消える思わんかったわ
堅守先生が言うみたいに力尽くなんやろうけど。

「本来は魔力でゴリ押しなんて問題なんだが
1回で成功させたのは見事と言うしか無いな

よく勉強していたと言うべきか、これも才能と言うべきか……両方か」

良かった、才能だけやなくて努力も認めてくれてもし才能だけや言われたら今までの努力を無駄にされた気分になるわウチの事、ちゃんと見てくれてるんや……でも、もうあの何日もずっと教え込まされるんは遠慮したいわ。

【次をしても構わんな？】

「いや、少し待ってくれ近衛、符を見せてくれ」

「あ、はいな」

使い終わった符を堅守先生に渡す魔力の込めすぎか、それとも魔法が強かったんか符はボロボロの状態になっとった。

「ふむ……マクダウェル、どう思う？」

【ん？そうだな……魔力の込めすぎではないか？私はそこまで威力は込めていないからな】

やっぱ魔力の込めすぎやったかぁもっと加減して、効率を良くせんとあかんな。

「もっと上等な紙、墨だったら力尽くでも大丈夫だっただろうが

ま、所詮は練習用の安物というところか
しかし練習用で成功したという事は……本物での成功は確実か」

「へ？
なんで練習用で成功したら本物でも確実なん？」

普通逆やないん？

「符は紙や墨の質でも難易度が変わるんだぞ？
さっきも言ったが、それは所詮は安物
安物という事はどちらの質も悪いという事だ
それで成功なんだぞ？　質が良ければ成功するのは当然だ」

つまりウチは……
強引やったけど、難易度が高い物で成功させたって事やろか？
……ウチ、自分が怖くなりそうや。

「マクダウェル、次を頼む」

【ふむ……今更だが何属性か宣言しておいた方が良いのか？】

「いや、宣言しないでくれ
洞察力も鍛えているんだからな
読み間違えたら自分が怪我するだけだ、問題無い」

いや、問題有るから
ウチやって怪我したくないで？
さっきは色から判断したんやけど……

またエヴァちゃんは無言で撃ってきた！？

この色は……氷の矢や！
って、氷って何属性を使えばええん！？

「土符よ、水の力を飲み尽くせ！」

土は水を吸い取り、水をせき止める！
氷かて、水の一種や！

氷の矢は土の符に吸い取られるように消えた
よし、これで土符も実験成功や！

「エヴァちゃん、次お願い！」

ウチの言葉と同時に次の魔法の矢が飛んでくる
色から判断して……雷やろか？
雷をどうにかするには……これや！

「金符よ、雷を反らせ！」

金符を持った手を横に伸ばす
ウチの目の前には雷の矢……でも反れてった！
ほんで雷の矢は金符に直撃した。

「反らし切れなかったが……成功だな
雷の特性で金属性を選んだのは正解だ
色々と頭に突っ込んだ甲斐が有ったものだ」

ほんまやわぁ……突っ込み過ぎや
パンクするかと思ったわぁ。

って、そんな事考えてる間に次の撃ってる!?
えっとえっと……どう見ても砂やん!

「木符よ、地の力を食い尽くせ!」

土の栄養は木によって奪い尽くされる
つまり、砂は地属性やからその力を吸収する!
……ふぅ、消滅したわぁ。

残りは火属性なんやけど
これと相性が良いんって何やろう?
考えてる内に風の矢!?

「急急如律令!
火符よ、風を押し止めろ!」

「あ、馬鹿!」

「ぴっ!」

馬鹿って堅守先生の声が聞こえた瞬間
服の首を引っ張られて変な声が……
ほんで火符を手放して、風の矢が当たった瞬間……爆発!?

「はぁ……近衛、理科の授業だ
大量の酸素に火を突っ込むと?」

「……爆発?」

「瞬間的に酸素が大量に送られたからな

そうなると爆発する
正確には、火が爆発するような勢いで出たというべきなんだろうがな」

……今回は完全に失敗やな
しかも堅守先生まで危険な目に遭わせてもうた
次からは注意せなあかん！

「マクダウェル、もう終わりだ」

【そうか？
最後のは少し驚いたぞ】

「ごめんな、驚かせて
堅守先生も危険な目に遭わせてもうたし……」

「これぐらいはまだ想定内だ
十分に予想はしていた」

うぅぅ……失敗の予想通りでごめんなさいや
成功の予想通りになりたかったわぁ。

「とりあえず、符は全て成功
これから毎日の予定も決まってくるな」

毎日の予定？
もしかして決めてるん？

「今日はともかくとして
明日からある程度時間を決めて行動するぞ」

うはぁ……堅守先生の決めた時間割かぁ
これ、絶対に滅茶苦茶大変なんやろうなぁ……

「起床後、朝食が取れたならば朝食
1時間後、体をほぐしたりして準備運動を長々と30分ほど
体を壊さない為にも、己の動きに対応できるように体を柔らかくする為の柔軟を中心とする
その後2時間ほど、マクダウェルとの格闘戦、当然ながら最初は指導程度だがな
次は昼食を手に入れる為に散策など、これは30分程度
もし食料を入手できた場合は昼食、食えなかったら当然ながら抜きだ
食後直後の運動は体に悪いからな暫く休憩、2時間ほど符の作成
その後の30分から1時間は符の実験をする
実験後は魔獣の住む森を散策してもらう、2時間ぐらいかな？
当然ながら魔獣に襲われる可能性も有るので十分に注意してもらう
次の2時間は再びマクダウェルとの格闘戦、死なないだろうから安心しろ
それから1時間は夕食の為の食材探し、無いと当然飯抜きだ
食後の3時間は魔法の勉強をする、この時間だけ触媒の指輪を返してやろう
残りの時間は自由時間、寝るも遊ぶも好きにするがいいさ
まぁ、要所要所に休憩は挟むつもりだがな……少しだがあくまで予定だから完全にそうなるとは言えんがな」

……めっちゃ細かいやん
これを毎日……ウチ、死ぬかもしれへん。

【おい、私の格闘戦とは何だ？
何故私がそんな面倒な事を……】

「断るのなら毎食、本体が嫌いな大蒜とか葱を食わせてやろうか？
受けてくれるのなら碁を付き合おう」

【卑怯な……だが、残念だったな
私は別に食事をしなくても生きていける】

人造霊やもんなぁ
精霊みたいなもんやから別に食事は必要無いんやね。

「そもそも、最初に協力してくれると言ったじゃないか
誇り高きマクダウェルが約束を違える気か？
所詮、マクダウェルもその程度の存在だったという訳か」

【……貴様、私を怒らせたいのか？】

う……さすがに怖い
こうなったエヴァちゃんの殺気はかなり強い
慣れたウチでもやっぱ震えてまうわ。

「その程度の殺気で何を言うか
口で負けたから手を出すとでも？
闇の福音も、大した事無いな
所詮、体が子供だから頭もこど……」

堅守先生の言葉を遮り、エヴァちゃんが抜き手を堅守先生の目の前に……
そこまで言ったらいくらなんでも怒るわ
なんでそないに挑発するん！？

「ふ……所詮、体が子供だから頭も子供という事か
この程度の挑発で頭に血を上らせるとはな
俺を殺したいのなら殺すがいいさ
その時は肉体を諦めてもらうがな」

【……チッ】

舌打ちをして、手を引くエヴァちゃん
ふぅ……危なかったわぁ。

「協力してくれるな、マクダウェル？」

【分かった、手伝ってやる
だが全てが終わった時、覚悟しておくんだな！】

堅守先生を強く睨んで、エヴァちゃんはどこか行ってもうた
……堅守先生に怪我させんように気を付けなな
鍛錬が終わるまでにエヴァちゃんと互角に戦えるぐらいやないとあかんやろか？

「そういえば堅守先生
ウチら、どこで寝るん？」

「野宿だ」

「野宿！？
家とか無いん！？」

「有るぞ」

「有るん！？
ならなんでそこに行かへんの！？」

無言で堅守先生が指を指す
どこを……そう思って指の先を見てみると……
岩山の上にコテージが……

「な……な……
なんであんな所にコテージが？」

「コテージとは正確にはコテジと呼ぶ、建築学みたいなものだがな
最近では田舎とかに建てられている小規模な建物の事を言うのだが
……
中世の時代、本来は農民や労働者の住居だったんだ
コテージとは農奴……つまり農民を表すコッターに由来している
比較的大きな農家にはメスウィッジという言葉が使われていた
中世時代ではコテジは住居だけではなく、農業作業に必要な納屋と
庭も含まれていたんだ」

無駄知識過ぎるわ！
なんでそんなん知ってんねん！？

「それはさておき
あんな場所に有るコテージ……俺達に行けると思うか？
魔獣の住む森を越えて……」

「無理や……
エヴァちゃんが居てくれたらどうにかなりそうやけど」

でも、この海岸にどうやって戻るってんが有るわ

あぁ……ベッドで寝たいわぁ。

「さて、今から治癒魔法の勉強をしようか
剣を魔法触媒として使う魔法は治癒魔法のみ許可してやる
他の魔法は俺が許可しない限り絶対禁止だ」

「りょ、了解や！」

となると剣は普通に剣としか使われへんねんな
……うんん、治癒魔法を許可してくれただけでも嬉し思わな！
これもウチを心配してくれての事やし！

……
……
……

「……おい、近衛」

「……なんでっしゃろ？」

「近衛は治癒魔法に適正が有る事は分かった
だがな……いくらなんでも……開始2分で使えるのは反則過ぎるだろ！？」

「そんなん言われたってぇー！
ウチやってこれはほんまに想定外なんやでー！」

うぅぅ……まさかこんな事が有る思わんかったわ
初心者用魔法でも5分は掛かったんやけどなぁ
やっぱ闇の吹雪とか使えるようになったんが原因やろか？

それとも単に適正が無駄に高かったから？

「はぁ……残り時間はこれで時間を潰すつもりだったんだがな
仕方無いか……近衛、暫く食料になりそうな物でも取ってこい
それで食事にして、また適当に時間を潰して今日を終えるぞ」

「は、はーい！」

急いで何か探しに行く
森の深くまで入ったら魔獣が居るやろうから……
あんまり遠くに行かんようにせなな。

視点　瑞貴

……さて、仕込みの時間だな
近衛も行ったし、俺も動かないと。

「マクダウェル、マクダウェル！」

マクダウェルを呼び、暫く待つ
不機嫌そうな顔をしながらも飛んでくるマクダウェル
……何だかんだ言って、俺達の事をあまり嫌っていないんじゃないか？

【何か用か？】

「あぁ、これを中心の森に放ってくれ」

【これは……おい！
貴様、これをどこで手に入れた！？】

驚くマクダウェル……まぁ、当たり前か
こんな物を持っているのは明かに変だしな。

「どこで手に入れたかどうかなんてどうでも良い
さっさとしてくれ、近衛に気付かれる」

【貴様……正気か？
こんな物……いくら下級とはいえ
魔獣を封印している瓶や符を解き放つと言うのか！？】

「大声を出すな、近衛が気付いたらどうする
更に言うならば当然正気であり、本気だ
これで近衛は森に入る時に緊張感を持てる
野性の殺気だぞ？　嫌でも集中力が上がる」

危機感も上がるからな
どれだけ死と隣り合わせかよく分かるだろ
1回襲われてくれると俺も助かるが……
まぁ、それは後々で構わないか。

【しかしだな……】

「それに、こんなのは序の口だぞ？
今渡したのはまだ死とは離れている存在が多い
精々、服を食われたり、体を嬲られたりするぐらいだ
人間を使って繁殖したりする生物も居ないから貞操を奪ったりしない

好奇心の動きから殺される可能性は否定できないが……死ぬ事は先ず無いな」

割と安全な奴ばかり選んだからな
魔獣達は世界図絵で調べたたから安心だ
魔獣の封印瓶とかはポケットに何故か入っていたし
相変わらず何が出てくるのか分からんポケットだ。

【……序の口？】

「あぁ、当たり前だろ？
そうだな……１５日を過ぎた辺りから下位の竜種でも投入するかな
他にも殺傷力を持った魔獣や、肉食を中心にしてみるか
それぐらいには近衛もかなり強くなっているはずだし
この程度とは互角ぐらいに戦って貰わないと困る」

【鬼か貴様は！】

「吸血鬼に言われたくない
いくら体は人工霊でも、精神や思考は元のままだろうが
そのお前に鬼扱いされるのは……なんとなく嫌だ」

【そういう問題なのか！？】
……まぁいい、どうなっても私は知らんからな】

「近衛を襲うのは構わんが
俺は襲わないように言い聞かせておいてくれよ」

【無理を言うな！
できるだけはしてやるが、期待はするなよ！】

文句を言いながらも仕事をするマクダウェル
適当に飛び、封印を解放していってるはず
保険を掛けても、俺も十分危険に晒されるんだが……まぁ大丈夫だろ。

基本的に近衛の近くに居るつもりだし
何か有っても勝手に近衛が俺を守ってくれる
万が一の時はマクダウェルにでも頼るか。

いや、寧ろその方が好都合だ
近衛が俺を守れなかったと勝手に絶望してくれる
そうなると一層努力するだろうからな。

そしてこの鍛錬の本当の目的は……
くくく、効果が発揮されるのが楽しみだ
さて近衛、お前はどこまで強くなる？
食われなければいいがな……少し楽しみだ。

１１話【２０日の特訓開始】（後書き）

女の子に守ってあげる宣言をされる男って……
そういう形に持っていったのは瑞貴ですけどね
ちなみに、女にというプライドは有りません
何故ならそうしなければ瑞貴は生き残れないからです。

木乃香が刹那にかなり厳しく……
色んな意味で仕方無いでしょう。

別荘の中で魔法球って使えるの？
知りません、まぁ良いんじゃないですか？
別荘の中で巻物とか使ったりしましたし。

ダイオラマ魔法球って3日を３０日に伸ばすんじゃなかったっけ？
途中で出ていたようなので１日を１０日にできる……はずです！

そういえば両方使ったらどれぐらいの時間が経つの？
別荘内は２４倍速、ダイオラマ魔法球は１０倍速なので
別荘　１日＝１時間　２４時間＝１時間　結果２４倍速
魔法球　１０日＝１日　２４０時間＝２４時間　結果１０倍速
合計で通常の２４０倍速の時間を過ごしているという事になります
フルで丸１日使った場合の計算
外＝２４時間＝別荘＝５７６時間＝魔法球＝５７６０時間
５７４０時間÷２４時間（１日）＝２４０　Ａ２４０日となります
更に巻物の中で７２倍速の速度で最後まで入っていた場合
２４０日×７２＝１７２８０日となります
１７２８０日÷３６５日（１年）＝４７．３……約４７年です
全てを思いっきり使ったら相当ヤバイ事になりますね。

魔獣って……
最後の瑞貴視点参照
ちなみに、本来は居ない……と思います。

何故サバイバル？
木乃香の精神鍛錬の一環です。

どうして３０日もサバイバルさせる事にしたの？
後々。

何故瑞貴は制服を……
気にしたら負けです。

甲冑とか……というかサイズまで？
気にしたら負けです、負けなんです。

剣って触媒になるの？
夕映達が使っていた時、他に魔法触媒になりそうな物が無かったので
なので剣自体が触媒になると思いました。

契約方法ってそうなの？
着装すると勝手に出てくるのでこういう物なのかと思います、多分。

瑞貴がサバイバルを！？
遊戯王世界にて、ただしまだ未登場シーン。

瑞貴が態々自分が死ぬかもしれない事をするかな？
そんなはずがありません
もし食料が手に入らない場合

エヴァンジェリンに頼んで手に入れてもらうつもりです
素直に動かないと思いますが、最終的には動くでしょうし。

全属性って……使えるのかな？
実際、エヴァンジェリンは得意ではない雷系魔法を使っていましたなので彼女ならその程度はできるでしょう。

急急如律令って何？
緊急で使う陰陽術です
咄嗟にはあまり魔力を込められないのは当たり前ですがこれで瞬間的に魔力を込めます
……この作品オリジナル設定ですので注意
ちなみに本当に急急如律令という言葉は有ります。

練習用はって……
オリジナル設定です
というか、陰陽術に関しては大半がオリジナル設定です。

陰陽術の呪文って……
オリジナル以下略。

予定がびっしりと……
大まかにこう動く目標みたいなものです。

瑞貴がエヴァンジェリンに強気過ぎない？
弱みを見せたら負けです。

開始２分で治癒魔法って……
既に魔法使いとして実力が高い（と思われる）木乃香ですので
治癒魔法の１つぐらいこの程度で覚えられると思います。

瑞貴が……本当に屑だ！　というか厳し過ぎる！

……ノーコメント

まぁ今更です。

本来の目的って？

後々分かります。

ツイッター？

ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ_ｋｕｒｉａ

うーん……とりあえず疲れた！

１２話【サバイバル生活の２０日間】（前書き）

投稿直前に寝てしまい、起きたのが０時３０分……
投稿するだけで終わりだったとはいえ、これは酷い。

そして今回も相変わらず遅い作者です
資料が無いんですよね……こっちだと
だから嫌でも時間が掛かります。

そういう意味では遊戯王は本当に楽です
遊戯王の難易度を１とすると、こちらは５から８ぐらい？
気付けば文章量も多くなってるし……何故に？

誰か良い作業用ＢＧＭを紹介してください
歌の無い、戦闘系が好みです……一部例外有り
教えてもらっても何もできませんが。

次回はいつかなぁ……頑張ろう。

……それにしても、ゲームがしたい！
ＮＡＭＣＯ×ＣＡＰＣＯＭとか、サモンナイトとか、ＦＥとか、スパロボＯＧとか！
特にＮＡＭＣＯ×ＣＡＰＣＯＭをしたい！　ＫＯＳ－ＭＯＳ無双したい！
前にした時は完全に超無双して最終ステージを単機突破してクリアしたなぁ
他のキャラは主人公だけで、しかも１歩も動かさず……あれは楽しかった
また最初から、４週目をしたいけど……時間が無いのが最大の問題

か……はぁ。

12話【サバイバル生活の20日間】

視点　木乃香

1日目

堅守先生から色々と言われて、何か食べれそうな物を探す
嬉しい事に、木の実とかはそれなりに見つけられた
動物とか居るんか、それが気になるわぁ。

……そういえば、もし動物とか居ったらどないしよ？
もしかして殺して、食べるんかな……やっぱ
生きる為に必要やと思うけど、あんましたくないわ。

でもそれって魚でも同じやん
毎日木の実だけ食べて過ごすなんて無理やろうし
いくら普段からお肉とか魚食べてるいうても……
自分で殺して、自分で食べる……やっぱそうなんやろか？

とりあえず、今はそれは置いといて
あの高い場所にある木の実……どうやって取ろう？
魔法は禁止されとるし、陰陽術ってもまだまともに使われへん
仕方無いなぁ……あんましたないけど。

「装剣」

剣だけ取り出してっと、せーの……真っ二つや！
という訳で木を切ってみたんやけど……失敗したわ
よう考えたら木の実なんて全部食べられへんし
持ち運ぶにしても大変やし、木を切ったらもう実が成らへんやん
あかん、ウチがアホやった……もっとよう考えて行動せなな。

失敗は次回から生かすとして
今回はもうこれでええわ、とりあえず持って帰ろ！

体に魔力を纏って、身体能力を少し強化！
これでちょっと重いぐらいの物やったら大丈夫や
でも木の実がこれだけいうんも……もう少し探してみよ！

さっきの木の実を持ち歩きながら少し歩き回る
んー……あんま無いなぁ
……あ、発見や！　バナナみたいなん見っけ！

でもどうやって取ろ……木を切り倒すんは当然駄目やし
木登りなんて無理や、揺らして落ちるとも思えへん
一応試してみよかな？　ヤシの木みたいにあんま太くないし！

「せーの……えいや！」

魔力で少し足を強化して、蹴ってみた
木は揺れて……揺れて……揺れて？
何も起こらへん……失敗やな、もう1回や！

「すー……せい！」

さっきより少し力を込めて蹴る！

ブチって音がして木の実が落ちて……おっと
ナイスキャッチや！

美味しいんかな？
お腹空いたしちょい味見……いや、あかん！
堅守先生やってお腹空かせてるんや
ウチだけ勝手に食べるんは酷いからあかん！

ウチも堅守先生も小食やし
これぐらい有ったら多分大丈夫やろ
１回戻って食事の時間や！

堅守先生と別れた場所に戻る
見てみると、堅守先生が倒れて……えぇ！？

「か、堅守先生！
どないしたん！？」

慌てて駆け寄る
当然、木の実なんて放り出してもうた！
でもそんなんより堅守先生が倒れてる方が問題や！

「……んぁ？
なんだよ近衛、人がボーッと寝てたのに
どうかしたのか？」

「へ？
寝てた……だけ？」

つまりそれって……

「少し見れば分かるだろ？
何か勘違いでもしたのか？」

ウチのただの……勘違い？
うわ、恥ずかし！

「で、どうしたんだ？
食料は手に入ったのか？」

「あ、うん
ちょっと待ってな」

さっき投げ捨てた木の実とかを拾ってくる
……大丈夫や、ちょっと砂が付いたぐらいやし
皮とかを剥いて食べれば大丈夫やろ。

「木の実、拾ってきたで
これだけ有ったら大丈夫やと思うわ」

「そうか？
まぁ、それで大丈夫なら俺は構わんがな」

どういう意味やろ？
もしかして足りへんって事やろか？

「どういう意味なん？」

「後に分かる
さて、食うか？」

よく分からへんけど
頷き、砂を落として半分ぐらいを堅守先生に渡す。
でも、堅守先生はその渡した半分の半分
つまり全体で１／４だけを持って残りをウチに渡す
……どういう意味なん？

「俺はこれだけで十分だ
残りは近衛が食え」

「これだけって……めっちゃ少ないやん！
ウチはまだ子供やからええけど、堅守先生は大人なんやで！
しかも男の人やし、食べる量はウチより多いはずやん！」

「小食でも持つような体にしているから大丈夫だ
正確に言えば慣れてる、だから脳が食事量を覚えているんだ
つまり、胃への少しの刺激で脳が満足感を訴える
だから俺は無理をしないと多く食えない体なんだよ」

「そういう問題やなくて……」

「というか、実在する人物の話なんだが
何も食事せず、生きていられる人が居るらしい
なんでも、体から生きる為に必要な栄養素を生み出したりできるとか
人間光合成みたいな感じだな」

何が言いたいんか分からへんねんけど……

「つまり慣れだ

だから俺は小食でも我慢する必要が無い
慣れているからな」

「だからって……保たへんで？」

「その言葉、そっくりそのまま返してやろう
近衛に渡した分も……いや、これ全てを近衛が食べても
多分、近衛は保たないと俺は思うがね」

これだけ食べても保たへんって……
何させるつもりなん？
そんだけ辛いって事やろか？

「ほら、もうそれはいいだろ
さっさと食うぞ」

堅守先生はバナナみたいな木の実の皮を剥く
ほんで普通に食べて……嫌そうな顔をした。

「これは……未成熟だな
不味い、残すつもりは無いし
我が儘を言える状況じゃないから我慢するが」

言ってるやん、文句
でもこれを取って来たんはウチやから……
ウチが悪いやんな、これって。

それにウチやって食べるんやし……
保たない言われたからには残すわけにもいかんし
うぅぅ……お、女は度胸や！

「う〜〜〜……あむ！
……ま、不味いわぁ」

ほんまに不味い……失敗や！
次からはこんな事無い用に注意せな
自然も貴重なんやから……しかしほんまに不味いなぁ。

「で、このもう1つ……ん
……あ、味が無いだと？」

味が無いん！？
最初に取った木の実やけど……あむ！
……ほんまや、味が全く感じられへん
何て言うか……イメージ的に砂を噛んでるって感じ？

「片方は未成熟で不味い、もう片方は味が無い
初日だけに随分と駄目な成果だったな」

「うぅぅ……面目ないです」

情けないわ
次は失敗しないように注意が必要やけど
どうすれば見分けられるんやろうか？

……堅守先生に訊いたらあかんな
きっとこれも鍛錬の1部や、観察眼を鍛えたりするんやろうと思う。

暫く食べ続けて、持ってきた木の実が全部無くなる
あんま食べた気分にならへんなぁ……

堅守先生の言ってた意味ってこういう意味なんやろか？

「気付いたと思うが
木の実系はあまり食った気分にならん
食う前に話した満足感とかの話になるんだが……
木の実系は味はともかく、脳内でデザートとかとして扱われる
だから多少量を食っても胃に溜まりにくいし、気分的にも満足しない」

つまり……持ってきた量が少ないってわけやあらへんねんな？
食べ過ぎ注意、それに気分の問題かぁ
木の実だけ食べてお腹を誤魔化すんにも限界が有るって事やな
となるとやっぱ魚とか、肉とか野菜とか……どないしよ？

「魚とか肉とか野菜ってどないすればいいんやろ？
それにご飯とかも食べたいし……」

「自力で用意するんだな
魚は海、川でどうにかなるし、肉は魔獣を殺せば手に入る
毒持ちの魔獣は居ないからな、食用として殺しても食えるはずだ
野菜は山菜が有るとは思うが……詳しい事は知らん
ついでに米は無い、諦めろ」

うぅぅ……やっぱそうなるんやな
魔獣なんかに会いたないけど……はぁ
殺すなんて嫌や、けどウチらが生きる為には必要な事
仕方無いなんかで済ます事もできへんし……

あれ？　そういえばなんで毒持ちの魔獣が居ないって言えるんやろ？
まぁ、ここの持ち主やから知っていてもおかしないけど

それに、毒持ちじゃなくても魔獣は魔獣や
危険な相手に変わり無い。

「さて、今日はとにかく符を作るぞ
毎日作ってもらうが、とにかく数が無いと困る
まだまだ触媒無しに使える術じゃないしな
魔獣に襲われた時、剣だけじゃ心許ないだろ？」

という訳で符作成
ずっとずっと符作成
長々と符作成……大体３時間ぐらい。

つ、疲れたけど成功符は３０枚ぐらいになった
１時間で１０枚……効率が良いとは言えへんなぁ
まだ書く事が少ないから１枚６分程度で済んでるけど
もっと増えたらと考えると……もっと筆に慣れなな。

夜になってからはまた同じように木の実調達
まだまだ魔獣を相手にするのは難しそうやから
木の実しか採れんかったけど……やっぱ不味かった。

「そういえば海にはどんな魚が居るん？」

「知らん
だが魔獣も潜んでるぞ」

その言葉と同時に鮫みたいなのが海から飛び跳ねる
大きさは……３ｍぐらいやろか？
あんなん相手にするんは大変やろな……え？

「か、堅守先生？
もしかしてあんなんも居る海から魚を捕まえろって事なん？」

「そうだが？　しかしあいつはあまり危険性は高くないぞ
肉食じゃなくてプランクトンとかを主食にしているから小魚とかも食わないし
それに見た目と違っておとなしいし、手を出さなければ襲われる事も無い
食われれば即死になる可能性は否定できないが」

十分危険やん！
こっちから何もせんかったらいいんやろうけど
それでも十分危ないで！

「そんでどこで寝るん？」

「野宿だと言っただろ？
適当に場所を探して勝手に寝ろ
せめてもの情けだ、毛布ぐらいは貸してやる」

そう言われて渡された毛布
と言われてもどこで寝ればいいんやろ？
どこも危険そうなんやけど……

「堅守先生は？」

「俺も適当な場所を探して勝手に寝る
俺は野宿経験が有るからな、危険性の低そうな場所ぐらい見つけるのは慣れてる
ちなみに、俺に付いてきて一緒に近くで寝るとかは禁止だ

安全そうな場所を自分で見つけるのも修行の内だ、精々頑張れよ」

そう良いながら堅守先生は森の中に入ってく
危険性が高い思うんやけど……なんで森に？
それともウチを惑わす為に入ったんやろか？
例えば……実は森に入ったけど違う場所から出ていくとか
森に入って寝たら危ないし……やっぱそういう事やろか？

さすがに分からんかったから森には入らんかった
だから寝る場所は海の見える森の入り口
木を背もたれにして座ったまま寝る
疲れは取れなさそうやけど、この方がすぐに立てるし。

2日目

うぅぅ……体中が痛い
やっぱ変な格好したんが駄目やったんやろか？
あんま長い時間寝れんかったっぽいし……

ふあ……あぁ
朝ご飯作らな……って、ここは部屋やなかった
木の実や木の実、早く探してこな。

暫く探し、昨日より少し奥に入ってみる
何か無いかなぁ……あ、木の実発見！
木の実は比較的低い場所に有るから魔力で身体強化して……ジャンプ！

よっしゃ、木の実ゲットや！

他にも2種類ぐらい木の実を見つけてっと

さて、さっさと帰ろうっと！

「ひゃぁ！

な、なんで砂が……」

この後はどんな事をするんか考えながら歩いてると

突然上から砂が降ってきた

何事かと思って上を見てみるけど何も無い、木だけや。

でも、どうして砂が突然……

よう分からんけど、気味が悪くなって急いで森から出ていこうと走り出す。

……

……

……

おかしい、もう１０分以上は走ってるのに森から出られへん

ウチは歩いて森の中を１０分程度しか移動しとらんはずなのに走って１０分以上……方向を間違えたんやろか？

暫くそのまま走っとると川に出た

川……そうや、魚を捕まえてみよ！

あの砂の事は気になるけど、それは後回しや。

川の方に向かって歩いてると、川の一部が突然光った？

……そうや、ここはもしかしたら森の奥かもしれへん

そうなると……魔獣とかが居るかもしれんわ。

嫌な予感がして、逃げだそうと思って逆を向いた瞬間
何かがウチの足を掴んだ
走りだそうとした勢いで、倒れそうになったけどなんとか耐えた。

いったい何がウチの足を……
そう思って足を見てみると、緑の腕がウチの足を掴んで……緑の腕？
川を見てみると……頭に皿を乗せた緑の顔に嘴……河童？

「って、河童！？
なんで河童なんて居るん！？」

うわ、逆の腕短過ぎやろ！
伸びてる分ぐらい縮んでない！？
あの腕ってどうなってるん！？

河童はケタケタした顔をしながらウチを引っ張る
力は強いけど……ウチは魔力で強化できるんやで？
せやから……悪いけど逃げさせてもらう！

勢いを付けて足を引っ張るけど、河童も力強く引き返される
力比べ……ウチにはちょい不利や
せやけど、負けられへんねや！

こうなったら意地の比べ合い
って、剣を取り出して腕を切り落とした方が楽なんやない？
でも生き物の腕を切り落とすんは抵抗が……

んな事考えてる暇なんてあらへんやん！

もしこのまま引っ張られて、溺れたら危なすぎる！
そうなる前に……殺されるぐらいやったら腕ぐらい！

「装剣！
やあぁぁ！」

木の実を捨て、剣を召喚
そして腕を切り落とそうとすると手を離されて逃げられた
今の内に逃げようとするともう１匹の河童が……

その河童は身を屈めて、相撲をするような格好をする
勝負……って事やろか？
相撲は初めてやけど、負ける気は無いで！

剣を送還して魔力で体を強化し、河童に突撃する
河童の力も強く、肩を掴まれて押し返される
せやけど、ウチも肩を掴んで押し返す。

鱗みたいな肌でぬめって気持ち悪い
普段やったら珍しいって思って笑ってられるんやろうけど
今のウチにそんな余裕は無い、今は生きるか死ぬかの瀬戸際や！

でも、力比べは現在互角
このままやと勝てへんから一瞬だけ力を抜く
バランスを崩した河童が前のめりになった瞬間、一気に押し返す
河童は完全に倒れ、ウチの勝ちや！

急いで木の実を拾い、逃げ出す
さっきとは違い、魔力で身体強化での逃げだしや
川の生き物の河童よりはずっと速いで！

……
……
……

はぁ、はぁ……逃げ切れたみたいや
やっと元の場所に戻れた……あ、危なかったぁ。

「遅かったな近衛」

「ひやあぁぁ！
って、堅守先生？」

「他に誰に見える？」

呆れたような顔をする堅守先生を見て
今更ながら本当の死の恐怖を思い出す
体が震えて……止まらへん。

「どうした？」

「さ、さっき河童に襲われてん
足を引っ張られて、川に引き摺りこまれそうになって……
死……死ぬかと思ってん……そう考えたら体が震えて止まらへん」

エヴァちゃんの時とは違う、本当の死の恐怖
体も丸ごと入ってるからあの時と違って本物の死や
そう考えたら怖くて……

「そうか、大丈夫か？

（河童……あぁ、脅かし専門の超下級妖怪か
あいつらは子供を見ると川で一緒に遊びたがる妖怪だからな
相撲とかして勝負事のようだが、本当に遊ぼうとしているだけだし
寧ろ子供が大好きだから殺そうとだなんて全く考えないんだが……
もしかして近衛、じゃれてきてるのを勘違いしたのか？
まぁ、河童は人語を話せないから仕方無いか、知らないんだし）」

堅守先生が頭を撫でてくれる
それだけでも安心感が出てくる
単純に思えるけど、本当に安心できるんや。

「うん、堅守先生が撫でてくれたから
もう大丈夫や」

「よし
また怖くなったら撫でてやるから安心しろ」

手が頭から離れて少し寂しいと想う
だけどまた撫でてくれるって分かったら頑張れる！

「それより近衛、頭が砂だらけなんだが……どうかしたか？」

「あ、それも気になってん
突然上から砂が落ちてきてな
ほんで気味悪くなったから走って逃げたんやけど
その先が川で……」

「（砂……砂撒き狸か
砂を掛けて方向感覚を狂わせる狸の妖怪、ただし逃げ足は速い
一説では砂かけ婆とも呼ばれているが、実際は狸の妖怪だったとか

まぁ、ただの悪戯でそれ以上の事は何もしない妖怪だけどな
今は良いとして、危険度を上げた魔獣を出したらそれだけでも危険か
それまでに退治できるといいな、近衛）」

アレは一体なんやったんやろか？
動物とかが砂を木の上で払ったとか？
よう分からへんなぁ。

「あれ？
そういえば河童って魔獣とかやなくて妖怪やんな？
なんで妖怪がここに居るん？」

「割と色んな生物が住んでいるからな
人間は居ないが、妖怪とかもそれなりに居るぞ
それより髪の砂を落としておけよ」

う……さすがにウチもちょっと嫌やな
頭に手を乗せてみると……うわ、砂だらけや！
まったく、あの砂は何やったんやろ！

「それより、木の実を取ってきたんだろ？
さっさと食おう」

「はーい」

堅守先生と木の実を分ける
同じぐらいに分けたんやけど
やっぱりまた１／４ぐらい返された。

「堅守先生……」

「大丈夫だ」

それだけ言って食べ始める堅守先生
多分、何を言っても無駄やと思う
仕方無く、自分も食べ始める。

「あむ……に、苦い」

「……んぐ、ゴホッ！」

堅守先生は頑張って食べてたけど、我慢できずに咳き込んだ
またハズレや……やっぱ味見とか必須みたいやな
この不味いんをずっと……ちょっと嫌や。

「さて、食い終わったのだが
食後すぐに運動しては体に悪いからな
暫く瞑想でもしてもらおうか」

「瞑想？」

瞑想って……瞑想やんな？

「座禅を組み、目を閉じて精神集中
目的は己の中に存在する力を自覚する事だ」

「己の中の力って……どういう意味なん？」

「簡単だ
自分の中の魔力の大きさを自覚してもらいたいだけだ

別に難しく考えなくても、何かを見つけられればいい
もし分からなくても、集中力を高める修行になるしな」

精神修行やろか？
よう分からんけど、自分の強さを知ればいいんやんな？

とりあえず座禅を組んで、目を閉じる
自分の中に入るように……そんなイメージをしてみる
でもこんな事してると少し眠く……

「はうあ！」

「寝るな」

いったぁ……頭をハリセンで叩かれた
って、どこからハリセンを？
まぁ堅守先生やし、何を持ってても不思議やないか。

とにかく集中……ふぁ……

「あいたぁ！」

……

……

……

叩かれる事数十回
瘤ができないのが不思議や……でも痛い

もうちょっと容赦してくれてもいいんやない？

「ほら、次は柔軟体操だ」

柔軟……苦手やねんけど？
でもせなな……

「ん……ん！」

「……硬いな」

ほっといてや！
ウチは運動が得意やないんやで！
戦いでは必死やったから関係無いと思うけど
それでも仕方無いやん！

「ったく……押すぞ」

「え？
ちょ、待ってって……あたたたたたたた！」

後ろから押さんとってーーー！
痛い痛い痛い痛い！
そんな押されると体が痛いーーーーー！

……

……

……

「ぜぇ……ぜぇ……」

「柔軟体操をしただけで大袈裟な……
これからマクダウェルの格闘訓練が有るんだぞ？」

そ、そんな事言われても
何回も押されて、上に乗られて、思いっきり体重を掛けられて……
でも、堅守先生ってそんなに重くないんやな
やっぱあんまり食べてないからやろか？
それともウチが無意識に魔力を纏っとるからやろか？

【（気のせいか、近衛木乃香から妙な色気が……
準備運動の柔軟とはいえ、奴に体を触れられていたからか？
もしそうだとしたらどれだけ好意を持っているんだ？
そしてそれを完全に無視する奴の感性はいったい……）
おい、まだ始めないのか？】

「悪いなマクダウェル
近衛が貧弱で」

【それを貴様が言うか？】

同感や、堅守先生に貧弱言われたない
ウチより体力無いんにそれは無いわ。

「気にするな
さて、近衛の体力が回復していないが構わん
無視してできるだけ厳しく頼む」

「えぇ！？
す、少しぐらい手加減を……」

【いいだろう
さぁ……良い鳴き声を私に聴かせるのだな】

あ、あはははは……お手柔らかに
って言えたらきっと更に厳しくなるんやろうなぁ
だから言わんと真面目にして……

【ほぅ？
やる気みたいだな、なら更に厳しくしてやろう】

心が折れそうや
誰か……助けて！

……
……
……

「あ、あ……ありが……と……ござ……まし……た」

【くくく、良い鳴き声だったぞ】

「まったくだ
さすがマクダウェル、鳴かすのが巧い」

さ、サディストや……
ここにサディストコンビが居る
ウチはマゾヒストやないんやから止めて
でも……その内、そんな体にされそうで怖いわ。

「ほら、近衛
さっさと昼飯を探しに行かないと時間が無くなるぞ
予定はまだまだ消化しきれていないんだ」

「す、少し、休ませ、くれても、いいんやない？」

「いいからさっさと行け
森のどこか適当な場所に放り込むぞ」

ひ、酷い……
さすがにそんな事されるんは嫌やったから強引に立つ
足がガタガタ震えるけど……根性や！

でもあかん、無理や
こうなったら……

「装剣」

杖の代わりに剣を突き刺して体を支える
こんな調子でまた河童に会ったら……あかん！
弱気になったら本当に危険や！

「ほな、行ってくるわ」

森の中を探索する
今度は川に近づかないようにせなな
しかも今は体が巧く動かん状態やし。

……

……

……

あかん、木の実が全然取れへん
もう少し低い場所に無いと無理や
他に何か……ん？

なんであんな所の豚が……
でもなんや耳が片方無いけどどういう事やろか？
って、突進してきた！？
今ぶつかったら完全に倒れてまう！

ウチは咄嗟に自分の正面に剣を突き立てて壁にする
だけどこの時、間違えて刃を豚の方に向けて……
そのまま突撃してきた豚が剣に当たり、体が真っ二つになった。

豚の体は分かれた直後、別方向に飛んでって
ウチの横を飛んで……落ちていった
ウチの体にはその豚の返り血が付いて……

今、ウチ……生き物を殺したん？
動物やけど、本当に殺して……違う！
ウチは襲われたから自分の身を守ろうとしただけや！
だから自分の意志やない！　ウチは殺そうとしたんやない！

「ウチは悪く無い……ウチは……」

後ろを見てみると豚がぴくぴくと動いて……止まった
完全に死んでしまったみたいや
もう……治癒魔法を使ってもどうにもできへん。

ウチは疲れている体に鞭を打ち
豚の足を掴んで引き摺る。

殺してもうたんはウチが悪い、ウチの責任や
埋葬してあげたいけど、そんな余裕はウチには無い
できる事は……この殺してしまった命を無駄にしない事
どうすればいいか分からず、とにかく混乱してる。

どうしようかと考えながら、豚の体を引き摺って堅守先生の居る場所まで引っ張る
海の近く、堅守先生がエヴァちゃんと話してて……
でもそんなん目に入らへん。

「堅守先生……」

「ん、戻ってきたか近衛……
その豚は？」

暫く何も言えずに黙ってしまう
だけど、何か言わんと……

「突撃してきて……身を守ろうとして
剣を立てたら、間違えて刃を向けてもうて
そのまま剣に当たって……そんで体が……」

「（片耳豚（かたきらうわ）……か
人間が股下を潜られると魂を吸われると言われている妖怪
実際は魂を吸われる訳ではなく、生命力を大きく吸われて瀕死になるだけだけどな
そして瀕死にならなくても、性器を損傷させられてしまう化け物

なるほど、近衛の股下を潜ろうとしたが剣を立てられた事に気付かずに突進し続けたのか
剣に直撃してそのまま真っ二つと……近衛は運が良かったな
こいつは動きが地味に俊敏だからな
もし構えて振り下ろそうとしていて失敗していたら瀕死か性器損傷だったぞ？）」

【ほぅ？
これはそこそこの妖怪ではないか
臭いは酷く臭いが……食用ぐらいにはできるか？】

「そうだな、妖怪とはいえ体は豚
食用とする事は可能だろうが……」

優しく抱きしめてくれる堅守先生
なんで……優しくしてくれるん？

「ウチ、返り血で……汚いから
それに……」

「気にするな、俺は気にしない
辛いんだったら泣け
暫く貸してやる」

「なんで……なん……
そんな事言われたら……泣いて……」

「誰も責めん
……マクダウェル」

【チッ】

エヴァちゃんはどっかに行ってもうた
何でかは分からへん
でも今はそんなん気にしてる余裕は……

「泣け、近衛
大声で泣いても、聞いているのは俺だけだ」

「う……ぁぁぁあああああ！
ウチ、殺すつもりなんて無かったんや！
でも気付いたら真っ二つになってて
頭真っ白になって、そんで、そんで！」

泣き喚く、大声で泣き叫ぶ
自分がした命を奪う行為から逃げたいが為だけに。

暫く時間が経ち、段々と落ち着いてくる
もう何回目やろうか？
堅守先生の前で泣いたんは……

「落ち着いたか？」

「……うん
ごめんな、何回も泣いて」

「謝る必要は無い、自分の言いたい事を全部はき出せるんだ
近衛の気が少しでも楽になるんだったら……いつでも貸してやる
（そもそも、そう仕向けたのは俺だしな
にしても、ようやく近衛も命を奪う行為をしたか……

だがこれでもまだ未完成だな
今回は偶然の産物、己の意志で殺さないと意味が薄い
まぁ、暫くは命を奪うという事は無理だろうがな
だが……後はお楽しみという事にしておくか
にしても、また近衛が俺への依存度を上げたな
今はどれぐらい依存しているんだ？
爺ぐらいなら無遠慮に攻撃できるぐらいはなっていると思うが……
それにしても……臭い台詞で背中が痒くなるな
我慢だ我慢、近衛が俺から逃げられないぐらい依存したらこんな事
をする必要は無くなるんだし
素を完全に出すのはそれからでも遅くない……今は我慢だ）」

堅守先生の優しさに甘えるだけ……ウチは何も返せてない
そういえばウチ、堅守先生に貰ってばっかりや
返せる物が何も無い……どないすればええんやろ？

「さて……近衛
これ、どうする？」

堅守先生の視線の先にはウチが殺した豚
凄く複雑な気分や。

「まぁ、近衛の気分も複雑だろうが
このまま埋めて埋葬するのも……
俺達が今している事は半サバイバル状態
そしてアレは妖怪とはいえ豚だ」

「……分かっとる
ウチはもう言い訳せいへん
あの豚を……食べる」

最初はそんな気せいへんかったけど
もう気持ちは固まった
ウチは逃げへん、自分のした事と向き合う
生き物を殺してしまったという事実と！

「……どうやって？」

「……あ」

料理するにも、調理道具が無かった
でも堅守先生は確か包丁とか持ってたやんな？
それで……包丁でどうにかできるんか？

「まぁ、最初だし俺が解体しよう
とりあえず火が必須だな……面倒だな
近衛、火符を使って火を出すか
それとも原始的な方法、つまり木と木を擦り合わせる方法をするか
どっちが良い？」

「火符を使うわ
ウチもさすがにそれは嫌やし」

という訳で火符を使って火を点す
ウチが魔力を込めている間は火が出っぱなしや
これなら大丈夫やろ。

「ふむ……火はどれぐらいで消える？」

「ウチが魔力を込めとる限りずっとや」

「ならそのまま維持しておけ
さて……焼くか
豚の毛と皮を焼いて削り落とす」

うわぁ……大変そうやなぁ。

……

……

……

つ、疲れた……
まさか皮削ぎだけで1時間近く掛かるとは思わんかったわ！
ずっと魔力を火符に送ってたから魔力が……とにかく疲れた！

「さて、次は解体だな
近衛、まだ暫く火は出したままにしておけよ
包丁を熱して切りやすくするからな」

「ま、まだ火を使うん！？
さすがに疲れてきたんやけど……」

「頑張れ」

そう言いながら火で包丁を熱する
ほんで豚の腹を切り、内臓を取り出していく
血が……でも、ウチが目を逸らしたらあかん
だって殺したんはウチなんやから……

凄い量の血が出てくる

内臓も見えるぐらい……めっちゃグロテスクや
白い……骨だって見える
怖い、怖いけど……逃げ出したいぐらい怖いけど！

「堅守先生は……平気なん？」

「動物の解体は初めてじゃない
言ったろ？　サバイバル経験者だと
殺した動物は1匹や2匹じゃない……魔物もな」

堅守先生が魔物を……どうやって？
めっちゃ気になるけど、あんまり聞きたい話やない気がする
なんか苛々しとるし。

そんな事を言いながらも堅守先生は手を止めない
首を落とし、頭を落とす
次に肋骨を肉から切り離し、背骨も剥がす
肩甲骨、前足後ろ足も外す。

最後に尻尾を切り捨てて残るは肉だけ
適当な大きさに切り、そこら辺に落ちてる岩に乗せる
少しぐらい砂は付くやろうけど、焼けば大丈夫やろ……多分。

それに、衛生面にそこまで注意できへんのが現実
ある程度砂を食べる覚悟をせなな……当たり前やけど。

「後はどうにかして保存して
それから焼いて食うって所かな？
しかし……着替えたいな
血とか臭いが……近衛、悪いが向こうを向いてくれないか？

着替えをしたいからな」

「へ？

……あ、はいな！」

言われた意味が分からず、一瞬惚けてもうたけど
理解するとすぐに逆方向を向く
危ない危ない……でも、ちょっと気になったり……

「よし、終わったぞ
俺はとりあえず服を洗うから後は適当にしておいてくれ」

気になって振り向こうか、葛藤した瞬間にはもう着替え終わってた
……
ざ、残念やなんて思って無いかんな！

そ、それはさておき
どうやって料理しよ……無理やんな？
有るんは包丁とまだ付けっぱなしの火符の火だけ
生臭い……塩とか有ればいいんやけど……塩？

近くに有るんは海……塩やんな
少し、海に浸けたら塩味が付くやろか？
物は試し、とりあえず2切れぐらい海に浸けておく。

次はウチと堅守先生の分、4切れを火符でとりあえず焼く
ムラができへんように注意して、焼いて……火加減が大変や
それでもなんとか中まで焼けたと思う。

「やっぱりそう簡単には落ちないか

どうだ近衛、どうなってる？」

「あ、おかえり堅守先生
今はとりあえずお肉焼いてるで
火加減が難しくて……大変や」

どれだけコンロとかフライパンが大事か、よう分かったわ
ほんまに現代って楽なんやなぁ
昔の人はどれだけ火加減に苦戦したんやろか？

「（鍋は持ってきているんだが……
まぁ、これはこれで近衛の修行になるか）」

火加減間違えたら焦げてまうし
むぅ……これは術のコントロールの修行になるわ
手加減は苦手やったし、上手くなるとええなぁ。

ん……と、よし、でけた！
正直に言うと、さっきの解体シーンでお肉は見たないぐらいやけど
それでもウチらが生きる為、我慢せなな。

「いただきます」

「いただきますや……
ほんまに、いただきます」

食べる……美味しい
我ながら火加減は上々や
でも、ウチが殺してんな。

「……いただきますという言葉だが
食材となった動物に対しての感謝の言葉であるというものだ
とある宗教の説だが、食材である植物や動物の命を絶ち調理し
それらの命を貰い、それを食べる人間が自分の命を維持し生存する
ことの感謝を表すこととしている
どこまでが事実かは不明らしいが、そういう側面も有る言葉だ
悪いと思うな……とは言えんが、感謝するように考えてはどうだ？」

こんな時でも堅守先生は優しい
厳しいん所は相変わらずやけど、優しい時は凄く優しい
相変わらず甘えてるウチやけど……いつか返せるといいなぁ。

「現在、貴重な肉だからな
あまり食い過ぎるのは拙い
日持ちするような物じゃないが……仕方無いな」

だからって食べずに放置もできへん
はぁ……今日は忘れられない日になりそうや。

……

……

……

符作成の時間……は、省略
そんで森の散策を命令された
２時間ぐらい歩いてこいって……
少しは休ませてくれてもよくないやろか？

それでも森に入り、散策してみる
動物も少し居たり、大きな虫が居たり

よく歩いてみると色んな生き物が居る。

今度は特に何も襲われずに2時間を歩き通した
めっちゃ疲れたけど、それでも色んな物が見れた
やっぱ……生きる為にあの動物も殺さなあかんねんな……

その後はまたエヴァちゃんとの格闘訓練
疲れている状態でも容赦の無いエヴァちゃんに体中が痛い……
で、そんなウチをニヤニヤと見ている堅守先生とエヴァちゃん
やっぱこの2人はサディストや！

夕食に食べる物を探しに行く時間
さっき歩き回った時に見つけた動物を捕まえに行く
目的は決めとらん、とにかく捕まえるだけや。

なーんて、考えとったんやけど
夜になったせいか、殆ど出てこうへん
帰ろうかと思った時、チチチチチチって音が……

これは本当に音やろか？
どっちかと言えば鳴き声……でもなんの？
また気味の悪い……ちょっと急いだ方がええやろか？

予定変更、引き返して木の実を探す！
そう思って掛けだした時、木の根に足を引っかけてもうた
倒れた時、チチチって音が近づいてきた！？

慌てて後ろを振り返ってみると、１ｍぐらいの雀みたいな鳥！？
って、足の爪がめっちゃ鋭い！
あんなんに襲われたら大怪我や！

「装剣！
やあぁぁ！」

倒れた状態から剣を振り上げるけど、上昇されて避けられる
さすがにウチはまだ飛行魔法は無理や……
でも、上空の相手に攻撃する手段は有るんやで！

体をある程度起こし、片足を付いたままいつでも動けるような体勢にする
さぁ来るんや
もう少し……残り距離は５ｍぐらいになった今や！

「火符よ、鳥を焼き尽くせ！」

火符から火が出てきて、鳥を燃やす
でも鳥はあまり怯まんまま突撃してくる
せやけど……その動きは遅すぎるで！

「悪い思うけど……ウチも死にとうないねん！
せやぁあああ！」

鳥の羽を切り落とす
鳥は叫び声を上げながら落ちてく……
でもウチは容赦できへんねん、ごめんな？

鳥の頭を剣で突き刺し、絶命させる
命を奪う事に戸惑いも、拒否感も有る
でも……ウチはまだまだ死ぬわけにはいかへんのや
襲ってくるなら悪いけど、殺してでもウチは生きる。

鳥を掴み、運ぶ
堅守先生は最初やから言うて豚は解体してくれた
という事はもう解体してくれへんって事や
この鳥は……ウチ自身で解体する。

……

……

……

「ほう？
あの直後にもう殺す事ができるとは……さすがに驚いたぞ
辛かったかもしれんが、よくやったぞ近衛」

堅守先生が褒めてくれた
これだけでもウチは満足や。

「（しかし……倒れたら襲ってきたねぇ？
という事はこいつは送り雀か？
夜、１人で山道を歩いているとチチチチチチという鳴き声が聞こえる
振り返ったり転けたりしたら、本来なら狼や送り狼に襲われるはず
なんだが……
今はまだその辺りを呼び出していないが……何故この鳥は近衛を襲
ったんだ？
狼とかが居なかったから己が送り狼の代わりをしたのか……謎だ
夜道の恐怖心を煽る為に呼び出したんだが、変な作用をしたらしいな
まさかこいつ自身が襲いかかるとは思わなかった
しかし、今となっては関係無い、精々俺達の食事となって死んでい
てくれ）」

頑張って解体を始める
返り血が気持ち悪い、切り裂いている感触がおぞましい
それでも……ウチは、ウチは！

「（おやおや、頑張るねぇ
一体何を考えてそんなに必死になっている事やら
多分、自分が殺したからその責任って所かな？
罪悪感も相当だろうな……良い感じだ
しかも今回は完全に自分の意志で殺した
なかなか良い傾向だ、壊れていないみたいだし
いや、既に壊れているのかな？　本人が気付いていないだけで
何にせよ、俺からすれば好都合でしか無い
頑張って俺の期待に応えてくれよ？）」

ウチは死にたくない！
そして強くなりたい！
自由になりたい！

その為に堅守先生と一緒に居るんや！
未来の為、自分の為、生きる為
ウチは……何からも逃げ出さへん！

「（鬼気迫るという感じだな
これはある程度フォローしないと壊れるか？
注意しておかないとな）」

鳥を解体し終わり、お肉は岩に並べた
後はまた焼いたりして食べるだけ
それにしても、体は大きくてもやっぱり雀やね
骨ばっかりで食べられそうな所なんて殆ど無かったわ。

……

……

……

魔法の訓練の時間
今はエヴァちゃんに色々と教えてもらってる
飛行魔法はまだ当分は教えたら駄目って
そう堅守先生に言われてるから残念や。

【そういえば近衛木乃香
貴様はどういう方向に進みたいんだ?】

「どういう方向ってどういう意味なん?」

【そういえば説明していなかったか
戦闘スタイルには様々な種類が有る、魔法使いだろうと剣士だろうとな
前衛に戦闘を任せ、自分は後衛から強力な魔法を放つ魔法使いタイプ
自身が前衛に行き、身体能力や速攻で敵と戦う剣士タイプ
己を中衛に置き、前衛後衛のどちらもできるようにする万能タイプ
人形や鬼などを前衛に置き、自分はそれらを操り戦う召喚傀儡タイプ
後衛に身を置き、味方に指示を出したりサポートをする司令塔タイプ
縦横無尽に戦場を駆け巡り、戦いを支配する短期制圧タイプ
他にも様々な戦闘スタイルが存在している】

……それでも多いのにまだまだ有るん?

【貴様の才能、魔力、使用魔法
それらを考えればほぼ何でもできるだろう

最終的に完成した場合、これらの住み分けの必要は無くなるがな
しかし、ある程度方向性を決めておけば色々と楽になれる
例えば貴様が魔法使いタイプを選択し、成長したとしよう
となれば誰か前衛が必要となる
前衛を手に入れる、または育てるのも1つの手段だがな
必要な人材が前衛と、楽に決められて人材を捜すとなっても楽となるだろう
逆に剣士タイプを選択した場合、味方は後衛が必要となる
同じように必要な人材を捜すのが楽になる
最終的に全てができるようになったとしても
どこのポジションに入れるというのはとても強力だ
それでも、自分の得意分野を決めておいて損は無いがな】

さ、さすがエヴァちゃんや
６００年生きとる……んかな？
人造霊やから何十年から何百年ぐらいやと思うけど
それでも長生きしてる吸血鬼だけの事はあるわ。

「堅守先生は……ウチはどれが良いと思う？」

「愚問だな」

愚問って……

「近衛、それはお前自身が決める事だ
俺が口を挟んでいい問題じゃない、分かるな？」

ヒントもくれへんなんて……厳しさは相変わらずやさて……ウチはどないすればいいんやろか？

魔法は使える、後衛は可能
剣が使える、前衛は可能
身体強化ができる、前衛は可能
召喚は今後していくって堅守先生が言ってたから……後衛は可能
ウチにできる事って多すぎるんやないやろか？

こうなると悩むわ……どないしよ？
やっぱ1つに決めた方がええんやろか？

「はぁ……近衛は頭が固いな」

「へ？
頭が固いってどういう意味なん？」

別に頭はそんなに固くないはずやけど……

「欲張ればいいじゃないか
元々、何でもかんでも手を出しているんだ
だったら全部の修行をすればいいだろう？
何せ、元々そうしているんだし」

……あ、それもそうやな
ウチ、魔法も格闘術も剣も陰陽術も召喚も
何でもかんでも手出ししてるんやった
だったら全部すればええんや！

【おいおい……そんな事をしたら時間が足りないぞ】

「ここが有るのにか？　それに、そこら辺は問題無いだろ
近衛は早死にしてでも強くなりたいと言ったんだし

強くなりたいんだろ？」

「せや！」

「とまぁ、本人がやる気なんだ
遠慮せずに全部突っ込んで詰め込んでやれ
それが近衛の為になるんだからな」

ウチの頭を撫でてくれる堅守先生
はぁ……暖かいなぁ。

「エヴァちゃん、そういう訳や
ウチは全部、何でもするで！」

【……どうなっても知らんぞ】

……

……

……

その後、ウチが自分の発言を後悔した事は言うまでも無い
スパルタ？　いいえ、イジメです
心からそう思うぐらい酷かったわ……

ちなみに堅守先生も何気に酷い
ウチが苦労している間、いつの間にか木の実を手に入れて食べてる
んやもん
しかも美味しそうに……どこで手に入れたん？

「マクダウェル、そろそろ時間だ

今日はこれで終了、近衛を休ませる」

【なんだ、もう終わりか？
私としてはもう少ししたかったのだが……まぁいいだろう
確かにそろそろ休まないと明日が辛いか】

そう言ってエヴァちゃんはどこかに飛んでった
残ったんはウチと堅守先生
そういえば昨日言ってたする事ってもう終わりやんな？
後は自由時間だったはずやけど。

「もう休んでいいん？
眠いから寝たいんやけど」

「好きにしろ
俺も寝床を探して寝るかな」

ウチから離れていく堅守先生
……はぁ。

「……おい、近衛」

「はい？」

「（無意識か？）
その服を掴んでいる手を放せ
行けないだろうが」

あ、気付かんかった……
放さなあかんのやけど、放したない

どないしよ？

「（……これは逆に好都合かな？
巧くすれば更に……なら動くべきだな）
近衛、寂しいのか？」

さみ……しい？
言われてみたらシックリきた
でもなんで寂しい想ったんやろ？
昨日は1人やったし、2ヶ月半も巻物で過ごしたなのになんで……分からへん。

「寂しいん……やと想う
でも、なんでそう想うか分からへんねん
昨日は1人で寝たからもっと寂しいはずやし」

「予想はできるが……
断言はできんが、命を奪ったからだろ
罪悪感から孤独感を感じているんじゃないか？」

そうなんやろか？
自覚できへんねんけど……

「はぁ……仕方無いな
それで近衛、どこで寝る？」

「どこでって……そうやなぁ
適当な木の傍で寝よう思ってるんやけど」

突然話題を変えられて混乱したけど

元々考えてた事を話す。

「ならさっさとその木を見つけろ
俺は早く寝たいんだ」

なんで堅守先生が……
そんな疑問は有るけど、とりあえず寝る為の木を探す
昨日寝た場所を見つけて、そこで寝る事にした。

「ウチはここで寝よう思ってるんやけど……」

堅守先生は毛布を出し、木の傍に座る
……なんで座ってるん？

「なんだ近衛、寝ないのか？
寂しいんだったら俺がすぐ傍に居てやる
だから安心して寝ろ、俺もすぐに寝るつもりだし」

「えぇぇぇえ！？
それって一緒に寝るって事なん！？」

さすがにそれは恥ずかしいんやけど！

「なら1人で寝るか？
俺はそれでも構わんが……」

そう言われたら凄く悲しく感じた
寂しい……そう、寂しいんや。

「嫌や！

ウチ、堅守先生と一緒に寝たい！」

「（……マクダウェルに聞かれていなくてよかった
告白なんてものじゃないだろ、今のは
聞きようによっては身も心も許しますって言ってるようなものだし
……ここまで懐かれるとこれからする事の気が引けてしまうな
まぁ、止める気は無いが情けから手加減しないように注意しないとな）」

無言で頭を撫でてくれる堅守先生
寂しく感じた心にそんな気持ちは無くなって
ただただ嬉しさと暖かさで溢れてくる。

あぁ……ウチ、これだけでも一晩を乗り切れそうや
もしこれで一緒に寝たら……どんだけの安心感が得られるんやろう？

堅守先生の毛布に入って抱きつく
それだけで怖さなんて何も無い
ウチが……最も安心できる場所や。

「ん、おやすみ近衛」

「うん……おやすみなさい」

抱きついたまま眠りに落ちる
命を奪ったからきっと怖い夢を観るって思ってたけど
ここでならそんなん、全く怖く無さそうや。

3日目

ん……ふぁ……んう
怖い夢やったけど、全然怖く感じんかった
やっぱ堅守先生に抱きついて寝たんが良かったんかな？

肝心の堅守先生は……居らん
それだけで凄く寂しく想う。

「お、起きたのか近衛
体感時間的に、もう１０時だぞ」

「あ……おはよう、堅守先生」

堅守先生の姿が見えた
それだけで凄く安心できた……凄いなぁ
なんで安心できるんやろう？

「ほら、今日も忙しいぞ
あんまり待たせるとマクダウェルが怒るしな」

そう言ってさっさと離れてく堅守先生
ウチは慌てて立ち上がり、その背中を追いかける
置いてかれるんは嫌や！

……
……
……

基本的にした事は昨日と同じやから省略
でも、今日は何も殺してないし襲われてないわ
お肉やって昨日の残りが有ったし、木の実で今日を過ごした。

そんで寝る時間……堅守先生は一緒に寝てくれへんかった
なんかする事が有るとか……なんやろう？
教えてくれへんかったからちょっと残念や。

昨日の暖かさを思い出しながら寝る事にした
本当に暖まるわけやないけど、ただ寝るよりマシや。

5日目

さすがにもうお肉は無理になった
まだ残ってるけど、残念や。

という訳で新しいお肉を探しに森深くまで入って来たんやけど
まさかこないな生き物が居るとは……

【なんじゃ、童（わらべ）か
何故こんな場所に居る？】

木の上に座ってる存在
赤い顔、長い鼻、背中の翼……天狗や
ウチでも知ってる、割と有名な妖怪
これも……堅守先生の言ってた魔獣の1体？

「ウチは食べ物を探しとるだけや
別に天狗さんに何かしようしてる訳やない」

でも、襲ってくるんやったら話は別や
必要なら反撃だってする！

【カッカカカ
元気の良い童だ
どれ……】

座っていた枝から立つ天狗
ゆらぁっとした動きから突然目の前に出てきた！？
は、速すぎる！

「がふぁ！」

お腹……殴られた
凄く痛いとは言わへんけど……結構効いたで
魔力で体を強化する余裕が無かったから素で受けてもうた
これは……ちょっと拙い！

「そ、装剣！」

【クカカカカ
童よ、その程度の力で我と戦おうというのか？
丁度良い、少々暇していた所だ
来るが良い、遊んでくれよう】

今のウチでは勝てへんと思う
魔法が使えたらとは思うけど……禁止されとるし

そもそも、あんな速度で動かれたら詠唱時間なんて無い！
だからウチができるんは魔力での身体強化のみ！
後は隙ができた時に符術を使うだけや！

また凄い速さで移動する天狗
でももう油断はせいへん！
少しやけど、見えてるで！

「そこや！」

方向転換の為に少し動きが遅くなった瞬間に斬りかかる
でも……

【遅い】

「あがぁ！」

そんなに……甘くなかった！
背中を蹴られた、威力も高い
魔力で防御力を上げてるとはいえ、妖怪の蹴りや
少し飛ばされて地面を転がってしまう。

【筋は良いようだが……まだまだ修練が足らんな
我とてまだまだ天狗の中でも小僧
その我の速度も見切れんとは……見込み違いだったか？
興が醒めた、さっさと消えるが良い】

それだけ言って森に消える天狗
すぐに見えなくなり、今は何の音もしない。

……エヴァちゃんに修行してもらって
体も動くようになって……ウチは馬鹿や
少しでも強くなったなんて勘違いして……
そんで……興醒めされて見逃された！

悔しい、悔しい！
相手にされなかったんが凄く悔しい！
少し待っててや天狗さん
絶対に強うなって見返したる！

8日目

今日は動物を殺した……食べる為に
魚はまだ捕まえられる技術が無いから無理やけど
食べれそうな適当な草も取る。

今では少し意識するだけで火符を使えるようになった
毎日調理の為に維持させてたせいか、火符の扱いは楽になった
逆に金符は殆ど使わへんからちょい苦手や。

獣を捌き、食べられるぐらいにして調理して食べる
これで殺すんは3回目やけど……慣れへんなぁ
はぁ、やっぱ落ち込みそうや。

暗い気分で寝ようとした時
堅守先生が来てくれた。

「近衛、また一緒に寝るか？」

「え……ええの？」

「駄目だったら誘わないだろ」

そう言ってウチの近くまで来てくれる
こうなったらウチの行動は決まっとる
抱きついて、少しでも堅守先生と一緒に居る事や。

「……おやすみ近衛」

「おやすみ……なさい」

また安心して寝れる
嫌な夢はきっと……

12日目

「天狗さーん！
天狗さーーーん！」

前に天狗さんに倒されてから6日
たったそれだけで勝てるなんて思わへん
でも、腕試しさせてもらう！

【童、我に何か用か？】

少しの音と共に近くの木の上に立ってる天狗さん
風を起こして僅かに目が見えなくなった瞬間に出てきた？
演出上手やなぁ……

「ウチと手合わせしてくれへん？」

【手合わせ？
少しは修練を積んだようだが、我には勝てん
我とて修練を積んでいるのだ】

む、でもそっちは1人でやん
ウチはエヴァちゃんに鍛えてもろうてるんやで？
そっちより成長が早いんは当たり前や！

「ウチだって勝てる自信は無い
せやけど、やってみな分からへんで！
装剣！」

剣を取り出し、構える
天狗さんはやれやれという態度を取ったけど
すぐに動き、ウチの目の前に来た
でも、その動きは今度こそ本当に見えとるで！

【ぬ……】

「あはは……どや？
前回は防げんかったけど、今回は防いだで？」

剣の腹を盾にして天狗さんの拳を止める

エヴァちゃんに高速戦闘の知識と技術を教えてもろたからな
これぐらいできな……お仕置きされてまう！

「木符よ、天狗さんを捕まえい！」

【むぉ！】

木符から木の根が飛び出てくる
木の根は天狗さんを押し出し、近くの木に押さえつける
いくら速さが自慢でも、これなら動けへんやろ！

【ぬうぅぅ……まさか陰陽師だったとは
平安の時代を思い出す……が！
ぬううううぅぁあああああ！】

「嘘やぁ！？
力尽くで木符の木を引き千切るやなんて！」

両手で木の根を掴んで外側に引っ張って
いくら木符の木やとはいえ、それは酷いやろ！
急いだから構成は甘いかもしれへんけど
ウチの魔力がかなり込められてるんやで！

【はぁ、はぁ……確かになかなか強力な根だった
しかし、我ら化け物を嘗めるなよ？】

あの天狗が本気になったら……死ぬ！
それでも、ウチはまだまだ死なん！
少しでも体が動くんやったら足掻くで！

【だが、クッ……クカカカ
この短時間でその成長はなかなか、末恐ろしい童じゃ
童、この勝負は預けようではないか】

「預ける？
なんでそんな事を？」

何を考えてるんやろ？
もしかして罠？

【そう警戒せんでもよい
童の成長が楽しみになった、ただの気紛れよ
そうじゃな……3日後のこの時間
この場所で改めて戦おうではないか
もし我を倒せれば天狗の道具をくれてやろうぞ？】

天狗の道具……気になる
妖怪の道具ってめっちゃ気になる！
占い研究部部長としても、オカルト道具に興味が！
あかん、この勝負を断るんは無理や！

「ええで、受けるわ
絶対にウチが勝つで！」

【カッカカカカカカカ
元気の良い童はやはり良い！
では3日後、楽しみにしておるぞ！】

どっかに飛んでく天狗さん
よっしゃ、今から猛特訓や！

エヴァちゃんに扱いてもらわなあかん！
例え疲れても、こればっかは負けられへん！

15日目

修行風景は省略
具体的に説明したら……泣くで？
当然やけどウチが。

そんで天狗さんとの約束の場所
既に天狗さんは待っとった。

【来たか、童よ】

「来たで、天狗さん」

睨み合い
ウチは既に装剣を済ましとる
話す事は無い……勝負や！

消える天狗さん、だけどそれは風の目眩まし
そしてその隙に移動するだけや！
もうその高速移動擬きのタネは割れてるんやで！

「そこや！」

【甘いわぁ！】

横薙ぎに剣を振るけど、避けられる
天狗さんの避けた場所は下……
ウチの体は剣を振ったから泳いどる状態
こんな体勢で殴られたら防ぐ手段は無い！

【むぅん！】

「急急如律令
土符よ、壁となりて我を守れ！」

足を思いっきり踏み、靴に仕込んだ土符を使う
土を盛り上げ、壁として天狗さんの拳を止める
でも所詮は土、簡単に貫かれたけど……
壁の先の、ウチの体までは勢いが届かんかったみたやな！

「火符よ、燃やせ！」

【がぁぁあああ！！！】

単純な命令、それでも効果は十分！
土の壁から突き出た腕に向かって燃やし
その腕を伝って全身を燃やし尽くす！
殺すつもりは無いけど、それでも大火傷は必至やで！

【ぐむぅぅぅ……よもやここまでとは
男子、三日会わずば刮目して見よという言葉は有るが……
おなごがここまでとは予想できんかった】

「ウチやって遊んでたんやないで

符術の高速化、身体能力の強化
これでも頑張ってんで」

エヴァちゃんの修行は軽くトラウマや
でも、それだけの価値は有ったで！

【まだ我は負けたわけではないが……見事！
我を見る事さえ叶わなかった童が
僅か１０日で我を打倒する……これを見事と言わずになんと言う！
今回は我の負けにしておいてやろう、再び相まみえる事を楽しみにしておるぞ！】

それだけ言って天狗さんは去って行った
……なんか、認められたみたいで嬉しいわぁ。

でも……天狗の道具は？
ウチ、勝ったんやなかったん？
もしかして忘れられているとか？
そんなぁー……そんなん無いわぁ！

「（へぇ……下級の天狗とはいえ、１０日で勝つか
他の修行を放ってまで術と体を鍛えたとはいえ……やるな
しかしどうするかな……あの程度の妖怪とやっと互角
思っていたより弱い、さすがに魔獣強化は見送りかな？
それとも、命の危険性は有るが能力が低い奴にするか……悩むな
まぁ、今回の２０日の間は許してやろう
精々、死の危険性の薄い場所で頑張るんだな）」

ウチの天狗道具ー
次会ったら絶対に貰ったるからなー！

覚悟しときやー！

２０日目

最終日の朝……暖かいなぁ
堅守先生の体……暖かいなぁ
……なんて妄想したけど、もうもぬけの殻やねんねな。

堅守先生が一緒に寝てくれた条件
それはウチが命を奪った日の夜だけ
確認の為に殺してもうた狸さん、ごめんな？

「さて、これでサバイバルも終わりだ
ここから出たら学校、次は３０日の１人でサバイバルだ」

「はい！」

大丈夫や、今まで頑張れたんやから
３０日だけ、１ヶ月だけ頑張ればいいんやしな！

「近衛は確実に強くなった
で……あの魔法は完全に使えるようになったんだろうな？」

「大丈夫や、問題無いで
エヴァちゃんからもお墨付き貰ろたし」

本体にはバレる言われたけど

それでも多分大丈夫やろ
だって本体エヴァちゃん、ウチに興味無さそうやし。

「なら出るか
（次に来た時は……悪夢を見るだろうがな）」

ウチらはダイオラマ魔法球から出て別荘に出る
そんでダイオラマ魔法球を片付けて、別荘から出る
別荘から出る時、堅守先生が相変わらずやったんはご愛敬や。

うーん……疲れたぁ！
暫くぶりの学校や、楽しんどかなな！
そんで休まなな……疲れたし。

12話【サバイバル生活の20日間】（後書き）

1日目って前回の続き？
そうです、前話の続きで同じ日になります。

瑞貴って食べなくても大丈夫なの？
問題ありません、色々な意味で。

食事をしない云々って？
昔、そんな話を聞いた事が有ったりします
なお、本当に実在しているそうです。

鮫みたいな魚って何？
完全オリジナル生物、特に意味はありません
何故なら今後、登場する予定は無いからです。

河童って……
色々と資料を探したんですが、危険性の低い魔獣は殆ど居ないのでなので今回は妖怪を多数登場させました
そして河童ですが、両腕が繋がっているらしくて片腕を伸ばすと逆が縮みます
相撲は河童といえば有名ですね？
瑞貴の言っている子供好きはオリジナル設定です
本来の河童は人を川に引きずり込み、溺れさせるような事をするそうです
……某作品の河童は人間の盟友らしいですがね、実際はどこまで本当か謎です。

砂撒き狸って？

マイナー妖怪ですね
詳しい事はそのまま瑞貴の解説通りです。

瞑想させる意味って有るの？
今後の為に色々と……

木乃香の体って硬いの？
不明、イメージです。

片耳豚って？
瑞貴の解説通り……に近いですが更に凶悪です
この作品では生命力を吸って瀕死にさせるとしましたが
本来は本当に魂を吸い、殺してしまうそうです
辛うじて生き残っても、性器を損傷させて腑抜けにさせるそうです
更に兎のように飛び跳ね、俊敏な動きができるとか……

瑞貴が……優しくしている！？
仕込みです
何のかは秘密。

瑞貴が動物や魔物を殺した？
遊戯王世界にて、しかし未登場設定
本当にする予定なんですけどね……まだ出ません。

そういえば海に浸けた肉はどうしたの？
波に流されて行方不明です
海の妖怪や魔獣に食われたでしょう。

符の呪文（？）がなんだかなぁ……
作者のセンスの無さは異常

でも、言霊って大事なんですよ？
言霊は言葉に宿る力、言葉にする事で力になります
なので言った通りに事を起こす……という言い訳
簡単に言えば、言葉の力を実行させる力を出すみたいな感じ？

送り雀って？
基本的に瑞貴の言う通りです
なお、本来は鳴き声の後に妖怪や送り狼が現れるそうです
もし転倒するとそれらに襲われるとか
ちなみに送り狼とは
夜の山道などを歩いている時、後ろを付いて歩く狼の事です
もし転倒した場合、送り狼に食い殺されます
そして送り狼も妖怪の一種だとか……

何故送り雀が木乃香を襲ったの？
見られたからには抹殺……では無いと思います
何故と言われたら……何ででしょうか？

戦闘スタイルが多すぎる！
漫画7巻60話でのエヴァンジェリンの話ですが
彼女はこう言っています
「修学旅行での戦いからお前の進むべき道は2つ考えられる」
という事は、これはネギだけの話であり、木乃香には当て嵌まりません
そして木乃香は初心者であり、どんな方向へも進められます
なので選択肢を馬鹿みたいに増やしてみました
何を選び、どうなるかは未定……本当に全部のいいとこ取りをしそうですが
……まぁ、ある程度絞るつもりですけど
多分、今回の話から考えると魔法剣士、短気制圧のような形でしょ

うか？

瑞貴よ、どこから美味そうな木の実を見つけた！
さぁ？　どこでしょうか？

何故態々一緒に寝てあげたりしたの？
木乃香の恐怖感を少しでも和らげる為です
まぁ……何か怪しい事を考えているみたいですが。

何故に天狗？
理性が有り、戦闘力は高いけどあまり殺人をしない
本能だけで行動せず、身体能力が高いなど
様々な理由から選択しました
……まぁ、他の妖怪の危険度が高すぎるのが問題なんですがね。

天狗、また出るの？
未定、現在はその予定はありません。

天狗戦後の瑞貴は？
孤独な黒子を使っています
天狗との決闘は知っていましたので
どれぐらい木乃香が戦えるのか確認の意味でも見学していました。

あの魔法って何？
後々。

ツイッター、もう作業用ＢＧＭのＵＲＬばっかり
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
ついでにそれの感想かな？

１３話【式神の利用方法】（前書き）

最近、前書きで自重し過ぎなかった
なので前書きを自重します。

自重しなかった理由は開いたらすぐに本文が見えるのが嫌だっただけですしね
という訳で毎回色々と言っていましたが、いい加減に自重しようと思ったので止めます。

次回は少し遅くなると思います
２週間以内には更新しようとは思いますが……

13話【式神の利用方法】

視点　瑞貴

「じゃあまた学校でなー！」

「あぁ、気をつけて行けよ」

近衛は俺の部屋から出て行く

……ちゃんとあの魔法は使えよ？

さて、朝飯にするかと考えていたんだが

気のせいか視線を……感じる？

更にこの視線の感じは……

だが、俺の部屋は外から見えない状況になっている

窓も閉め、カーテンも閉められている

中からも当然だが、外から見えるはずが無い。

となると透視の術とかを使われている？

だがこの感覚は直接的に感じる

しかし……どこから？

なんとなく感じる視線がどうしても気になる

……そして、突然振り返ってやった。

【……あ】

「……桜咲？
の、人形？」

壁際にちんまりと立つ……人形？
何故人形？　いや、どちらかと言えば子人のような……
こいつ、まさか式神か？

「……近衛の忘れ物か？
確か桜咲と知り合いだとかいう話は有ったが……」

【（ば、ばれてない？
ばれてませんよね？）】

ふん、なるほどな
さっき近衛が部屋を出る為にドアを開けた
その瞬間に入って来たのか。

近衛め、気付かないとは何事だ？
サバイバル訓練、難易度増加決定
感覚をもっと鋭くしろ。

この式神桜咲に対しては暫くは馬鹿を演じてやるか
だが、さて……どう扱うべきかな？

問題はこいつが自立型か、それとも本体と繋がっているかだが
高確率で自立型だろうな
桜咲が近衛の護衛を止めてまで俺を監視するとは思えない
後で回収して記録を確認したりする……かな？

だが、そうはさせん

大人を……特に俺みたいな思考力の高い奴を敵に回すとは愚の骨頂
馬鹿を演じてやるものの、動きは止めさせてもらうぞ。

「ふむ、よくできてるな
しかし、どうやって立っていたんだ？
桜咲に似ているが、売っているのか？
非売品だとして、誰が作った？
近衛の手作り……と、考えるのが自然な気もするが」

【（お、お嬢様が私の人形の手作りを……
あ、なんか嬉しいです！）】

文字通り手のひらサイズの式神
持ち上げ、色々と態々口にして疑問を発する
その度に式神の顔が僅かに動いているが……
もしかしてばれていないとでも思っているのか？

「しかし、なかなか可愛い出来じゃないか
桜咲も、もう少し表情を柔らかくしれば可愛いのに……惜しい奴だ
普段も凛々しく、美人だとは思うが」

【（そ、そんなぁ
そんなに褒められたら照れちゃいますよぉ
……は！　でもこの人はお嬢様を誑かす敵でした！
でも、やっぱり嬉しいですぅ）】

……凄まじくにやけてるな、式神
お前、もう少し顔に出さない努力をしてみたらどうだ？
今にも声を出しそうなぐらいの笑みだぞ。

さて、嫌がらせタイムにでも入るか
やっぱり苛めるならこういう女の子だよな
特に小さい女の子とか……なぁ？

「そういえば……服は体と一体化してないんだな
もしかして脱がせられるのか？」

【！？】

そんなに怯えた顔をするなよ
もっと苛めたくなるじゃないか
というか、まだばれてないと思っているのか？

「冗談はさておき
本当によくできた人形だな」

【（よかった、冗談ですか
さすがに脱がせられるのはちょっと……）】

だから、顔に出ているって
あからさまにホッとした顔になるなよ
また怯えた顔にさせたくなるじゃないか。

「うーん……抱いてみるかな
大きさ的にも悪くないし
人形は抱きしめたら……なんだか落ち着くよなぁ」

抱き枕が欲しいなぁ……気分が落ち着くし
桜咲というのが気に入らないがな。

だが、どうやらこの式神は自立型のようだ
ここまでされて動かない桜咲じゃないはず
いや、脱がすと言われた時点で襲いかかってきそうだし
式神と本体の性格は違うようだ。

と、いう訳で抱きしめてみる
式神が凄まじく慌ててるのがよく分かる。

【あ、あわ、あわわわ……】

「ん？
今、声が聞こえたような……」

【んむ！】

おい、自分で自分の口を塞いでどうする
こいつ、どこまでお馬鹿なんだ？
なんというか……お馬鹿はお馬鹿なりに可愛いという感じだな
アホは嫌いだが馬鹿は嫌いじゃないし。

少し話しが反れるが、馬鹿とアホは違うと思っている
色んな意味で意見が分かれると思うが……
更に言うと馬鹿とアホとお馬鹿は全部違う。

例えるなら神楽坂
頭は悪いがそれなりに考えられる事ができる
馬鹿だが、アホではない
付き合いは短いが、何も考えないアホじゃない。

例えるなら早乙女

頭は良いがよく考えずに気分で行動する
その結果、自分が不利になろうとも気にしない
これは馬鹿じゃないがアホだ、だから嫌いだ。

ちゃんと自分で考え、自分で行動できる奴の評価は高いぞ
そういう意味でも、近衛はなかなか悪くないがな
頭も良いし、自分で考えられる
俺に依存はさせているが、何も考えられないアホにはしていない。

まぁ、馬鹿とアホの違いは……そうだな
良い意味での馬鹿と悪い意味での馬鹿かな？
当然、良い意味での馬鹿は神楽坂であり
悪い意味での馬鹿は早乙女だ。

だが、こいつはお馬鹿だ
お馬鹿と馬鹿は違う
お馬鹿は頭（おつむ）が足りない、子供という意味での馬鹿だ
なんというか……保護欲が出てくるという意味でのお馬鹿。

さて、お遊びもここまでにしておくか
俺までアホと思われるのは心外だしな。

俺に知られたのは自業自得だぞ桜咲
この場合、俺に八つ当たりをされても困るが
記憶は……消されないといいなぁ。

「自分の口を自分で塞ぐ人形が有るか
おい人形、お前は何だ？」

【は！　ば、ばれてしまっては仕方有りませんね

申し訳ありませんが逃げさせていただきます！】

「……すっとぼければ良かったんじゃないか？
怪しいとは思っていたが、確信は無かったんだし」

【はぅあ！】

駄目だ……お馬鹿を相手にするのが楽し過ぎる
こういう奴を苛めるのって最高！

「それに、俺に抱かれている状態でどうやって逃げるんだ？」

【う……は、放してください！】

「だが断る
寧ろ更に抱きしめてやろう
ついでに頭も撫でてやる」

【はうはうはうはうぅ～】

ははは、可愛い奴め……見た目が桜咲じゃなければなったく、今度近衛に式神を作らせるか
そして同じように……いや、それは拙いか？

近衛は俺に依存しているし
もし近衛より式神を可愛がったら……泣く？
いや、強引に式神を消したりするか？
うーん……嫉妬を煽るつもりは無いからなぁ。

【あうぅ……】

「お、諦めたか？」

【私はあまり力が無いんですよぉ
頭も悪いですし……】

いや、元々成績も悪いだろうが、お前は
もしかして頭が良いつもりだったのか？
俺に捕まるような間抜けを送ってくる時点で戦闘の頭も悪そうだが
……俺を襲った時点で既に相当悪いか。

「それで、何故俺の部屋に居るんだ？
というか、そもそもお前は何だ？
そして何故桜咲の見た目をしている
どうやって動いているのかも気になるし
性格も違う……気になる事が多すぎる」

【そ、そんなに沢山訊かれてもぉ……】

む、本当に頭が弱いみたいだな
子供というか……本体も中学生だから子供か
思考力は多分、小学生並？

「なら順番に訊こうか
お前、名前は？」

【はい、ちびせつなとお呼びください！】

なんて素直な……本当に本体は桜咲なのか？
誰かが偽装しているんじゃないだろうな？

例えるなら……宮崎とか？
和泉、大河内、村上辺りも素直そうだが。

「ではちびせつな
せつなという事は……桜咲刹那と何か関係が有るのか？
見た目からしても、どう考えても関係しているだろうが」

【えっと……どう説明したらいいんでしょう？
（まぁ、後で記憶処置をすればいいですか）
とりあえず、私は式神という存在でして
本体は堅守先生の言う通り、桜咲刹那です】

やっぱり式神か
だが、ここまで素直に教えるか？
この分だと、後で本体から記憶消去をされる可能性が高いな
それは後でどうにかするとして……

「式神という事は……陰陽術か？」

【少し違いますけど、そんな感じですー】

「凄いな、桜咲……そんな事ができるのか」

【えへへー】

駄目だ、こいつは桜咲じゃない
なんだ？　この腑抜けた幼女は？
桜咲のイメージが壊れるな。

「俺に何の用なんだ？」

【あ、はい
最近、堅守先生の部屋にお嬢様がよく出入りしているそうなので
気になったから見てこいって本体に言われて来てしまいましたー】

しかし……自立性が高いな
本体とどこまで繋がっているか分からん。

「お嬢様って……近衛の事か？」

【はい！　そうですよ！
お嬢様は関西呪術協会、その長の娘さんです！
更に関東魔法協会、その長のお孫さんでもあるんです！】

おいおい、そこまで言うのか？
これは確実に俺の記憶を消しに来るな
既に録音機は回しているから消されても問題は無いが
……いや、問題は有るか。

「関西呪術協会だの、関東魔法協会だのは分からんが
お前の本体は近衛の何なんだ？」

【はい、お嬢様の護衛です！】

「護衛……ねぇ？
近衛からは幼馴染みと聞いたんだがな」

俺の言葉を聞いた瞬間、ちびせつなは俯く
原因も理由も予想はできるが
さてはて……こいつ自身はどう考えているのかな？

【わ、私は……そうですけど】

「それに、俺みたいな一般人が言う事じゃないんだろうが
護衛が護衛対象と離れていていいのか？
近衛の近くに本体が居る姿は見たことが無いぞ」

【それは……だってお嬢様は裏の事を知らないんですから
本体が近くに居たら知られてしまうじゃないですか】

「で、建前はそれぐらいにして本音は？」

【私は人間じゃないですし
知られたらお嬢様に嫌われてしまいますし
だから怖くて……】

……こいつ、本物のお馬鹿だ
こんな馬鹿みたいに簡単な誘導に引っかかるとは
もしかして本体もこれぐらい単純なのか？

「大変なんだな、ちびせつな
ほら、慰めてやるから思いっきり泣け」

ちびせつなを抱きしめて頭を撫でてやる
抱きしめられて暫くは動かなかったが
暫くすると俺にしがみつき、泣き始める。

うーん……本物はともかく
こっちの桜咲は可愛くて仕方がない
見た目は桜咲だから少々嫌だが。

やっぱり子供って良いよな……この純粋さが
俺なんて汚れきって汚れ尽くした人間だし
自分の屑さを少しでも洗い流される気になれて落ち着ける
純粋で純心なこのちびせつなは……うん、抱っこしていたい。

しかし……もしかしてこの状況も本体に知られているのか？
警戒が無くなるとすれば助かるんだが
そうなると仕返しが……いや、するけどな。

【ぐす……お騒がせしました】

「気にするな、俺は気にしない
しかし人間じゃない……ねぇ？」

【……あぁぁ！
え、ちょ、わ、忘れてくださいー！
その事は絶対忘れてくださいー！！！】

「ちょ、刃物を振り回すな！」

少し落ち着け貴様！
その持っている小さい刀を振り回すな！
っつ……腕が切れただろうが！

というか、混乱して自分が何をしているか分かってないなこいつ！
この糞ガキ！　少しでも可愛いと思った自分が馬鹿だった！
所詮桜咲は桜咲という事か！

「いい加減に……」

【うわあーーーーーーん！】

「づっ……あ」

取り押さえようかと思ったら……いい加減にしろよ！
腕は傷だらけ、胸元も斬り刻まれ、頬も斬られた
傷の数は１０じゃ済まないぐらいだ！

最初は我慢した、すぐに収まると思ったから
だが、傷が５を超えた時にはもう諦めた
そして取り押さえようとしたら……これだ！

「いい加減にしろ！」

【あうっ！】

もう優しくする気も失せたから蹴飛ばす
式神は壁に激突し、気絶
紙に戻らないという事は……実はそれなりに強力な奴なのか？

それにしても……くそったれ！
体中が傷だらけじゃないか！
服も駄目になってるし、体中血塗れ
血が減って体が怠いし。

あー……もう桜咲には絶対に気を許さん
今回は絶対に俺は悪くない！
少しは誘導したが、それだけだし
勝手に話したのも式神だ！

チッ、下手に傷みに慣れているのが逆に困るな
傷だらけだが我慢できるし、苛々はしているが冷静だ
死にはしないが、それでも辛い事に変わり無い。

もし、あの小さな刀の切れ味が本物並だったら
俺は死んでいたかもしれんな
……まぁ、1撃を受けた時点で反撃するだろうが。

さて、とりあえず治療だな
包帯包帯っと……はぁ
なんで桜咲の攻撃で、俺が自腹で治療しなければならないんだ
絶対に治療費を払わせてやる！

怪我をさせた本人、式神が居るから治療道具も使えないし
式神を殺してもいいんだが、情報が桜咲に届く可能性も有る
そうなれば俺の怪我を知られ、状態を見られる
もし傷が治っていたら……また何かされるに決まっている！
桜咲の面倒事は疲れるから嫌なんだよ！

あー……苛々する
治療は包帯とかを巻くぐらいしかできないし
道具は使えないから傷みは続くし
ジワジワと傷みが湧くから体力が削られるし。

包帯を何重にも巻いておく
血が滲み出ないか心配だが……はぁ。

腕の傷は長袖の服で誤魔化す
胸元はどうせ服の下だ、どうでもいい

だが顔の傷はどうしようも無い……か。

鏡で見てみると……これは酷い
特に頬は完全にアウトだ、絆創膏程度ではどうにもならん
無理だ、確実に目立つ
どう言い訳をしたものか……はぁ、困った。

高畑教員はまだ戻ってこないし、休むのは無理
仕事が残っているし、近衛も心配だ
何を言われるか……特に爺だ。

あの爺の事、絶対に何か干渉してくる
職員室に行けば確実に誰かが……魔法関係者が連絡をする
そうなれば爺は必ず出てくる
……無理だ、どうしようも無い。

仕方無い、あまりしたい事じゃないんだが……
自分で自分に暗示を掛けるしか無いな
そう、俺は式神に会った記憶を自ら封じる
代用の記憶として、黒髪で刀を持つ少女に襲われたとでもするか。

「失礼」

そんな事を考え、実行しようとした時
背後から声が聞こえた
振り返った瞬間……俺の意識は落ちた。

最後に見えたのは、黒い髪の少女
そんな気がする。

……

……

……

あ、頭が痛い……俺は確か近衛の鍛錬を終えて？
いや、近衛が学校に行ったんだったな
俺も準備して行かない……と？

「ぐっ……いたたた」

か、体中が痛い！
上半身が、胸元と腕と顔が痛い！
どういう事かと思い、腕を見てみる
そこには、何か刃物で斬られた痕が……

胸元も同じ、そして鏡を見てみたら顔にまで……
何故俺がこんな怪我を……そうだ、録音機！
この感じだとどうせ記憶は消されてるだろうし
ちゃんと動かしてたよな……巻き戻して、再生！

『……あ』

『……桜咲？
の、人形？』

人形？
何故桜咲の人形？

『……近衛の忘れ物か？
確か桜咲と知り合いだとかいう話は有ったが……』

『ふむ、よくできてるな
しかし、どうやって立っていたんだ？
桜咲に似ているが、売っているのか？
非売品だとして、誰が作った？
近衛の手作り……と、考えるのが自然な気もするが』

この言葉から、その人形を手に取ったのか？
そうでなければ俺はそんな事を言わないはずだし。

『しかし、なかなか可愛い出来じゃないか
桜咲も、もう少し表情を柔らかくしれば可愛いのに……惜しい奴だ
普段も凛々しく、美人だとは思うが』

何故褒める、俺よ
何が起こったんだ？

『そういえば……服は体と一体化してないんだな
もしかして脱がせられるのか？』

ちょっと待て俺！
どうして脱がす方向に持っていたんだ！？

『冗談はさておき
本当によくできた人形だな』

なんだ、冗談か
本気だったら……なんだか嫌だな。

『うーん……抱いてみるかな

大きさ的にも悪くないし
人形は抱きしめたら……なんだか落ち着くよなぁ』

『あ、あわ、あわわわ……』

俺以外の声？
桜咲に似た人形……まさか、式神か！

『ん？
今、声が聞こえたような……』

『んむ！』

『自分の口を自分で塞ぐ人形が有るか
おい人形、お前は何だ？』

『は！　ば、ばれてしまっては仕方有りませんね
申し訳ありませんが逃げさせていただきます！』

おい、何アッサリと白状してるんだ？
そりゃあ、自分で自分の口を塞ぐ人形なんて無いが
少しぐらい惚けたりしても……

『……すっとぼければ良かったんじゃないか？
怪しいとは思っていたが、確信は無かったんだし』

『はぅあ！』

『それに、俺に抱かれている状態でどうやって逃げるんだ？』

『う……は、放してください！』

なるほど、だから惚けなかったのか
抱きしめていたか……もしかしてその式神、可愛かったのか？
大きさとかも気になるし……思い出せないのが惜しい！

『だが断る
寧ろ更に抱きしめてやろう
ついでに頭も撫でてやる』

『はうはうはうはうぅ～』

『あうぅ……』

『お、諦めたか？』

なんて羨ましい……少しは気を楽にできただろうに
クソッ、俺の癖にリラックスしやがって！
俺にも抱きしめさせろ！

『私はあまり力が無いんですよぉ
頭も悪いですし……』

『それで、何故俺の部屋に居るんだ？
というか、そもそもお前は何だ？
そして何故桜咲の見た目をしている
どうやって動いているのかも気になるし
性格も違う……気になる事が多すぎる』

『そ、そんなに沢山訊かれてもぉ……』

もしかしてこの式神、馬鹿なのか？
それにしても、俺の行動も気になるな。

どうして主人と繋がっているであろう、式神と会話を？
しかも、自分が危険になると分かっていただろうに
俺は何を考えていたんだ？

『なら順番に訊こうか
お前、名前は？』

『はい、ちびせつなとお呼びください！』

小さいのか？　小さいのか！？
会話の内容から抱っこできて、抱きしめられるぐらいの大きさなのは分かるが
というか、もう少しマシな名前は無かったのか？

『ではちびせつな
せつなという事は……桜咲刹那と何か関係が有るのか？
見た目からしても、どう考えても関係しているだろうが』

『えっと……どう説明したらいいんでしょう？
とりあえず、私は式神という存在でして
本体は堅守先生の言う通り、桜咲刹那です』

それを話すのか？
式神と言っても構わないのか？

『式神という事は……陰陽術か？』

『少し違いますけど、そんな感じですー』

もしかして……最初から記憶を消す事を前提にしていた？
可能性は有るな……でなければ話さないだろうが。

『凄いな、桜咲……そんな事ができるのか』

『えへへー』

……なんだ、この純粋な子は
やっぱりこの桜咲はお馬鹿？
純心なんだろうな……多分。

『俺に何の用なんだ？』

『あ、はい
最近、堅守先生の部屋にお嬢様がよく出入りしているそうなので
気になったから見てこいって本体に言われて来てしまいましたー』

『お嬢様って……近衛の事か？』

ふーん……いい加減に気になったか
しかし、どうやって入って来たんだ？
可能性としては、近衛が出て行く時に開いたドアからか？
お前ら、それは話してないのか？

『はい！　そうですよ！
お嬢様は関西呪術協会、その長の娘さんです！
更に関東魔法協会、その長のお孫さんでもあるんです！』

それ、言っていいのか？
これは確実に記憶を消すつもりだったんだな。

『関西呪術協会だの、関東魔法協会だのは分からんが
お前の本体は近衛の何なんだ？』

『はい、お嬢様の護衛です！』

『護衛……ねぇ？
近衛からは幼馴染みと聞いたんだがな』

うむ、確かにそう聞いた
どう答える、桜咲？

『わ、私は……そうですけど』

『それに、俺みたいな一般人が言う事じゃないんだろうが
護衛が護衛対象と離れていていいのか？
近衛の近くに本体が居る姿は見たことが無いぞ』

ま、護衛が遠くから見守っているというのも変な話だな
護衛対象が強いとか、自分は凄まじく速いとか
それぐらいじゃないとできないだろ。

『それは……だってお嬢様は裏の事を知らないんですから
本体が近くに居たら知られてしまうじゃないですか』

『で、建前はそれぐらいにして本音は？』

『私は人間じゃないですし
知られたらお嬢様に嫌われてしまいますし
だから怖くて……』

アッサリ白状した！？
どこまでお馬鹿なんだ、この桜咲は！
本当に頭が弱いんだな！

しかし、人間じゃない……ねぇ？
どうでもいいか、マクダウェルは吸血鬼だし
俺や近衛と居るのは人造霊だし
というか、俺には色んな知り合いが居るんだし……今更だな。

『大変なんだな、ちびせつな
ほら、慰めてやるから思いっきり泣け』

小さく啜り泣く声が……やっぱり抱きしめてやってるのか？
きっと頭も撫でてるんだろうなぁ……羨ましい
できれば覚えていたかった。

『ぐす……お騒がせしました』

『気にするな、俺は気にしない
しかし人間じゃない……ねぇ？』

『……ああぁ！
え、ちょ、わ、忘れてくださいー！
その事は絶対忘れてくださいー！！！』

『ちょ、刃物を振り回すな！』

刃物だと！？
まさか暴れてるのか！
混乱したのか……それでこの状態
はぁ……俺はどうしたんだ？

『いい加減に……』

『うわあーーーーーーん！』

『づっ……あ』

『いい加減にしろ！』

『あうっ！』

やっぱり反撃したのか
殴ったか、それとも蹴ったのか
どっちにしても式神は気絶したかな？
それとも消えたか……どっちでもいいか。

暫くごそごそと何かをしている音
多分、俺が自分でこの包帯を巻いたりしたか？
体中包帯だらけ……式神、どれだけ暴れたんだ？

『失礼』

誰かの声が聞こえ、何かが崩れ落ちる音？
この声は……桜咲、貴様か！

『……ふぅ、これでよし
記憶消去も終わった』

チッ、やっぱり元々消す気だったんだな
そうでもなければ口を滑らしたとはいえ式神も話さないか。

『さてと……ほら、起きろ』

『うーん……あぇ？
あ、本体』

なんだ、起こしてなかったのか？
起こしてから記憶操作をしろよな。

『まったく
元が私なのに、簡単に秘密を話すとは何事ですか？
自分が情けなく思えましたよ』

『うぅぅ……面目ありませんー』

式神と話してるのか？
半分はお前自身だろうが、多分
自分で自分に悪口を言っているようなものじゃないのか？

『貴女も私なんだから分かっているでしょう？
私が妖怪とのハーフだという事を知られたくないのは
もし堅守先生からお嬢様に知られたらどうするんです？』

いや、俺は知ってるけどな、元々
関西呪術協会を調べたらアッサリと出てきたぞ

思ったより、関西呪術協会でのお前の扱いは軽いみたいだな
やっぱり裏切り者というのが大きいんだろうが。

『はい……ごめんなさい』

『では何が有ったのか教えてください
私は貴女から突然秘密を知られたから記憶を消してくれ
それしか聞いていないんですから』

式神の奴……泣いている時にでも連絡したのか？
というか、そのタイミングしか無いが
体中を斬り刻まれた上、記憶まで消される俺って……

『えっと、堅守先生は凄く優しかったです
最後は……何回も斬っちゃったから怒られましたけど
それ以外は優しい人でしたー』

式神と本体の思考は別なんだな
独立しているというべきか？
記憶も共有していないみたいだし
既に完全に別人状態だな。

『優しいだなんて……
この人はお嬢様を誑かす敵です
普段お嬢様に何をしているか……』

おいおい……証拠も無いのにそれか？
本当におめでたい思考回路だな
お嬢様お嬢様って……他に何か無いのか？
……あぁ、ハーフか。

『でも、泣いてた私を抱きしめてなでなでしてくれました！
すっごく安心できて、嬉しかったです！』

『だ、抱きしめ……なでなで！？
まさか子供好きな性癖が……余計にお嬢様に近づけられない！』

どうしてそうなる？
子供が泣いていたらそれぐらいしないか？
もしかして普通じゃないのか？
……俺は今まで子供との接し方を間違えたんだろうか？

いや、式神は安心できて嬉しかったと言っている
対応としては間違っていないはずだ
なのに何故俺が悪者にされているんだ？
桜咲の思考回路が理解できない。

『堅守先生は良い人ですよー！
本体は見ていないから分からないだけです！
優しい人なんですー！』

『それはお前から情報を聞き出す為の演技に決まっている！
あぁお嬢様、そうやってこの男に……
やはり殺しておくべきか？』

演技なのは否定できないが……分からん
記憶が無いから演技なのか本気なのか分からん
態度から考えて……半分以上は本気だった可能性が高いな
式神は子供みたいな性格だし、俺なら有りえる。

それにしても桜咲、殺人予告か？
1人で歩く事は危険だな……殺されるかもしれん
帰宅時もできるだけ誰かと歩くべきか？

しかし、突然それをしても怪しまれるだけだし
うーん……難しい所だ
だが1人だと危ないしなぁ……

『駄目ですー！
私はまた堅守先生になでなでしてもらいたいんです！
だから殺したら駄目ですー！』

式神よ、嵌ったのか？
俺だったらいつでも構わないぞ
ちゃんと斬った事を謝罪するならな。

まぁ、式神の不始末は本体の不始末
さすがに子供を叱るのも……いや、叱るけど
それで謝れば一応許すぞ、怨みは残るが。

代わりと言ってはなんだが
桜咲本体への怨みは倍増するがな
何せ、こんな未熟な式神を寄こしたんだ
怨みが桜咲本体へ向くのは当然の事だろう？

『はぁ……何が有ったのやら
なら、どんな話をしたのかを教えてください』

式神が俺との会話を、思い出せる限り話す
別に怪しい点は無いはずだ。

『陰陽師という言葉を知っていたか……
まぁ、昨日の昼休みから考えて単なる趣味だろう
気になるが、割とよく出てくる名だし大丈夫だろう』

ふぅ……趣味を知らしめておいて正解だったな
近衛のカモフラージュだったが、俺のカモフラージュでもあった
裏とは関係無いように思えるが、趣味で話すだけ
これなら怪しまれるのは怪しまれるだろうが
それはそれで納得されやすいからな。

『仕方無い
もう暫く監視を頼む』

この言葉が聞こえた瞬間
俺は全力で部屋を探し回った
つまり……これも聞かれているという事だ！

「式神……いや、ちびせつな！
どこに居る、居るなら出てこい！」

さすがにこれを桜咲に知られたら拙い！
爺に知らされたら……終わりだ！

【あ……あの……】

声が聞こえた方を向いてみると式神……
何故泣きそうな顔をしているのかはよく分からんが
今、逃がす訳にはいかない！

「本体に連絡するなよ！
俺が知った事、絶対にするな！」

【ひっ！
ご、ごめんなさい、ごめんなさいー！】

謝るという事は……既に知らせた後か！
どうする……さすがにこの状態では辛い
……潰すか？

【怪我させちゃって……ごめんなさーい！
うわああーーーーん！】

「……は？」

もしかしてさっきの謝罪は……
怪我をさせた謝罪か？
……はぁ、気が抜けた。

「それは後でいい
本体に連絡はしていないな？」

【ひくっ……あい
まら連絡してあせん】

あー……ったく
式神の癖に泣けるってどういう構造になってるんだ？
鼻水も出てるし……謎だ。

「ったく

ほら、鼻をかめ」

ティッシュを半分に千切り、式神に渡す
泣かれてたら話にならんからな。

【ありが……ござ……ぐす、びーーーー！】

だから、本当にこいつは桜咲なのか？
どう考えても信じられん。

「さて、質問するが構わないな？」

【ぐす、はい
お騒がせしてすみませんでじだ】

「改めて訊く、本体には何も言っていないんだな？」

【言ってまぜん
堅守先生が起きた事も言ってまぜん】

良かった……まだ安心だな
こうなったら……こいつをどうにかしないとならない
どんな手段を使ってでも、味方に引き入れる！

「落ち着け、ちびせつな
チョコでも食うか？」

ポケットから……そう、ポケットからチョコを出す
当然ながら普通のチョコじゃないがな。

【い、いただきますぅ……】

式神が食えるのかと心配もしたが
どうやら食えるらしい、何故に？

【あ……れ？】

「どうかしたか？」

そう言いながら頭を撫でる
顔を真っ赤にする式神
うーむ……随分と多機能な式神だな。

【いえー、なんでもないですー】

なんて幸せそうな顔を……さすが裏の強力な惚れ薬
効果は半日程度らしいが、それでも十分だ
その間に絶対服従させてやるよ。

まぁ、惚れ薬は犯罪だが
式神……もっと言えば道具に渡しただけでは犯罪にはならないだろ、
多分
というか、こいつは所詮紙人形（ペーパーゴーレム）だ
人間相手じゃないんだ、この程度は許してくれよ？

しかし……気が引けるな
思考誘導、半洗脳とかならまだ容認できるが
薬を使うのは……嫌だよなぁ
何より、自分で動いた結果じゃないから腑に落ちん。

【（あうあう……堅守先生が凄く素敵に見えますー
それに撫でられてる頭も凄く気持ちいいですしー
でも、怪我させた私なんて……）】

あ、落ち込んだ
怪我をさせた事でも気にしてるのか？

「ちびせつな」

【あ……あぁ！
あの、怪我させてごめんなさい！
記憶も消してごめんなさい！
もう全部、ごめんなさいー！】

先に言う事が有るんじゃないか
そう言おうとしたんだが、先に謝られてしまったな
どうしようか？

「ちびせつな
許してやる代わりに条件がある」

【なんでもします！
だから許してください！】

何でもするだなんて言われると……はぁ
式神とはいえ、女の子だろうが
あんまりそういう事を言うのは感心しないな。

「本体に嘘の報告をしてくれ」

【嘘の報告……ですか？】

「そうだ、知っているとは思うが
俺は以前、桜咲に腕を斬られている
もし俺が今回の事を覚えている……または知っていると知られたら
高確率で襲われると思っている
俺は死にたくない、だから俺を助ける為に黙っていてくれ」

少し黙る式神
もし断られたら……操るか
傀儡としてだが、あまりしたい事じゃないな。

【……条件があります】

「言える立場かよ……お前
人にこれだけの怪我を負わせておいて」

【う……ごめんなさい】

「まぁいい
俺にできる事なら、少しぐらいなら許してやる」

あれだけ必至に謝られたんだ
謝る所か、罪悪感を感じているのかも疑問だし
それに比べたら少しぐらいは……

【あの……チューしてください】

駄目だ、少しの範疇を超えている
俺にできる限界を超え、オーバーキルだ

てっきり頭を撫でてとか、ぎゅっとしてだとか
その辺りだと思ったんだが、油断した！

【駄目……ですか？】

待つんだ俺！
確かにちびせつなは可愛い、それは断言できる
だが、惚れ薬を飲ませた奴にキスをするのはどうなんだ？
というか、本体にまで影響は出てないよな！？

待て待て待て待て
問題はそこじゃない、ちびせつなにキスをするかどうかだ
いや、しないという選択肢は駄目だ
もししなかった場合、本当に本体に連絡される可能性が出てくる
少しでもその可能性を減らす為……諦めるしか無いか！

「……さすがに恥ずかしい
できれば目を閉じてくれないか？」

【……はい！】

あぁ、罪悪感が……薬を利用したキスは罪悪感が！
これがもし近衛みたいに、感情を自分である程度操作したのなら罪悪感は感じないが
自分でじゃなく、薬を使ってでは気が引ける。

こうなったのも何もかも……桜咲が悪い！
あの半妖女め、絶対に後悔させてやる！
前回の怨み、今回の怨み、更に半ば逆恨み
全部混ぜたら相当な怨みだぞこの女郎！

嬉しそうに返事をしたちびせつなは期待した顔で目を閉じる
誤魔化す手段は無い、誰かが居たら代わりにさせるが
ここには俺とちびせつなだけ……逃げ道は無い！
だが……残念だったらちびせつな！
俺はキスしてやる場所は……唇じゃない！
と、いう事で額にしてやった
デコが広いから当てやすかったぞ。
【お、おでこー？】
「その可愛い唇はまだ残しておけ
言い出した理由は分からんが、罪悪感とかでは止めておくんだな
会って間もない相手に唇を許すのは駄目だぞ
もっと自分を大事にして、心から許した相手にだけ捧げておけ」
半分以上は本音
嘘は言い出した理由、罪悪感だ
式神、人形、道具、それでもちびせつなは女の子だからな
罪悪感が理由じゃないのは分かっているしな。
【……はい、そーですね】
「約束は約束だぞ
ちゃんと本体には黙っていてくれるな？」
【は、はい！
本体には堅守先生は起きて混乱して
包帯を巻いてたと伝えておきますー！】

ま、そんな所かな
そういえば学校は……

「あ……拙い」

【どーしたんですかー？】

「……遅刻する
急いで行かないと学校に遅刻する！」

【あぁあ！　私のせいですか！？
ごめんなさいごめんなさいごめんなさいあごめんなさい！】

お前が謝ってどうする！
謝るべきは桜咲だろうが！
時間ギリギリ、本当に急がないと遅刻確定じゃないか！

「いいかちびせつな！
俺が帰ってくるまでおとなしく待ってるんだぞ！
外に出る事も禁止、部屋は好きに漁っても構わんが元の場所に戻しておけ！
帰ってきたらまた額にキスしてやるから言う通りにしろよ！」

【ほんとーですか！
わかりました、言う通りにします！】

あぁぁぁ……自分で馬鹿言った！
最後のは余計だった！
言った方が言う通りにするとは思うが、それでも余計だった！

いや、後悔は後でも構わん
少しでもちびせつなを引き込む為には……

「ほら、さっきのチョコだ
好きなだけ食っても構わないから待ってるんだぞ？
飲み物は飲めるか分からんが、とりあえずジュースを置いていくからな
俺が帰ってくるまで誰が来ても無視して、絶対に部屋に入れるなよ？」

【はい！　お任せください！
このちびせつな、堅守先生の指示に従います！】

「よし、良い返事だ
じゃあ行ってくる」

【いってらっしゃいませー！】

……やっぱりお馬鹿だ、ちびせつな
心配は心配だが、連れて行くのは不可能
本体が確実に悟るだろうしな。

部屋から出て考える
傷の治療……終わってなかった
包帯の上に服を着ているから大丈夫だと思うが
裏の人間は血の臭いに気付きそうだ。

顔の傷は……一応絆創膏を貼っているが
これも見られたらなんて言われるか分からんな

職員室での詰問は覚悟しておかないと……はぁ
どうして俺がこんな苦労を……桜咲め！

……
……
……

つ、疲れた！
間に合ったものの、本当にギリギリだな。

「はぁ、はぁ
お、おはようございます」

「おはよう堅守先生
随分遅かった……ど、どうしたんですか！？
その頬の絆創膏、何枚も貼って……」

新田教員の声に職員室中が騒いだ
煩いから、少し黙っててくれないかな？
疲れるし、面倒だし。

「また襲われたみたいです
記憶にうっすらと残っているんですが……
無理矢理消されたみたいに思い出せないんですよ」

「むぅ……通り魔ですか
堅守先生、何か狙われるような心辺りは？」

「俺はこっちに来てまだ1ヶ月も経ってないんですよ？
そんなのはこっちが訊きたいぐらいです

どうして俺ばかり……」

「通り魔の特徴はなんですか？」

「それが思い出せないんですよ、源教員
さっきも言いましたけど、強引に記憶を消されている感じでして
思い出せるのは黒髪、刀、女の子
どう頑張ってもこれが精一杯です」

記憶処置の失敗って事にさせてもらおうか
前回は成功したし、耐性を持ったという可能性も有る
２回目なんだからそれぐらいできてもそこまで不思議じゃないし。

……あ、瀬流彦教員が頭を抱えてる
桜咲は魔法側の部下なんだろ？
だったら管理ぐらいしておけよな。

「黒髪の、刀を持った女の子ですか？」

「知り合いにそんなのは居ませんよ？
自分のクラスを疑うわけじゃないですが
担当クラスに黒髪は居ますが……
黒髪なんて学園中に何十人も居ますしね」

あからさまにホッとした顔をするな、瀬流彦教員
どうせ、記憶操作はできているみたいだとか思っているんだろ
肝心な事を知られなければ問題無いだろうがな
こっちはそれで迷惑しているんだよ！　それに気付けよ貴様は！

「堅守先生、生徒を疑うものではありませんよ」

「分かっていますよ、新田教員
しかし、状況を考えたらそうとしか考えられないんですよ」

「どのような状況だったのですか？」

ほら瀬流彦教員、聞き耳を立てるな
そんな事をするぐらいだったらこっちに来い
あんまり巫山戯た事をしていると殴るぞ。

「朝、起きたのは5時ぐらいなんですよ
それから2時間、適当に時間を過ごしていました
出る準備でもしようかと思った時、気配を感じて後ろを振り返りました
しかし、そこから記憶がありません
目を覚ました時には３０分近く時間が経っていて
既に怪我をしていました……犯人も居なかったので……はぁ」

さて、犯人の特徴まで出したぞ
もうこれで動かざるを得ないだろう、学園は
特徴も出ており、被害も出ている
これで動かなかったら学園の安全性は疑われるな。

「態々朝、しかも俺が出る前
他の先生方も部屋を出て行くような時間です
部外者がそんな危険な時間に来ますか？
襲うのでしたら寝ている間に襲う方が襲いやすいでしょうし
それに、こんな中途半端にせず殺すのが当たり前でしょう？
見られる危険性を冒してまでただ傷付ける
部外者がして、この行動に意味は有りますか？」

「それはそうですが、しかし……」

「実際に外部の可能性も有りますから
こんな警備もしていて、広い学園でするとは思いませんけど
どっちにしても、今後は暫く警戒しておきます
本当に殺されては堪りませんしね」

そこまで話した所で予鈴が鳴る
高畑教員は居ないし、俺が動くしか無いか。

「予鈴も鳴りましたし、仕事をしましょう
俺もそこまで深い傷じゃないので大丈夫です」

渋々という感じで解散
ちゃんと話を全部聞いていないからな
純粋に心配してくれる一般教師は本当に助かる
それに比べて……はぁ。

瀬流彦教員、もう少し顔に出る癖をどうにかしたらどうだ？
何やってるんだ、また面倒な事を、どうしよう
そんな事が顔からでも窺えるぞ？

……
……
……

教室前、見た目は罠は無いな
ドアを開け、少し待つ……が、何も無い
そして教室に入る。

当然だが、ざわめきが出てくる
顔中怪我だらけなら当然だな。

「日直、朝礼を」

「どうしたん堅守先生、その怪我！」

お前……近衛！
叫ぶな、立ち上がるな！　全員が驚いた顔で見ているだろうが！
桜咲がまた睨んできてるし、どうしてくれる！

「静かにしろ近衛
日直、朝礼」

すぐに俺の不機嫌に気付いた近衛は黙る
そして原因と思われる桜咲を睨みたそうにする
だが、自分の事に気付かれる可能性に気付いて止める
よくできました、後で褒めてやる。

「き、起立、礼」

「「「

俺の性格から考えて、何も言わないと分かっているからだ
訊きたそうにしているが、完全に無視する。

それにしても近衛の魔法は成功しているらしい
偽りの幻影……存在隠蔽の魔法に近い
簡単に言うと幻影魔法、名前の通りだがな。

この魔法を使う事で自分の存在感を薄くできる
つまり、殆ど目立たなくなる……さっきみたいに叫んだら効果は薄まるが
それで強くなった体を誤魔化すんだが、どこまで効果が期待できるか不安だ
後で確認をしないとな、近衛の主観なのが残念だが。

出席確認が終わる
さっさと教室から出て、自分の仕事をする
1時間目は授業が無いし、急いで終わらせないとな
放課後はする事が多すぎて……時間が無い。

……

……

……

昼休みの時間だが、どうするか……
昼飯抜き覚悟でちびせつなに会いに行くか
それとも昨日と同じく教室に行くか。

よし、部屋に戻ろう
惚れ薬は最初に見た者に好意を持つからな
効果を出す為にも、会わないとならん。

昼飯はコンビニにでも行くか
時間が足りないが、それはどうにかする
急がないと間に合わん。

近衛には少し用が有るので昼休みは無理だとメールしておく
携帯電話……こっちでは機能が少ないな
遊戯王世界の科学が発展し過ぎな気もするが。

はぁ……宮崎や綾瀬と趣味の話をしたかった
あの2人はおとなしいから気楽なんだよなぁ
近衛とも話が合うし、残念だ。

長谷川やレイニーディとも話してみたいな
この2人もおとなしそうだし……微妙だが
が、長谷川は癇癪を持ってそうな気がする
普段はかなり感情を抑えつけてるように見えるし
潰れなければいいんだが……相談に来たら発散させてやるか。

急ぎ職員室から出て、自分の部屋に戻る
コンビニで適当に食事系の物を買い、お菓子も買う
お菓子はちびせつな用だ、俺も食うが。

「ただいま」

【おかえりなさーーーぶっ！】

鍵を開け、部屋に入る
すると思いっきり何かが突撃してきたので
つい、肘を目の前に出して止めてしまった。

「すまん、突然で驚いてつい……大丈夫か？」

【ひたた……ら、らいじょーぶれす】

きっと抱きついて来たかったんだと予想する
が、俺の肘でタイミングを完全に逃したな
このまま抱きついて来ても滑稽だ、そんな空気じゃないし。

「本体に連絡はしてないよな？」

【はい！
ちゃんと言いつけを守りました！】

なんという笑顔……褒めて褒めてを全身で言ってる
さすが惚れ薬、何個食ったかは知らんが効果は抜群のようだ。

とりあえず抱き寄せ、頭を撫でる
それだけで満面の笑みだ……素直だねぇ
本体もこれぐらい可愛げが有れば……無理だな
桜咲がこんな事をしてくるという事はきっと罠だ。

多分、難しい体型での無理して色仕掛けという所か？
例え那波辺りの体型でも無駄だが、どちらにしても効果は無いな
桜咲の体はスレンダーだから綺麗だとは思うが
それとこれは話は別だ……惚れ薬を使ってみたらどうなるんだ？
式神並になるんだったら……試してみたい気もするが止めておこう
もしばれたら確実に殺される、近衛を盾にしても殺される気がする。

無駄な事を考えるのはともかく、ちびせつなは本当に可愛い

素直な子供はそれだけで美徳だろう
この可愛さの1割でも桜咲が持っていれば……堂々巡りになりそうだ、止めよう。

部屋に入り、惚れ薬の減り具合を確認してみる
ふむ……5個ぐらい減ってるな
まぁ、ちびせつなの体の大きさから考えればこんな所か。

「あまり長く居れないが、我慢してくれよ
態々ちびせつなの為に帰ってきたんだからな」

嘘ではない、為というのは微妙だが
目的は惚れ薬の確認と効果を出す為だし
会う事は確かに目的だったが、微妙に違う。

が、当然そんな事は気付かない
ちびせつなは嬉しそうな顔をして機嫌は最高潮
今にも歌い出しそうなぐらいの顔をしている。

ちびせつなはさて置き、俺は適当に飯を食う
少しちびせつなに分けながらも食う
渡されたコンビニおにぎりを嬉しそうに食うちびせつな
食った場所から千切って渡してるからな、間接キスか？
それに気付いたであろうちびせつなの顔は真っ赤である……初心だなぁ。

が、当然ながら時間は短い
急いで来たものの、所詮は昼休み
ここに居れる時間は精々１０分程度
アッサリと時間は過ぎ、戻れないと間に合わん時間になった。

「そろそろ時間だな
悪いなちびせつな、もう戻らないと時間が無い」

【もう……行っちゃうんですか？】

縋るな、鬱陶しいから……可愛いけど
俺は仕事には真面目なんだ、止めるような事を言うな
少しでも信用を得ないとまた疑われるし
今回の件でまた疑いは晴れたとは思うが。

「悪いがな
また帰ったら抱っこしてやるから待ってろ」

【はい！
でも、あの……チュー】

またか……仕方無い奴だな
これは仕方無い行為だ、俺が望んでではない
口止め料と、惚れ薬の効果なんだから
俺は多分悪く無い、言い出したのはちびせつなだし。

誰に言い訳をしているのか……俺は
とりあえず額にキスをすると、顔を真っ赤にして幸せそうな顔をされた
はぁ……あまりしたくないんだけどな、こういう事は。

「じゃ、行ってくる」

【はい、頑張ってください！】

元気だねぇ、ちびせつなは
本体には何を報告しているのやら
どうせ部屋漁りをして、どんな物が有るのか確認してるんだろ
怪しい物なんて何も無いがな、そういうのは出しっぱなしにしない
のが俺だ。

道具は毎回必ずポケットに戻している
戻さないのは趣味の範囲に入るであろう本だけ
つまり占いやら陰陽術、魔法の本……当然ながらどれも架空だけどな
本物の魔法などの本は1冊も置いていない、当たり前だが。

……
……
……

放課後、ＳＨＲの時間
俺の怪我についての対応も決まったらしい
生徒に危険性を言い、早期帰宅を促せるで決定したそうだ
まぁ、犯人は分かっているから意味は無いだろうがな。

「先日、高畑教員から聞いていると思うが
通り魔はまだ捕まっていないのか、また出てきた
用の無い者はあまり外に出ず、早く帰宅する事」

「堅守先生の怪我ってその通り魔のせい？」

「では今日の授業を終了する、日直」

「え？

あ、はい！　起立！」

朝倉の発言は完全無視
授業に関係のない話は常に無視
無視しなくても、断る。

挨拶もそこそこ、さっさと職員室に戻る
前に、近衛が廊下に出てきた
用なんて分かっているがな……面倒な。

「堅守先生、その怪我……」

「今は訊くな、我慢しろよ？
仕事は1時間半ぐらいで終わる
2時間後ぐらい来れば丁度良い」

それだけ言ってさっさと職員室に戻る
我慢しろとは言ったが、どこまで効果が有るか……
桜咲に何かしたら怒るぞ？
まだ何もしていないんだ、俺は。

職員室に戻り、急いで仕事を終わらせる
そして終われば早々に職員室を出る
近衛が来る前にちびせつなをどうにかしないとな。

「では今日は帰ります」

「お疲れさまです、堅守先生
随分急いでいるようですが？」

「休みたいんです、今は
仕事は終わっているので安心してください」

「私としては仕事よりも自身の体をだね……
無理はしないでくださいよ」

「いえ、お気遣いありがとうございます
また明日、新田教員」

「また明日」

……

……

……

新田教員と別れ、急いで帰宅
部屋を開けると……またかちびせつな！
再び、つい鞄を盾にするという行動を起こしてしまい
ちびせつなは俺の持っていた鞄に直撃。

痛そうに顔を押さえて半泣き状態
しかしちびせつな、学習したらどうだ？
さっき飛びかかった時は肘だったんだし
面と点では痛みの質も違うだろうなぁ……大丈夫か？

「まぁなんだ……ただいま」

【お、おかえりなひゃい】

とりあえず頭を撫で、移動

フラフラと飛びながら後ろに付いてくる
子犬臭が凄まじいな、おい。

「さて、ちびせつなに訊きたい事が有る」

【なんですか？】

チョコ（惚れ薬）を食いながら話を聞くちびせつな
ナチュラルに惚れ薬を食っている時点で相当ヤバイ
当然だが、本人に自覚は無いだろうが
これってかなり危険な気がする……が、無視。

偽りの感情でも、ちびせつなが俺に惚れたのは事実だろう
しかも惚れ薬を上塗りして更に重ね掛け
もしかして愛している状態にまでなっているのでは？
そう思わせるぐらいの量は食っていそうだ。

「本体には俺の事は黙っているな？」

【黙っています、何も言ってません！
約束したんですから当たり前です！】

怒るな、確認は仕方無いだろ
頭を撫でて宥めておく
これだけで機嫌を直すちびせつなはお手軽だ。

「なら嘘の報告を頼んでいいか？」

【あまりしたくないですけどー……】

「報酬はおでこにキス」

【嘘の報告します！】

安いな、さすが頭が弱い子
後の事とか考えているのか？

「なら報告内容だが……この後、近衛が来る」

【お、お嬢様がですかー！？】

やっぱりそんな態度か……面倒な
どうせ会いたくないとか言うんだろうが。

「黙っていてほしい内容は簡単だ
近衛との会話内容を黙っていてくれれば構わない
俺と占いの話で何時間も盛り上がっている、それだけでだ」

【お嬢様と占いのお話ですかー？
本当にそれだけで……】

「十分だ、途中で飽きて寝るとでも言えば何度も同じ報告をしないで済むぞ
俺がちびせつなに気付いていないと思っているだろうしな」

【わかりましたけど……
お嬢様とどんなお話をするつもりですか？】

そう、それが問題なんだ
近衛をどうするかは決まっているが

このちびせつなの存在で対応が決まってくる。

?ちびせつなを完全に無視する
ちびせつなを無視して別荘に近衛と入る
黙っていてくれと頼めば多分、黙っていてくれるだろう
後で事情を説明する必要になるだろうがな。

?ちびせつなを完全に引き込む
そうしたいのは山々なんだが……難しい
本体と繋がっている上、いつでも連絡可能
危険過ぎるがリターンはとてつもなく大きい
桜咲本体はちびせつなの存在から俺に近づく必要が無くなる
そして近衛が近くに居るからちびせつなに色々と頼める
例えば、何か有ればすぐに連絡するとか……な
俺達に近づく事が減るだろうし、危険度が思いっきり下がるのが嬉しい。

?いっその事消す
却下、これは無理だ
本体が俺を襲いに来る、絶対に
やっぱり裏の者だったのだなとか言って襲ってくる
それで死んだら悔やんでも悔やみきれない。

他にも考えたが、やっぱり?かな?
ハイリスク・ハイリターンだが……効果は大きい
桜咲が遠ざかる可能性が有るだけで試す価値は有る。

最悪の場合、近衛に任せるか
まだまだ未熟だが、式神の操作の実験台にでもするか
式神の記憶操作……無理だったらまた危険だな。

本当にハイリスク過ぎる……
俺は何回こんな綱渡りをしなければならんのだ？
……半年近くは続きそうで嫌だ。

「詳しい事は近衛が来てからだな
悪いがちびせつな、近衛には会ってもらうぞ」

【そ、そんなの駄目ですー！
お嬢様に裏の事を教えたら……まさか！】

お、気付いたか
頭が弱いと思ったが、そうでもないのか？

「あぁ、近衛は魔法関係を知っている
教えたのは俺だが、切欠は桜咲本体だ
悪いが自業自得、庇う事はできん」

【そ、そんな……】

ショックで動かなくなった時、チャイムが鳴った
こんな時間に来る人間は限られている
近衛か、それとも本体か……多分どっちか
本体だったらどうしよう？

玄関に行く前に惚れ薬を片付ける
近衛に食わせたらどうなるか……とにかく片付ける
そしてドアを開けると、近衛だった
はぁ……良かった。

「こんばんわ、堅守先生」

「こんばんわ
さて、さっさと入れ」

「はいな！」

近衛を部屋に入れ、どうするか考える
まぁ、する事は決まっているから変わらないんだが。

そして案の定、ちびせつなは隠れた
どこに居るのやら……まったく。

「あれ？
コップが2つ……どっちも飲みかけ？」

「さっきまでもう1人居たからな
近衛が来て、勝手に隠れたが」

すぐに見つかった
俺の布団の中に潜って顔を少しだけ出していた
近衛はまだ気付いていないが……いや、気付けよ
どうやら気配を読む訓練はまだまだのようだ。

俺はさっさと布団に近づき、捲る
居ない……掴んだ布団を見てみると必至でしがみついていた
体を掴んで布団から引き剥がし、近衛に見せる。

すると近衛の顔が険しく……お？
どうやら桜咲はかなり嫌悪感を感じる相手になったらしい

俺のこの怪我も原因の1つかもしれんしな。

「さて、近衛
こいつは桜咲の式神、ちびせつなだ
思考はかなり独立しているから桜咲とは別に見てもいいぐらいだぞ」

そう言ってちびせつなの頭を撫でる
近衛の登場でビクビクしていたものの、すぐに笑顔になる
ちびせつなの態度に近衛は毒気を抜かれたらしく、表情を戻した。

「ちなみに俺を傷付けたのはこいつな
原因は本体だからあまり責めない事」

傷付けたという言葉を聞いた瞬間、近衛の顔がやばかった
そりゃもう……般若というぐらいの顔だ
新田教員が怒った時より怖いぞ、その顔。

「……どうしてそうなったん？」

「ちびせつなが本体の秘密をつい言ってしまった
それで泣き出してパニックになって暴れた
ちびせつなの持っているその小さな刀で斬られてな
詳しい事はこれでも聴いてくれ」

そう言って録音機を渡す
巻き戻し、再生させる近衛
ちびせつなは泣く寸前だ。

聴いていると段々と近衛の顔が険しく……またか
これは相当怒ってるだろうな

俺も冷静になってまた聴けたが、苛々してきた
記憶を消されたのはかなり頭にきたからな。

「ちびせっちゃん」

待て、それはちびせつなの事か？
まだせっちゃんとは呼ぶのか？　癖か？

【は、はい！】

もうガタガタに震えてるちびせつな
近衛の顔にも怯え、自分のした事にまた怯えている
本体に見習わせたいぐらいの良い子だ……

「堅守先生に怪我させた事、ちゃんと謝ったん？」

【あ、謝りました！】

「許してもろた？」

【許してもらいました！】

条件付きでだけどな
悪いのは本体なんだし、怨みも本体への方が大きい。

「ならウチが怒るんは筋違いやわ
せっちゃん本体へは腸が煮えくり返ってる感じやけど」

怒るのは構わないが手を出すなよ？
色々と台無しになるからな。

「そういえば挨拶しとらんかったな
初めましてや、ちびせっちゃん
ウチは近衛木乃香や、知ってる思うけどよろしゅうな？」

【……あ、はい！
よろしくお願いします！】

「せっちゃんが人間やないとかどうでもええわ
ちびせっちゃんは式神なんやよね？」

【はい、そうです……】

桜咲は人外というのにコンプレックスを感じているみたいだが
今更その程度ではなぁ……

「ちびせっちゃん
ウチはちびせっちゃんと仲良うしたいわ
式神とか、そんなん関係無しに」

【お嬢様……】

「お嬢様言ったらあかん
お友達になるんやからこのちゃん呼んで？」

【お友達……本体を差し置いて私と？】

「そうや、本体のせっちゃんやない
ウチはちびせっちゃんと仲良うしたいねん
だからこのちゃん呼んで？」

なかなか酷いな、近衛
本体の悲願であろう仲直り
そして以前の近衛の悲願でもあった
なのにそれを式神とするとは……

【……はい、このちゃん！】

「盛り上がっている所を悪いが
ちびせつな、本体への報告ではお嬢様と言えよ？
もしこのちゃんなんて言ったら本体が俺に気付く
また記憶を消されるのも、斬られるのもご免だ」

青い顔になるちびせつな
近衛も真剣な顔になってちびせつなに念を押す
俺の言う通りにしてくれないと会えなくなるかもとか言ってる
ちびせつなは俺も近衛を失いたくないのか、泣きながら絶対に言わないと断言
気休めかもしれんが、それでもしないよりはマシだな。

「そういえば近衛
偽りの幻影の魔法はどうだった？」

「効果は結構良かったみたいやで
せっちゃんにも、楓とか、くーへにも気付かれんかったみたいや
ただ、龍宮さんとエヴァちゃんには疑わしそうな顔されたけど……」

ふーむ……効果は上々っと
最後の2人は無理だと最初から予想はしていたからどうでもいい
重要なのは桜咲に気付かれないという事だからな。

【このちゃんは魔法が使えるんですか？】

「頑張ったからなぁ
でも、本体に言ったらあかんで？
堅守先生に迷惑が掛かるんやから」

俺も頑張ってるんだがな
まだ火ももまともに灯せない程度だが
ここまで才能が無いと、これが才能に思える
それぐらい酷い……もう魔法の練習は止めようかな？

「それよりちびせつな、本体にこう言ってくれ
俺と近衛は占いの話をし始め、付いていく事ができない
内容も分からないし、暇だから寝て待つ
帰る頃にまた連絡をする、こんな感じだ」

【りょーかいです！】

むむむという顔で本体に連絡
完了し、問題は無かったのか笑顔
よしよし、後で頭を撫でてやろう。

【でも、なんで寝るって連絡させたんですか？
別に起きたままでもいいと思うんですけどー】

「仕方無いだろ
これから通信は嫌でも切れるんだからな」

【それはどーゆー……】

「詳しい事は後で話してやる
時間が惜しい、さっさと移動するぞ」

近衛とちびせつなを連れて風呂場へ
前回と同じだな。

【お風呂場で何を……って、ええ!?】

ポケットから別荘……これの正式名称がエヴァンジェリンの別荘だからな
今度改名するか？　いや、面倒だし別荘のままでいいか。

「問答無用、さっさと入るぞ」

【ちょ、ちょっと待ってくだ】

慌てているが無視して近衛とちびせつなの手を掴んで別荘に入る
詳しい事は中で説明してやるから黙っていろ。

近衛は３０日のサバイバルか……頑張れよ
そっちの説明も後でしないとな
俺も３０日の間にちびせつなを完全に味方に引き込むように動かないと……

１３話【式神の利用方法】（後書き）

サバイバル訓練の難易度増加って……
哀れ木乃香、半分自業自得ですね。

ちびせつながお馬鹿過ぎる……
１１巻９９時間目にてそんな事を言っていましたので。

刀で斬られているのに傷が思ったより浅い？
５巻３９時間目にて
果物ナイフ程度の切れ味らしいとか言っています
なのでそこまで深い傷にはなりませんでした。

自己暗示なんてできるの？
洗脳手段を知っているので不可能ではないかと
どうせ緩い制限しか掛けないと思いますが。

録音機の続きってどうなってるの？
特に何もありません
刹那がそのまま去っていたぐらいです。

式神は高性能過ぎる！
きっと良い素材を使っているんですよ。

惚れ薬って……
瑞貴ですから
ちなみに原作登場は７巻の５４時間目です。

瑞貴の基準が判らない！

自分でした事は容認します
が、薬で強引なのは好みません
あくまで自分で思うようにするだけです
薬なので意外性が無くて楽しみが少ないのも理由の1つです。

本体に惚れ薬の影響は出ているの？
出ていません
食べたのは式神ですから。

黒髪のとか、話してよかったの？
話さない方が不自然ですから
それに、これで下手に手出しできなくなります
刹那にも厳重注意をされるでしょう
黒髪や刀を持つなど、限られていますしね。

偽りの幻影？
ＰＳ２ゲームオリジナル魔法です
面倒なので説明は省きますが。

木乃香が……
彼女とて鬼ではありません
確かに怒りは感じているでしょうが
それでも理不尽な怒りを持つ事は……多分無いでしょう。

最後がなんだか中途半端感が……
これ以上続けると相当長くなるのでカット
次回に回します。

ツイッター、良い曲ってやっぱり多いよね

http://twitter.com/#!/ain_kuria

それにしても眠い……

１４話【化け物との３０日間】（前書き）

遅くなりました、言い訳をすると忙しかったからです
資料探しにもかなり時間を使いましたし……はぁ
ついでに自由時間が2、3時間じゃ……
偶にそんなにも無かった日もありましたけど。

愚痴はさておき、今回は色々と注意、凄く注意。

今回は軽いものの、性的描写がございます
個人的には１５禁程度に抑えたつもりですが
もし１８禁になりそうでしたら報告してくださると助かります
すぐさま修正いたしますので、よろしくお願いいたします。

今回は残酷な描写が多数出てきます
そのような描写が苦手な人はご注意ください。

上記に注意して読んでください
……１５禁のタグや注意をトップに載せた方がいいでしょうか？
今更ながら、作者は戦闘描写が苦手です、期待しないでください。

１４話【化け物との３０日間】

視点　木乃香

１日目

別荘に入り、堅守先生の手を引きながら中央へ
相変わらず最初の移動が大変そうや
やっぱり怖いんは仕方無いんやなぁ……

【だ、大丈夫ですか？】

「煩い」

ちびせっちゃん、今話しかけたらあかんで
堅守先生、不機嫌になってまうから。

「ふぅ……さて、今から始める事の説明をしよう」

今からする事、確か３０日間のサバイバル
朝の２０日は練習やって言ってたし
本番や……頑張らなな！

「これから近衛には３０日間、サバイバルをしてもらう」

【さ、サバイバルってどういう意味ですかー！？】

「後で詳しく説明してやるから黙っていてくれ
嫌でも時間は有るんだから」

頭を撫でてちびせっちゃんを黙らせる堅守先生
どうやってそないに懐かせたん？
ちびせっちゃんも本体とはかなり性格とか違うし
ようわからんわ。

「続けるぞ
制限は特にない、好きにしろ
魔法を使うも何をするも自由だ
ただし、魔法球から出る事は禁止
そして魔法球内に有る建物に入る事も禁止だ」

確か山の上にある建物やんな？
ウチ、まだ飛ばれへんからなぁ……
歩いて行くにはちょい遠いし。

「本来なら俺も入って、手助けはしないが見守ろうかと思ったんだが……
この怪我だ、３０日なんて長期間入っていたら傷が塞がって全く見えなくなる
明らかに不自然だからな、残念ながら俺はこの別荘で3日過ごすだけにする」

怪我で……思わずちびせっちゃんを睨んでもうたけど
もう過ぎた事や、謝って堅守先生も許しとるんや
あんまり責めたらあかん……代わりに本体を怨んでしまいそうやけど。

「ちびせつなを責めるなよ？
その原因は本体にあるんだからな
まぁ……ちびせつなに責任が無いとは言わんが
本体と違って謝ったんだ、責めるのはお門違いだ」

そうなんよなぁ……悪いんは本体なんやし
人間やない事が秘密って言ってたけど、そんなんどうでもええんや
そんな下らない理由で堅守先生に酷い事して……
巻き込まれたちびせっちゃんも可哀想や。

前回から置きっぱなしになっとる魔法球
これからウチのサバイバルが始まるんやな。

「最後に2つほど……1つはアドバイスだ
もし諦めそうになったら昔を振り返ってみろ
もう1つは……特別にこれをプレゼントだ」

渡される黒い剣……それって妖刀ひなやん！

【そ、それは！
なんでそんな物を持っているんですか！？
このちゃんにそんなのを渡したら駄目です！】

やっぱ知ってるんやな、ちびせっちゃん
昔、京都を崩壊寸前にしたり、神鳴流を追い詰めたみたいやからなぁ
知っててもそこまで不思議やあらへんか。

「ええねん、ちびせっちゃん
ウチはその刀を……使いこなせるんやから」

堅守先生からひなを受け取る
記憶の幻想世界で何度も使ってたから分かる
これは記憶世界の奴より強力や……さすが実物って所やろか？
ウチの思っていたよりも凶悪、また操れるように努力せなな。

【使いこなすって……このちゃん！】

「大丈夫や、ちびせっちゃん
ウチは闇の魔法にも手を出してるんや
妖刀やって平気、当たり前なんや」

【闇の魔法……】

「ちびせつな、詳しい事は俺が教えてやる
文句も俺が聞こう、だから少し待て」

ちびせっちゃんを抑え、ウチを見る堅守先生
頷き、刀を抜く。

「……大丈夫や、制御はできる
長時間は無理そうやけど、短時間やったら問題無しや」

「なら持っていけ
ただし、使い時を誤るなよ？」

「はいな！
ほな堅守先生、行ってきます！」

刀を鞘に収め、ダイオラマ魔法球に向かう

さぁ、頑張るで！

「頑張れよ近衛
もし達成できたらご褒美を進呈してやろう
……俺との強い繋がりをな」

魔法球に入る直前にそんな言葉が聞こえた
どういう意味か、聞き返す前に魔法球内へ……
繋がりって、なんなんやろう？

……
……
……

堅守先生の言葉は気になるけど、もうサバイバルは開始されとる
戻って訊いてもいい思うけど……あかんな
そんな事したら開始早々ギブアップ扱いされそうや
厳しいんやし、多分許してくれへんやろう。

さて、最初は食料探しや
食料の大切さは前回でよう思い知った
また生き物を殺す事になってまうんは辛いけど
それでも生きる為や。

怨むなとも、怒るなとも、そんな事言われへん
謝るんも無理、諦めるんも無理
ウチは全てを受け入れる、生き物を殺した罪やってそうや
それぐらいせな、生き残るんは不可能なんやから。

早速、初期位置から移動して森に入ろうとしたら……

突然海から出てきた巨大な烏賊みたいな足が数本
……え？　太さがウチの体より太いんやけど？
それが数本って……

驚きから少し動かれへんかったけど
冷静になった途端に慌てた、そりゃもう慌てた！
あんな化け物、いつの間に出てきたん！？

そんでその体が……デカ！？　めっちゃでかい！
世界樹ぐらいの大きさはあるやん！
なんであんなんがこんな場所に生息しとるん！
しかもアレで頭の部分しか見えへんってどういう事なん！？

次に巨大な音を立てながら海から出てきたんは……大蛇！？
もしかして海蛇みたいなんなん！？
てか、こっちもめっちゃデカ！
さっきの烏賊みたいな化け物と同じぐらいでかいやん！

いつの間に海にこんなんが……
もしかして海、めっちゃ危険な場所になってるんやない？
魚、魔法で捕れるかと思ったけど、諦めた方がええやろか？

さっさと陸に上がり、海を見てみる
巨大な……普通の小学校ぐらいありそうな巨大な鳥が飛んどった
あんなん、どうやってこん中に入れたんやろうか？

他にも変な動物が飛んどった
頭は鹿みたいなんやけど、体は鳥で……変な動物や
どんな生まれをしたらあんなんになるんやろう？

なんや、他にも意味不明なのが一杯
海にも他に沢山変な生き物が居るし
……ウチ、どこに迷い込んだんやろう？

【久しいな、童】

「誰や！」

後ろからの声に振り向く
そこに居ったんは前回戦った天狗
でも、久しいってどういう意味なんやろ？

「天狗さんやん
でも、久しいってどういう意味なん？」

【どういう意味もなにも
童が去ってから既に４ヶ月近くになるが？】

なんで４ヶ月なん？
……あ、ここって別荘内の魔法球やったんやな
ずっと別荘内は時間が凄い速さで進んどったんやろうか？

外１時間＝別荘２４時間　別荘２４時間＝魔法球２４０時間
外１時間＝魔法球２４０時間＝１０日
ここ出たんは外で７時、今入ったんは６時や
間は１１時間やから２６４０時間、１１０日やから約４ヶ月になるんか。

「ウチ、外に出とったからあんま時間経ってないねん」

【よう分からんが……ふん
どうやら最後に会った時より腑抜けとるの
どれ……そぅら！】

「ちょ、いきなり何するん！？」

天狗さんが葉っぱみたいなんでできた団扇を仰ぎ、突風を……
これが天狗の風起こしなんやろか？
かなり強い風やけど、そこまで怖ないで！

【ふん、外は知らんが甘えとったようだな
我はずっと修行しておったぞ、毎日な】

天狗さんが立ち上がり、消えた！？
どこに……

【ここだ】

「がはぁ！」

せ、背中を蹴られ……前より威力が上がっとる？
それでも手加減されたんは分かる
本当にずっと修行しとったみたいや。

【我は以前より強くなった
それに比べ貴様は……】

そんな事言われても、ウチは外に居ったんやから仕方無いやん！
言い訳なんは分かるけど、差ができるんは当たり前や！

【今の童と遊ぶ価値は無い
さっさとその腑抜けた気持ちを捨てるのだな】

そう言って森に消えていった天狗さん
……軽蔑されたやろか？
なら、また強うなって見返したる！

そして、天狗道具を今度こそ手に入れるんや！
でも、どこに保管しよ？

それはそうと、とりあえず森に入ってみる
前回来た時より暗い雰囲気や……なんでやろ？
もしかして海みたいに新しいんが居るんやろか？

なんか馬みたいな足音が……
でも音の回数が多いから複数？
そう思って音のする方を見てみたら……あるぇ？
馬は馬やけど、足が８本も有るんやけど？

しかもウチに気付かないままどっか行ってもうた
速度はかなり速くて、前の天狗さんぐらいやろか？
でも散歩している感じやったし、もっと速いんちゃうやろか？

……ん？
今、後ろから藪をかき分ける音が……
今度はなんやろうと思って見てみると
大型犬ぐらいの犬の体をした、猫みたいな顔をした怪物が居った。

なんやこっちを見ながら涎を垂らしてるんやけど……
これ、ウチを食べようとしてるんやろか？

〔ぐるるるる……〕

う、唸っとるなぁ
これはちょっと……覚悟を決める必要が有りそうや。

魔力で身体強化をした瞬間、襲ってきた犬猫
野性の感みたいなんでウチの覚悟を悟った？
でも、動きは思ったより速ない！

最小限の動きで避けよ思ったけど
相手の体は犬、小回りが利く可能性が高い
せやから少し大きく避けて、呪文の詠唱や！

「プラクテ・ビギ・ナル
炎の精霊２１柱、集い来たりて敵を焼き尽くせ！
魔法の射手・連弾・火の２１矢！」

〔ぐぉおおお！〕

獣は火に弱いんが定石や
本能的にも、肉体的にもや！
そして弱らせたら次は……

「プラクテ・ビギ・ナル
風の精霊２１柱、縛鎖となりて敵を捕まえろ！
魔法の射手・戒めの風矢！」

これで完成や、捕縛成功
後は殺して、食べるんやけど……

犬の味なん？　猫の味なん？
それとも全く別の味なんやろか？
体が体やからちょっと怖いわぁ。

ひなを鞘から抜き、首を落とす
猫の頭はちょい嫌やしな
犬の体を掴み、森の外まで運ぶ。

実際に殺してみて思うた
ウチにはもう、動物の殺害に禁忌感がほぼ無い
全く無い思わん……いや、思いたない
せやけど、ほぼ皆無に等しいやろな。

森の外へ運んでる途中、鬼が近づいて来た
ごつい顔しとるけど……視線はウチを見てない
見てるんは犬猫、ウチの獲物を奪うつもりやろか？

少ししたらもう1体、ちゃう、2体出てきた
これは……敵やろうな
ていうか、自分以外は基本的に敵や思っておかな危ないわ。

先手必勝！
まだ少し離れとるし、今の内に攻撃したる！

「プラクテ・ビギ・ナル
来れ氷精大気に満ちよ、白夜の国の凍土と氷河を！
こおる大地！」

鬼の足元に大量の氷の棘を生み出し、鬼を串刺しにする
一撃で絶命、この犬猫はウチのや

なんか食べたいんやったら自分で確保してぇな。

でも、あんまり長居したらあかんな
今の騒ぎで野性の動物とかが襲ってくるかもしれへん
という訳で、急いで離脱や！

でも、そう甘くないんは当たり前やったな
出てきたわ……騒ぎが気になって様子を見に来た化け物が
額に目が1つだけ有る巨人の男
その体は3階建ての建物ぐらいの高さはあるわ。

〔ごふっ、ごふっ〕

話す事は……できへんみたいや
そんで、犬猫やなくてウチを見とる
雌を見つけて襲おうって事やろか？

一応、性的な事は知ってる
前回のサバイバルん時に教えてもろた
もし人型の雄の化け物に出会った場合
繁殖用の雌として捕まる可能性が有るから気をつけろって。

その派生で性的な事を教えてもろた
ちょっと生々しくてアレやったけど……それはさておき
気のせいか、ウチの事を嫌な感じに見てる気がするわ
これが性的に見られるって事やろか？

〔がふっ……がぁあああ！〕

やっぱ襲ってきたわ！

犬猫を捨て、相手より小さい体を生かして逃げる
背後に回ってっと。

「プラクテ・ビギ・ナル
闇夜切り裂く一条の光、我が手に宿りて敵を食らえ！
白き雷！　術式固定、掌握！」

白き雷で身体強化！
付与効果は速度上昇、防御力低下、攻撃力微上昇
闇の吹雪は近接用、これは速攻やヒット・アンド・アウェイ用や！

「プラクテ・ビギ・ナル
戦いの歌！」

これで身体強化、ひなは……今回は使わへん
そこまで速いわけやなさそうやしな
これだけでも十分勝てるやろ。

「装剣！」

剣を持ち、巨人に攻撃を仕掛ける
巨人は既にこちらを向いてたけど、そんなん無視や
白き雷装填状態、今命名、白雷装着！
戦いの歌も追加して追加命名、白雷戦歌や！

正面襲い、巨人の伸ばしてきた腕を股下を潜って回避
そんで隙だらけの背中を切り裂く！
血が飛んできたけど、さっさと移動して回避。

「ぐおおおお……」

痛みから蹲ってるみたいやけど……この程度なん？
思ってたよりずっと弱いやん
これやったら戦いの歌だけでも勝てたんやないかな？

なんや、相手にするんも面倒になってもうた
さすがに人型を殺すんは気が引けるし、もう止めよかな？
そう思って犬猫を拾いに、巨人から目を離したんやけど、それが失敗やった。

〔ぐほっ、ぐふ……がぅあああああ！〕

「え？　がっ……はぁ！」

巨人が叫んだ思ったら、いきなり蹴りを……
しかも手にはウチの体ぐらいの大きさの岩を持っとる
もしかしてそれで殴るつもりやないやろな？

〔がふっ、がふっ、ぐふぅ……がああああ！〕

本気で殴ってきた！
あかん、さっき蹴られた痛みはそんなないけど
それでもバランス崩してまだ起き上がれとらん！

もうあかん思ったけど、巨人の攻撃はウチから少し外れた場所に叩きつけられた
ちょっと訳分からんけど……チャンスや！

「右腕解放、白き雷！」

〔ごあああああああああああああ！！！〕

体内に取り込んだ魔法を外に撃ち出す魔法
右腕から取り込んだんやから右腕から撃ち出す
左腕からでもできるんやけど、右腕からしたからイメージがしやすいこっちを使う。

そして白き雷を巨人の目に放った
これで巨人は一生目無し生活、目玉潰したから永遠に見えへん
残酷やろうけど、あんたみたいなんに貞操を奪われるんはご免やわ。

〔ごあああ、があああああああ！〕

とっと、痛みと見えない視力に混乱して暴れおうた
無視してもええんやけど……煩いし、匂いとか覚えられてたら厄介やあんまりしたないけど、殺す。

ウチは巨人から少し離れる
ここら辺やったら声が聞こえて反応してそれから移動しても間に合わへんやろ。

「プラクテ・ビギ・ナル」

案の定、巨人はウチの声に気付いた
怒りから足取りは速いんやけど……まだまだ遅いわ！

「ものみな焼き尽くす浄北の炎
破壊の王にして再生の徴よ、我が手に宿りて敵を喰らえ！
紅き焔！」

向かってきた巨人の顔を爆炎で燃やし尽くす
巨人の頭は爆発により、悲鳴を上げることもできずに死亡
体だけは襲ってきた時の勢いで進み、ウチの横を通って倒れた。

それにしても……ウチの炎魔法は威力が高いわ
やっぱ料理ん時によく使ってたからやろか？
符術での炎やけど、もしかして得意属性になった？
……なんや情けない理由やなぁ。

それはそうと、巨人の頭は吹き飛んだんやけどあんま血は出てない
炎で傷口を燃やして焦がしたからやろか？
でも、さすがにこの巨人を食べる気にはならへんわ
このまま鬼と同じように無視して、犬猫を拾ってさっさと行こっと。

……
……
……

犬猫を解体し、焼いて食べる
あんまり美味しなかったんが残念や
そういえばウチ、犬も猫も食べた事なかった
せやから比べるとか無理やったわ。

食後は暫く瞑想
サバイバルん時に毎日させられてたから癖になってもうた
集中するんは当たり前なんやけど、さすがに危険
せやから瞑想ん時は毎回結界を張ろ思う。

強度の高い結界を張ってっと
暫く瞑想や、瞑想

無心になり、全てが一体となるように……

……ん？

誰かが近づいて来て……男の人？

でも人間には見えへん、異種族やろうか？

【お嬢さん、こんな場所で何を？】

なんやろう、言葉と同時に何かがまとわりついてる感じや

これって魔力やろか？

気持ち悪い……体中を触られている気分や！

「瞑想中や、邪魔やからどっか行ってくれへん？」

【おや、私の誘いを断るのですかな？

無理をしなくても、自分の心に素直になればいいのです】

う……魔力が更に多く……どうなっとるん？

目的は何や？　本気で気持ち悪い

感覚的に体を舐め回されている感じで悪寒が……ぶるぶるや。

「邪魔せんといてって言ったやろ！

そんでこの気持ち悪い魔力、止めてくれへん！」

【チッ……】

舌打ちをして去って行った男

目的は何か分からんかったけど、魔力も止めてくれた

もしかして目的って……ナンパやったんやろか？

気分も害されたし、ちょっと集中は難しそうや
仕方無いなぁ、諦めて狩りでもしよか
今度はどんな生き物が出てくるやろか？

2日目

「ぁあああああああああ！」

はあ、はあ、はあ……ゆ、夢？
夢……やんな？　こ、怖かったぁ……
なんでやろ？　今まで怖い夢観てもここまで怖なかったんやけど。

ウチが今まで殺した生き物が出てきて……
そうや、今までも似たような夢は観ててん
でも、そんなに怖なかった……でも今日は怖い
なんで怖いんやろ？　なんで……分からへん。

あかん、弱気になったら駄目や
もし襲われたりしたら殺されてまう
気持ちを切り替えて、油断しないように気をつけなな。

お肉は昨日のんが残ってるからええとして
今日は山菜とか、魚とか、木の実とかやな
森ん中は危険やけど、入らんって選択肢は無いんや。

5日目

……怖い夢も慣れてきたわ
でも、突然怖い思った理由も分かった
前回は何か殺しても、堅守先生が一緒に寝てくれた
せやけど今回は別、堅守先生が居らへん
そら怖いわ……一緒に寝てくれへんねんから。

さて、それよりもご飯調達や
動物系が居ると助かるんやけどなぁ
無理やったら海で飛んでる鹿と鳥が合わさった奴でも捕まえよか？
群で行動しとるからあんま手出ししたないんやけど……

最初は森漁りからや
という訳で、暫く何か探してるんやけど
なかなか何も見つからんなぁ。

何か無いかと思い、キョロキョロとしてたら
視界の端になんか棒みたいなんが……こっちに来とる？
よく見てみると……めっちゃ長い手？
……って、手ぇ！？　しかもこっちに伸びてきとるし！

あかん、油断した！
体を手に掴まれ、そのまま引き戻されて……どんだけ長い腕やねん！？
伸びてた腕は森を抜け、山の方まで
ウチ、どこまで連れられるんやろう？

暫く引っ張られると中央の山まで……

確かこっちは凶悪な魔物が多いって言われてた場所や
今のウチの実力で生きて帰れるやろか？

そしてやっと腕の主の姿が……って、おじいちゃんやん！
ヨボヨボやし、でも意味が分からんぐらいの腕の長さが凄い！
ついでに近くに一緒に居るおじいちゃんは足がめっちゃ長っ！
どうなってんねん、あのおじいちゃん達は……

手がウチの体を掴めるぐらいなんやから大きな体やと思ってたけど
普通に巨人や、この前の１つ目の化け物ぐらいの体しとるわ
違いは腕と足の長さやな。

手をこっちに寄せて、大きく口を開いて……口を開く？
ウチを食べるつもりなんかい！
黙って食べられるほど、ウチは優しくないで！

と、言いたいとこやけど
体を丸ごと、腕も一緒に掴まれてるから何もできへん
魔法も腕から放出してる事が多いから他から出せる思わへんし
闇の魔法も魔法を掴んで体内に入れる、刀も抜けへんし……万事休すや。

でも、ウチを食べる瞬間に手を離すはずや
その時に刀を抜いて……首を落とす！

勢いよく引っ張られ、そのまま投げられた！？
しかも口の中に直線コースや！
せやけど、これはこれで好都合！

「プラクテ・ビギ・ナル

来れ氷精、爆ぜよ風精！　氷爆！」

とりあえず近くに居った足長のおじいちゃんの頭を撃ち抜きを殺す
手長のおじいちゃんは……宣言通り、首を落とす！
ひなを抜き、構えて呪文詠唱や！

「プラクテ・ビギ・ナル
氷撃武器強化！」

ひなに魔力を通し、氷属性を付与する
……あえ？　巧く魔力が通らへん……って、あかんやん！

「装剣！
プラクテ・ビギ・ナル
氷撃武器強化！」

予想外の事態に混乱しかけるけど
そんな事しとったら食べられてまう
すぐに剣を召喚し、属性付与！

「装剣氷技・氷空斬！」

闇の魔法は体に魔法を入れて体を強化する魔法や
そして妖刀氷技・氷空斬はその魔法の力を刀に宿し
氷の力を撃ち出すという技や。

つまり、剣に氷属性を付与したら同じ事ができるんは道理
空中で使ったんは初めてやけど、巧くできた！
手長のおじいちゃんの首を落とし、ウチの体は口に入らず
飛んだ頭の向きが変わって頬に直撃

柔らかい場所に当たったからそこまで痛なかったわ。

でも、当然やけどかなりの勢いでぶつかった
頭とウチは強く地面に叩きつけられた
痛かったけど、少しでも勢いが殺されとって良かったわ。

首を飛ばされた体は倒れ、即死
……ふぅ、今回はさすがに死ぬかと思ったわ。

安心した所で突然影が……影？
ウチの居る場所って、山のかなり上の方やで
こんな場所に影なんてできるはずが……

そう思って振り返ってみると
緑の鱗、蜥蜴のような体、前足が無くて翼、そして巨大な体
これってファンタジーでよく出てくるドラゴンの一種、ワイバーンやろ……か？

「……」

「……」

沈黙、さすがにこれに勝つ自信は無いわぁ
ついでに動いたら確実に食べられる自信も有る
動かず、声も出さず、待つ。

「……」

「……」

〔……ぐるるる〕

ウチに興味を失ったみたいで、さっきのおじいちゃん達を食べ始めるワイバーン
違う方を向いとるし、今の内に……

ワイバーンの方を向いたまま、後ろに下がる
砂利を踏んだ音がし、ワイバーンが再びこっちを向く
またお互いの動きが止まる……まるでだるまさんが転んだや
ただし、命がけの、生死を賭けただるまさんが転んだやけどな。

ウチから目を離し、再びおじいちゃん達を食べるワイバーン
足音だけでこっち向かれたら動かれへんやん
ウチは何もせず、黙ってワイバーンの食事を待つ。

暫く待ち、食べ終わったワイバーン
そのまま咆吼を上げ、どっかに飛んでいった。

し……死ぬかと思ったわ
まさか竜種に会うとは思わんかったわ
ほんま、ここって色んな生き物が居るんやね。

でも……どうやって帰ろう？
さすがに森や浜辺の生活と違って、山での生活は未経験や
しかも、こっち側は凶悪な生物の巣窟
これは……本気で覚悟を決めな死ぬかもしれへんな。

……
……
……

ゆっくり、確実に山を下りていく
魔獣みたいなんが近くに来た思ったらすぐに隠れる
見つかりそうになっても隠れる、戦うなんて論外や。

そしてもう夜
問題はどこで寝るかや
こんな危険な場所で寝たら……殺されてまう！

どこか洞窟とか、そんなんは無いんやろか？
そう思って岩壁になってる場所を探してみるけど
やっぱり洞窟なんて無い。

仕方無い、襲われる事を前提にして考えんと
えっと……あ、小さな凹み発見や！
ここに背を向けて、ウチにできる最強の結界を張ってっと
これだけすれば少しは時間を稼げるやろ
結界を攻撃されたら気付くし、すぐに逃げなな。

できるだけすぐに動けるような体勢をして
ほな、おやすみなさい……

6日目

ふぁ……まだ明け方やん、朝になっとらんけど……とりあえず襲われんかったみたいや
結界も無事やし、近くを何かが通った足跡は残っとるけど

気付かんかったんか、興味が無かったんかでスルーされたみたいや。

今日はひたすら森の中を歩く
少しでも早く元の場所に戻る為や。

はぁ……こんな事になるんやったら
あの手長の腕をさっさと切り落としたらよかったわ
ほんなら殆ど移動せずに済んだんに
どんなんか好奇心を出さならこんな目に遭わずに済んだんになぁ。

む、なんか居る
体を木に隠し、少しだけ頭を出して見てみる
そこには毛むくじゃらで、鼻とか耳が大きくてちょい気持ち悪い顔をした、背の低い大柄の化け物
更に頭が2つ有るんが化け物って感じを思わせる。

どう見てもパワータイプ
あんまり速い思わんし、逃げ切る事は可能やろ
でも、今動くんは難しいやろか？
相手の頭は2つ有るんやし。

どうするか考え、集中してなかったんが拙かった
化け物と逆方向から来てた、頭が3つ有る似たような化け物
それに気付かず……

「あがっ！」

頭を殴られ、気絶
ウチ……どうなるんやろ？

視点　エヴァンジェリン（人工霊）

ふん、油断しおって
まぁ確かに経験の浅い小娘にしては頑張ったが。

近衛木乃香はトロールに後頭部を殴られ、気絶
トロールは頭は悪い乱暴者だ
しかし近衛木乃香を殺さずに、捕らえる為に背後から殴ったということは……繁殖用か？
食ったりする為なら即死させるはずだし。

トロールは格が高い程、頭の数が増えるが
さて、今の近衛木乃香にトロールを倒せるかな？
あいつが本気を出しても勝てるのは精々２つ頭まで
３つ頭のトロールに勝つ事は不可能だ。

近衛木乃香は気絶したまま、洞窟まで運ばれる
トロールの数は３匹
それぞれ１つ頭、２つ頭、３つ頭と存在している
さて……どうする？

あの男からの指示は簡単だ
治療できる範囲での死ぬ寸前、または処女を奪われなければ構わない
それまでは絶対に、何があろうとも助けるな……か。

死ぬ寸前なのは理解できる
死んでは元も子もないからな

例え大怪我を負おうとも、骨が砕かれようとも
死ぬような怪我でなければ絶対に助ける事は禁止。

処女に関しての理由はかなり酷い
魔法薬、呪術などの作成に必要な材料に生娘の血が必要になる時があるからだ
決して近衛木乃香の精神安定の為ではない
寧ろ、処女さえ失わないのならば、死なな程度に乱暴された方がいいとまで思っているだろう
近衛木乃香を更に壊す為、あいつは……必要ならば戸惑い無くそれが言える、屑人間だ！

何が……「近衛の処女に興味なんて無い
必要となるだろうは処女の血であり、近衛の血ではない
破瓜の血も貴重だが……滅多なことでは手に入らない
だからといって処女の血も重要だが、そうそう捨てていい物でもないしな」……吐き気がするな。

他にも巫女性を重視し、処女を守らせている
おそらく、奴が近衛の面倒を見ている限り
近衛木乃香に男ができても決して子は産ませんだろうな
……まぁ、奴に依存している近衛木乃香が他に男を作るとは思えんが。

他にも血を手に入れるのは可能だが
工程が面倒だの、金が必要だの、隠れてしなければならないだの
そんな理由から近衛木乃香は便利な生娘なのだろう
あいつは女を何だと思っているのか！

まぁ、私も近衛木乃香の血を飲むから文句は言えんが

やはり血は生娘の血に限る
あの魔力が大量に籠もっており、生娘特有のスッキリとした味わい
しかもまだ１０代中頃、丁度良いぐらいに味わい深いタイミングだ
だから私は近衛木乃香の命と貞操……処女だけは守ってやる。

そう、私にも都合がいいからだ、それ以上に深い理由は無い
決して体の事で脅されたわけでも
助けたら血を多めに飲ませてくれるわけでも
桜咲刹那の式神を苛めるチャンスを得られるわけでもない、絶対に
だ。

話を戻し、トロールの目的はほぼ確実に繁殖用の雌だろう
そうでなければ最初の１撃を手加減せずに棍棒を振り落とし
頭蓋骨を粉砕して近衛木乃香は御陀仏だったな
奴らに愛玩動物だの、玩具だの、そんな知能は無いだろうしな。

まぁ、もう暫くは見ているだけにさせてもらおうかな
命と処女さえ奪われなければ無視してやるつもりだし
唇とかは奪われるだろうが、当然ながら無視
まぁ、精ぐらい飲まされるかもしれんが我慢するんだな。

……いや、それでもかなり近衛木乃香の為になるかもしれんか？
トロールは妖精、妖精の精を得ることなんて滅多に無いだろうし
それを入手できるのなら魔法薬の作成とかに役立つかもしれん
色々と嫌な想いをするとは思うが、それは我慢してもらうしかない。

さて、近衛木乃香は洞窟内に運ばれたか
しかしあの洞窟……確か馬頭鬼と牛頭鬼がいたはず
トロール程度で鬼に勝てるはずもない
運の悪い奴らめ、その洞窟を選んだ不幸を呪え。

しかし馬頭鬼と牛頭鬼は頭が悪い
トロールを殺すだけならまだしも、近衛木乃香まで殺されては困る
仕方無い……どちらも殺すか。

トロールにばれないよう、注意しながら洞窟に入る
見えるが気付かれない程度には離れながら、トロールの様子を見る。

……お、鬼を見つけて慌ててるな
近衛木乃香を捨て、情けなくも逃げ出したトロール達
奴らの行き先は私の所だが、私はトロール達を無視する
指示されたのは死と貞操だけだ、そうでなければ私は関与せん。

近衛木乃香はトロールに投げ捨てられた時、体を打った痛みで目が覚める
気がつき、すぐに周りの状況把握
そしてすぐ近くに居たのは馬の頭を持つ鬼、馬頭鬼
隣に立っているのは牛の頭を持つ鬼、牛頭鬼
近衛木乃香は驚き、一瞬だが動きを止める。

しかし、すぐさま状況を把握
傷む体を無視して逃げだそうとする。

だが目の前で逃げようとしている者を見逃すほど、鬼は甘くない
そして鬼達の速度は近衛木乃香を超えている
馬頭鬼は近衛木乃香を追いかけ、肩を掴む。

「プラクテ・ビギ・ナル
火よ灯れ！」

肩を掴まれた瞬間、振り向いてすぐさま火を点す
目的は馬頭鬼の顔を焼くこと
良い方法だとは思うが……相手が悪かったな。

「へ？　ひゃあああああっぐ！
な、なんで効いとらんの！？」

相手は馬頭鬼、地獄に住む鬼だ
集熱地獄、極寒地獄などが存在するのが地獄だ
そんな場所に住む相手に、あの程度の炎が効くとでも？
やはり無知は罪だ、事戦闘に限っては特にな。

近衛木乃香は馬頭鬼に掴まれた肩から引き倒される
座り込んだ馬頭鬼は腕を足で踏み、頭を腕で押さえて近衛木乃香の
上半身を固定する
そして牛頭鬼が下半身に……む、これは拙いか？

「な、なにするつもりなん？
……まさか、ウチを……」

気付いたか？　いや、当然か
奴から性的な話は教えられているはず
少しは覚悟してるだろ？

「嫌や……絶対に嫌や！
装剣！　プラクテ・ビギ・ナル
雷撃武器強化！」

ほぅ？　剣を取り出し、雷属性の属性付与魔法か
他の属性よりは効果的だろうな

地獄の伝承に、雷関係の物は無い……が。

「えぇえええい！」

残念ながら、根本的な問題
実力の差がとても大きいのに、貴様は気付いていない
剣を取り出し、手首だけで腕を切り落とそうとしたのは良い
だが、相手にはそれが通用しないんだよ……貴様程度の力ではな。

「刃が……通らへん」

地獄で鍛えられた鬼が高が強化しただけの剣に斬られるとでも？
まぁ、近衛木乃香はあまり伝承などを知らなそうだし、仕方無い
私とて、封印されていた存在の資料を読まなければ知らない存在も多い
奴はどうやってこんな化け物共を封印し、手に入れたんだ？

「ひやあああああ！
嫌や、嫌や！　服破かんとって！
離して、ウチを離して！」

近衛木乃香は抵抗するも、どうしようもない
足をいくらばたつかせようとも、牛頭鬼は止まらない
近衛木乃香の服を破り、下半身は下着と靴下だけ
上半身も胸元が見えそうなぐらい破られ、鳩尾より上しか無事な部分は無い。

「はな、はな……離っせえええええええ！」

珍しく荒い口調をし、抜けだそうとする

が、当然ながらその程度では馬頭鬼の拘束からは抜けられない
牛頭鬼を自由な足で蹴るも、邪魔そうにされるだけで影響は無し
さぁ、どうする？　私はまだ助けないぞ。

「こうなったら……最後の手段や！
プラクテ・ビギ・ナル
来れ氷精、闇の精！　闇を従え、吹雪け常夜の氷雪！
闇の吹雪！」

鬼達は詠唱の意味を理解していないのか、それとも近衛の体に集中
しているのか
何も邪魔されず、魔法は完成され、放たれる闇の吹雪
闇の吹雪は適当な方向に向けられて撃たれたので鬼に影響は無い
だが撃たれた先はこの洞窟の壁、つまり……洞窟の崩壊か？

案の定、洞窟の崩壊が始まった
鬼はそれに勘付き、近衛木乃香を置いて逃げ出した
さすがに鬼も生き埋めになるのは嫌だったらしい。

「よかった、汚されんで……舐められたり触られたけど
ウチはまだ清い体や、絶対そうや
だから……だから堅守先生、嫌わんとって……お願いやから」

くっくくくくくく……自分に言い聞かせているのか？
奴は寧ろ、汚されることを望んでいるんだがな
それを知った時、貴様はどう思う？
自身の目的の為だけに……貴様を進んで汚させようとしていると知
ったら。

……ッチ、言えないのがこれほどまでにつまらんとはな

奴が私の体を用意し、近衛木乃香が私をその体に入れる儀式をする
それが終わるまでは近衛木乃香に手出しはできんか。

体と自由……この2つのカードが有る限りは暫く言う通りにするしかない
もしそれが終わったら……本体に血という血を全て吸わせて殺すか？
いや、そうなると本体が危険になる、私が直々に殺してやろう……
くくくくく。

「っと、現実逃避もいい加減にせなな
生き埋めになるんはご免や、さっさと逃げな
プラクテ・ビギ・ナル　戦いの歌！」

おっと、私も逃げないと
私だって生き埋めにされるのは嫌だ
近衛木乃香に見つからないように注意しながら洞窟から脱出する
飛び上がり、洞窟を見てみると近衛木乃香も脱出できたらしい
そして、洞窟は完全に崩壊し、山が崩れて……崩れて？

うぉおおおおい！　山が、山が崩れてる！
いくら小山だからって、貴重なダイオラマ魔法球を破壊するな！
これがいくらすると思っているんだ貴様は！
本体の全財産でも買えるか分からんぐらいの貴重品なんだぞ！
……まぁ、持ち主は奴だからどうでもいいんだがな。

とりあえず、ピンチは脱したようだし、見つからないように離れておくか
また捕まったりしないよう、注意するんだな
私が面倒になるし、私の体の為にも生き残れよ？
それに……まだまだイジメ虐め足りないしな。

さて、そろそろもう1つの仕事をするか
それが終われば後は見張るだけ、楽な仕事だ
近衛木乃香、私に面倒を掛けさせるなよ？

7日目

視点　木乃香

……また嫌な夢やった
昨日襲われたんが原因か、嫌な夢がパワーアップして凄く嫌な夢になっとった
大丈夫、ウチはまだ綺麗な体なんやから
あんなん、牛とか馬がじゃれついてきただけなんや。

それよりも、服がボロボロ……
スカートも無しの下着だけやし
お腹丸出し……ブラも見えそうやん。

何かで隠したいんやけど、その何かが無い
こんな状態で残り２０日近くを過ごすんかな？
あかん、安い期待はせんとこ
これ以上ボロボロになるかもしれへんぐらい考えとかな。

それより、早く最初の場所に戻らな
いつまでもこんな危険な場所に居られへん

でも……どうやって戻ろう？
さすがにこの魔の巣窟を歩くんはちょっと無理が有るわ。

でも、まだ安全な方に行かんと危ないわ
ただでさえ昨日の鬼は強力やった
それにウチの頭を殴ってきたんの正体も判らんし
今のウチにはまだ、ここは荷が重い。

暫く森を歩き、何か生物を見つけたら隠れる
もう背後に油断はせん、不意打ちされてあんなんになるんはご免や
必ず木とかを背後に置いて、背中は取られんようにせなな。

隠れ、逃げ、そうやってなんとか森を抜けたんやけど
そこに広がっとったんは巨大な湖……飲めるやろか？
少し手に掬い、湖の水を飲んでみる……平気やな
そういえばまだこっちまで来た事無かったわ。

向こう側に行きたいんやけど
あんな生物が居るんやったら大変やろなぁ
馬ぐらいの大きさの、上半身は馬やけど足には鰭
下半身は完全に魚の化け物が何匹か居るわ。

空には頭と胸までは女性
せやけで腕や下半身は鳥の化け物
あんなんが飛んどったらどうしようもできへん。

湖にも、空にも監視者が居ったら渡るんは無理や
このまま湖に沿って、できるだけ陸と近い場所に行かな
勿論、あの鳥の化け物に見つかったりせんように気をつけて。

１０日目

な、なんとか陸に近い場所は見つかったけど
まさかこんなに時間掛かると思わんかったわ
何回鳥の化け物に襲われたか……最終的に殺せたけど。

最近思う、ウチの心は段々と壊れてきてるんやないかと
殺す事に戸惑いは無い、これは今更や
でもそれは相手が人間の姿やなくて動物やったから。

せやけど、あの鳥の化け物の顔は殆ど人間の女性やった
その首を落とし、殺したのにウチは罪悪感を感じんかった
人型の化け物は多かった、でも人間の見た目は居らん
せやのにウチは……見た目が一部でも人間の化け物を平気で殺した。

今、ウチが感じるんは寂しさと孤独感
殺し、殺されそうになっている現実
たった１人で生きているこの状況
壊れてきているかと考えた時、寂しさと孤独感を自覚した。

誰かと話したい……少しでもいいから会話がしたい
化け物の叫び声さえ、ウチに取っては心に安らぎをもたらす
何かの声を聞くだけで嬉しく思えてまう
それが例え悲鳴や鳴き声、苦しみや憎しみの声だとしても……

11日目

湖を渡り、元の島へ戻ってくる
せやけど、新しい問題が発生した。

ウチの目の前に居るんは首の無い馬に跨った首の無い騎士
あんな体でどうやって見たり聞いたりするんやろう？
そんな事を考えそうになった瞬間、首無しの馬がウチの方に向かって駆けてきた！？
しかも騎士も剣を構えてウチに向かって振り下ろそうとしてるし！

装剣……ちゃう、ひなや！
騎士相手にウチのにわか仕込みの剣術が通用するはずが無い！
ひなを構え、即座に呪文詠唱をする。

「プラクテ・ビギ・ナル
ものみな焼き尽くす浄北の炎
破壊の王にして再生の徴よ、我が手に宿りて敵を喰らえ！
紅き焔！　術式固定、掌握！」

体に炎属性を付与
付与効果は攻撃力上昇、防御力微上昇、速度低下
ウチはまだ奈落の業火は使えんから、これで代用や！
命名、紅焔装着！

「プラクテ・ビギ・ナル
戦いの歌！」

戦いの歌も追加、命名して紅焔戦歌！

正直、白雷戦歌と大して変わらん名前やけどな
でも闇の魔法の派生に代わり無いんや
だったら似た名前でもええやん。

それにしても気のせいやろか？
前に比べて負担が軽くなったような……気がする
どうしてやろう？　別に心辺りは無いんやけど。

今はそんな事どうでもいい、ウチはひなを持つ
馬の速度はそれなりの速さやったけど、距離があった
せやからなんとま呪文詠唱が間に合ったんやけど……
さて、勝てるやろか？

馬と擦れ違う直前、騎士が剣を振り落としてくる
ひなを上に構え、強化された体で受け止めたんやけど……重い！
勢いと力でこの強化された体を超えとる！

なんとか剣を弾くも、騎士はすぐさま馬の手綱を引いて反転
再びウチに向かって馬を走らせる。

「そう何度も同じ手を……」

そういえばあの騎士、頭が無いんやったな
なら話したりできへんやん、残念や
でも、話したり聞いたりできへんやろうけど
どうしてウチの居場所は分かるんやろか？

再び振り落とされる剣、同じように受け止める
重いけど、今度はさっきより力を込めたから平気や！

馬を反転させ、またウチに向かおうとさせようとした騎士やけど
3回も同じ行動なんてさせるはず無いやろ！

「右腕解放、紅き焔！」

反転しようとしてる背中に向かって紅き焔を直撃させ……られんと
避けられた！？
どこに目を着けとるねん……馬捌きも凄いし
やっぱ騎士って強いねんなぁ。

って、感心してる場合やないわ！
今のウチは強化されてない体
そんな状態であの騎士の攻撃なんて防がれへん！
しかも既に反転し、剣を振り落とそうとしてるやん！

「氷盾！」

剣を弾き、反らせた！
また反転してくるやろし、今の内に詠唱を！

「プラクテ・ビギ・ナル
闇夜切り裂く一条の光、我が手に宿りて敵を食らえ！
白き雷！　術式固定、掌握！」

装着、白雷戦歌！
新しく考えた妖刀技、受けてみい！

騎士が反転し、ウチに向かってきた瞬間
ウチの体は既に、騎士の後ろに有る。

「妖刀雷技・雷影斬」

馬の体が真っ二つに斬り捨てられる
雷影斬……雷とまではいかんけど、影を残すようなかなりの速度で斬る技や
雷の暴風はまだ使えへんからな、それが使えるようになったら完成なんやけど
白き雷でもかなりの速度、未熟者のウチでもこれぐらいならなんとか……

馬が斬り捨てられ、騎士が地に下り、振り返る直前。

「右腕解放、白き雷！」

ウチが先に騎士に白き雷を直撃させる
振り返ろうとしてるタイミングでの白き雷やいくらあの騎士でも、回避はできへんやろ。

そう思い、刀を下ろした瞬間
白き雷が直撃した、土煙が立っている場所から騎士がウチに向かって突進してきた！？
あの白き雷が直撃したはずやのに、なんで死んどらんの！？

ギリギリで刀で受け止められたけど
既に戦いの歌も闇の魔法も切れている状態
ひなのブーストだけで、構えてもいない状態でこの重い剣は無理や！

刀を少し傾け、滑らせるように剣を振り下ろさせる
騎士は後ろに引き、構えてくる。

どうする……どうすれば……
呪文詠唱なんてできへん、そんな時間は無い
武器強化魔法……あかん、ひなに魔力は殆ど通らへん
だからって剣を召喚するにも、当然やけど大きな隙や。

「プラクテ・ビギ・ナル
戦いの歌！」

魔法詠唱を始めた瞬間、騎士は襲ってきた
その足は速く、戦いの歌が完成した直後にはもう目の前に！
斜めから剣を振り落とされたけど、ギリギリ回避
足を狙ってひなを振るも、剣で受けられた。

この騎士、やっぱ強い
ウチが使うんは刀やけど、剣と戦う手段を知っとる
やっぱり見た目が騎士だけあって、剣との戦いに慣れてるんやろか？
打ち合う相手が居らんウチなんて足元にも及ばんのは当たり前やな。

ならどうやって勝つか
身体能力で勝つしか無いに決まってるやん！
せやけど闇の魔法を使うには詠唱が必須
当然やけどそんな暇も余裕も無い。

戦いの歌を使ってやっと身体能力はギリギリ同じぐらい
なのに技術の差が天と地ほどの大きな差
勝てる気がせん……せやけど、ウチは死にたくないんや！

どんな手段を使ってでも、絶対に生き残ったる！
汚い手？　卑怯？　最低？
なんとでも言ってや、ウチは生きる為やったら平気でしたるわ！

何故か、ウチのひなと騎士の剣で打ち合いが成立しとる
手加減してんのか、剣同士で楽しんでんのかは分からん
でも……その甘さが敗因になるんや！

剣と打ち合った直後、弾かれた瞬間に引かずに飛び込む
騎士はその一瞬を反応し、剣を振り下ろす
ウチは速度を落とさず、滑り込んでなんとか躱し、足元へ潜る。

「装剣！」

剣を召喚し、心臓の位置を貫く
動きが止まった騎士を無視し、足元を潜って騎士の背中で体勢を立て直す
そして剣を持つ腕を切り捨てる。

無様？　情けない？　醜い？　汚い？
そんなん全部言い訳や、プライドとかなんて死ぬ事に比べたら簡単に捨てたる
ウチは騎士やあらへんのや、馬鹿正直に正々堂々に付き合ったる必要は無いねん。

さっきの白き雷の件もあるし、この程度では死なんかもしれへん
首は無いし、腕と足を完全に切り落とす
既に騎士の体は胴体しか残っとらん、腕と足は別の場所に落ちとるわ。

「プラクテ・ビギ・ナル
来れ氷精大気に満ちよ、白夜の国の凍土と氷河を！
こおる大地！」

腕、足、そして胴体に馬も一緒に串刺しにする
動けんように、白き雷で消し飛ばせんかったんやから念には念を
悲鳴の声が聞こえんのが残念や……声を聞くだけでもウチは嬉しいのに
口が無い相手って、それだけで残念に思えるわ。

さて、首が無い体なんや
この程度で終わるとは思われへんし、最後の最後までせなな。

「プラクテ・ビギ・ナル
炎の精霊３３柱、集い来たりて敵を焼き尽くせ！
魔法の射手・連弾・火の３３矢！」

魔法の矢で体の部品を撃ち抜きまくる
これだけすれば完全に死ぬやろ……疲れたわぁ。

っと、油断したらあかん
また実は生きてましたってことになったらウチが危険や
ひなを鞘に収め、召喚した剣を持ったまま騎士の体から離れる。

辺りを警戒したまま、歩く事にした
早く離れて、元の場所に戻らなな。

１５日目

今日……何日なんやろ？

1人しか居らんから、時間の感覚が無くなってきとる
確かに日は落ち、昇る
せやけど数えたりしてへんから分からへん。

嫌な夢も、嫌なままやけど
心が麻痺してきたんか、もう嫌や思わんようになってきた
寧ろ慣れてきて、これが当たり前になってきたわ。

寂しい……話したい、声が聞きたい
今のウチのしたい事は……それだけ。

寂しい寂しい寂しい寂しい寂しい寂しい寂しい寂しい寂しい
誰か誰か誰か誰か誰か誰か誰か誰か誰か誰か誰か誰か
話したい話したい話したい話したい話したい話したい話したい
声が聞きたい声が聞きたい声が聞きたい声が聞きたい声が聞きたい

あれ？
あそこで血だらけで転がってるんって……

【童……か】

「天狗……さん？」

声や……声や！
もっと、もっと声を聞かせて！
自分とか、化け物の声やなくて話せる声を！

「あ、あはははははは！」

【があああ！

な、何をする童!?】

天狗さんをひなで刺す
そうや、声や！　声が聞こえる！
ウチの声やなくて別の生き物の声やぁ！

「もっと、もっとその声を聞かせて！
声や、声、声がもっと聞きたいねん！
どんな声でも、なんでもいいから声が聞きたいねん！」

【声じゃと!?
聞かせる、聞かせてやるから我の治療を……ぐっぎゃあああああ！】

「あはははははははははは
あっはははははは、あはははははははははは！
声や、声が聞こえる！　ウチは1人やないんや！」

嬉しい、嬉しい、嬉しい！
1人やないんがこんなに嬉しい思ったんは初めてや！
斬ったら呻き声とかやなくて、ちゃんとした声が聞こえるんや！
こんなん久しぶり過ぎて前はいつやったか覚えとらん！

昨日やったかもしれへん、5日前やったかもしれへん、10日前やったかもしれへん
そんなんどうでもええ、今が最高の気分やったらなんでもええねん！
ちゃんと言葉を話す声なんて珍しいやんかぁ！

【童……助け……】

「もっとや
もっと声を……言葉を……聞かせてんか？」

【……我は……死ぬ……のか？】

声が小さくなっとる……どうしたんやろ？
さっきまで大きな声出しとったやん
もっと出せるやろ？　大きな声とか。

【ぎゃあああああああああああ！
死ぬ、死ぬうあああああああああああああああ！】

「出せるやん、声
な、もっと聞かせて？」

刺したら聞こえるやん、声
ならもっと出せるやんな？

……
……
……

2時間ぐらいやと思う
それぐらい同じ事をして天狗さんとお話した
最後の方は小さい声しか出さんかったから悲しくなったわ。

最後の最後の言ってた言葉
確か……「堕ちたか」やったっけ？
堕ちたってどういう意味やったんやろ？
ウチ、別に穴とかに落ちた訳やあらへんおのやけど。

うーん……天狗さん、死んだんかな？
最初から怪我しとったし、治せばもっと話してくれたやろか？
まぁ、ウチの実力じゃあの怪我は治せへんけど。

なんや残念やわ
あの強かった天狗さんがあんなに大怪我しとったし
誰にやられたんやろ？　化け物にでも襲われたんかな？
でも天狗さんの速度やったら逃げ出せるん思うんやけどなぁ。

油断でもしたんやろ、上から目線が多かったし
慢心とかしとったんやったら負けても仕方無いしな
ウチは慢心とかせえへんで？
だってここの生き物、ウチより強いんばっかなんやもん。

そういえば天狗って、鳥やんな？
人の形と、人語を話すけど鳥やんな？
そもそも化け物やん、天狗も。

……食べたら、どうなんやろう？
おっと、その前に服を剥いどかなな
さすがに下着姿のままはいい加減に嫌やし。

１８日目

この前の天狗さんを殺してから何日か
お話できる相手が居らん

寂しさが爆発や……どないしよ？

とりあえず、化け物を殺して過ごすわ
今はこれぐらいしかできる事無いしなぁ
今日は何を殺そうかなぁ。

２０日目

あ……あそこに居るんって確か……ウチを汚そうとした鬼！
殺さな……あの鬼達だけは絶対に殺さな！

「プラクテ・ビギ・ナル
来れ氷精、闇の精！　闇を従え、吹雪け常夜の氷雪！
闇の吹雪！　術式固定、掌握！」

命名、闇雪我装……気のせいやろか？
初めてした時より、ずっと楽になっとる
なんでやろ？　ウチの体に闇の魔法に馴染んでる？
最初より、強化度が上がってる気がするわ。

「プラクテ・ビギ・ナル
戦いの歌！」

命名、闇雪戦舞
そしてひなを鞘から抜いたんやけど……ひなの闇が強うなっとる？
よう分からんけど、強うなるんやったら何でもええわ。

「妖刀氷技・氷空斬！」

馬鬼の首を落と……せんかった
やっぱあの鬼達は格が違うって事やな
まだウチの実力では殺せんか……

ウチやって馬鹿やない
今の1撃で殺せるかどうかの判断ぐらいはできる
仕方無い、殺すんは確定しとるけど今は無理や
諦めてさっさと逃げさせてもらうで。

鬼達には気付かれたけど
そう簡単に捕まったりせいへんで？

「右腕解放、闇の吹雪！」

闇の吹雪を当て、すぐに逃げる準備をする
捕まって汚されるんはもう懲り懲りや！

「プラクテ・ビギ・ナル
闇夜切り裂く一条の光、我が手に宿りて敵を食らえ！
白き雷！　術式固定、掌握！」

白雷戦歌、速度上昇でさっさと逃げさせてもらうわ
鬼いうても、この速度には追いつけへん！

すぐに離脱し、鬼達から逃げる
さて……もっと強うなる為にもっと殺さなな
少なくとも、あの鬼達を殺せるぐらいには……

28日目

……あ、朝や
……そうや、獲物を探さなな
なんでウチ、こんな目に遭っとるんやっけ？

そうや、確か誰かが言っとったな
諦めそうになったら……昔を思い出せやっけ？
ふと、自分の手を見てみると指輪……誰からやっけ？
昔を思い出す……思い出す？

昔……そうや、お父様とお母様
最初は京都に住んどって、せっちゃんに会ったんやったなぁ
あん時は楽しかったわ……手毬とかしてんな。

そんで……そうや、川で溺れそうになったんを助けてくれたんや
失敗して、大人の人に助けられたんやったな
守れんでごめんって謝っとったっけ？

……なんやろうな、その傲慢
子供の癖に、1人でウチを守るつもりやったんやろか？
ウチもアホやな、そんな言葉で嬉しなって
昔はそんなんどうでもいいから遊んで欲しかったんやけど。

麻帆良で再会してからは、冷たい態度を取られたんやっけ？
それで泣いてもうた事もあったっけ。

せっちゃんの任務は確か、ウチの護衛
護衛って離れてするもんやっけ？
確か魔法とか隠しておかなあかんって離れてるんやんな？
離れて護衛とか、護衛を舐めてるとしか思えへんのやけど。

魔法を隠す為？　話さなかったらええだけやん
正体を知られたくない？　言わなければいいだけやん
それに、どっちもウチに関係無いやん
せっちゃんが自分を守る為だけにしてるだけやろ？

あぁ、そっか……せっちゃんが護衛なんて嘘やん
何度も死にかけたり、殺されそうになったからよう分かる
遠距離からの護衛なんて、無駄以外なんでも無い、価値すら無いわ
せっちゃ……いや、桜咲さんは何を考えてウチの護衛をしとるんやろか？

それから……そうや、アスナと仲良うなったりもしたんや
昔は無口やったのに、今は元気一杯やん
今も仲良うして、アスナは本当にウチの親友やね。

図書館探検部……ゆえ、のどか、ハルナ
みんなウチの友達や
でも、ハルナだけ友達という言葉に違和感を感じる
なんでやっけ？　ハルナを嫌うようなことが有ったやろか？

えっと……そうや、堅守先生が副担任になってんな
みんなが罠を仕掛けて怪我させて……あ
そや、ウチは堅守先生を桜咲さんから助ける為に頑張ろう思ったんや。

おじいちゃ……違うわ、学園長も堅守先生を苦しめる1人
お父様……ちゃう、関西呪術協会の長……なんて呼ぶべきやろか？
ウチを苦しめたり、勝手にウチの事を決める酷い人達
あ、桜咲さんの護衛って、ウチの監視もしとるんか
ウチが勝手に自分達の手から離れたり、逃げたりせんように。

学園長も、西の長も、桜咲さんもみんな敵や
ウチの味方は堅守先生だけ……アスナとゆえとのどかは友達、ハルナは堅守先生に酷い事したから微妙
アスナ達は魔法の事を知らん、ウチの事情に巻き込んだらあかん
魔法を知って、ウチの味方をしてくれるんは本当に堅守先生だけや
一応、エヴァちゃんのコピーとちびせっちゃんも居るけど
エヴァちゃんは利用し合う関係、ちびせっちゃんは桜咲さんの手先やから微妙に違う。

会いたい、会いたいよ……堅守先生ぇ
そういえば堅守先生の名前、確か瑞貴やったっけ？
瑞貴さんって呼んだら怒られるやろか？
先生なんて呼んどったら距離感を感じて嫌や。

でも怖い……駄目って言われたら、そう考えたら訊いたりなんかできへん
だけど訊かなずっと寂しいまま……そんなん嫌や！

会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい
会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい
会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい

会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい会いたい

あ、そういえば思い出していて思い出したんやけど
確か頑張ったらご褒美をくれるんやっけ？

そう考え、自分の指を見る
そこには堅守先生がプレゼントしてくれた指輪
魔法触媒用でも、指輪は指輪や
これも……堅守先生との繋がりの１つ。

頑張ろう、最後まで……頑張る！

３０日目

寂しい……会いたい……寂しい……会いたい
もうずっと、魔法球の入り口で待っとる
どれぐらいの時間が経ったやろか？
何も食べとらんし、魔法陣しか見てとらんから時間も分からん。

魔法陣が……光った！
来てくれるん？　堅守先生、来てくれるん！？

光り、ずっと見ていると現れたのは男の人
あぁ……何回夢に観たやろか？　何回想像したやろか？
何て話しかけようか、何十回、何百回も考えとったんに全部吹っ飛んでもうた。

「よう、近衛」

声や……堅守先生の声や！
嬉しい、嬉しい、ちょっとした挨拶でも嬉しい！
ウチの名前……名字でもウチの名前を呼んでくれた！
嬉しい、嬉しい！　感激や、感動や！

「お……お久……し……ぶりで……す」

あれ？　なんか言葉が出えへん
話したい、話したいんになんで声が出えへんの！？

「話せないのか？」

堅守先生の言葉に、ウチは即座に頷く
原因は分からない、挨拶をしなかったんじゃない
そんな意味を込めた視線を向ける
伝わるか分からんけど、伝わってくれたみたいや。

「ふむ……３０日間、人語との関係を切っていたからかな？
言語能力が少し下がったんだろう
少し話せば元に戻ると思われる、心配は不要だ」

少し話せば元に戻る、了解や
堅守先生の言葉、疑う必要なんてあらへん。

「さて、見事に３０日間サバイバルを達成したな
故に近衛にはご褒美をやろう……マクダウェル」

どこからか飛んできたエヴァちゃんが下りてきた
そんでウチらの足元に何かの魔法陣を……なんやろう？

【何故私がこんな事を……】

「理由は説明しただろうが
それはさておき、近衛」

「あ……う？」

言葉が出てこない、今ほど悲しい事は無い
どうしてウチは無意味にでも声を出しとらんかったんやろか？
呪文詠唱の時しか声を出しとらんかったしなぁ
それやったら普通に声が出ると思うんやけど……危ないからあかん。

「俺は本来、自分からは絶対にしない
本当に特別で、絶対に無い、俺だって本当は凄く嫌だ
近衛が相手だからとかの問題じゃなくて根本的に拒否感が出ているぐらいに
それぐらい嫌だが……頑張ってくれている近衛の為だ
今、この瞬間は何よりも、誰よりも、俺は……堅守瑞貴は近衛木乃香を愛そう」

堅守先生が……ウチを愛する？
言葉の意味を考えている間に、足元の魔法陣が光る。

堅守先生、それってどういう意味なん？
そう問おうとした瞬間、ウチの唇に何かが触れた感触が……

ウチは誰？　近衛木乃香や
目の前に居るのは？　堅守瑞貴さん、ウチの副担任の先生や
２人の距離は？　密着しとる……抱きしめられてる

唇にあるの感触は？　ウチと堅守先生の唇同士が合わさってる
それはつまり？　誰がどう考えても、キスやな
理解した瞬間、頭に血が上ったのを自覚した。

「かた……も……せんせ……な……ん……え？」

唇が離れた瞬間、疑問の声を出したけど、相変わらず意味不明
そしてウチの目の前にはカードが……ウチの絵？

「仮契約という奴だ
本来は俺が従者の方が都合が良いんだろうが……諸々の事情から却下した
近衛木乃香、お前はこの俺、堅守瑞貴の従者となった
ま、本契約ではなく仮の契約だがな」

「かたも……せん……きず……な？」

「そうだ、俺とお前の絆だ
俺は近衛の味方だ、だから契約をした」

ウチの味方……契約……ウチと？

「む、何故泣く
嫌だったか？
（それは無いと思うが……混乱中に隙を突いてという感じだったのが悪かった？
やはりこういうのは理解してからするべきだったか？
俺としてもそちらを強く強く希望したかったんだが……
中途半端に終わらせると近衛が壊れる可能性が高かったからな
悪いとは思ったが、強引な手段を使った

依存度を上げるように誘導したから嫌がられる事は無いと思うが……）」

「ちが……うれし……なみだ……とまら……」

嬉しくて、涙が止まらへん

ウチの味方で、契約までしてくれて……幸せ。

「ウチ……しあわ……ものや」

泣いて……泣いて……疲れてもうた

もう、緊張せんでいいんやんな？

なら……ちょっと休もう。

視点　瑞貴

近衛は眠ったか……泣き疲れか？

さて、とりあえずダイオラマ魔法球から出るか

そしてマクダウェルの別荘へ……

【おい】

「なんだ？」

どうしたマクダウェル？

俺に何か用か？

【何故貴様は……そこまで仮契約に否定的だったんだ？】

……あぁ、嫌だ嫌だって言ったしな
別に仮契約だからという訳じゃないんだが……

「俺は恋愛とかをしたいとは思わん、興味も無い
そして子供でも、近衛は女性だ
女性の唇をむやみに奪うのは本当なら絶対にしたくなかった
根本的な問題として……俺は近衛に好意なんぞ無い」

自分の半分以下の子供を愛しろと？
無理無理、恋愛感情どころか、好意その物がほぼ皆無なんだ
好意順だってどいつもこいつもドングリの背比べみたいなものだが
当然ながら一部を除く、悪い方向へでだが。

「更に言うならば、仮契約もマクダウェルが言う通り否定的だ
嫌悪感すら感じるね」

【そこまで言うか？
くくく、これを利用すれば簡単に女とキスができるんだぞ？
悪用しようとは思わんか？】

「思わん、興味も無い
恋愛なんて糞下らない事なんてどうでもいいんだよ、俺は
そして卑怯反則大賛成の俺だがな
こんな事で卑怯な手段をするのは嫌だ、馬鹿馬鹿しいし」

そんな事をして何が楽しいんだか
キスなんてするより、抱き枕にして寝る方が有意義だ
落ち着けるし、気が楽になるからな

精神の安定になる、それはとても大事な事なんだ。

【とことん……失礼な奴だな
貴様ほど性欲の無い人間の珍しい
お前ぐらいの年齢ならそれなりの性欲はあるはずだが……】

別に性欲が無いわけじゃないんだが……
それは子供相手に向ける感情じゃないだろ？
恋愛感情も無いとは言えんし……興味は無いが
というより、それを利用した方が有意義というか……価値が高いというか。

「それで、近衛はどうだった？」

【うむ、悪くないな
命の危機にも、性的な危機にも陥った
まぁ、前者は怪我はあまり無かったがな】

よくもまぁ……この中で怪我も薄く生き残れたものだ
巧く隠れたか、逃げられたか、それとも倒せたか
死ななければ問題無いしな、よく頑張ったと言うべきか。

「近衛の話していた天狗は？」

【殺す寸前まで追い込んで近衛木乃香の目の前に捨てておいた
近衛木乃香が治療できない程の大怪我だ】

なら成功かな？
治療して、それでも死んでしまう知り合い
これを経験すれば近衛も……

【だが……まさか声を聞きたいが為だけに嬲り殺しにするとは思わなかった
いくら私でもアレは予想外だったな】

「嬲り殺し？」

【余程孤独感を感じていたんだろう
話し相手が欲しくて、暴走していたぞ
声を聞けて嬉しい嬉しいって言いながら刺し殺した】

それはそれは……成長し過ぎだろう
確かに今回の目的は達しているが……想像以上だな
なかなか良い具合に歪んでくれたみたいだ。

これで今回の最大の目的、闇の成長は成功だな
次の目的は近衛の俺への依存を上げる、これも成功
仮契約はおまけみたいな感じなんだがな……壊さない為の処置だし。

近衛の仮契約カードを見てみる
徳性は信仰、方位は中央、色調は菫色、星辰性は木星
称号は裏切りの姫君……番号はＬＸＸＸＶＩＩＩ、つまり８８番か
Ｌの５０とＸが３つで３０、合わせて８０
そしてＶが５とＩが３つで3、合わせて８の合計８８だな。

黒い巫女服を着て……袴は普通に赤だったが
そして正面を向き、両手で丸い鏡を持っている近衛
鏡の中は何かが渦巻いているような模様をしている
肝心の近衛の顔だが、泣きそうな……それでいて満足そうな顔をしていた。

ふむ……俺の持っている近衛のカードとかなり違うな
徳性は愛、方位は北、色調は白、星辰性は同じだが番号はＸＩＩＩで１３番
更に言うと称号は癒しなす姫君だ。

白い男性用の袴、そして両手に持つ扇
更に近衛の表情は笑顔だった……凄まじいまでの違いだな
やはり俺が介入し、壊す寸前に陥らせ、闇の魔法を使えるようにしたからか？

しかし……信仰に中央か
愛が信仰に変わったのは確実に俺が原因だろう、依存してるしだが方位が中央に変わったという事は……可能性は高いか？

方角で有名なのは四聖獣
聖龍、朱雀、白虎、玄武だろう
だが、中央にも聖獣は存在している
そう……麒麟がな。

麒麟は四聖獣の頂点に君臨する存在として語られる事も少なく無いもしこの方位がそういう意味を示しているのなら……
更に才能的な子供は麒麟児と呼ぶ事も有る
近衛、お前はもしかしたら凄まじい事になるかもしれんぞ。

さて、次に気になるのはこの鏡だ
確実にこれはアーティファクトだろう、他に何も無いし
だが鏡がどんな効果を持っているのか……分からん。

そういえば俺のポケットの中にこのカードは入っているのか？

これは明かにイレギュラー、遊戯王世界では未来のカードが存在していたが
まぁ、それは追々確認していくか。

「さて、なら近衛を別荘に連れて行くか
マクダウェル、お前はどうする？」

【もう私は必要無いだろう？
また暫くは巻物の中で寝させてもらう】

「いや、まだまだ近衛に魔法を教えてもらいたいんだが？
俺では無理だし、師匠が居ると近衛もやる気も出る」

【私がいつまでも貴様の言う通りに動くと思うなよ？
今回の件でかなり動いてやったんだ
当分は手伝わん、自力でどうにかしろ！】

マクダウェルはそこまで言って巻物に消えていった
当分……という事は後々にまた手伝ってくれる気は有るとダイオラマ魔法球に置いて行くか、時間差が大きいしその内、寂しくなって自分から出てくるだろ。

何せ、ずっと孤独に過ごしてきたんだ
俺達と話したりして、近衛との仲も悪くない
嫌でも我慢できなくなって出てくるのは目に見えている
精神は肉体に引っ張られる……マクダウェルも所詮は子供という事だ。

俺の予想では保ってこのダイオラマ魔法球で5年、別荘を経由しての現実時間で8日程度

現実１日＝魔法球２４０日　３６５日×５年＝１８２５日　５年１８２５日÷魔法球２４０日＝現実約７．６日
つまり１週間もすればマクダウェルも出てくると俺は予想しているもし出てこなかったとして、１０年だとしても１５日程度、２週間近くで済むしな。

マクダウェルの入った巻物を適当な場所に置くこの入り口付近は破壊されない為に結界が張られているからな魔物達でもこれは破壊できん、巻物にも影響は無いっと。

さて、もうここに用は無いな近衛を別荘に運ぶか……ここで寝かせるのはアレだし。

近衛を抱き上げ、魔法陣に入る当然ながら巻物は置いて。

……

……

……

別荘に戻ってきたっとりあえず適当な部屋に近衛を寝かせるか。

【おかえりなさいませー】

「お前からしたら１、２分程度だろうが別に殆ど待ってないだろ？」

【それでも戻って来てくださいましたからだから、おかえりなさいですー】

ああそうかい……こいつも少しやり過ぎたか？
ちびせつなも懐くなんてレベルじゃなくなってるし
うーん……式神だからって手加減を減らしたのが原因だろうか？

そう、確かそれは……

1日目

「頑張れよ近衛
もし達成できたらご褒美を進呈してやろう
……俺との強い繋がりをな」

何か言いたそうにしながらも、近衛は魔法陣に消えていった
もし気になったとか言って戻って来たら失格と言ってやろう
それぐらい気付くだろうから待たないが。

【それでは説明してください、このちゃんに何があったかを
そしてこんなサバイバルなんてさせようとした理由とかもですー！】

あー……そういえばそんな事も言ったな

惚れ薬を使っても、そんな所までは誤魔化せないか
……そういえば式神といっても、所詮は子人だよな？
薬の効果は出ているし、だとしたら……

「落ち着け、ちびせつな

とりあえず城の中に入って何か飲み物でも飲もう
そんな苛々したままだと怖い顔になってしまうぞ？」

【う……怖い顔なんて嫌です
わかりましたー……でも、ちゃんと話してくださいよ？】

お前が話しを聞きたいのなら……違うな
お前が話しを聞きたくなるのならな。

城の中に移動し、キッチンに入る
ちびせつなは適当な部屋に案内して待たせている。

さて、俺がする事は簡単だ
無味無臭の強力な眠り薬を使うだけ
これを使えば８時間から１０時間ぐらいは確実だろうな
まぁ、耐性とかで差は出るかもしれんが……問題無いだろう。

これをちびせつなの緑茶に入れてっと
俺のには当然何も入れない。

……はぁ、メイドとか、そんな奴が欲しいな
一応この城にメイド人形は設置してあるんだが
俺の魔力じゃ働く所か、稼働さえしない
マクダウェルはどれだけ強力な吸血鬼だったんだ？

ま、あくまで俺の魔力では動かないだけだ
動かす手段なんぞ、何十通りもある
動かさない理由は俺にマスター権限が無いからだ
侵入者として襲われたら死ぬし……どうにか書き変えないと。

それはさておき、ちびせつなに茶を持っていく
不安そうな顔をして俺を見ているが無視
惚れ薬で寂しさを感じているか、近衛が心配なだけだろう。

「ほら、これでも飲んで落ち着け」

【どうもですー】

茶を飲むちびせつな
しかし、式神が飲み物を飲めるものなのか？
飲んでいるんだから飲めるんだろうが……

「さて、何から話すか……」

【全部です、全部教えてください】

「そうは言うが……お前は桜咲の式神だろう？
俺が本体にどれだけ迷惑を掛けられていると思ってるんだ？
睨まれるわ、殺気を当てられるわ、斬られるわ、襲われるわ
しかも部屋にスパイまで潜り込ませて記憶まで奪うわ
自分が信用される立場だと思っているのか？」

【それは……そうですけど】

薬は飲んだんだ、効果が出るまで少し待つ
時間を稼ぐ為にもはぐらかすのは基本だ。

【ふぁ……】

「眠いのか？

色々あったしな、話は後でも大丈夫だろ
どうせこの別荘に入ったら２４時間は出られない」

【え！？
２４時間もですかー！？】

「あぁ、だが少し言い足りなかったな
別荘内では２４時間、だが外に出たら１時間しか経っていないんだ
時空間操作系の魔法道具って事だ」

【ふぇー……凄いですー
なら、お言葉に甘えて寝させてもらいますねー】

ふらふらと浮いて部屋のベッドに向かうちびせつな
ベッドに潜り込んだと思ったらすぐに寝てしまう。

暫く自分だけで時間を潰し、約１時間
もう少し何かした程度では起きんだろう。

ちびせつなを抱きかかえ、移動する
移動場所は別にどこでもいいんだが……そうだな
とりあえず最初は縛るか、逃げられないように。

次は適当な柱にでも……いや、必要無いか
これ１つで十分役に立つし。

「来れ（アデアット）」

アーティファクト、捕縛する縄
佐々木のだが……あいつ、何で５種類もアーティファクトが召喚で

きるんだ？
新体操部だからってそれは少し反則な気がするんだが……
それぞれの効果や威力は低めだから、それを補う為なのかもしれんが。

これでちびせつなをベッドと一緒に縛る
ちびせつなの力ではどうやっても抜けられない
逃げるにはベッドを持ち上げてでもしないと無理だろう。

俺も少し寝るか
さすがに8時間から10時間は長いし
何よりも暇だ、寝よう。

……
……
……

ん、目が覚めたか？
寝てから……7時間、ギリギリかな？
ちびせつなはまだ幸せそうに寝ている
近衛と遊んでいる夢でも観ているのかな？

って、式神って夢を観るのか？
いや、今更だが眠り薬の効果も出るってどうなんだろう？
式神ってどんな存在なのか凄く気になるな。

それはさておき、ちびせつなが起きたら惚れ薬を飲ませないと
他にも色々と細工をしないと
俺を裏切る事は許さん、絶対に逃がさない。

注射器はっと……中にこれを入れて
そして寝ているちびせつなに注射
麻薬とかじゃないから無問題だ。

さて、そろそろ起こすかな。

「起きろ、ちびせつな」

【う……ん
はれ？　おはろーおらいあふぅ】

呂律が回ってないぞ
言いたい事は分かるからどうでもいいが。

「おはようちびせつな
寝起きにチョコでもどうだ？」

【いたらひまふ……】

「そうか、ほら、あーん」

【あー……む】

食ったな、馬鹿が
いい加減、自分が何を食わされているのか考えろ
惚れ薬という見当も付けられないとは……

【あえ？　体が……し、縛られて！？】

「おはようちびせつな

縛っているのは諸々の事情からだ
また体を傷だらけにされたくないからな」

正気に戻ったら確実に襲ってくるだろうしな
そうでなくても、俺が色んな意味で不利なんだ
負けない為にはこれぐらいしないとな。

【な、何をするんですかー！
私を縛って、このちゃんの事を教えてくれるって！】

「言わなかったか？　信用できないって
だから黙らせる為にもこうしたんだ
絶対に自分から口を割れないようにと……な」

【くっ……こんなの、すぐに外してみせます！】

無理だろ、そんな体じゃ
そう思っていたものの、ちびせつなの体が煙を上げた？

「来れ（アデアット）」

すぐさま装備を調える
今回は捕縛が目的、故に使用する装備は自在なリボンと捕縛する縄
そして相手からも見られていない内に隠れる為の孤独な黒子
お前程度では俺を見つける事はできんよ。

【どこですか、堅守先生ー！
へ？　リボン……ですっひゃあああ！】

煙が晴れ、姿を現したのは本体と同じ大きさのちびせつな……か？

話し方がちびせつなのままだぞ、締まらん奴だ。

すぐさまリボンを使い、捕まえる
両手両足を縛り、体中の動きをリボンで封じる
そして捕まえたちびせつなをベッドに放り投げる。

【ちょ、どういう!?
なんでリボンがぁ!?】

リボンが完全に外れる前に縄で両手両足をベッドに括る
四隅で縛った、ちびせつなは大の字になっている状態だ
ついでに腹の辺りも縛っておく、一応だがな。

「去れ(アベアット)」

孤独な黒子とリボンを消す
当然ながら捕縛する縄はそのままだ。

【今のは……アーティファクト!?
どーしてそんなに持ってるんですか!?
それより、解いてー!】

違和感が凄いな、おい
見た目が本体だけに……あ、これはこれで楽しいかも
本体へする仕返しの予行練習ということで。

【堅守先生ー、縄を解い……はれ?
ち、力が入らな……へ?】

お、やっと効果が出てきたか

速効性じゃなくてジワジワと効いてくるタイプだしな
その方が最終的な効果が大きいし、我慢もできなくなる。

【あ、熱い……体が熱いですー！
痒い、熱い！　た、助けてー！】

おーおー、顔を真っ赤にしてしまって
可愛いなぁ、本当に……苛めたくなるぐらいだ。

「助けてほしいか？」

【かたもひへんへー……た、たすへて
あふいの、からははははついのー！】

くくくくく、呂律も回らなくなったか？
そのまま潰れてろ、俺が楽だ。

「そりゃそうだ
なにせ……媚薬を体内に入れたからな」

【ひ、ひやく？】

真っ赤な顔で青ざめるという謎技術をするちびせつな
どうやってそんな状態になったんだ？
凄まじい離れ業だ、これが式神の本領か？

「今のちびせつなは見た目は殆ど本体と同じだな
違いは言葉遣いぐらいか」

【は、はにをふるふもりれふか？】

「心配するな、大した事はしない
このままお前の恥ずかしくて恥ずかしくて
とても世に見せられないぐらい恥ずかしい写真を撮るだけだ
そして脅迫、流出させられたくなければ言う事を聞けってな」

【やらー！　いやーーーー！
かんひん、かんひんやはらやへてーーーー！】

必死になって嫌がって……益々苛めたくなる
これだから女の子を苛めるのは止められない
桜咲が美少女だけに、余計に楽しく思えるな。

「安心しろ、言う事を聞くなら絶対にしないと約束する
何だったら契約してやってもいいぞ？」

【ふる、はんれもしはふ！
はからやへてふらはい！】

ははは、何を言っているのかサッパリだ
言いたい事は理解しているが、言葉が分からん
こいつは何語を話してるんだろうなぁ？

「何でもする？
その言葉に二言は無いな？」

【はりらへん、はりらへん！
ははらほれらいれふ、ほったりへんほいへふらはい！】

お前だったら絶対に約束を違えたりしないだろう

だが……それでも。

「信用できないんでな
悪いが、このまま放置させてもらおう
放置プレイって知ってるか？」

【ほうひ……やらあああああああーーーーー！
ふるう、ほのははやとふるうーーー！】

そうだな、寧ろ狂ってしまえ
人間の為になるんだ、道具として本望だろう？

「ふ……じゃあな
2時間後ぐらいにまた来てやるよ」

【ひやあああ！
ほいてはらいれ、やらあああああ！】

ま、俺は見ないでおいてやるよ
後で観るだろうがな……録画してるし
本人にも観せてやるかな、きっと泣いて喜ぶだろう。

……
……
……

そろそろ2時間ぐらいかな？
ちびせつなはどうなった事やら……楽しみだ。

部屋に入ると……これは酷い

顔は涙と唾液塗れ、体は痙攣してる
他にも色々と大変な事に……大丈夫か？
もう少し軽い媚薬にするべきだったか悩むな。

「ほら、食え」

食えという言葉に、無意識的に俺が差し出した物を食べる
当然ながら食わせたのは惚れ薬だ。

「気分はどうだ？」

【はらほり……へんへー？】

なんというか、精根尽き果てたという感じか？
しかしちびせつなよ、潤んだ瞳で俺を見るな
更にもっと苛めたくなるだろうが。

「俺の言う通りに……してくれるな？」

【はひ、ひはふ】

「そうか
なら今楽にしてやるよ
来れ（アデアット）」

呼び出すは知徳の注射器
南風ノ末廣程強力な状態異常回復道具じゃないが
時間制限が無く、それでも強力な治療道具だ。

まぁ、見た目が凶悪なんだがな

何せ、桜咲の両腕を合わせたぐらいの大きさの注射器だ
刺す場所は特に指定は無いから腹にでも刺すか。

っと、危ない危ない
このまま馬鹿正直に治療してやる所だった
そんな温い事はしない、徹底的にしなければな
そうと決まればあの道具をポケットから出してっと。

「改めて言おう、ちびせつな
俺の言うことを、俺が許可した情報以外は決して漏らさない
そして俺は君の体を正常に治療してやろう
これは代価であり、条件であり、対価であり、契約だ
理解したのなら、俺の許可した情報以外は漏らさないと言ってもらおう」

持ち出すは鵬法璽
絶対の契約で魂まで拘束する凶悪な魔法道具
式神にも僅かに魂が籠もっているはずだ……と思う
どちらにせよ、効果が無いという事は無いしな。

【か、かたほりへんへーのひょはしは
ひょうほうひはいは、へったひにほらひたりひまへん
ははら、はらふもろにもろひてー！】

「契約成立……だな」

鵬法璽もちゃんと機能してくれたらしい
本来なら俺程度では使える物じゃないんだが……それは後々
さて、さっさと治療しますかね。

注射器をちびせつなの腹に刺し、中身を入れる
少し待ち、ちびせつなの体が落ち着いてきた
荒かった呼吸も静かになったな。

「落ち着いたか？」

【完全ではないですが……落ち着きましたー】

見た目は相変わらず酷いままだがな
色々なアレでぐちゃぐちゃのドロドロ……
掃除はちびせつなに自分でしてもらうか。

「なら説明してやろう
今まで近衛が何をしてきたかをな」

……
……
……

近衛の思考以外はほぼ全て話した
当然ながらちびせつなは憤怒している
当たり前だがフォローはしない。

【なんて事を……】

「近衛が望んだ、それだけだ
確かに手段や方法を決めたのは俺だ、それは否定しないだが、こちらに入ると決めたのも修行すると決めたのもどちらも近衛であり、俺はそれを叶えてやっただけだ」

【このちゃんに、魔法を教える必要は！】

「お前が俺に怪我をさせなければ良かったんだがな
そうなれば近衛も見舞いには来なかっただろう
そして……これも聞かずに済んだんじゃないか？」

取り出すはカセットテープ
内容は言わずもがな、桜咲が襲ってきた時のだ
それを流すと、ちびせつなの顔が青くなる。

「偶然だが、近衛はこれを聞いた
俺の不注意であったのは否定しない
しかし……俺は切欠、原因はお前なんだよ」

【そんな……そんな！】

いや、これは俺の部屋でも話したはずだが？
言い方は少し違っただろうが……誤差の範囲内だと思うぞ
どちらにせよ、悪いのは桜咲だ
そう仕向けたのは俺だから全て悪いとは言えんがな。

「さて、契約を思い出してもらおうか
俺が先程話した近衛の件
それら全て、俺と近衛自身以外に話す事を禁ずる
本体は当然とし、近衛近右衛門や近衛詠春に話す事も禁止だ」

【……はい】

そういえば俺を襲う事は禁止していなかったな
いくら惚れ薬の効果が有るとはいえ、攻撃できない訳じゃない

このまま解放してもいいのか悩むな。

「ちびせつな
いい加減に解放してやってもいいんだが
俺を襲うか？」

【む、そんな事しません
色々と気になることはありますけど……
それでもこのちゃんを大事にしているのは分かります
凄くスパルタなんで微妙な気もしますがー】

いや、大事にしているぞ？
大事に大事に、俺の盾として育てているんだ。

それに、もし俺がまた怪我をしたと知ったら近衛が黙っていないというか、確実に復讐するだろうな
俺もさすがに2度も許してやるほど優しくない。

【それにー、このちゃんが悲しみますー
怒られたくないですよー
せっかくお友達になれたのに】

あーそうかい、相変わらず近衛ラブか
式神でもそれは変わらないんだな。

「ならいいか、去れ（アベアット）」

ちびせつなの動きを封じていた捕縛する縄を消す
消す時は本当に楽だな。

【ありがとーございます
そーいえば堅守先生、誰と仮契約を？】

別にお前に言う必要は無いだろう？
そう思ったが……惚れ薬を飲ませてるんだったな
となるとこれは嫉妬か？
こういう感情は利用するのが大変だから困るんだよなぁ。

「俺は誰とも仮契約をしていない
さっきのはただの道具だ」

【でも……】

「こんな事で嘘を言ってどうなる
アレは出し入れが便利な道具だ
それ以上でもそれ以下でもない」

【わかりました】

起き上がり、体を少し動かすちびせつな
いい加減に元のチビ状態に戻ったらどうだ？
そんな体になると燃費とか悪そうだし。

「ちびせつな、元の小さい状態に戻れ
本体と同じ見た目をしていると苛々する」

【……そんなに本体が嫌いですかー？】

「嫌いだ
襲われ、殺気を当てられ、２度も記憶を消されれば大抵の奴は嫌う

と思うが？
少なくとも俺は嫌う、嫌わない奴の方が少ないんじゃないか？」

【う……戻ります】

本体の姿からチビ状態に戻る
実際、そこまでされて嫌わないのは相当な脳天気ぐらいじゃないか？
それかお人好しか……どっちにしても好意は持てないだろうが。

「さて、お前には頼みたい事がある」

【まだ何かあるんですか？】

「近衛を鍛えたい、お前の力が必要だ
俺の為とは言わんが、近衛の為に手伝ってくれ」

これはあくまでも近衛の為
そう思わせる事でちびせつなはやる気を出す
俺の為と言っても効果は有ると思うが
先程までしていた事を考えると惚れ薬を考慮しても信用は薄い。

【このちゃんの為？】

「そうだ、近衛に剣術を教えてやってくれ
どうも近衛は俺に怪我をさせたり記憶を消した本体が気に入らないらしい
知り合いに剣士なんて居ないし、お前にしか頼めないんだ」

【わ、私がこのちゃんに剣術をですかー！？
でも私もまだまだ未熟で……式神ですしー】

「断るのは構わんが、近衛を想っての発言なら断らない方がいいぞ？
どうも近衛は無茶をしてしまうタイプらしくてな
誰かから教えられないと滅茶苦茶の手段で力を得ようとするかもしれん
少しでもそれを防げたらと思ったんだが……嫌なら仕方無いな」

【します！　私が剣術を教えます！
未熟なれど、精一杯頑張らせていただきます！】

最初からそう言えばいいんだよ
俺も楽だし、一々回りくどい言い方をしなくて済む。

「そうか？　なら頼むぞ
ちなみに現在近衛が使っている剣術は我流だ
しかも実戦で覚えた技とかばかり
基礎から叩き直してくれると助かる」

【実戦で……わかりました！
頑張ります！】

良い返事だ、１点をやろう
得点に意味は無いがな。

おっと、ちびせつなをどうにかしないとな
俺の味方に付ける為にも、色々と……

「頑張ってくれるそうだし、チョコをやろう」

【わーい】

惚れ薬だがな
こいつ、何個食ったんだ？

他にどうしようかなぁ……また媚薬を飲ませるか
今度はかなり軽い、少し興奮したりする程度のだがな
そして惚れ薬のジュースでも飲ませるか。

手っ取り早く懐かせる、俺を好くようにするには薬が楽だな
偽りの感情でも、何度も重ねてやれば嫌でも勘違いする
特に媚薬の効果は強力だ、効果が薄い性的興奮を好意と勘違いしてしまうからな
後は抱きしめてやったり、頭を撫でてやったり、また額にキスでもしてやるか。

好意に応えてやる気は全く無いがな
精々俺に利用されるよう、頑張りな。

……やっぱり薬は気が進まないなぁ、今更だが
便利だし、手っ取り早いから妥協はするが
やっぱり自分の力だけで巧く感情コントロールとかをしたいものだ
今度そういう本を探してみようか、考えておくか。

2日目

惚れ薬、媚薬を使い
ちびせつなは既にどうしようも無い状態だ

麻薬とかを使っていないだけマシだろうがな。

【かたもりせんせー】

ただ、本体の姿になってすり寄ってくるのは止めてほしい
本人曰く、この大きさで抱きしめられる方が嬉しいんだそうだ
どういう理屈かはよく分からん。

「……ちびせつな？」

【はっ！
すすすすみませーーーん！】

正気に戻すと恥ずかしがって逃げ出す
まぁ、１０分もすれば戻ってくるがな
どうも俺と離れたく無いって感じだし。

まったく……別荘を出たらどうするんだか？
学校に勝手に来たりしたら怒るなんてものじゃないぞ。

それはさておき、やはりかなりの好意を持たれているらしい
ちびせつなには優しくしてやってるから当然か
薬の効果も有るから効果は倍増、最初は勘違いでも既に本物だろう
……惚れ薬浸け、そろそろ止めるか。

３日目

惚れ薬の効果も切れ、媚薬も未使用
それでもちびせつなは俺から離れない
しかも、それでいて従順になってきている。

本体が近衛の従者気取りだからか、式神もそんな感じらしい
俺の言う事を聞き、言う通りにするのが嬉しくて嬉しくて堪らない
そうだ
桜咲は狂犬なのか忠犬なのか……両方だから桜咲なのか？

ちびせつなは俺にほぼ完全に従っている
不確定要素は近衛の前でだが……あまり変わらないだろう
どちらに付くと言われれば多分俺に付く。

そういえば今日は近衛を向かえに行かないとな
マクダウェルは仕事をしているだろうか？
もし近衛が死んだりしていたら封印してやろう。

……
……
……

とまぁ、こんな感じで忠犬ちびせつなの完成っと
後は近衛を寝かせて、起きたら別荘から出るか。

「ちびせつな
俺は近衛を寝かせてくるが、お前はどうする？」

【一緒に行きます！】

まぁ、好きにしろ

近衛を適当な部屋に運び、ベッドに寝かせる
そして離れようとしたんだが……服を掴まれて放さない
俺にどうしろと？

放させようと近衛の腕を掴んで引っ張るも、放さない
寧ろ嫌がって更に強く握りしめる始末
さて困った……どうしよう？

【あの……】

「なんだ？」

【一緒に寝てあげてはどーでしょー？】

……俺が？
そういう意味を込めて自分を指さす
するとちびせつなは頷き、俺に指を指す。

個人的には嬉しい提案だ
数少ない抱き枕を使用するチャンスだし
近衛に好意はほぼ無いものの、悪くは想っていない。

……いや、誤魔化すのは止めよう
近衛に好意は有る、それでも味方だからという意味でだ
恋愛的な意味での好意は皆無、絶対にな。

が、俺は一応教師……って、プライベートまで仕事を持ち出す必要は無いか
公私の区別さえ付ければ特に問題は無いだろう
別に文句を言う奴も居ないし。

「ならそうするか
俺も寝る、おやすみ」

【へ？
あ……う……わ、私もー！】

飛び込んでくるな！
確かに小さいから受け止めるのは楽だが
1つのベッドに3人は厳しいぞ！

【な、仲間外れは嫌ですー！】

「あーはいはい
分かったから落ち着こうな
そしてさっさと寝るぞ」

近衛の頭を撫でたり、ちびせつなを撫でたり
こいつら……俺の取り合いとかしそうで怖いな
もしそうなったら叱るか、喧嘩は許さんって
益々懐きそうな気がするが、それは無視しよう。

ふぁ……寝よう
近衛達は起きてから考えればいいんだし
今は寝て楽にするかぁ。

ちびせつなはさっさと寝てしまい
近衛は既に寝ているから関係無い
俺も寝る、おやすみ。

１４話【化け物との３０日間】（後書き）

瑞貴は本当に見守るつもりだったの？
監視が正しいかもしれませんが、怪我が無ければするつもりでした。

もし最初でひなをコントロールできなかったら……
保険は用意していました
瑞貴がそれもせずに目の前で渡すはずがありません。

巨大な烏賊って……何！？
クラーケンです
蛸と呼ばれる時もありますが、今回は烏賊です。

海蛇みたいなのって？
シーサーペントです。

小学校ぐらいの巨大な鳥って？
ロック鳥です。

頭が鹿で体が鳥の変な動物？
ペリュトンです。

８本足の馬！？
スレイプニルです。

犬の体に猫の顔？
グーロです。

ごつい顔の鬼？

グールです
ただし、日本でよく言われているアンデッドではありません
死体を食べる鬼です。

1つ目の巨人？
キュクロープスです
サイクロプスとも呼びますが、これは国の違いなだけで同じ存在です。

白き雷って闇の魔法で可能なの？
原作漫画では雷の暴風以上しか使っていませんが
不可能ではないと思います
この作品では一定以上の魔法なら可能という感じとしているつもりです。

そういえばいつの間に白き雷を？
その他今回使用している魔法は前回の２０日の時にエヴァンジェリンに習いました
一定以上の威力、闇の魔法で使用可能
この２つを考慮し、魔法を使えるようにしました。

どうしてキュクロープスは攻撃を外したの？
直撃したら木乃香が死んでしまうので
エヴァンジェリンが遠くから強烈な殺気をぶつけました
それによりキュクロープスは怯み、木乃香への攻撃を外しました。

木乃香にナンパしてきた男は？
ガンコナーです
こんなのでも妖精なのがアレです
……まぁ、カモもオコジョ（セクハラ）妖精ですが

ナンパ妖精と良い関係になりそうで怖い。

手が長い老人と足の長い老人って？
手長足長です
こんなのでも実は神の一種ですが。

どうしてひなに魔力が通らなかったの？
気を発しているからです、という事にしています
そうでもしなければあの威力とかありえませんし……主にラブひなで
つまり気と魔力が反発し、魔力を通す事ができなくなっています。

ワイバーン？
図書館島のワイバーンとは別物です。

毛むくじゃらの化け物って？
エヴァンジェリンの言う通り、トロールです
こんなのでも、立派な妖精です。

瑞貴やエヴァンジェリンの言う処女とかって……
本気です、本当に屑人間ですね、瑞貴は。

どうしてエヴァンジェリンは瑞貴の言う事を素直に聞いてるの？
体の件で脅され、多めに血を飲ませると約束し
後でちびせつなを苛める為に献上すると言われたりしたからです
ちびせつなは貸すだけですから返してもらいますが……
つまり、そういう理由から瑞貴にある程度従っています。

どうして馬頭鬼や牛頭鬼が洞窟に？
本来なら地獄に住んでいますから
暗い、深い場所を好んでいるんでしょう。

本当に、どうやって瑞貴はこんな化け物達を？
どれもこれも、実は本物ではありません（一部を除く）
分霊や使い魔みたいな存在です
それが地上で発見され、封印されたりしていました
瑞貴はそれをエヴァンジェリンに解放させ、ダイオラマ魔法球に放ちました
なお、登場しているのは全て伝説や伝承上の生物です。

舐められた？　触られた？
これ以上は駄目です、色々な意味で。

上半身の馬に下半身の魚の化け物って？
ヒッポカムポスです。

頭と胸まで女性、腕や下半身は鳥の化け物は・
ハイピュイアです
ハーピーとは国で呼び方が違うだけで同じ存在です。

首無しの騎士って？
デュラハンです
こんなのでも実は妖精です。

どうして闇の魔法が以前に比べて負担が軽くなったの？
心の闇が強化されたからです
負担が軽くなったというよりも、更に馴染んだだけです
なのでそう勘違いしただけで、確実に悪化しています。

天狗を……木乃香が狂ってる！
壊れる寸前です、でもまだ壊れていません

ちゃんと心の支えは残っているので……
なんかごめんなさい、でも修正しません。

天狗、食べたの？
ご想像にお任せします。

ひなの闇が強くなってるって……どうして？
木乃香の闇を喰らい、成長しているからです
あのひなが成長って……どれだけの存在になるのか謎です。

木乃香が刹那や学園長を……
ほぼ完全に敵と認識しました
逆恨みに近いですが、それでも木乃香の真実です
挽回できるか、それは彼らの努力次第ですかね？

瑞貴が……自分からキスをした！？
本人は心から嫌がっていましたけどね
瑞貴の本音の想いなど、詳しくは秘密。

瑞貴の考えている事がよく分からないんだけど
利用できる物は親でも使え
簡単に言うとそういう感じです。

木乃香の仮契約カードが全く違う！？
瑞貴の影響です
大きく変わってしましました。

鏡のアーティファクト？
効果などは後々……

瑞貴はそのアーティファクトを使えるの？
使えます
今回の件で新しく入手しました
原作から離れればまた新しく入手できる可能性有り。

媚薬って……効くの？
効いたようです。

というか媚薬って……18禁ものじゃないの？
直接的な描写はしていないので大丈夫かと……前書きの通りです
拙いのなら書き直します、もう少し柔らかに表現して。

媚薬を使うのは変わらないんだ……
変わりません、どっちにしても使います。

ちびせつなが何を言っているのか全く分からん！
瑞貴の内心から予想してください。

知徳の注射器って何？
アーティファクトです
ネギま!?ですけどね、ネギま！ではなく。

そっちのも使うの！？
作者は使える物は何でも使う主義です
例え派生作品でも、別作品でも……

瑞貴の言い方が色々と嫌らしい
それが瑞貴です。

なんだか最後が色々と……

スルー推薦。

ツイッター、実はＦＥ封印の剣で遊んでたんだ（少しだけど）
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
ハードモード真エンディングを見た！
ソフィーヤを育てるのは大変だったなぁ……

１５話【失われていく絆】（前書き）

どうも、マクダウェルを今までマグダウェルと勘違いしていた作者です
今までのも修正しました、なんともアホな事です……はぁ
他にも所々ちょくちょくと修正していますが、それはさて置き。

１０日振りの投稿です、遅くなってごめんなさい
そして次回は更に遅れます、確実にできれば１５日以内に投稿したいと思っていますが……難しい所です。

今回も少し性的描写がありますので注意
前回は大した事は無いらしいので少々強化（？）
それでも大した事は無いでしょうが。

今回も捏造設定がそれなりですので注意
実際と異なる可能性もあります。

活動報告にてアンケートを実施中です
期限は次回投稿時までなので早ければ１０日ほどで締め切ります
遅ければ１５日……もしかしたら２０日後ぐらいでしょうか？
多くの方が参加してくださると嬉しいです。

15話【失われていく絆】

視点　木乃香

ん……あれ？
えっと……なんやっけ？

「よう、起きたか？」

「あ……かたも……せい」

声が巧く出てこうへん？
……あ、そうや！　確か気絶する前に……あうううううう
ウチの顔、絶対に赤くなってるわ。

「突然顔を赤くして……あぁ、思い出したのか
ほら、これが仮契約カードだ」

顔が赤いって言わんとって！　自覚してるから！
そして渡されるカード、そこにはウチの姿が……
こんな黒い巫女服、ウチは着たこと無いで？
それにこの鏡……なんか怖い気がする。

「こ……は？」

「仮契約した時に現れるカードだ
ちなみにそれはコピーカード、マスターカードは俺が持っている」

ウチの持っているカードと同じ物を堅守先生が……
なんや気恥ずかしいなぁ、でも嬉しい。

「仮契約カードで行える機能を説明しておく
1、主から従者への魔力供給……が、俺には殆ど魔力が無いからほぼ死に効果だ
2、従者の召喚、主が従者を強制的に召喚する効果だ、ただし距離は5kmから10kmとそこまで広くない
3、額にカードを当てる事でできる念話、携帯電話で十分だがな
4、アーティファクトと呼ばれる魔法道具の召喚と送還
5、衣装の登録、アーティファクトを使用する時に服装の変化ができるらしい」

突然の説明やけど、一応は理解したで
伊達に今まで堅守先生の滅茶苦茶講義を受けとらん
この程度なら1回で覚えられるわ。

「アーティファクトは本来、主の資質が高く無ければ手に入らないはずなんだがな
どうしてか、俺と近衛との契約で出てきた
詳しい事は知らん、便利道具が手に入ったんだから得をしたとでも思えばいい」

そういえば堅守先生って魔力が殆ど無いんやっけ?
エヴァちゃんが言うには気も同じく殆ど無いんやって
ここまで貧弱な人間も珍しいって言ってたなぁ。

「ちなみにアーティファクトを召喚する呪文は来れだ(アデアット)
ちなみに送還する時は去れ(アベアット)
とりあえず召喚してみろ」

「……来（アデ）……れ（アット）」

ウチの手の中に収まった鏡
縁が薄紫の、丸い鏡や
殆ど装飾されとらへんけど、どんな道具なんやろ？

「その道具の事は調べたぞ
名前はムラサキカガミ、効果はかなりえげつないぞ」

ムラサキカガミ……名前からしてアレやな
呪いでも掛けるんやろうか？

「相手に向け、相手の顔が鏡に映れば成功
効果は相手に過去の幻想を見せる能力だ
ただし、内容は全て心的外傷……つまりトラウマの記憶を鮮明に思い起こさせる
使用者が魔力を込めれば込めるほど、本来の記憶よりも残虐になっていくらしい
心的外傷を心的外傷後ストレス障害、別名ＰＴＳＤにまで昇華させる事も可能だろうな
簡単に説明すると、相手の心を壊す為の道具と言える」

め、めっちゃ危険な道具やん
なんでこんなんが……

「しかし発動する為には条件がある
1、相手の心的外傷を使用者が知らなければ効果は現れない事、当然だが予想では効果は出ない
2、最低でも相手の顔を鏡に映さなければならないので発動自体が

困難
3、心的外傷が無ければそもそも効果が無い
この3つが発動条件であり、欠点でもある」

1つ目は初対面の相手には使われへん
2つ目は鏡を警戒されて逃げられたら無意味
3つ目は……どうしようも無いわ
どれもなかなか厄介な欠点やなぁ
効果が強いんやし、当たり前と言えば当たり前やな。

「まぁ、アーティファクトは主に依って変わるしな
別の奴が主ならまた違うアーティファクトが手に入るだろ
（となると……かなり謎だな
俺だからこんなのが出てきたんだと思うが、随分と怖い物が出たな
これはもしかして俺に精神破壊の適正みたいなのが有るからか？）」

「や……他の……や」

やっぱ声が出いへん
嫌や、他の人が主なんて嫌や！

「まぁ、そう言うとは思っていたから無理強いはしないがな
それより近衛、このまま別荘から出たら問題が多い
今は体を休め、心を落ち着かせ、言葉を話せるようにしろ
かなり疲れているだろうしな、この別荘内で3日近くは過ごしてもらう」

心配してくれてるんやろか？
堅守先生の言葉に、素直に頷く
確かに今戻っても問題しか無いもんなぁ。

「俺は少し出てくる
すぐに戻ってくるから休んでおけ
何か用が有るのなら……」

堅守先生が手を叩く
そしたら黒髪のゴスロリメイド服を着た女の人が……誰？
あれ？　でも指の関節がなんか変やない？
なんというか……お人形みたいな感じやけど。

「こいつはこの別荘に置いてあった人形だ
ちょっと強引な手段を使って無理矢理動かしている
名前は無いらしいが、それは後で構わんだろう
俺の事は気に入らないらしいが、自分が動く理由が俺というのは分かっているらしい
一応指示ぐらいは聞いてくれるので、何か用が有る場合はこいつに言え」

人形さんはウチに頭を下げ、堅守先生の方を向く
でも、殆ど無いその表情は怒りに染まってるように見えるわ。

［死になさい］

「俺が死んだら永遠に動けないかもしれんぞ？
マクダウェルの巻物を管理しているのは俺だ
そして俺に何かすれば近衛もお前を動かす事は無いだろう
一時的にでも我慢し、ある程度自由を持てる方が利口だと思うがね」

［屑人間］

堅守先生、相当嫌われてるみたいやな
そんな言い方したら怒るんは当たり前やん
でも……だからって暴言は許されへんよ、お人形さん。

「かた……せんせ……わるぐ……あかん」

［？］

やっぱ人形やな、ウチの言いたい事を理解できてへん
早くちゃんと話せるようになりたいわ。

「近衛は俺の悪口は駄目だと言いたいんだ
一応世話をする相手だ、ある程度コミュニケーションはできるようになっておけ
あまり話せない状態だからある程度気を使うぐらいはしろよ？」

［貴方の為じゃありません
近衛木乃香様の為、それを勘違いしないように］

「俺を害さないのならどれだけ嫌われても構わん
近衛の為に動いてくれるのなら、それだけでも十分だなら後は頼んだぞ」

堅守先生は部屋から出て行き、どっか行ってもうた
このお人形さん、無表情やけど苛々しとる？
なんとなー……く雰囲気で分かるわ。

でも今は、最初はとりあえず。

「あの……」

［はい、なんでしょう］

さすがに恥ずかしいんやけど……

「と……トイレ」

［かしこまりました、こちらへどうぞ］

「から……あんま……うごか……のよ」

［からあんまうごかのよ……ですか？］

あかん、ほんま柔軟性が無いわ
もうちょいそこが良かったら良い子なんやろうけどなぁ。

「から……だ……あん……まり……うごか……へんの……や」

多分、疲れが一気に来たんやと思う
緊張感も解けて、身も心も砕けたんやろうなぁ。

［了解しました
トイレまで運べばよろしいですか？］

そんなハッキリと言わんでも……恥ずかしいやん
でもそうやから素直に頷く
顔が赤くなってる自覚は有るわぁ……

人形さんに抱き上げられ、トイレまで運ばれる
恥ずかしいけど、人形やから複雑やわぁ。

視点　瑞貴

さてっと……

「気分はどうだ、ちびせつな」

【はぁ……はぁ……
い、良いひょうひ、見えまひゅか？】

相変わらず媚薬漬けの放置プレイだからな
しかも、全く解消してやっていない
何せ、媚薬漬け状態で指１本触れていないからな
体も縛っているから自分でもどうしようも無い。

「どうにかしてやってもいいぞ」

【ほ、本当……れすか？
お願いれす、ろうにかしてくらさい！】

相当参っているらしいな
ジワジワと効果が出るようにしたから当たり前だが。

「今から俺と一緒に別荘から出るぞ
そして本体へこう連絡するんだ
近衛は寮へ帰り、自分は俺を監視中
俺は特に怪しい行動をしなかった……とな」

【本体に……うひょをひえってほと、れすか？】

「俺だって死にたくないのでな
本体とて、ずっと見張っている訳じゃないんだろう？
でなければお前みたいな式神に監視を任せないだろ」

ちびせつなは自立型だからな
本体が寝ても、影響無く動く仕組みになっている
当然、式神から緊急連絡が来れば起きるだろうがな。

「お前だってずっと苦しい想いはしたくないだろう？
少し我慢すれば、この苦しみから解放されるんだ
そして望むのなら俺が解消してやってもいいんだぞ？」

おぉ、見事にちびせつなの顔が赤くなったな
元々赤かったが、更に赤くなって、もう真っ赤だ
これだからちびせつなを弄るのは止められん
見ていて楽しい奴は珍しいからな。

【あ……う……が、がんばりひゃすぅ
それと……ろうにかひてくらちゃい】

堕ちたな
既に堕ちていたが、完全に堕ちた
こいつは今後、俺に殆ど逆らう事はできん。

何せ、性的快楽に耐えられなかったんだからな
俺としては、3日ぐらい放置しようかと思ったんだが
予想よりも遙かに駄目だ、1時間程度も耐えられんとは……

つまり、こいつは精神的に貧弱であり、脆い
俺と比べたら相当の差はあるだろうな
下手すれば先日まで一般人だった近衛より酷い。

こいつ、ムラサキカガミの実験台にしてやろうかと思ったんだが
そんな事をしたら簡単に壊れるな
使うのは本体だけにしておこう、ちびせつなにはできん
数少ない手駒を壊す訳にはいかないからな。

……そういえば本体が壊れたら式神はどうなるんだ？
式神も壊れるんだったら下手に手出しができないんだが……困ったな
ちびせつなに訊くわけにはいかんし、どうしたものか
まぁ、壊さない程度に加減すればいいか。

さて、気乗りは全くしないがヤるか
ちび状態だし、指だけでいいかな？
本当にするのは遠慮したいし……色々な意味で。

「先にしてやる、喜べ
その代わり、俺の言う通りにしろよ？」

【はひぃ、言うとほりにするんりぇ早くー！】

……どれぐらい手加減するべきなんだ？
俺も初めてだし、とりあえず最初は本気でいいか。

……
……
……

うーむ……まだ本気を出し切ってもいないんだがな
まだ1時間も経ってないんだが……とても口では言えないような状態にしてしまった
ヤり過ぎて壊してしまうかと思った、もっと手加減をするべきだったか？

【ひゅー……ひゅー……】

呼吸音が明かにおかしい……生きてるよな？
今は完全に気絶しているが、起きたら謝っておくか。

だが……俺の気分はかなり良くなった
なかなか良いストレス発散になったな
やはり苛めるのは楽しい、ここまで発散できるとは予想外だ
ちびせつなは俺のストレス発散相手になってもらうか。

ただ、片付けが面倒だな、ちびせつなの色々で……だがな
本体に与えられたストレスだし、式神で発散するのは有りだよな？
これからは桜咲に与えられたストレスはちびせつなで発散するか。

そうなればどっちになるか楽しみだ
強引にされて怒りを抱き、本体を怨むか
それとも悦び、本体に感謝をするか……
どっちでもいいか、俺に損は無いんだし。

ただ、俺としては嫌がって本体を怨んでほしいね
そんなちびせつなを苛める方が楽しそうだし
まぁ、悦ばれてもそれはそれで楽しいかな？
そうなると罪悪感を感じてくれるからな、弄るネタが増える。

とりあえず掃除をするか
先ずはちびせつなを適当な場所に……ソファーの上にでも移動させてっと
って、触れただけで感じるとはな
次回からは更に加減し、その後に何も無い時にしよう。

次は換気を入れ替え、ベッドも洗濯しないとな
洗濯とかは近衛に渡した人形にでも任せるか。

新しく2体目を稼働させるものいいんだがな
もし人形同士で組まれて、反逆とかされても困る
やはり使うのは1体だけだな。

……嫌だろうなぁ、絶対に嫌がるだろうなぁ
まぁ、俺が嫌われて近衛に優しくするのなら構わんがな
勝手に近衛の飴になってくれるのなら楽ができるし
人形にとっても近衛が飴になるだろうしな。

よし、ある程度は終わったな
いい加減にちびせつなを起こすか
そろそろ本体に連絡してもらわないと困る。

「起きろ、ちびせつな」

【うーん……まだするんですかー？
そんなにされたら壊れちゃいますよぉ……】

……俺に喧嘩を売ってるのか？
あの程度で壊れるだなんて、本気を出してやろうか

っと、今はそれどころじゃなかったな。

「寝ぼけてないで起きろ、ちびせつな」

【んー？
かちゃもりちぇんちぇー？】

既に媚薬の効果は薄れているはずだが？
まだ呂律が戻らないのか？
それとも寝ぼけているだけ？

【ん……ん？
ぴゃぁあああああああ！】

どんな悲鳴だ、どんな
ひゃあとか、きゃあとかなら分かるが
どうしてぴゃあなんだ？

【こ、こっちに来ないでぇー！】

ふむ、嫌われたか？
しかしこの程度で嫌われるように調教はしていないはずだが
惚れ薬は今だって効果が出ているはずだし……何故だ？

「何故だ？」

【は、はずかしくて……顔なんて見れませーーーーーん！】

あぁ、なるほど
子供だし、未成年だし、女の子だし当然か

俺だってあんな事をしたのは初めてなんだがな
だが別に感傷も何も無いな。

まぁ、初めての理由は単に興味が無かっただけだが
恋人とかよりも仕事の方が好きだし
学生時代は何もかも色褪せて見えていた時代もあったなぁ。

そう考えて、思い返してみると遊戯王世界ではかなり楽しんでいたな
普通とはかけ離れていた世界だが……いや、今は関係無いな
もう俺に学生気分は無理だ、実年齢は３０代だし限界だろう。

恋愛経験無しの３０代か……世間的には遅れているな
その程度の事で焦るような性格はしていないが。

だが初めての上、ある程度加減してちびせつながこれじゃなぁ……
俺は今後も本気は出せず、手加減したままか？
それはそれでストレスが溜まりそうだ
ま、それは相手の反応に期待して苛めて楽しめばいいか。

「ちびせつな
別に顔を見ろとは言わん
だが、仕事はしてもらうぞ」

【はぃぃ……ちゃんとしますぅ
だからその……通信中は話しかけないでくださいね？
多分、驚いちゃいます】

それはそれで楽しそうなんだがな
だが勘弁してやろう、俺が困るから
違う場合なら確実に悪戯をしてるがな。

「ならとりあえず別荘から出るぞ
あんまり遅いといい加減、本体も怪しむからな」

この時間だと……外では3時間半ぐらいかな？
俺の話が無駄に長い事はある程度知られているだろうし、大丈夫だろう
宮崎と綾瀬も俺の話を近衛から聞いているだろうし
つまり、近衛の会話を本体がそう簡単に聞き逃すはずも無いだろう
結果、俺の話は馬鹿みたいに長いという事は伝わっている。

と、ちびせつなが言っていた
だからこれぐらいの長さになってもあまり違和感は感じないだろう
本当に話したりするしな、3時間程度なら。

おっと、これは別荘内に置いて行かないとな
持っていったら人形の動きが止まってしまうだろうし
そうなると困るのは近衛だからな。

あの細い道を嫌々ながらも抜け、別荘から出て外へ
特に何も変化は無い、不法侵入はされていなさそうだ。

「頼むぞ、ちびせつな」

【は、はい！】

本体と通信をし、集中するちびせつな
こうなると俺はする事が無い……どうする？
何かをするにもなぁ……

と、そんな事を考えている内に通信が終わったらしい
ちびせつがが抱きついて……邪魔だ
さすがに強引に引き剥がしたりはしないが。

【頑張って本体を説得しました！
お嬢様は私が寝ている間に帰ったと言っておいたので大丈夫です！
ちょっと呆れられましたけど、元々私はお馬鹿ですからー】

馬鹿だからそれぐらいの失敗は見逃すと……
変な部分で誤魔化せる材料があったな
まさか自虐ネタを使うとは思わなかったが。

「お馬鹿だが良い子だな、お前は
また可愛がってやろうか？」

【……ふにゃぁ】

気絶したな、想像したか？
冗談だったんだがな、最初からするつもりは無かったし
必要ならするがな、あの程度なら遊びレベルでもできるが。

さて、再びちびせつなを持って別荘に入るか
置いて行ってもいいんだが、一応な
無視して本体を呼ばれたら面倒だし。

……
……
……

別荘に入り、ちびせつなを適当な部屋に置いていく

さて、近衛の様子でも見に行くかな
確かこの部屋だったか？

「近衛、居るか……悪いな」

ドアを開けたら、着替え中の近衛……鍵ぐらい掛けたらどうだ？
下着姿なだけマシか……すぐにドアを閉め、暫く待つ。

「ひ、ひゃあああああああ！
み、見んとってーーー！」

悲鳴が遅くないか？
というか、悲鳴を上げている暇があったらさっさと着替えろ
待っている時間が無駄だ。

……ん？　言葉が話せている？
俺が外に出ていた時間は精々１０分程度
別荘内で換算すると、約４時間に相当する
更に別荘内に居た時間も含めると合計で６時間ぐらいか？

こんな短時間で言葉が話せるようになるのか？
それとも悲鳴だけ上げられたのか……どっちだ？
まぁ、近衛が話せるようになるのなら結果的に同じか。

少し待つと、人形が出てきた
表情が僅かに不機嫌じゃないか？
人形なのに表情を出せるのか、珍しいな
それでも本当に僅かで違いが殆ど分からんがな。

「木乃香様のお着替えが終わりました」

「近衛の様子は？」

［先程の悲鳴で言葉が話せるようになりました
なんとも皮肉な結果です
貴様のような奴に覗かれたのが元に戻る原因とは
木乃香様が可哀想ですよ」］

随分と口が悪くなったな、お前
やはり他の人形を動かさず、1体だけを動かした結果か
どうも個性が生まれているらしいな。

「鍵ぐらい閉めたらどうだ？
まぁ、確かに今回は俺が悪いな
後で近衛に謝っておくか」

という訳でさっさと部屋に入る
ただし、今回はノックをする事を忘れない
さっきもすれば良かったんだがな……焦っていたか？
どうやら俺は近衛の様子が気になっていたらしいな。

「近衛、入るぞ」

「ど……どうぞ」

声だけでどんな様子か予想ができる
顔を赤くして、ベッドの布団を被っているだろうな
そして俺が入り、顔を見た瞬間に目を逸らす。

ドアを開け、入ってみる

すると俺の予想した通り、顔を赤くしてベッドの布団を被っていた
俺の顔を見、目を逸らして布団に潜り込んだ
どうやら最後の予想はできていなかったらしい。

「ノックも無しに入って悪かったな」

「……ウチ、魅力無い？」

はぁ？　突然なんだ？
まさか、俺のリアクションの無さに落ち込んでいるのか？
魅力以前に、興味が無いって言ったら泣くかもしれんな。

「いや、魅力は有ると思うぞ？」

「ならなんで……その……
そんな無反応なん？」

待て、俺に何を期待している
どんな反応をすれば良かったんだ？
顔を赤くしてごめんと言ってラブコメっぽくすれば良かったのか？

「無反応な理由ねぇ……
あまり興味が無いというのが大きいか」

「興味が無い……」

「あぁ、別に近衛に興味が無いという訳じゃない
単に性的な事に興味が無いだけだ
近衛自身に魅力は有ると思うぞ？」

肌は白いし、スレンダーで綺麗な体をしていると思う
実に嬲りがいの有る、美しい体だ
鞭とかで叩いたら見事な痕ができるだろうな
やはり綺麗な物ほど、汚した瞬間が気持ちいい。

今度、近衛が何か粗相をしたら罰として鞭で背中を叩くか？
あの白い肌に赤い鞭の痕……嗜かし栄えるだろうな
うーん……見たくなってきた、さすがに今はしないが。

「ウチ、魅力有るん？」

「有るだろ、どう見ても」

俺の言う魅力は方向性が違うんだがな
ただ、ここまで綺麗だと汚すのがそれはそれで勿体ない
綺麗な体をそのまま見て楽しむのもいいな
どうするか悩む……が、またの機会にでも考えるか。

「よかった……」

「何が？」

「ウチなんてどうでもいいって思われてなくて」

割とどうでも良かったりするんだがな
俺の盾になってくれるのなら
まぁ、逃がすつもりは無いがな
役立たずになるまで使い潰してやるよ。

「ふむ……」

「あ……あぁぁ……」

何かに気付き、顔を赤くして布団に潜った？
おい近衛、どうしたんだ？

「（あかんあかんあかんあかんあかんあかん！
今のってどう考えても告白みたいなんやん！
魅力とか、興味って何考えとるん！？　ウチは！
これやとＨな事してほしいって言ってるようなもんやん！
ウチまだ１３歳やで！　早すぎるわ！）」

何を想像して、何を考えているのやら
慌てるような事でも妄想したとか？

「（って、早すぎるって事は将来的にＯＫって意味やんな？
３年後ぐらいやと……ウチは１６歳やんな
確か女の子って１６歳から結婚は有りで……ちゃうやろ！
結婚とか早すぎや！　さっきからウチは何を考えとんねん！
うぁぁぁぁ……変に想像してもうた、結婚式の想像なんてするもんやない！
堅守先生の顔が見られへん、見たいのに見られへんやんかぁ！）」

気のせいか、段々と深みに嵌ってないか？
いい加減に止めるか、鬱陶しいし。

「近衛」

「ひゃひぃ！」

どんな悲鳴だ、どんな
もっと苛めるぞ、その悲鳴を聞く為だけに。

「いい加減に落ち着け」

布団の頭が有ると思われる場所を軽く叩く
出っ張りからしてここが頭以外無いだろう
雰囲気から、近衛が落ち着いてきたのが分かる。

「ん……了解や
落ち着いたで」

案外楽に戻ったな、もしかして俺に依存しているからか？
だから俺の言葉なら何でも従うとか……可能性は高い。

「では近衛、これから数日はこの別荘で過ごしてもらう
体力の回復、精神の安定、生活習慣も戻さないとな」

「ウチ、そんなに危ないん？」

「危険だな
もしこのまま外に出たら怪しまれる所の話じゃない
同室の神楽坂に巨大な迷惑を掛ける事にもなる
それが嫌なら諦めるんだな」

「了解や、アスナにあんま迷惑掛けたない」

神楽坂自身は本来、魔法関係者だがな……記憶は消されているらしいが
いや、調べるのには苦労した

何せ何重ロックも掛けられた記録の記録の先
その更に先にまで手を伸ばして初めて見つけられたからな。

正直、力の王笏だけじゃ無理だった
あいつを手に入れられて本当に助かった
まぁ……根本まで浸食しただろうし、当然か
電子精霊達も良い仕事をする。

学園のデータもほぼ全て手に入った
俺に学園で知らない事は、紙で行われている情報のみ
だが今時、ＰＣなどで保存していないデータなど、殆ど無い。

神楽坂は相当危険な問題だ
まさか魔法世界の王女だとはな……記憶を消した理由は違うらしいが
そして俺は神楽坂を敵に回したくない
逆に味方に引き入れたいぐらいだ、骨は折れるだろうがな。

記憶を解放させるのも１つの手段だが……薬を使っているから副作用の可能性が怖い
高畑教員の残している、奥深くに残されていた記録に見つけた
神楽坂の記憶を封じた魔法の術式と、使用した薬物
そして……記憶解放の術式もな。

見たい……神楽坂がどうなるか見たい
壊れるか、昔の人格に押し潰されるか、それとも今の人格が残るか
気になる、神楽坂がどうなるかとても気になる。

俺からすれば魔法世界の危機なんてどうでもいい
神楽坂の記憶を戻した結果だけが知りたい
それだけの為に、記憶を解放するメリットは有る

主に、俺の好奇心を満たすという点でな。

さて、問題はこの事を近衛に伝えるか、勝手に事を進めるかかな？
俺としては勝手に事を進めたいんだが、近衛が居れば色々と楽になるまぁ近衛の事だ、俺がしたいと言えば文句は言っても言うことは聞くだろう。

……よし、やっぱり解放しよう
味方に引き入れるには……近衛の状況を話して情に訴えるか、俺の事でも話すかな？
現神楽坂の性格だと、悲しい話の1つでもすれば勝手に同情するだろ
魔法使い達への悪印象を植え付ければ、俺を守るとか勝手に宣言してくれそうだしな。

しかし前記憶に押し潰されたら……どうする？
一応どんな事が過去に起こったかは知っているし
魔法使い達の行動を、角度を変えて解説してやるか
当然、推測も混ぜて悪い方向へだがな。

最悪、ムラサキカガミで追憶させるか
過去の記録とかは有るし、効果の発動は可能のはず
壊れないと思うし、大丈夫だろ。

視点　木乃香

アスナの事を言った直後
堅守先生が何かを考え始めた

もしかしてアスナ、堅守先生に何かした？

「堅守先生？」

ウチに声に、今気付いたって感じや
やっぱ凄く考えてたんやと思う。

「近衛、神楽坂をこちらに引き込むぞ」

「あ、アスナも巻き込むん！？
でもアスナは一般人やし、巻き込んだらあかん！」

こんな危険な世界にアスナを引き込むやなんて！
危ない場所に親友を引き入れたくない！

「神楽坂が一般人？
近衛、お前本気で言っているのか？」

どういう意味なんやろ？
アスナは立派な一般人のはずやで？

「学園長が自分の孫を、普通の一般人と一緒に住まわせると思うか？」

「あ！」

確かにそうや！
自分で言うんもアレやけど、ウチは重要人物
それやのに一般人と住むやなんてありえへんやん！

ウチは何を見とったんや！
こんな簡単な事にも気付かんやなんて！
もしかして……アスナも敵？

「そんな雰囲気を出されても困るんだがな……
神楽坂は最も一般人に近い、最重要関係者だ」

ちょっと意味が分からへんのやけど？
一般人に近い、最重要関係者？
一般人に近いだけで本当は関係者って事やろか？

「順を追って説明していこう
魔法世界の話は覚えているな？」

「一応やけど……」

「神楽坂は魔法世界出身者だ
つまり、生まれながらにしての強制的に魔法関係者という訳だ」

アスナが……魔法世界人？
でも一般人やから……んん？

「だが、神楽坂は記憶を消されている
それでも魔法世界の重要人物に変わりはないがな」

「記憶を……でもなんで重要人物なん？
アスナはどこをどう見ても普通の女の子やで？
記憶を消したぐらいじゃ性格は変わらんやろうし」

その証拠が目の前に居る堅守先生や

2回も記憶を消されて、全く変わっとらん。

「神楽坂が麻帆良学園に来た時の性格を覚えているか？
俺は情報やデータでしか知らんが」

アスナの転入時の性格？
暗くて、何考えてるか分からへんで、そんで口の悪い子やったなぁ
いんちょとは喧嘩ばっかしとったっけ？

「どうして神楽坂は急速に感情が育ったと思う？
いくら馬鹿騒ぎが多かったり、非常識の塊の麻帆良でも
そう簡単に性格が変わる程、感情が成長する場所だと思うか？」

言われてみればそうや
アスナは……そう、感情も何もかも
全てが麻帆良から始まった感じや！

「気付いたか？
そういう事だ、神楽坂は記憶を消されるまでもあんな性格だった
それはつまり、感情の無いように育てられたからだと言える」

「なんなんそれ……酷すぎるわ！」

感情が無いように成長させるやなんて、最低や！
親は何しとったん！？　アホやろ、絶対！

「感情が無いのは当たり前だ
何せ、神楽坂は道具として育てられてきたんだからな
道具が感情を持っていても、邪魔にしかならん」

道具が……感情を持っとったら邪魔やって？
そんな育て方って、酷すぎるわ！

「道具として育てられるのは当然とも言えるがな」

「……なんでなん？」

態々そんな事が必要やろか？
アスナが例え本当に魔法世界の人やったとしても
道具として育てられる意味がよう分からん。

「神楽坂の能力は魔力完全無効化能力を持っている
魔力完全無効化能力とは、主に遠距離からの魔法攻撃を無効にする能力だ
つまり、遠距離攻撃を得意としている魔法使いとしては天敵中の天敵だ
何せ、攻撃魔法が当たる以前にかき消されるんだからな」

そ、それは怖いなぁ
ウチの攻撃手段は魔法が中心でまだ陰陽術は微妙やアスナと殴り合いやったら……勝てるって断言できへんのが悲しいわ
身体強化だけで勝てる自信は無いかな？

「でも、アスナがなんで麻帆良学園に居るん？
そんな力が有るんやったら学園に居るんって変やろ？
しかも、記憶を消す意味とか必要も無いやろし」

それが気になるんよ
魔力完全無力化能力やなんて滅多に居らんはずやと思うし
というか、魔法使いの天敵がそう何人も居るんも不自然や。

「神楽坂は誘拐されたからな」

「誘拐？」

「本人や誘拐者からすれば救った救われたとかだろうがな
しかし周りや現実で考えると明かに誘拐だ
ちなみに、その誘拐に手を貸した1人に近衛詠春が入っている」

西の長……誘拐の手助けやなんて何を考えてるん！

「あれ？
でも救ったってどういう意味なん？」

「元々、神楽坂は魔法無力化結界を常時発動しておく為の道具だったからな
それを強引に連れ出し、戦争が終わっても元の場所に返さずに追われる身になっても逃亡を続ける
まぁ、神楽坂が原因なら誘拐した責任だ、敵から神楽坂を守るのは当然だな
それだけならまだしも、更に親しくなった者が死んだ姿を見せる
最後まで責任を持って守らず、最終的に自分勝手な理由で記憶を消すおまけに自由意志じゃなく強引に記憶を消したらしいからな」

「それが……英雄って呼ばれた人達のする事なん？
誘拐して、子供に惨い事見せて、しかも強引に記憶を消すやなんて！
子供に対してするような事なん！？」

許されへん、こんなん許したらあかん！
何が英雄や、何が立派な魔法使いや！

勝手な事ばっかして、巫山戯とんのやろか！

「そう怒るな、これは色んな意味で仕方無い
何せ、どいつもこいつも神楽坂の為にって思っていたんだからな
神楽坂自身の意見は無かったと思うが……
どうせ外の世界を見てみろとか、色んな場所に連れて行ってやるとか
そんな事を言って強引に連れ出したんだろう
確かに神楽坂本人の為になったかもしれんが、余りにも自分勝手だ
（俺が言えるような事じゃないがな
まぁ、本人の意見を聞き入れているだけマシだろう
その代わり、俺は近衛の為じゃなくて自分の為なんだが……五十歩百歩か？
利用する気満々な俺の方が質が悪いかもしれんが）」

アスナの為？　強引に連れ出しておいて？
アスナが昔どんな目に遭っとったんかは知らんけど
だからって滅茶苦茶やん！

「そこでだ、強引だが消された記憶を甦らそうと思う
記憶を復活後、再度記憶をどうするか訊くつもりだ
もし記憶を封印してくれと言うのなら望み通りにする
記憶を消さないのなら……まぁ本人にでも訊く
鍛えるつもりなら鍛えるし、日常が良いのなら日常に返す」

「記憶を取り戻した後は分かるんやけど
どうやって強引に記憶を甦らせるん？」

「記憶解放の術式を使用する
それができるのは近衛とマクダウェルだが……奴は動かんだろう
更に近衛のアーティファクト、ムラサキカガミを使用する

心的傷害になったと思われる、知人の死を思い出してもらおう
俺が分かる心的傷害はそれぐらいだからどうしようもできんが……
（別に壊れても構わないがな、魔法は無効にできるから意志は関係無いだろうし
魔法攻撃を完全に防ぐ神楽坂、壁としての性能は近衛を超える……かもしれん
勿体なすぎて無視するのも、逃がすのも、敵対するのも惜しい
自発的に、勝手に守ってくれるように誘導するのが理想だな
現在の性格になれば利用は楽、元の性格は分からないから見て決める）」

嫌そうに言う堅守先生
堅守先生、アスナを心配しとるんやろか？
手段は過激やし危ないし厳しいんやけど
やっぱ堅守先生は優しいんやね。

「近衛、もし神楽坂を解放してやりたいと思うのなら手伝え
俺も無理矢理は好かん、解放する時も神楽坂に確認は取る
過去を知りたいか、知りたくないかぐらいはな
だから手伝っても無駄になるかもしれんが……どうする？」

「そんなん訊くまでもないわ
当然、お手伝いさせてもらうわ
アスナの為になるんやったら頑張る！」

待っててなアスナ！
ウチがお馬鹿な人達の呪縛から解き放ったる！

「（……嘘は言っていないな、嘘は
推測が混じっていたり、近衛の感情を操作するような言い方をしたり

敵意の方向を反らしたり、神楽坂の為という言い訳を作ってやってっと
ここまでしたんだ、例え本当に純粋な人助けだったとしても……近衛は止まらない
結果的に俺の言った事は事実になっているし、間違った事は言っていないんだ
近衛の事だ、馬鹿な奴らからの拘束から解放してやるとか思っているんじゃないかな？）」

「それで堅守先生、ウチは何をすればいいん？」

「ん？　今か？
とりあえず体を休めるという当初の目的を果たせ
神楽坂に関しては近衛が全快してからだな
何せ記憶というかなりデリケートな部分を扱うんだ
慎重に慎重を重ねるぐらいじゃないと危険だ、神楽坂がな」

うーん……仕方無いかぁ
失敗したらアスナやって危ないもんなぁ
記憶に関する事やからデリケートそうやし。

「あ、そうや
ウチ料理したいんやけど、ええやろか？」

「料理なら人形がするだろ
別に構わんが……何故だ？」

「その、実は精神世界に居った７２日の後なんやけど
アスナにご飯作ったら腕が落ちとるって言われてん
精神世界やったとはいえ、ずっと料理しとらんかったから腕が落ち

たみたいやねん
だから別荘に居る間に少しでも衰えた腕を取り戻そう思ってん」

料理の腕が落ちたままやなんてなんかショックやし
どうせやったら上手い方が絶対いいやん
最近はサバイバルのせいで豪快やったり適当な料理ばっかやったもんなぁ。

「好きにしろ、だが今日は駄目だ
体がもっと回復するまでは我慢しろ」

「了解や
心配してくれてありがとな」

「……別に近衛を心配しての発言じゃないんだけどな
近衛に潰れられたら困るだけだ
（心配しているのは俺自身の保身だし）」

ふふ、ほんまに堅守先生は優しいわ
やっぱ心配されるってだけでも嬉しく思えるわ。

……
……
……

別荘内で3日が過ぎた
3日前と、一昨日は回復する為に寝たまま
そんで昨日から記憶に関する術式を覚え中や。

「あ、頭痛い……」

なんでこんなに複雑やねん
これって超高度な魔法やん……初心者のウチには辛いわ
詠唱も長いし、前準備も必要やから大変や。

［紅茶です］

「ありがとー……ふぅ、美味しいで」

［感謝の極み］

大袈裟やなぁ
でも美味しいんは事実や。

「お前ら仲がいいな」

「ええでー」

［貴方とはご免ですがね］

「ふん、嫌われたものだ
どうせだったらお前ら、ドール契約でもしたらどうだ？
外にそいつを出す訳にはいかんから別荘内だけでだが
便利に利用できる小間使いが手に入る
人形にしてみれば俺が居なくても好き勝手に動けるようになる
まぁ、近衛が別荘に来ないと動けないのが欠点だがな」

お人形さんと契約……悪く無いかもしれへん
ウチって修行に付きっきりになったりするし
手伝いとかしてくれるんやったら助かるわ。

［確かにそうですが、私のマスターはマスターだけです］

「無理だな、マクダウェルはここには来ない
お前が動き続けるには俺に頼るか、近衛を主にするしか無い
一応、他にも手段が無いとは言わんが、俺が面倒だから却下だ」

嫌われている相手の為に動きたいって思う人は少ないやろうしなぁ
堅守先生もその例に漏れず、嫌みたいや
ウチやって嫌な人の為ってのは遠慮したいわ。

［……］

「別にすぐに決めろと言うつもりは無い
だが、契約をするならちゃんと言えよ？
お前が動けているのは俺が居るからというのを忘れるな」

黙ってしまう人形さん
そういえば堅守先生、どうやって動かしてるんやろ？
確か魔力とか無いって言ってたはずやんな？

「まぁそれは置いておいてだ
どうだ近衛、もう3日経つが体調の方は」

「うん、かなり回復してると思うわ
演技も頑張ってるし、あんま話さない人だけなら騙せるはず
アスナとか図書館探検部のみんなは無理やと思うけど
桜咲さん程度の付き合いやったら大丈夫や」

【今更ですけど、本体は名字なんですねー】

「別に構わんだろ
代わりにちびせつながせっちゃんと呼ばれてるんだし
式神なのに本体のような扱いだな」

【嬉しいですけどー……複雑ですー】

ええやん、ウチは桜咲さんは無理やけどせっちゃんは好きやで？
ウチに変な気遣いとかせいへんし、可愛いし、可愛いし、可愛いし、
可愛いし
抱っこしたったら顔を赤くして恥ずかしがるんやで？
こんな良い子、大事にしてあげたいやん。

「呼び方といえばやけど……
堅守先生、瑞貴さんって呼んでええやろか？」

軽く訊くけど、実は結構勇気……うんん、凄く勇気を振り絞った
もし断られたらと思うと……でも、頑張ってん！

「前に言わなかったか？　呼び方は勝手にしろと
まぁ、公私の区別を分けられるなら好きにしろ
学校や仕事中の俺では必ず教師として呼べよ？」

私的な場所やったら好きに呼んでＯＫって事やんな？
そんで今は私的な場所で、プライベート時間
つまり……

「えっと……瑞貴さん？」

「どうした近衛？」

あ、返事してくれた！
無視されたらって思ったら怖かったんやけど
でも返事してくれた！　それだけでも嬉しいわ。

「どうせやったらウチの事も木乃香って呼んでくれへん？
その方がウチも嬉しいんやけど……駄目やろか？」

……言わんかったらよかった
そしたら中途半端やけど、変わらんかったのに
断られたらきっとウチ、落ち込むんやろなぁ
でも、もし名前で呼んでくれるんやったら……

「（さて、どうする？
俺としては近衛を名前で呼ぶのは嫌ではない
だがもしそれを魔法関係者に聞かれたら……面倒だ
一般人と思われるが、怪しい俺に近衛が懐いている
これだけでも気に入らない奴は何人か居るだろうし
……よく考えたら学校で呼ばなければいいだけじゃないか？
プライベートまで口出ししてくる奴は……居るだろうが、数人だろうな
となれば近衛を依存させる為にも許可した方が都合がいいな）」

黙られた……嫌なんやろか？
ウチ、嫌われてるんかなぁ？

「木乃香様が頼んでいるんですよ？
名前ぐらい許可してあげてもいいじゃないですか
寧ろ、貴方程度の人間が木乃香様の名前を呼べる事を光栄に思うべきです」

「お前、どれだけ俺が嫌いなんだ？
自分で言うのもアレだが、確かに俺は嫌われる人間だ
しかしここまで直線的に嫌われるのも……割と普通だな」

［私の事なんてどうでもいいでしょう？
早く木乃香様の名前を呼んであげなさい
そして身に余る幸運だと、自覚なさい」

そ、そこまで言われると恥ずかしいんやけど……
でも、そんな言い方をしたらかたも……瑞貴さんも嫌がるんやないかな？
無理矢理させられるんって結構気分悪いんやで？

「まぁ、元々名前で呼ぼうかと思っていたからいいんだけどな
問題は近衛の周り、魔法関係者が気分を悪くするという事だ
ただでさえ怪しい俺だ、そいつが近衛と仲が良いだけでも気に入らないだろうに
更に名前で呼んだら煩くされる可能性がと考えてな
例えるならどこかの誰かさんみたいに行動に移される可能性も有る」

視線の先はせっちゃん
やっぱその誰かさんって桜咲さんやねんね
せっちゃんが気まずそうな顔をして目を逸らす
あんませっちゃんを苛めたらあかんよ？

「だが、まぁ……良い機会だしな
妥協して俺の部屋とか別荘内とかだけ名前で呼ぶ
俺にはこれが精一杯だ、それでも構わないな？」

「う、うん！　それで十分や！」

よかった、限定的でも名前で呼んでくれるやなんて……嬉しい
言ってみるもんやと思うわ、他の人やったら小さい事やろうけど関係無い
ウチからすれば大きな事や、めっちゃ嬉しい！

「名前だけで大袈裟な……
お前も公私の区別はちゃんとしろよ、木乃香」

……名前で呼んでくれた
なんやろう、それだけでも凄く嬉しい！
こんなに幸せな気分になるやなんて……

「おい木乃香、顔が赤いぞ？」

「な、なんでもない！
大丈夫やから気にせんでええよ！」

あかん！　想像以上に嬉しくて恥ずかしい！
名前を呼ばれる度に幸せな気分になるんやろか？
これは思ったよりも大変かもしれへんなぁ
毎回毎回顔を赤くしてまうかもしれへんし。

「名前といえば人形
お前にもそろそろ名前を付けるべきだと思うのだが
何か希望は有るか？」

［私に名前など……］

「そう言うな
毎回人形と呼ぶのもややこしい
もしまた他の奴を起動させた時とかにな
だから名前が有る方が俺が楽になる」

人形さんに名前かぁ……

「まぁ、名前を付けるのは今はしないがな」

「へ？　なんでなん？」

名前を付けるんに時期とかあるんやろか？

「名前は木乃香とドール契約する時に、木乃香に付けてもらえ
そうする事で契約がより強力になる
名前にも言霊が有るし、名前を付けるというのは呪術的にも効果的だ
契約にしろ、呪術にしろ、名前というのは超強力な武器となる
それを契約時に付けるんだぞ？　強力にならないはずが無い
だから今は付けん、考えるだけにしておけ」

そういえばそんな説明もあったなぁ
何時間もの知識の詰め込みや、嫌でも覚えなあかん
名前の重要性は十分に理解しているつもりや。

［私はまだ木乃香様と契約するつもりはありませんが？］

「分かっているが、それでもだ
お前としても、個を確立できる数少ないチャンスだぞ？
名を得る事でお前も個として力を得る
九十九神というのを知っているか？

長年の時を経た道具が魂を得、妖怪や神として生きる
元々人形というのは魂が籠もりやすい道具だ
名を得るという事は、魂を手に入れる可能性が更に高くなる
魂が有れば様々な事で役に立つ、お前にしても悪い事の方が少ないはずだ」

そこら辺も知ってる
瑞貴さん、同じ課題でも必ず3回は説明するもんなぁ
覚えさせる為やから当然なんやけど。

［ですが私のマスターはマスターだけです］

「それはお前の自由だ
木乃香と契約したくなったら言え
別にマクダウェルを裏切れと言っている訳じゃないしな
単に新しい主を得るだけ、優先する主もお前が決めればいい」

［……］

「ウチは契約したい
貴女の事は気に入ってるんよ？
契約できるんやったらウチも嬉しいわ」

［私が……必要ですか？］

「必要や」

正直に言うと、分からへん
でも断言する、だってこの子好きやもん。

瑞貴さんの悪口はあまり良い気はせんけど
好きな人や嫌いな人ができるんは当たり前や
瑞貴さんもあまり嫌がってへんからウチは何も言わへんけど
それでも、瑞貴さんの話はちゃんと聞いてるから本当はそこまで嫌いやないんやと思う。

［少し……時間をください
私にはまだ、決める事はできません］

「そうだ、よく考えろ
考えに考え抜いた結果こそに意味が有る
何も考えず、ただ流されるだけの奴に未来は無い
自分で考えるからこそ、生きる意味が有る」

だからウチにも重要な事はちゃんと決めさせるんやね
大事な事は自分で……よく覚えとかな
何か決める時、他人に任せたりせずに自分で……

【あのー話し中すみません
今、外では何時ぐらいなんですか？】

「今は0時ぐらいだ
朝まで居るんだったらここで6日は過ごせるな」

「あ……ウチはちょっと無理や
アスナに朝ご飯作らなあかんし
アスナは新聞配達のバイトしとるから朝早いねん
せやから遅くても3時ぐらいには起きんとあかんのや」

［ならばここでは2日ほどですね］

残念やわぁ
6日が2日ぐらいまで縮まるやなんて
できればもっと長く居りたいんやけどなぁ。

……
……
……

そのまま2日過ぎ、もう帰らなあかん時間
アスナの記憶に関する術式はやっと半分ぐらい理解できたんやけど
これでもまだ半分……泣きたなりそうや
しかも、アスナが記憶を嫌がった時の為に記憶消去の魔法も覚えな
あかんし……辛い！

「あ、頭痛い……」

［紅茶です］

「ありがとー……ふぅ、美味しいで」

［感謝の極み］

【それ、紅茶の度に毎回してませんか？】

「木乃香も疲れているんだ
似たような内容になってもおかしくないだろう」

うん、別に深い意味は無いで
単に考えるんが億劫なぐらい疲れてるだけや。

「それにしても、本当に覚える事が多すぎるわ
しかもこれ、特定の記憶封印魔法を解除する為だけの魔法
他に使い道が全く無いんやから完全にアスナ専用やな」

「それは仕方がない、最高位クラスの魔法使いが掛けたんだからな
しかも記憶を曖昧にしたり、壊したりできる強力な薬まで使用している
よくもまぁ、精神崩壊しなかったと褒めたいぐらいだ
それらをどうにかする為の魔法だ、難易度が最高クラスなのも当然だろう？」

それはそうなんやけど……

「あれ？　思ったんやけど、この記憶消去魔法って誰がアスナに使ったん？
確かサウザンドマスターって人と一緒に居たんやろ？
だったらその人がアスナの記憶を消したん？」

千の呪文の男やっけ？
凄いなぁ……ウチはまだ１００も使えへんもん
まぁそれだけ魔法が使えるんやったら英雄って呼ばれても仕方無いかぁ
アスナを攫ったりした事に変わり無いから尊敬はせいへんけど。

「あぁ、言ってなかったか？
神楽坂の記憶を消したのは学園長の爺だ」

「え……学園長が？」

そんな、なんで……なんでなん！？

【が、学園長がそんな事をするはずが！】

「少し考えれば分かる事だろう？
最高位クラスの魔法使い、神楽坂の居る場所が麻帆良学園
更に神楽坂を連れてきた高畑教員はここで働いている
他に誰が神楽坂の記憶を消せると思う？」

言われて見れば当たり前の事や
そっか……学園長がアスナの記憶を消したんやね
そんでアスナの養育費を出して、アスナを麻帆良に縛って
しかもアスナはその恩返しって事でお金を返したりしてるし
つまり……自分で蒔いた種を、自分で回収してるだけやん！

「どうせ利用できるとでも思っているんじゃないか？
あの爺、裏ではかなり色々しているみたいだし
組織の長だから手段が汚かったり、手を汚すのは当然だが
まさか魔法世界の王女まで利用しようとするとは思わなかったな」

そこまで……腐っとったんか！
どれだけウチに嫌な想いをさせれば気が済むんや！

「あー……どうせだから更に悲しい現実を教えてやろうか？」

「【悲しい現実？】」

これだけでもかなり気分が悪いのに
更に嫌な話なん？

「実は今年度の2月、魔法使いが2－Aの担任にする計画があるらしい」

「それがどうしたん？
別にそこまで珍しい事やなさそうやけど」

「あぁ、確かにそれだけなら大して問題は無いが……問題が沢山ある」

なんやろう、嫌な予感しかあらへん。

「1つはそいつがまだ現年齢8歳の子供だ」

「【……8歳？】」

1桁の子供やって？

「巫山戯た事に、事実だ
魔法学校を卒業したので、立派な魔法使いになる課題として決められた」

「そんなん……許されるん？」

「許される許されないじゃない、それ以前の問題として既に決まっている
理由はその子供が、千の呪文の男の息子だからだ」

英雄の息子やから……そんな事を？
なんで、なんで、なんで！　なんで！

「ふ、ふ……巫山戯とる！
英雄の息子やろうが、なんやろうが関係無い！
アスナやウチ、エヴァちゃんみたいな重要人物の居るクラスに配属させるやって！？
しかもたった8歳の子供！　教師以前の問題やん！」

【学園長……貴方は何を考えて居るんですか！】

［サウザンドマスターの息子ですか、マスター……］

「あぁ、巫山戯ているな
さて木乃香、どうして英雄の息子様がこの学園のお前のクラスに配属されると思う？」

「どうせ学園長の悪ふざけや！
もう既に信用なんて無かったけど、これにはさすがに呆れたわ！」

二度とおじいちゃんやなんて言ったらん！
会った時の演技の時以外には絶対にや！

［まさかとは思いますけど……］

え？　もしかして分かったん？
ウチには悪ふざけ以外に思いつかへんのやけど。

［マスターを修行相手、または師匠にさせる為？
更に木乃香様に神楽坂明日菜さん達重要人物……
もしかして、木乃香様のクラスは仮契約者などの候補として仕組まれた？］

「証拠はまだ未発見だが、可能性は高いな
何せ半数近くが魔法関係者だ、一般人でも身体能力が高かったり、天才だったり
社会の地位も高い雪広、魔法関係の地位が高い木乃香、魔法世界の王女の神楽坂
更によく考えない性格の奴が多いから魔法も受け入れやすい人間が多い
脳天気だったり、何も考えて居ないだけだったり、お人好しだったりしかも英雄の息子は僅か8歳、誰もが可愛がってくれるだろうな
例え魔法を知られたとしても、子供だから助けてあげよう、秘密なら黙ってあげよう
つまり記憶を消さなくても勝手に黙っていてくれるから自然と味方が増える
結果、英雄の息子は強くなり、自然と英雄への道を進んでくれる
俺の存在は偶然だが、俺が厳しい態度をしても変わらず副担任のままだろう
何せ、俺が厳しくすれば自然と甘くて温い子供の方が好きとなるだろうからな
俺は丁度良いぐらいに勝手に嫌われ、英雄の息子が好かれる為の道具かな？
木乃香が俺の味方になったのは計算外であり、大きな損失だと思っているだろうが」

これは瑞貴さんの予想、それは間違い無い
でも……そうなる可能性は凄く高い！

「貴方以上の屑人間が存在していたのですね
方向性は違うようですが」

「必要なら俺もするかもしれんが、それはさておき

しかし……選択肢も与えずに半強制的に仮契約になる可能性が高いな
例えるなら適度に危険な事を起こし、仮契約をしなければならない
状況にするとか
そうだな……マクダウェルと決闘をさせたりするとかどうだ？
英雄の息子とはいえ、マクダウェルには勝てないだろうし
となると誰かに助けを求める、お人好しや正体を知っている者が助
ける
助ける為に仮契約をし、手伝い、そしてそのままズルズルとそんな
関係が続く
しかも子供だから放っておけない、だからどうしても離れる事がで
きない
どれもこれも予想だが、十二分以上に可能性が有るな」

【私達を……利用するって事ですか
学園長、酷いです！】

酷いなんてもんやない、最低や！
ウチらは全員、英雄の息子の為だけの道具か！
もう認めたないけど、孫も利用する為にあのクラスやねんな！
アスナも……絶対に関わらせんように気をつけな！

「更に悪い知らせを教えてやろう
先に言っておくが、これは例え話だ
だから暴走しないように」

何を言うつもりなんやろう？
多分……というか絶対にウチらの機嫌が悪くなる内容やと思うけど。

「もし木乃香が英雄の息子様と仮でも契約した場合……」

【こ、このちゃんの唇はそんな人に渡せませーん！】

［マスターまで利用するだけでは飽きたらず
木乃香様まで利用するつもりですか！］

「例えだから暴走するなと言っただろうに……
ええい、貴様ら黙れ！」

ウチの為に怒ってくれるんは嬉しいんやけど
暴走するなって前置きされたんに暴走したらあかんやん
まぁ……言われたから余計に暴走したんかもしれへんけど。

「もし木乃香が仮でも契約をした場合
ほぼ確実に西は東に取り込まれるだろうな」

「……ウチが、西の長の娘やからやろ？」

「１０点満点中３点、ギリギリ及第点だ」

それ以外思いつかないんやけど？
他に何があるんやろうか？

「英雄の息子様の父親はサウザンドマスター、紅き翼というチームのリーダーだった男
そして木乃香の父親は近衛詠春、紅き翼に所属していただけの男だどちらも英雄の子供、そしてリーダーは西洋魔法使い
この事からも、西は軽く見られている可能性が高い
そこで英雄の息子様が主として契約をしてみろ？
英雄の娘様は英雄の息子様に下った、つまり西は負けを認めたんだ！
こんな馬鹿な考えをする奴が確実に現れる」

「……色々と言いたい事が有るけど
ウチのこと、英雄の娘様やなんてもう呼ばんとって
あんま近衛家と関係を持ちたくないんや」

「ああ、それは謝罪しよう、悪かったな
だが、言いたい事は分かっただろう？」

十分理解できたわ
ウチがもし英雄の息子と関係を持つ、それは東にとって有利にしか
ならへん
そして西には不利になる、別にそんなんどうでもええんやけど……
でも、さすがにウチが原因や切欠で戦争とかになったら嫌や。

「爺の事だ、それぐらい考えているだろうな
都合が良いんだ、ほぼ確実に木乃香と関係を持たせようとするだろう
趣味みたくなっている見合いをさせたり、子供を理由に一緒に住ませたりとかか？
東の長として、敵対者である西を潰す絶好のチャンスだな」

「吐き気がするわ、孫さえ利用するやなんて
そないに英雄の息子が大事なんやろうか？
ウチを犠牲にしてでも、道具みたいにしてでも！」

【最低です、学園長！
本体に言って斬り捨ててやりたいです！】

「マスターも利用されるかもしれないのに
更に木乃香様まで……許される事ではありません！」

「本体には言うなよちびせつな
そしてマクダウェルは既に利用されているし」

［ど、どういう意味ですか！
マスターが既に利用されているですって！？］

エヴァちゃんがもう利用されてる？
英雄の息子の修行の為にやなかったん？

「学園には巨大な機械を使用した結界が張られていてな
それでマクダウェルの魔力を封じている
更に呪いで学園から離れられないマクダウェルは動けない
力が無いから命令されても逆らえない、あの爺も酷なことをする
魔力が無くて殆ど普通の人間のマクダウェルを警備員のように利用するだなんて」

エヴァちゃんの呪いの話は知ってる
呪術の話で、瑞貴さんから教えてもろうた
もう１５年もずっと学生をしてるって……
それやのに更に……利用するやって？

「ウチ、もうあの老人は嫌いや」

【とうとう老人まで降格ですかー？
気持ちは分からなくもないですけど
私も、もう学園長は嫌いです】

［殺害の許可を貰えますか？
できれば別荘から出て動けるように……］

「却下だ人形
もしそんな事をすればマクダウェル本人が疑われる
魔法関係者が力の無いマクダウェルを本気で殺しに動き出したらどうする？
力の出せないマクダウェルじゃ本当に死ぬかもしれんぞ
何せ、吸血鬼としての力や能力がほぼ無いに等しいんだからな」

「クッ……害にしかならない老人ですね！
いつか必ずマスターを利用している怨みを晴らします！」

お人形さんの怒りは当然や
もし瑞貴さんが同じように利用されそうになったら……
あかん、本気で殺意が出てきた
どうにかしてあの老人を懲らしめる事はできへんやろうか？

「まぁ、あの爺の思い通りにさせる気なんて無いがな」

「どういう意味なん？」

「簡単だ、誰が子供を働かせるか
英雄の息子？　天才少年？　重要人物？
俺の知った事か、手段を選び、正攻法で追い出してやる
教師として、社会人として、大人として、一般人として
魔法教師がどれだけ役立たずか立派に思い知らせてやる」

「具体的にはどうするつもりなのですか？
貴方の事です、腐れ外道のような手段なのでしょう？」

そ、それは言い過ぎやない？

「手段は選ぶと言っただろう？
何、子供だからと言って見逃すような事を見逃さず
失敗をしたり、逃げたら捕まえて説教
周りが庇おうが、全て無視して何が何でも仕事をさせる
生徒を巻き込んだら謝らせ、弁償させ、当然説教だ」

【き、厳しいですねー
そんな事をしたら逃げ出すんじゃないですか？】

「逃げたら捕まえると言っただろう？
それはもう、泣こうが叫ぼうが逃げようが強引に仕事をさせる
自分から仕事を辞めたがりたくなるぐらい、厳しくする
そしてまた逃げだし、俺が厳しくする
悪循環になるのに気付くかは知らんが、気付かなかったら終わりだな
最終的に辞表を出して本気で逃げ出すだろうな」

うはぁ……めっちゃ厳しいわ
でも、ウチらの安全の為やったらそれぐらい普通やろか？
先生になるんやったら仕事はちゃんとせんとあかんわな。

「ま、そうなる前に爺が手を出して俺を止めるだろうがな
どうせ、子供なんだから少しぐらい優しくしてくれとか
それでも止まらなかったら俺を首にするだろう、重要性が全く違うからな」

「そんなん嫌や！
もしそうなったら縁を切るとか言ってでもウチが止める！
寧ろ縁切りしたいぐらいやけど……いっそしてくれたら嬉しいけど！
それに、追い出したらウチも瑞貴さんと一緒に行く！
ウチは絶対に嫌や、そんな怖い場所で過ごすやなんて！」

【わ、私も着いていきます！
本体との関係とか全部切り捨ててでも！】

「木乃香様が行くと言うのならば……
そして、マスターから許可をいただけるのなら私も
ただ、私は木乃香様の為です、貴方の為には一切動きません」

「そう言ってくれるのは嬉しいがな、人形を除く
もし本当に首にされた場合、爺の不正行為を公表するかな？
俺を脅迫して無免許で教師にしたり、労働基準法を無視して子供を働かせたり
他にも俺の知る限りの事を全て公表して、社会的に殺してやる」

「おぉ……さすが瑞貴さんや！
是非そうしたって！　良い薬になるやろうし！」

刑務所から出て来られへん可能性も高いけど
それはそれで問題無いやろ
だってウチ自身も面倒事が減るんやしな！

「まぁ、どうせ刑務所からは簡単に出てくるだろう
腐っても関東魔法協会のトップ、大した難易度じゃない
何せ、警察にも魔法関係者が居るんだからな」

「警察も……なん？」

「でなければ色々と納得できない部分が多すぎる
警察関係者が魔法使いという事はだ、そいつも英雄の息子様を守ろうとするだろうな

つまり英雄の息子を守る為に行動した爺は無罪になる可能性も有るまったく……魔法使いってのはそれだけで得する温い職業だなぁ？」

そんなん無いわ……英雄の息子の為やったら犯罪さえ容認してもいいん？

真面目に生きている人達になんて謝ればいいんや！

本当に犯罪をした人がどんな気持ちになるんか……絶対に凄く気分が悪くなるわ！

「もし、ウチが犯罪をしたらどうなるん？」

「木乃香は爺の孫であり、近衛詠春の娘
関東魔法協会の長の孫、関西呪術協会の長の娘
そんな超ＶＩＰが犯罪者として捕まるはずが無いだろう？
どうせ圧力を掛けたりして無罪放免だ
だが、断言はできないから犯罪行為はしないように」

「うん、それは分かっとる
でも……不公平過ぎるわ」

ウチも英雄の息子も、ただ家族が良かっただけ
それだけでここまで優遇されるやなんて……不公平や！
恵まれてるウチが言って良いことやないんは分かってる
でも、でも！　こんなん酷すぎるわ！

「少し気になったのですが
魔法使いが有利ならば、何故貴方は自分の事を話さないのですか？
もし話せば自分が有利になると思うのですが」

それは……確かにそうや

もし話せばウチらも隠れる必要が無くなる
堂々と瑞貴さんと話せるって事やんな？

「お断りだね、誰があんな組織に入るか
俺は爺の手駒になるつもりも、操り人形になるつもりも無い
もし知られれば爺の犬として動かされるのは目に見えている
しかも面倒事を馬鹿みたいに入れられるに決まっている
更に英雄の息子様の面倒、クラスの魔法関係者のお守り
他にも厄介な事が山のように出てくるのは嫌でも分かる
だから俺は魔法関係者になりたくなかったんだよ
身の安全の為、知識として知っていたかっただけだしな」

そうや……瑞貴さんは身の安全の為に頑張ってるんやった
もし魔法関係者と分かれば、そんなんは無理
ウチ、もっと考えて言えば良かった……

「話が逸れてきたから元に戻すぞ？
さっき言った通り、２－Ａは英雄の息子様の為に集められたクラスの可能性が高い
つまり確実に危険であり、厄介事に巻き込まれる
更に爺の事だ、寧ろそっちから何かしら厄介事を持ってくる可能性が非常に高い」

「どうすれば……いいん？」

老人を倒す？　あかん、今のウチ程度の実力じゃ絶対に無理
アスナの記憶を封じたあの術式……実力を理解するには十分や
孫やからって、敵対するんやったら倒しに来るやろうし
倒すんやったら実力を上げて、そうやって勝つしか無いかもしれへん。

「無視しろ」

「無視？」

「そうだ、無視しろ
態々面倒事に付き合ってやる必要は無い
もし巻き込んできたら俺に言え、説教をしてでも止める
一般教師を味方にして、常識と一般人からの視点から止める
伊達に真面目に働いていないぞ、味方は多い方がいいからな」

なるほどー……真面目に働いてるから先生達に信用されとる
信用されとるから味方が多い
味方が多いから、多数決みたいになったら瑞貴さんが勝つ可能性も高い
英雄の息子やろうが、常識面から文句を言われたらどうしようも無いやろ。

【だから仕事中は真面目なんですかー？】

「いや、それは単に俺の性分だ
信用されるとかの目的が有るのは否定しないがな
さっきのは結果論とも言える、目的はそれじゃないからな
本来の目的は魔法関係者と思われない為に動いていた
一般人として動いていたら魔法関係者の警戒も薄れるだろうと思ってな
実際、桜咲に襲われた時に何もしなかったら警戒がほぼ無くなったし
その後も真面目にしていたら、もう警戒しているのは桜咲ぐらいだ
偶に視線を向けられるが、大した問題じゃない
これは２－Ａに関係している限り、無くなる事は無いだろうがな」

「なんというか……ご迷惑をおかけします」

「気にするな
木乃香を引き込むと決めたのは俺だしな
今からでも魔法とかを捨てて一般人に戻るか？」

「嫌や！　そんなんしたら瑞貴さんの事を守られへん！
桜咲さんや、老人とか、ウチは迷惑しか掛けられへん
だから少しでも負担を軽くしたくてウチは……」

【このちゃん……】［木乃香様……］

少しでも、瑞貴さんの為になるんやったら……それで十分や
ウチは頑張れる、瑞貴さんを守るんやったら頑張れる！

と、思っとったら頭を撫でられた
誰がと思ったら瑞貴さんが……小さく笑顔になっとる。

「俺の為に頑張ってくれてありがとうな
だが、俺の為よりも自分の好きに力を使え
それでも俺の為にしてくれるなら……俺を助けてくれ」

つまり……認めてくれた？
ウチは完全に瑞貴さんに認めてもらった！

「は、はい！
ウチ、瑞貴さんを助ける！
だから、だからもう！」

「そうだな、もう一般人に戻れなんて言わない
木乃香の好きにしてくれ」

「うん、ウチの好きにする！
瑞貴さん、ウチを認めてくれてありがと！」

【よかったですねーこのちゃん！】

［アレな気もしますが、おめでとうございます木乃香様］

よーし、この調子でアスナの記憶も解放したろ！
さぁ、お勉強の時間や！

……

……

……

「あ、頭痛い……」

［紅茶です］

「ありがとー……ふぅ、美味しいで」

［感謝の極み］

【飽きないですかー？】

「木乃香には考える余裕も無いだろう
人形は普段通りの対応をしているだけだろうしな」

うぅ……やっぱり難しい
覚える事が多すぎるわ！

「木乃香、そろそろ出るぞ
これ以上長居するとお前の言った時間になるぞ」

「はーい、了解や
じゃあお人形さん、また今度な」

［はい、木乃香様
またのお越しをお待ちしております］

お人形さんに別れを告げ、外に出る
……前に橋やな。

「木乃香……掴まっててもいいか？」

「うん、ええよ」

瑞貴さんに肩を掴まれたまま移動する
せっちゃんは浮いたまま、ウチを羨ましそうに見てるけど無視
だって嬉しいんやもん。

［情けないですね、愚か者］

「煩い！　誰にでも苦手なものが有るだろうが！
俺はそれが高い場所だっただけだ！」

「まぁまぁ、お人形さんもあんま言ったらあかんで？
ウチも嫌いなのとか苦手なんとか有るんやから」

実はあんま無いけど
あ、老人とか嫌いやし苦手やなぁ。

【いいなー、いいなー
大きくなったら私も掴んでくれるかなー？】

「せっちゃん、大きくなれるん？」

【はい、見た目が本体になるんでーす！】

楽しそうに胸を張るせっちゃん
でも、ウチが本体の事嫌なん知ってるやんな？
あんま大きくならんとってな？
きっと殴りたくなってまうから。

それでも、その内見るんやろうなぁ
割り切りはちゃんとせなあかんわ
まだ無理やからウチの前では勘弁な？

そしてお人形さんを置いて、別荘から出てくる
時間は……午前の2時半、アスナが起きるまで後1時間ぐらいやろか？

「さて、時間も微妙だし
俺はこのまま少し寝るか」

【私もちょっと寝ますー
定期的に休息を取らないと消えてしまうのでー】

「ならウチは帰るな
また学校で！」

「あぁ、またな」

窓を開け、飛び降りる
たった１０ｍぐらいや、これぐらいは余裕やな
サバイバルをしていた時に比べたら低い低い。

ウチもなんだかんだでかなり人間離れしてきたなぁ
前やったら３ｍも怖くて飛ばれへんかったやろうし
それが３倍や、表としてはそこそこやろか？

急いで自分の部屋に向かう
あんまり遅うなったらアスナのご飯作られへんもんなぁ
それが終わったらのんびりしよっと。

静かに寮に入り、部屋に向かう
静かに入らなな、静かにー……アスナが起きてまう
部屋の鍵を開け、部屋に入る。

「ただいまー……」

小さな声で帰宅を宣言
さて、朝ご飯作ってアスナを起こそう……

「おかえり、このか
随分と遅かったわね」

……なんでアスナが起きとるんやろうか？

しかもめっちゃ眠そうな顔をして。

「お、起きとったんアスナ？
随分早いなぁ、おはようさん」

「えぇ、おはようこのか
私なんて２０時間以上前に起きていたわよ
寝坊が多い私にしては珍しい早起きだと思わないかしら？」

２０時間って事は……徹夜？
あ、あはははは……連絡ぐらいしとけば良かったわ。

「ゆ、許してくれへん？」

「駄目に決まってるでしょーーーーー！
今何時だと思ってるの！　連絡ぐらいしなさーーーーーい！」

「ご、ごめんアスナ！
でもせめて声を下げて、みんなに迷惑やから！」

荒い息になったけど、なんとか落ち着いてくれた
いや、落ち着いとらへんけど、なんとか静かになってくれた。

「で、今まで何してたの？」

「えっと……」

「堅守先生に連絡するわよ？」

「言うから止めて！」

「（えぇー？
堅守先生の名前を出しただけで白状するの？
このか、どこまで堅守先生に弱いのよ）」

うぅぅ……瑞貴さんの名前を出されたらどうしようもできへん
もう寝てるやろうから迷惑やろうし。

「実はずっと……堅守先生と話してるてん」

「嘘ね」

「即答！？」

「だって、もう堅守先生の部屋に連絡はしてるもの
3回は電話したのよ？
それでも返事が来ないって事はもう寝てるんじゃないかしら？
つまり、このかの言葉は嘘よ！」

あ、アスナが賢い！？
でも、ウチは嘘言っとらんで？

「あー……実は本当やで？
今からやともう堅守先生は寝てる思うから電話はあかんけど
明日の放課後とか仕事前にでも訊いてみたらどうや？
でも、人前とかでしたらあかんで？」

「本当なの？
だとしたらこんな夜中まで何をしてたのよ？」

「お話やで？
何時間聞いても堅守先生の話は飽きへんし
教えてもらう事も多いしなぁ……」

そりゃあもう、頭が痛くなるぐらい
飽きへんというか、飽きる要素が無い言うか……
でも、飽きてでも覚える事とかも有るしな。

「どれだけ話好きなのよ……堅守先生
一昨日、教室で話し出した時から分かっていたけど
趣味の話になると全く止まらないわね」

一昨日？
えっと……現実時間の一昨日やんな？
何したっけ？　全く覚えとらんわ。

「一昨日ってなんやっけ？」

「なんだって……忘れたの？
教室で本屋ちゃん達と一緒に話してたじゃない」

のどか達？
……あぁ、瑞貴さんがお昼休みに来た時やん！
確か陰陽術に関する事やったっけ？
ウチからすればもう2ヶ月近く前やねんなぁ。

「そんな物忘れが激しかったっけ？」

「色々とあってん
覚える事とか、する事が多すぎて

つい忘れてもうてん」

嘘は言っとらん、本当の事や
覚える事は多いし、した事も多かったんや
時間は言っとらんけど、本当に忙しかってんよ?

「もう、仕方無いわねー……次からは必ず連絡してよ?
本当はもうしないで欲しいけど、どうせまたするつもりでしょ?」

「やっぱ分かる?
分かったわ、次からは絶対先に言うわ
せやから次はちゃんと寝てな?」

「……本当にまたするつもりなんだ
はぁ、あんまり堅守先生に迷惑を掛けないようにしなさいよ?」

「堅守先生は話すん大好きやし、ウチも知るんは楽しい
どっちにも損は無いんやし、楽しんでるんや
せやから大丈夫やで!」

呆れられた、でも本当やで?
瑞貴さんの趣味って現実的やないから話し相手が少ないみたいやし
特に趣味の話になると凄く楽しそうやしなぁ……止められへん。

「それよりアスナ、朝ご飯作るわ
それ食べて頑張って居眠りせんようにな?」

「誰のせいよ……はぁ
せめて堅守先生の授業ぐらいは起きてるわ
居眠りとかしたらアイアンクローとかされそうだし」

されるで？　本当に
他にもデコピン、ハリセン、シッペ
地味に痛い攻撃でお仕置きしてくるんや
さすがに授業中やったらそこまでせんと思うけど……多分。

「なら少し待っててな？
すぐに準備するから」

「お願いねー」

暫くしたら学校かぁ……頑張らなな！
みんなを騙せるように、ウチの実力を知られんように
そして例え知られても……瑞貴さんに迷惑が行かんようにせなあかん。

うーん……今考えてもあんま意味無いやんな？
アスナにはできるだけ嘘の姿は見せたないから無理やけど
他の誰かと会った時にでも調整すればええやろ
よし、今日も頑張ろうっと！

１５話【失われていく絆】（後書き）

どうやって仮契約カードをコピーしたの？
スルーしてください。

ムラサキカガミってどうして、どうしてそんな名前なの？
都市伝説、紫の鏡を基本モデルにしました
詳しくはご自分でお願いします
……さすがに死なせる訳にはいきませんので効果はかなり変更されていますが
まぁ、呪術系の道具なので木乃香には多分ピッタリでしょう。

どうしてこんな物騒なアーティファクトが……
主が瑞貴であり、木乃香自身の性質もかなり変化しているからでしょう。

人形ってどんな見た目をしてるの？
漫画１５巻１３７時間目の最初に登場した人形としています
具体的には髪色は個人的に黒髪が好きですが紫系のロングです
そして小さくツインテールをしている、見た目１３歳から１５歳ぐらいの少女
見方に依れば１６歳ぐらいでも通用するでしょうが、作者的にはそれぐらいです
服装は白黒ゴスロリメイド服、茶々丸もよく着ている服みたいな感じをイメージしています、脳内で。

強引な手段で人形を動かしたって……どうやったの？
後々出てきます
ただ、いつ出すかタイミングが見当たらない……

どうしてそこまで人形に嫌われてるの？
強引に主以外の人間に動かされているからです
なお、人形に意志などはありますが、まだ感情は薄いですので注意
一気に成長している気がしますがスルーしてください。

また媚薬か！
はい、また媚薬です。

瑞貴……ちびせつなに何をした！？
指でいじごほんごほん！
秘密です。

瑞貴は初めてなの！？
そのようですが、それでこれだけできるって……何者？
でもしたのは指だけ、それ以上は全くしていません。

ちびせつな逃げてー！　超逃げてーーー！
瑞貴のストレス発散の道具にされる未来が確定しました
刹那のとばっちりが全てちびせつなに向かうでしょう
これは哀れめばいいのか、よかったと言えばいいのか……悩み所です。

瑞貴は瑞貴で枯れすぎてるし……
寂しい過去を送っていたようです
こいつは恋愛経験があるんでしょうか？

遊戯王世界では楽しんでいたの？
思い返してみると、という前提が付きますが
色々な意味で楽しんでいましたので。

王道ハプニングなのに反応が薄すぎる！
瑞貴なので。

瑞貴の思考が相変わらず……
最低でサディストですが、気にしない。

あいつを手に入れた？　あいつって誰？
後々、お楽しみにという事で
まぁ簡単に予想できますがね。

浸食って……電子精霊達も何をしたんだ！？
それも後々、こちらも予想できます
というか、浸食で更に簡単になったような……

明日菜の記憶を解放する理由って……
好奇心が最大の理由です
自分が不利になるんじゃないかと思うでしょうが、実はそこまででもありません
何故なら、瑞貴の魔力では記憶封印解放の術式は使用できないからです
なのでどう足掻いても明日菜に手出しできない瑞貴ですので
どれだけ怪しくても、実行できない能力なので白にしかならないのです
実際は真っ黒の上に更に黒く塗りつぶしているぐらいなんですけどね。

瑞貴よ、明日菜をよくもそこまで詳しく調べたな
学園情報だけではなく、魔法世界の情報も手に入れているので
情報というのは命とも言えます、生きる為ならば！

木乃香と人形がドール契約できるの？
多分できるかと思います、多分
どんどん木乃香がエヴァンジェリン化としている……
なのにあまり本体と接点が殆ど無い不可思議。

祝、名前呼び呼ばれ！
おめでとう木乃香
でも瑞貴は打算ばかりです。

実際、人形は瑞貴をどう想っているの？
あまり好かない人間だが、言っている事は割とまとも（？）
人形に自由を与えてくれるというのは嬉しい（？）
だけど最初の印象からやはり気に入らない
そんな感じなので、実はそこまで嫌っていません
かなり複雑なんでしょうが……彼女の成長に期待ですね。

明日菜の記憶を消したのって本当に学園長なの？
それぐらいしか思いつかなかったというか……
タカミチは呪文詠唱が使えないので多分無理
アルビレオは多分世界樹の地下に居るでしょうが、出てくるとはあまり思えない
他に強力な魔法使いは学園長ぐらいなのでこうなりました。

ネギの年齢って8歳なの？
ネギが来るのは2月、現在は9月
ネギの誕生日は不明、漫画でまた誕生会などをしていないので多分まだ
となるとネギの誕生日は9月以降の可能性が高い
という訳なのでまだネギは誕生日を迎えておらず、8歳となりまし

た。

瑞貴の考察が……
半分近くは推測です
が、間違ってはいないと思います
悪い方向への思考誘導でもありますが。

とうとう木乃香の学園長の呼び方が老人に……
それがサブタイトルですから。

ネギ……ご愁傷様
まだ会ってもいないのに対応を決められる
何気に現段階で最も不幸なのは彼なのかもしれません。

明日菜は……
やはり彼女は優しいのでしょう
ずっと木乃香を心配して……本当に良い子です
それでいて、ちゃんと許可して容認する辺りが甘い
こんな良い子は凄く珍しいと思います
軽い訳じゃないですしね。

ツイッター、最近遊戯王音ＭＡＤしか聞いてないなぁ……
ｈｔｔｐ：／／ｔｗｉｔｔｅｒ．ｃｏｍ／＃！／ａｉｎ＿ｋｕｒｉａ
でも楽しいからいいや！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4736s/

本気可能無制限学園

2011年7月24日22時02分発行